

一般国道470号改築(七尾氷見道路)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

七尾市

七尾城跡 I

2020

石川県教育委員会

(公財)石川県埋蔵文化財センター

七尾城跡 I

2020

石川県教育委員会
(公財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は七尾城跡平成17～19年度発掘調査の遺構に係る報告書である。
- 2 遺跡の所在地は石川県七尾市古屋敷町・古城町・小池川原町・竹町・矢田町である。
- 3 調査原因は一般国道470号能越自動車道建設工事で、同工事を所管する建設省北陸地方建設局金沢工事事務所（現国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所）が石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。
- 4 現地調査は、石川県教育委員会からの委託を受けて平成17(2005)年度から同19(2007)年度に財団法人石川県埋蔵文化財センターが実施した。原稿作成を含む整理は平成18年度から令和元(2019)年度まで同センター（平成25年度に「財団法人」から「公益財団法人」に改組）が、石川県教育委員会から委託を受けて実施した。
- 5 調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査の期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。
 - (1)平成17年度
 - 期 間 平成17年5月23日～同18年3月10日
 - 面 積 8,490㎡
 - 担 当 課 調査部調査第1課
 - 担 当 者 中屋克彦(調査専門員)、金山哲哉(主任主事)、横山誠・大路葉子・竹田麻里子(囑託)
 - (2)平成18年度
 - 期 間 平成18年4月26日～同19年2月7日
 - 面 積 7,220㎡
 - 担 当 課 調査部調査第1課
 - 担 当 者 夷藤明・中屋克彦(調査専門員)、金山哲哉(課主査)、空良寛・松井直弘(囑託)
 - (3)平成19年度
 - 期 間 平成19年4月17日～同20年2月1日
 - 面 積 7,040㎡
 - 担 当 課 調査部調査第1課
 - 担 当 者 夷藤明・中屋克彦(調査専門員)、金山哲哉(課主査)、谷内明央(主任主事)、空良寛・松原秀浩(囑託)
- 7 資料整理は企画部整理課(H18・19)・調査部国関係調査グループ(H20以降)が担当した。
- 8 本書の編集・刊行業務は調査部が担当した。執筆分担は下記の通りである。
 - 第1章・第3章・第4章 三浦純夫
 - 第2章 川名俊
- 9 調査にあたって次の機関・個人の指導・協力を得た。

七尾市教育委員会文化課、五十川伸矢、小川光彦、小野正敏、北林雅康、坂井秀弥、清野孝之、善端直、戸潤幹夫、西川一治郎、東四柳史明、村上隆、和田学
- 10 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 11 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1)遺構実測図等の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2)水平水準は海拔高であり、T.P（東京湾平均海面標高）による。

目 次

第1章	調査の経緯と経過	1
第1節	調査に至るまで	1
第2節	発掘調査の経過	2
第3節	出土品整理	7
第2章	遺跡の位置と環境	9
第1節	地理的環境	9
第2節	歴史的環境	9
第3章	調査の成果	17
第1節	調査の方法	17
第2節	調査区の状況と遺構	18
第3節	小 結	31
第4章	総 括	327
第1節	大手道と沿道の屋敷	327
第2節	総 構	328

挿 図 目 次

第1図 能越自動車道路線図 …………… 3	第44図 古城南区遺構図15(⑤区2面) …………… 81
第2図 遺跡の位置 …………… 9	第45図 古城南区遺構図16(④区1・2面) …………… 82
第3図 七尾城跡と周辺の遺跡 …………… 15	第46図 古城南区遺構図17(③区) …………… 83
第4図 調査区配置図 …………… 41	第47図 古城南区遺構図18(②区) …………… 84
第5図 調査区グリッド配置図 …………… 42	第48図 古城南区遺構図19(①区) …………… 85
第6図 調査区全体図1 …………… 43	第49図 古城中5区全体図 …………… 86
第7図 調査区全体図2 …………… 44	第50図 古城中1区・中4区全体図 …………… 87
第8図 調査区全体図3 …………… 45	第51図 古城中1区全体図 …………… 88
第9図 調査区全体図4 …………… 46	第52図 古城中1区土層図 …………… 89
第10図 調査区全体図5 …………… 47	第53図 古城中1区遺構図 …………… 90
第11図 調査区全体図6 …………… 48	第54図 古城中4区遺構図・土層図 …………… 91
第12図 調査区全体図7 …………… 49	第55図 古城北区全体図1 …………… 92
第13図 古城中2区全体図1 …………… 50	第56図 古城北区全体図2 …………… 93
第14図 古城中2区全体図2 …………… 51	第57図 古城北区全体図3 …………… 94
第15図 古城中2区全体図3 …………… 52	第58図 古城北区全体図4 …………… 95
第16図 古城中2区土層図1 …………… 53	第59図 古城北区土層図 …………… 96
第17図 古城中2区土層図2(北壁) …………… 54	第60図 古城北区遺構図1(④・⑤区) …………… 97
第18図 古城中2区大手道側溝等実測図 …………… 55	第61図 古城北区遺構図2(②・③区) …………… 98
第19図 大手道側溝断面図 …………… 56	第62図 古城北区遺構図3 …………… 99
第20図 古城中2区遺構図 …………… 57	第63図 古城北区遺構図4 …………… 100
第21図 古城中3区全体図 …………… 58	第64図 古城北区遺構図5 …………… 101
第22図 古城中3区石垣実測図 …………… 59	第65図 古城北区遺構図6 …………… 102
第23図 古城中6区全体図・土層図 …………… 60	第66図 古城北区遺構図7 …………… 103
第24図 古城南区全体図1 …………… 61	第67図 古城北区遺構図8 …………… 104
第25図 古城南区全体図2 …………… 62	第68図 古城北区遺構図9 …………… 105
第26図 古城南区全体図3 …………… 63	第69図 古城北区遺構図10 …………… 106
第27図 古城南区土層図1 …………… 64	第70図 古城北区遺構図11 …………… 107
第28図 古城南区土層図2 …………… 65	第71図 19区全体図 …………… 108
第29図 古城南区土層図3 …………… 66	第72図 19区①南壁土層図 …………… 109
第30図 古城南区遺構図1(⑱・⑲区) …………… 67	第73図 19区土層図 …………… 110
第31図 古城南区遺構図2(⑳・㉑区) …………… 68	第74図 19区遺構図(①区) …………… 111
第32図 古城南区遺構図3(㉒・㉓区) …………… 69	第75図 19区土層図(②区南・北壁) …………… 112
第33図 古城南区遺構図4(㉔・㉕区) …………… 70	第76図 19区遺物出土状態(③区) …………… 113
第34図 古城南区遺構図5(㉖・㉗区) …………… 71	第77図 19区土層図・遺構図(④区) …………… 114
第35図 古城南区遺構図6(㉘・㉙区) …………… 72	第78図 19区遺構図(④区) …………… 115
第36図 古城南区遺構図7(㉚区) …………… 73	第79図 1区東・15区全体図 …………… 116
第37図 古城南区遺構図8(㉛区) …………… 74	第80図 1区東・1区・1区南全体図 …………… 117
第38図 古城南区遺構図9(㉜・㉝区) …………… 75	第81図 1区・1区南全体図 …………… 118
第39図 古城南区遺構図10(㉞・㉟区) …………… 76	第82図 1区東・1区・1区南遺構図1 …………… 119
第40図 古城南区遺構図11(㊱区) …………… 77	第83図 1区東・1区・1区南遺構図2 …………… 120
第41図 古城南区遺構図12(㊲・㊳区) …………… 78	第84図 1区東・1区・1区南遺構図3 …………… 121
第42図 古城南区遺構図13(㊴区2面) …………… 79	第85図 1区東・1区・1区南遺構図4 …………… 122
第43図 古城南区遺構図14(㊵・㊶・㊷区) …………… 80	第86図 1区東・1区・1区南遺構図5 …………… 123

第87図	1区東・1区・1区南遺構図6	124	第132図	2区遺構図18	169
第88図	1区東・1区・1区南遺構図7	125	第133図	2区遺構図19	170
第89図	1区東・1区・1区南遺構図8	126	第134図	2区遺構図20	171
第90図	1区東・1区・1区南遺構図9	127	第135図	2区遺構図21	172
第91図	1区東・1区・1区南遺構図10	128	第136図	2区遺構図22	173
第92図	1区東・1区・1区南遺構図11	129	第137図	2区遺構図23	174
第93図	1区東・1区・1区南遺構図12	130	第138図	2区東沼田遺構図1	175
第94図	1区東・1区・1区南遺構図13	131	第139図	2区東沼田遺構図2	176
第95図	1区東・1区・1区南遺構図14	132	第140図	2区東沼田西岸遺構図1	177
第96図	1区東・1区・1区南遺構図15	133	第141図	2区東沼田西岸遺構図2	178
第97図	1区東・1区・1区南遺構図16	134	第142図	2区東沼田下層実測図	179
第98図	1区東・1区・1区南遺構図17	135	第143図	4区全体図	180
第99図	1区東・1区・1区南遺構図18	136	第144図	4区1面土層図	181
第100図	1区東・1区・1区南遺構図19	137	第145図	4区1面遺構図1	182
第101図	1区東・1区・1区南遺構図20	138	第146図	4区1面遺構図2	183
第102図	1区東・1区・1区南遺構図21	139	第147図	4区2面遺構図1	184
第103図	1区東・1区・1区南遺構図22	140	第148図	4区2面遺構図2	185
第104図	1区東・1区・1区南遺構図23	141	第149図	4区2面遺構図3	186
第105図	1区東・1区・1区南遺構図24	142	第150図	4区2面下遺構図	187
第106図	15区土層図	143	第151図	4区3面遺構図	188
第107図	2区全体図	144	第152図	4区4面全体図・遺構図	189
第108図	2区・2区東沼田・東沼田西岸全体図	145	第153図	4区4面土層図	190
第109図	2区2面全体図	146	第154図	8区全体図	191
第110図	2区3面・4面全体図	147	第155図	8区土層図1	192
第111図	2区土層図1	148	第156図	8区土層図2	193
第112図	2区土層図2	149	第157図	8区遺構図1	194
第113図	2区土層図3	150	第158図	8区遺構図2	195
第114図	2区東沼田土層図	151	第159図	8区遺構図3	196
第115図	2区遺構図1	152	第160図	7区・9区全体図	197
第116図	2区遺構図2	153	第161図	7区遺構図1	198
第117図	2区遺構図3	154	第162図	7区土層図	199
第118図	2区遺構図4	155	第163図	7区遺構図2(1面)	200
第119図	2区遺構図5	156	第164図	7区遺構図3(1面)	201
第120図	2区遺構図6	157	第165図	7区遺構図4(1面)	202
第121図	2区遺構図7	158	第166図	7区遺構図5(1面)	203
第122図	2区遺構図8	159	第167図	7区遺構図6(2面)	204
第123図	2区遺構図9	160	第168図	7区遺構図7(2・3面)	205
第124図	2区遺構図10	161	第169図	7区遺構図8(3・4面)	206
第125図	2区遺構図11	162	第170図	9区遺構図	207
第126図	2区遺構図12	163	第171図	5区全体図	208
第127図	2区遺構図13	164	第172図	5区遺構図1	209
第128図	2区遺構図14	165	第173図	5区遺構図2	210
第129図	2区遺構図15	166	第174図	5区遺構図3	211
第130図	2区遺構図16	167	第175図	5区遺構図4	212
第131図	2区遺構図17	168	第176図	5区遺構図5	213

第177図	7区東沼田全体図	214	第222図	3区遺構図24(3区②)	259
第178図	7区東沼田土層図	215	第223図	3区遺構図25(3区②)	260
第179図	7区東沼田遺構図1(西岸1面)	216	第224図	3区遺構図26(3区②)	261
第180図	7区東沼田遺構図2(西岸1面)	217	第225図	3区遺構図27(3区②)	262
第181図	10区全体図・土層図	218	第226図	3区遺構図28	263
第182図	10区土層図	219	第227図	3区遺構図29	264
第183図	10区遺構図	220	第228図	3区遺構図30(3区④)	265
第184図	6区全体図	221	第229図	3区遺構図31	266
第185図	6区土層図	222	第230図	3区遺構図32(3区②)	267
第186図	6区遺構図1	223	第231図	3区遺構図33(3区②)	268
第187図	6区遺構図2	224	第232図	3区遺構図34(3区②)	269
第188図	6区遺構図3	225	第233図	3区遺構図35	270
第189図	3区全体図1	226	第234図	3区遺構図36(3区③)	271
第190図	3区全体図2	227	第235図	3区遺構図37	272
第191図	3区全体図3	228	第236図	3区遺構図38	273
第192図	3区全体図4	229	第237図	3区遺構図39	274
第193図	3区土層図1	230	第238図	3区遺構図40	275
第194図	3区土層図2	231	第239図	3区遺構図41	276
第195図	3区土層図3	232	第240図	3区遺構図42	277
第196図	3区土層図4	233	第241図	3区遺構図43	278
第197図	3区土層図5	234	第242図	3区遺構図44	279
第198図	3区土層図6	235	第243図	3区遺構図45	280
第199図	3区遺構図1	236	第244図	3区遺構図46	281
第200図	3区遺構図2	237	第245図	3区遺構図47	282
第201図	3区遺構図3	238	第246図	3区遺構図48	283
第202図	3区遺構図4	239	第247図	12区全体図	284
第203図	3区遺構図5	240	第248図	12区土層図1	285
第204図	3区遺構図6	241	第249図	12区土層図2	286
第205図	3区遺構図7	242	第250図	12区遺構図1	287
第206図	3区遺構図8	243	第251図	12区遺構図2	288
第207図	3区遺構図9(3区①)	244	第252図	13区全体図	289
第208図	3区遺構図10(3区①)	245	第253図	11区東全体図1	290
第209図	3区遺構図11	246	第254図	11区東全体図2	291
第210図	3区遺構図12(3区①)	247	第255図	11区西全体図	292
第211図	3区遺構図13(3区②)	248	第256図	11区土層図	293
第212図	3区遺構図14(3区①)	249	第257図	11区遺構図1(11区東)	294
第213図	3区遺構図15	250	第258図	11区遺構図2(11区東)	295
第214図	3区遺構図16(3区②)	251	第259図	11区遺構図3(11区東)	296
第215図	3区遺構図17(3区②)	252	第260図	11区遺構図4(11区東)	297
第216図	3区遺構図18(3区②)	253	第261図	11区遺構図5(11区東)	298
第217図	3区遺構図19(3区②)	254	第262図	11区遺構図6(11区西)	299
第218図	3区遺構図20(3区②)	255	第263図	11区遺構図7(11区西)	300
第219図	3区遺構図21(3区①)	256	第264図	11区遺構図8(11区西)	301
第220図	3区遺構図22(3区②)	257	第265図	11区遺構図9(11区西)	302
第221図	3区遺構図23(3区②)	258	第266図	11区遺構図10(11区西)	303

第267図	11区遺構図11(11区西)	304	第281図	18区北土層図(北②)	318
第268図	11区遺構図12(11区西)	305	第282図	18区北遺構図1(北②)	319
第269図	11区遺構図13(11区西)	306	第283図	18区北遺構図2(北②)	320
第270図	11区遺構図14	307	第284図	18区北遺構図3(北①)	321
第271図	14区全体図	308	第285図	17区南全体図・遺構図	322
第272図	14区土層図	309	第286図	17区北全体図・遺構図	323
第273図	18区南①全体図・土層図	310	第287図	16区全体図	324
第274図	18区南②全体図	311	第288図	16区土層図	325
第275図	18区南①遺構図1	312	第289図	16区遺構図	326
第276図	18区南①遺構図2	313	第290図	七尾城跡大手道と屋敷(1)	329
第277図	18区南①遺構図3	314	第291図	七尾城跡大手道と屋敷(2)	330
第278図	18区南②遺構図1	315	第292図	七尾城跡大手道と屋敷(3)	331
第279図	18区南②遺構図2	316	第293図	七尾城跡大手道と総構	332
第280図	18区北全体図	317	第294図	七尾城跡総構の位置	333

表 目 次

第1表	調査・整理体制	8	第3表	遺跡地名表	16
第2表	七尾城関連年表	14	第4表	主要遺構一覧表	35

図版目次

- 図版1 七尾城跡遠望(北から)
七尾城跡遠望(南から)
- 図版2 七尾城跡遠望(西から)
七尾城跡遠望(東から)
- 図版3 七尾城跡と能越自動車道路線(西から)
七尾城跡と能越自動車道路線(東から)
- 図版4 七尾城跡と能越自動車道路線(北西から)
七尾城跡と能越自動車道路線
- 図版5 大手道とその西側(東から)
大手道とその西側
- 図版6 大手道(北から)
大手道(南から)
- 図版7 大手道西側溝SD04(南東から)
大手道西側溝SD04(南西から)
- 図版8 大手道SD15(南東から)
大手道西側溝SD04(北東から)
- 図版9 大手道東側溝SD09(北西から)
大手道東側溝SD09(南西から)
- 図版10 古城中3区(東から)
古城中3区 屋敷石垣全景(北西から)
古城中3区 屋敷石垣全景(北から)
- 図版11 古城中3区 屋敷石垣(西から)
古城中3区 屋敷石垣(北から)
- 図版12 古城中6区(西から)
古城中6区(東から)
- 図版13 古城中6区
古城中5区
- 図版14 古城北・古城南区東半部、古城中1区(東から)
古城北・古城南区東端、古城中1区
- 図版15 古城南区⑱ 階段状遺構(南から)
同上(西から)
- 図版16 古城南区⑰(東半部)
古城南区⑰(西半部)
- 図版17 古城南区⑯～⑮(西から)
古城南区⑬～⑭(東から)
- 図版18 古城南区⑫(東から)
古城南区⑫(北から)
- 図版19 古城南区⑪ SK39(南から)
古城南区⑩・⑪(東から)
- 図版20 古城南区⑪ SK51(東から)
SK51(東から)
- 図版21 古城南区⑩ P112土師器出土状態
古城南区⑨(東から)
- 図版22 古城南区⑧(東から)
古城南区⑧ SK52(北から)
- 図版23 古城南区⑦(東から)
古城南区⑥(東から)
- 図版24 古城南区⑥ SK64(南西から)
古城南区⑤ SD16・17・18、石列(南から)
- 図版25 古城南区⑤ 2面(西から)
古城南区⑤ 南壁(北から)
- 図版26 古城南区⑤ 2面SD26(西から)
古城南区④ 2面(東から)
- 図版27 古城南区①(北西から)
古城南区③・②(西から)
- 図版28 古城中5区(南から)
古城中5区(西から)
- 図版29 古城中1区 積石段(北西から)
- 図版30 古城中1区 積石段(南東から)
古城中1区 積石段(北東から)
- 図版31 古城中4区(南東から)
古城中4区 東壁(南西から)
- 図版32 古城北区⑬・⑭(東から)
古城北区⑮・⑯(西から)
- 図版33 古城北区⑭ SE06
古城北区⑭ SE07
- 図版34 古城北区⑫(西から)
古城北区⑪(南から)
- 図版35 古城北区⑩～⑧ 第2面(西から)
古城北区⑧・⑦(南西から)
- 図版36 古城北区⑨・⑩(東から)
古城北区⑩ SD31(北から)
- 図版37 古城北区⑥(南から)
古城北区⑦・⑥ 第2面(西から)

図版38	古城北区⑤～③(西から) 古城北区④(東から)	図版56	1区東(北東から) 1区東(南西から)
図版39	古城北区④・⑤ 布掘建物SB01・SB02(南西から) 古城北区⑤ SE02(東から)	図版57	1区 SE01・06(南東から) 1区 SE05(南東から) 1区 SD02(南東から)
図版40	古城北区③ 第2面(東から) 古城北区② 第2面積石段下(南東から)	図版58	1区 SK02・06(南東から) 1区 SK10
図版41	古城北区②・①(南西から) 古城北区②(北東から)	図版59	1区 SK14・15(南東から) 1区 SK19・30(南東から)
図版42	古城北区① SE01 古城北区0 蹴落川西斜面の確認トレンチ(北東から)	図版60	1区 SK30(南東から) 1区 SX02(南東から)
図版43	19区 総構(西から) 19区 総構	図版61	1区南①(西から) 1区南②(東から)
図版44	19区①(南西から) 19区①(北東から)	図版62	1区南 SK31(北西から) 1区南 SK34(北西から)
図版45	19区① 総構堀(北西から) 19区① SX01(北から)	図版63	1区南 SK43(北から) 1区南 SD05(北西から)
図版46	19区②(北東から) 19区② 総構堀断面(北から)	図版64	15区(南東から) 15区(北西から)
図版47	19区③(北東から) 19区③ 土師皿出土状況(南西から)	図版65	2区(西から) 2区
図版48	19区③ 土師皿群下層 19区③ 土師皿群調査風景	図版66	2区 東端部(北東から) 2区(北東から)
図版49	19区④(南西から) 19区④(北東から)	図版67	2区 SD06以西(北東から) 2区西端(北東から)
図版50	19区④ 切岸(南から) 19区④ 切岸(南東から)	図版68	2区 SE01・02(南東から) 2区 SK03・18(南東から)
図版51	1区(東から) 1区	図版69	2区 SK32(南東から) 2区 SK50・52(南東から)
図版52	1区東 1区南(東から)	図版70	2区 SK83・84(南西から) 2区 SK91・93(北西から)
図版53	1区 調査前(北東から) 1区 調査風景(東から)	図版71	2区 SK93(南から) 2区 SK94 遺物出土状況(北西から)
図版54	1区東・1区(東から) 1区(南から)	図版72	2区 SK95(南西から) 2区 SK96(南西から)
図版55	1区東 西半部(南東から) 1区東 SK96(南から)	図版73	2区 SK95 遺物出土状況 2区 SK114 遺物出土状況 2区 SD01(南東から)

- 図版74 2区2面(北東から)
2区2面(北東から)
- 図版75 2区2面 SK93・228(東南から)
2区2面 SD201(東南から)
- 図版76 2区3面(南西から)
2区3面 SK406・407(南東から)
- 図版77 2区4面(西から)
2区4面 下層確認トレンチ(西から)
- 図版78 2区東沼田(南から)
2区東沼田(南西から)
- 図版79 2区東沼田(南から)
2区東沼田(南西から)
- 図版80 2区東沼田 東岸(南東から)
2区東沼田 西岸(南東から)
- 図版81 2区東沼田 SK72(南西から)
2区東沼田 SK73(北西から)
- 図版82 4区
7区
4区・8区(北から)
- 図版83 4区1面(南東から)
4区1面(東から)
- 図版84 4区1面(南東から)
4区1面 SK05
- 図版85 4区1面(北東から)
4区1面 SK08(南西から)
- 図版86 4区2面(東から)
4区3面(北西から)
- 図版87 4区・8区
- 図版88 8区 SI01(東から)
8区 SI01(西から)
- 図版89 8区 SI01 東北東隅
8区 SI01 北北東隅
- 図版90 8区 SI01 南南西隅
8区 SI01 西南西隅
- 図版91 8区 SI01 南辺(南東から)
8区 SI01 南辺(南西から)
- 図版92 8区 SI01 南辺の礎石
8区 SI01 南辺P12
- 図版93 8区 SK01
8区下層 埋甕SK201・202
- 図版94 8区下層 埋甕SK201・202
8区下層 SD201
- 図版95 7区 遺構検出状況(北東から)
7区 1面(南西から)
- 図版96 7区1面 土坑群(北西から)
7区1面 SK02・26・SD02(北西から)
- 図版97 7区1面 SK26
7区1面 SK24・28(西から)
- 図版98 7区2面(北東から)
7区2面 SK20・30(北西から)
- 図版99 7区2面 東半部(北東から)
7区4面(北東から)
7区4面 SD401(北から)
- 図版100 7区4面 東半部(北東から)
7区4面(南西から)
- 図版101 9区
5区
5区(西から)
- 図版102 9区(南から)
9区(北西から)
- 図版103 5区 遺構検出状況(北から)
5区 全景(南から)
- 図版104 5区 SK07(西から)
5区 SK07(北東から)
- 図版105 5区 SK08(西から)
5区 SD01ほか(東から)
- 図版106 7区東沼田
7区東沼田西肩部(西から)
4・7・8区(北東から)
- 図版107 7区東沼田(北東から)
7区東沼田 西岸(南東から)
- 図版108 10区全景(南東から)
10区北半(北東から)
- 図版109 10区 SB01(南東から)
10区 SB01(北東から)
- 図版110 6区・3区(東から)
6区・3区東半

- 図版111 6区 SB01(北西から)
6区(南東から)
- 図版112 6区 SK03・04(南西から)
6区 SK05・06(南西から)
- 図版113 3区①(東から)
3区①(東から)
3区①土坑群
- 図版114 3区②・③・④(西から)
3区②・③・④(東から)
- 図版115 3区②・③・④
3区②
3区④
- 図版116 3区① 1面(東から)
3区① 1面(西から)
- 図版117 3区① SB01(南から)
3区① SB04(南から)
- 図版118 3区① 西半部土層(南から)
3区① SB07
- 図版119 3区① SE01
3区① SE03
- 図版120 3区① SE07(西から)
3区① SE07(東から)
- 図版121 3区①1面 SE08・09・11(南西から)
3区①1面 SE10(南東から)
- 図版122 3区①1面 SE12
3区①1面 SE13
- 図版123 3区①1面 SE14
3区①1面 SK55・56・57(南東から)
- 図版124 3区①1面 SK70 土器出土状況
3区①1面 SK102・103(南東から)
- 図版125 3区①1面 SK70・71
3区①1面 SK73・74
- 図版126 3区② 東半部検出状況(北東から)
3区② 西半部北壁(西から)
- 図版127 3区② 1面(東から)
3区② 1面(西から)
- 図版128 3区② 井戸(SE19)と土坑群(南東から)
3区② SE20(南西から)
- 図版129 3区② 2面(東から)
3区② 2面(西から)
- 図版130 3区③ 1面検出状況(北西から)
3区③ 1面調査風景(南西から)
- 図版131 3区③ 1面(東から)
3区③ 1面(西から)
- 図版132 3区③1面 SK127・191(東から)
3区③1面 SK195・196(北から)
- 図版133 3区③ 2面(北東から)
3区③ 2面(南西から)
- 図版134 3区④1面 検出状況(南東から)
3区④1面(北東から)
- 図版135 3区④1面 SE15
3区④1面 SE18
- 図版136 3区④2面(南西から)
3区④3面(南西から)
- 図版137 11・12・13区(東から)
11・12・13区
- 図版138 12区(北東から)
12区(南西から)
- 図版139 12区 西半遺構検出状況(北西から)
12区 中央部遺構検出状況(北西から)
- 図版140 13区(北東から)
13区(南西から)
- 図版141 13区東端(北西から)
13区西端(北西から)
- 図版142 11区東(北東から)
11区東(南西から)
- 図版143 11区東 拡張区(南西から)
11区東 拡張区(南東から)
- 図版144 11区東 SK24(南東から)
11区東 SK24(西から)
- 図版145 11区東 SK47土層(西から)
11区東 SK47(北東から)
- 図版146 11区東 SK55・SD11(北西から)
11区東 SD13(北東から)
- 図版147 11区西(北東から)
11区西(南西から)

- | | | | | | |
|-------|-----------|-------------------------|-------|-------|----------------|
| 図版148 | 11区西 | 西端部(北東から) | 図版157 | 18区南① | (西から) |
| | 11区西 | 調査風景(北東から) | | 18区南② | (東から) |
| 図版149 | 11区西 | 中央部(北西から) | 図版158 | 18区南① | SE02ほか(北から) |
| | 11区西 | 西半部(北西から) | | 18区南① | SE01(西から) |
| 図版150 | 11区西 | SE01 | 図版159 | 18区南① | SK24(北から) |
| | 11区西 | SK75・76・78・79(北から) | | 18区北① | (西から) |
| 図版151 | 11区西 | SB01・SK80・81・SD17(北西から) | 図版160 | 18区北② | 1面(東から) |
| | 11区西 | SK89・SD18・19(北西から) | | 18区北② | 1面(西から) |
| 図版152 | 11区西 | SK96・97・99(北西から) | | 18区北② | 2面(東から) |
| | 11区西 | SK100(北から) | | 18区北② | 3面(東から) |
| 図版153 | 14区 | (北東から) | 図版161 | 17区南 | (東から) |
| | 14区 | (南西から) | | 17区南 | SK01・SX03(北から) |
| 図版154 | 14区 | 東隅(南から) | 図版162 | 17区北① | (南から) |
| | 14区 | 南隅(南から) | | 17区北② | (東から) |
| 図版155 | 16・17・18区 | (西から) | 図版163 | 17区北① | SE01 |
| | 16・17・18区 | (東から) | | 17区北② | SD02(南から) |
| 図版156 | 16・17・18区 | (南から) | 図版164 | 16区 | (北から) |
| | 16・17・18区 | | | 16区北 | (南西から) |

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至るまで

七尾城跡の発掘調査は、建設省が施行する一般国道470号能越自動車道七尾氷見道路建設事業(以下、「能越道」とする)を要因としている。

能越道は、石川県輪島市を起点とし富山県砺波市にいたる延長約100kmの高規格道路で、北陸自動車道と東海北陸自動車道等とを有機的に結び、能登地域・富山県西部地域と都市圏との交通体系を確立し地域の活性化を図ることを目的として計画された。このうち本遺跡にかかる箇所は七尾氷見道路と呼ばれており、七尾市八幡町から富山県氷見市大野間約28kmを指している。

七尾城跡は、昭和9年(1934)に山頂の中心部が史跡に指定されたが、城下については様相が明らかではなかった。発掘調査によって城下の姿が明らかになったのは、平成3年(1991)に七尾市教育委員会が行なったシッケ地区である。大手道とそれに沿った町屋敷が確認され、工房の存在が推測されることとなった。この成果を得た七尾市教育委員会は、七尾城下町の実態解明を目的として確認調査を進め、徐々に城下町の景観を復元しつつあった。このような調査が進むなかで出てきたのが、七尾氷見道路の建設計画であった。

平成3年(1991)12月にこの道路の基本計画が決定し、同9年(1997)8月にルート案が発表され、七尾城跡・七尾城下町を通ることが明らかになった。これを知った石川考古学研究会は、同年12月18日、七尾城跡の重要箇所を通過するルート案についてその変更を求め、濱岡賢太郎会長名で、「史跡七尾城跡・城下町遺跡」の保存と路線変更に関する要望書を、建設省北陸地方建設局金沢工事事務所長、石川県知事、石川県議会議長、石川県教育委員会教育長等に提出した(『石川考古 第245号』)。また、翌年2月22日に同会は加能地域史研究会とともに「七尾城と城下町を考えるシンポジウム」を七尾市で開催し、七尾城跡・七尾城下町遺跡の重要性を訴えた。

この動きを受けてルート変更に関する協議が行われ、平成11年(1999)1月には変更ルート案について、石川県教育委員会教育長、石川県土木部長、七尾市長、建設省北陸地方建設局金沢工事事務所長の四者で合意がなされ、1月5日付で「覚書」が交わされた。その内容は、七尾城跡への影響が最も少ないルートを選択し、道路構造は高架橋方式を採用することであった。

七尾市は、能越道が七尾城跡を横断することを踏まえ、平成11年度から3か年で「史跡七尾城跡保存管理計画書」を作成し、今後は、①史跡の追加指定、②史跡の整備事業、③史跡の公有地化等を計画的に進めることとした。

道路事業はこのあと、平成12年2月に都市計画決定がなされ、同年4月に整備計画が決定した。国土交通省(建設省は平成13年1月6日に運輸省と統合し、国土交通省と改称。以下国交省とする)は翌13年度から用地取得に着手し、14年度から道路の設計・測量・用地買収に着手した。

発掘調査および確認調査(遺構の存在を確認するが、掘り下げを行わない調査)は平成17年度から開始した。道路建設にあたっては発掘調査の成果を受けて行うこととし、以下の項目を確認した。

- ・埋蔵文化財の内容を踏まえて橋脚の位置・間隔、橋梁構造等を検討する。

- ・ 景観等にも配慮する。
- ・ 確認調査後は白砂などによって遺構面の保存をはかる。
- ・ 確認調査後に調査結果(遺構の内容)を検討する。
- ・ 橋脚の位置、橋梁構造等を検討し、関係機関の合意を図る
- ・ 高架構造等の詳細設計を検討する。
- ・ 橋梁等の影響が出る範囲について発掘調査を行う。
- ・ 発掘調査後に橋梁等の工事に着手する。

第2節 発掘調査の経過

平成17年度から開始した調査は、七尾城跡の状況を確認することを目的とし、側道や水路、管理用道路予定地などについては遺構検出までとするなど、部分的な調査にとどめた。

(1) 平成17年度

平成17年4月13日に財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下、埋文センターとする）と石川県教育委員会文化財課（以下、県文化財課とする）で発掘予定地を確認し、埋文センターは、同年4月18日付で文化財保護法第92条第1項に基づく発掘調査届を石川県教育委員会あて提出した。5月10日には現地で、国交省、県文化財課、七尾市文化課、埋文センターの四者が調査の手順等について協議する。7月5日には文化庁記念物課の坂井秀弥主任文化財調査官が現地を視察し、七尾市内では本遺跡のほか古府・国分遺跡発掘調査も視察する。7月23日には北陸中世考古学研究会一行40名が見学を訪れ、同月25日には石川県文化財保護審議会史跡・考古専門部会の現地視察が行われた。8月11日には、能登守護畠山氏の研究者である金沢学院大学教授東四柳史明氏に現地で指導を受ける。8月28日、石川考古学研究会が8月例会として現地を見学し、37名の参加があった。また、同じ日に仁木宏氏を代表とする「戦国時代研究グループ」15名も見学を訪れた。9月10日には埋文センターの友の会が現地を見学、40名の参加があった。

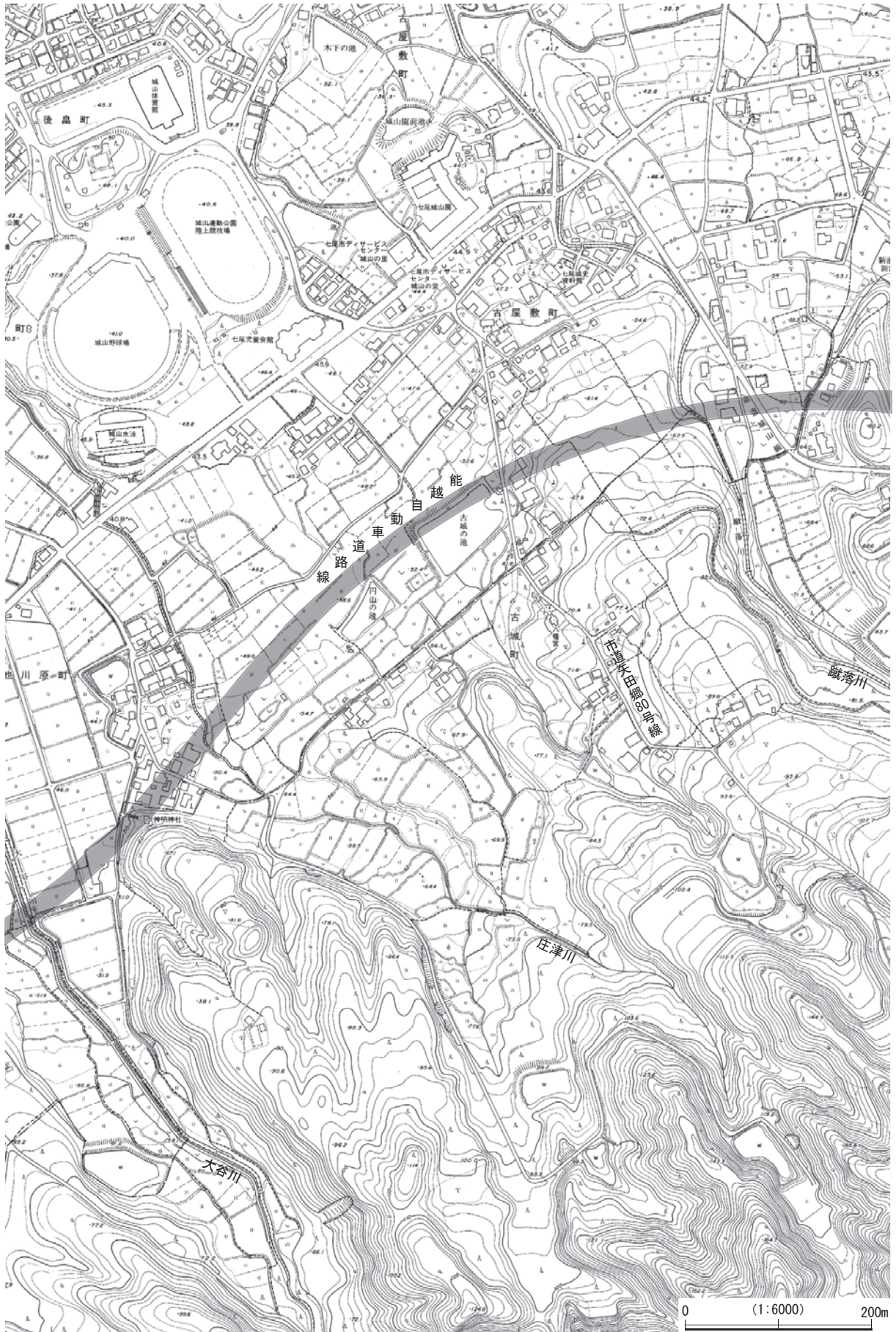
発掘調査の成果を公開するため10月15日に現地説明会を開催した（「七尾城跡現地説明会資料」平成17年10月15日）。総構の北側にあたる古屋敷町・小池川原町地内の調査成果を報道発表し現地を公開し70名の参加者を得た。



2区調査風景



現地説明会(平成17年10月15日)



第1図 能越自動車道路線図

10月20日には埋文センター理事・評議員等16名による視察が行われた。11月4・5日に戦国城下町遺跡の研究者である国立歴史民俗博物館小野正敏氏に現地指導を受け、同月7日には鑄造関係遺構について、中世の金属生産に詳しい京都橘大学教授五十川伸矢氏に現地で指導を受ける。

同年11月28日、発掘調査面積について変更協議を行う。理由は、用地買収未了等調査条件が整わないため、当初依頼17,250㎡を11,120㎡に変更するものである。12月14日、文化庁記念物課の坂井秀弥主任文化財調査官が現地視察する。

平成18年2月1日、再度発掘調査面積について変更協議を行う。理由は、12月13日以降、降雪のため現地作業が困難となったため、11月に変更した11,120㎡を8,490㎡に変更するものである。

同年2月7日、発掘調査で出土した「るつぼ」について奈良文化財研究所飛鳥藤原宮発掘調査部の村上隆氏に指導を受け、分析等を依頼する。同年3月15日、埋蔵文化財発掘調査現地作業の完了届を県教育委員会教育長あて提出する。調査期間は、平成17年5月23日から同18年3月10日で、面積は8,490㎡である。また、遺失物法に基づく埋蔵物の発見届を七尾警察署長あて提出する。

平成17年度の発掘では、古屋敷大池の前から庄津川までの延長約400mを対象とした。ここは総構のすぐ外側にあたる。古屋敷大池の西側では、土坑や井戸からふいごの羽口、鉄滓、るつぼといった鑄造、鍛冶に関わる遺物が多く出ており、工房の存在が明らかになった。特筆すべきは、金が付着したるつぼで、分析の結果、金の溶解を行ったものであることがわかり、七尾城下で金の生産が行われていたことが明らかになった。このほか注目すべき遺構に区画溝がある。これは七尾城下の町割にとまなう遺構とみられ、主軸を揃えたものが複数検出された。

(2) 平成18年度

平成18年4月12日、文化財保護法に基づく発掘調査届を埋文センター理事長から石川県教育委員会あて提出する。同年5月19日、平成17年度の発掘調査で出土し、分析を依頼していたるつぼについて、奈良文化財研究所の村上隆氏から結果の報告があり、5月30日に分析結果について石川県庁で記者発表を行う。発表には奈良文化財研究所村上隆氏に同席を願い、分析結果・意義などについて説明いただく。分析を行ったるつぼは10点で、このうち3点に金の付着が確認された。このるつぼは金の溶解に使われたものとみられ、七尾城下で金の生産が行われていたことが明らかになった。これは全国の戦国城下町で初めての発見となった。

11月16日、文化庁清野孝之調査官が現地視察する。11月18日には発掘調査の成果を公開するため現地説明会を開催した。参加者は110名である。場所は小池川原町・古屋敷町地内で、主な遺構は掘



平成18年度調査風景(8区)



現地説明会(平成18年11月18日)

立柱建物や井戸、溝である。現地を公開するとともに出土品の一部も展示・説明した（「七尾城跡現地説明会資料」平成18年11月18日）。12月4日には金沢学院大学東四柳史明教授に現地指導を受けた。

平成19年2月2日、発掘調査面積の変更について協議を行う。事業者からの調査箇所および面積の変更にとまなうもので、当初依頼面積7,300㎡を7,220㎡に変更する内容である。2月7日に埋蔵文化財発掘調査の現地完了を理事長から県教育委員会教育長あて提出する。調査期間は、平成18年4月26日から同19年2月7日である。また、埋蔵物発見届を七尾警察署長あて提出する。

3月16日、次年度以降の発掘調査のうち矢板設置が必要な東沼田調査区等について文化財課と協議を行う。

平成18年度の発掘調査は、市道矢田郷80号線から庄津川までの区域で、総構のすぐ外側である。主な検出遺構は、掘立柱建物、竪穴状遺構、井戸、溝、土坑などで、数時期にわたって遺構が展開していることが判明した。土坑では土取り穴とみられる大型のものが複数ある。溝は城下の町割にとまなうものであろう。平成17年度で工房を確認した古屋敷大池西の8区では、越前焼大甕を据えた埋甕を複数検出した。これは染物に関わる遺構とみられる。この付近では町屋廃絶後に盛土造成がなされており、柵をもつ建物の存在も確認した。

(3) 平成19年度

平成19年4月17日に国交省、文化財課、七尾市能越道推進課、埋文センターの四者で現地打ち合わせを行う。4月26日に発掘届を埋文センター理事長から県教育委員会教育長あて提出する。7月19日には七尾市古屋敷町地内の60㎡（3区）について、埋蔵文化財発掘調査現地作業完了届を県教育長あて提出する。遺物の発見届を七尾警察署長あて提出する。



平成19年度調査で検出した切岸(19区)



平成19年度調査風景(古城南区)

7月23日、七尾市教育委員会は、七尾市古屋敷町地内で能越道工事用道路予定地の発掘調査に着手し、同年10月31日に完了した。面積は300㎡。この発掘調査で大手道の石組側溝が確認された（善端直 2009『石川県・能登半島 七尾城跡発掘調査報告書』国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所・七尾市教育委員会）。

12月1日に現地説明会を開催し（「七尾城跡現地説明会資料」平成19年12月1日）、総構や大型の竪穴状遺構など発掘成果を説明した。平成20年2月4日、埋蔵物発見届を七尾警察署長あて提出し、2月5日に埋蔵文化財発掘調査作業完了届を県教育委員会教育長あて提出する。調査期間は平成19年4月

17日から同20年2月1日で面積は6,980㎡である。

平成19年度の発掘調査は、市道矢田郷80号線から矢田町地内の山裾までを対象とした。このうち矢田郷80号線と蹴落川間の丘陵で多くの遺構を確認した。丘陵の尾根筋を通る林道と重なる場所には路面幅3mの大手道を検出した。両側に石組側溝を備えた大道で路面を横断する溝も確認した。このほか、矢田郷80号線近くで堀と切岸からなる総構を確認した。大手道沿いには石垣で区画された屋敷地を確認した。また、4m四方の竪穴状遺構や布掘建物も検出し、丘陵には畠山氏の家臣が屋敷を構えていたことが明らかになった。主な出土品には、土師器、陶磁器、「永禄」銘をもつ凝灰岩製狛犬台座、裏面に絵を刻んだ硯などがある。

蹴落川以東については、石組井戸や溝を検出したが、遺構密度は低いことが分かった。これにより、蹴落川が七尾城の東の防御線であったとみるのが可能になった。

(4) 3か年の調査のまとめ

遺構の状況は、①総構、②総構の内側、③総構の外側に分けることができる。

①**総構** 市道矢田郷80号線沿いで総構の堀と切岸を確認した。堀と切岸が途切れている部分には、総構の内側と外側を結ぶ出入口関連遺構が存在していたと推定される。丘陵部の東側では、蹴落川が総構の役割を果たしており、防御線をなしていたと推定できる。

②**総構の内側**(市道矢田郷80号線と蹴落川の間) 丘陵の尾根筋を通る林道と重なる場所で石組の両側溝をもつ大手道を確認した。路面幅360cm、側溝の芯々距離約390cmである。側溝は掘りなおしており、複数時期の整備を確認できた。大手道の周辺では、大手道に面した屋敷地を確認した。屋敷には大型の竪穴状遺構や掘立柱建物が伴っている。この成果により、総構内側の丘陵部一帯に畠山氏の家臣団屋敷が配置されたことが明らかになった。

③**総構の外側**(a市道矢田郷80号線から庄津川、b蹴落川以東の総構外)

a市道矢田郷80号線から庄津川

総構内側の遺構と共通する北西-南東方向に軸をもつ堀や溝があり、城下の区割を示す遺構とみられる。中央部に「東沼田」と汎称される谷部があり、大手道より西側の城下を大きく区分する役割を果たしていることが明らかになった。東半部では、盛土によって複数の整地面が形成されていることを確認した。これにより、七尾城下町の整備が段階的に行なわれたことが明らかになった。遺物には、大量の土師器のほか、金を溶解したるつぼや武具の部材、大甕(埋甕)などがあり、工房が存在すると想定した。また、西半部は鋳型や多くのるつぼが出土したことから、鋳造に関わる工房の存在を想定



大手道調査風景



東沼田空中写真

した。

b 蹴落川以東の総構外側

全体的に遺構密度は高くない。石組井戸の存在は城下との関わりを想定させるが、増水時には蹴落川の氾濫を受ける場所であることから、城下の周辺域として機能したものとみられる。

第3節 出土品整理

出土品整理は、平成18(2006)年度から開始し、平成19年度までは企画部整理課が、平成20年度以降は調査部国関係調査グループが担当した。

平成18年度は、出土品の洗浄と木製品の分析を実施した。

平成19年度は、平成17・18年度発掘調査出土品の洗浄、記名・分類・接合、実測・トレース、保存処理を実施した。

平成20年度は、平成17～19年度発掘調査出土品の洗浄、記名・分類・接合、復元、実測・トレース、樹種同定、保存処理(木簡など)を実施した。

平成21年度は、平成17～19年度発掘調査出土品の記名・分類・接合、実測・トレース、遺構図トレース、樹種同定・分析等を実施した。

平成22年度は、平成17～19年度発掘調査出土品の実測・トレース、遺構図トレース、樹種同定・分析等を実施した。

平成30年度は、平成17～19年度発掘調査の原稿作成を実施した。

平成31・令和元年度は、平成17～19年度発掘調査の原稿作成および編集・刊行業務を実施した。

第3節 出土品整理

【調査体制】

平成17年度(2005)

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 山岸 勇)
総括	堀日出夫(専務理事)
事務	山下淳映(事務局長)
総務	宅崎仁芳(総務課長)
経理	熊谷省吾(経理課長)
担当	谷内尾晋司(センター所長)
	湯尻修平(調査部長)
	三浦純夫(調査第1課長)
	中屋克彦(調査第1課調査専門員)
	金山哲哉(調査第1課主任主事)
	横山 誠(調査第1課調査嘱託)
	大路葉子(調査第1課調査嘱託)
竹田麻里子(調査第1課調査嘱託)	

平成18年度(2006)

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	前田憲治(専務理事)
事務	山下淳映(事務局長)
総務	宅崎仁芳(総務課長)
経理	熊谷省吾(経理課長)
担当	谷内尾晋司(センター所長)
	湯尻修平(調査部長)
	三浦純夫(調査第1課長)
	夷藤 明(調査第1課調査専門員)
	中屋克彦(調査第1課調査専門員)
	金山哲哉(調査第1課課主査)
	空 良寛(調査第1課調査嘱託)
松井直弘(調査第1課調査嘱託)	

平成19年度(2007)

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	前田憲治(専務理事)
事務	山下淳映(事務局長)
総務	宅崎仁芳(総務課長)
経理	熊谷省吾(経理課長)
担当	谷内尾晋司(センター所長)
	湯尻修平(調査部長)
	三浦純夫(調査第1課長)
	夷藤 明(調査第1課調査専門員)
	中屋克彦(調査第1課調査専門員)
	金山哲哉(調査第1課課主査)
	谷内明央(調査第1課主任主事)
	空 良寛(調査第1課調査嘱託)
松原秀浩(調査第1課調査嘱託)	

【整理体制】

平成18年度

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	前田憲治(専務理事)
事務	山下淳映(事務局長)
総務	宅崎仁芳(総務課長)
経理	熊谷省吾(経理課長)
担当	谷内尾晋司(センター所長)
	湯尻修平(調査部長)
	三浦純夫(調査第1課長)

平成19年度

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	前田憲治(専務理事)
事務	山下淳映(事務局長)
総務	宅崎仁芳(総務課長)
経理	熊谷省吾(経理課長)
担当	谷内尾晋司(センター所長)
	湯尻修平(調査部長)
	三浦純夫(調査第1課長)

平成20年度(2008)

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	黒崎宰作(専務理事)
事務	栗山正文(事務局長)
総務	釜親利雄(総務GL)
経理	谷内孝夫(総務グループ専門員)
担当	湯尻修平(センター所長)
	三浦純夫(調査部長)
	藤田邦雄(国関係調査グループリーダー)

平成21年度(2009)

業務主体	(財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 中西吉明)
総括	黒崎宰作(専務理事)
事務	栗山正文(事務局長)
総務	釜親利雄(総務グループリーダー)
経理	谷内孝夫(総務グループ専門員)
担当	湯尻修平(センター所長)
	三浦純夫(調査部長)
	藤田邦雄(国関係調査グループリーダー)

平成30年度(2018)

業務主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 田中新太郎)
総括	紺野欽一(専務理事)
事務	釜親利雄(事務局長)
総務	山口 登(総務グループリーダー)
経理	西 邦広(総務グループ専門員)
担当	藤田邦雄(センター所長)
	垣内光次郎(調査部長)
	川畑 誠(国関係調査グループリーダー)

平成31・令和元年度(2019)

業務主体	(公財)石川県埋蔵文化財センター (理事長 田中新太郎)
総括	紺野欽一(専務理事)
事務	釜親利雄(事務局長)
総務	伊藤 直(総務グループリーダー)
経理	山崎 修(総務グループ専門員)
担当	垣内光次郎(センター所長)
	伊藤雅文(調査部長)
	川畑 誠(国関係調査グループリーダー)

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

七尾城跡は、石川県七尾市の古城町・古屋敷町・小池川原町・竹町・矢田町一帯に所在し、石川県北部の能登半島中央東側に位置する。日本海に突き出る形の能登半島は、日本海に直接面し荒波の浸食を受けた崖地形の多い外浦海岸と、富山湾・七尾湾に面して波穏やかな内浦海岸に大別される。七尾湾は、富山湾から半島中央部に湾入し、能登島を中心に北湾・西湾・南湾に分かれる。

七尾市は、人口約5万2000人、面積は318km²、天然の良港である七尾港を窓口として発展してきた地方都市である。市街地は七尾港の南の低地に広がり、外洋の日本海交易と七尾湾を中心とする内湾交易、さらには北陸道に連絡する能登街道や、奥能登へ向かう奥能登海道の発着地でもあった。このような海上交通・陸上交通の両方における要衝であった七尾は、奈良時代に能登国府が置かれて以来、歴代の政治拠点となり、現在に至るまで能登半島において中心的な役割を果たしている。

現在の市域は七尾西湾・南湾を取り囲むように面している。西側は南にかけて標高100～180mほどのなだらかな眉丈山系が連なる。東側は崎山半島から南にかけて、標高564mの石動山を最高峰とする急峻な石動山系が連なっており、七尾城跡が位置する城山は石動山の北部に位置する。両山系の間の南西部には、羽咋市にかけて幅2～4km、総延長約25kmの邑知地溝帯が広がっており、能登最大の穀倉地帯となっている。戦国時代に能登守護畠山氏によって築かれた七尾城は、戦国五大山城の一つに数えられる巨大城郭で、山麓に展開する城下も含めて遺構が良好に残存する全国的にも貴重な事例である。さらに近年の山城ブームもあって訪問者数は増加傾向にあり、七尾市は城下町のCG復元や、城域のレーザー測量などの事業を積極的に取り組んでいる。城下も含めて、今後の整備、保存、活用のあり方が大きな課題となっていると言えるだろう。

第2節 歴史的環境

(1) 周辺の遺跡

縄文時代～古墳時代 縄文時代の遺跡は眉丈山系の徳田台地周辺に多く確認される。その代表が中期から後期の赤浦遺跡(60=遺跡番号)である。竪穴住居や多数の土坑・貝塚を検出し、土偶や三角罫形土製品などの呪具が出土した。他に前期前葉の竪穴住居を検出した国分尼塚遺跡(19)や、晩期末から弥生時代中期初頭の貯蔵穴を検出した小島西遺跡(109)、土器だけの出土であるが前期後葉の国分高井B遺跡(36)、中期初頭の国下縄文遺跡(72)などが見られる。その他、早期末から前期初頭を主体とした三引



第2図 遺跡の位置

遺跡(市内三引町)では丸木舟の櫂や漆塗りの櫓が出土している。

弥生時代になると、徳田台地上で多くの遺跡が確認される。小島六十苧遺跡(53)は、縄文時代晩期の影響を強くとどめる柴山出村Ⅰ式の弥生土器が出土した集落遺跡である。弥生時代中期には細口源田山遺跡(26)や石動山系に立地する千野遺跡(80)で集落と方形周溝墓群が隣接して確認されている。後期では高地性集落の可能性が指摘される国分高井山遺跡(38)がある。またこの時期には少ない河川沿いに位置する国分遺跡(111)では、河道から後期後半の土器が多量に出土している。

古墳時代になると、石動山系の麓でも多くの遺跡が確認され始める。前期初頭に臨海部の段丘上に形成された万行遺跡(108)ではこの時期においては国内最大級の大型建物群が検出された。前期に築かれた国分尼塚1号墳(32)は県内有数の前方後円墳で、木棺から中国青銅鏡や銅鏃などが出土しており、この時期に国内統一を進めていたヤマト政権との関係を示すものである。前期半ばになると古墳は地溝帯の中央部において対峙するように造られるようになる。石動山山麓の小田中親玉塚古墳・同亀塚古墳(鹿島郡中能登町小田中)と眉丈山山頂の雨の宮1号墳・2号墳(中能登町西馬場)はその代表である。中期から後期にかけては古墳が七尾南湾と外浦に面する邑知潟入口付近に分立する。

七尾南湾地域においては、矢田丸山古墳(95)や矢田高木森古墳(103)を擁する矢田古墳群が形成された。また鉄鏃等の武器類の手入れ・保管・備蓄の建物であったとみられる竪穴建物が検出された後期の万行赤岩山遺跡(107)は、七尾南湾がヤマト政権による北方遠征のための物資の集積地であったことを示す。後期の院内勅使塚古墳(市内下町)と終末期の須曾蝦夷穴古墳(市内能登島須曾町)は、七尾南湾周辺の支配者であったとされる「能登臣」との関係が想定されている。

古代 7世紀後半に律令国家が成立すると、8世紀前半から半ばにかけて二度の立国を経て能登国が成立した。律令体制下における官衙的性格を持つ遺跡は、最初石動山系の山麓の矢田郷地区に現れる。古府タブノキダ遺跡(11)と小池川原地区遺跡(8)は、能登立国前の初期の官衙の様相がわかる遺跡である。奈良時代中期から後期にかけては、能登国分寺跡の北に広がる沖積低地に集中するようになる。古府ヒノバンデニバン遺跡(120)や栄町遺跡(110)では、板塀を伴う掘立柱建物が見ついている。また南西部の八幡昔谷遺跡(22)においても外郭施設を持つ建物が見ついている。公的な機能を有していたと考えられている。能登国分寺跡(81)の発掘調査では、西に金堂、東に塔が建つ「法起寺式伽藍配置」が採用されたことがわかっており、新羅式の軒丸瓦も出土している。その南約1.3kmに位置する千野廢寺(74)からは、国分寺と同じ模様の軒丸瓦が出土しており、国分尼寺に比定する見解がある。国分寺から北約3kmの河口部に位置する小島西遺跡(109)では1,000点を超える木製祭祀具が出土しており、8世紀後半から12世紀初めまでの長い期間、国司や郡司によって「祓」の祭祀が行われていたとみられる。

中世 平安時代末期以降、低地帯への進出が顕著となり、現在の七尾市街地にあたる府中に国衙や守護所が置かれ、能登の政治の中心拠点となった。能登では12世紀中葉の鳥羽院政期に多くの荘園が成立したが、国府が所在する八田(矢田)郷をはじめとして鹿島郡においては公領も多く分布していた。こうして古代の郡郷制から荘園公領制へと移行する中で、荘官・在庁官人・地頭といった在地領主層が地域を支配するようになる。発掘調査で中世のあり方がわかる事例は少ないが、古府・国分遺跡(82)や八幡大皆口遺跡(114)では、古代から室町時代にかけての遺構群が確認され、在地領主層の所在が想定されている。細口源田山遺跡(26)では土塁と空堀で区画された15世紀代の掘立柱建物群が検出されており、在地領主の平地居館と見られている。また同遺跡では14世紀末から16世紀初頭までの土葬墓54基、火葬墓約80基、村堂と見られる施設も確認されており、室町期の墓地や村落の様相がわかる貴重な資料である。その他、旧中島町地区では上町マンダラ中世墓群、小牧神社中世墓、中笠師中世墓などの墳墓が丘陵部に造られており、いずれも水系や生産基盤を支配する在地領主の造営にかかるものと考えられている。

る。また遺跡ではないが、鎌倉時代から南北朝時代にかけて七尾市を含む中能登では板碑が盛んに造られ、その数は500基を超える。中世前期には地頭をはじめとする領主層による追善供養を目的とした造立が多いが、後期になると民間信仰の目的でも造立されるようになる。さらに15世紀になると、石動山以外の板碑は碑面に造立の目的を示す種子を刻むものから、五輪塔や宝篋印塔、仏・菩薩を刻む50cm前後の小型のものが主流となっていった。

戦国期では小島西遺跡(109)が特筆される。遺物は16世紀前半から中頃の土師器皿が中心で、大型の井戸や建物、街路を検出し、酒屋の存在も想定されており、現在の市街地にあたる所口の湊町の西縁に発展拡大した町場であったと考えられている。遺物・遺構が集中する16世紀前半から中頃は能登守護畠山氏の安定支配期にあたることから、この町場は畠山氏と密接な関係にあったことが想定される。畠山氏が七尾城への移転後も引き続き府中の港機能を重要視していたことを示す重要な事例である。

近世 七尾城跡周辺において近世の様相が発掘調査でわかる遺跡は、小丸山城跡(50)の北西に位置する小島遺跡(51)・小島西遺跡(109)に限られる。小島遺跡では堅固な岩盤を掘削した大溝が検出されており、小丸山城と七尾湾を結ぶ運河の可能性が指摘されている。小島遺跡から桜川を挟んで北西に位置する小島西遺跡では、16世紀末頃の遺物や建物が見つかり、前田利家が遺跡背後の丘陵地に設けた山の寺寺院群との関連性が想定されている。輪島方向へ向かう街道筋にも建物群が検出されており、これらは現在の小島集落の基盤になっていると考えられている。

(2)七尾城の沿革

七尾城を築いた能登畠山氏は、室町時代に有力守護大名であった畠山氏の分家に当たる。畠山氏は、鎌倉時代初期の足利氏の当主、義兼の子の義純を始祖とする一門で、細川氏・斯波氏と並んで室町幕府の管領に就任できた名門であった。明德2年(1391)頃に畠山基国が能登守護に任じられ、庶子の畠山満慶がその跡を継いだ。満慶は応永15年(1408)に兄の満家に家督を譲り、自らは能登一国の守護に就任したことで、満慶の子孫が能登守護を世襲する能登畠山家(畠山匠作家)が成立した。15世紀後半の応仁・文明の乱までは、京都に居住して幕政に携わっており、国元には守護代(またはその代官の小守護代)が置かれ、守護の命を受けて支配を行っていた。応仁・文明の乱後の文明10年(1478)に3代畠山義統が能登に下向すると、府中の守護所を拠点として領国経営を開始した。守護所の所在地については、南藤橋七高遺跡(45)に比定する見解もあるが、定まっていない。文献史料では、文明12年から18年かけてたびたび能登を来訪した歌人の招月庵正広が、歌集「松下集」の中で、守護の居館を中心にその周辺に家臣の屋敷があったことを記載している。また文亀3年(1503)に畠山慶致が父義統の三周忌を府中の大寧寺で行っており、守護の菩提寺が府中にあったことがわかる。

明応6年(1497)に義統が死去すると、家督を継いだ義元と弟の慶致が争い、文亀元年に慶致が家督を継いだ。この時には七尾の地名はまだ見られないが、平成20年の七尾城の石垣修復の際に、桜馬場北側石垣の最下段から15世紀末から16世紀初頭の生活用具が出土している。時期的に見て兄弟の抗争と関連する可能性が考えられる。永正5年(1508)に義元・慶致兄弟は和睦し、慶致の子義総を次期当主とすることを条件に義元が守護に再任した。義元はまもなく上洛して将軍職に復帰した足利義尹の政務を補佐した。ところが、永正10年に能登国内で大規模な内乱が起きたため、国元への下向を迫られた。この内乱中の永正11年が文献上における七尾の地名の初見である。史料では畠山氏に味方して「七尾」へ出張した大呑北庄の百姓らに対し、年貢の十分の一を免除することでこれに報いている。

内乱終結後の永正12年に畠山義総が7代当主に就任すると、政治拠点を府中の守護所から七尾城に移した。永正14年に公家の冷泉為広が能登に下向した際には七尾に滞在しており、この時まで義総は七尾城へ本拠を移転したことがわかる。以後、冷泉為広・為和父子をはじめとする公家、東福寺住持であっ

た彭淑守仙のような禅僧など多くの文化人が七尾を訪れ、畠山文化が華ひらいた。城内や城下の様子については、天文13年(1544)に七尾を訪れた彭淑守仙が記した『独楽亭記』の中で、丹・碧で彩られた絢爛な「太守之殿」(守護の館)が山頂に聳え、重臣温井氏の屋敷が「大石溪」(大石谷)の中腹にあった様子や、城下の市場が商人で賑わい、城下から1里(約4km)ほど延びる道沿いに「千門万户」が建ち並んでいる様子が書かれている。ここから、守護やその家臣たちが城内で生活していたこと、約4km北にある府中と七尾城下を結ぶ道があったことがうかがえる。

七尾市が行った城下のシッケ地区(6)の調査においては、大手道を含む16世紀の道路や屋敷地が整然と並ぶ遺構が検出された。遺物としては、漆器や和鏡の鋳型などが出土しており、職人が居住していたことが確認された。他にも包丁や下駄、櫛といった多彩な生活用具も見つかっており、『独楽亭記』でしかうかがえなかった城下の様相が考古学的にも明らかになった。その後も古城大念寺屋敷地区(5)など城下での確認調査が行われており、主要道路に面して屋敷地が立ち並んでいた様子が明らかになっている。

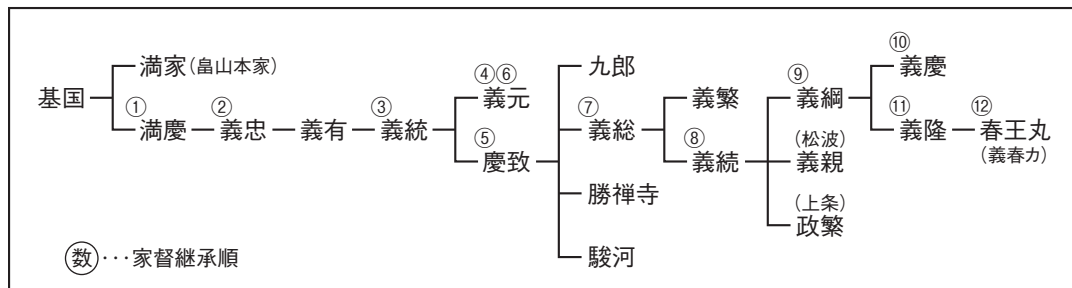
天文14年に能登畠山氏の最盛期を築いた義経が死去すると、能登は内乱の時代に突入する。そのきっかけが、天文19年から翌20年にかけて、遊佐続光と温井総貞を筆頭とする畠山七人衆が守護畠山義経を七尾城に攻めた「七頭の乱」である。「搦手口」や「大石谷」など城内での攻防が続き、天文20年2月に義経に味方する石動山が七人衆によって焼き討ちにされると、まもなく七尾城下は焼失した。勝利した畠山七人衆は、義経を隠居に追い込んで家中の主導権を握るが、その後も畠山氏・遊佐氏・温井氏の間で抗争が繰り返される。その最も大規模なものが、弘治元年(1555)からの温井氏の反乱である。この反乱では、加賀・能登の一向一揆が温井氏に味方したことで、外浦地域を反乱軍が席卷したため、畠山氏は数年にわたって七尾籠城に追い込まれるという大規模な内乱に発展した。畠山氏は弘治2年に越後の長尾景虎(のちの上杉謙信)に対して、「当城(七尾城)弥堅固候」と書き送っており、また同年には諸橋六郷(穴水町)に対して「御構柵」用の木材の供出を命じており、この時期に七尾城が改修強化された様子が見られる。畠山氏は永禄元年(1558)から反撃に転じ、同2年末頃になって反乱軍を国外に追いやり、約5年にわたった内乱は沈静化した。その後、義経の跡を継いだ義綱による大名中心の政治が行われるが、永禄9年に追放され、以後は幼少の義慶を擁立した重臣が畠山家の実権を掌握する。義綱は上杉謙信の支援を得て同11年に能登再入国を図り、「符(府)中池田要害」や「神明之地」(いずれも七尾城周辺の砦と見られる)を拠点に七尾城を包囲したが、失敗に終わった。天正4年(1576)には北陸平定と上洛を目指す上杉謙信が能登に進攻し、七尾城は再び包囲された。そして翌天正5年9月、重臣遊佐続光の寝返りと、同じく重臣で主戦派であった長一族の謀殺によって七尾城は陥落し、約170年にわたって能登を支配した畠山氏は滅亡した。

畠山氏滅亡後、上杉家臣の鯨坂長実が七尾城代として置かれたが、天正6年の謙信が死去にともなって越後で後継者争い(御館の乱)が起きると、畠山旧臣たちは織田信長に接近した。彼らは信長の支援を受ける長連龍(長一族の生き残り)と交戦しながら、天正7年に鯨坂をはじめとする上杉勢を追放し、天正8年に織田氏に七尾城を明け渡した。信長は長連龍を除く畠山旧臣を一掃すると、天正9年に前田利家に能登一国を与えた。能登に入った利家はすぐに所口の丸山山城(50)の築城に着手したと言われているが、近年はしばらく七尾城を拠点にしていたという説が有力である。天正10年6月の本能寺の変を受けて、越後に亡命していた畠山旧臣の温井景隆・三宅長盛が能登に迫ると、前田利家は穴水の百姓に対し、七尾まで堀・柱用の木材の運搬を命じ、普請のための鋤を持たせて招集している。佐久間盛政・前田利家の連合軍が石動山南西に位置する荒山砦(中能登町芹川)で温井・三宅軍を破ると、彼らに味方した石動山は焼き討ちにされ、灰燼に帰した。その後、天正12年に越中の佐々成政と争った末森城(羽咋郡宝

達志水町竹生野)の合戦を最後に能登の戦国は終焉を迎えた。

小丸山城下町の形成の様子が明確にわかるのは、前田利家が天正17年に小島・所口の百姓に明神野(現在の所口町)への移転を命じた史料である。また所口(小丸山)の城普請について指示をした利家印判状(写)は、天正14年が年代の上限であり、小丸山城の築城と七尾城の廃城は、末守城の合戦後の軍事的緊張が解けた後に行われた蓋然性が高い。天正19年には七尾城下の屋敷地は「七尾古屋敷方」とされて農地となっていた。城山も文禄5年(1596)に前田利家が無断での草木の伐採を禁止しており、この時までには七尾城は完全に廃城となったと見られる。

最後に、七尾城の改編とその年代について文献史料からの見解を述べたい。これまでの調査では、16世紀後半に城郭と城下が大きく改編され、堀・土塁・切岸によって城の外郭の防衛線をなす「総構」が築造されたことがわかっている。上で述べたように、畠山氏は弘治・永禄の内乱時に七尾城を改修強化したことが史料からうかがえる。この時に供出を命じた「御構柵」の木材が総構に用いた柵であった可能性を指摘する仁木宏氏の見解もある。その後も七尾城をめぐる攻防戦は何度も行われており、総構の築造も含めた城郭・城下の改編は、こうした戦乱の中でなされていったものであろう。ただし、七尾城は畠山氏滅亡後も10年近くは能登の政治・軍事の中心拠点であり、その点についても言及せねばなるまい。まず上杉謙信は、七尾落城後に「七尾城はよくできているので、普請に手間は要らない」と書状の中で述べていることから、大規模な改修を行う意図はなかったものと考えられる。次に上杉勢を追放した畠山旧臣たちは、天正8年に長連龍の攻撃に備えて諸橋村の百姓に「普請等」に協力するよう命じており、これは七尾城の改修を指している可能性がある。そして天正9年に能登国主となった前田利家は、最短でも5年間は七尾城を本拠としており、前述したように天正10年には温井・三宅らの攻撃に備えて普請のために百姓を七尾に動員している。以上から、16世紀後半の七尾城の改編は、畠山氏だけでなく、その滅亡後に七尾城に拠った勢力、特に前田氏による改編も想定しなければならないだろう。



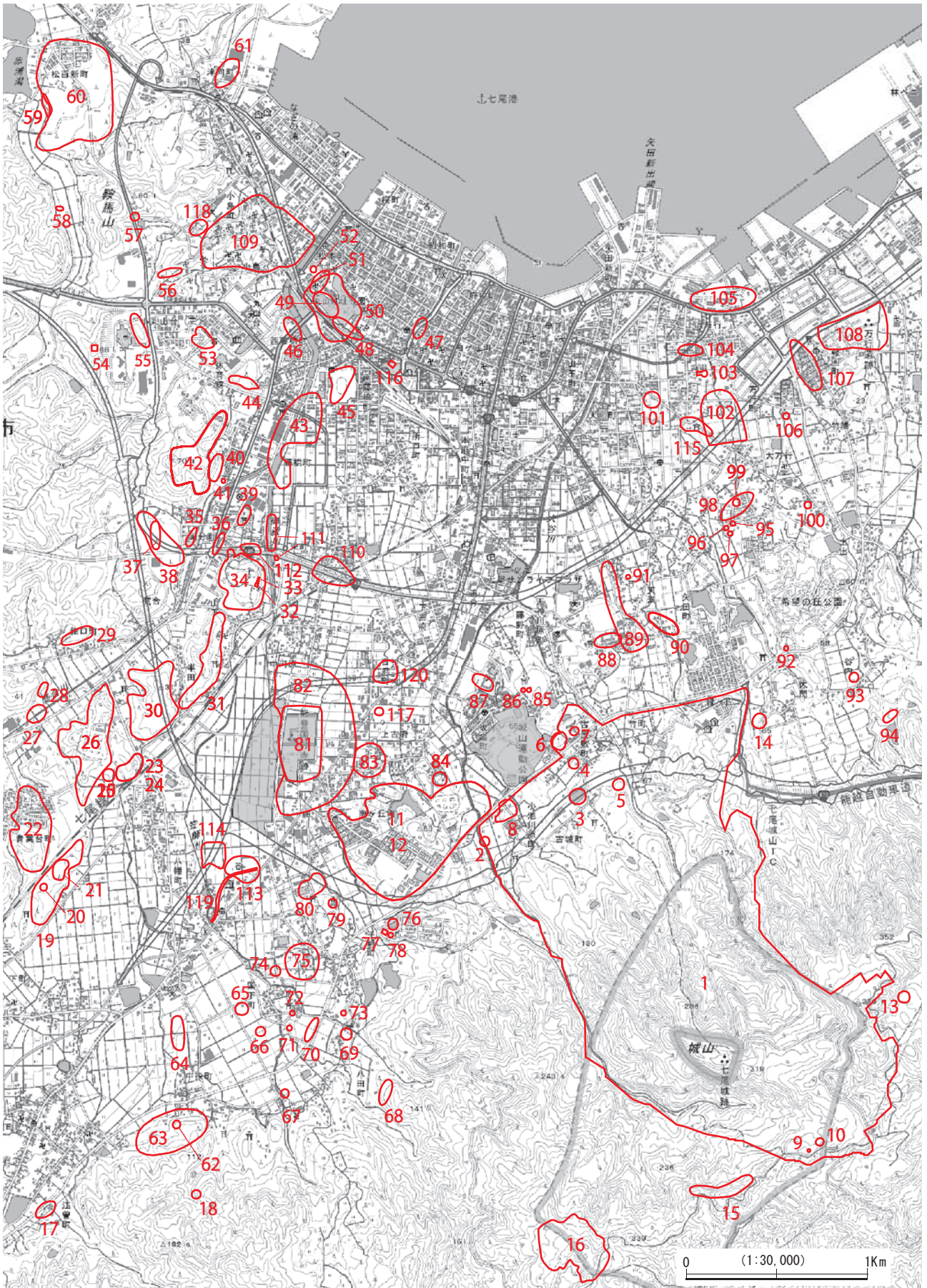
能登畠山氏略系図

引用・参考文献

- 大西顕 2008 『小島西遺跡』(財)石川県埋蔵文化財センター
 田川捷一^{ほか} 1999 『図説 七尾の歴史と文化』七尾市役所
 仁木宏 2006 「守護所・城下町と府中・所口湊」『能登 七尾城 加賀 金沢城』新人物往来社
 橋本澄夫 2002 「小島遺跡」『新修七尾市史 1 考古編』七尾市役所
 橋本澄夫^{ほか} 2011 『新修 七尾市史 14 通史編 I 原始・古代・中世』七尾市役所
 東四柳史明^{ほか} 2014 『図説 七尾の歴史』七尾市役所
 見瀬和雄^{ほか} 2013 『新修七尾市史 15 通史編 II 近世』七尾市役所

第2表 七尾城関連年表

西暦	和暦	主な出来事	城主(城代)
1514	永正11	畠山義元、大吞北荘の百姓に七尾出陣の忠節を賞して年貢十分の一を永代免除	畠山義元
1515	永正12	畠山義元が没し、義総が畠山氏当主となる。	畠山義総
1517	永正14	冷泉為広が能登に下向し、翌年まで七尾城に滞在	
1523	大永3	七尾城下招月庵で正韻が連歌会を催す(「賦何路連歌」)。	
1525	大永5	月村齋宗碩が七尾城内にて独吟和歌を発す。	
1526	大永6	畠山義総、七尾城内において歌会を催し、冷泉為広・為和父子が列席する。	
1539	天文8	長谷川等伯、七尾城下に生まれる。	
1544	天文13	彭叔守仙が「独楽亭記」を筆録	
1545	天文14	畠山義総が没し、次男義統が畠山氏当主となる。	畠山義統
1550	天文19	重臣温井総貞・遊佐統光ら畠山七人衆の反乱(七頭の乱)が起き、畠山義統が七尾城に籠城する。	
1551	天文20	石動山が焼き討ちを受け、七尾城が焼失。義統は出家し、義綱が家督を継ぐ。 畠山七人衆が政治の主導権を握る。	畠山義統 畠山義綱
1553	天文22	七人衆の遊佐統光らが反乱を起こし、鎮圧される。	
1555	弘治元	温井統宗らが反乱を起こし、義統・義綱らは七尾籠城に追い込まれる。	
1556	弘治2	畠山義統・義綱、諸橋六郷に「御構柵」構築のための材木の供出を命じる。 畠山義統・義綱、上杉謙信に七尾城が堅固であることを伝え、支援を依頼する。	
1558	永禄元	七尾城方が反撃に転じ、勝山城に拠る温井統宗らを討ち取る。	畠山義綱
1561	永禄4	畠山義綱、七尾城内の長統連邸を訪れる。	
1566	永禄9	遊佐統光ら重臣が畠山義統・義綱らを追放し、義綱の子義慶を擁立する。	畠山義慶
1571	永禄11	畠山義綱、能登へ攻め入り、七尾城を包囲するが、反撃により撤退する。	
1574	天正2	畠山義慶が殺され、弟の義隆が擁立される。	畠山義隆
1576	天正4	越後の上杉謙信、能登へ攻め入り、七尾城を包囲する。畠山義隆没する。	
1577	天正5	遊佐・温井らが上杉軍に内応し七尾城が落城。能登畠山氏が滅亡する。	(鯨坂長実)
1578	天正6	城代の鯨坂長実、能登の諸将を七尾に登城させ、血判の誓詞をとる。	
1579	天正7	温井景隆ら、城代の鯨坂長実ら上杉勢を追放し、織田信長に通じる。	畠山旧臣
1580	天正8	温井景隆ら、織田信長に降服し、七尾城を明け渡す。	
1581	天正9	織田信長、城代の菅屋長頼に命じて七尾城内で遊佐一族を殺害する。温井景隆・三宅長盛らは越後に逃亡する。 前田利家が織田信長から能登一国を与えられ、七尾城に入城する。	(菅屋長頼)
1582	天正10	前田利家、温井景隆らの進攻に備え、七尾城の改修のために穴水の百姓に材木を供出させ、七尾に動員する。 前田利家、柵木城で捕えた長景連一族を七尾城下の赤坂で処刑する。	
1583	天正11	前田利家、羽柴秀吉より河北・石川二郡を与えられ、七尾から金沢へ移る。	前田利家 (前田安勝)
1585	天正13	前田利家、七尾城下の寺院に小島への移転を命じる。	
1586-1589	天正14～17	前田利家、所口に小丸山城を築き、七尾城は廃城となる。	



第3図 七尾城跡と周辺の遺跡
(「七尾都市計画図(其2)」を合成・加工)

第2節 歴史的環境

第3表 遺跡地名表

番号	県番号	遺跡名	種別	時代	番号	県番号	遺跡名	種別	時代
1	218200	七尾城跡	城館	中世・近世	61	211800	津向横穴群	横穴墓	古墳
2	218201	七尾城跡(古府谷内地区)	城館	中世・近世	62	215700	中挟経塚	その他(経塚)	中世・近世
3	218202	七尾城跡(古城の池地区)	城館	中世・近世	63	215800	中挟遺跡	散布地	中世
4	218203	七尾城跡(古屋敷地区)	城館	中世・近世	64	215900	中挟角田遺跡	散布地	古墳
5	218204	七尾城跡(古城大念寺屋敷地区)	城館、社寺	中世・近世	65	216000	国下遺跡	散布地	古代・中世
6	218205	七尾城跡(シッケ地区)	集落	中世・近世	66	216100	八田椿森遺跡	散布地	中世
7	218206	七尾城跡(古屋敷ラントウ地区)	集落	中世・近世	67	216200	八田大苗代遺跡	散布地	弥生・古墳
8	264500	小池川原地区遺跡	集落	古代	68	216300	千野横穴群	横穴墓	古墳
9	262600	熊淵大山1号塚	塚	不詳	69	216400	千野A遺跡	散布地	不詳
10	218300	城山中山遺跡	散布地	縄文	70	216500	国下柳田遺跡	集落	古代
11	217800	古府タブノキダ遺跡	散布地、集落	縄文・古墳・古代	71	216700	八田梨ノ本遺跡	散布地	縄文
12	217900	古府十三塚遺跡	その他	中世	72	216800	国下縄文遺跡	散布地	縄文
13	219100	城山旭遺跡	散布地	縄文	73	216900	千野古墳群	古墳	古墳
14	219200	矢田大門遺跡	散布地	縄文	74	217000	千野廃寺	集落	古代・中世
15	262500	熊淵柵形中世墓群	墳墓	中世・近世	75	217100	千野大聖寺平遺跡	散布地	古代・中世
16	201100	古府柵形岩跡	城館	中世	76	217200	千野高塚遺跡	散布地、集落	弥生・古代
17	200600	江曾池の原遺跡	散布地	古代	77	217301	千野高塚1号墳	古墳	古墳
18	200700	中挟横穴	横穴墓	不詳	78	217302	千野高塚2号墳	古墳	古墳
19	207200	月夜見神社古墳群	古墳	古墳	79	217400	千野正福寺遺跡	散布地	縄文
20	207300	下町中世墓遺跡	その他の墓	中世	80	217500	千野遺跡	散布地、集落	弥生～中世
21	207400	下町横穴群	横穴墓	古墳	81	217600	能登国分寺跡附建物群跡	散布地、集落	弥生～中世
22	207800	八幡昔谷遺跡	散布地、集落	縄文～中世	82	217700	古府・国分遺跡	集落、社寺	古墳～中世
23	207900	八幡八幡神社古墳群	古墳	古墳	83	218000	古府廃寺	社寺	古代
24	208000	八幡経塚	その他(経塚)	中世	84	218100	古府総社遺跡	散布地	古代
25	208100	八幡塔地面遺跡	散布地	古代	85	218901	後島東之御塚古墳	古墳	古墳
26	208200	細口源田山遺跡	集落、その他の墓	弥生・古代・中世	86	218902	後島西之御塚古墳	古墳	古墳
27	208300	細口遺跡	散布地	古墳	87	219000	藤野遺跡	散布地、集落	弥生・古代～近世
28	208400	細口B遺跡	散布地	中世	88	219300	矢田天神川原遺跡	散布地	古代・中世
29	208500	細口古墳群	古墳	古墳	89	219400	矢田天神川原B遺跡	散布地	古代
30	208600	国分山遺跡	散布地	弥生・古墳	90	219500	矢田中瀬古墳群	古墳	古墳
31	208700	国分火司神社古墳群	古墳	古墳	91	219600	矢田天満宮古墳	古墳	古墳
32	208801	国分尼塚1号墳	古墳	古墳	92	219700	万行首塚	貝塚	不詳
33	208802	国分尼塚2号墳	古墳	古墳	93	219800	万行谷内遺跡	散布地	縄文
34	208900	国分尼塚遺跡	散布地、集落	縄文・弥生・古代	94	219900	万行横穴群	横穴墓	古墳
35	209000	国分高井A遺跡	散布地	古墳	95	220001	矢田丸山古墳	古墳	古墳
36	209100	国分高井B遺跡	散布地	縄文～古墳	96	220002	矢田高塚古墳	古墳	古墳
37	209200	国分高井山古墳群	古墳	古墳	97	220003	矢田いも塚古墳	古墳	古墳
38	209300	国分高井山遺跡	散布地、集落	弥生～古代	98	220100	矢田窯跡	生産遺跡	近世
39	209400	国分鯨山遺跡	散布地	弥生・古墳	99	220200	矢田明星館遺跡	集落	古代～近世
40	209500	岩屋遺跡	散布地	古墳	100	220300	万行経塚	経塚	近世
41	209600	岩屋A遺跡	散布地	不詳	101	220400	大和遺跡	散布地	縄文～古墳
42	209700	国分岩屋山古墳群	古墳	古墳	102	220500	矢田遺跡	散布地、集落	弥生～中世
43	209800	藤橋遺跡	散布地、集落	弥生～中世	103	220600	矢田高木森古墳	古墳	古墳
44	209900	岩屋十三塚遺跡	塚	中世・近世	104	220700	矢田高木森遺跡	散布地	弥生・古代
45	210000	南藤橋七高遺跡	散布地、集落、城館	弥生・中世	105	220800	七尾軍艦所跡	生産遺跡	近世
46	210100	西藤橋遺跡	散布地	不詳	106	220900	万行御政所遺跡	散布地	中世
47	210200	檜町遺跡	集落	中世・近世	107	221000	万行赤岩山遺跡	集落	縄文～古墳
48	210300	小丸山公園下遺跡	散布地	不詳	108	221100	万行遺跡	集落、社寺、古墳	縄文～古墳・中世
49	210400	小丸山遺跡	散布地	古墳	109	261700	小島西遺跡	集落、祭祀跡、道路	縄文～中世
50	210500	小丸山城跡	集落	古墳・中世・近世	110	261800	栄町遺跡	集落	古墳～中世
51	210600	小島遺跡	散布地	古墳・中世	111	261901	国分遺跡	散布地、集落	弥生～中世
52	210700	小島旧七商高遺跡	古墳	古墳	112	262700	国分B遺跡	集落	弥生～中世
53	210800	小島六十刃遺跡	集落	弥生	113	262900	千野林田遺跡	散布地、集落	弥生・古墳
54	210900	藤橋ゼニガミネ古墳	散布地、古墳	弥生～古代	114	263000	八幡大岩口遺跡	集落	古代・中世
55	211000	藤橋十三塚遺跡	散布地	縄文・中世・近世	115	263100	矢田神社東遺跡	集落	古墳
56	211100	小島十三塚遺跡	塚	近世	116	263700	御坂町遺跡	屋敷跡	中世・近世
57	211200	小島池底遺跡	散布地	縄文	117	265400	古府遺跡	散布地	不詳
58	211300	赤浦大割遺跡	散布地	縄文～古墳	118	265500	津向B遺跡	散布地	中世
59	211400	赤浦かくちだ遺跡	散布地	古墳・古代	119	266000	能登街道(ハシラマツ地区)	道路跡	中世・近世
60	211500	赤浦遺跡	散布地、集落、貝塚	縄文～古墳	120	266700	古府ヒノバンデニバン遺跡	集落	古代

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

1 七尾城跡の地形

まず七尾城跡の立地する地形を概観しておきたい。城下町を含めた七尾城跡の地形は第1図の通りである。城山と呼ばれる石動山系派生尾根の頂上部を中心として、国指定史跡となっている主郭部分が存在する。その周囲には多くの郭が確認されており、尾根の裾部まで展開している。主郭の南には郭の造成はみられない。

本書で報告するのは、第1図に示した能越自動車道建設箇所であり、ここには四つの尾根が存在する。これらの尾根の間には城山から流下する三本の川がある。東から蹴落川（「木落川」とも呼ばれるが本書では蹴落川と呼称する）、庄津川、大谷川である。蹴落川と庄津川の間に二つの谷があり、庄津川と大谷川の間に最も幅の広い尾根がある。

蹴落川の西には古屋敷集落まで延びる緩斜面の大きな尾根がある。ここには城下と城の中心部を結ぶ幹線道が敷設されており、七尾城および城下町形成の基軸となっている。この西の谷には市道矢田郷80号線が走行しており宅地が存在する。市道西の尾根は短く、その西には「東沼田」が入り、同じ規模の尾根をはさんで庄津川が北西に流下する。庄津川の西に派生する尾根は幅広、急斜面で、この西を流れる大谷川が七尾城下の西を大きく画している。

さて、七尾城跡の主郭部が所在するのは「城山」であると前述したが、この呼称は古いものではない。昭和3年（1928）刊行の『石川県鹿島郡誌』（鹿島郡自治会刊）が初見である。中世史料では、天正13年（1544）成立の『独楽亭記』で「七尾山」と記されている。近世では、安永6年（1777）の『能登目具利』で「松尾の城山」、文政2年（1819）の『三州志故墟考 卷之五』では「松尾山」とある。近代になると、明治2年（1869）の「古城御林山御墓所之義ニ付申上書案紙」では「古城山」、同42年（1909）の『鹿島郡誌』（鹿島郡役所刊）では「松尾山」となっている。

2 調査区の設定と調査の方法

(1) 第1次・2次調査(平成17・18年度)

第4図に示したように、東は古屋敷町地内の市道矢田郷80号線、西は庄津川までの間で実施した。この段階で工事の影響範囲が決定しているのは側道予定箇所のみで、橋脚の位置は遺構の分布状況を把握して判断することで調査に着手した。側道予定箇所は、1区東、1区、2区、3区、7区、7区東沼田、11区東、11区西である。15区、1区南、4区、8区、9区、5区、10区、6区、12区、13区、14区は橋脚位置の検討材料を得るための調査区で、このうち9区、10区、12区～14区は遺構の平面形の確認にとどめている。

調査区のうち2・3・4・7・8区では複数の文化面を確認した。報告にあたっては古い面から行うのが基本であるが、確認調査という性格もあって無遺物面まで掘り下げていない。したがって本書では上面から下面へと確認順に報告することをあらかじめ断っておきたい。これは第3次調査でも同様である。

(2) 第3次調査(平成19年度)

西は市道矢田郷80号線、東は矢田町地内の山裾で調査区を設けた。矢田郷80号線と蹴落川の間は

幅広の尾根で、多くの遺構を確認した。矢田郷80号線東は19区、側道予定箇所には古城南・北区、橋脚位置を検討するために、西から古城中3区、古城中2区、古城中6区、古城中5区、古城中1区、古城中4区を設けた。蹴落川以東では18区南・北、17区南・北、16区を設けた。

調査にあたっては、遺構の表記に次の略符号を用いた。

SB・SI：建物、SE：井戸、SK：土坑、SD：溝、SX：性格不明遺構、P：ピット

第2節 調査区の状況と遺構

1 概要

報告は調査区ごとに次の順で行う。なお、(1)から(9)、(30)から(33)は第3次調査、(10)から(29)は第1・2次調査である。

- (1)古城中2区(大手道)、(2)古城中3区、(3)古城中6区、(4)古城南区、(5)古城中5区
(6)古城中1区、(7)古城中4区、(8)古城北区、(9)19区(以上、第3次調査)
(10)1区東、(11)15区、(12)1区、(13)1区南、(14)2区、(15)2区東沼田、(16)4区、(17)8区、
(18)9区、(19)7区、(20)5区、(21)7区東沼田、(22)10区、(23)6区、(24)3区、(25)12区、
(26)13区、(27)11区東、(28)11区西、(29)14区(以上、第1・2次調査)
(30)18区南、(31)18区北、(32)17区、(33)16区(以上、第3次調査)

これらの調査区は、下記のエリアに大別できるものである。

- (1)～(8)：総構内側
(9)：総構の堀や切岸
(10)～(29)：総構の外側
(30)～(33)：蹴落川の東側

2 調査区と遺構

(1)古城中2区(大手道)

城下と城内を結ぶ幹線道である。北は、七尾市教育委員会が総構北側で過去に調査しており、そのさいの呼称にならって大手道と呼ぶ。南、城中心部へも山道が存在しており、大手道に重なるものであろう。検出延長は37mで、直線的に走行する。遺存状況は、中央部が良くないが、北3分の1と南3分の1は当初の形を維持している。石組の両側溝をもっている。主軸は、北半東側溝はN33°W、南半ではN34°Wとなる。さらに、南端から約4mで西に軸を振っており、N25°Wとなっている。

道路幅は、最も遺存の良い北半で見ると、側溝芯々間390cmである。路面幅は360cmを測る。南半では、側溝芯々距離の最大値が440cm、路面幅最大値が410cmである。路面は、使用時の面が削平されているが、固く締まっており、転圧されたことがわかる。

石組側溝 北3分の1がよく残っている。東側溝をSD08(南端ではSD09と呼称)、西側溝をSD04と呼称する。当初2、3段の石積があったと思われるが、削平されているため1段しか確認できない場所が大半である。用材は、大きいもので長さ50cm、平均的には30cm前後の石である。横積を基本とするが、小口積も部分的にみられる。

西側溝は、北方SD15周辺で両石組が遺存するが、大半は欠失している。南半では、東側石組のみ長さ16.5mにわたって残っている。深さは南半で40cmである。

東側溝は、北半で良好に遺存している。北端から延長12mは良好である。石組の用材は、大きいものが長さ50cm、平均的には30cm前後の自然石で、小口積を基本とし、横積も含まれている。石臼の転

用も1点みられる。深さは、北端で34cm、南端で32cmを測る。

溝SD15 北半で検出した両側溝を結ぶ石組溝で、幅20cm、深さ12～20cmである。構造は両側溝と同じである。両側溝と直交しており、軸はN57°Eである。これは両側溝の排水調節用の明渠と考えられるもので、必要に応じて蓋板を用いたと思われる。この溝は、中3区の屋敷地石垣の延長上にあることから、屋敷地と同時に、一体的に構築されたと考えられる。

路面 砂利敷で、路面は固く締められている。北半部が良好な状態である。SD15の南では溝や土坑による「乱れ」が見える。路面に、北からSD10、SD03、SD23がみえており、いずれも素掘である。SD03は、側溝と軸を合わせているが、他の2条は異なっている。これらは、大手道が構築時の形を失った段階で掘られたものと考えたい。SD10は最大幅200cm、深さ80cmで、主軸はN46°Wである。SD03は西側溝(SD04)の東に接して並走する。長さ7.4m、最大幅64、深さ45cmである。この溝の南にSD23が取り付けられている。弧状の溝で、最大幅40cm、深さ15cmを測る。

路面の溝 路面中央にSD10、南半の西にSD03、同中央にSD23、同東にSD06がある。このうちSD10はSD15の南から延長12mにわたって明らかにSD08を切っている。SD08・04は大手道が当初の形状を失ったあとのものとみられ、西のSD03と対をなす可能性がある。路面幅を推測すると2.5mとなる。また、SD23は形状からみてSD06と対をなす可能性があり、路面幅は南端で3.4mとなる。

土坑 SK12・13・27・41が側溝を切ってつくられている。SD10・13と同時期の所産であろうか。

前述のとおり、七尾市教育委員会による調査で大手道の延長部が2か所で確認されているので概要を記しておきたい。ひとつは平成3年度に行われたシッケ地区である。SS01と命名された道路の路面幅は310cmである。東側溝SD01は2段積で、幅110cm、深さ50cmである。西側溝SD02は1段のみで、幅90cm、深さ50cmである。主軸はN45°Wである(善端1992)。もうひとつは、確認調査でシッケ地区の南に設定した「FY-ヨT1」調査区である。ここでは西側溝のみ確認され、石積が良好に遺存している。報告では「自然石の平坦面を揃えて底石として敷き、その東西両側に約30cmの高さで自然石を2段程度積み上げて側壁としている」と記されている(善端2009)

(2) 古城中3区

幅4.5m、長さ22mのトレンチで、石垣を確認した。

石垣 上部および南側は削平を受けている。大手道に面する屋敷地の石垣で、北を画している。全体規模は明らかでない。延長は9m、高さは80cm、野面積で3段確認した。下段には、長さ50～60cmの石を据え、中段に長さ40cm前後の石を積んでいる。上段には30cm大の石が置かれている。石垣面の軸は、N55°Eで、これは大手道の石組溝SD15の軸に合致している。

石垣の裾部に溝SD31が掘られており、排水機能をもたせたものとみられる。最大幅は48cm、深さ7cmである。SD31から北にSD32が伸びている。幅30cmである。石垣の東(屋敷内側)および西に径100cm前後の土坑が存在する。

(3) 古城中6区

幅4m、長さ17mのトレンチで、石垣の栗石を確認した。

石垣 SD34は石垣の基礎とみられる栗石列である。主軸は、N54°Eにあり、大手道に直交していることから、大手道に面した屋敷地の石垣の栗石とみてよからう。50～70cm幅の溝に、10～20cm大の礫を据えている。石垣の用材は、後世の開墾等により撤去されたのであろう。

土坑 SK62・63・79が目立つ。SK63は径120cmである。

(4) 古城南区

長大な調査区のため①～⑯の小区を設けた。西から東へエリアごとに報告する。

⑬～⑭区

階段状遺構 ⑬区から⑭区にかけて、地山を削り出した階段状遺構を確認した。西側は失われているが、幅210cm、踏面約40cmで、5～6段の石段を認めることができる。これは総構の外から丘陵部にある屋敷の裏手につながる小道とみることができる。これを上るとSX03とSX04の間に幅160cmの通路状の空間があり、ここに続く可能性がある。階段状遺構近くから、「永禄（1558～1570）」の陰刻をもつ石造狛犬の台座が出土している。

井戸 SE01、SE02の2基がある。SE01は径208cm、深さ155cmで礫が多く投棄されている。SE02は径184cm、深さ150cm以上である。いずれも大手道に面した屋敷に付随するものであろう。

土坑 西からSK147・128・130・131・121といった径150cm前後のものが散在する。この他、径100cm以内の土坑やピットも多い。

溝 西からSD08・35・34・32・40などがみえる。うち最も幅が広いのはSD32で、主軸をN32°Wにとり、最大幅50cm、深さ11cmを測る。

⑬～⑤区

⑬区の大手道にかかる箇所は(1)で述べた。⑬区に竪穴状遺構SK51があり、近接して土坑群が存在する。⑫・⑪区は遺構密度が高い。⑩・⑨区は密度が低い。⑧・⑦・⑥区では土坑群と細い溝を検出した。⑤区では溝、石列がある。これらの遺構のうち、SK51や溝SD15～18は大手道と軸を揃えたものである。

竪穴状遺構 SK51は平面方形で、坑底には壁溝をもつ。東西390cm、南北460cm、深さ75cmを測る。壁溝は幅32cm、深さ7cmである。西壁に、排水を目的とした暗渠構造が確認できる。南西隅の礫群は土坑の機能に関わるものでなく、遺棄されたものであろう。南北はN35°Wに軸をとっており、大手道の軸に合っている。本遺構は屋敷内につくられた貯蔵施設（地下室）と推定されるもので、出土品には、中国製陶磁器、越前焼、美濃焼、土師器、漆器、硯、茶臼、碁石などがある。

井戸 SK45がある。平面円形で径105cm、深さ148cmで井戸側は確認できない。

土坑 SK51の南に接してSK39～44が築かれている。SK39は平面方形で、長辺108cm、深さ70cm、SK40は不整形円で深さ36cm、SK41は平面方形で、深さ70cmを測る。SK43は長さ140cm、深さ52cmである。いずれも一定の深さをもつ土坑で、竪穴状遺構と関わるものとみたい。

⑨区以東の主な土坑に、配置順にSK48・52・72・71・70・69・68・53・56・60・63・62・64・65・83がある。SK52は平面円形で、径160cm、深さ33cm、SK63は長さ128cm、深さ28cm、SK62は径130cm、深さ28cmである。SK64は径170cm、深さ32cm、SK56は径130cm、深さ40cmである。

溝 西からSD19・11～18を検出した。SD11以外は幅のせまいものである。SD19はSK51に切られている。幅52cm、深さ10cmで、主軸をN59°Eにとる。これは大手道の主軸に近い。SD11は最大幅104cm、深さ40cmで主軸はN10°Eにとる。SD16～18は主軸を同じくしており、N34°Wである。

石列 ⑤区SD18の東と④区に同じ方向に走る石列を確認した。いずれもN34°Wに軸がある。⑤区石列は長さ10～20cm大の石を一段並べている。面は東にある。④区石列は30～40cm大で、東に並行して溝が掘られている。これも東に面をもつ。いずれも区画用の石列であろう。

ピット 土坑の周辺に多く検出したが、掘立柱建物を構成するものはない。⑩区SD19に切られたP112は長さ60cm、深さ10cmで、土師皿が正位で7点出土した。

④～⑥区2面

⑥・⑤・④区で2面を検出した。⑥区では、土坑・溝、⑤・④区では石敷と2条の溝を検出した。

6区の土坑は、西からSK87・89・49・50があり、SK49・50・89は切り合っている。SK50は長径170cm、深さ26cmである。⑤区では東西長2mの範囲で石敷を確認した。20～30cm大の石を置いたものである。

この東に、SD26が最大幅52cm、深さ24cmで蛇行しており、これに沿ってSD21を検出した。最大幅52cm、深さ15cmで、④区に入ると肩部に石を置いていることから、石組溝であったとみたい。石は20～30cm大である。この2条は同じ機能をもつ溝である。

①～③区

積石段の東側である。全体的に削平を受けており、浅い遺構は失なわれている。掘立柱建物3基、井戸、溝、土坑を検出した。

掘立柱建物 SB03はSK23・SK26が柱穴となり、このラインが桁行とみられる。桁行軸はN59° Eにあり、SB02・03も同じである。SK23-26の柱間は360cmである。SB02は、P36-P12-P14が桁行で、P36-P35が梁行となる。桁行3間以上、梁行2間以上である。P36-35間は280cm、P36-P12間260cm、P12-P14間250cmである。SB03は、P10-P13-P15が桁行を形成しており、柱間は190cmである。

井戸 SK17は隅円方形プランで、一辺160cm、深さは65cm以上である。

溝 積石段に沿ったSD09・04・01などがある。SD09は、積石段東裾に軸を同じくして存在する。SD06は蛇行しており、走行軸は大手道や積石段に近い。最大幅130cm、深さ10cmで、主軸はN29° Wである。南側に湧水がみられる。

土坑 散在している。SK1916・10などが主なものである。SD01の東にも集まっている。

(5)古城中5区

幅4.5m、長さ15mである。

4条の溝と数基の土坑を確認した。溝は幅が不定であるが、主軸はN33° WからN35° Wにとっており、おおむね方向を同じくする。

(6)古城中1区

幅2.5m、長さ20mである。

古城北区③～古城中1区～古城南区③にかけて積石段が直線的に築かれている。主軸は大手道と同じである。幅230cm～250cm、高さ90cmで、延長38m検出した。積石の遺存は中央部で良好である。用材は、大きいものは20～30cm、小さいものは5～10cmである。石垣のように積んではおらず、土塁の上に小礫を置き、その上に大きな礫を置いたものである。土層は、基部に黒褐色シルト層を置き、その上に黒褐色細砂を盛っている(第59図古城北4区土層図参照)。

この積石段は、一帯の遺構群より明らかに新しいもので、構築時期は明らかではないが、近世以降の可能性はある。

本調査区西北部で積石段の下面を確認した。トレンチの中ほどに土坑、ピットが集まるが、性格は明確にしがたい。南にはSD02がある。

(7)古城中4区

5×10mの調査区で、攪乱を受けている。SD33は近代以降の所産であろう。

(8)古城北区

古城南区と同様長大なので、西から⑬から①の小区に分けた。西から東へ説明する。

⑬～①区

大手道の西エリアである。遺構密度は高くない。井戸が2基、溝3条、土坑、ピットである。

井戸 SE06は不整円形の掘方で、長径236cm、深さ150cm以上である。井戸側は確認できない。SE07は石組井戸で、径190cm、深さ105cm以上である。

土坑・ピット 土坑はいずれも不整形である。また、ピットは建物を構成するものではない。

溝 SD49は、主軸をN24° Eにとる。SD48は直線的でない。SD46は主軸をN30° Wにとっており、

東にある大手道と軸をほぼ同じくしている。

⑪～④区

西半部ではやや削平されている。遺構が切り合うことから複数の時期があるとみられる。大手道寄りの⑧～⑩区では、溝をもつ区画を確認した。ここは一段掘り下げされている。東半部では、布掘建物を検出した。このほか井戸が散在する。

井戸 SE04は不整形で、長径128cm、深さ170cmを測る。井戸側は確認できない。

土坑 SK50は不整形で深さ110cmである。SD38は幅40cm、SD39は幅24cm、深さ24cmである。

区画溝 SD31はN36° Wに主軸をとる溝で、最大幅96cm、深さ25cmを測る。前述したが、この溝を西限として、東は⑨区東端の段部まで一段掘り下げられている。主軸が大手道と一致することから、屋敷を区画する溝とみてよかろう。溝の東岸には石列がみられる。

布掘建物 掘立柱建物に含まれるが、布掘建物と見出しをつける。⑤区で検出した。SB01は梁行は不明で、桁行は3間以上である。桁行の主軸はN50° Eである。この東にSB02がある。桁行を構成するSD22はSB01と軸を同じくするが、近接する位置にあることから、時期を異にするものであろう。

井戸 西からSE05・03・02を検出した。SE05は径144cm、深さ136cm以上である。SE03は径152cm、断面は逆台形で深さは114cmである。SE02は径128cm、深さ192cm以上である。いずれも井戸側は確認できなかった。

土坑 大きなものではSK38・37・36がある。SK38は不整形で、長辺310cm、深さ40cm、SK37は方形で、深さ30cm、SK36は円形で、径190cm、深さ60cmを測る。

2面 ⑨区東端から西は⑩区SD31近くまで一段下がっており、⑧区に比べて25cm低い。ここには、SD38・39・51・36といった大手道の主軸に直交する細い溝が存在しており、大手道を明確に意識している。

③～①区

③区にかかる積石段は古城中1区の項で詳しく述べた。②区では布掘建物1基、十数条の溝、土坑群などを検出した。

布掘建物 SB03はSD04-SD20-SK10-P33が桁行となろう。柱間は180cmで、SD04が石畳の下に入り込むことから、5間以上の桁行と考えられる。

井戸 SE01は径104cm、深さ166cmで、井戸側は不明である。

溝 大手道の軸に合うものとして、SD01・02・09・08・11・15があり、大手道に直交するものとしてSD07・06・12・19がある。畝の耕作溝の可能性もある。

土坑 SD02とSD11の間に集まっている。長方形の平面が多い。

2面 主軸を大手道に合わせた溝SD43・42を検出した。

(9) 19区

4つのトレンチを設け、南から①～④の小区とした。

総構 ①・②区で堀を検出した。北西-南東方向に走る。幅670cm、深さ110cm、逆梯形の断面で、底面は平坦である。堀の西岸には土坑がある。ここには複数時期の遺構面が存在する可能性がある。SX01は長さ440cm、幅240cm、深さ100cmで、底面を平坦につくる。堀の東側はかつて住宅が存在していたため大きく削り取られているが、ここでは旧地形を階段状に削り、その段に「版築」状の盛土を施していることを確認した。また、東側は丘陵に上がる斜面で、階段状に造られている。古城南区で述べたとおりである。④区で切岸を検出した。斜度約60°、高さ約2mである。削平されているから、当初は4～5mあったと思われる。

石列 ③区で検出した。N32° Wに主軸をもつ。石の大きさは30～50cmである。石列より東は、宅地造成によって大きく削られているため遺構は確認できない。

土器だまり 石列の西側では土師器皿が東西4mの範囲で大量に出土している。近接する屋敷が「饗宴」などで使ったものを廃棄したものとみられる。

土坑・ピット ④区で土坑、ピットを検出した。SK02は径320cm、深さ58cm、SK04は平面円形で、径100cm、深さ13cm、SK06は円筒状で、径110cm、深さ60cmを測る。底面は平坦である。

2面 ④区で2面を確認したが、ピットのみである。

(10) 1区東

幅6.7m、長さ45mの調査区である。遺構面は西に低くなる緩斜面で、16世紀代の遺構面は1面である。区画溝、土坑、ピットを検出した。区画溝は北西-南東方向に軸をとっており、屋敷割の溝である可能性が高い。これは隣接する1区の地割にほぼ合っている。ピットには柱穴とみられるものがあり、掘立柱建物の存在が想定できるが、明確に把握することはできなかった。東端にはSX01・02・03といった不整な土坑があるも性格は明らかでない。

本調査区と1区との境には段が存在する。これは土地利用の境界として16世紀の城下町形成期から存在していた可能性がある。

区画溝 SD06はL字形の溝で、N46° Wに主軸をとる。最大幅60cm、深さ5cmである。建物の区画溝であろう。SD07は主軸をN40° Wにとる溝で、幅28cmを測る。SD06の軸にほぼ合う。

土坑 SK96は平面不整形の大型土坑である。大半は調査区の外であるが、確認できる長さは382cm、深さ130cmである。床面は平たい。第2層に20～40cm大の石が多く含まれているのは廃棄時に投げ込まれたものであろう。SK58も平面不整形で、現長400cm、深さ86cmを測る。壁は直立し床面は平たい。これらの土坑のほか、SD06・SD07の周囲に多くの土坑が存在する。主な土坑として、東から、SK100・99・98・97・93・104・94・95・67・92・91・114・85・84・83・82・81・75・109・110・63・65・62・102・108・61・59・50・51がある。

(11) 15区

幅5m、長さ37mのトレンチで、遺構の平面形確認にとどめた。約80cmの盛土の下に黒褐色シルトが全面にある。この下にさらに黒褐色のシルト層が均一にあり、16世紀の文化面に堆積した包含層となっている。1区東と同様、遺構密度は高い。検出したのは土坑とピットである。

土坑 SK06・09・12は規模が大きい。平面形はSK09が方形で、これ以外は不整である。遺構の性格は明らかでないが、隣接する1区東と同様、屋敷(町屋)が存在した区域とみなすことができる。

(12) 1区

幅6m、長さ57mの調査区である。井戸、土坑、堀を検出した。1区東とは様相が大きく異なり、大型の土坑が目立つ。堀は幅6mを測り、城下を区画するため計画的につくられたものであろう。

井戸 東からSE01・06・07・02・04・03・05の7基を検出した。いずれも井戸側は残っていないが、石組と推測できる。SE01・06は隣接しており、SE06がSE01を切っている。SE07は覆土に礫を含むが、これは投棄されたものであろう。SE02は覆土1・2層に焼土が多く混入するが、廃棄のさい周辺から混入したものであろう。平面円形で、筒形、径152cm、深さ125cm以上である。SE04は掘方の平面が方形である。SE03は平面円形である。径152cm、深さ133cm以上で、金の溶解に用いたるつぼが出ている。

土坑 東半部には平面方形の土坑がある。SK03・19・02・06・20などである。この調査区は、七尾市教育委員会が平成8年に設定した調査区と一部重なっており、SK19が七尾市調査のSX36、SK26

が七尾市のSX37、SK06が七尾市のSX34、SK15が七尾市のSX31となっている。規模の大きなものが多い土坑群である。SK19は最大で、330×300cm、深さ20cmである。SK06は長さ404cm、深さ70cm、SK09は長さ488cm、幅188cmである。SK14は平面馬蹄形を呈する。これらの土坑は褐色粘質土に切り込まれている。七尾市教育委員会による調査では「土師器焼成窯の断片」が出土していること、「褐色粘土を切り込んでいること」から「土師器あるいは壁土などに用いるための粘土採掘坑」とみている(善端2002)。

この他に粘土採掘坑の可能性のあるのは、SK09などの大型土坑で、さらにSK03・30・26・02・20・04・16・14・12・13・21・29・27・117～120など、周辺の土坑も同じ性格となる可能性がある。

溝 SD01は幅32cmで、北東-南西方向に走る。SD02は、最大幅520cm、深さ170cmを測る。検出範囲が狭いので主軸は明確にしがたいが、N40° W前後にあり、1区東のSD06などとおおむね合っている。断面は、東では三つの段を作っている。西では上部に一段作り、ゆるやかに下る。底部は明確な平坦面を作らない。この溝には石垣があったようで、11層の東岸寄りには裏込めと見られる石が多くみられる。また、溝底に見える20～50cm大の礫は、石垣で用いられたものの可能性がある。西岸には盛土があり、SK27を埋めて作っている。天正9年(1581)の銘をもつ硯が出ている。

(13) 1区南

①区は、幅3m、長さ5mで、土坑が密集している。SK33・34・42・43・44・32・31などは粘土採掘坑の可能性のある。SK34・43・42は平面方形で、SK34は壁面が垂直の箱形である。

②区は、幅2.5m、長さ5.5mで、SK35・36の2基の土坑がある。

(14) 2区

幅7m、長さ79m。ここでは、東半部で1～4面、西半部で1・2面の調査を行った。

井戸 SE05は石組井戸で、上部の径80cmを測る。覆土に礫が多く入っている。北半は調査区外である。SK81は不整形円形、径88cm、深さ164cmで金箔、甲冑片が出ている。東沼田東岸にも2基あるが、これは東沼田の項で報告する。

土坑 東に長さ100～200cm前後の不整形土坑が集まっている。SK118・120・42・46・79・35である。SK96は長さ280cmの長楕円大型土坑である。SK118は長さ270cmの方形土坑である。西側には約40基の土坑が集中する。平面形は円形(SK92・115・229・50)、方形ないし長方形(SK95・52・83・16・38)、不整形(SK91・93・82・32・06・08)に大別できるが、形状を意識して掘られた土坑ではないとみたい。大型土坑は、SK91・32・08などで、長さ300cmを超えている。SK08は長さ378cm、深さ90cmで、冑片、ふいごの羽口、多くの鉄滓が出土した。覆土に炭化物、焼土が多いことから鍛冶に関わる遺構とみられる。

溝 SD06は幅60cm、深さ25cm、主軸はN34° Wである。SD01は幅120cm、深さ70cm、主軸はN33° Wで、9区のSD01と同じ遺構である。二つの溝は城下の区割に関わるものとみてよく、SD01は大区画に関わるものであろう。

2面 東半部では土坑が集在しており、その西に溝が存在する。土坑はSK203・220・222・223・224などが大型である。SK223は長さ320cmの長楕円形で、深さは48cm、SK224は90cmの深さがある。溝SD201は蛇行しており、最大幅420cm、深さ60cm、SD203は幅64cmを測る。SD202は不整な落ち込みである。

3・4面 3面では土坑、溝、ピットを検出した。SK406は平面が方形、SK407は長方形である。SK406は深さ20cmである。SD401・409・402は一連で、主軸はN46° Eにとる。4区の溝にも合う。

4面では土坑、溝、ピットを検出した。SK412は浅い。SD403は主軸をN50° Eにとる。ピットは散

在しており、掘立柱建物を構成するものではない。

4面のさらに下層を確認するため、東端とSD403の東にトレンチを設けた。SD403東のトレンチでは1基の土坑を確認した。

(15) 2区東沼田

東沼田は七尾城下町の形成過程を考えるうえで重要な位置を占めており、城下町形成の第一段階は東沼田谷部を西限としてなされたと指摘されている（善端直2006）。第1図庄津川東尾根の東から北西に向かって確認できる幅の広い谷地形で、調査区内で幅38mを測る。以下、近接する東岸、西岸の遺構もここで報告する。

井戸 東岸にはSE01・02がある。SE01は167×112cm、深さ45cmである。SE02は平面円形で、径148cm、深さ112cmである。なお、井戸は崩落のおそれがあったため底まで掘っていない。他の井戸についても安全を最優先にして調査を行っており、底面を確認しなかったものがある。

土坑 東岸には大型の土坑はなく、長軸100～200cmのものが大半である。西岸にはSK72・73といった大型土坑が見える。SK73は隅円長方形で、長辺360cm、短辺196cm、深さ36cmである。金を溶解したるつばや多くの土師器皿が出ている。SK72は不整形で浅い。

東沼田断面 北壁を見ると、西肩の標高が約46m、溝底が44.4mであるから、深さ1.6mとなる。法面は、東も西も緩い傾斜となっている。西の傾斜角は14°で、東はさらに緩い。

谷部の遺構 谷部底面にも土坑や、浅いピットがみられる。土坑は谷の中央部に約10基まとまっている。SD10・11はこれらを挟むように走る。いずれも主軸はN36°Wで、660cmの間隔をもって並走する。SD03はN47°Wに軸をとる。

(16) 4区

1～4面の確認を行なった。北半に遺構が多く、土坑、溝、ピットがみえる。

土坑 SK04・09・01は大型である。いずれも全形は窺えないが、SK04は現長260cm、深さは30cmある。SK01は平面方形、SK02・05・06は円形を呈する。SK08・10は不整形で浅い。

溝 SD05は主軸をN52°Eにとる。SD04・02・03は等間隔に走っている。幅20～60cmで、主軸はN25°Eにとる。

2面 北半に土坑、溝、ピットがあり、南端に井戸がある。SE301は石組井戸である。掘方径150cm、深さ120cm以上である。SD201は幅80cm、深さ30cmで、主軸をN54°Eにとる。SD304もほぼ同じ方向に走るが、SD303は東西方向に主軸をもつ。

2面下層で土坑2基、溝2条を確認した。土坑は平面隅円長方形で、SK302は確認長250cmを測る。SD301・302は1面のSD304と同じ方向に走る。

3面 北端で浅い土坑群を確認した。SK309・401・403はいずれも平面が不整で浅い。

4面 北半でピットが散見され、南でSK409を検出した。性格を明確にできる遺構はない。この面において3か所で断ち割りを入れ、下面の確認を行ったが、遺構および包含層の確認はなかった。

(17) 8区

確認のみのトレンチである。東に10×20m（東区）、西に5×13m（西区）の調査区を設定した。全域で複数の整地面（遺構面）を確認した。ここでは、布掘基礎をもつ長方形プランの建物SI01を検出した。この建物は、南辺の中央部に出入口を設けるもので、門および控柱の礎石を確認した。

建物 SI01は、桁行930cm（31尺）、梁行360cm（12尺）である。溝幅を除く建物内法は、梁行304cm、桁行880cmで、面積は26.7㎡となる。北辺、東辺、西辺に雨落溝が配置されている。門を備える構造で、門礎の大きさは、1が34×28cm、2が40×32cm、3が28×28cm、4が28×22cmである。礎石間の

芯々距離は、石1-2間および、石3-4間が120cm（4尺）、石1-3間、石2-4間は50cmである。礎石上面(天端)の高さは、石3・石4が49.0mで、露出していたものである。石1、石2は布掘底に据えられている。布掘は、南辺が幅50cm、西辺が幅40cm、東辺は幅60cm、深さ72cm、北辺は最大幅60cmで造り替えられている。本建物は布掘内側に柱穴、礎石は検出されていないことから、側柱のみで構成された建物とみてよかろう。側面は板壁と考えられ、内部が広い空間をもつとみられる。

土坑 SI01周辺に10基以上存在する。いずれも建物より新しい段階である。SK05・07・13は長さ200～300cm前後の大型土坑である。SK19も大きい。SK05はSI01の北東隅に重なっている。平面楕円形で280×230cm、深さ40cm、壁は緩く立ち上がる。SK07は最大幅210cm、緩やかな壁面である。

埋甕 下層確認トレンチで埋甕を検出した。したがって、これはSI01より古いものである。SK201・202およびこの北に設けたトレンチで3基確認しており、合計5基となる。これらの主軸はN40°Wにある。SK201・202は越前焼大甕を埋置した遺構である。SK201は甕下半が、据えた当時の状況で出たが、202は碎けて当初の形を失っていた。据え方は、甕の胴径よりひと回り大きい掘方をつくり、大甕を近接して埋置している。

中世における埋甕遺構は、福井県福井市一乗谷朝倉氏遺跡（16世紀）、滋賀県東近江市百濟寺境内遺跡、京都府京都市内10か所以上、同宇治市宇治市街遺跡（15世紀前半）、奈良県奈良市北室町遺跡（15世紀前半）、大阪府羽曳野市上堂遺跡、兵庫県三木市三木城跡（15世紀）、和歌山県岩出市根来寺坊院跡（16世紀後半）、広島県福山市草戸千軒町遺跡（14世紀）、同尾道市尾道遺跡（15世紀）、大分県大分市大友氏館跡などで確認できる。

その性格については、藍甕（朝倉氏遺跡）、食料貯蔵（宇治市街遺跡、三木城跡、尾道遺跡）、火薬製造甕（根来坊院跡）、油甕（根来坊院跡）とさまざまである。いくつかの性格にわかれると思われるが、甕の内側付着物の検討などが必要となろう（萩野1992、菅原1992）。

下層（古代） 調査区北西端の下層確認トレンチでSD201を検出した。これは、須恵器を含む古代の溝で、幅336cm、深さ76cmを測る。

(18) 9区

確認トレンチである。10.5×21m。調査区西端にSD01が直線的に走行する。これは2区でSD06と呼称する溝と同じ遺構で、主軸をN34°Wにとる。断面は北壁では幅180cm、深さ110cmで、逆台形を呈する。この溝は調査区南側で東に折れていることから、屋敷地の区画をなすものと考えてよい。ただし、8区SI01の軸とは異なっている。

(19) 7区

東半部の南は一段高い面となっている。ここには土坑、ピットを検出した。

土坑 長さ60～140cmの土坑が散在している。西半部は遺構密度が高い。調査区中央では大型の土坑SK28がある。不整形で(260)×230cm、深さ28cmを測る。SK26・34も大型で、長さ200～300cmである。SK26は長さ310cmを測る。平面形は、SK27・42・22が方形である。多くの土坑が集中するエリアであるが、性格は明らかにしがたい。

溝 SD04・08・02・03は幅30～50cmで、いずれも屋敷の区画溝とみられる。SD02は鉤の手状になる。

2面～4面 東半部で2～4面を確認した。2面には径100cm前後の土坑がみえる。また、集石があるが、整然と置かれたものではない。3面にはピットが散在する。4面ではSD401を検出した。幅250cm、深さ120cmである。

(20) 5区

土坑 円形の土坑SK07とその周囲に十数基の土坑群を検出した。SK07は大型である。平面円形で

径360cm、坑底まで掘っていないが、深さ160cmを測る。覆土のうち深さ40～60cm付近に多くの石が含まれているのは投棄されたものであろう。断面は一部袋状を呈しており、坑底は狭くなる。

(21) 7区東沼田

幅4×40mである。西肩部に井戸、土坑、ピットを確認できるが、分布は希薄である。

井戸 SK43は平面不整形である。長径140cmで、深さは120cm以上を測る。井戸側は確認できなかったが石組とみてよかろう。覆土から漆器、木製鋤や箱板が出ており、箱板には複数の文書が付着しており、なかに日蓮宗の経典『三大秘法抄』もある。

土坑 SK44・48・49などがある。SK48は長さ165cm、深さ112cm以上を測る。SK49は長さ240cm、深さ25cmを測る。

(22) 10区

農道に規制されたため変則的な調査区となった。北辺10m、南辺13m、長さ25mである。掘立柱建物1棟、柱列、土坑などを検出した。

掘立柱建物 SB01は2間×2間、桁行は東沼田の主軸に合わせるように、N39°Wに軸をとる。梁行は、P1-P2間184cm、P2-P3間180cmで、ともに6尺である。桁行はP3-P4間で240cm、P4-P5間は188cmである。SB01と軸を合わせてSI02がある。柱列であるが、掘立柱建物東側の側柱列になる可能性が高い。P1-P2間184cm、P2-P3間172cm、P3-P4間200cmを測る。6尺が基本とみられる。このふたつの遺構は10区の中で高まりとなっている。

(23) 6区

布掘建物、井戸、土坑などがある。SB01は3区SB07と軸を揃えており、一体の遺構である。その南東にあるSD06・18も軸を合わせており、掘立柱建物の雨落溝の可能性はある。

布掘建物 SB01は梁行360cm、桁行620cmである。SD10、SD03、SD15などと個別の名称をつけたが、布掘建物を構成する一体の遺構である。主軸はN47°Wにとる。SD10は最大幅70cm、深さ90cm、SD15は幅160cm、深さ88cmである。SD06の主軸はN38°Wにとる。SD06は幅40cm、SD18は幅50cmである。また、SD15の東にあるSD14、SK21はSB01の雨落溝とみられる。

井戸 SK06・11は建物SB01の内にあり、時期は異なる。ともに平面円形である。SK06は径150cm、深さ106cm以上である。SK11は径90cm、深さ40cm以上で、土師皿を利用したるつぼが多く出ている。SK03・05は形状の整ったもので、SK01・02・07などは平面不整形である。SK03は平面楕円で、径98cm、深さ32cm、鋳型が出ている。SK05は平面方形で、一辺104cm、深さ70cm、断面は逆台形を呈する。

(24) 3区

東から西へ、①～④区に区切って調査を進めた。調査区別に報告する。

①区の掘立柱建物は、6区のSB01と軸を同じくする一体の遺構である。その西には、井戸、土坑が散在する。西側では、井戸と土坑がセットで存在する。SE10とSK70・71などである。さらに②区ではSE19・20の周囲に土坑が存在する。④区では、庄津川寄りの一角で複数面を確認したが、この一角を除く調査区の大部分は大きく削平されている。したがって浅い遺構は失われている。

3区①東

掘立柱建物 SB07は梁行2間、桁行2間以上で、桁行の主軸はN50°Wである。梁行は360cmで、6区SB01の梁行に等しい。この建物の西に主軸を合わせたSD01が走行する。幅40cm、N47°Wに軸をとっており、南西を画する溝の可能性はある。SB06は梁行2間、桁行3間以上、桁行軸をN14°Wにとる。SB01・05は軸を同じくしており、N37°Wにとる。SB01は梁行2間以上、桁行3間以上、SB05は梁行1間、桁行2間である。SB05の東にも掘立柱建物となる柱穴が存在する。SB02は桁行3間以上、

SB01と直交しており主軸はN53° Eである。SB03は梁行1間、桁行3間以上で、主軸はN37° Wである。SB04は1間四方の小型建物である。

井戸 東からSE01・02・03・04・06を検出した。いずれも素掘りで、平面は不整円形である。SE01は径206cm、深さ120cm以上、SE03は径140cm、深さ110cmである。これらは、掘立柱建物SB01やSB02と関わるものであろう。SE06の近くには、SK01・02・06・09がある。

土坑 東端掘立柱建物の間にSK04・SB07と重なってSK10・11・17～20がある。いずれも浅い土坑で、建物とは時期を異にする。西端部にSK01・02・06・09の4基がある。SK02・09は平面方形で、深さはSK02が33cm、SK09が76cmである。

3区①中央部

井戸、土坑、溝と多くのピットを検出した。東ではSE07のみ目立つが、西では井戸、土坑が集在する。

井戸 SE07は東側のSE04など一連の井戸群であろう。西側にはSE13・14・10・09・11・08・20・19などが集まる。SE20が方形プランであるが、他は円形の掘方である。SE07は石組井戸で、掘方径287cmで、20～30cm大の石を組んで井戸側としている。井戸側の径80cm、深さは220cmまで下げた。SE09は不整円形で、径220cm、深さ115cm以上である。覆土上部に黒褐色土が厚くあることから、廃棄時は一気に埋めたものであろう。SE10は掘方の長径300cmで、深さは104cm以上である。石が見えないので素掘りとみたい。SE11は径220cmの掘方である。覆土に石が多くあるのは埋め戻しのさい投げ込まれたものであろう。SE13は小型である。径114cm、深さ120cmで、SK17を切っている。SE14は径128cm、深さ120cm以上である。SE19は径212cm、深さ80cm以上を測る。SE20は石組で、径268cm、深さは120cm以上である。

土坑 SE10周辺にSK70・71といった深さのある大型土坑がある。SK70は不整円形、長径276cm、深さ120cmで、出土品にるつぼ、土師皿がある。SK71も不整円形で、長径360cm、深さ124cmである。坑底は平坦である。出土品にるつぼ、土師皿がある。SE13が本土坑を切っている。

3区②・③・④区

②区から③区は遺構が密に存在しており、①区から続く井戸、土坑の集中区域である。④区でも井戸、土坑が確認できるが、密度は低くなっている。

井戸 SE14(④区)はSK149を切る。径184cm、深さ120cmである。SE15は長さ136cm、深さ120cm以上である。SE19は不整形の掘方で、一辺210cm、深さ80cm以上である。るつぼが出ている。SE20は不整形の掘方で、一辺268cm、深さ120cm以上である。石組で、東側の石組のみ遺存する。西端の一群は、SE14・17・15・18・16で、14・17・15・18は一列に並ぶ。平面円形の掘方である。

土坑 SK73は浅い土坑で、覆土は投棄された石で充填されている。

溝 SD02・05・06・08を検出した。SD02は主軸をN45° Wにとり、幅56cmである。城下の区割となるものであろう。SD05は蛇行している。SD06・08も区割に合うものである。

3区の特徴は、井戸とその周りの土坑にセット関係があるという点にある。東半部ではるつぼが出土し、西半部に鉄滓が出ており、それぞれのエリアの性格を示している。

2・3面

③区2面でSK204・205・153などの土坑があるが、いずれも不整なものである。SK204・205周辺にピットもあるが掘立柱建物を構成するものではない。④区では3面まで確認したが、SD01が走るのみである。主軸をN45° Wにとり、最大幅105cmを測る。

(25) 12区

3区と11区東の間に設けたトレンチで、幅10m×40mである。遺構密度が高いが、西半部が大きく

削平されているため、確認できたのは深い遺構のみとなった。

土坑 大型のものを含めて全域に確認できる。最大の土坑は北東隅のSK17で、長辺は380cmを測る。このほかSK18・53・62・88・106・139なども大型である。

溝 軸を同じくする溝が6条ある。東から、SD05・08・04・03・02・01で、北半が消えているのは削平されたためである。いずれも主軸をN42° Wにとるが、幅は異なっている。これらは区画にともなう溝であろう。SD06・07はこれらに直交するもので、N48° Eに主軸をもつ。

(26) 13区

幅10m×35mである。北東隅を除き削平されている。西南に土坑群が存在していることから、削平前は全域に遺構が存在したものとみられる。

土坑 削平されていない位置でSK54・60・61といった大型土坑を確認した。12区から続く土坑群である。SK60は長さ4mを超えるものである。

溝 やや主軸が異なる2条の溝がある。SD01は主軸をN30° Wに、SD02はN36° Wにもつ。これらも区画溝とみられるが、12区の溝とは時期を異にするものであろう。

(27) 11区東

幅3.5m、長さ94mである。中央部で大型土坑を確認したため12×7mの広さで拡張した。東側と西端が削平を受けており、遺構は確認できない。

土坑 調査区中央部に大型の土坑SK24があり、拡張区で土坑、溝、ピットを検出した。東端の未削平部分では3基の土坑SK01～03を検出した。SK01は平面方形で、一辺160cm、深さ20cmを測る。SK24は、方形プランを基本とし、北西に張り出す。東側は調査区外で全容は知りえない。平面は440×600cm、深さは80cmである。坑底は平坦で、高さ10cm、幅40cmの「あぜ」で仕切られている。出土遺物には多くの土師皿がある。SK24北西の拡張区は、平面形の確認のみである。大型土坑とL字形の溝を検出した。SK02・04・11が大型である。SK02は深さ40cm、SK04は深さ50cm、SK04・11は長さ300cmをこえる。SK24以西の遺構面は、総構の土塁を崩した盛土に覆われており、遺構は良好に遺存している。SK24以西ではSK47が最も大きい。平面円形で、径240cm、深さ50cmを測る。

溝 SD11～13があるが、直線的ではなく、区画溝となるものではない。

(28) 11区西

東側は遺構密度が低く、中央に掘立柱建物、土坑がある。西側は削平を受けており遺存状態はよくない。井戸がある。

掘立柱建物 SB01はSK90、P416、SK92、SK98で桁行柱列を構成しており、軸はN61° Eにとる。柱間は、SK90-P416間が芯々160cm、P416-SK92間が160cm、SK92-SK88間が180cmを測る。

井戸 SE01は不整円形で、井戸側はない。最大径140cm、深さ148cmで下半から多くの遺物が出土した。

土坑 中央部に長軸150cm以上の大型土坑が集まっている。SK67・68・69は近接しており、同じ性格と見られる。SK68は平面長方形で、幅170cm、長さ224cm、深さ45cmである。SK67は円形で、径196cm、深さ14cmを測る。SK69は長さ180cm、深さ28cmである。また、SK76・84・75・79・78・83・96・97・99・89は近接しており、同じ性格を有する土坑と考えられる。SK79は隅円方形の平面で、152×144cm、深さ56cmを測る。SK78は大型土坑で、長さ312cm、深さ45cmである。これに隣接するSK83は径120cmである。SK96は不整形で、長軸228cm、短軸152cm、深さ40cmである。SK97は東西212cm、南北216cm、深さ40cmである。SK99はSK97を切っている。径120cmである。SK97・96・99はいずれも深さを揃えていることから、同じ性格の可能性がある。

溝 SD17・18・19がある。いずれも細い溝で、SD18は幅48cmである。SD17は主軸がN12° Wで、14区のSD02の延長上にある。

(29) 14区

11区西の北に設定した台形の調査区で、幅15m、東辺が39m、西辺9mである。16世紀の遺構は1面のみであるが、遺構が切りあっていることから複数の時期が想定できる。確認遺構は掘立柱建物1棟と土坑、ピットである。建物の主軸は東西方向で、東側で見てきた城下の区画とは異なっている。西側にピットが多く、掘立柱建物を構成する可能性が高い。大型土坑はこれを囲むように分布する。

掘立柱建物 SB01は、梁行1間、桁行3間で、桁行の軸はN70° Eである。

土坑 東側に多く見える。主なものは東から、SK02・06・07・10・11・12・19・22・24・28・31・32・33・37・45・51・55・83・84・60・67・70・71・90・95・96・99などである。このうち大きいものでは、SK02が長さ300cm、SK06が250cm以上、SK10が350cm以上、SK11が240cm以上、SK22が300cm、SK95が480cmを測る。

溝 SD01～03の3条みえており、いずれも幅50cm前後である。軸はN12° Wにあり、区画溝とは軸を異にしている。

(30) 18区南

井戸、溝、土坑、ピットがある。下面を掘り下げたが、不整な土坑、ピットのみで文化面は確認できなかった。

井戸 2基検出した。SE01は平面円形で、径140cm、深さ200cmである。井戸側は確認できない。SE02は石組で、掘方の長径220cm、深さ200cm以上である。廃棄時に多くの石が投棄されている。溝はSD01が幅45cm、深さ36cmである。

土坑・ピット SK24・28・29は大型である。SK24は円形で、径250cm、深さ50cmを測る。坑底は平坦ではない。SK29は長径220cm、深さは35cmと浅いものである。ピットでは建物を構成する柱穴になるものはない。

本調査区から17区北にかけて土石流の痕跡がみえており、蹴落川の氾濫原であったことを確認した。

(31) 18区北

西半部は削平を受けており遺構は確認できない。東半部では土坑、溝、ピットなどを検出した。主な遺構にSK09・SD01がある。SK09は径230cmの大型土坑で、多くの石が投棄されている。

2・3面 2面では土坑SK11を確認した。3面では、SD02・03を検出した。SD02は最大幅310cm、SD03は幅120cmである。

(32) 17区

17区南で石組井戸SK01を検出した。径165cmで、多くの石が投げ込まれている。17区北のSE01も石組井戸で、径200cm、深さ95cm以上である。

(33) 16区

山裾で、南北方向に設けた調査区である。遺構密度は低い。16区南では溝、土坑などを検出した。16区北では土坑を検出したが、時期は特定しがたい。

第3節 小 結

1 七尾城下町の構造

七尾城下町の姿が初めて明らかになったのは、七尾市教育委員会による平成3年(1991)のシッケ地区の発掘調査である。この調査は、デイサービスセンターの建設にともなうもので、大手道、町屋の遺構のほか、職人の居住を思わせる多種、多様な遺物が出土した。これに加えて、平成17年度以降に実施した本書の報告でも、大手道や武家屋敷の構造解明、総構出入口の確認など大きな成果をもたらした。

これまでの調査・研究では、七尾城の築城は16世紀初頭と推定されており、城下町の建設も同時に行われたと見られている。全国的には、16世紀に入ると戦国大名の城郭と城下町の建設が行われており、能登においても石動山系の「七尾山」とその麓に大規模な城と城下町が出現したと推測されてきた。

畠山氏の在国支配が本格化したのは15世紀後半で、文明10年(1478)に第3代義統が下向し、府中に館を構え、その後七尾城内に館を移している。城内の館は発掘調査による検証を経ていないが、大手道の延長にある「高屋敷」と呼ばれる場所と推定されており、そこには土塁に囲まれた80m四方の区画が確認できる。

城下町は、古屋敷町・古城町地内を中心とした七尾城裾部の緩斜面に所在する。その範囲は、東は蹴落川まで、西は庄津川を超えて派生丘陵の裾部まで広がっていると見られる。南北の範囲は明確ではないが、総構の外に広く展開していることは確実である。

城下町の建設は大きく2時期に分けられる。第1期は、16世紀初頭から後半で、正方形区画を町割りの基本としている。第2期は、16世紀後半から末で、総構が構築され、「内」と「外」の区別化が図られている。

(1) 総構

七尾城の外郭の防衛線をなすのが総構である。全国的には16世紀半ば以降に城下町に総構が築かれる。その目的は城下町の防御機能を高めることであったが、加えて、利用空間を区画する役割も担っていたようである。つまり、総構の内側は城の中核部で、外部は商工業者の居住域や周辺地域と明示する役割である。

総構は、東は蹴落川、西は庄津川で画されており、両者の間を土塁・堀・切岸で防御している。すでに、七尾市教育委員会による試掘で土塁・堀が明らかになっており、今次の発掘調査では、総構について新しい発見を得た。堀と切岸が一体となって丘陵裾部を取り巻くと想定されていたが、19区の発掘調査で、堀が途切れていることが判明した。ここで約20mの空間地をおいて切岸が造られている。堀の幅は670cmである。切岸は、斜面を急角度に切り落とした遺構で、2mの高さを確認したが、もとは数メートルあったとみられる。堀と切岸の間は鉤の手状の空間となっており、ここに出入口が設けられていた痕跡も確認した。

総構の外は、大手道の西から庄津川まで、そして蹴落川以東の総構外側の二地域に大別できる。前者は、西側に総構内側と軸を同じくする堀や溝があり、城下の基本的な区割が踏襲されているようである。また、中央部にある「東沼田」と呼ばれる谷は、大手道より西の城下を東と西に大きく分けているようである。

なお、七尾城総構の内と外が、城内、城下となるのか否かについては、さらに検討が必要となろう。

(2) 大手道

城下町建設にあたって必要なのは基軸となる道路で、城の正面から城内に向かう「大手道」がまず建設されたと考えられる。大手道が初めて発見されたのはシッケ地区の調査で、両側に石組の側溝をもち、約300cmの路面幅をもつ構造である。側溝の幅は約100cmであるから側溝を含めた道路全幅は500cmとなる。大手道はここから派生尾根の中央部を貫いて「高屋敷」までほぼ直線的に延びると推測できる。この道は総構と交わる「門の高」地区でも発掘されており、大手道のあとに総構が築かれたことがわかった。総構築造のさい、大手道は拡幅され、素掘りであった側溝は石組にかわっている。

今次の調査では、総構の内側で大手道を検出した。なお、大手道という呼称は七尾城関係史料に見えないが、城の正面と城内を直線的に結ぶ七尾城内最大規模の道路であり、本書ではこの呼称を用いた。構造は、シッケ地区と同様、両側に石組の側溝を備えており、側溝の芯々距離は390cmである。路面幅は360cm、砂利敷で路面は固く締められている。

(3) 屋敷の配置と構造

大手道の両側に屋敷が造成されている。緩斜面に石垣を築いて敷地を造成したもので、石垣の軸は道に直交している。屋敷の全容は明らかにできなかったが、間口13.4mの短冊形屋敷で、畠山氏家臣の屋敷とみることができる。屋敷の中には室を思わせる竪穴状遺構や井戸があり、出土品には中国製陶磁器、美濃焼、越前焼、土師器、漆器のほか、硯、茶臼、基石などもあり、多様な資財の一端を知ることができる。なお、シッケ地区では、3区画の町屋敷が並んで発掘された。屋敷は石組溝で区画されており、間口8m・奥行20m、間口5.3m・奥行20mの2タイプがある。いずれも井戸を1基備えている。

総構の内と外で規模が異なっているのは、家臣と職人・商人の屋敷配置が明確に区分されていたことを示している。

このように、七尾城下町の屋敷は、①奥行が深い（平面長方形）、②並んで形成されている、③道の両側に形成されている、という特徴をもつことがわかる。城下の構造が明らかになった越前一乗谷を見ると、いずれも道路に面しており、溝で区画された短冊形の区割りを基本としている。平面は奥行が深く、間口が狭く、短冊形を呈する点など七尾城下町と同じである。屋敷内には建物が一棟建っており、便所、井戸が各戸に備わっている。職人の家には作業場もある。間口寸法は、6mから6.5mが最も多く、次いで5m、9.5mである。画一性があるこの町屋は、朝倉氏に直結する商工業者の住まいと見られており、岐阜城下町や清洲城下町でも見られる。戦国大名による商工業者掌握の実態が屋敷の統一にあらわれている。

(4) 職人の居住域

東沼田から大手道側には、鉄滓・フイゴの羽口、鋳型、金を溶解したるつぼ・金箔、粘土採掘穴、埋甕などが確認されており、このエリアが職人の居住域であることを確認した。総構の外ではあるが、城内に近接して配置されていることから、畠山氏直属の職人集団と見られる。

戦国時代の守護大名が職人を掌握して、城下に集住させていたことはよく知られており、一乗谷でもさまざまな職種の町屋が発掘されている。

発掘調査で確認したのは、「紺屋（藍染）」「金生産」「鋳造」「土器作り」などに関わる職人が存在した可能性である。その場所は総構の外側で、武家の居住域とは明確に場所を異にしている。

紺屋とみられるのは、複数の大甕を整然と埋めた埋甕遺構である。埋甕の機能については紺屋、醸造、水・油などの貯蔵施設などが想定されているが、15世紀末に書かれた『七十一番職人歌合』の「こうかき（紺搔）」の場面に地中に据えた大甕が描かれていることから、紺屋の可能性が高いと考えたい。

金生産が行われたのは総構の北で、金を溶かしたるつぼが3点出ており、小型の炉を使った金の生

産が行われていたことがわかった。金に関する出土品として金箔、金箔を貼った刀装具、具足などがあり、金の加工が行われたことも推測できる。

戦国時代の金生産は、七尾城跡で確認されたのが国内初で、これ以降戦国時代の遺跡でつばや付着物のある土器（土器を転用したつば）の分析が試みられた。その結果、一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）、勝沼氏館跡（山梨県甲州市）、武田氏館跡（山梨県甲府市）、多気北畠氏遺跡（三重県津市）、勝瑞館跡（徳島県板野郡藍住町）、大内氏関連町並遺跡（山口県山口市）など全国15か所で金の生産が確認された。そこには朝倉、武田、大内、大友などの居館や城下があり、大名が金生産や金山開発に関わっていたことを示すこととなった。七尾城では、金生産の素材を示すデータは得られなかったが、前述の通り、城主畠山氏が城下の職人を掌握し、金の生産から加工まで一貫して行っていたことが明確になった。

土器作りに関わる遺構は、土取り土坑とみたもので、七尾市教育委員会はこの土坑の近くで半地下式の土器焼成窯を発掘している。

なお、城下の裾部にあたるシッケ地区では「鏡作り」「漆器作り」の工房が確認されており、ここにも職人が居住したことが明らかである。「鏡作り」工房では、和鏡の鑄型が5点出土している。これは円形の鏡を鑄造する時の粗型で、表面に精選された粘土を塗って鑄型にしたものである。直径11～13cmで、16世紀第2四半期と見られている。鏡を鑄造した遺跡は京都を中心とした畿内で知られており、畿内の鑄造技術が七尾に伝わったものであろう。また、炉壁や坩堝も出ていることから、小型の炉を使った鑄造工房が存在したのであろう。「漆器作り」工房では、漆器が集中して出ており、漆取皿や漆液容器が出ている。漆器は普及品から良質品まで各種あることから、塗師が存在したものであろう。

2 城下町の形成とその時期

まず、総構の形成時期であるが、堀の埋土からは戦国時代の遺物しか出ておらず、近世以降に改修された形跡は確認できない。次に、城下町形成の基本となる大手道は、拡幅が行われているが、これも戦国時代の段階的改修とみられる。

大手道に面した屋敷は、道路の敷設にともない、計画的に配置されたようで、これまでの発掘成果をみる限り総構の内には家臣の屋敷が、外には職人や商人の町屋が配置されている。

総構の外の職人居住域は、16世紀前半の遺物が主体となることから、この段階に形成されたとみられる。その範囲は、総構土塁のすぐ北から、シッケ地区まで広範囲に及んでおり、各種の工房が計画的に配置されたとみてよい。城郭地区では前田氏による改修が指摘されているが、城下町では、畠山氏が整備した形がおおむね遺存しているようである。

以下、参考であるが、天文9年（1540）に七尾城を訪れた京都東福寺の住持彭叔守仙が、天文13年（1544）に著した『独楽亭記』から城下に関する記録をみておこう。彭叔守仙が七尾に滞在したのは天文9年の3月から7月で、七尾城下町の景観を「(上略)懐太守之恵、而移家山下者、千門万户、与城府相連、殆一里程余、呉綾蜀錦、粟米塩鉄、有行商有坐買者、山市青嵐也、大寧安国、鐘声互答者、烟寺晚鐘也(下略)」と表現しており、城下の幹道沿いに店売や行商する者がいて、賑わうさまを窺うことができる。

引用・参考文献

- 今泉淑夫 2005 『彭叔守仙禅師』平住仰山
- 萩野繁春 1992 「壺・甕はどのように利用されてきたか」『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』国立歴史民俗博物館
- 菅原正明 1992 「甕倉出現の意義」『国立歴史民俗博物館研究報告 第46集』国立歴史民俗博物館
- 千田嘉博・矢田俊文編 2006 『能登 七尾城 加賀 金沢城』新人物往来社
- 善端 直 1992 『七尾城下町遺跡 七尾城跡シッケ地区遺跡発掘調査報告書』七尾市教育委員会
- 善端 直 2002 『七尾市内遺跡・発掘調査報告書Ⅱ』七尾市教育委員会
- 善端 直 2006 「能登畠山氏の城下町 七尾」『守護所と戦国城下町』高志書院
- 善端 直 2009 『石川県・能登半島 七尾城跡発掘調査報告書』七尾市教育委員会
- 七尾市史編さん委員会編 2006 『新修七尾市史7 七尾城編』七尾市役所
- 東四柳史明 2017 「彭叔守仙の能登下向と畠山文化」『能登畠山文化 源流をゆく』のと共栄信用金庫
- 三浦純夫 2017 「畠山氏の金生産と贈与」『能登畠山文化 源流をゆく』のと共栄信用金庫

第4表 主要遺構一覧表

調査区	遺構名	規模 (cm)		備考	調査区	遺構名	規模 (cm)		備考
		平面	深さ				平面	深さ	
古城南区⑭	SE01	208	155		古城南区⑰	SK134	85	27	
古城南区⑮	SE02	184	150~		古城南区⑱	SK139	90	12	
古城南区②	SK17	160×152	65~	井戸	古城南区⑲	SK140	(80)	40	
古城南区⑩	SK45	105	148	井戸	古城南区⑲	SK145	50	36	
古城南区⑮	SK143	(160)	100~	井戸	古城南区⑩	SD11	最大幅104	40	
古城南区①	SK05	60	36		古城南区⑩	SD19	幅52	96	深い溝
古城南区①	SK06	52	60		古城南区⑤	SD21	最大幅52	12~25	2面。石組
古城南区①	SK08	幅60	45		古城南区⑤	SD25	幅23	5	2面
古城南区①	SK09	110	45		古城南区⑤	SD26	最大幅52	24	2面
古城南区②	SK15	110	18		古城南区⑭	SD30	136	10	
古城南区③	SK18	64	26		古城南区⑮	SD32	最大幅50	11	
古城南区③	SK19	112	36		古城中5区	SD35	幅120	未掘	
古城南区③	SK21	72	32		古城中5区	SD36	幅130	未掘	
古城南区②	SK25	90	15		古城中5区	SD37	幅120	未掘	
古城南区③	SK26	96×72	25		古城中1区	SK01	60	36	
古城南区①	SK28	85	55		古城中1区	SK03	80	38	
古城南区⑫	SK29	120×94	36		古城北区②	SE01	104	166	
古城南区⑫	SK30	140	16		古城北区⑤	SE02	128	192~	
古城南区⑫	SK31	104×90	28		古城北区⑦	SE03	152	114	
古城南区⑫	SK32	130	36		古城北区⑩	SE04	128×92	170	2面
古城南区⑪	SK36	76	75		古城北区⑪	SE05	144	136~	
古城南区⑫	SK38	90	32		古城北区⑭	SE06	236×176	150~	
古城南区⑪	SK39	108×90	70		古城北区⑭	SE07	190	105~	
古城南区⑪	SK40	(204)×190	36		古城北区②	SK10	100×64	64	
古城南区⑪	SK41	135×(100)	70		古城北区②	SK14	345×168	62	
古城南区⑪	SK43	140	52		古城北区②	SK21	90	20	
古城南区⑩	SK44	170	35		古城北区⑤	SK31	100	50	
古城南区⑨	SK48	(220)	20		古城北区⑤	SK32	90	50	
古城南区⑥	SK49	(150)	40	2面	古城南区⑥	SK36	190	60	
古城南区⑥	SK50	170	26	2面	古城南区⑥	SK37	148×155	30	
古城南区⑪	SK51	上端460×390	75	壁溝幅32、深さ7	古城南区⑥	SK38	310	40	
古城南区⑨	SK52	160	33		古城北区④	SK46	96	50	
古城南区⑧	SK53	145	39		古城北区⑩	SK50	96	110	2面
古城南区⑧	SK54	100	20		古城北区⑪	SK53	98	52	
古城南区⑧	SK55	(160)	35		古城北区⑩	SK56	70	35	2面
古城南区⑦	SK56	130	40		古城北区⑦	SK66	120	90	2面
古城南区⑦	SK57	90	5		古城北区②	SD04	幅40	32	
古城南区⑦	SK59	145	25		古城北区①	SD11	幅48	16	
古城南区⑦	SK60	140	10		古城北区①	SD16	幅108	36	
古城南区⑥	SK62	130	28		古城北区①	SD17	幅100	24	
古城南区⑥	SK63	128×120	28		古城北区②	SD20	幅45	45	
古城南区⑥	SK64	170×150	32		古城北区④	SD22	336×60	48	
古城南区⑥	SK65	(120)	28		古城北区⑤	SD23	幅50	50	
古城南区⑥	SK87	84	16	2面	古城北区④	SD24	幅30	25	
古城南区⑥	SK89	112	10	2面	古城北区⑩	SD31	最大幅96	25	2面。区画溝
古城南区⑬	SK90	72	25		19区④	SK02	320	58	
古城南区⑬	SK91	112	13		19区④	SK03	76	24	
古城南区⑭	SK96	80	20		19区④	SK04	100	13	
古城南区⑭	SK98	56	28		19区④	SK05	80	16	
古城南区⑭	SK100	76	30		19区④	SK06	110	60	
古城南区⑮	SK111	96×64	28		19区①	SX01	440×240	100	
古城南区⑮	SK113	88	10		1区東	SK50	55	10	
古城南区⑮	SK116	120	17		1区東	SK51	102	22	
古城南区⑰	SK128	145×130	20		1区東	SK58	(400)	86	
古城南区⑰	SK132	160×85	20		1区東	SK59	118	20	

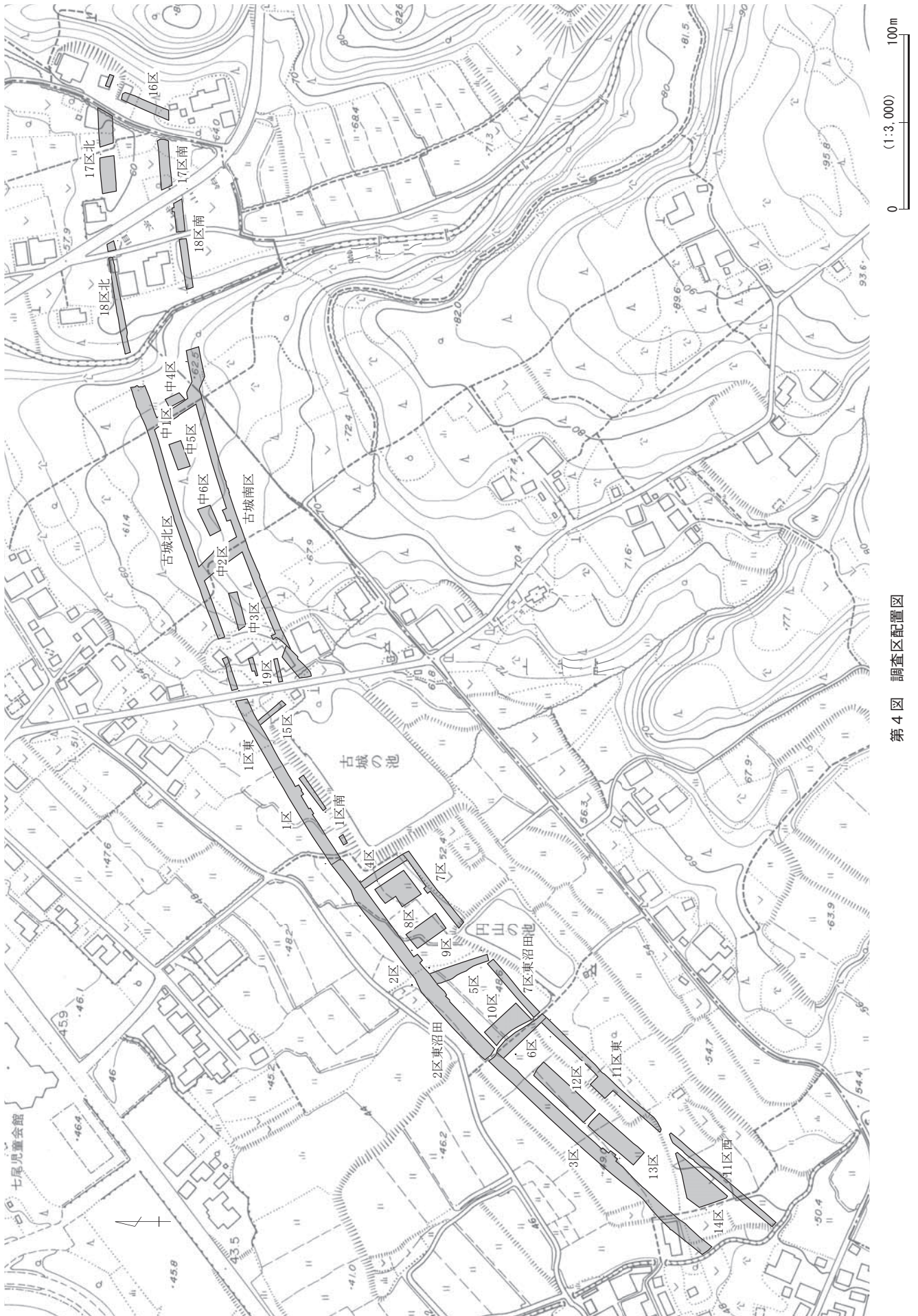
調査区	遺構名	規模 (cm)		備考	調査区	遺構名	規模 (cm)		備考
		平面	深さ				平面	深さ	
1区東	SK61	142×35	35		1区	SK71	46	18	
1区東	SK63	69	22		1区	SK73	53	18	
1区東	SK65	86	28		1区	SK79	78	12	
1区東	SK67	57	12		1区	SK89	30	17	
1区東	SK75	83	28		1区	SK90	59	18	
1区東	SK82	100	25		1区	SK103	32	21	
1区東	SK83	91	22		1区	SK105	64	30	
1区東	SK84	100	33		1区	SK106	29	12	
1区東	SK85	105	12		1区	SK107	20	30	
1区東	SK91	35	17		1区	SK112	58	24	
1区東	SK92	58	57		1区	SK113	37	22	
1区東	SK93	151	31		1区	SK118	120	45	
1区東	SK94	85	18		1区	SK119	130	36	
1区東	SK95	67	9		1区	SD02	幅520	170	天正9年銘硯出土
1区東	SK96	(382)	130	粘土探掘土坑か	1区	SD05	幅140	39	
1区東	SK97	75	30		1区	SK27	221	87	
1区東	SK99	64	31		1区	SX01	425	29	
1区東	SK100	72	35		1区	SX02	240	37	
1区東	SK102	127	22		1区南	SK32	187	45	炭化米出土
1区東	SK108	108	94		1区南	SK33	180	32	
1区東	SK109	106	73		1区南	SK34	205	20	
1区東	SK110	118×72	73		1区南	SK36	60	12	
1区東	SK114	62	21		1区南	SK37	113	64	
1区東	SD06	幅60	5		1区南	SK38	136	48	
1区	SE01	180	126		1区南	SK42	126	16	
1区	SE02	152	125		1区南	SK43	211	16	
1区	SE03	152	133	金溶解のるつぼ出土	2区	SK01	127	20	
1区	SE05	186	89		2区	SK02	134×132	40	
1区	SE06	187	131		2区	SK03	167	26	
1区	SK121(SE07)	136	30		2区	SK04	154	39	
1区	SK06	404	70	七尾市調査のSX34	2区	SK05	76	39	
1区	SK08	90	45	七尾市調査のSX04	2区	SK06	240	62	
1区	SK09	488×188	53	坑底は平坦	2区	SK07	249	111	
1区	SK10	169×95	40		2区	SK08	378	90	青片、土師器、鉄滓
1区	SK11	166×145	36		2区	SK09	148	42	
1区	SK14	223	40	馬蹄形土坑	2区	SK10	227	34	
1区	SK15	253×206	20	七尾市調査のSX31	2区	SK13	232	39	坑底は平坦
1区	SK16	220	40		2区	SK16	149	41	
1区	SK19	330×300	20	七尾市調査のSX36	2区	SK17	55	24	
1区	SK20	446×236	58		2区	SK18	202	51	
1区	SK21	217	41		2区	SK19	122	14	
1区	SK22	64	28		2区	SK25	229	23	
1区	SK24	76	33		2区	SK26	156	27	
1区	SK29	161	14		2区	SK27	92	36	
1区	SK30	334×110	44		2区	SK28	57	11	
1区	SK39	129	33		2区	SK29	213	95	
1区	SK40	173	24		2区	SK30	269	51	
1区	SK44	76	25		2区	SK32	448×389	55	坑底は平坦
1区	SK52	100	5		2区	SK36	115	53	
1区	SK53	91	21		2区	SK37	124	23	
1区	SK54	36	38		2区	SK38	268	59	
1区	SK56	44	8		2区	SK39	174	60	
1区	SK64	53	22		2区	SK40	101	26	
1区	SK69	59	26		2区	SK41	64	17	
1区	SK70	34	20		2区	SK42	113	72	

調査区	遺構名	規模(cm)		備考	調査区	遺構名	規模(cm)		備考
		平面	深さ				平面	深さ	
2区	SK43	106	43		2区	SK224	187	90	
2区	SK44	76	37		2区	SK229	169	76	
2区	SK45	91	31		2区	SK402	78	24	
2区	SK48	72	27		2区	SK403	90	18	
2区	SK49	54	27		2区	SK404	76	16	
2区	SK50	211	52		2区	SK405	80	16	
2区	SK51	126	66		2区	SK407	190	15	
2区	SK52	190	54		2区	SK408	95	22	
2区	SK71	112	35		2区	SK412	174	17	
2区	SK72	172	28	東沼田西岸	2区	SD01	幅120	70	
2区	SK73	343×190	37	東沼田西岸	2区	SD02	幅37	17	
2区	SK74	141	39	東沼田西岸	2区	SD06	幅60	25	
2区	SK75	170	36	東沼田西岸	2区	SD201	幅420	60	
2区	SK76	128	39	東沼田西岸	2区	SD202	幅140	12	
2区	SK77	73	33		2区	SD204	幅95	21	
2区	SK78	95	36		2区	SD401	幅54	12	
2区	SK80	73	33		2区	SD403	幅40	14	
2区	SK81	88	164	井戸。金箔・甲冑片	2区東沼田	SE01	167×112	45	
2区	SK82	227	16		2区東沼田	SE02	148	112~	
2区	SK83	189	33		8区	SK05	280×230	40	
2区	SK84	116	55		8区	SK201	85	41	埋甕
2区	SK85	91	50		7区	SK01	136	19	西半部
2区	SK86	84	20		7区	SK02	139	17	西半部
2区	SK87	62	38		7区	SK03	59	35	西半部
2区	SK88	23	29		7区	SK04	67	31	西半部
2区	SK89	94	84		7区	SK05	90	31	西半部
2区	SK91	360	30	2面	7区	SK06	133	26	西半部
2区	SK92	254	30	2面	7区	SK07	115	39	西半部
2区	SK93	302	18	2面	7区	SK08	79	45	西半部
2区	SK94	262	80	埋甕か	7区	SK09	66	25	西半部
2区	SK95	109	28		7区	SK10	58	17	西半部
2区	SK96	280	37	炭化米出土	7区	SK11	68	45	西半部
2区	SK97	97	37		7区	SK13	69	26	西半部
2区	SK99	142	69		7区	SK14	74	19	西半部
2区	SK101	103	45		7区	SK16	54	19	西半部
2区	SK106	156	70		7区	SK17	64	16	西半部
2区	SK116	157	37		7区	SK18	69	8	西半部
2区	SK118	270	23		7区	SK20	79	20	西半部
2区	SK119	105	37		7区	SK21	48	17	西半部
2区	SK123	196	30		7区	SK22	104	13	西半部
2区	SK160	168	30		7区	SK23	78	16	西半部
2区	SK165	92	20		7区	SK24	137	27	西半部
2区	SK201	107	13		7区	SK25	117	19	西半部
2区	SK202	88	19		7区	SK26	310	50	西半部
2区	SK203	147	16		7区	SK27	123	34	西半部
2区	SK204	99	32		7区	SK28	(260)×230	28	東半部
2区	SK205	85	12		7区	SK30	88	18	西半部
2区	SK207	87	25		7区	SK33	129	37	西半部
2区	SK210	135	27		7区	SK34	204×85	42	西半部
2区	SK214	25	48		7区	SK35	85	25	西半部
2区	SK215	84	20		7区	SK37	91	43	東半部
2区	SK220	126	47		7区	SK38	53	17	
2区	SK220	120	50		7区	SK40	86	21	西半部
2区	SK222	189	27		7区	SK41	40	49	西半部
2区	SK223	320	48		7区	SK42	85	35	西半部

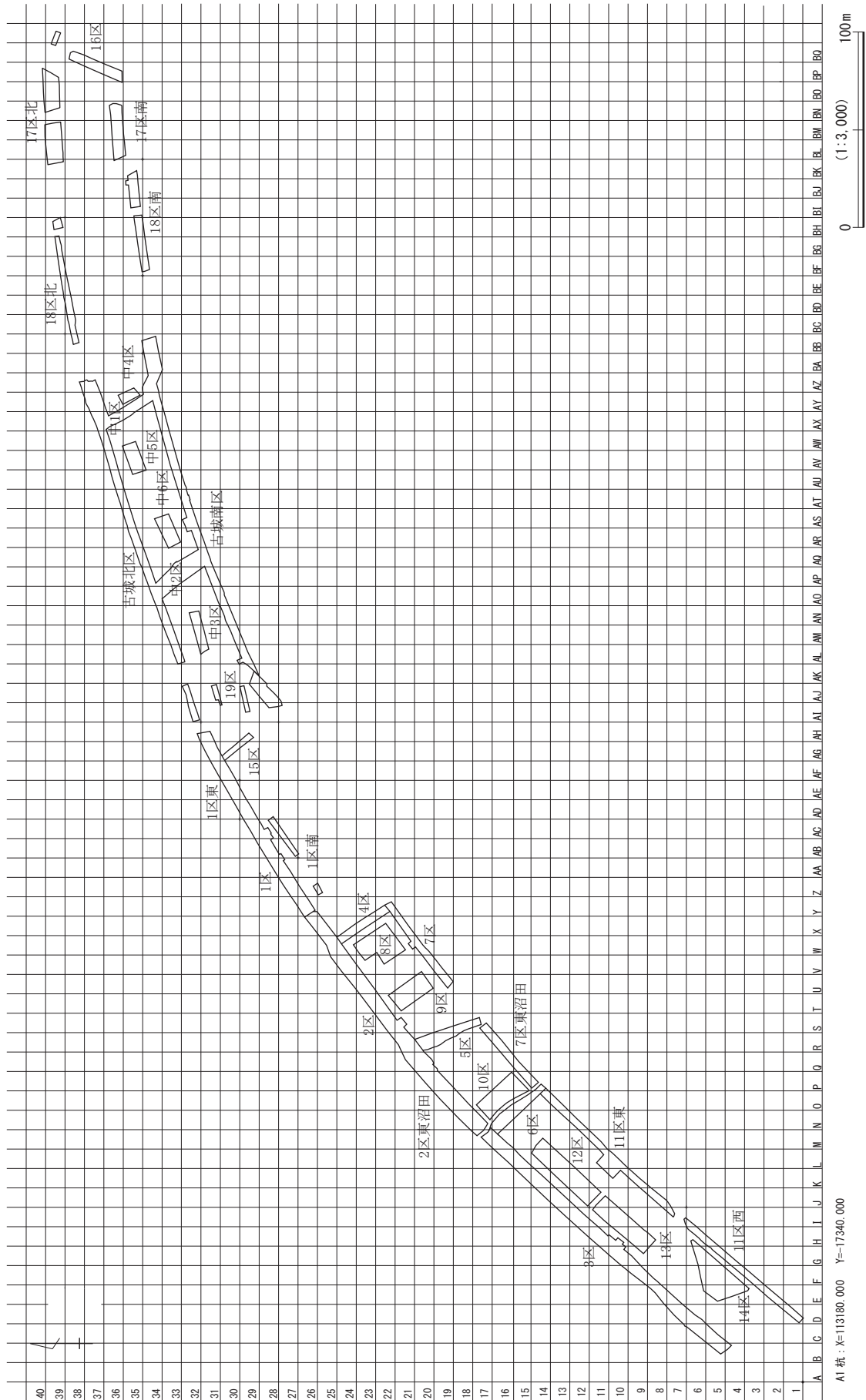
調査区	遺構名	規模 (cm)		備考	調査区	遺構名	規模 (cm)		備考
		平面	深さ				平面	深さ	
7区	SK49	237	24		6区	SK04	239	16	
7区	SK50	81	13	西半部	6区	SK05	104	70	
7区	SK51	146	56		6区	SK07	96	13	
7区	SK52	73	16	西半部	6区	SK13	146×60	66	
7区	SK55	77	35	西半部	6区	SK20	97	63	
7区	SK201	41	15	2面	6区	SD01	幅68	56	
7区	SK202	107	58	2面	6区	SD03	長さ230、幅40	48	
7区	SK203	58	26	2面	6区	SD06	幅40	12	雨落溝
7区	SK207	97	35	2面	6区	SD10	①幅70	90	
7区	SK208	112	46	2面			②幅65	73	
7区	SD02	37	22	西半部			③幅73	60	
7区	SD03	30	14	西半部	6区	SD14	幅102～	10	雨落溝
7区	SD401	幅200	30	4面	6区	SD15	幅160	88	
7区	SX201	115	46	2面	6区	SD18	幅50	10	雨落溝
9区	SD01	北幅137	32	区画溝	6区	SD19	幅60	24	
		南幅185	109		3区①	SE01	206	120～	
5区	SK01	165	77		3区①	SE03	140	110	
5区	SK02	94	18		3区①	SE06	166	150～	
5区	SK03	126×74	29		3区①	SE07	掘方径287	220～	石組
5区	SK04	183	59		3区①		石組径80		
5区	SK05	242×72	10		3区①	SE09	220×160	115～	
5区	SK06	119	29		3区①	SE10	300	104～	
5区	SK07	360	160～		3区①	SE11	220	120～	
5区	SK08	163	32		3区①	SE12	123	104～	
5区	SK09	102	30		3区①	SE13	114	120	礫入る
5区	SK10	67	9		3区②	SE14	128	120～	
5区	SK11	117	17		3区④	SE14	184	120～	
5区	SK12	77	19		3区①	SE15	136	120	
5区	SK14	110×104	62		3区①	SE16	140	112～	
5区	SK15	213×158	88		3区①	SE18	138	130～	
5区	SK17	75	25		3区①	SK143	213	134	
5区	SK18	197	10		3区②	SE19	210	80～	るつぼ
5区	SK19	81	26		3区②	SE20	268	120～	
5区	SK20	125	45		3区①	SK01	168	28	
5区	SK21	61	24		3区①	SK04	114	18	
5区	SK22	151	39		3区①	SK05	100	20	
5区	SK23	165	70		3区①	SK06	147	153	
5区	SK25	98	8		3区①	SK07	76	46	
5区	SK26	130	30		3区①	SK09	153	76	
5区	SD01	幅36	86		3区①	SK11	88	25	
7区東沼田	SK43	140×111	120～	井戸。文書付着箱板	3区①	SK13	107	35	
7区東沼田	SK44	44	30		3区①	SK14	67	21	
7区東沼田	SK45	78	11		3区①	SK16	74	19	
7区東沼田	SK46	30	3		3区①	SK17	109	27	
7区東沼田	SK48	165	112～		3区①	SK18	92	50	
7区東沼田	SK49	240	25		3区②	SK21	67	25	
10区	SB01-P4	31	19	掘立柱建物	3区②	SK22	32	21	
10区	SB01-P7	43	30	掘立柱建物	3区②	SK25	66	22	
10区	SB01-P8	57	24	掘立柱建物	3区②	SK26	63	27	
10区	SB02-P1	44	22	掘立柱建物	3区②	SK27	70	40	
10区	SB02-P2	89	20	掘立柱建物	3区②	SK28	58	27	
6区	SK06	164×150	106～	井戸	3区②	SK30	103	19	
6区	SK11	90	40～	井戸。るつぼ	3区②	SK33	129	9	
6区	SK02	112	10	鋳型	3区②	SK34	119	36	
6区	SK03	98	32		3区②	SK35	176	35	

調査区	遺構名	規模 (cm)		備考	調査区	遺構名	規模 (cm)		備考
		平面	深さ				平面	深さ	
3区②	SK36	184	64		3区②	SK102	180	33	
3区②	SK37	180	51		3区②	SK103	101	20	
3区②	SK38	124	36		3区②	SK104	252×245	36	
3区②	SK39	43	18		3区②	SK108	77	63	
3区②	SK40	109	39		3区②	SK109	71	19	
3区②	SK41	88	15		3区②	SK111	186	27	
3区②	SK42	82	52		3区②	SK112	66	29	
3区②	SK43	143	51		3区②	SK113	165	45	
3区②	SK44	91	65		3区②	SK115	74	15	
3区②	SK45	168	35		3区②	SK117	88	13	
3区②	SK46	86	30		3区②	SK118	114	33	
3区②	SK47	63	25		3区④	SK125	232	26	
3区②	SK48	82	13		3区④	SK126	79	53	
3区②	SK49	42	12		3区④	SK127	146	42	
3区②	SK50	93	34		3区③	SK127	138	28	
3区②	SK51	70	36		3区④	SK128	122	35	
3区②	SK53	146	30		3区④	SK130	112	55	
3区②	SK54	113	66		3区④	SK131	212	46	
3区②	SK55	180×120	47		3区④	SK132	88	22	
3区②	SK56	236	65		3区④	SK133	101	35	
3区②	SK57	245	80		3区④	SK134	134	24	
3区②	SK58	53	19		3区④	SK135	217	25	
3区②	SK59	77	26		3区④	SK136	94	43	
3区②	SK60	78	47		3区④	SK142	157	13	
3区②	SK61	106	31		3区④	SK144	87	16	
3区②	SK62	122	10		3区④	SK145	143	48	
3区②	SK63	172	81		3区④	SK146	156	34	
3区②	SK64	118	44		3区④	SK148	93	19	
3区②	SK65	90	49		3区④	SK149	81	20	
3区②	SK66	80	18		3区②	SK161	260	51	るつぼ
3区②	SK67	82	32		3区②	SK162	204	20	るつぼ
3区②	SK68	115	64		3区②	SK163	167	30	
3区②	SK69	103	25		3区②	SK164	127	31	
3区②	SK70	276	120	るつぼ・土師皿	3区②	SK165	107	23	
3区②	SK71	360	124	るつぼ・土師皿	3区②	SK166	125	21	
3区②	SK72	91	37		3区②	SK167	87	22	
3区②	SK73	170	22		3区②	SK168	78	17	
3区②	SK74	251	28		3区②	SK169	92	38	
3区②	SK75	48	41		3区②	SK170	97	30	
3区②	SK80	49	52		3区②	SK171	104	16	
3区②	SK81	61	57		3区②	SK172	153	66	
3区②	SK82	50	28		3区②	SK174	89×48	19	
3区②	SK83	143	45		3区②	SK176	220×124	30	
3区②	SK84	96	55		3区②	SK179	144	17	
3区②	SK85	95	30		3区②	SK180	96	45	
3区②	SK86	101	52		3区②	SK181	65	25	
3区②	SK88	138	53		3区②	SK182	212×210	32	
3区②	SK89	52	20		3区②	SK184	80	22	
3区②	SK90	216	28		3区②	SK185	68	51	
3区②	SK92	169	63		3区②	SK186	80	16	
3区②	SK93	59	29		3区②	SK187	346	81	
3区②	SK97	110	27		3区③	SK190	92	16	
3区②	SK98	106	37		3区③	SK191	161	58	
3区②	SK99	144	8		3区③	SK192	118	21	
3区②	SK101	100	18		3区③	SK193	97	27	

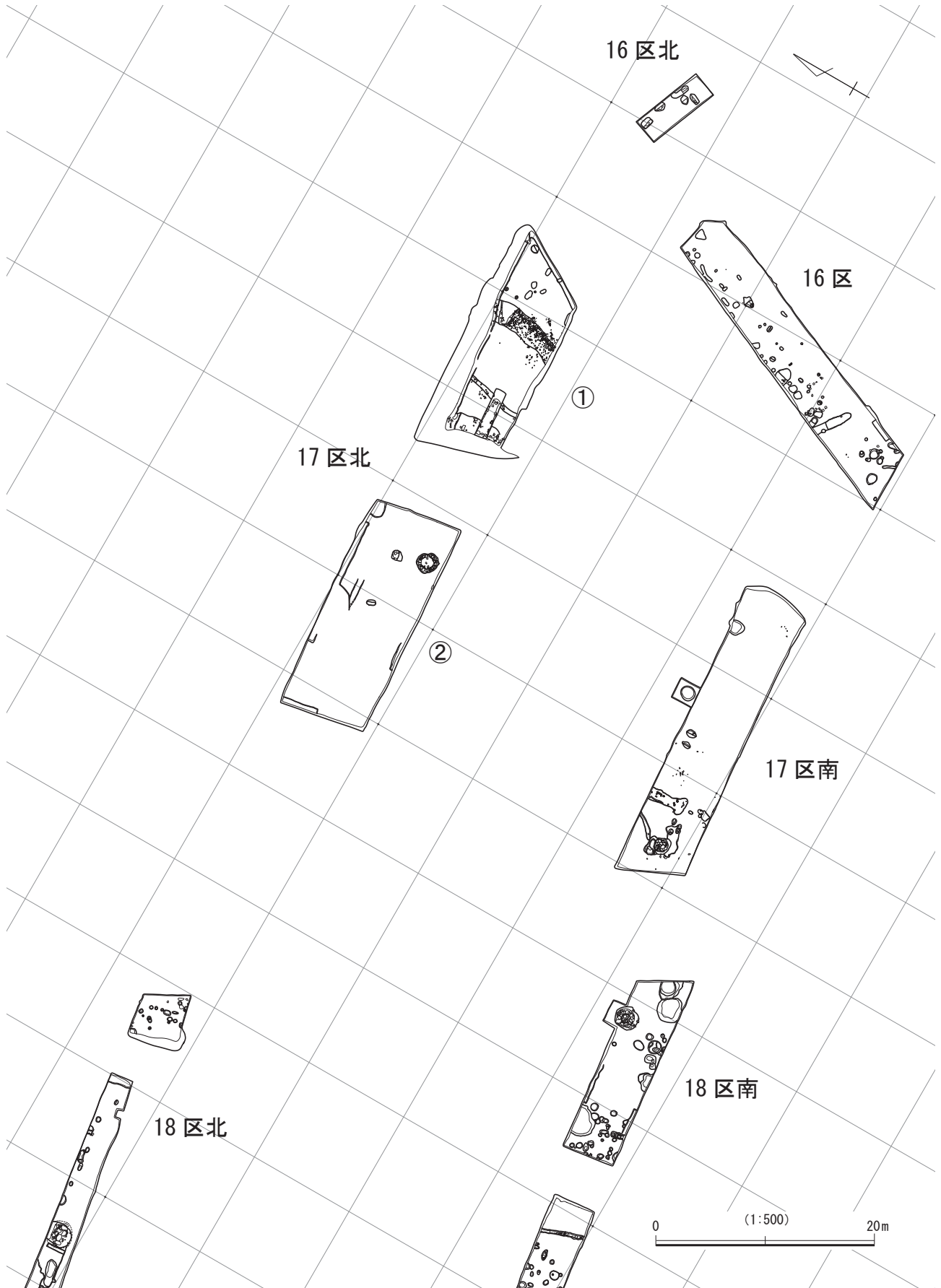
調査区	遺構名	規模 (cm)		備考	調査区	遺構名	規模 (cm)		備考
		平面	高さ				平面	高さ	
3区③	SK194	73	41		11区西	SK79	152×144	56	
3区③	SK195	112	18		11区西	SK80	(136)	24	
3区③	SK196	94	10		11区西	SK81	(224)×104	36	
3区③	SK198	77	12		11区西	SK82	116	8	
3区③	SK197	76	53		11区西	SK83	120	18	
3区③	SK199	145	40		11区西	SK85	88	30	
3区③	SK200	76	21		11区西	SK86	72	20	
3区③	SK203	75	7	2面	11区西	SK87	128	50	
3区③	SK205	114	17	2面	11区西	SK88	61	34	
3区①	SX01	120	18	2面	11区西	SK89	(196)	20	
3区①	SD10(SX06)	265	52		11区西	SK90	76	15	
12区	SK01	161	36		11区西	SK92	86	30	
12区	SK02	113	31		11区西	SK93	88	47	
12区	SK03	163	69		11区西	SK94	86	16	
12区	SK04	132	49		11区西	SK96	228×152	40	
12区	SK05	154	54		11区西	SK97	(212)×216	40	
12区	SK06	127	24		11区西	SK99	120	40	
12区	SK07	107	39		11区西	SK101	68	12	
12区	SK08	113	34		11区西	SK105	(76)	36	
12区	SK09	215	28		11区西	SD14	幅108	10	
12区	SK10	82	16		11区西	SD16	幅45	20	
12区	SK11	82	18		11区西	SD17	200×60	12	
12区	SK12	119	11		11区西	SD18	幅48	4	
12区	SK13	141	39		11区西	SD19	幅32	6	
12区	SK14	192	46		18区南	SE01	140	200	
12区	SK15	140	20		18区南	SE02	220×200	200~	
12区	SK17	380	30		18区南	SK01	80	40	
12区	SK18	250	36	坑底平坦	18区南	SK02	64	32	
12区	SD01	幅174	21	区画溝か	18区南	SK03	100	40	
12区	SD02	幅120	14	区画溝か	18区南	SK04	100	36	
12区	SD03	幅113	20	区画溝か	18区南	SK06	80	26	
12区	SD04	幅60	14	区画溝か	18区南	SK07	102	40	
13区	SD01	幅75	未掘		18区南	SK08	94	35	
13区	SD02	幅25	未掘		18区南	SK09	170	36	
11区東	SK24	440×600	80	土師皿多い	18区南	SK11	80	25	
11区東	SK47	240	50		18区南	SK12	84	38	
11区東	SK60	88	45		18区南	SK13	150	20	
11区東	SX01	35	85		18区南	SK14	132	107	
11区西	SE01	140×128	148		18区南	SK17	130	38	
11区西	SK64	(200)	73		18区南	SK21	120×95	25	
11区西	SK67	196	14		18区南	SK24	250	50	
11区西	SK68	(224)×170	45		18区南	SK25	120	40	
11区西	SK69	180	28		18区南	SK26	100×70	50	
11区西	SK70	76	52		18区南	SK27	52	50	
11区西	SK71	104	11		18区南	SK29	220×200	30	
11区西	SK72	80	20		18区南	SD01	幅45	36	
11区西	SK73	88	24		18区北	SK02	105×48	26	
11区西	SK75	136×95	30		18区北	SK06	120×40	25	
11区西	SK76	98	72		18区北	SK08	200×72	40	
11区西	SK77	212	20		18区北	SK09	230	180~	
11区西	SK78	(312)	45		18区北	SK11	150	67	



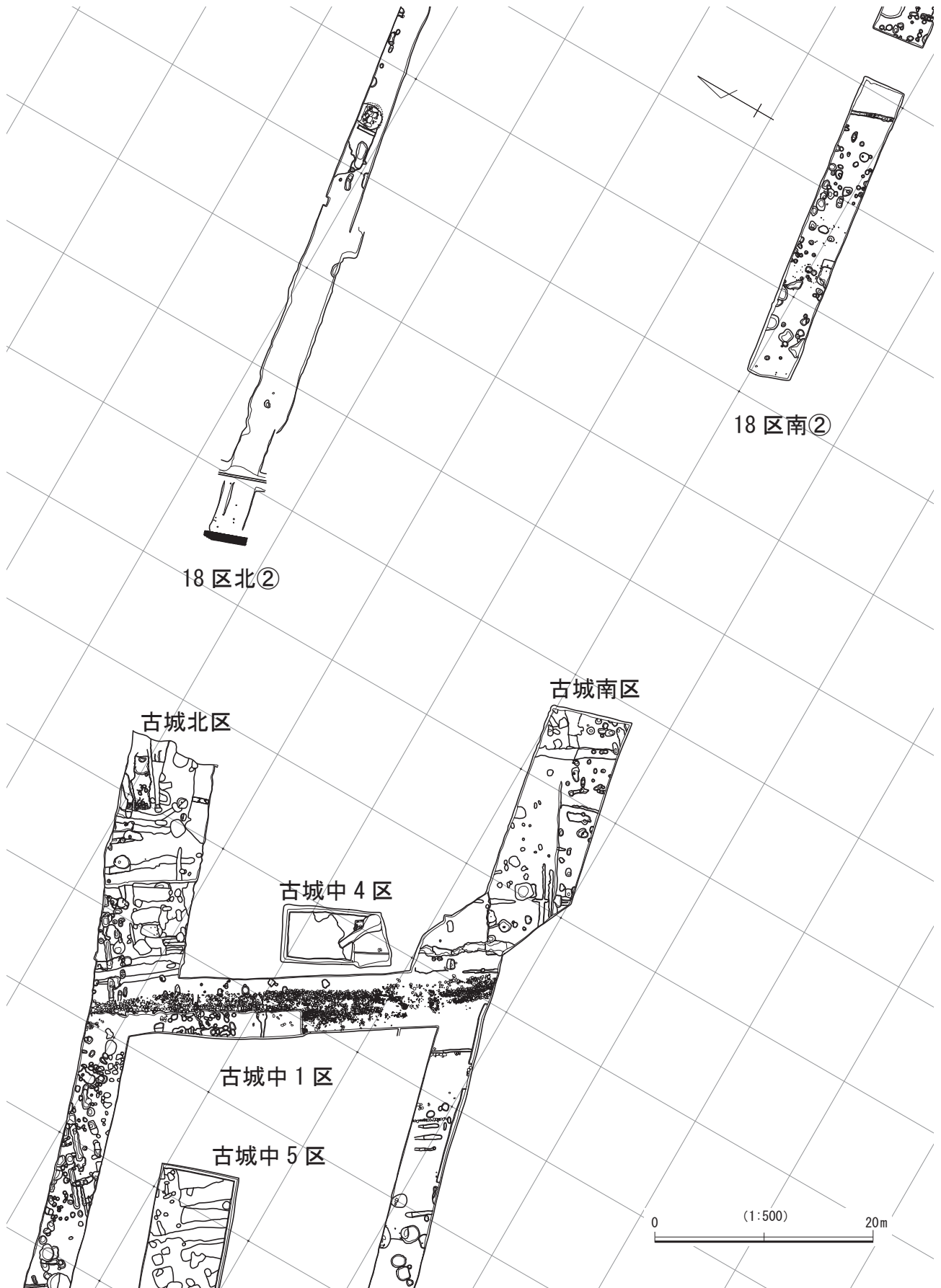
第4図 調査区配置図



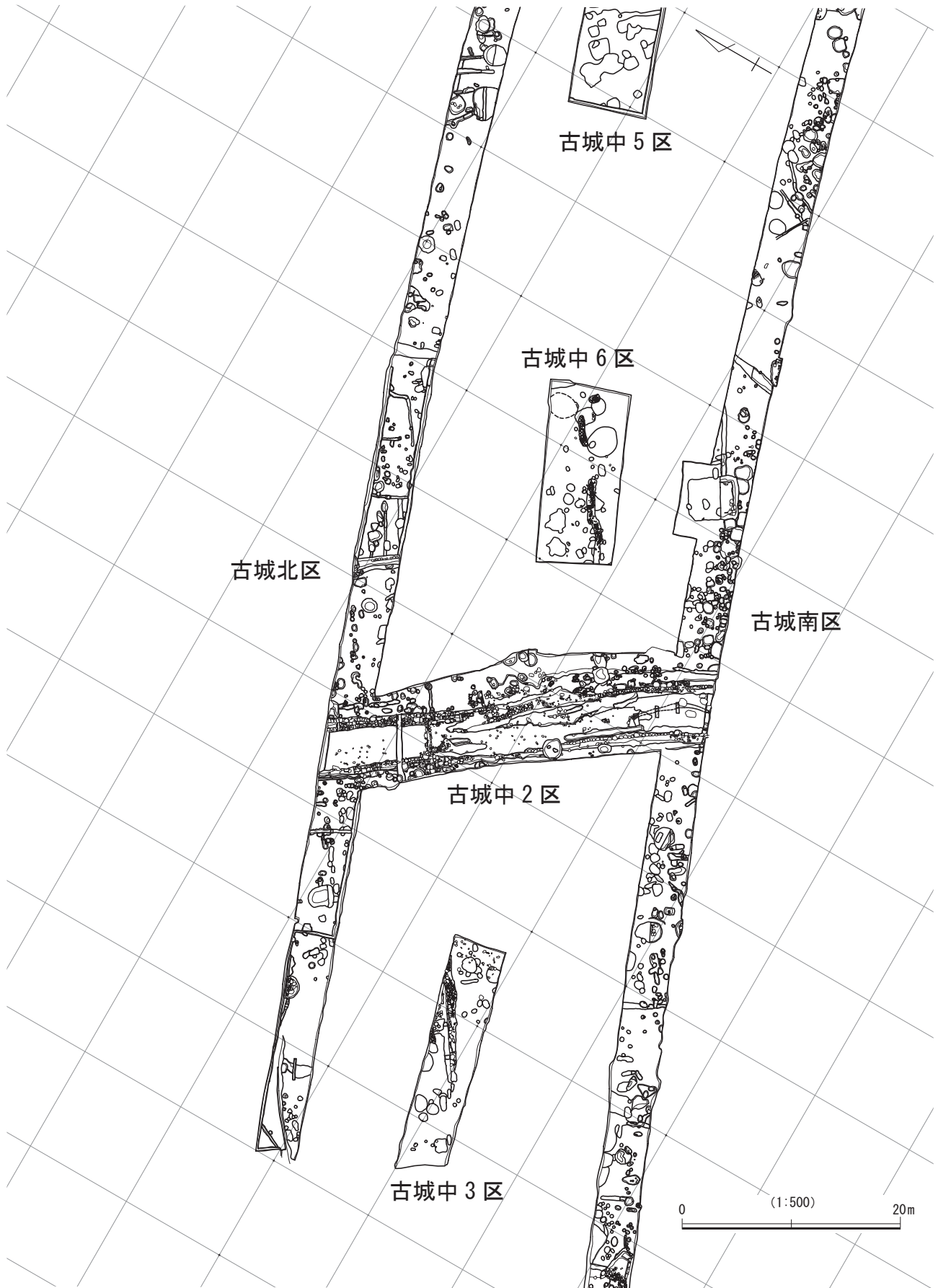
第5図 調査区グリッド配置図



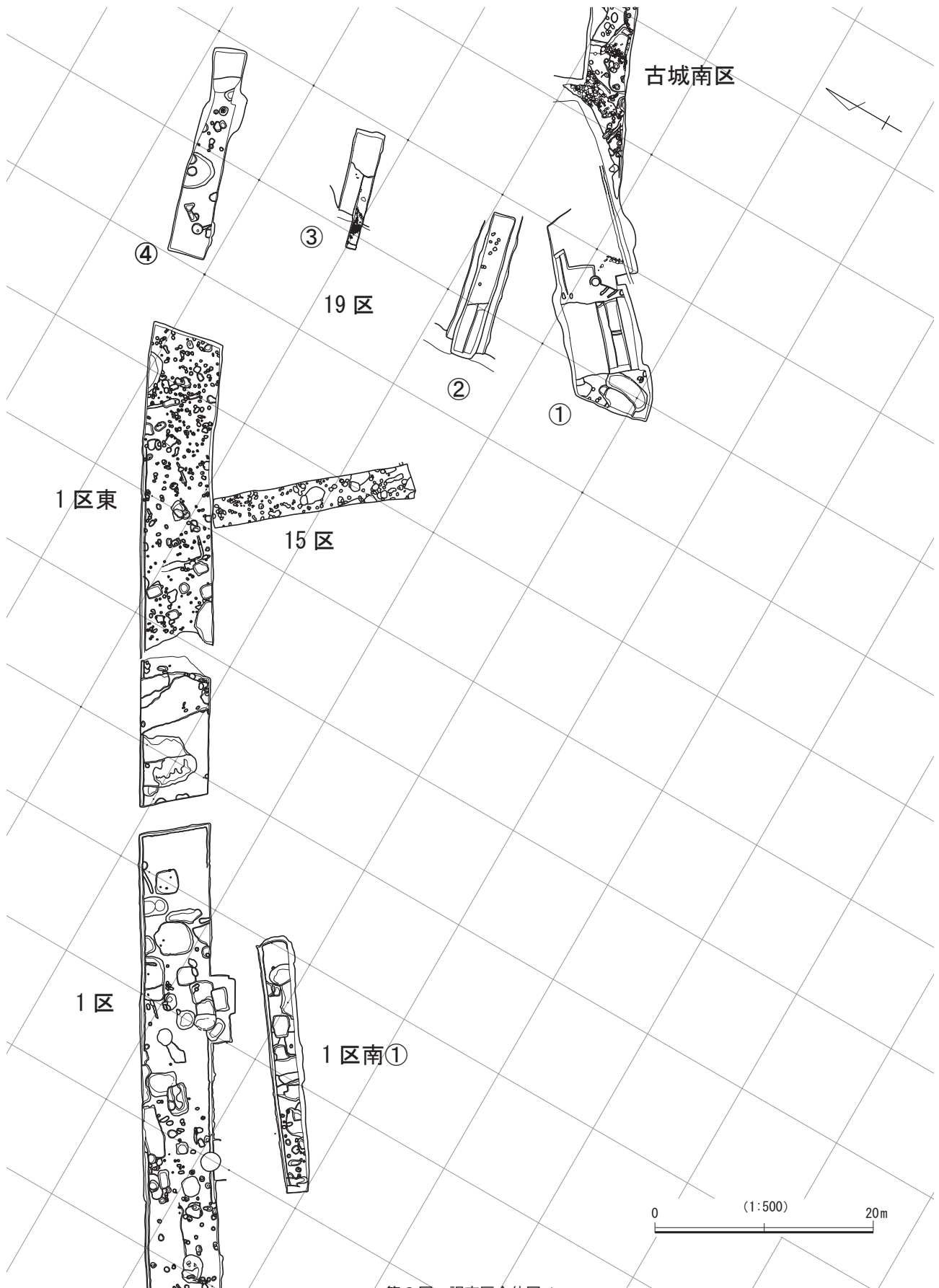
第6図 調査区全体図1



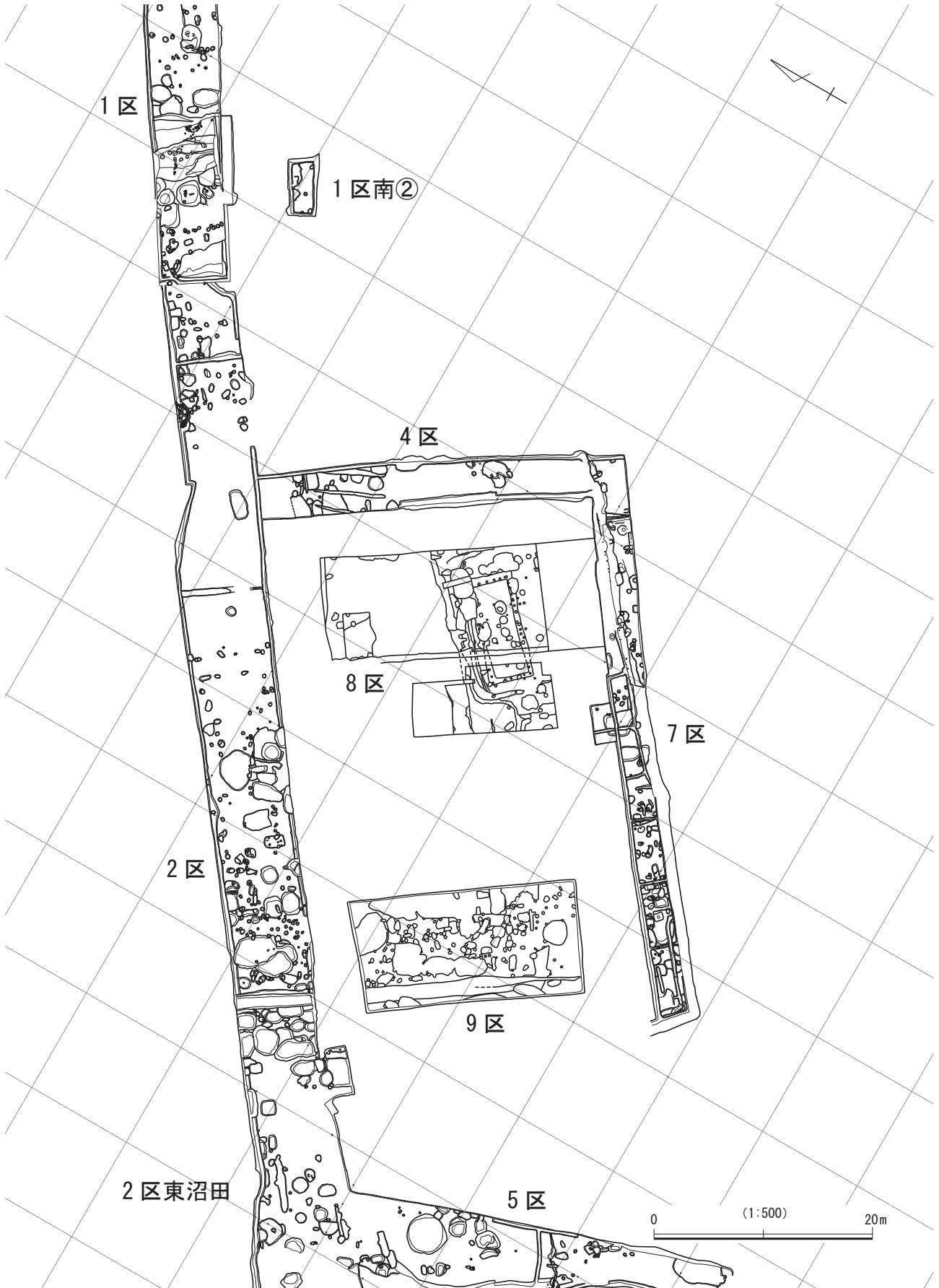
第7図 調査区全体図2



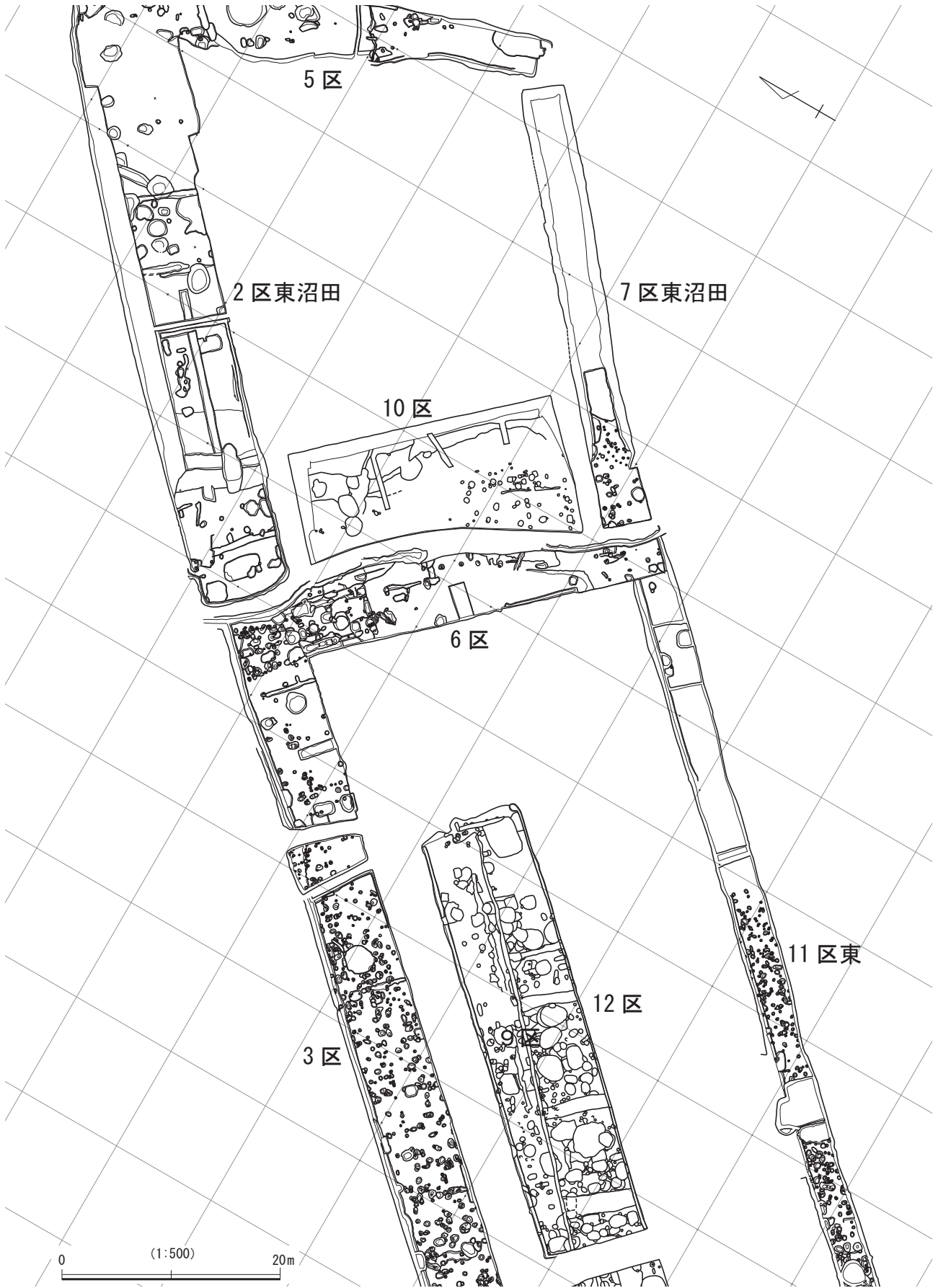
第8図 調査区全体図3



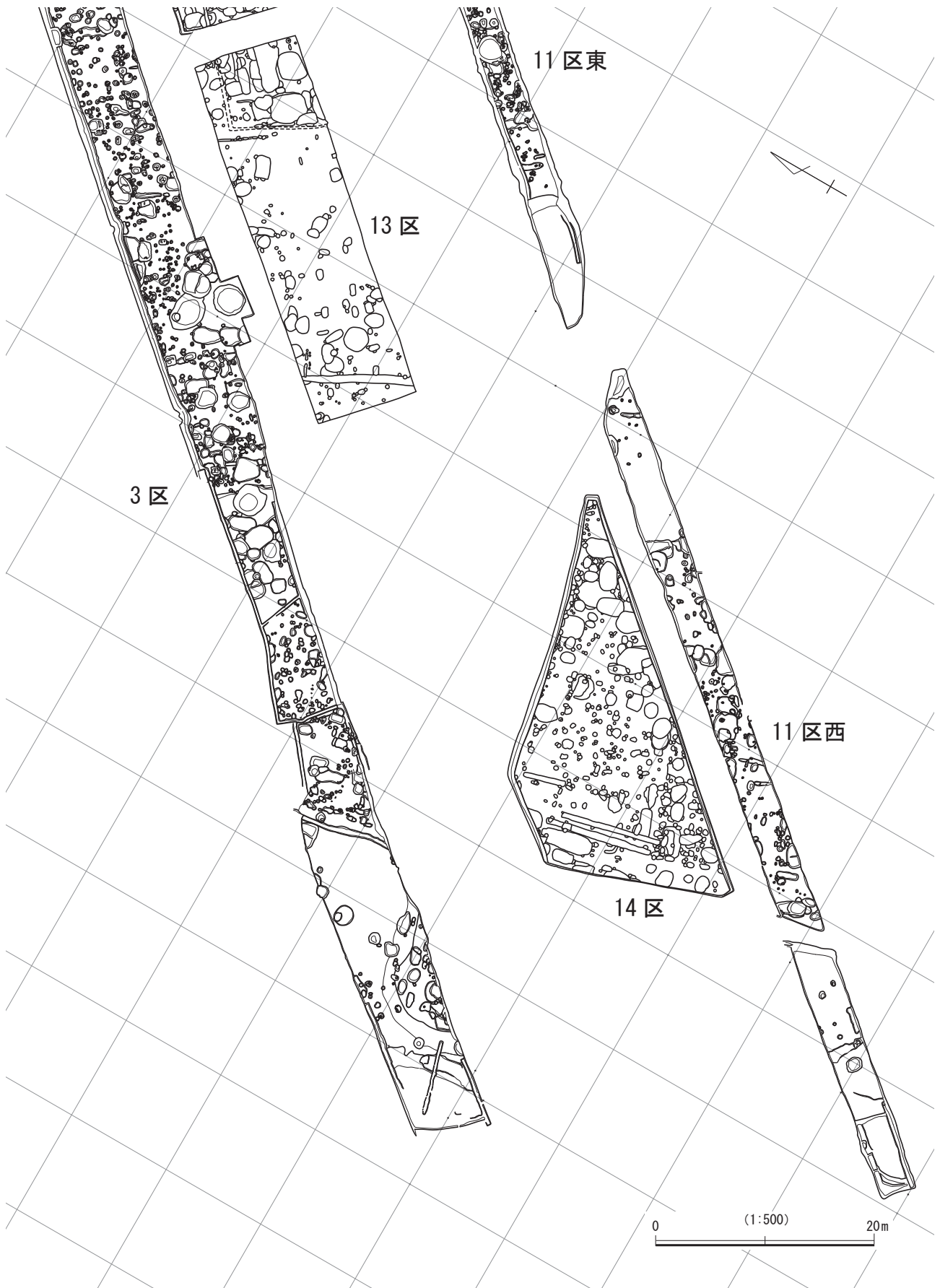
第9図 調査区全体図4



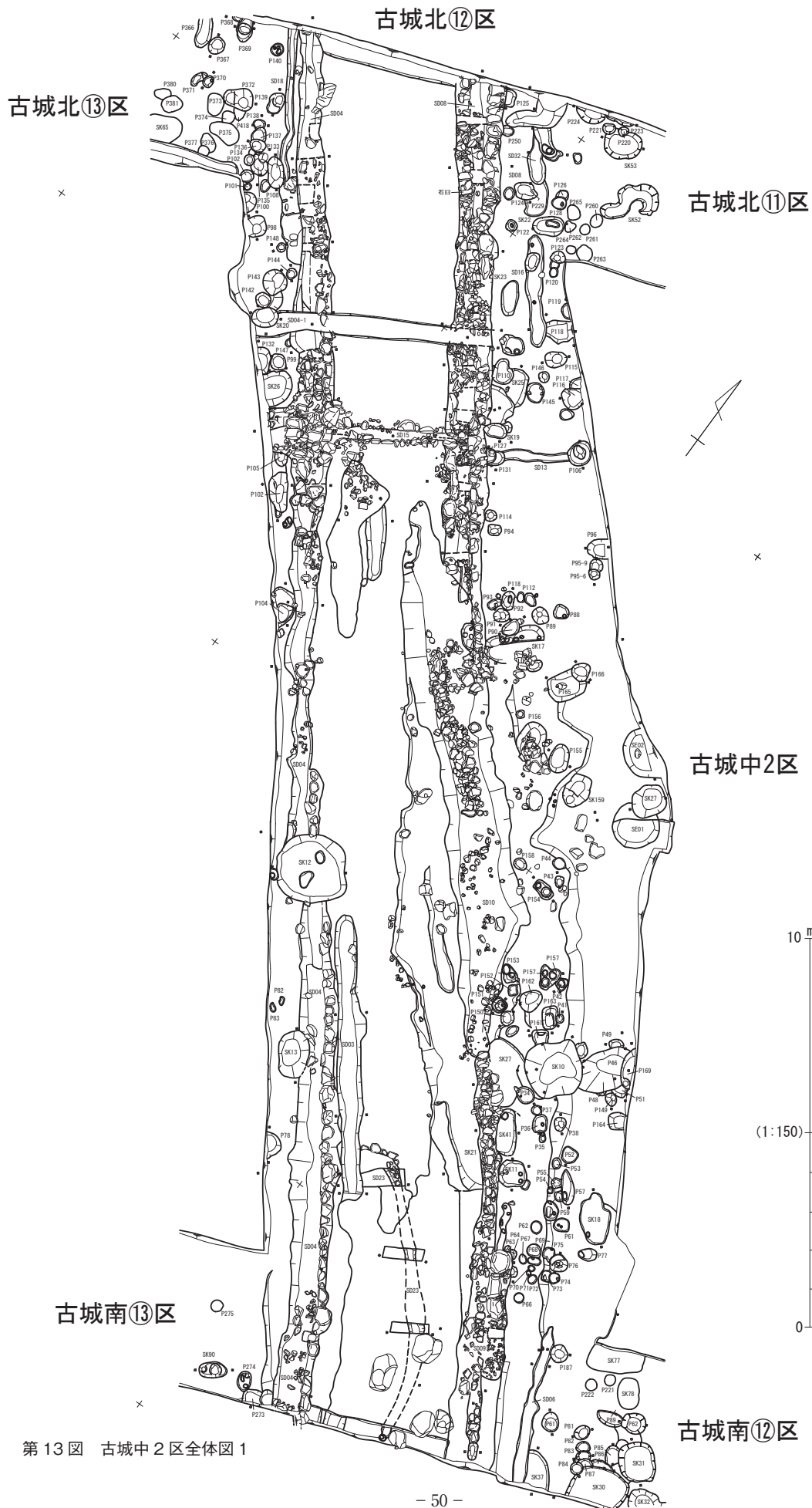
第10図 調査区全体図5



第11図 調査区全体図6



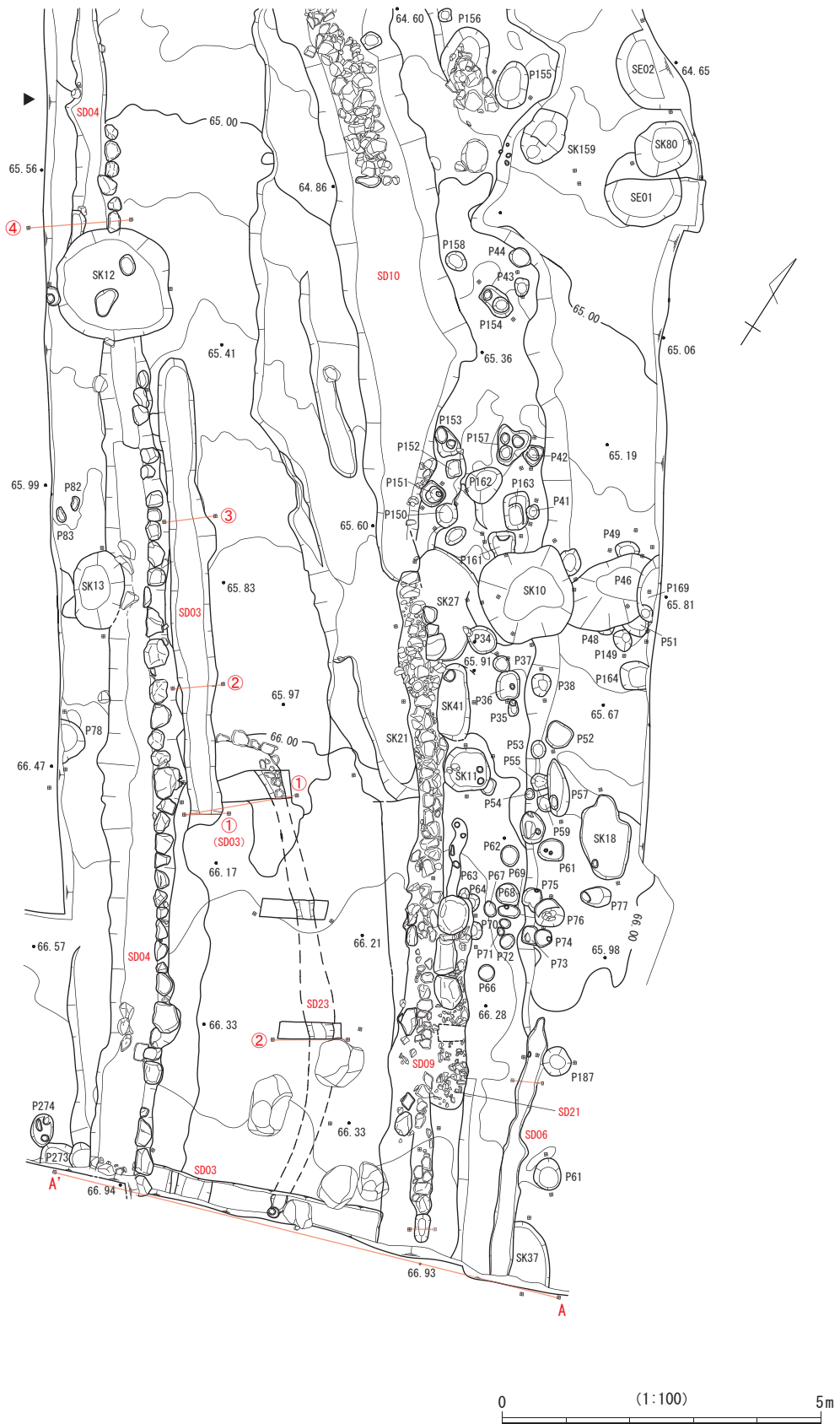
第12図 調査区全体図7

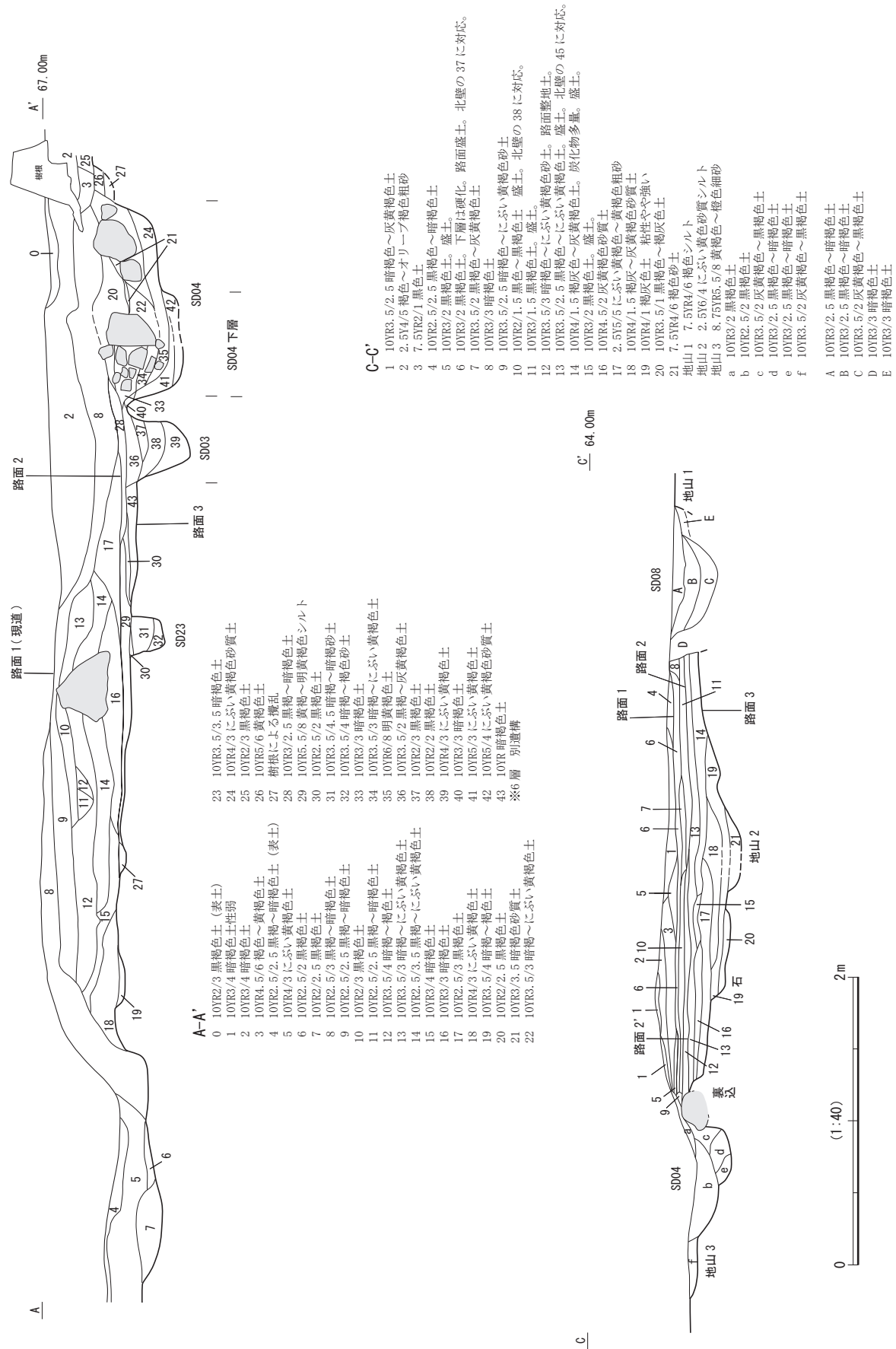


第 13 図 古城中 2 区全体図 1

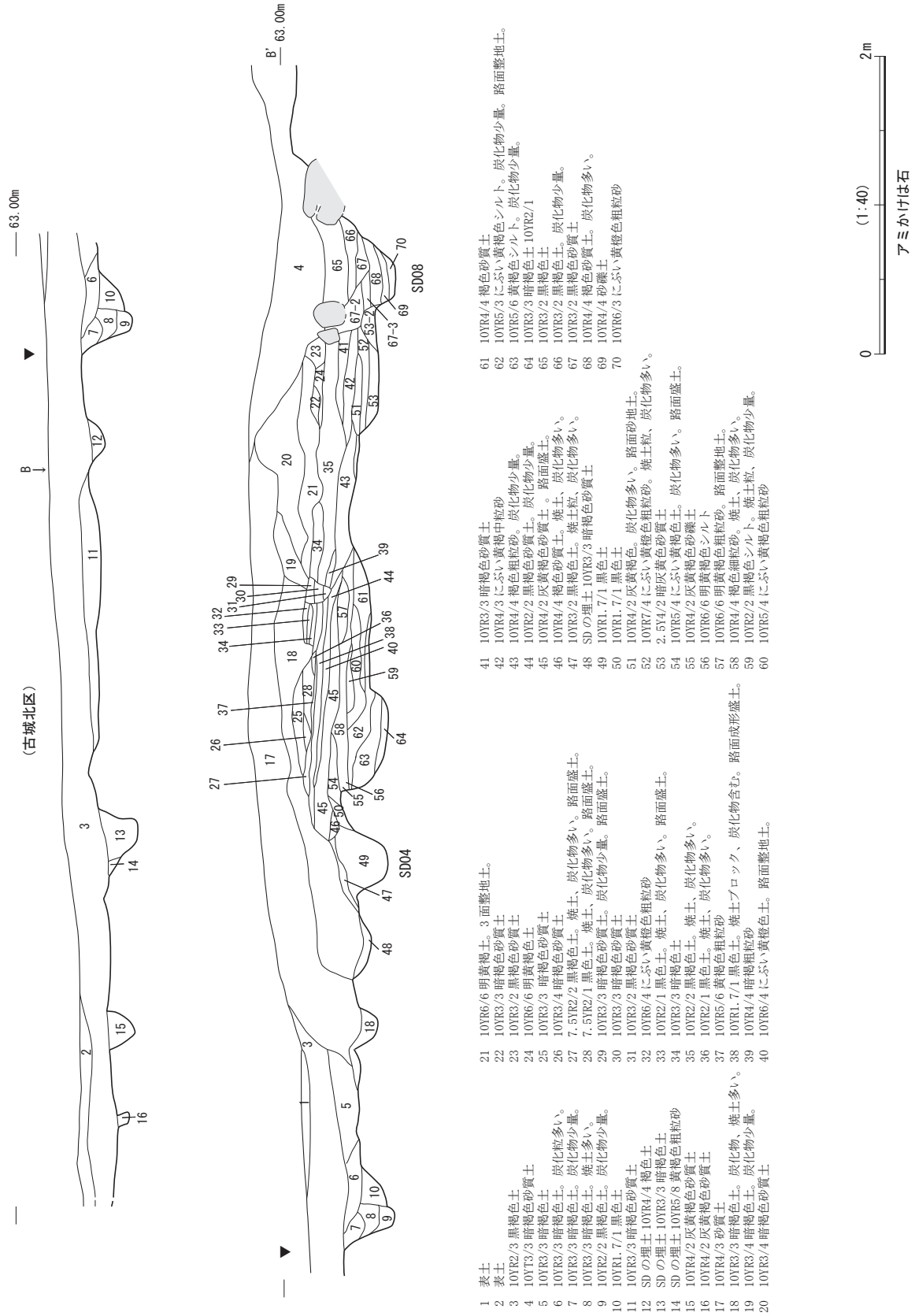


第 14 図 古城中 2 区全体図 2





第 16 図 古城 中 2 区 土質 図 1

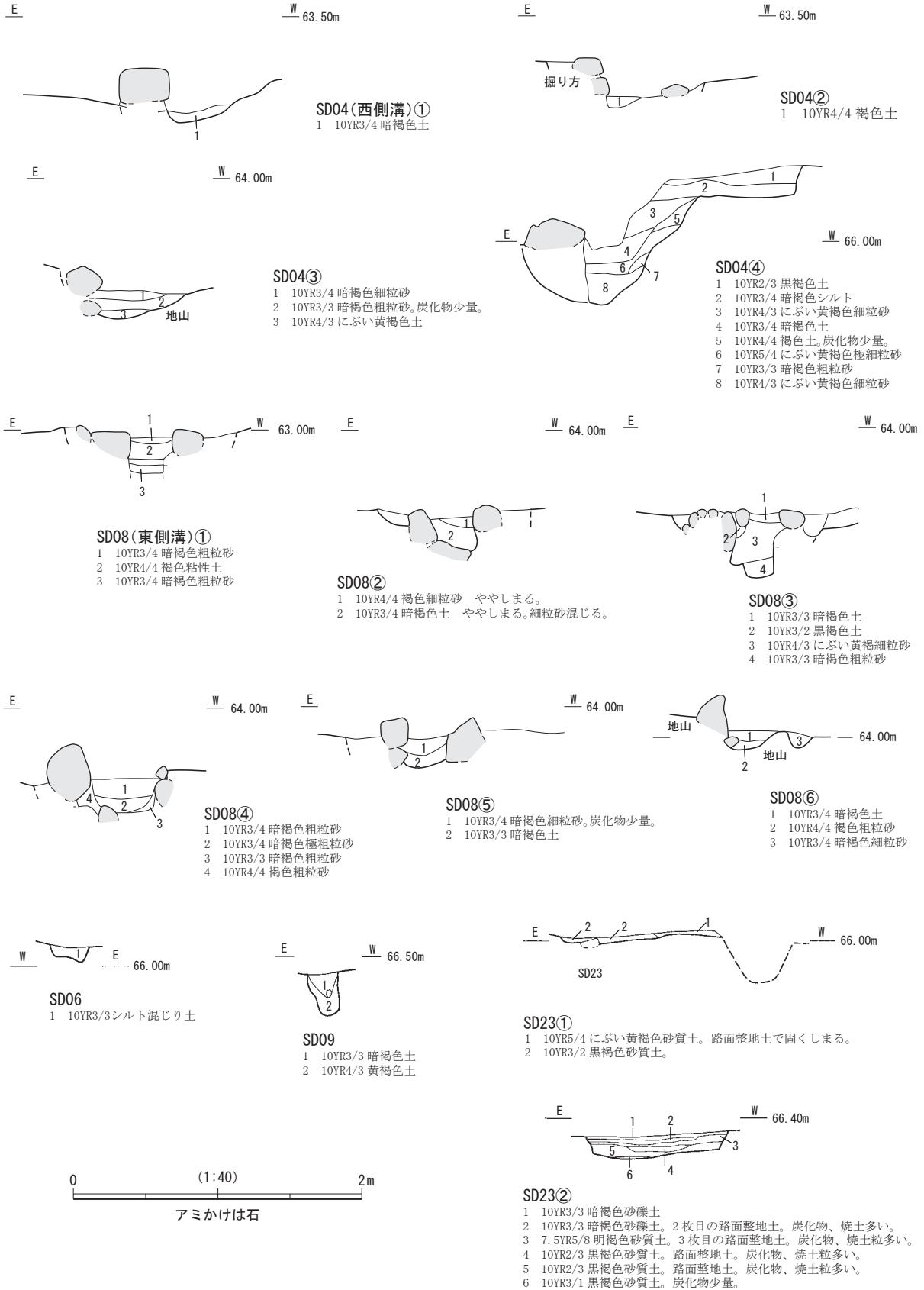


第17図 古城中2区土層図2(北壁)

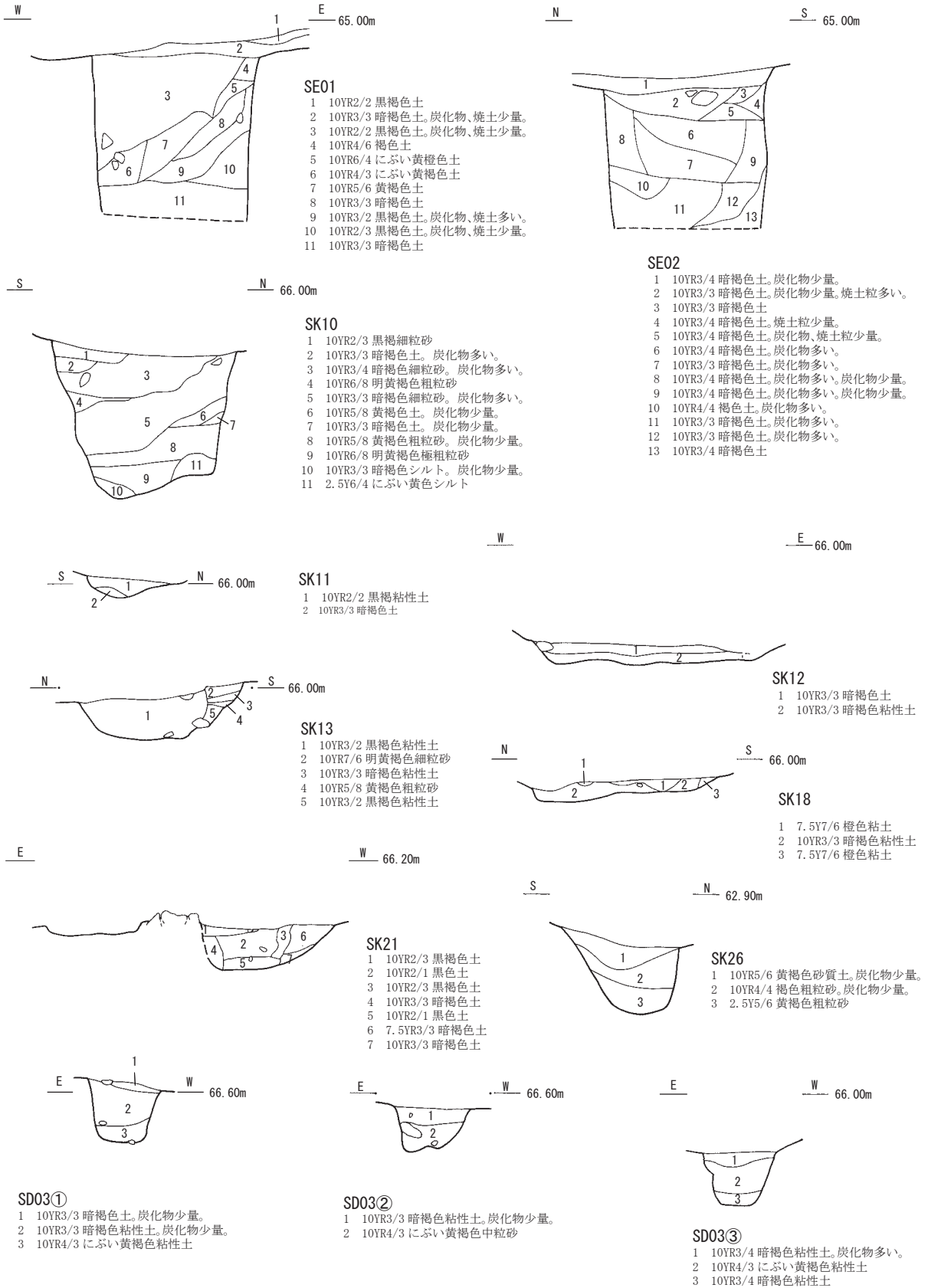


第18図 古城中2区大手道側溝等実測図

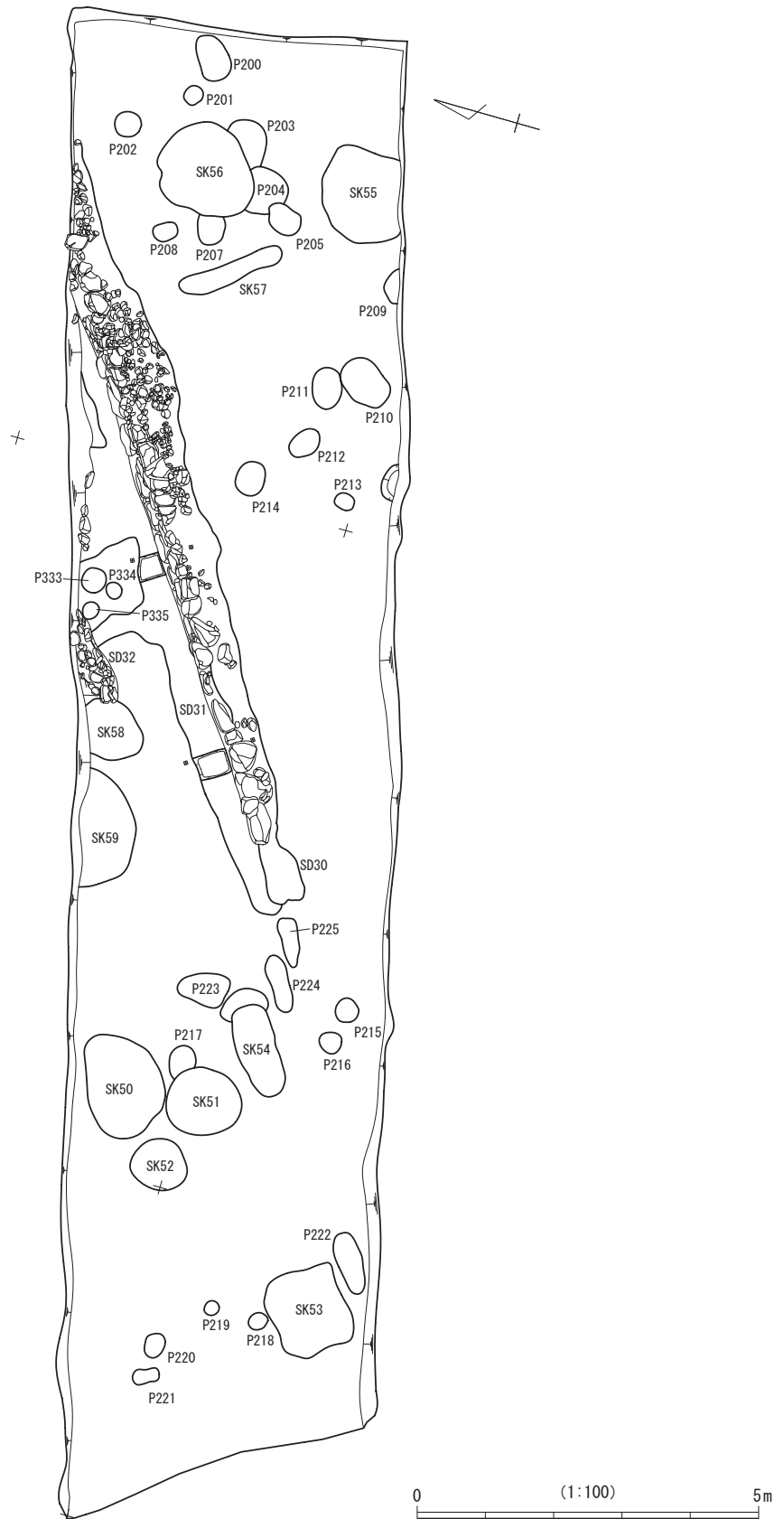
第3章 調査の成果



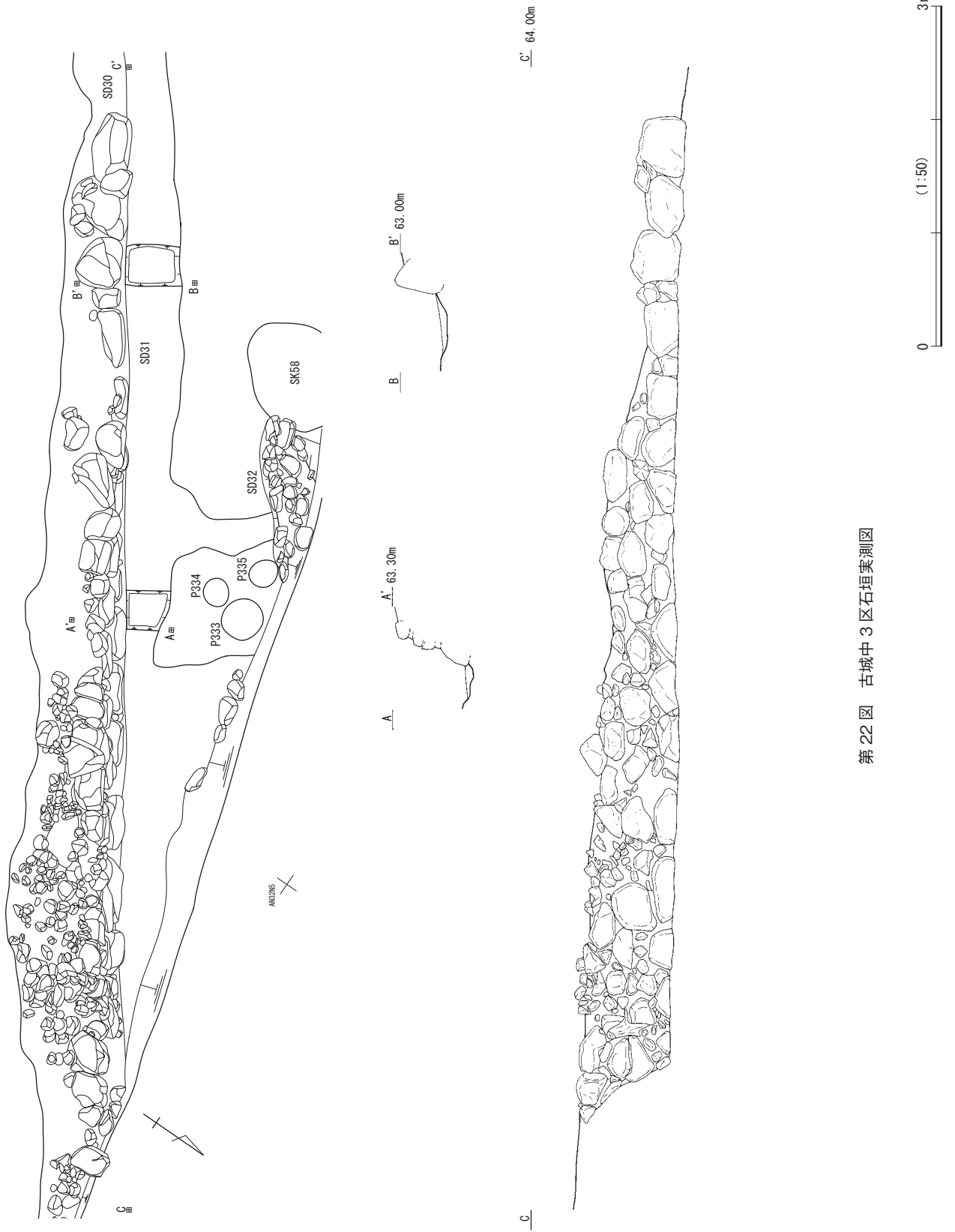
第19図 大手道側溝断面図



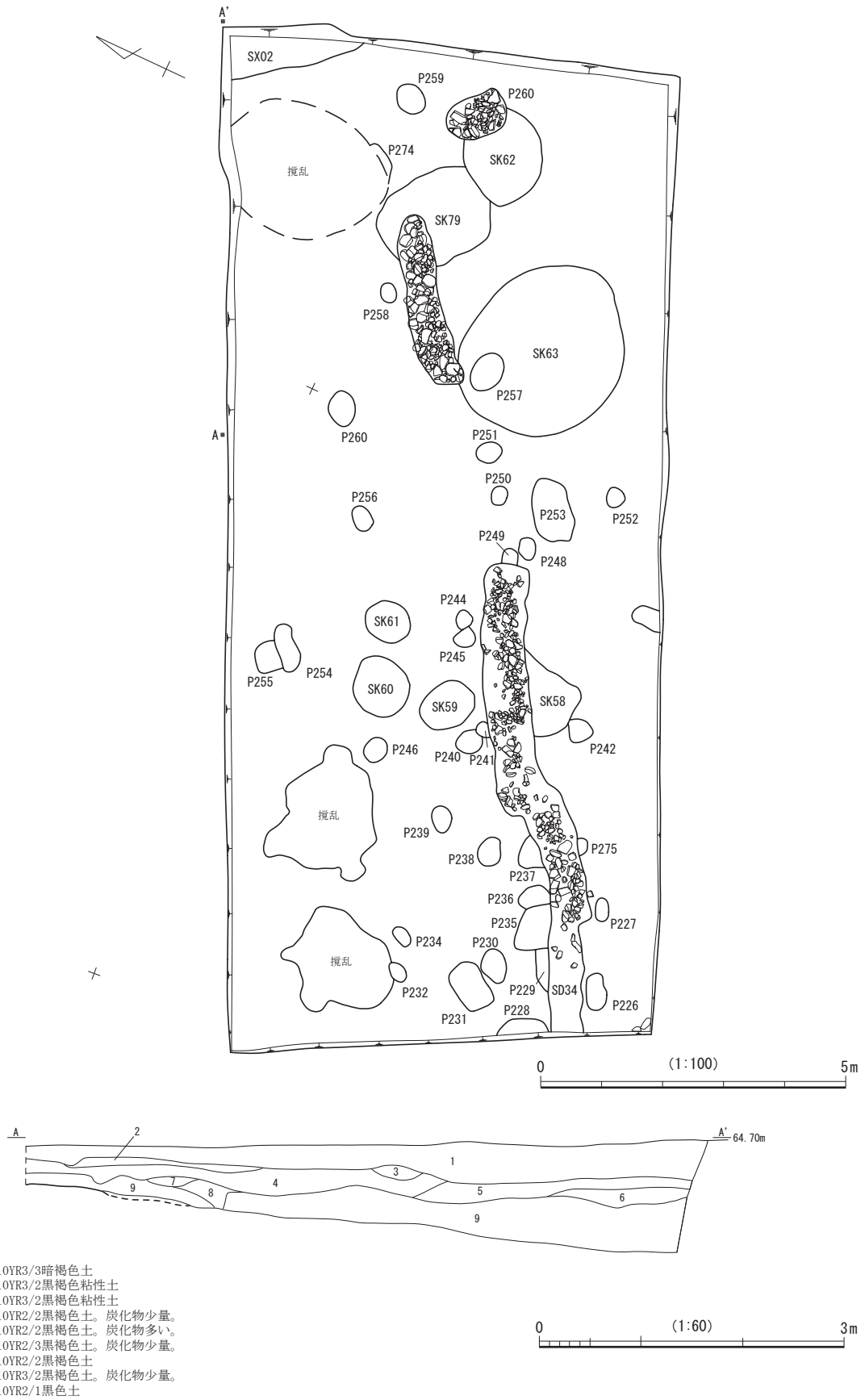
第20図 古城中2区遺構図



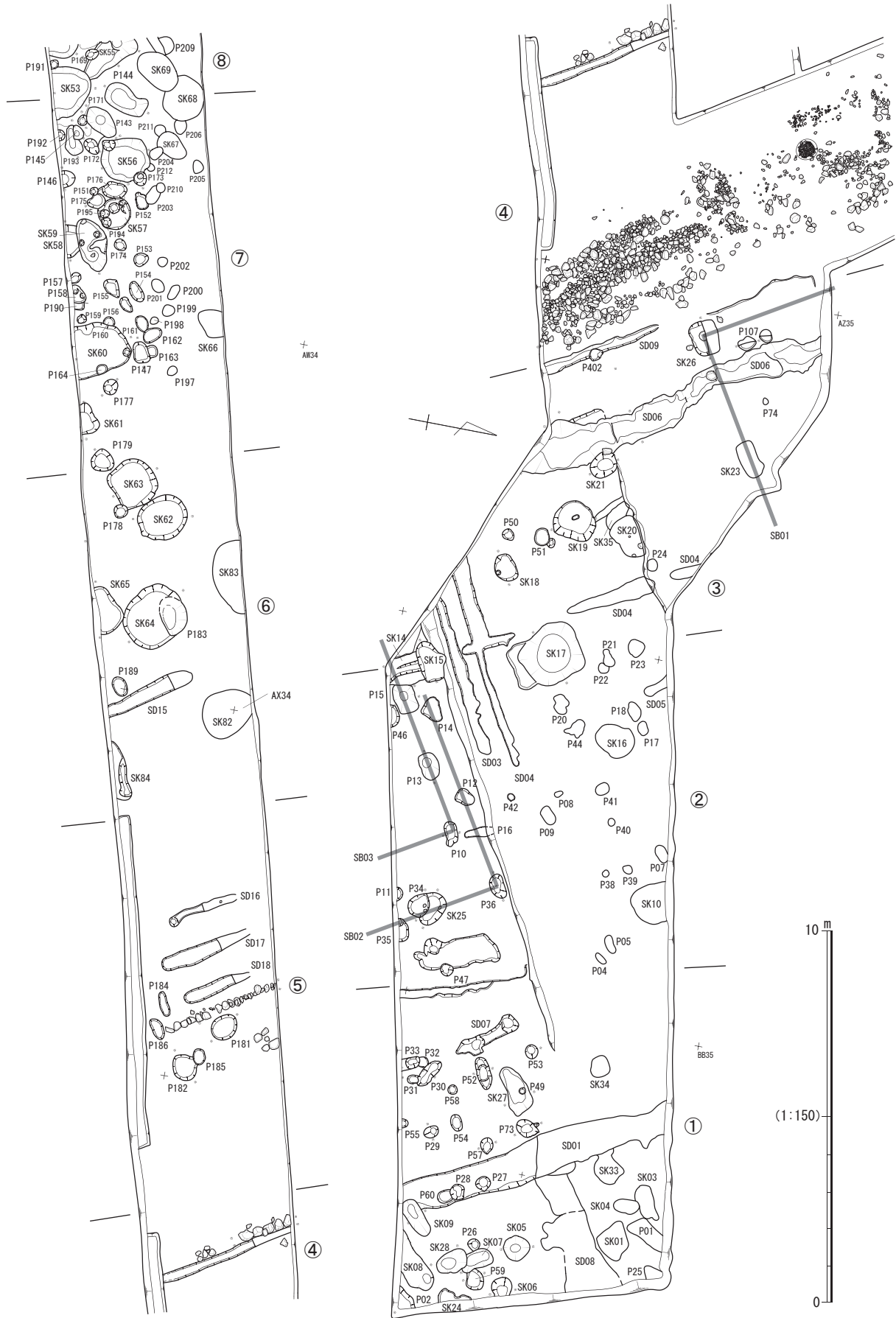
第 21 図 古城中 3 区全体図



第22図 古城中3区石垣実測図



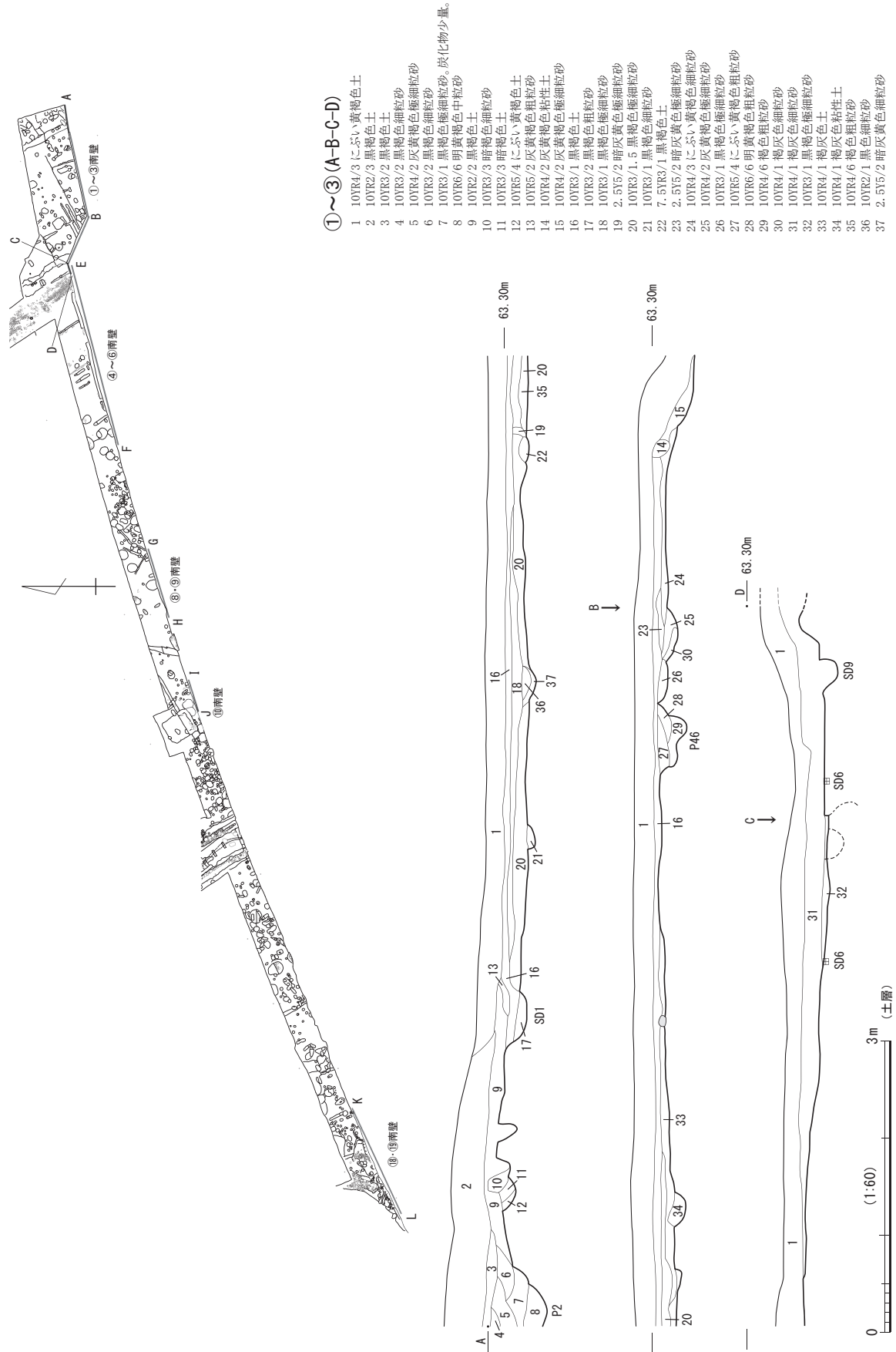
第23図 古城中6区全体図・土層図



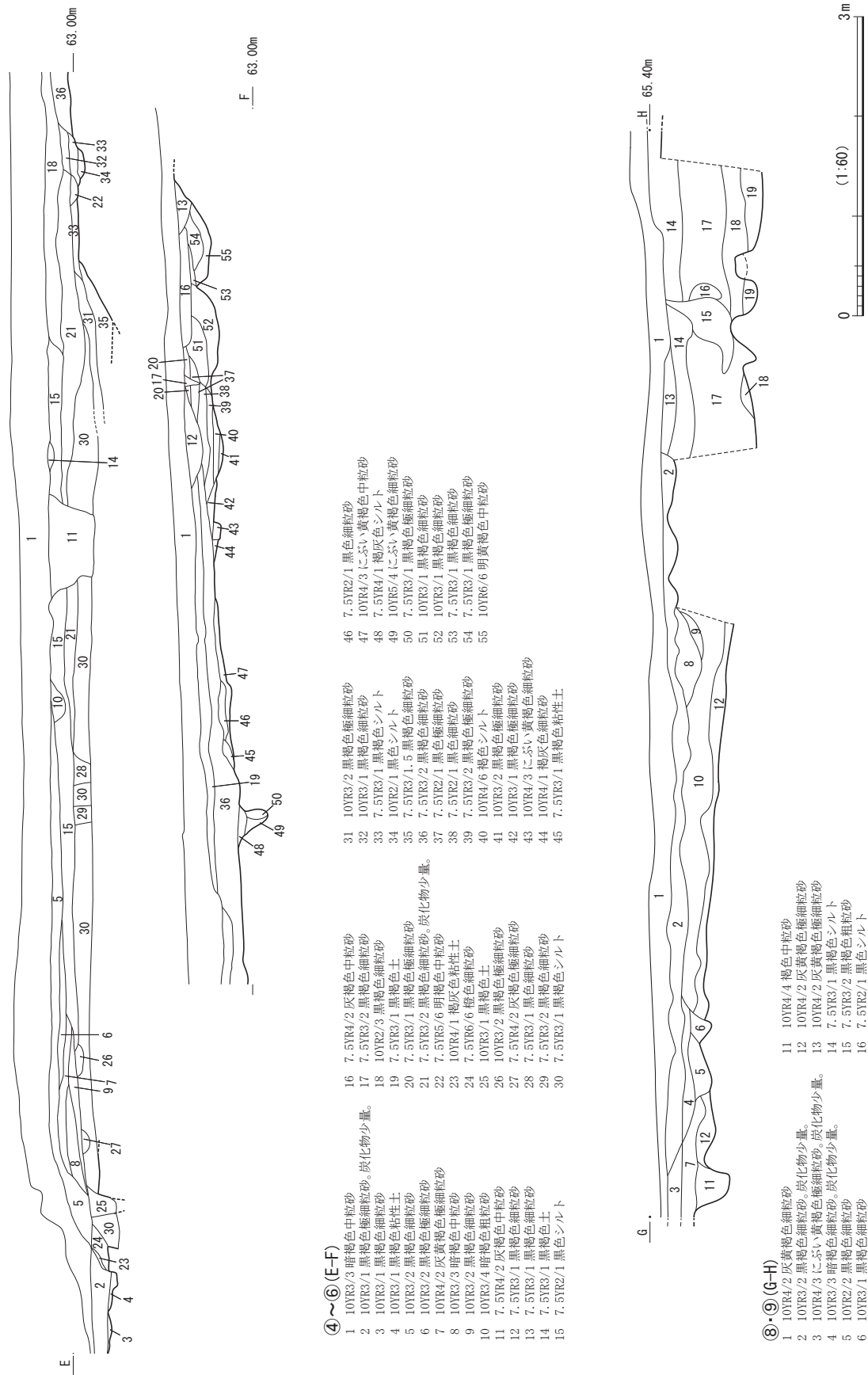
第24図 古城南区全体図1



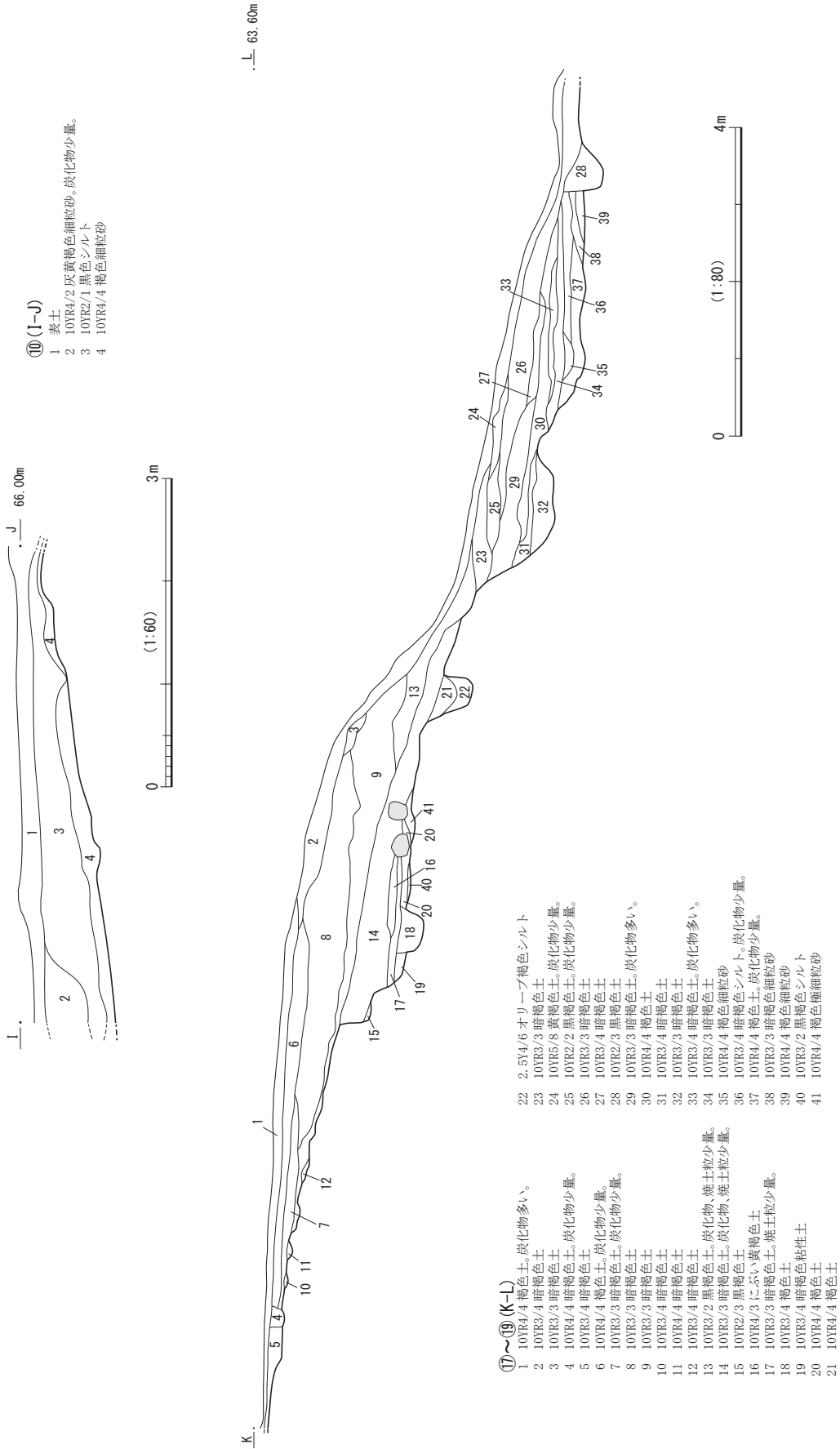
第26図 古城南区全体図3



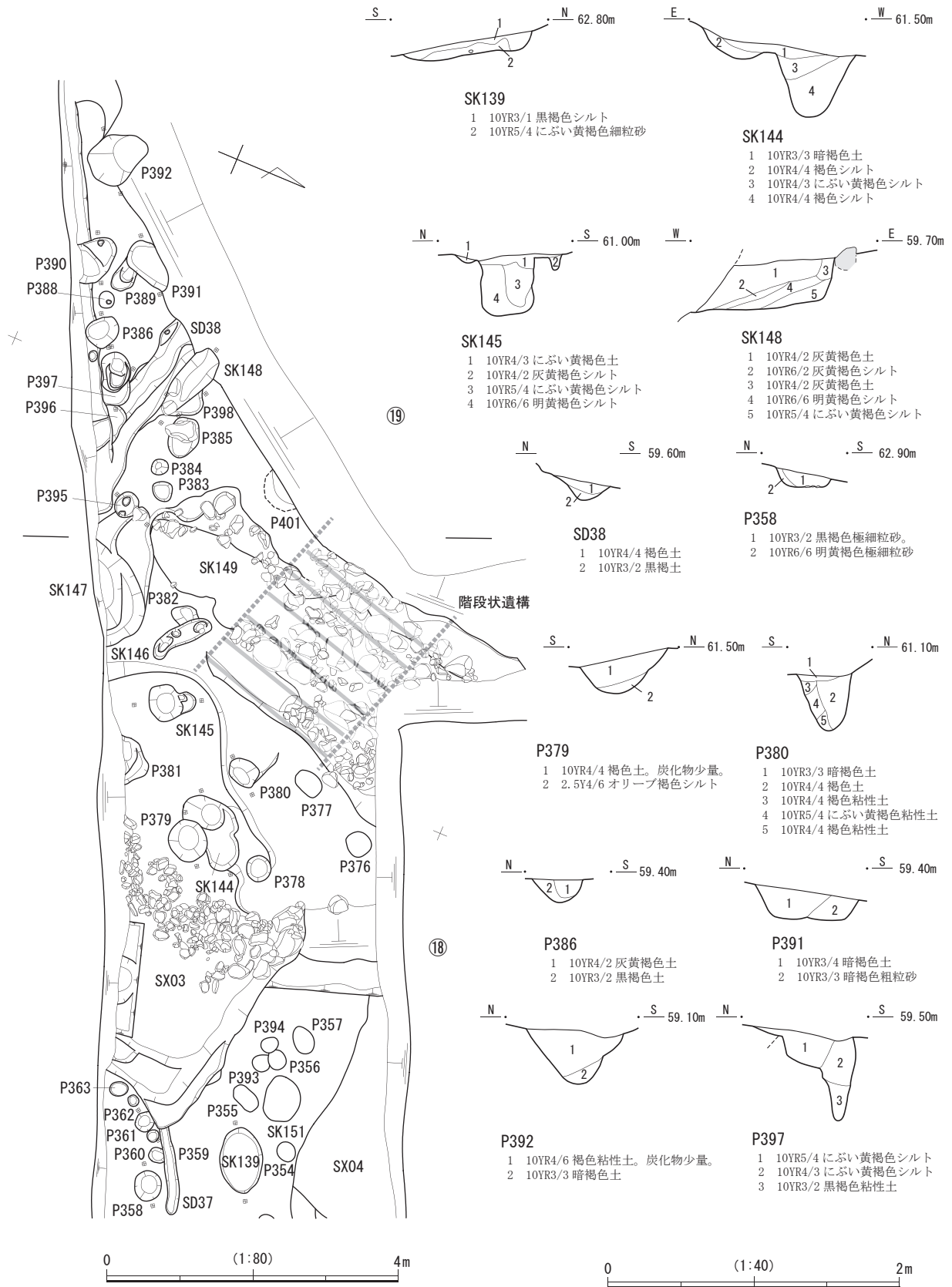
第27図 古城南区土層図1



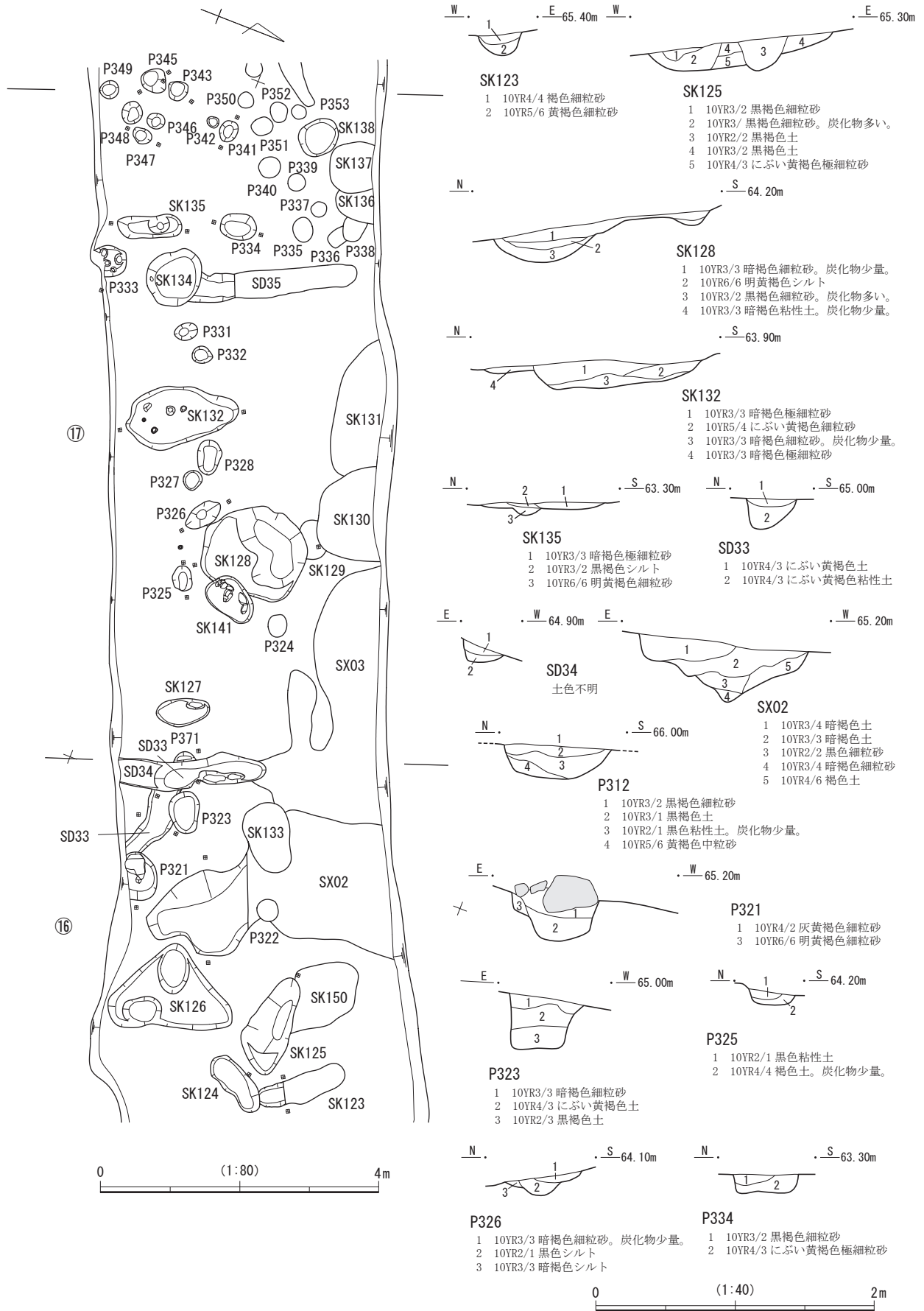
第28図 古城南区土層図2



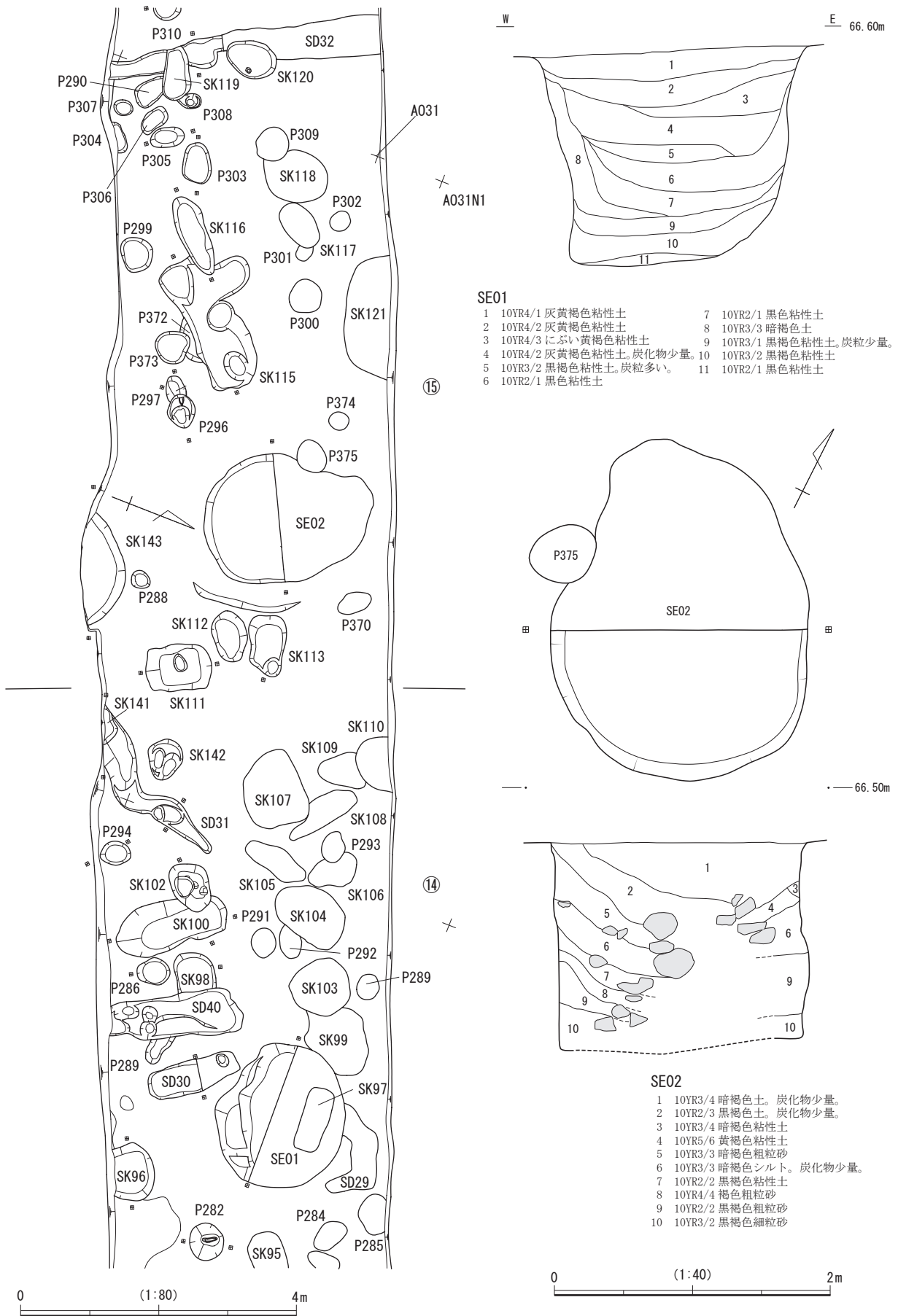
第29図 古城南区土層図3



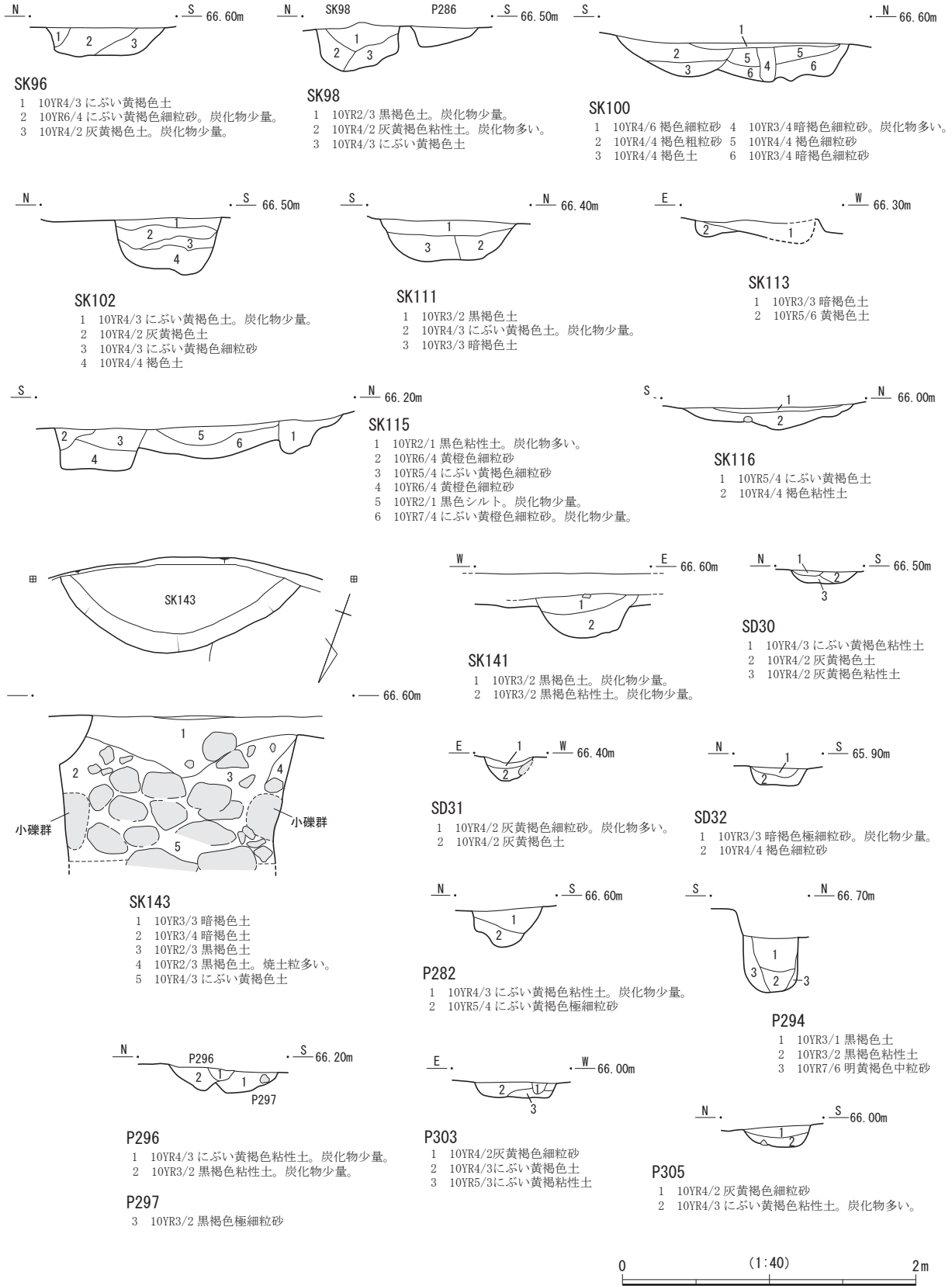
第30図 古城南区遺構図1 (⑱・⑲区)



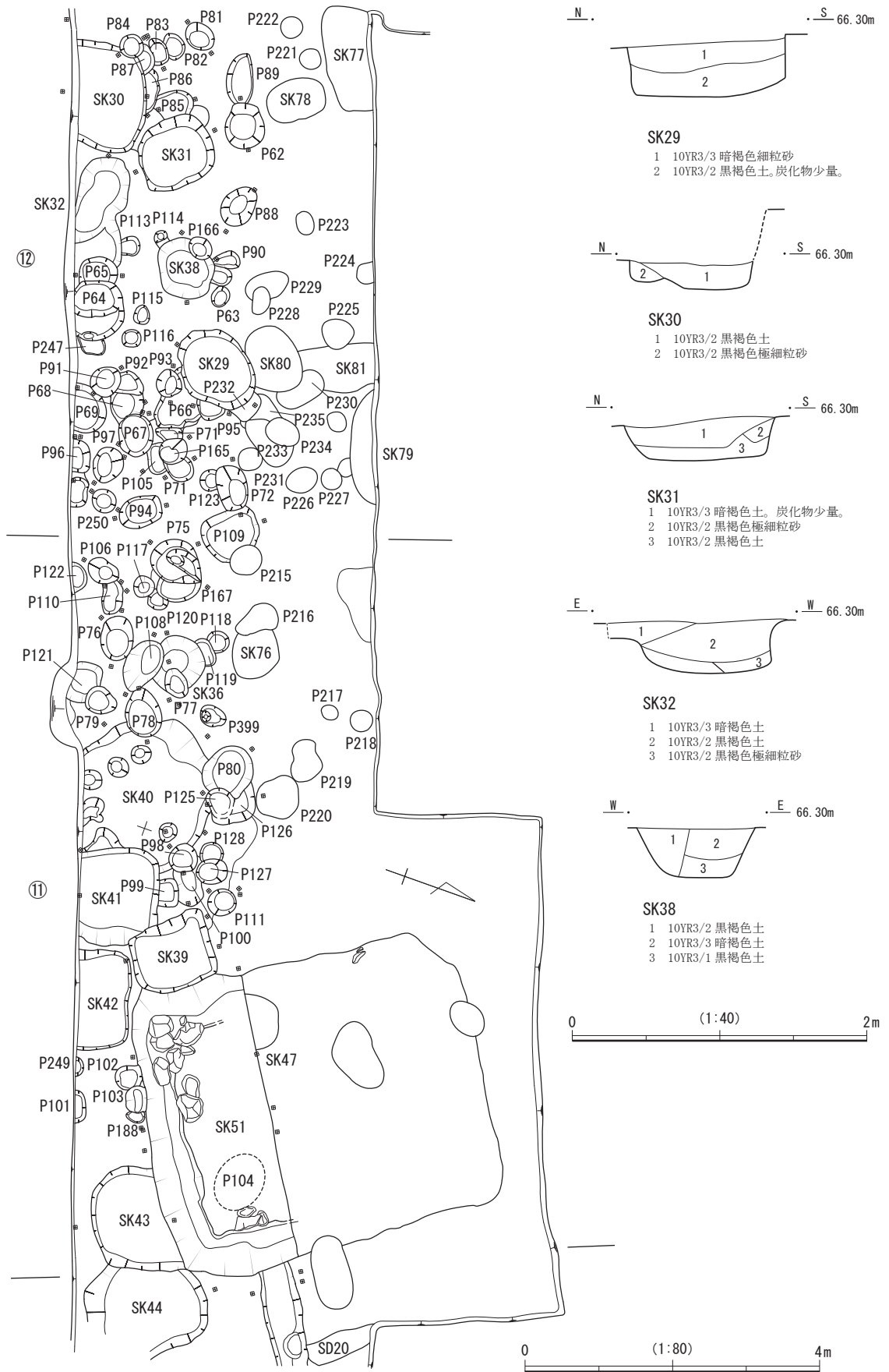
第31図 古城南区遺構図2 (16・17区)



第3章 調査の成果

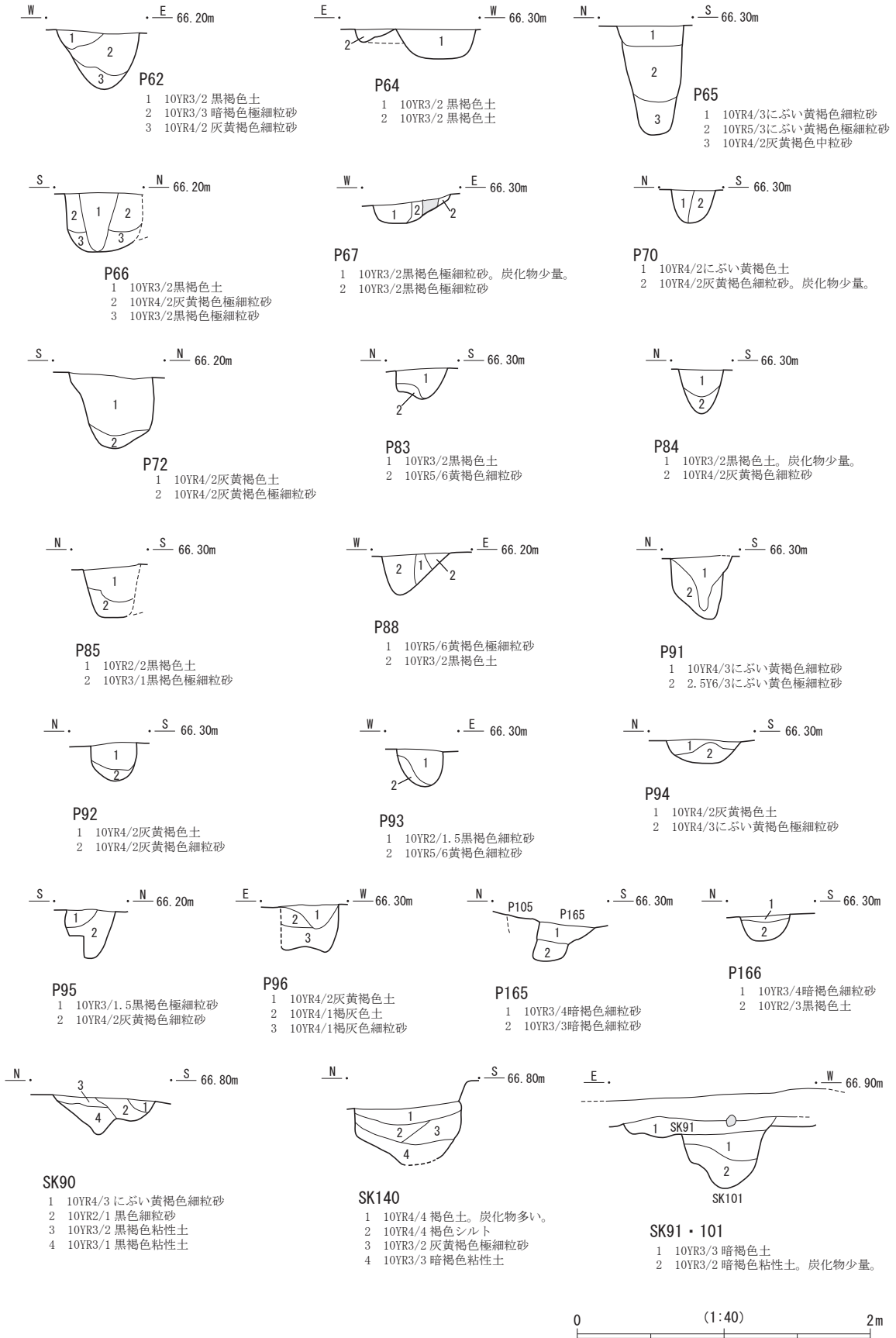


第33図 古城南区遺構図4 (⑭・⑮区)

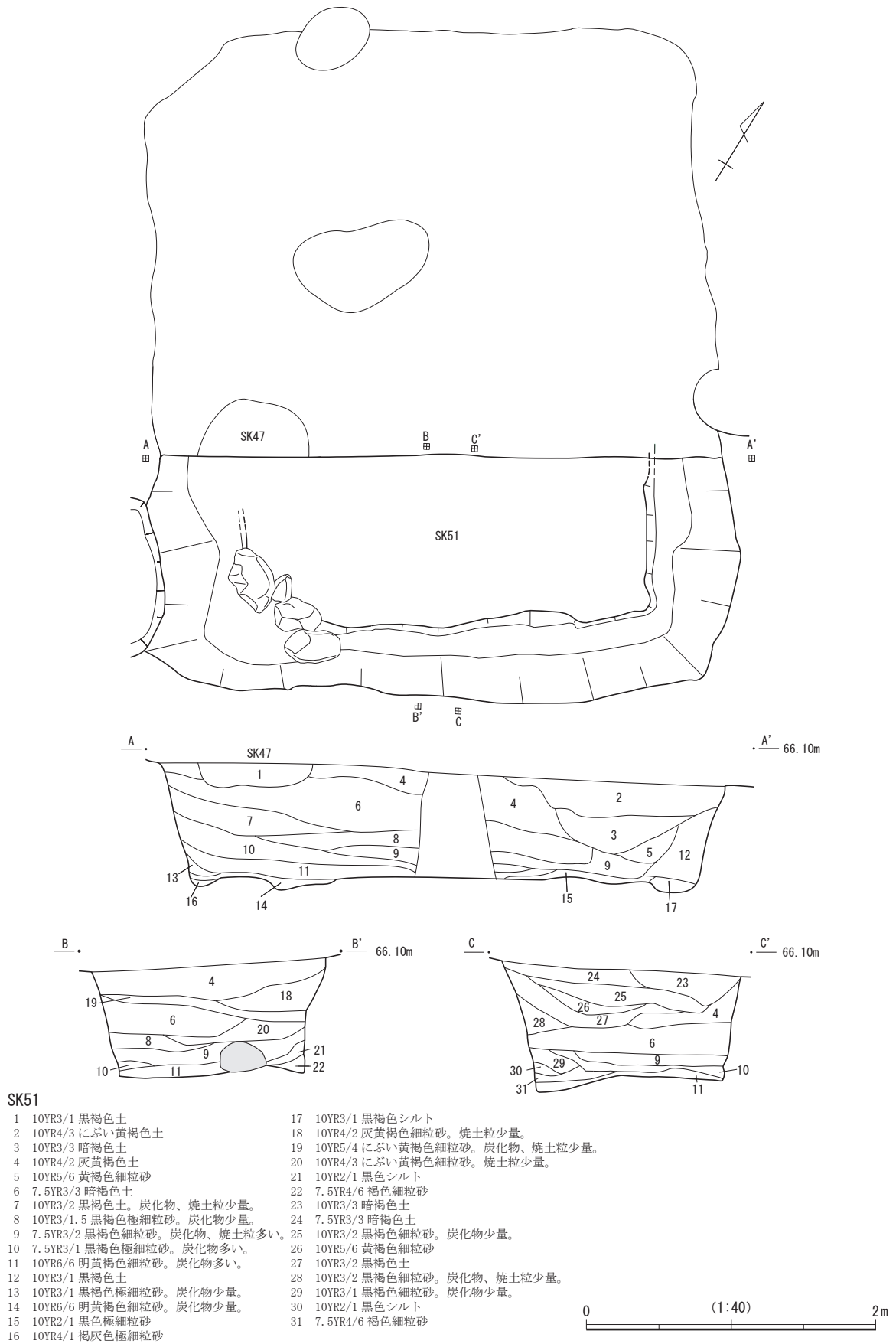


第34図 古城南区遺構図5 (⑪・⑫区)

第3章 調査の成果

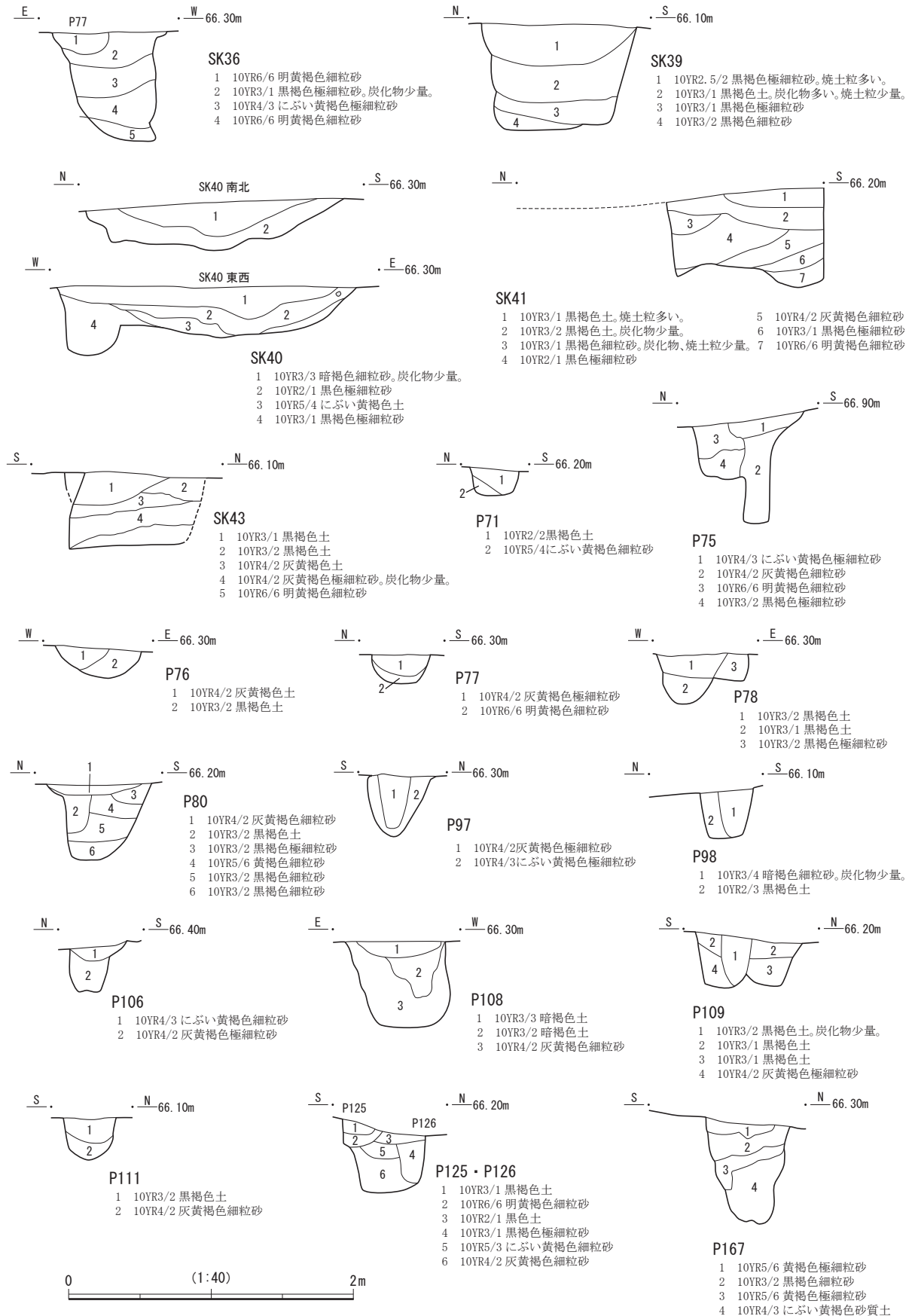


第35図 古城南区遺構図6 (⑫・⑬区)

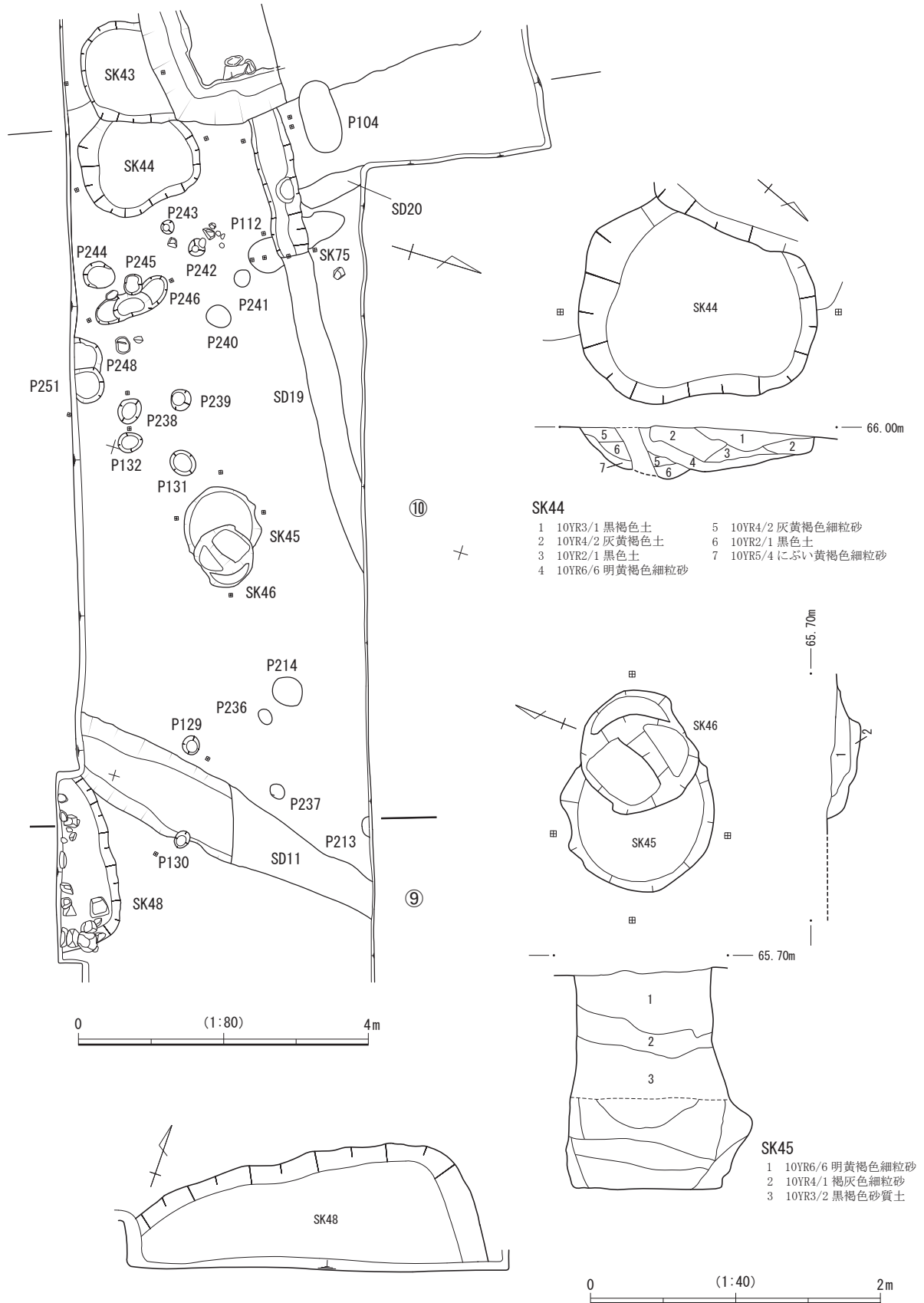


第36図 古城南区遺構図7 (①区)

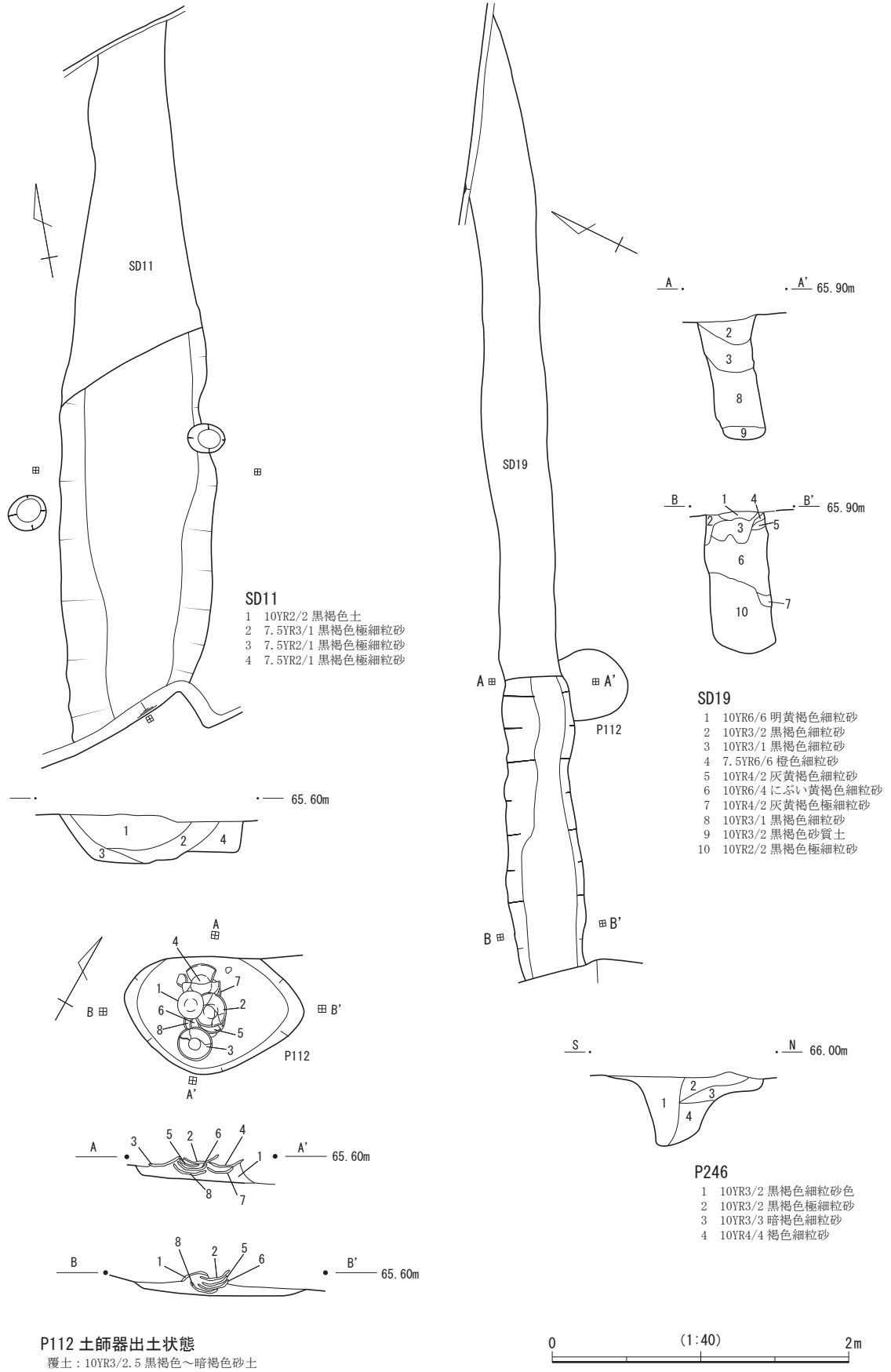
第3章 調査の成果



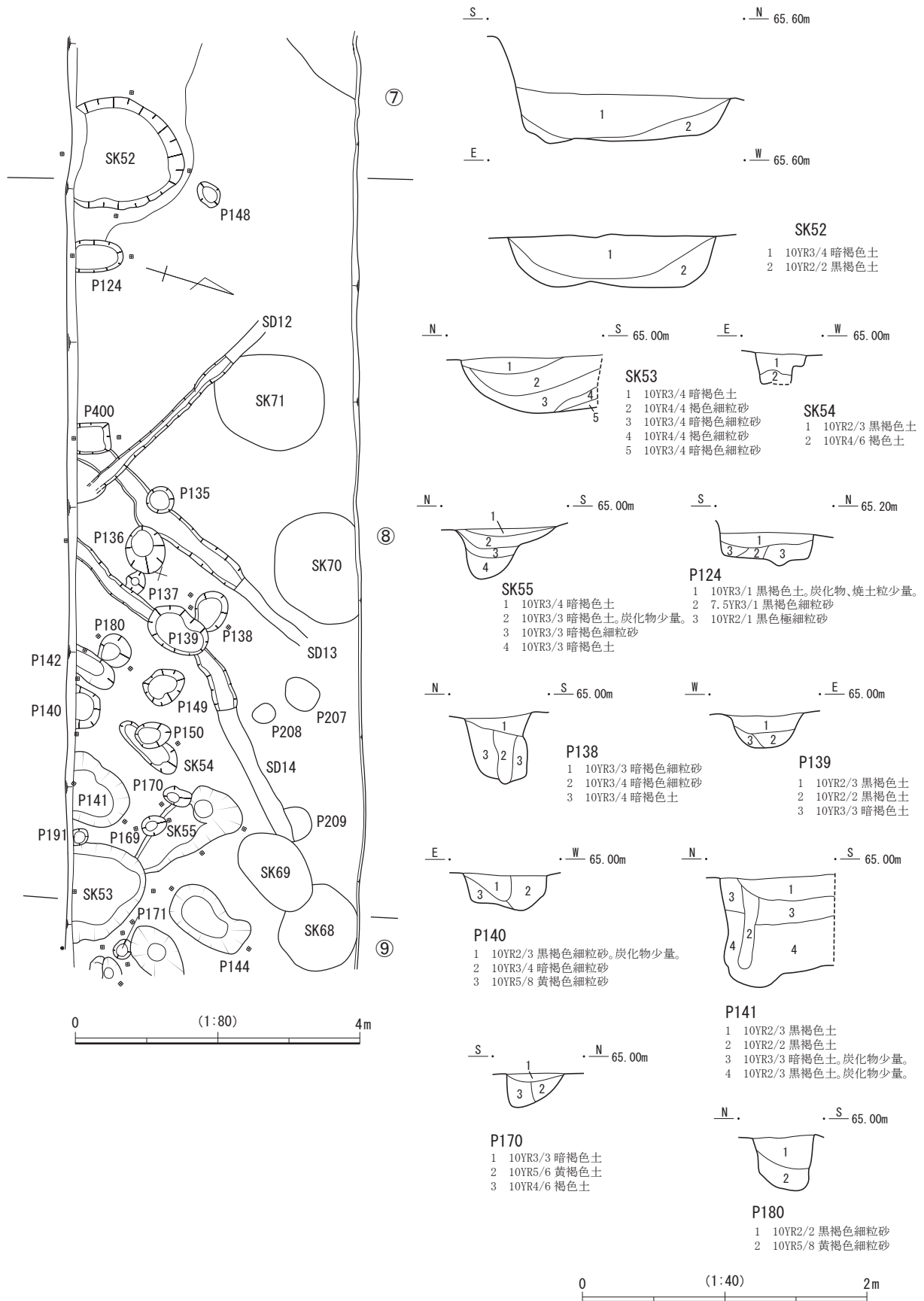
第37図 古城南区遺構図8 (①区)



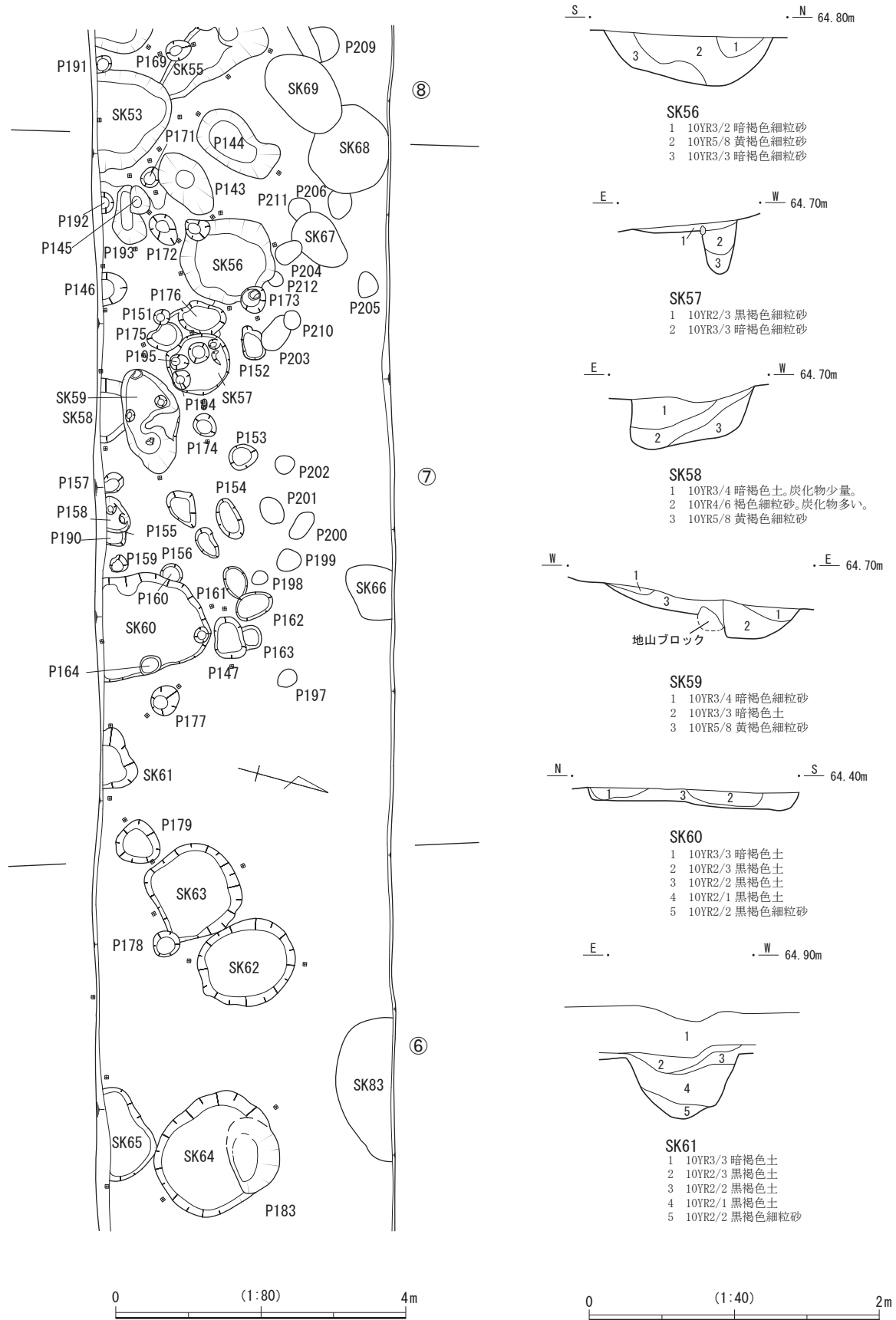
第38図 古城南区遺構図9 (⑨・⑩区)



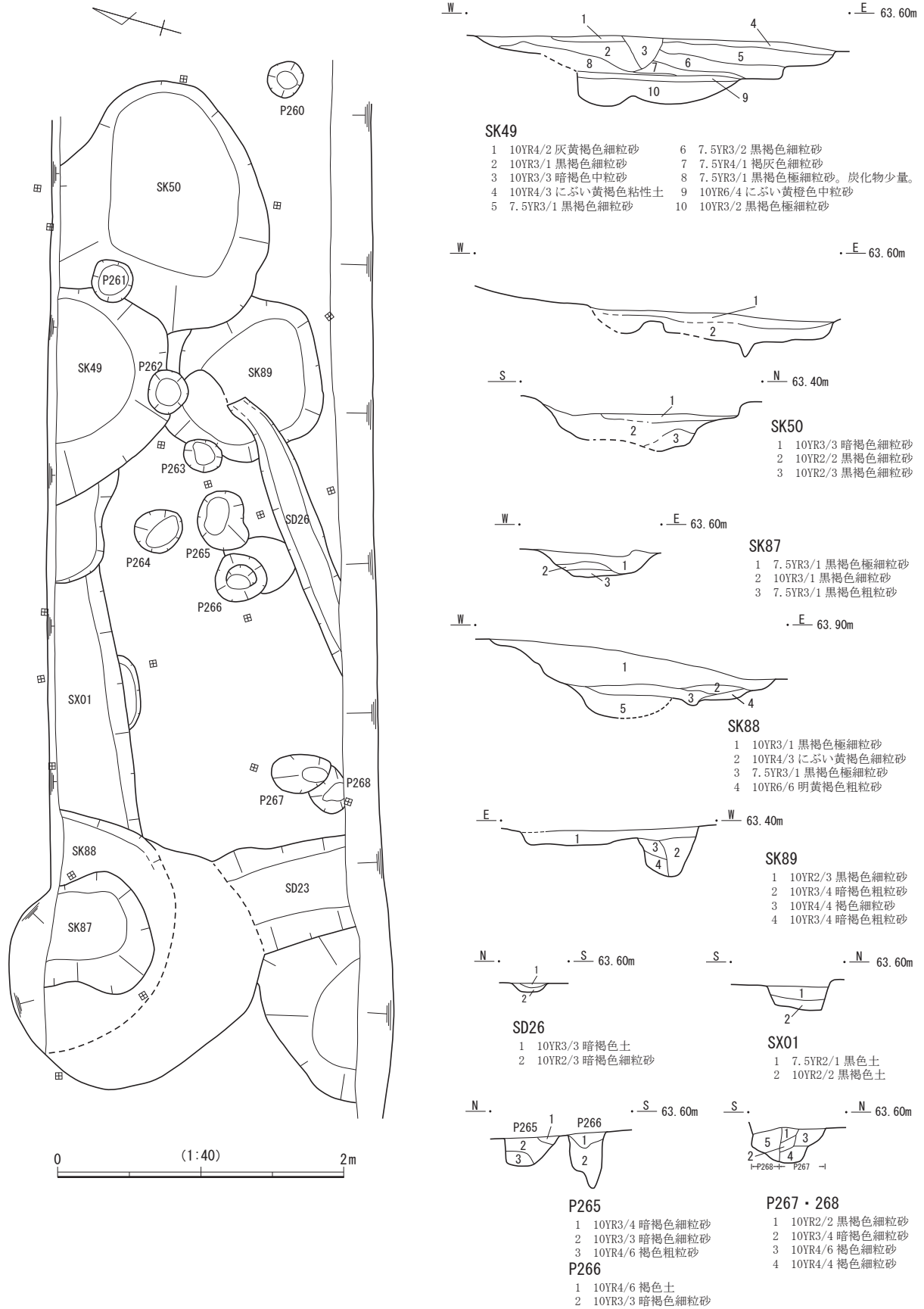
第39図 古城南区遺構図10 (⑨・⑩区)



第40図 古城南区遺構図11 (⑧区)

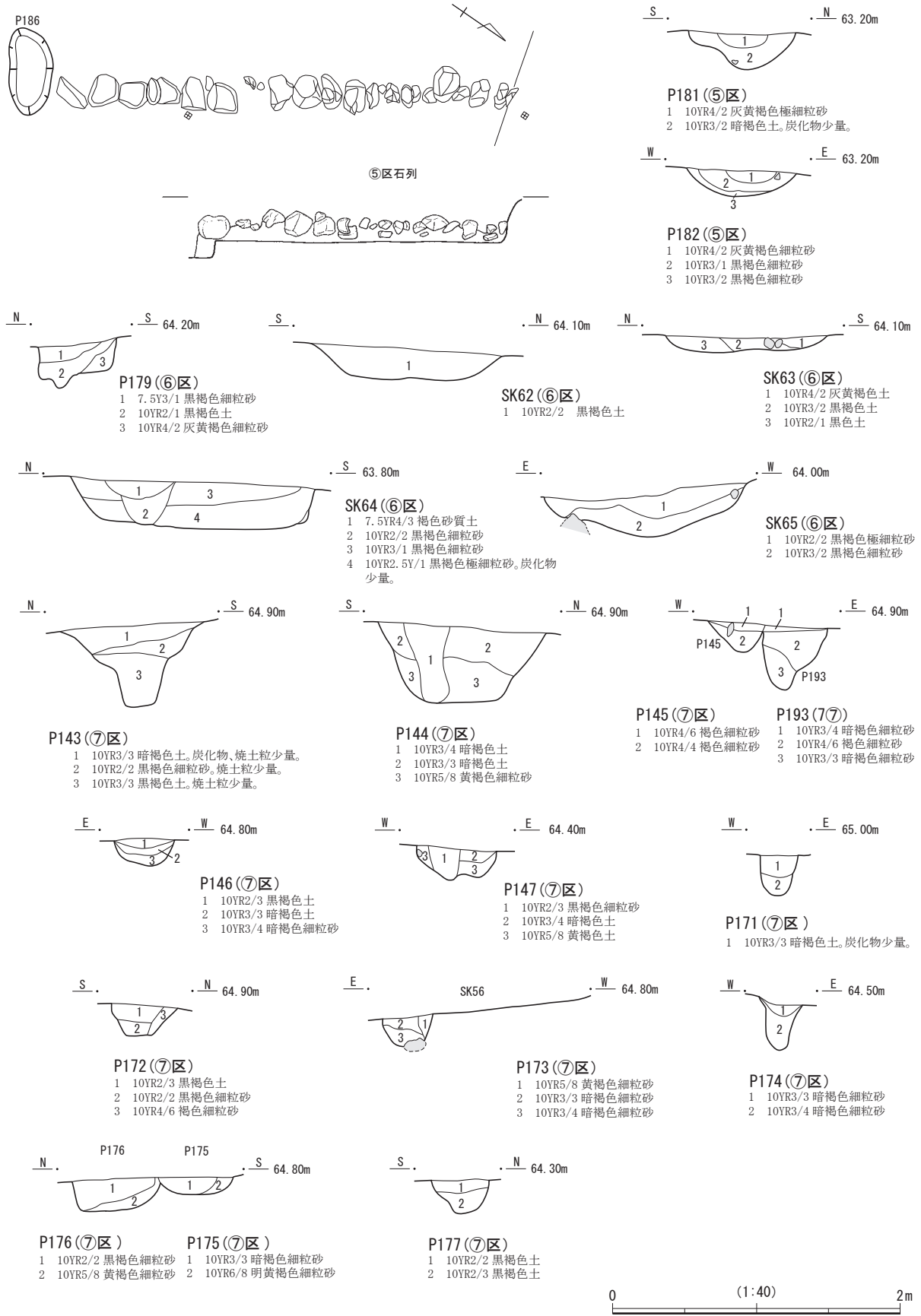


第41図 古城南区遺構図12 (⑥・⑦区)

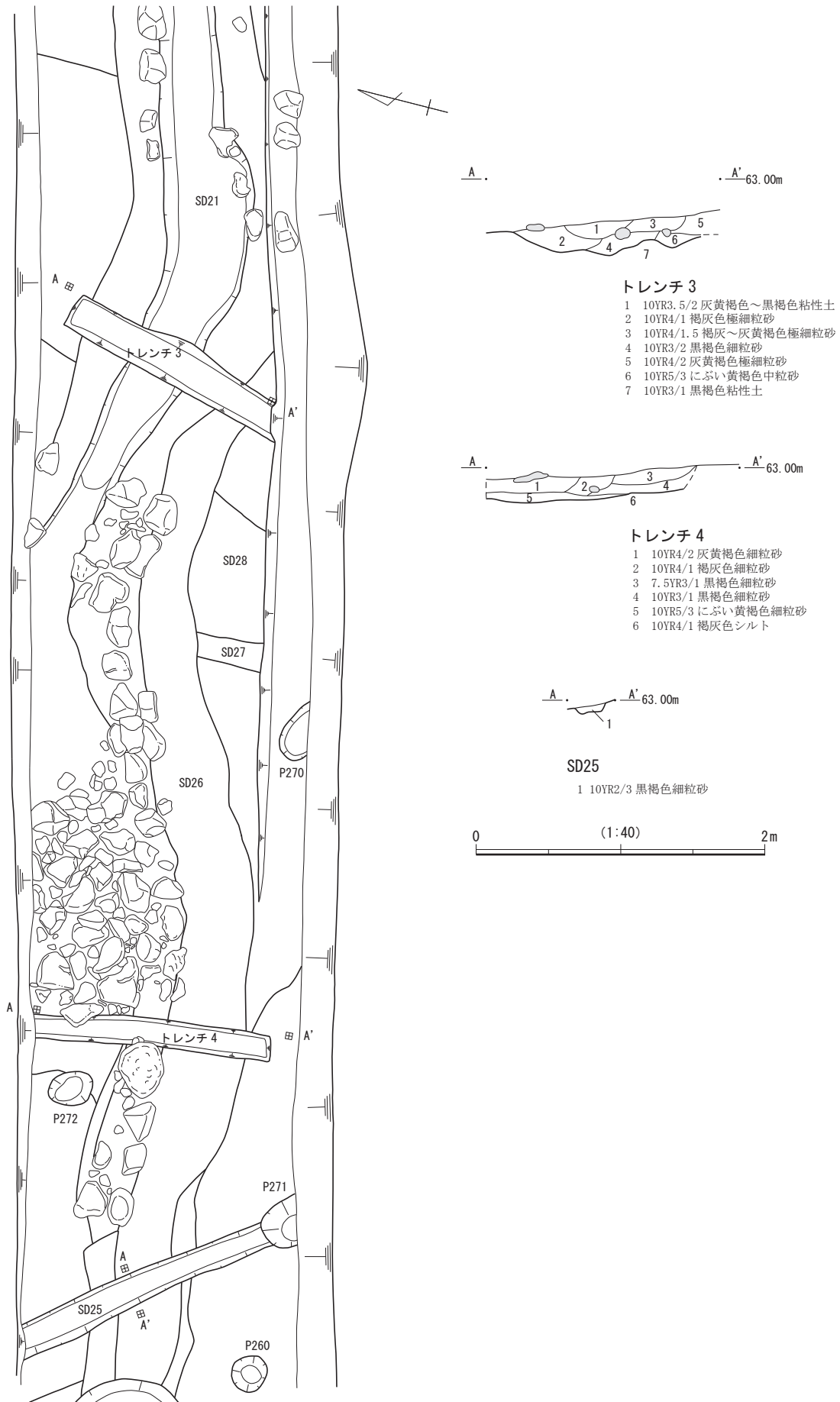


第42図 古城南区遺構図13 (⑥区2面)

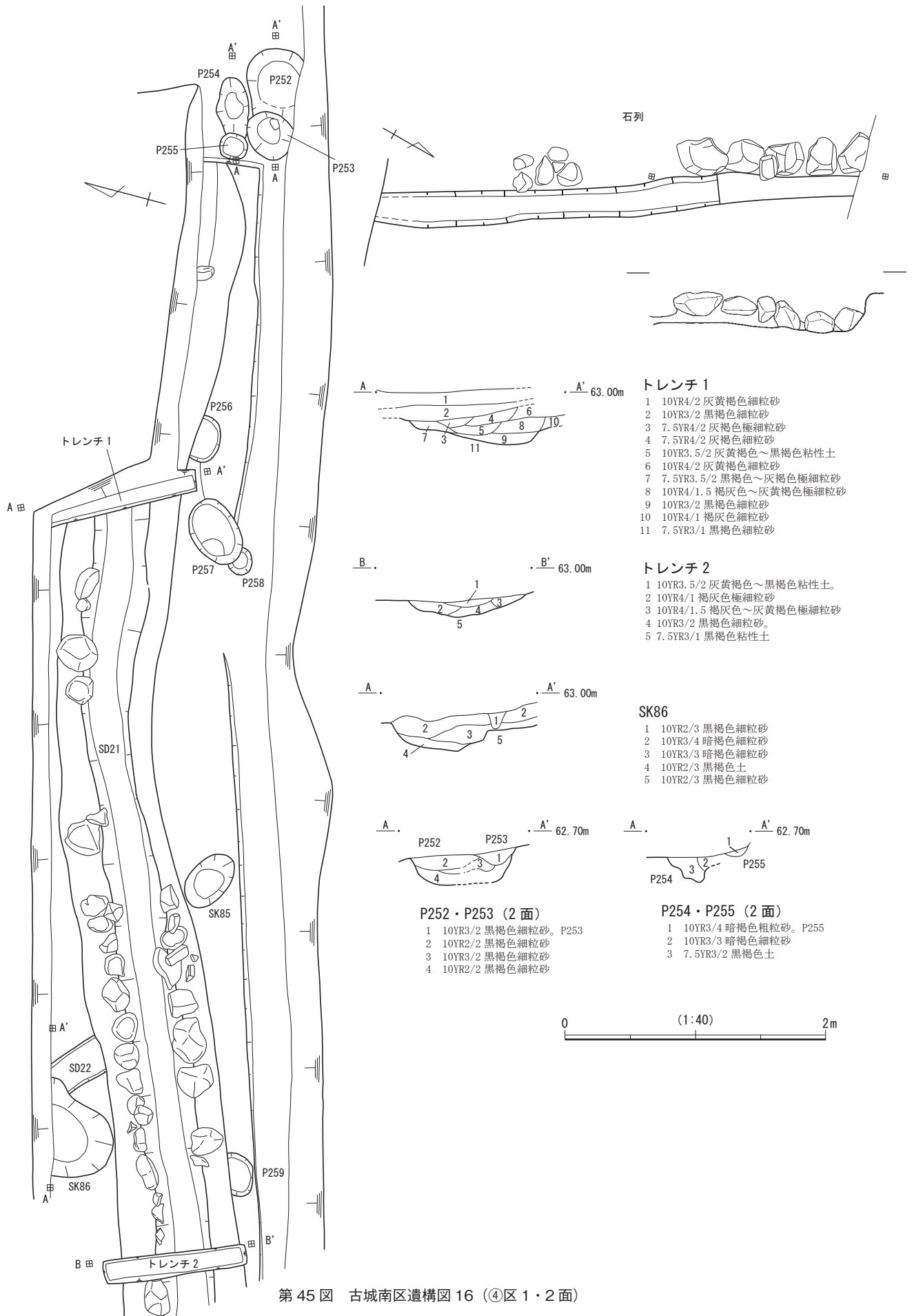
第3章 調査の成果



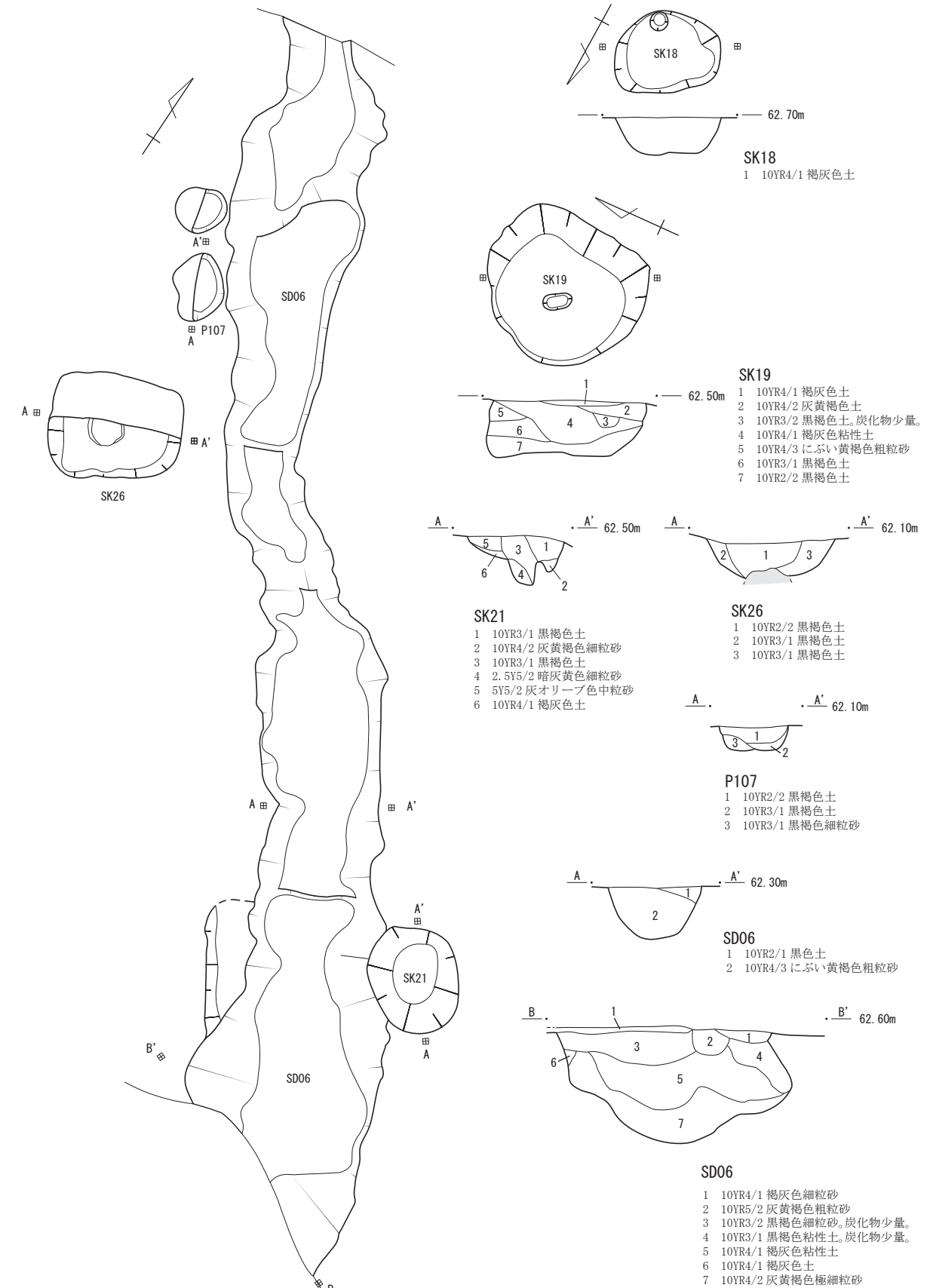
第 43 図 古城南区遺構図 14 (⑤・⑥・⑦区)



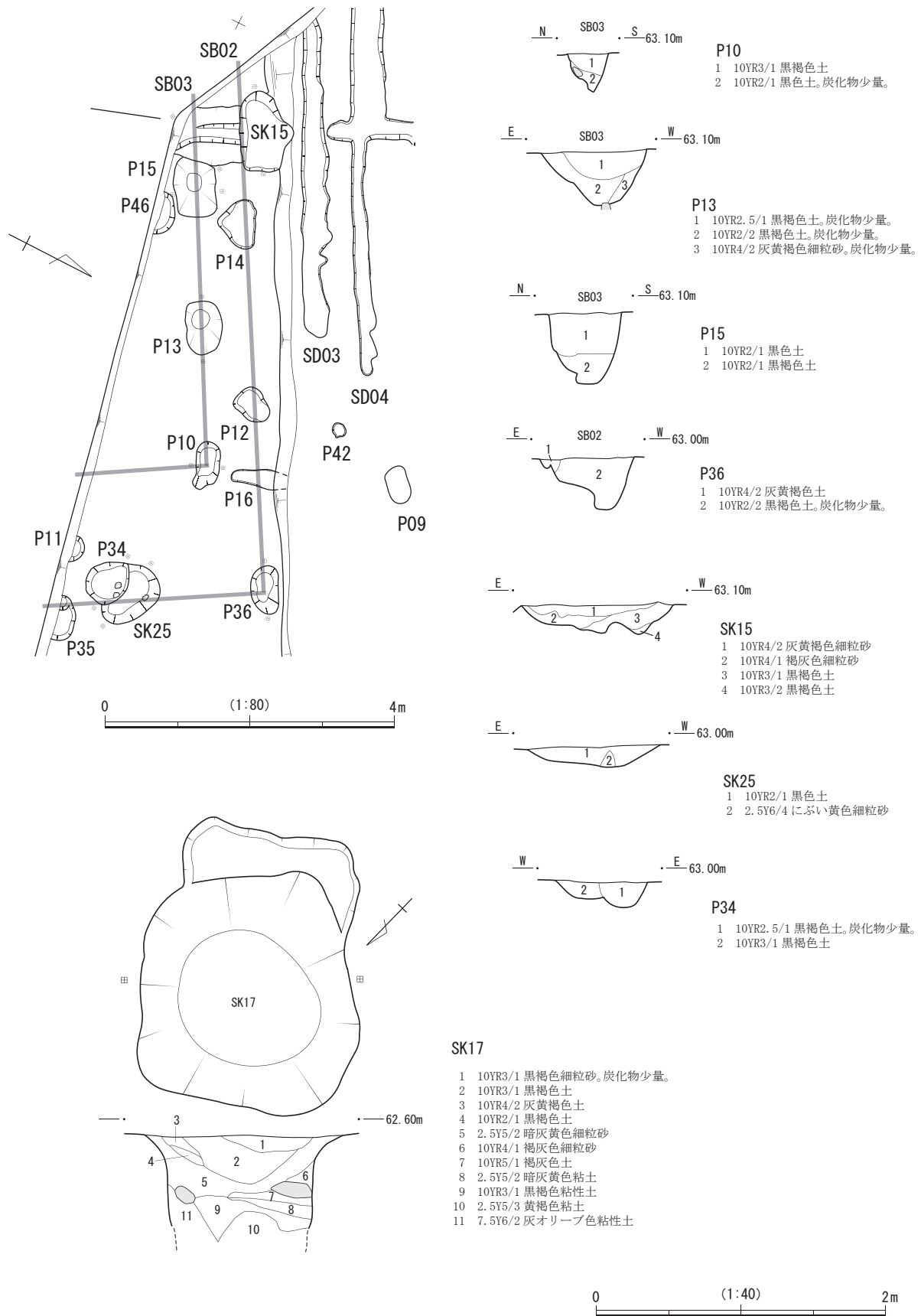
第44図 古城南区遺構図15 (⑤区2面)



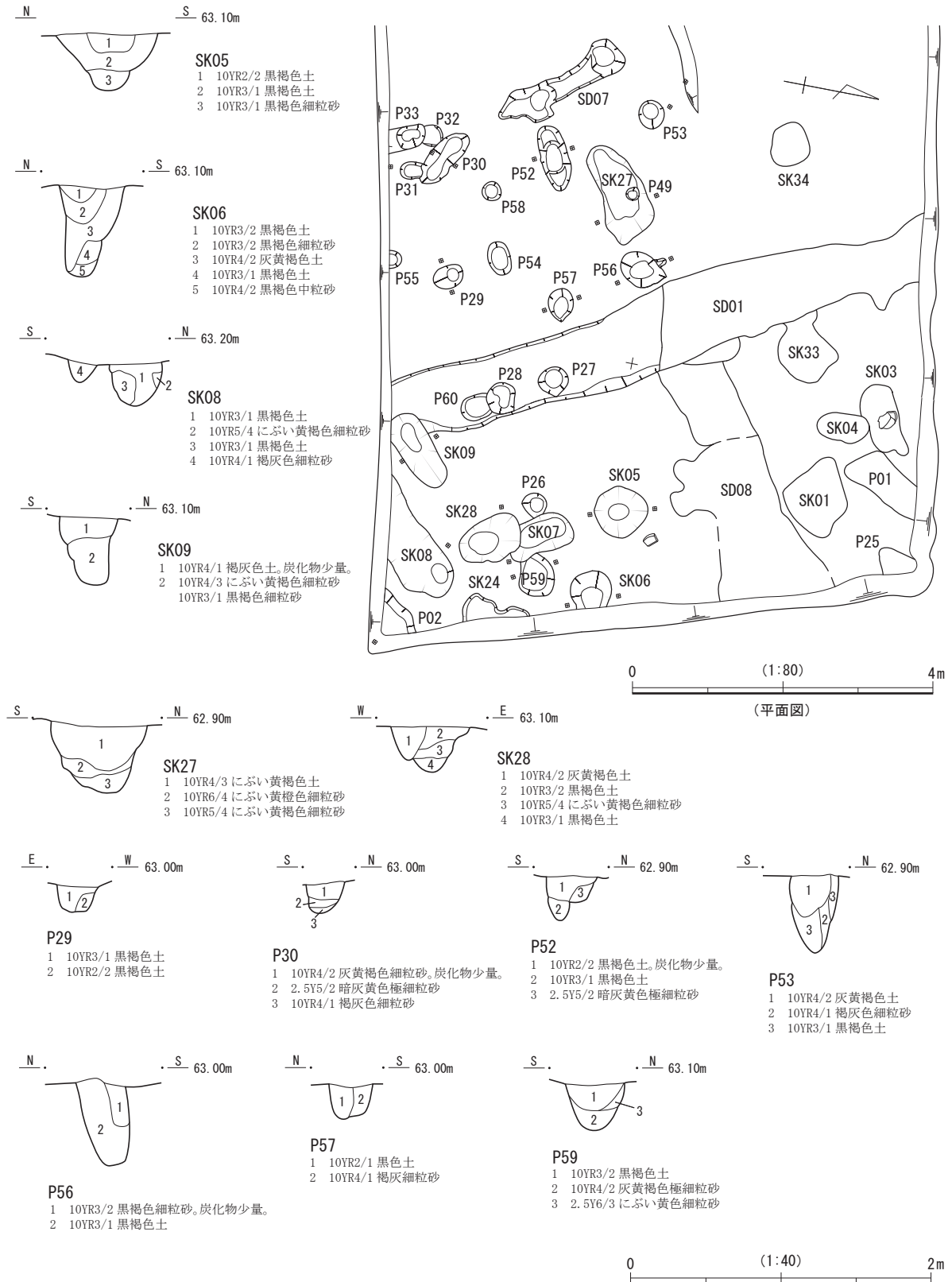
第45図 古城南区遺構図16 (④区1・2面)



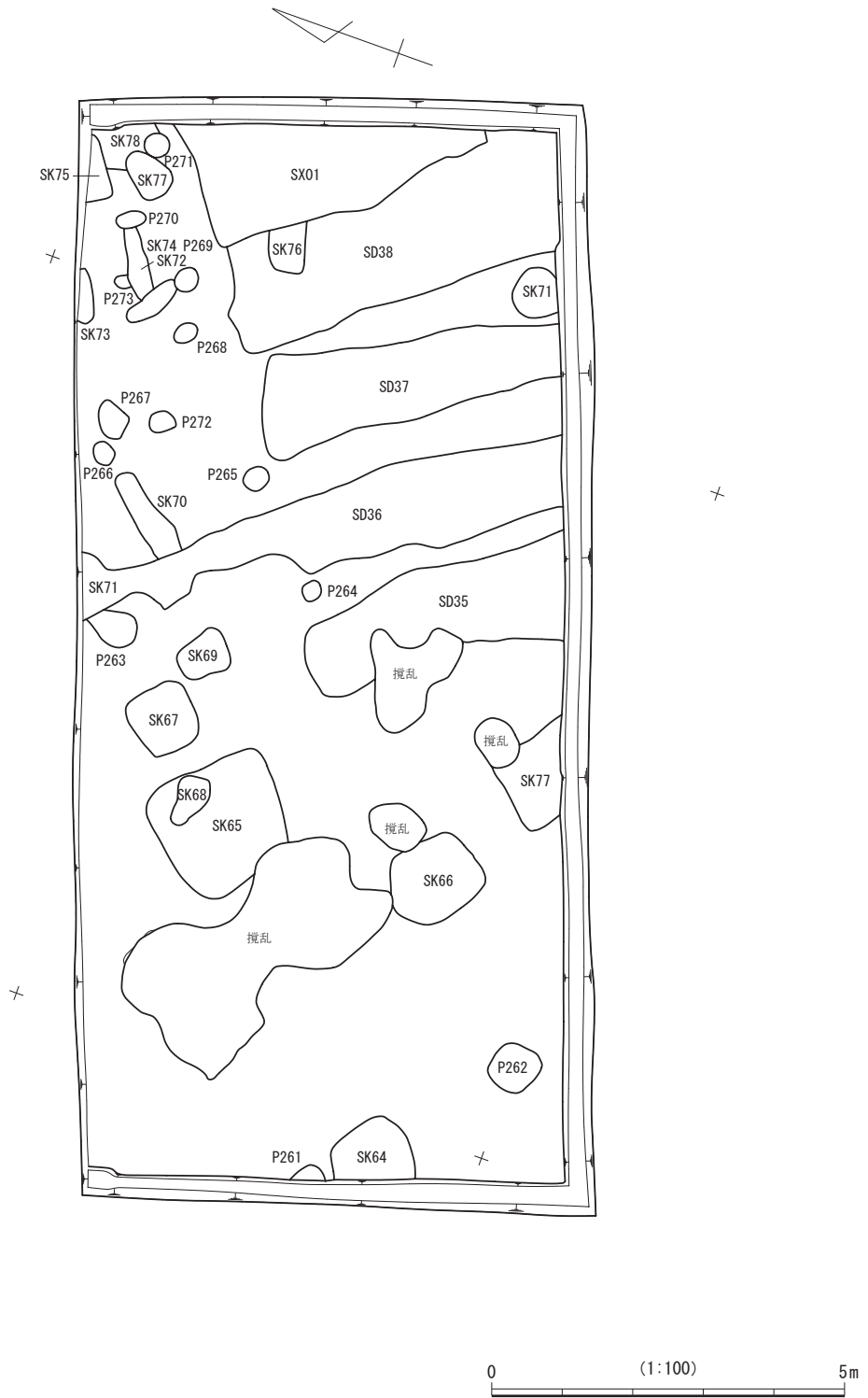
第46図 古城南区遺構図17 (③区)



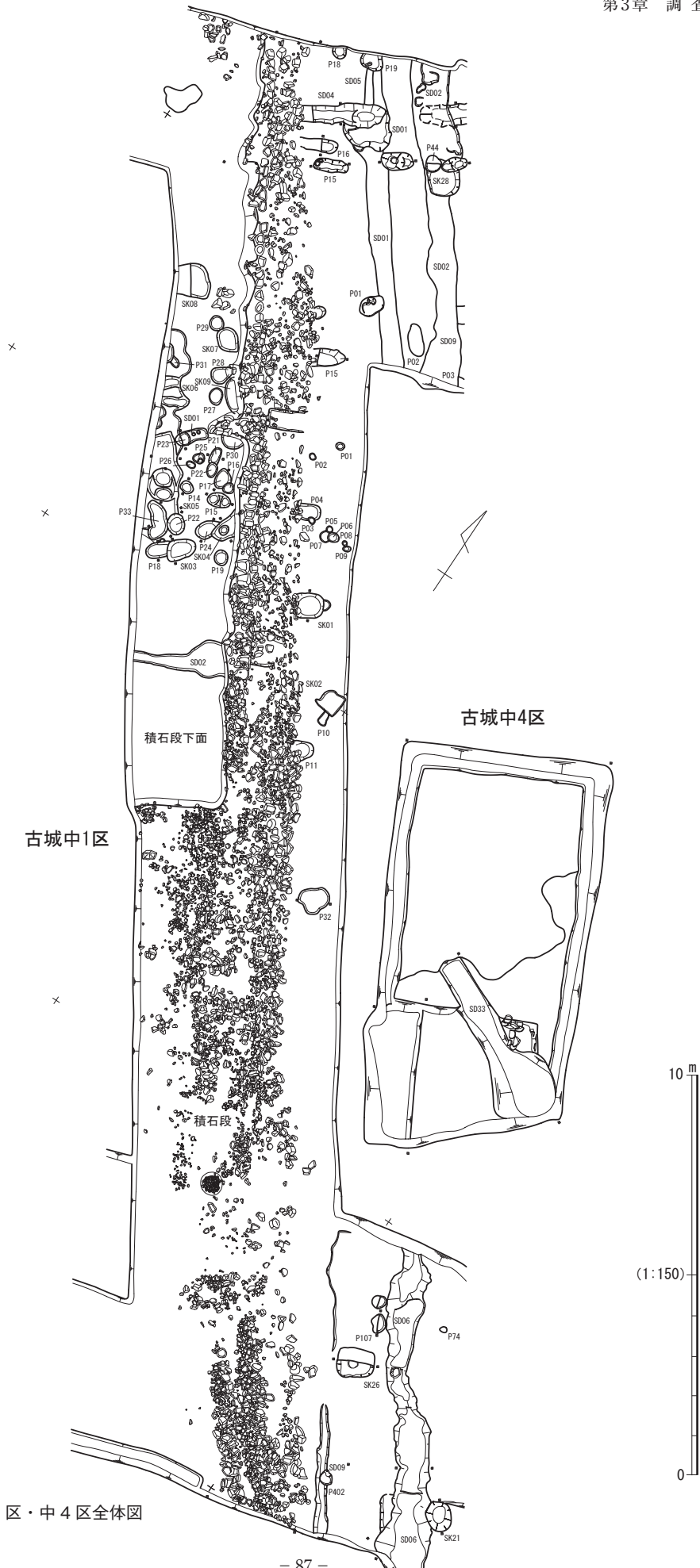
第 47 図 古城南区遺構図 18 (②区)



第48図 古城南区遺構図19 (①区)



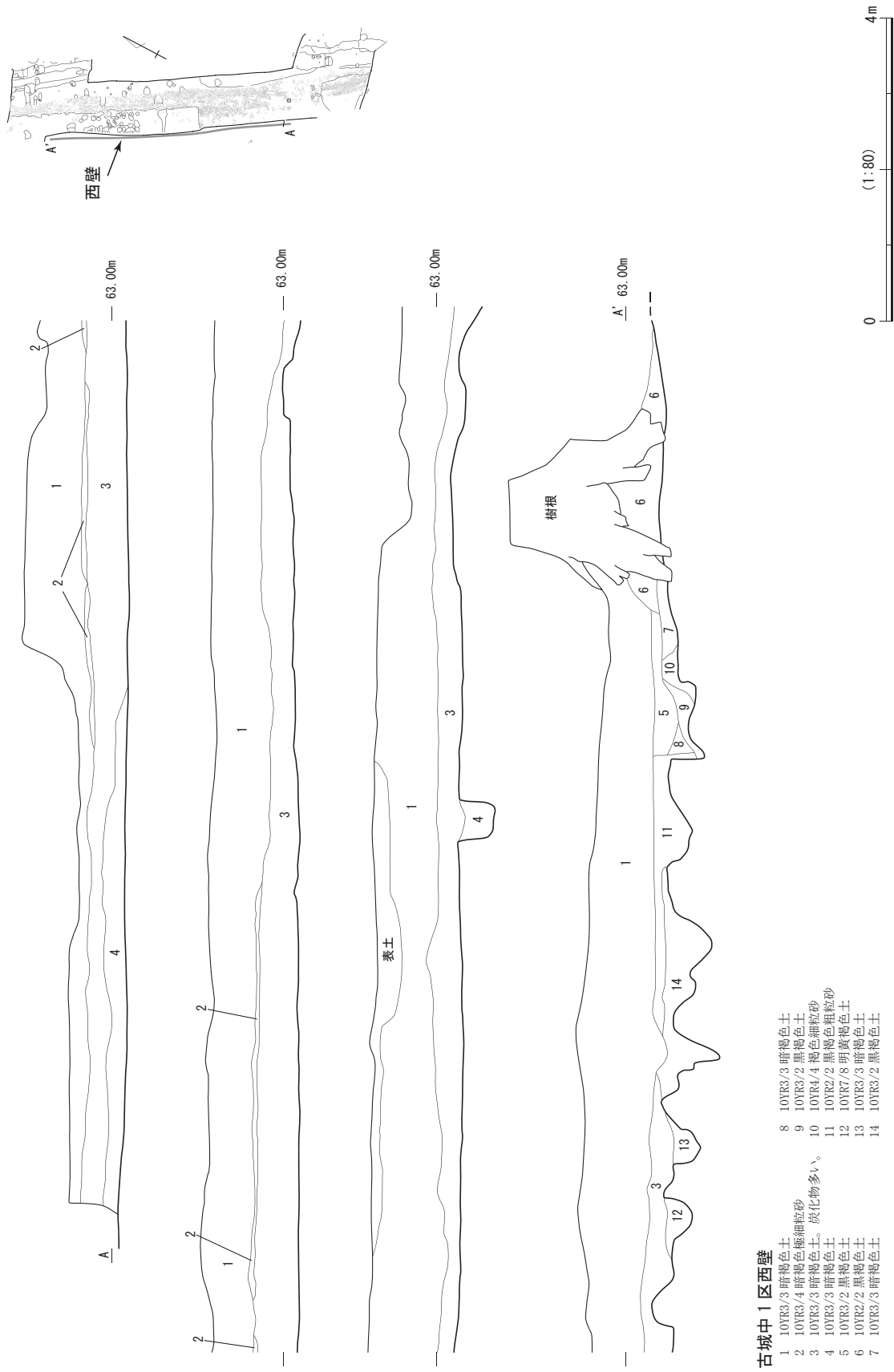
第49図 古城中5区全体図



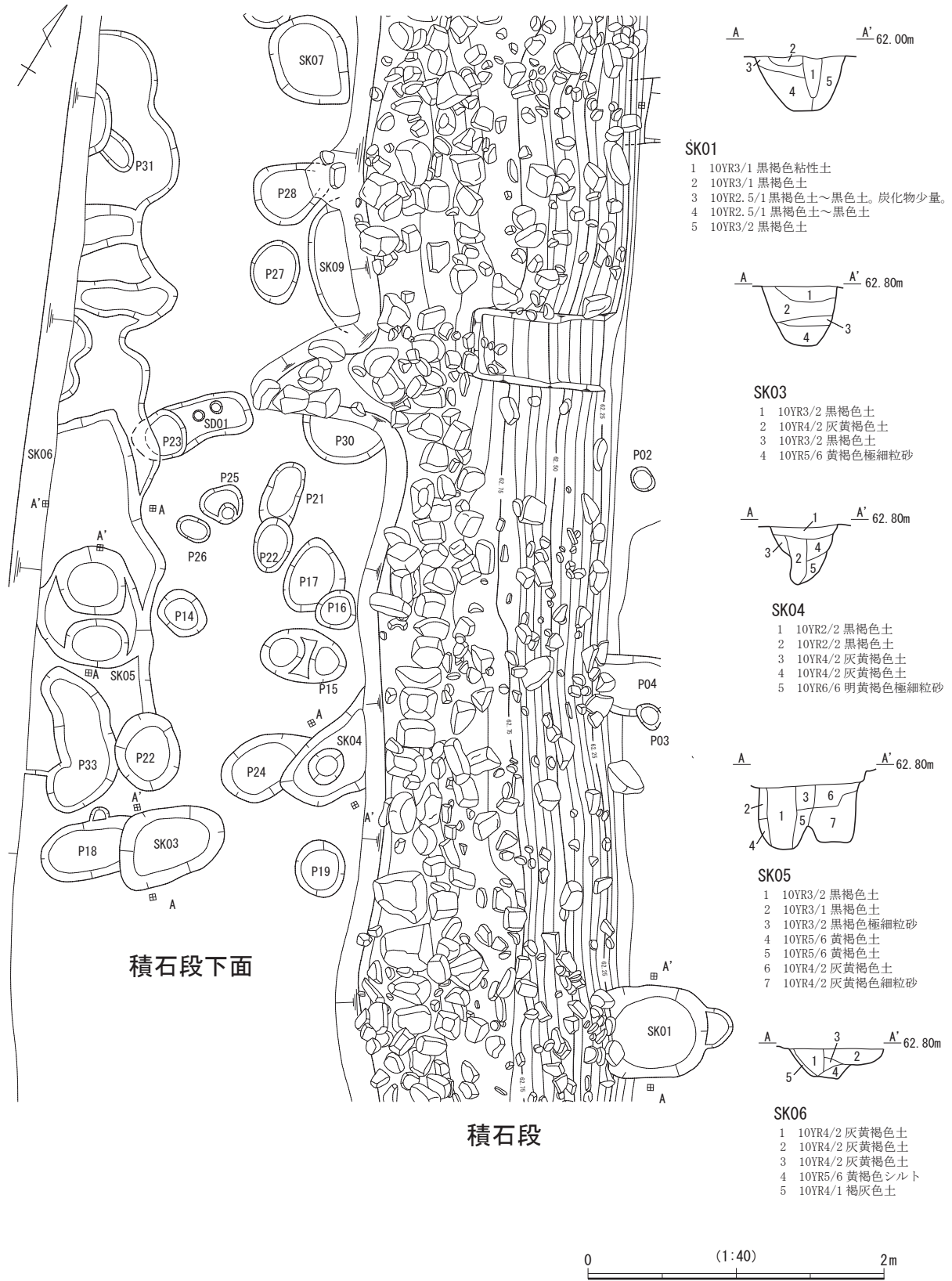
第50図 古城中1区・中4区全体図



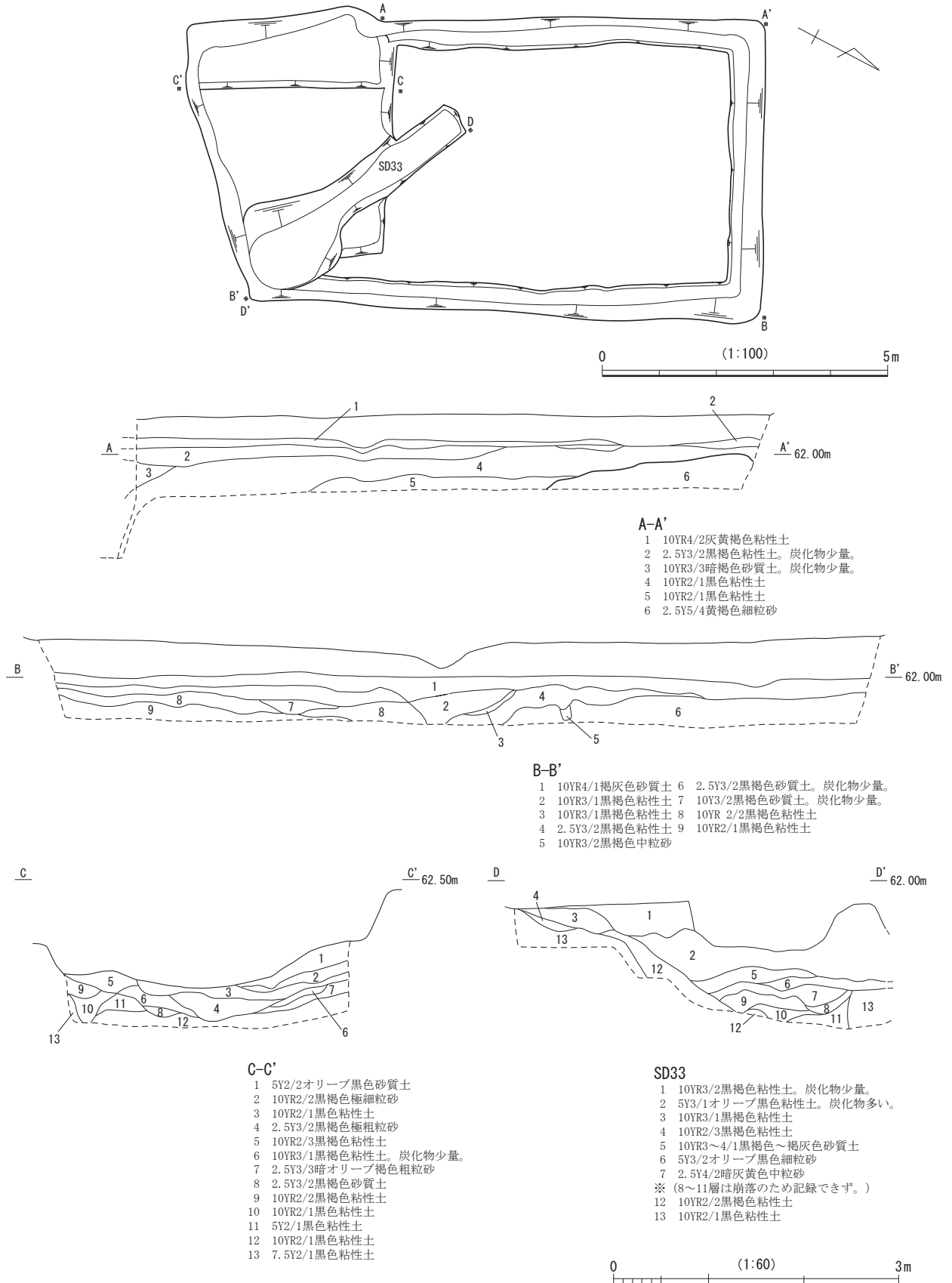
第51図 古城中1区全体図



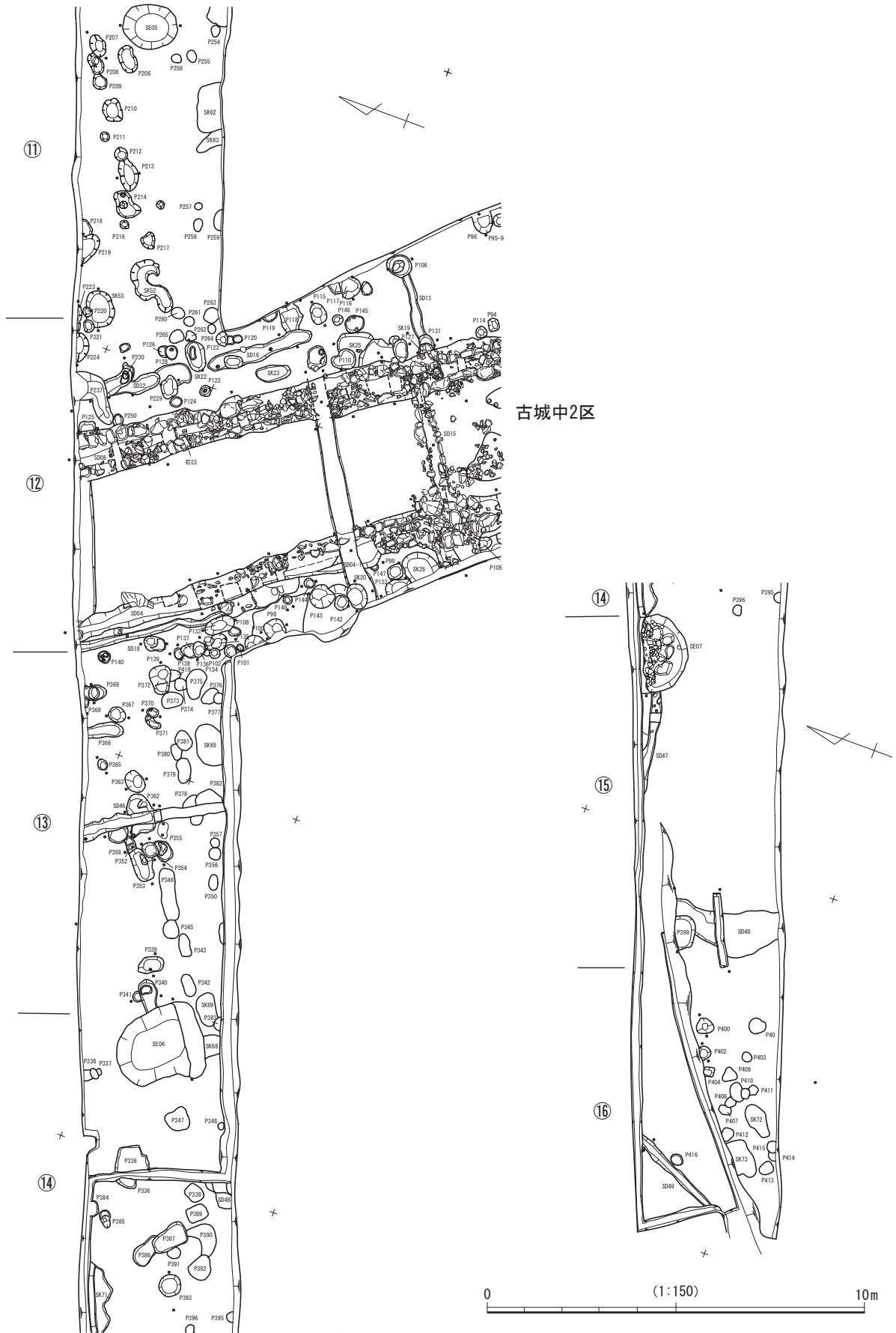
第52図 古城中1区土層図



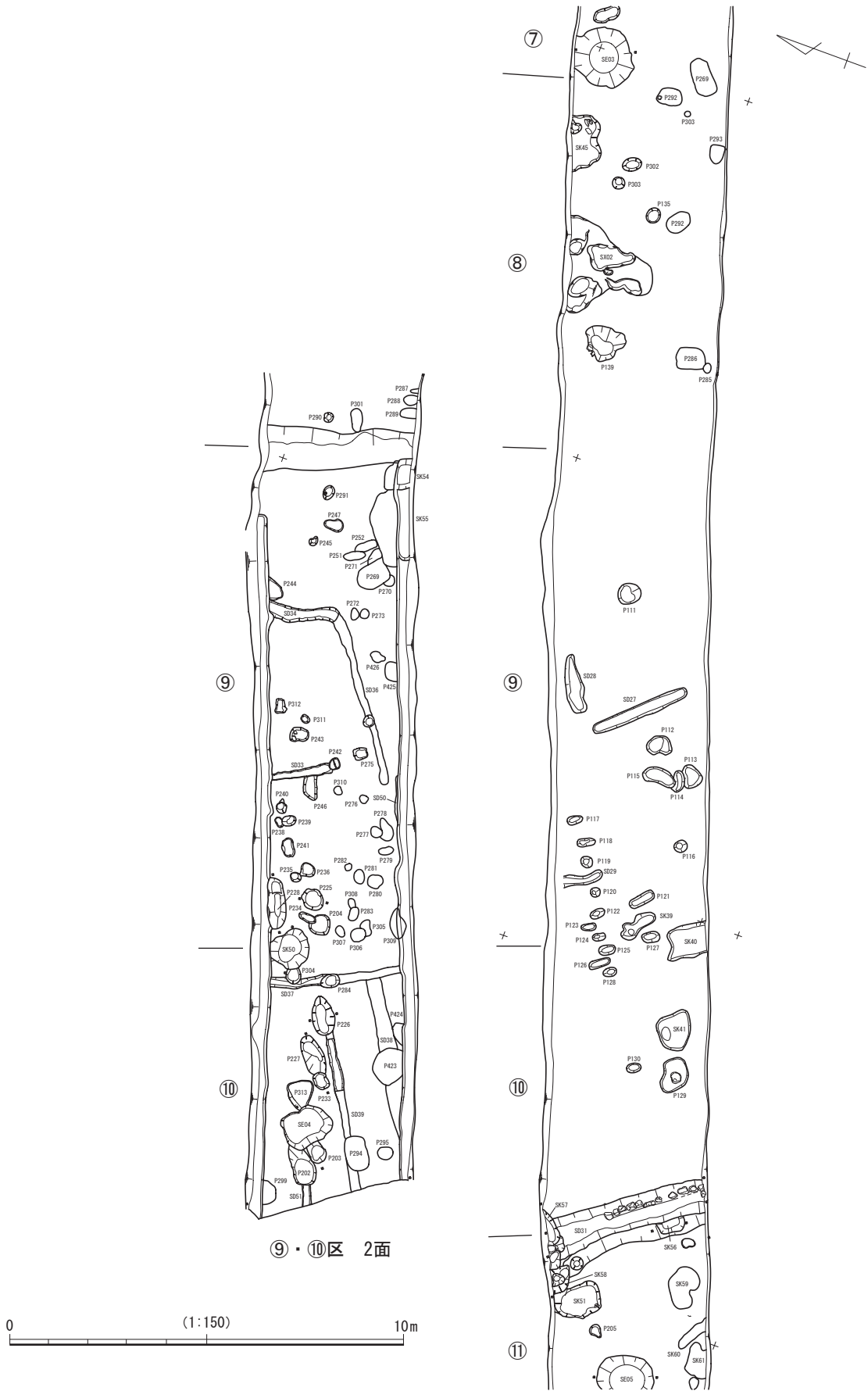
第53図 古城中1区遺構図



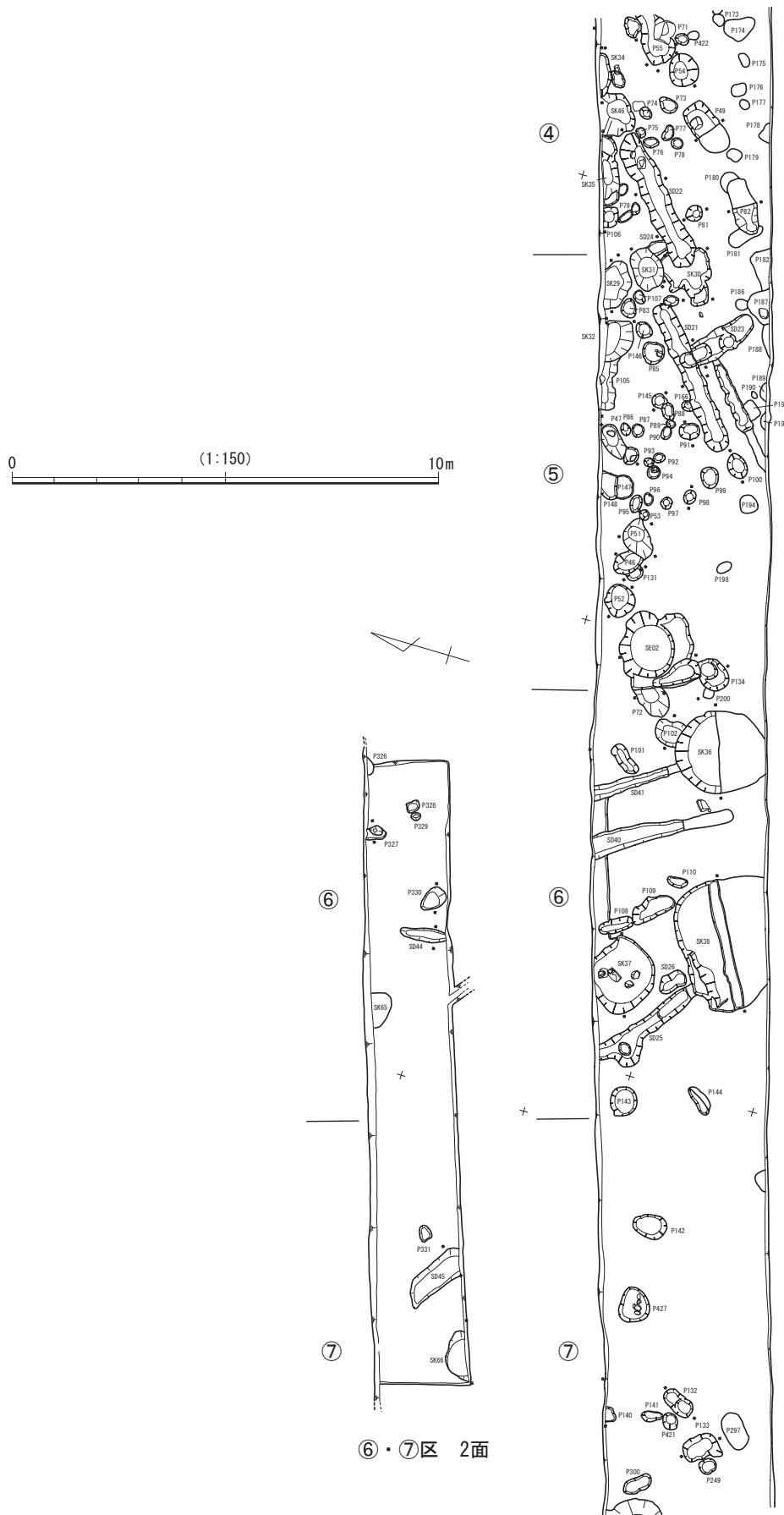
第 54 図 古城中 4 区遺構図・土層図



第 55 図 古城北区全体図 1

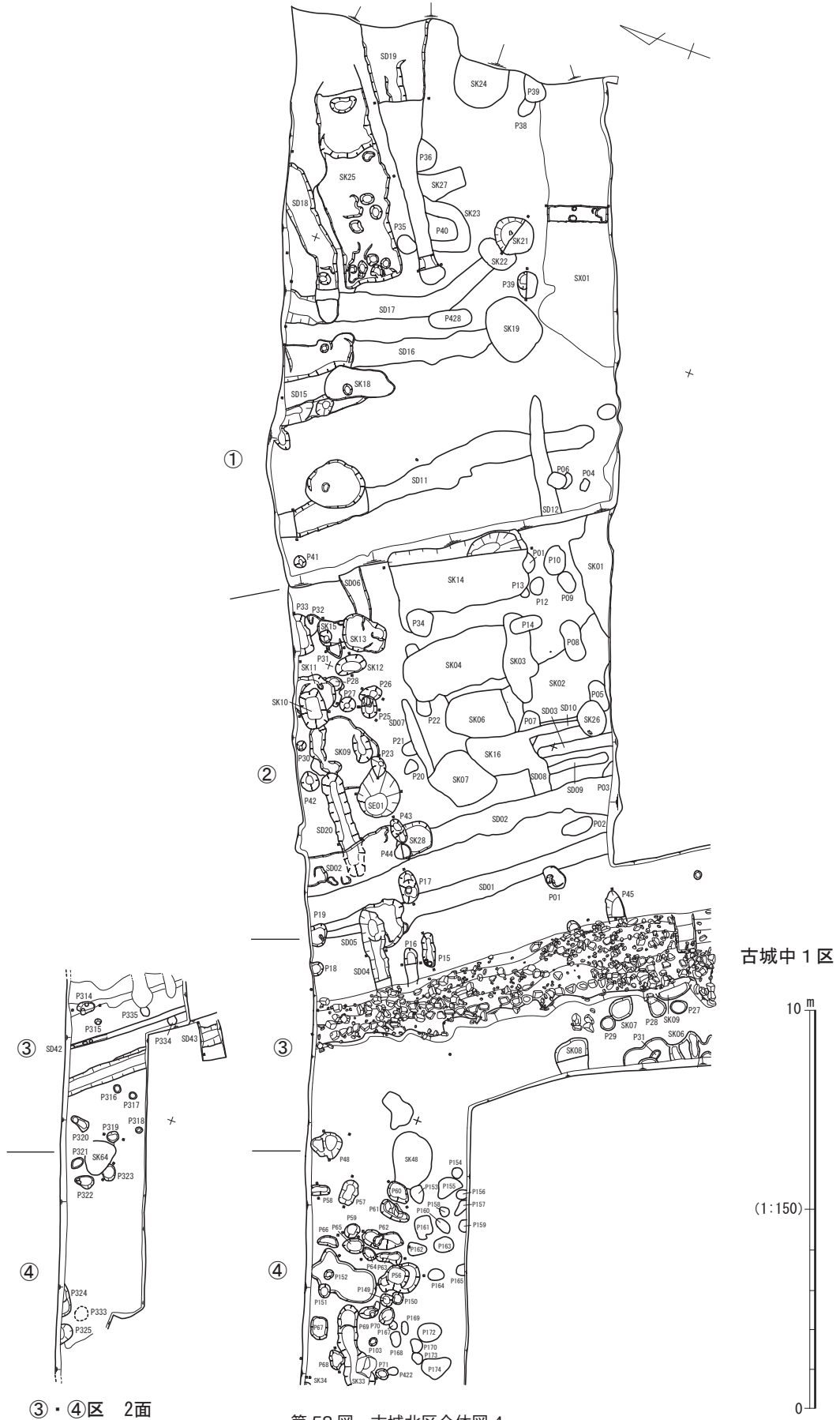


第56図 古城北区全体図2



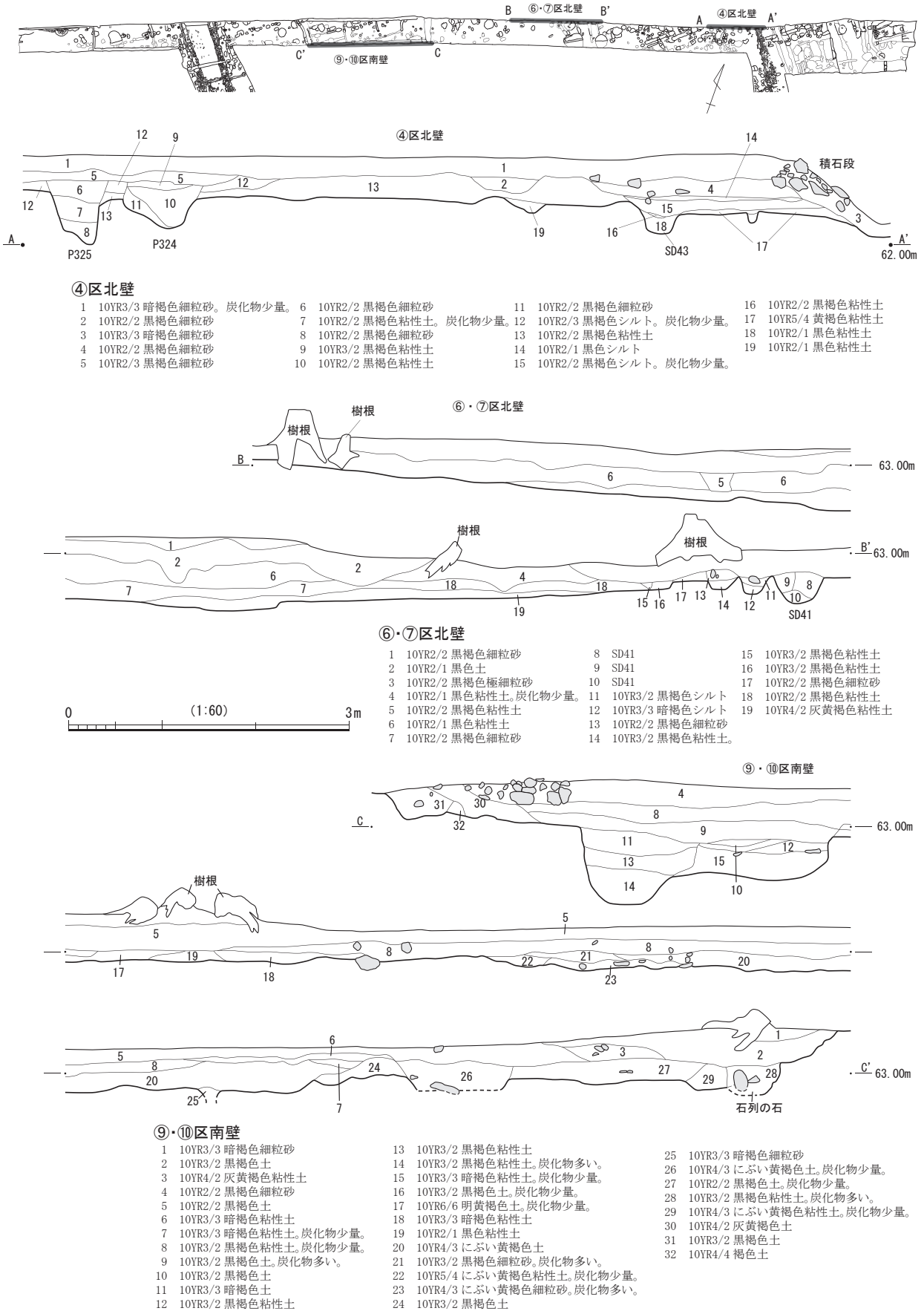
⑥・⑦区 2面

第57図 古城北区全体図3

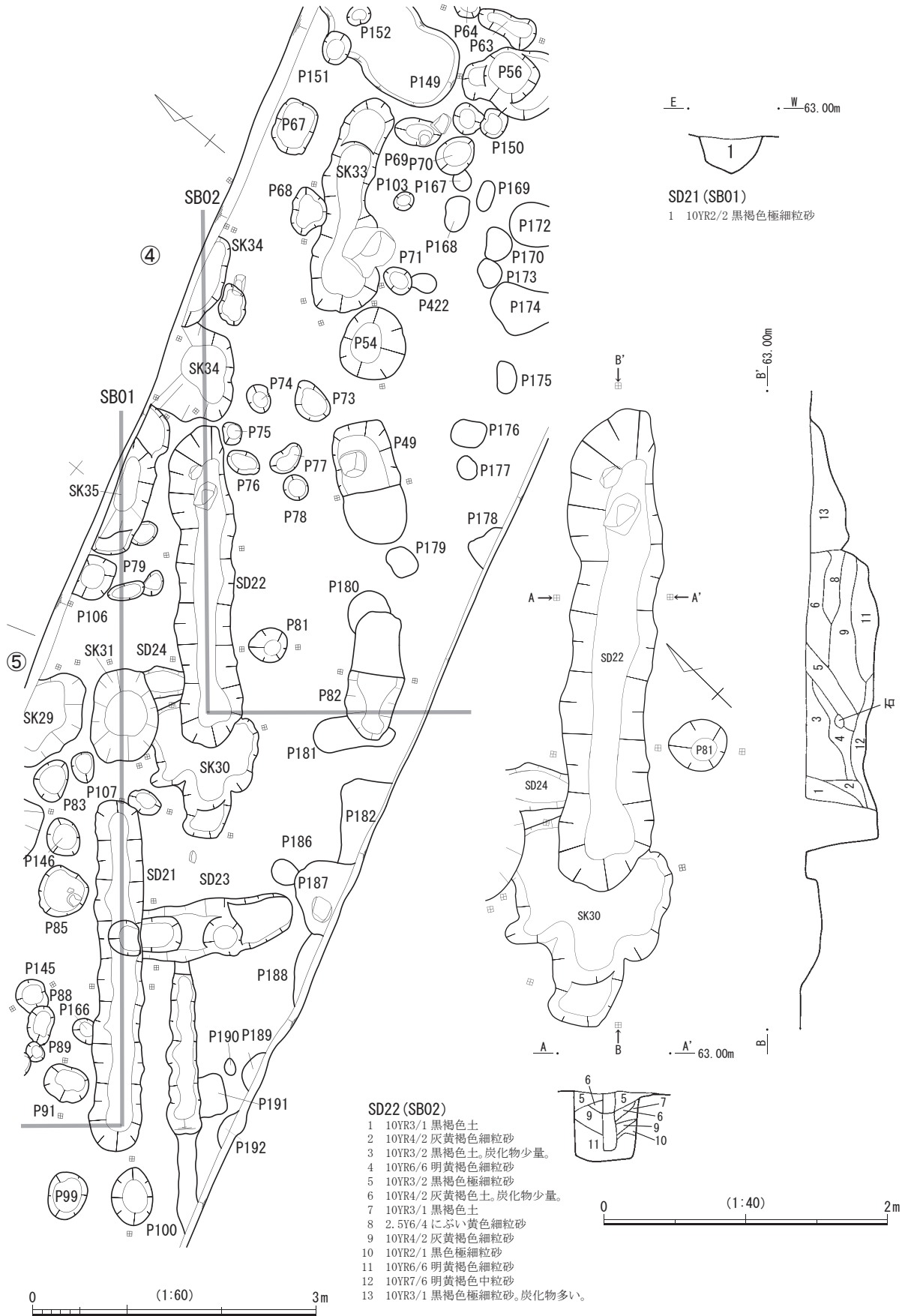


第58図 古城北区全体図4

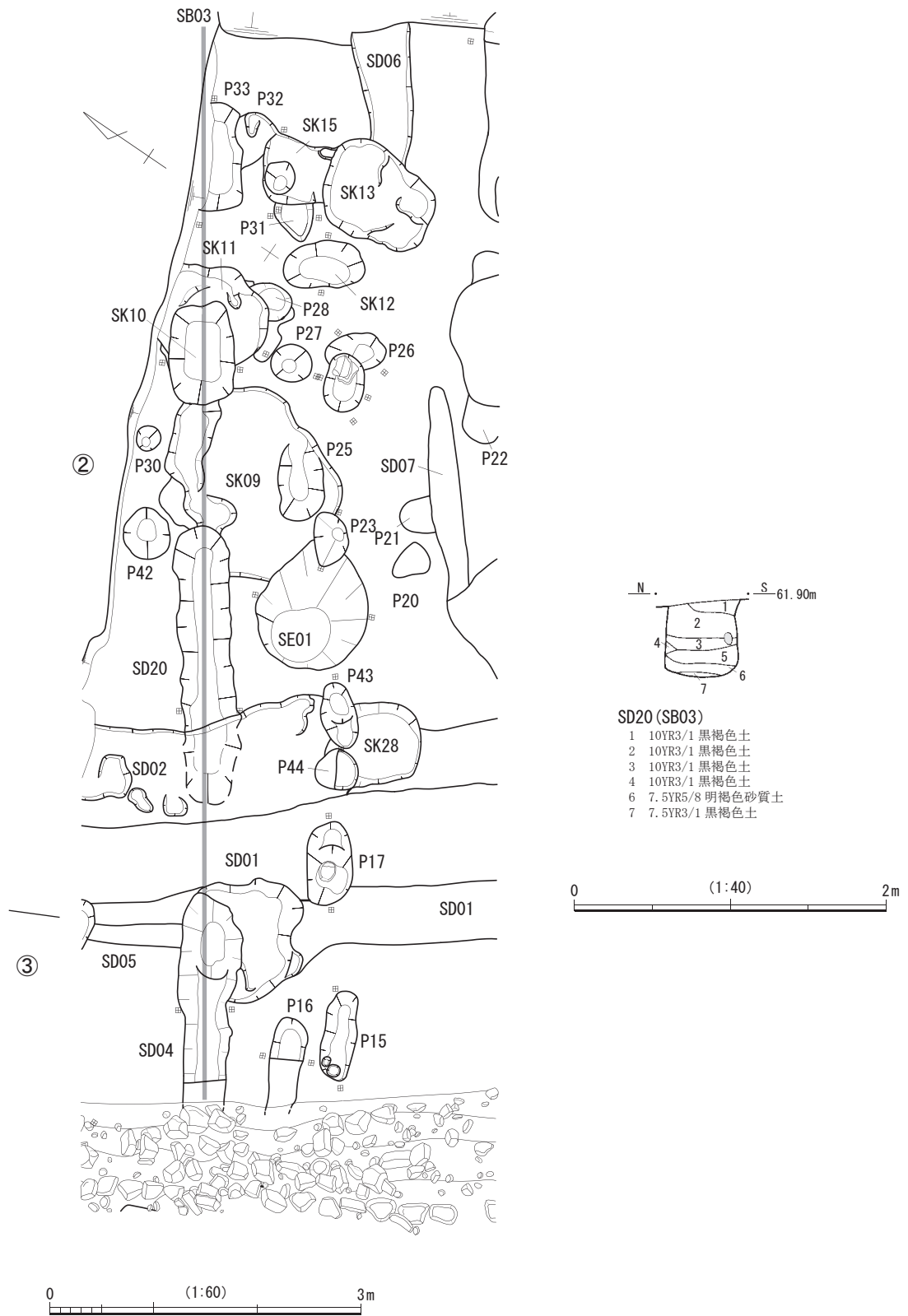
第3章 調査の成果



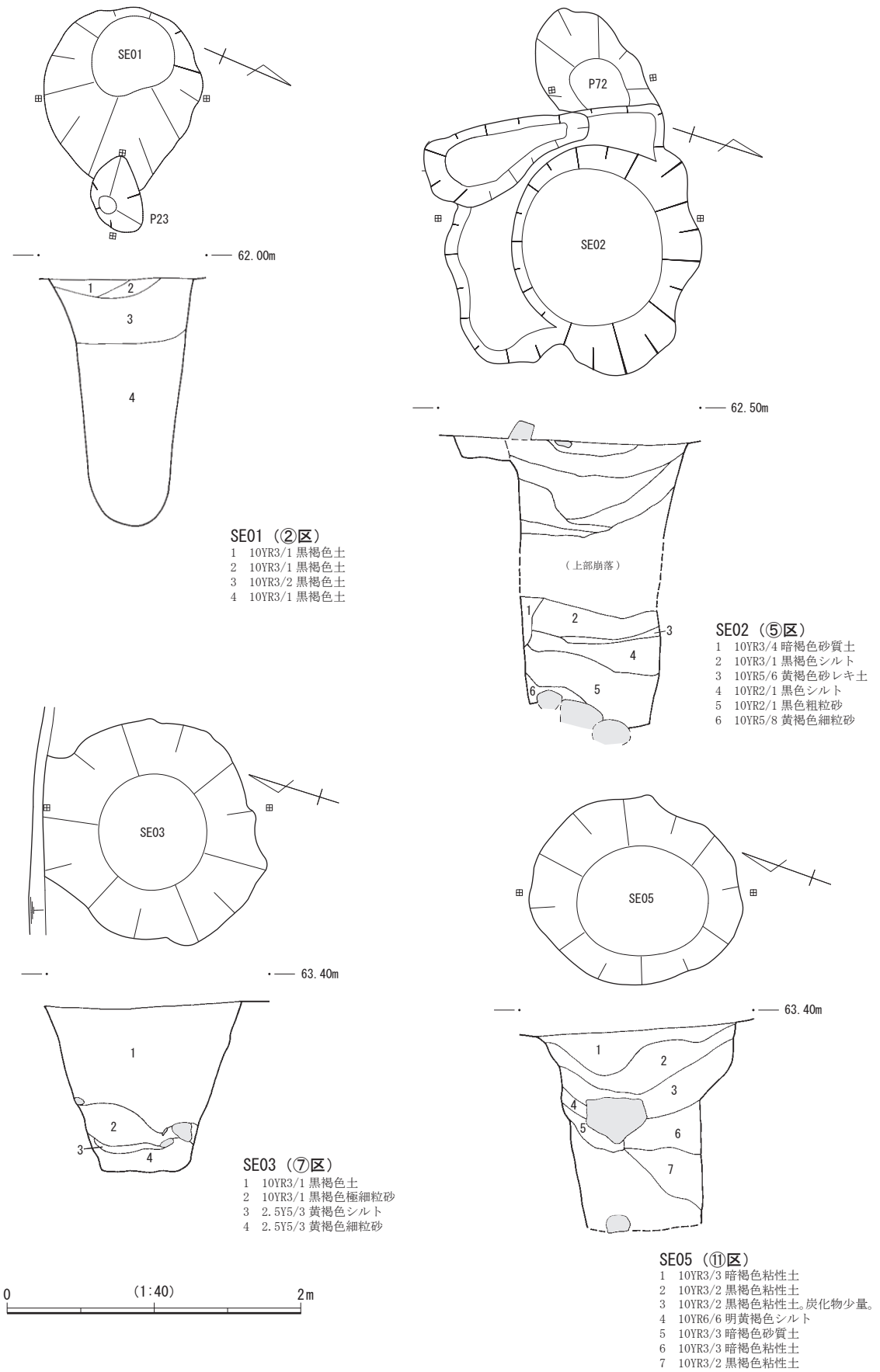
第59図 古城北区土層図



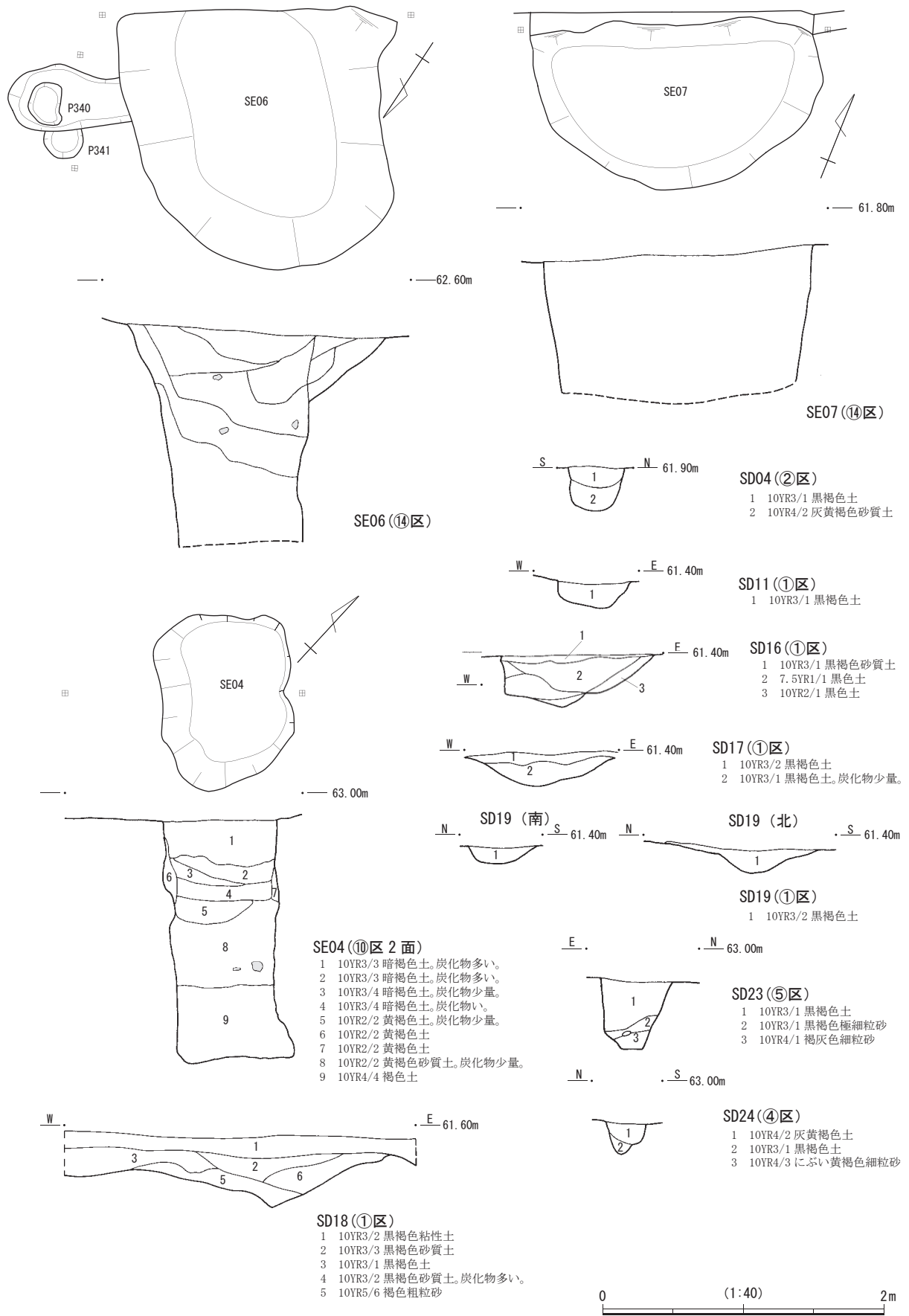
第60図 古城北区遺構図1 (④・⑤区)



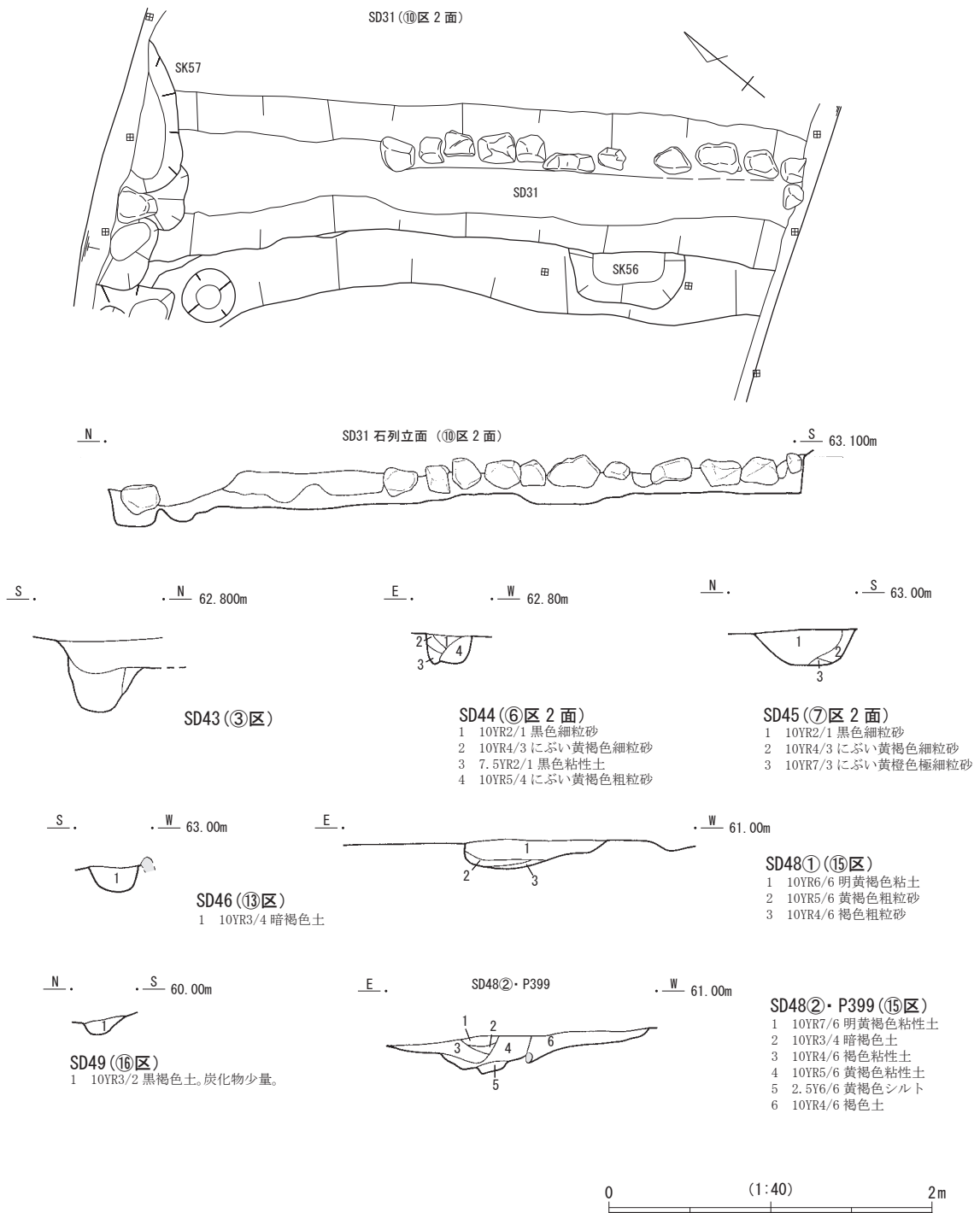
第 61 図 古城北区遺構図 2 (②・③区)



第 62 図 古城北区遺構図 3

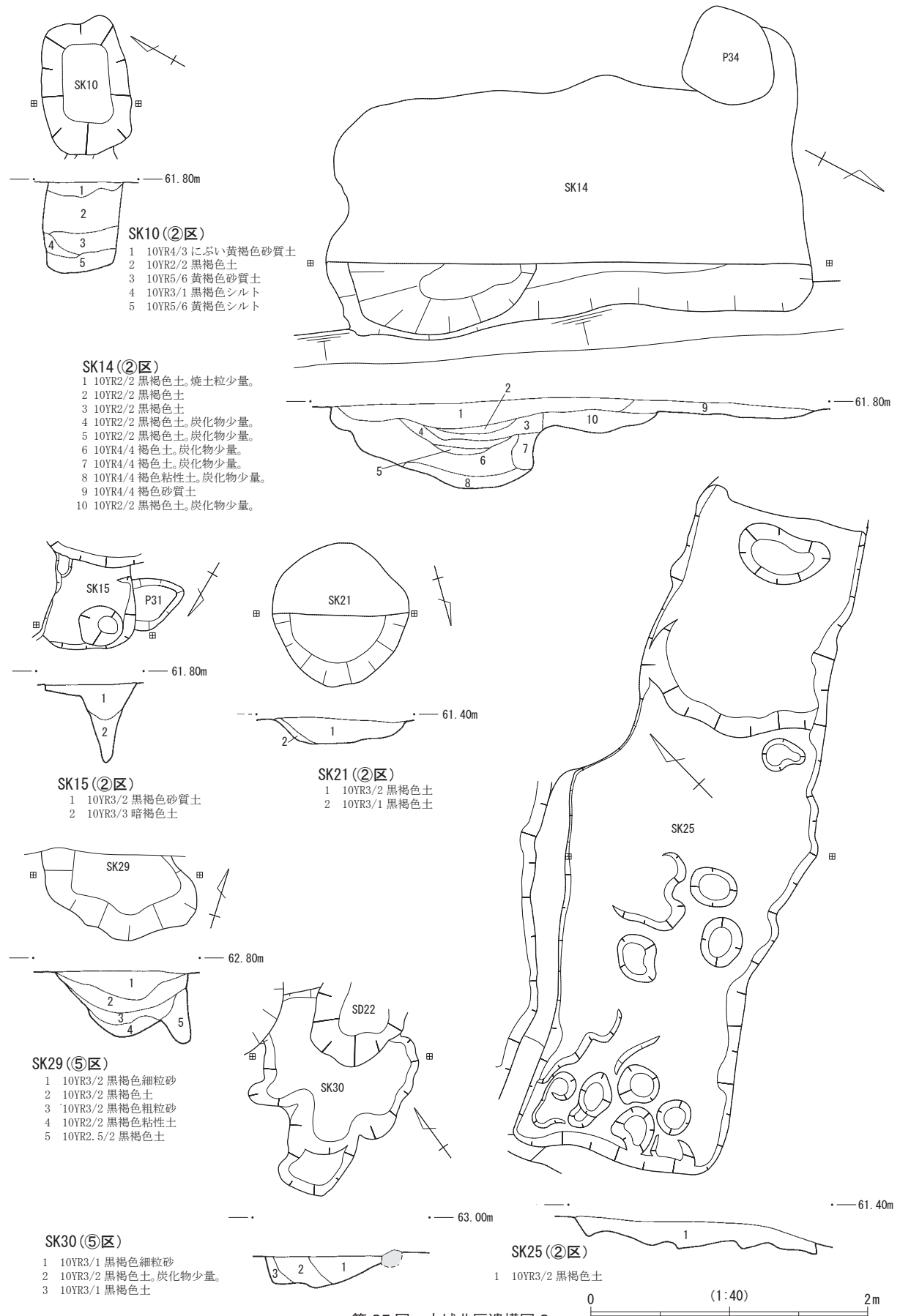


第 63 図 古城北区遺構図 4

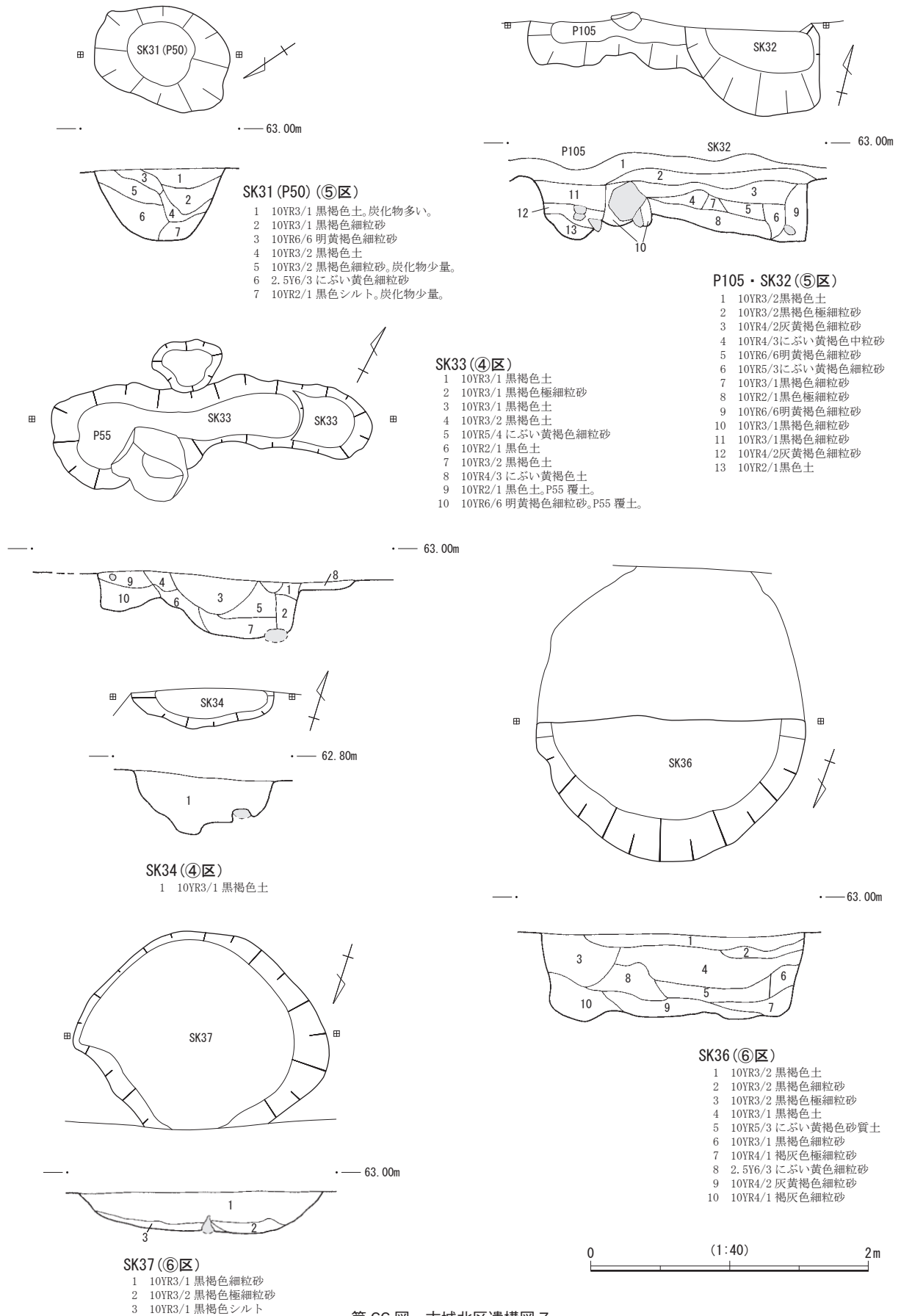


第 64 図 古城北区遺構図 5

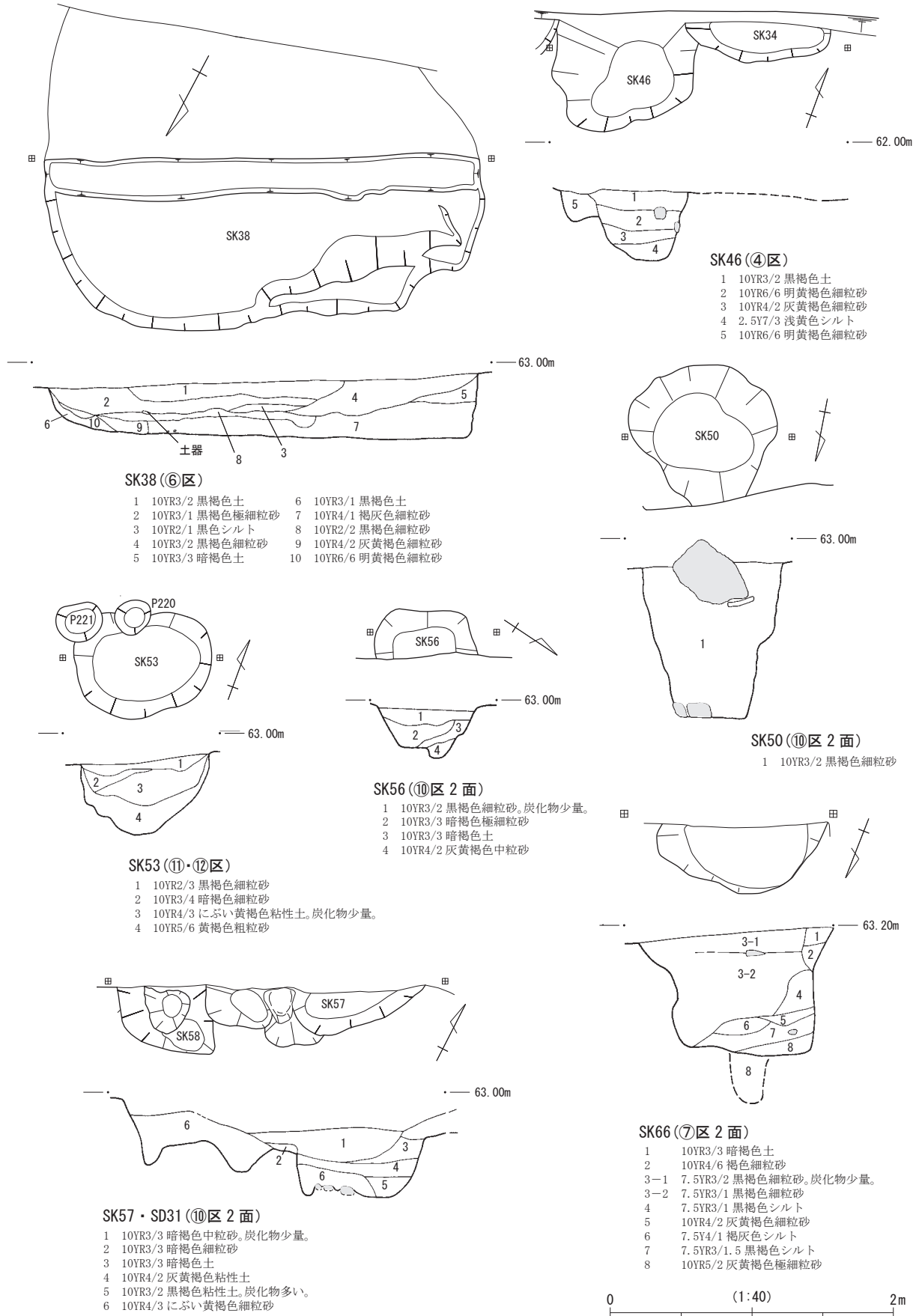
第3章 調査の成果



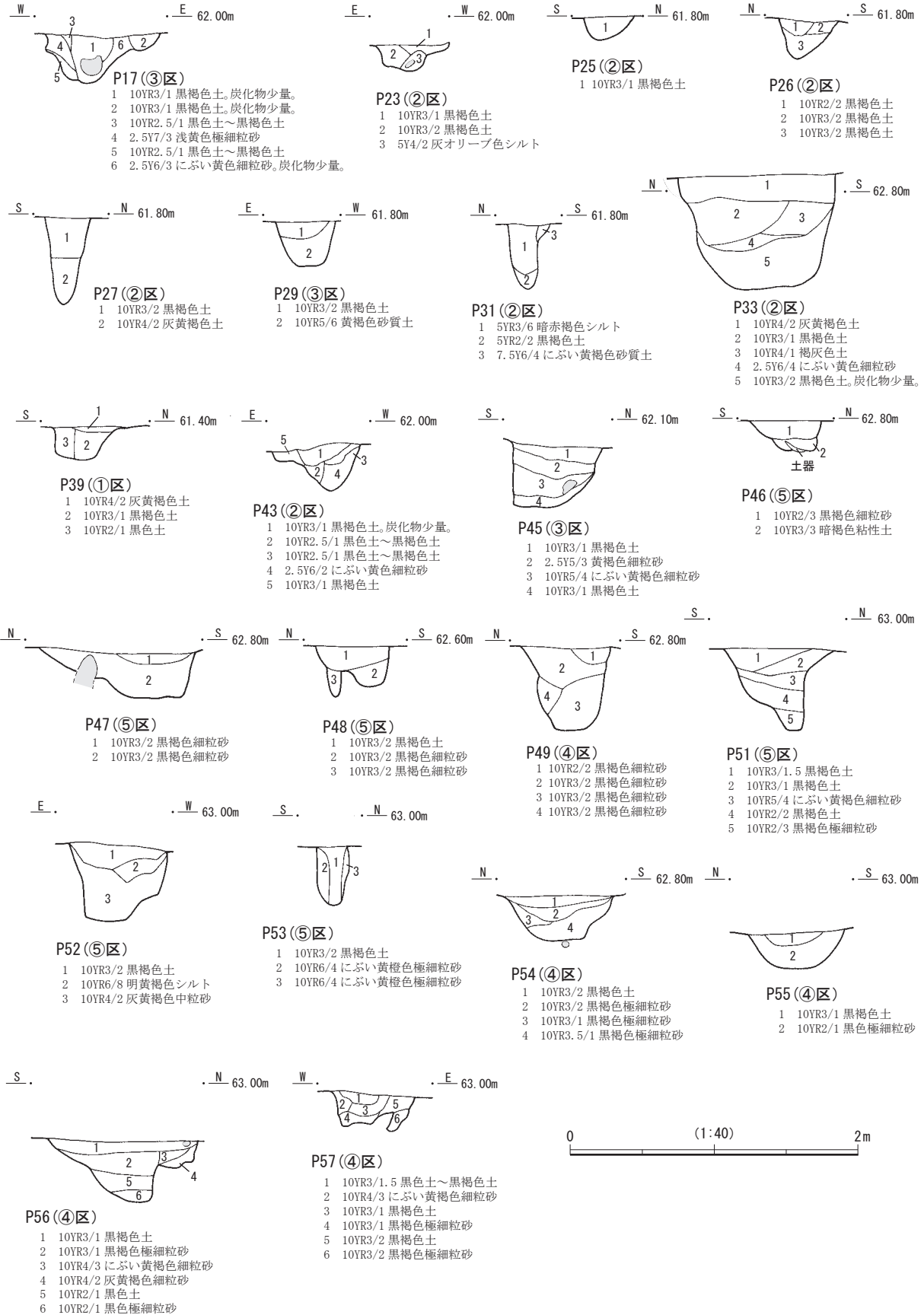
第 65 図 古城北区遺構図 6



第 66 図 古城北区遺構図 7

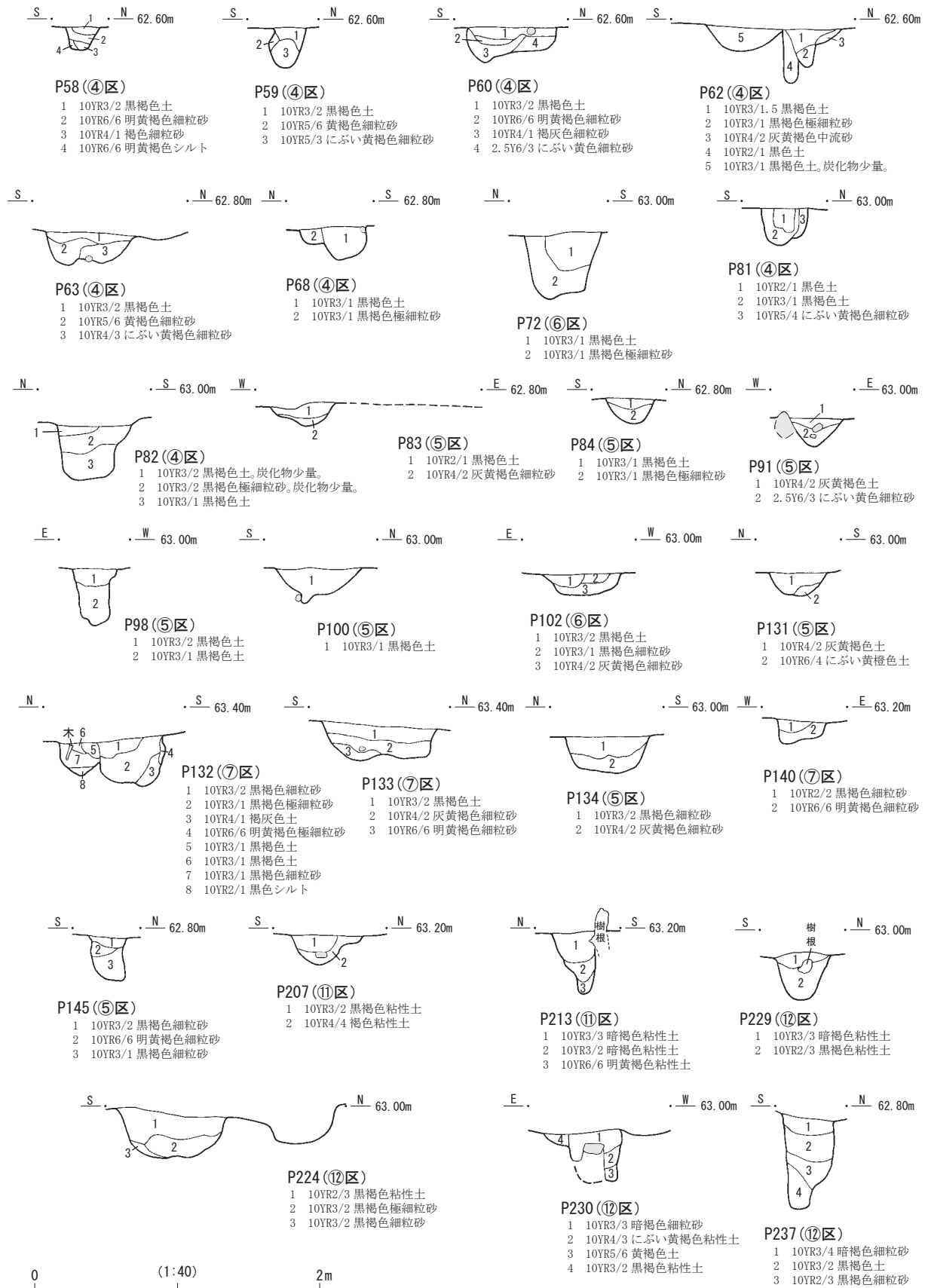


第 67 図 古城北区遺構図 8

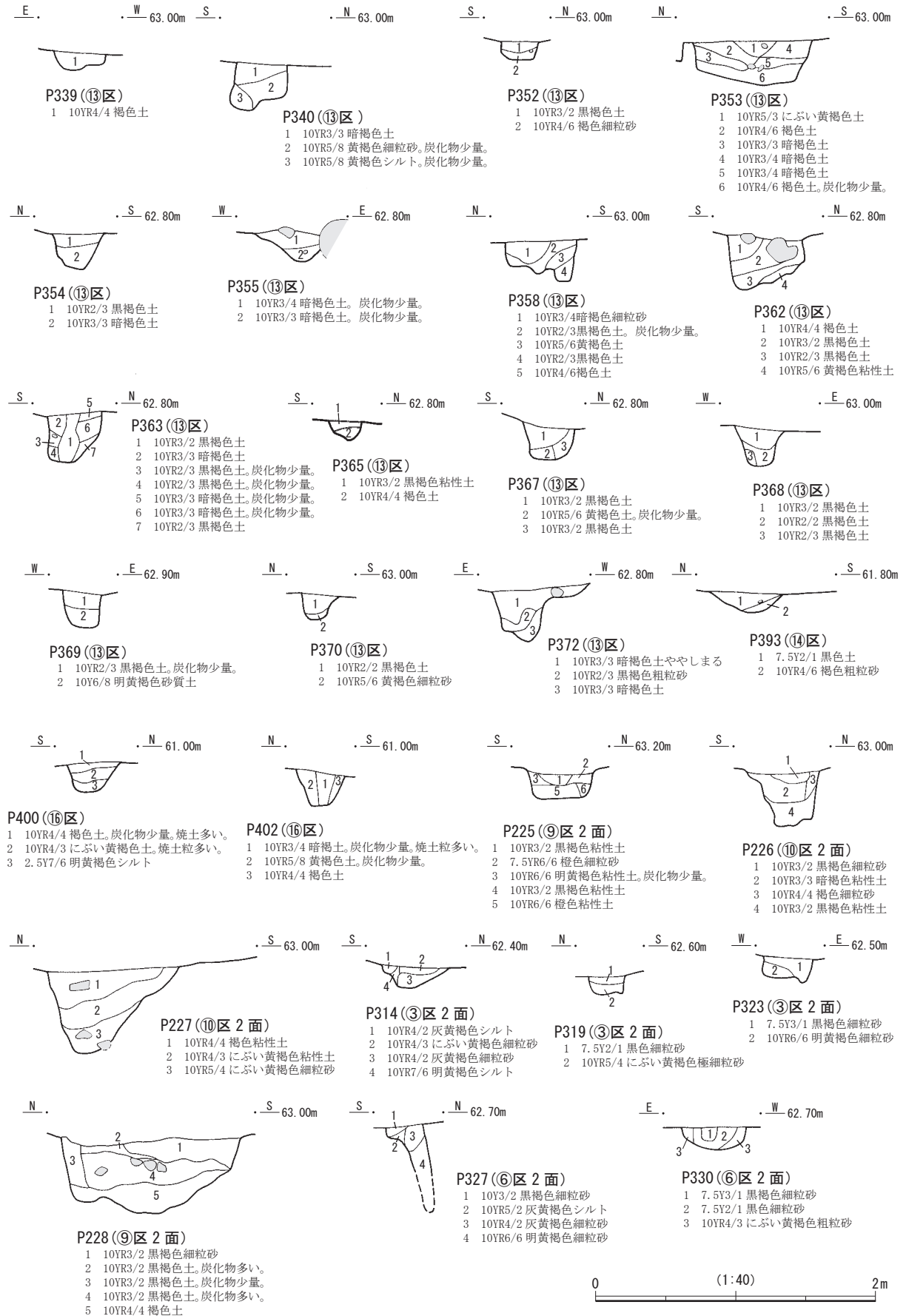


第 68 図 古城北区遺構図 9

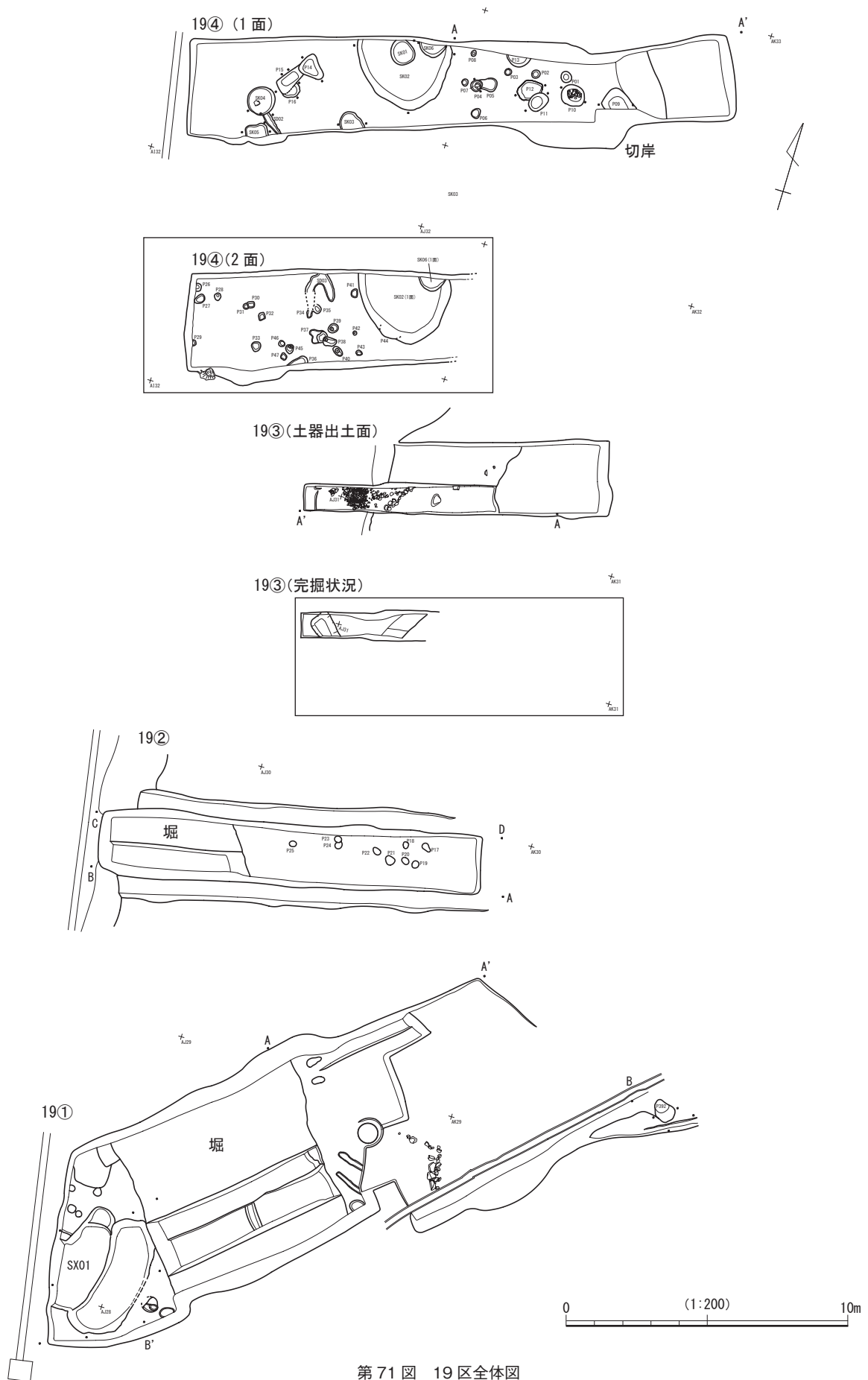
第3章 調査の成果



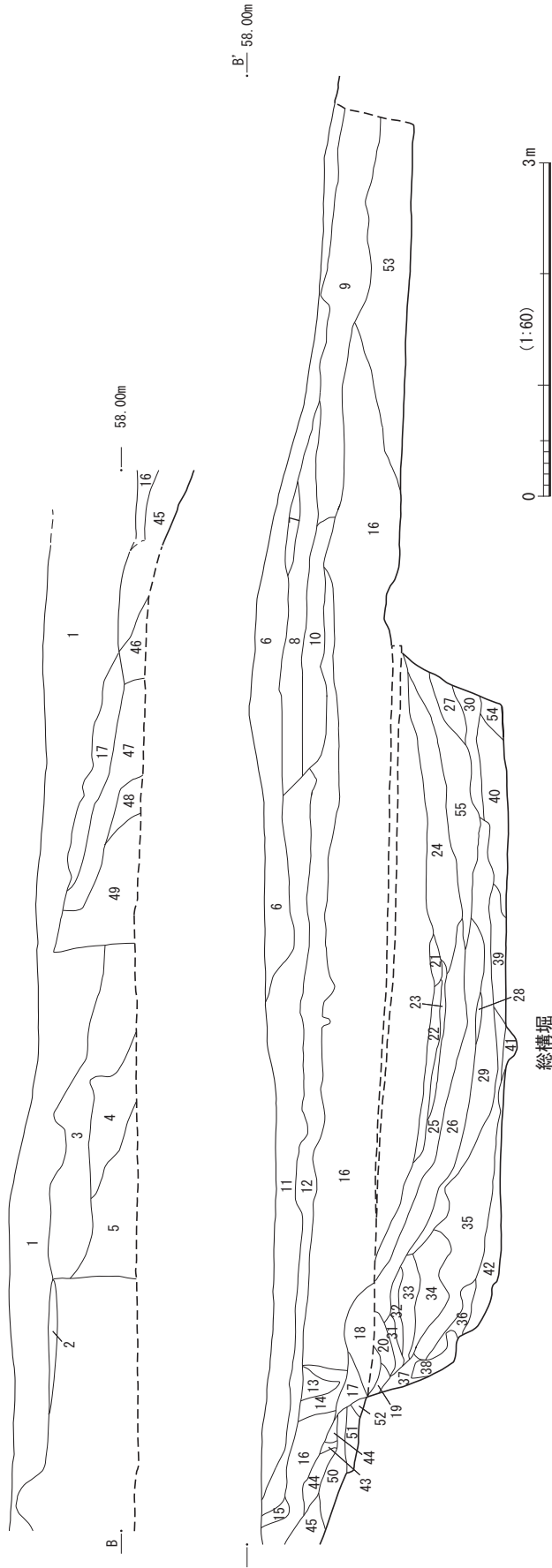
第 69 図 古城北区遺構図 10



第70図 古城北区遺構図 11

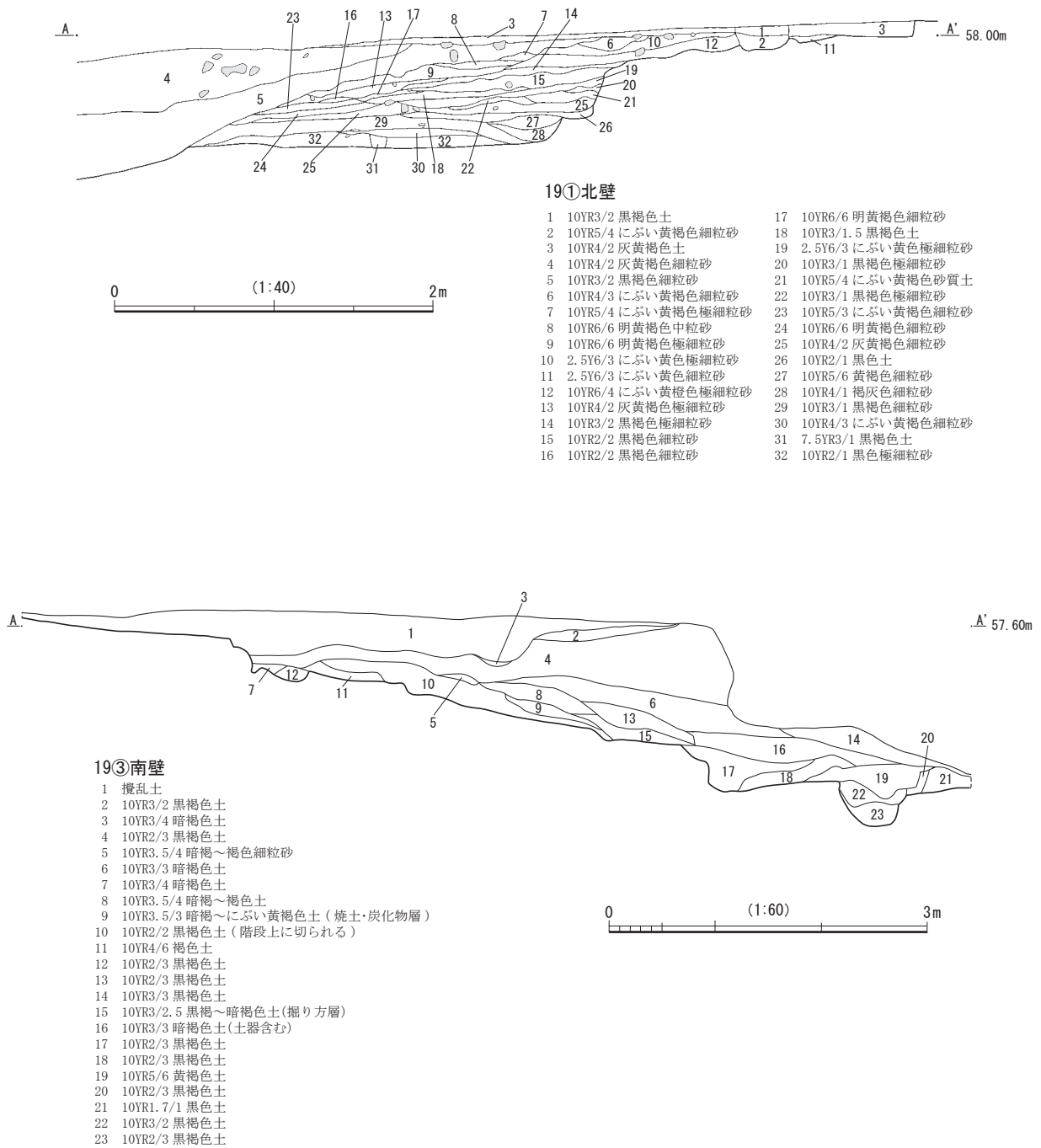


第71図 19区全体図

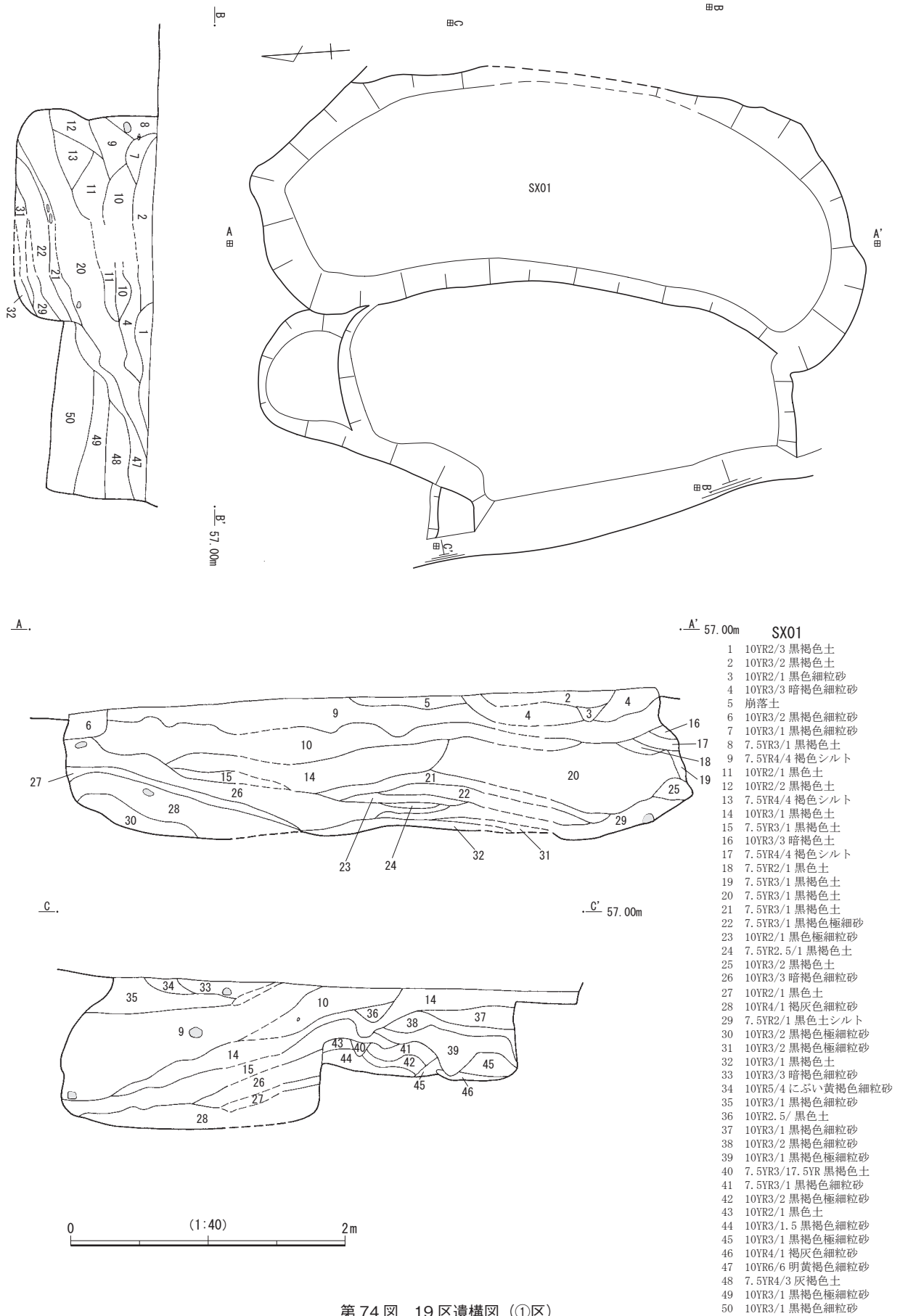


- 19①B-B'
- | | | | | | |
|----|-------------------------|----|-------------------|----|-------------------|
| 1 | 10YR3/2 黒褐色土 | 37 | 10YR2/1 黒色土 | 50 | 7.5YR6/6 橙色シルト粘性土 |
| 2 | 10YR4/1 褐灰色細粒砂 | 38 | 7.5YR4/4 褐色土 | 51 | 7.5YR3/1 黒褐色細粒砂 |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐色土 | 39 | 10YR4/1 褐灰色土 | 52 | 10YR2/1 黒色土 |
| 4 | 10YR4/1 褐灰色土 | 40 | 10YR6/6 明黄褐色極細粒砂 | 53 | 10YR2/1 黒色土 |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色細粒砂 | 41 | 7.5YR4/3 褐色中粒砂 | 54 | 10YR2/1 黒色土 |
| 6 | 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂 | 42 | 10YR2/1 黒色土 | 55 | 10YR3/2 黒褐色土 |
| 7 | 10YR5/4 にぶい黄褐色土 | 43 | 10YR3/1 黒褐色土 | | |
| 8 | 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | 44 | 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 | | |
| 9 | 10YR4.5/2 灰黄褐色シルト | 45 | 10YR2/3 黒褐色細粒砂 | | |
| 10 | 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 | 46 | 10YR6/4 にぶい黄褐色細粒砂 | | |
| 11 | 10YR3/2 黒褐色土 | 48 | 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | | |
| 12 | 10YR3/3 暗褐色細粒砂 | 49 | 10YR5/2 灰黄褐色細粒砂 | | |
| 13 | 7.5YR3/1 黒褐色土 | 25 | 10YR5/3 にぶい黄褐色土 | | |
| 14 | 10YR3/1 黒褐色土 | 26 | 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂 | | |
| 15 | 7.5YR6/6 橙色シルト | 27 | 10YR4/2 灰黄褐色極細粒砂 | | |
| 16 | 10YR3/2 黒褐色土 | 28 | 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト | | |
| 17 | 10YR4/1 褐灰色極細粒砂 | 29 | 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 | | |
| 18 | 10YR4/1 褐灰色土、炭化物少量 | 30 | 10YR3/2 黒褐色土 | | |
| 19 | 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂、炭化物少量 | 31 | 10YR2/2 黒褐色極細粒砂 | | |
| 20 | 10YR6/6 明黄褐色 | 32 | 10YR2/2 黒褐色細粒砂 | | |
| 21 | 7.5YR3/1 黒褐色細粒砂 | 33 | 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 | | |
| 22 | 10YR4/2 灰黄褐色シルト | 34 | 10YR3/2 黒褐色土 | | |
| 23 | 10YR4/1.5 褐灰～灰黄褐色土 | 35 | 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | | |
| 24 | 10YR3/2 黒褐色細粒砂、炭化物少量 | 36 | 10YR2/1 黒色シルト | | |

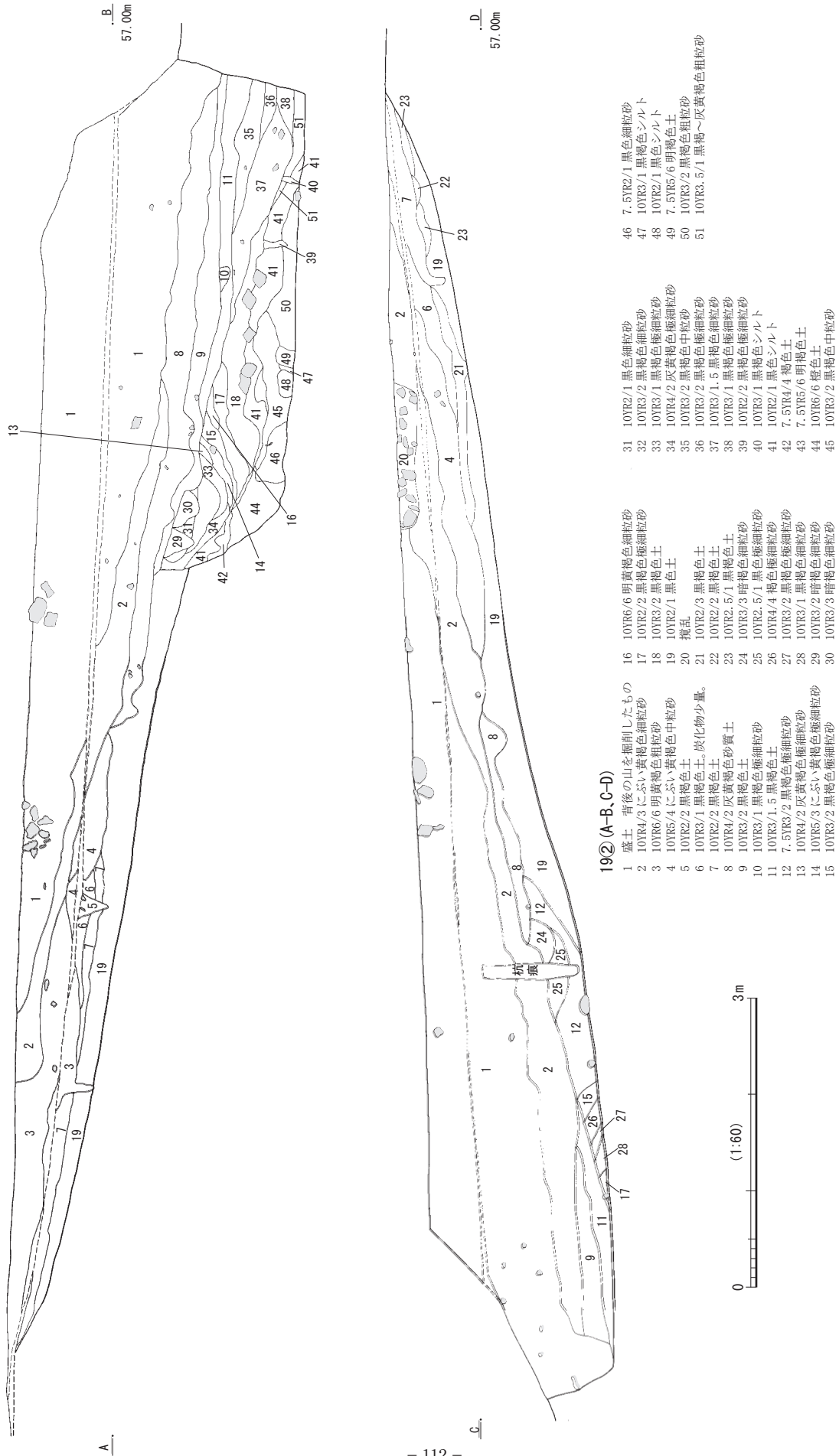
第72図 19区①南壁土層図



第73図 19区土層図



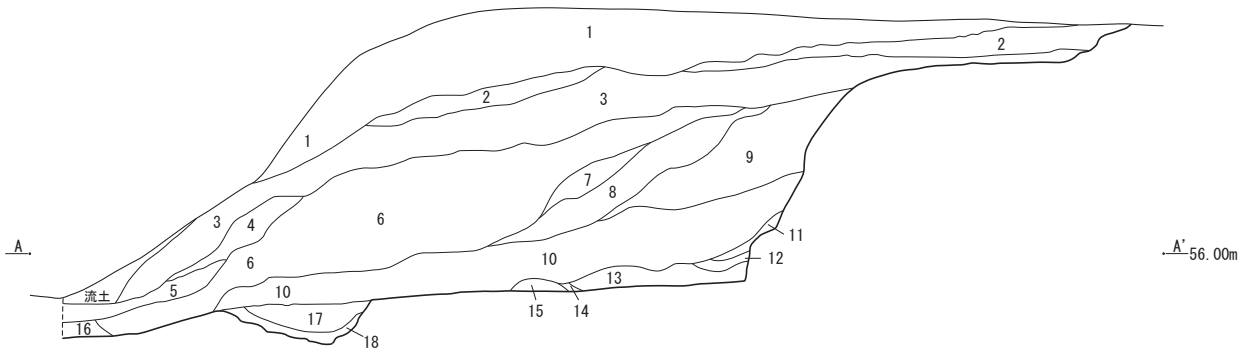
第74図 19区遺構図 (①区)



第75図 19区土層図 (②区南・北壁)

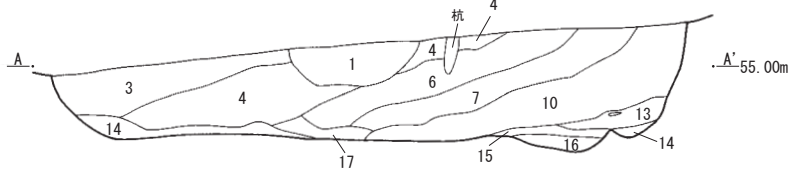
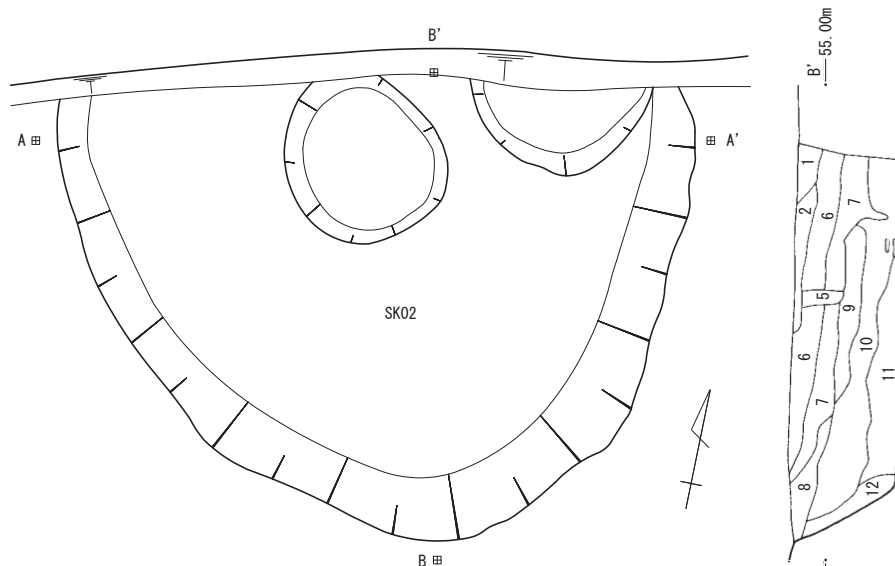
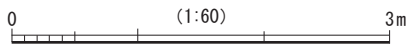


第76図 19区遺物出土状態 (③区)



19区④ 切岸

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 盛土 | 10 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂。炭化物、焼土粒少量。 |
| 2 旧表土 | 11 10YR5/4 にぶい黄褐色黄褐色細粒砂 |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 | 12 10YR3/2 黒褐色シルト |
| 4 10YR3/2 黒褐色細粒砂 | 13 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 |
| 5 10YR3/2 黒褐色土 | 14 2.5Y6/3 にぶい黄色細粒砂 |
| 6 10YR4/3 にぶい黄褐色極細粒砂 | 15 10YR3/2 黒褐色極細粒砂 |
| 7 10YR4/2 灰黄褐色土 | 16 10YR4/2 灰黄褐色細粒砂 |
| 8 10YR3/2 黒褐色細粒砂 | 17 10YR5/3 にぶい黄褐色極細粒砂 |
| 9 10YR4/1 褐灰色土 | 18 10YR5/4 にぶい黄褐色細粒砂 |



SK02

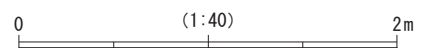
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 10YR3/4 暗褐色細粒砂 | 10 10YR2/2 黒褐色土。炭化物少量。 |
| 2 10YR2/3 黒褐色土。炭化物少量。 | 11 10YR2/3 黒褐色細粒砂 |
| 3 10YR2/2 黒褐色土 | 12 10YR2/2 黒褐色土 |
| 4 10YR2/3 黒褐色土 | 13 10YR4/6 褐色細粒砂 |
| 5 10YR3/3 暗褐色細粒砂 | 14 10YR4/6 褐色細粒砂 |
| 6 10YR2/2 黒褐色細粒砂。炭化物少量。 | 15 10YR3/4 暗褐色土。炭化物、焼土粒少量。 |
| 7 10YR5/6 黄褐色細粒砂。炭化物少量。 | 16 10YR2/3 黒褐色土。炭化物少量。 |
| 8 10YR2/3 黒褐色土。炭化物少量。 | 17 10YR2/2 黒褐色細粒砂 |
| 9 10YR2/3 黒褐色細粒砂 | |

S... N 55.00m

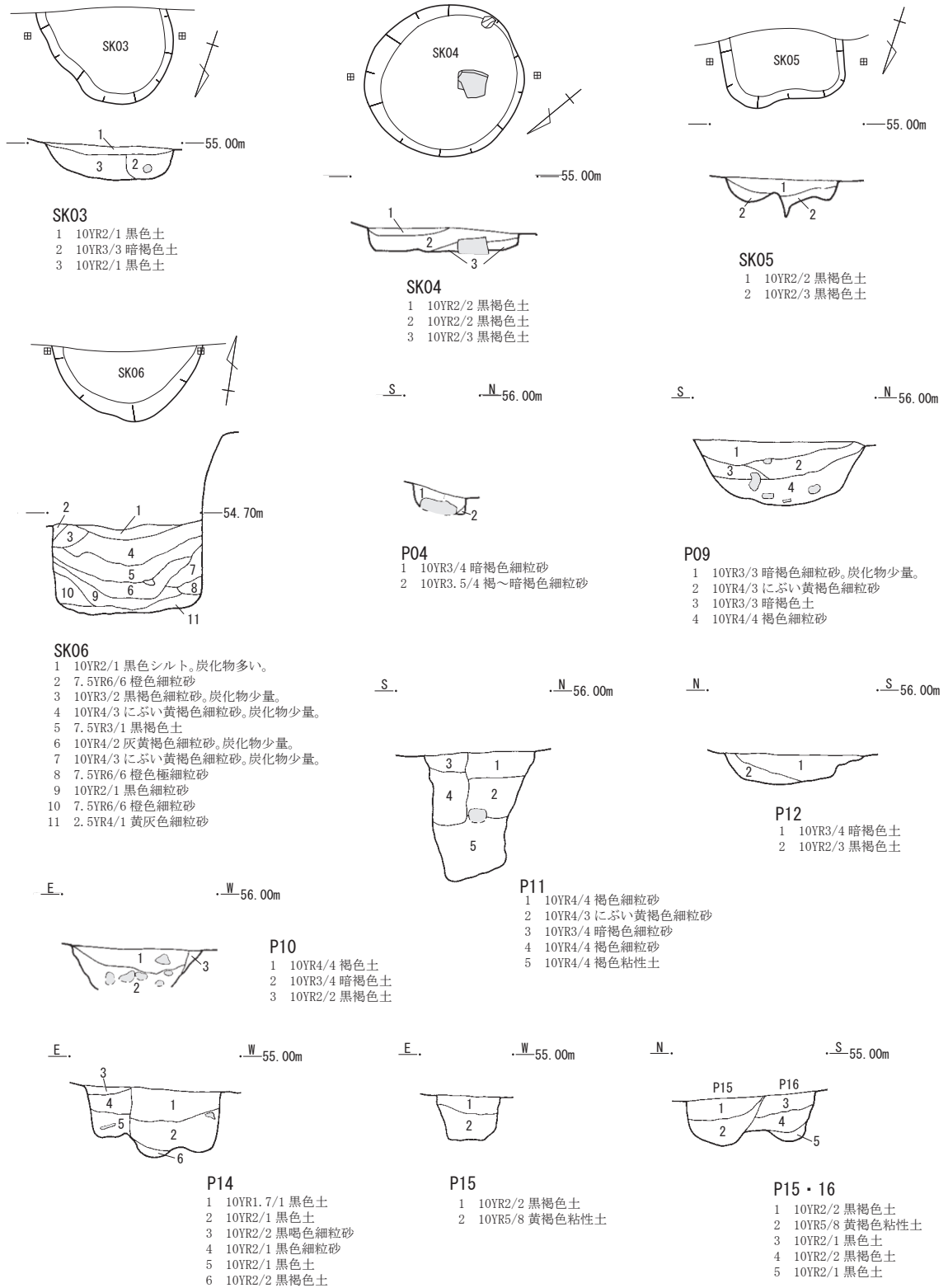


SD02

- | |
|------------------|
| 1 10YR2/2 黒褐色土 |
| 2 10YR2/2 黒褐色細粒砂 |
| 3 10YR1.7/1 黒色土 |
| 4 10YR3/4 暗褐色細粒砂 |

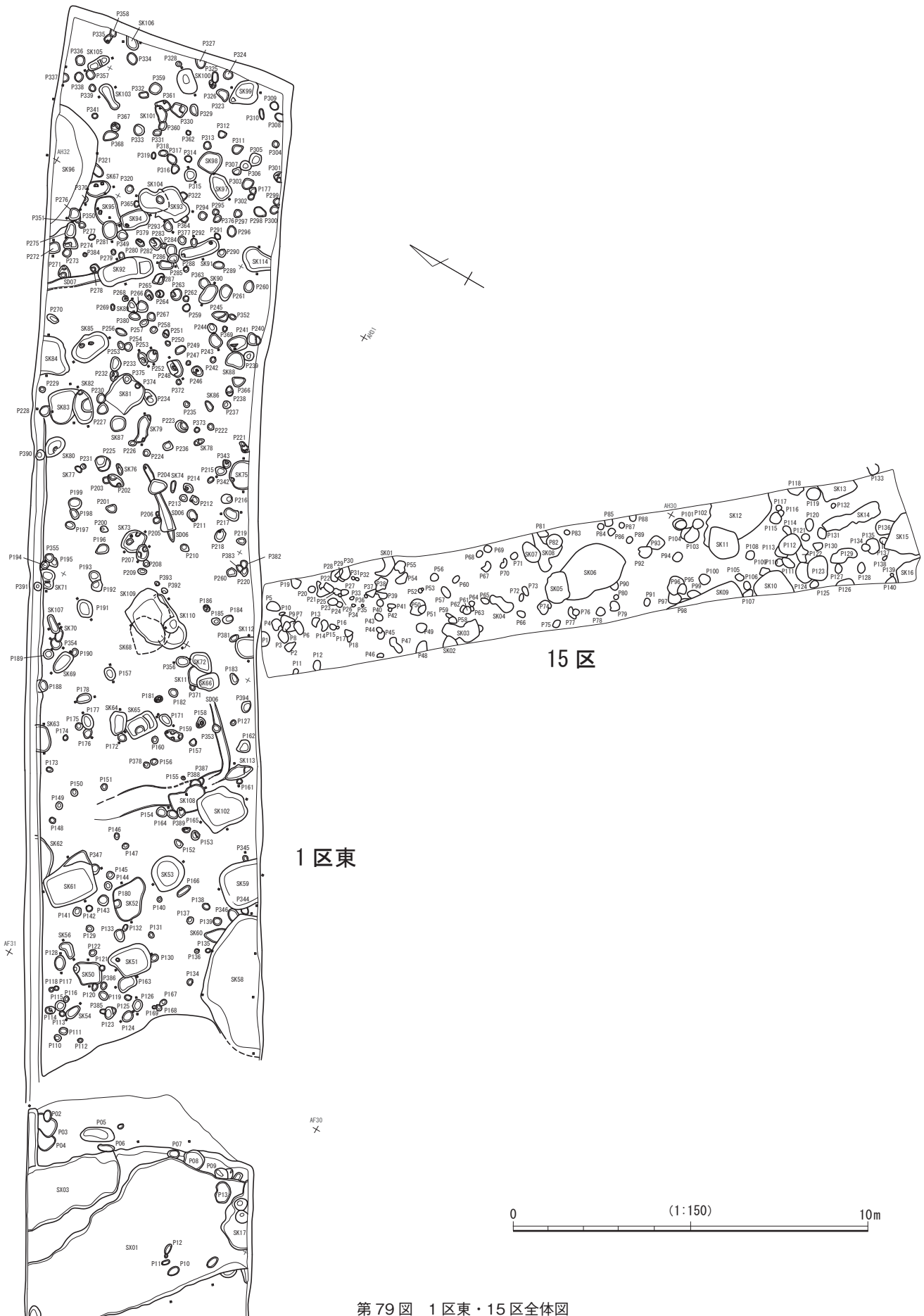


第77図 19区土層図・遺構図(④区)



第 78 図 19 区遺構図 (④区)

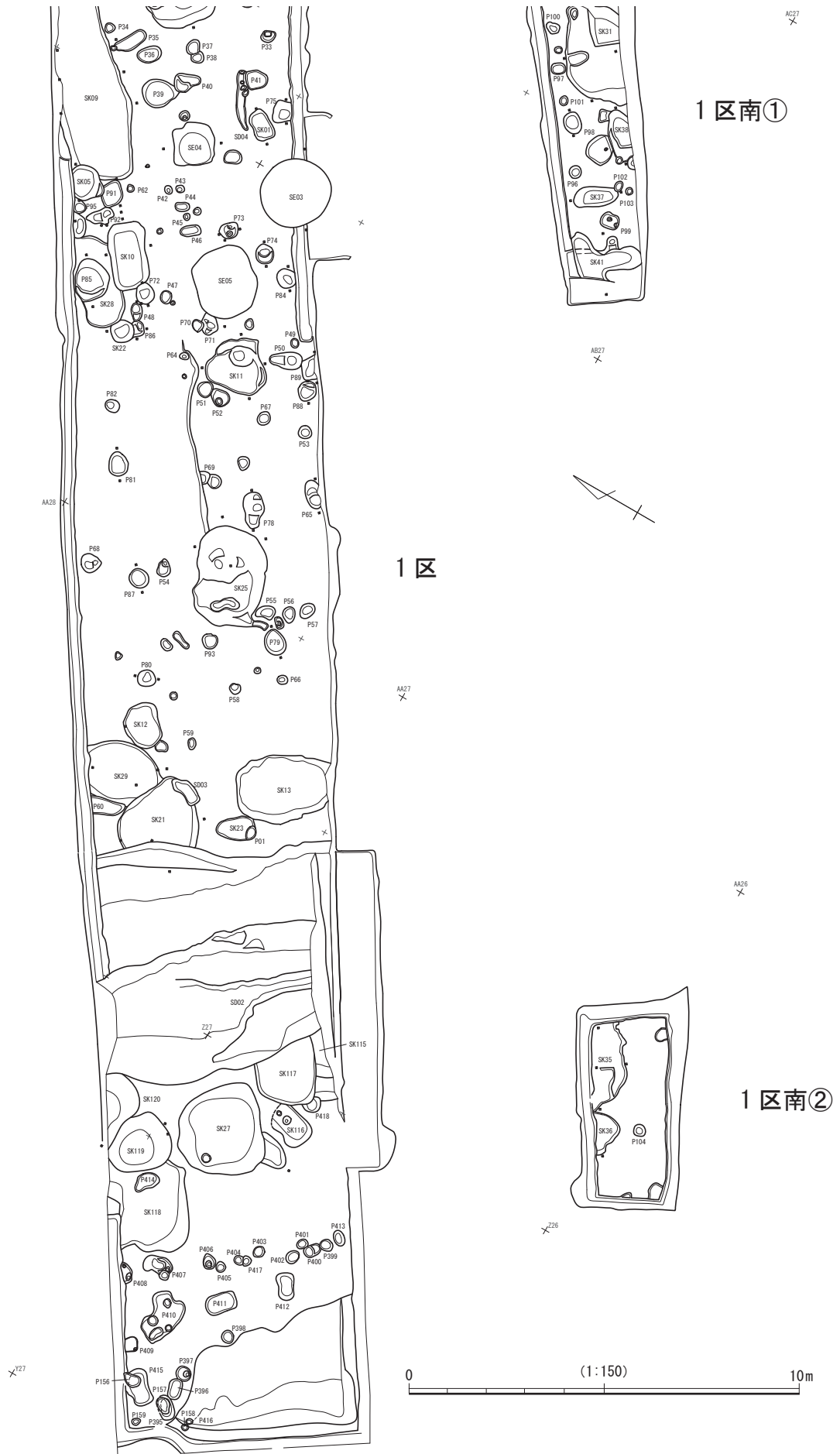
第3章 調査の成果



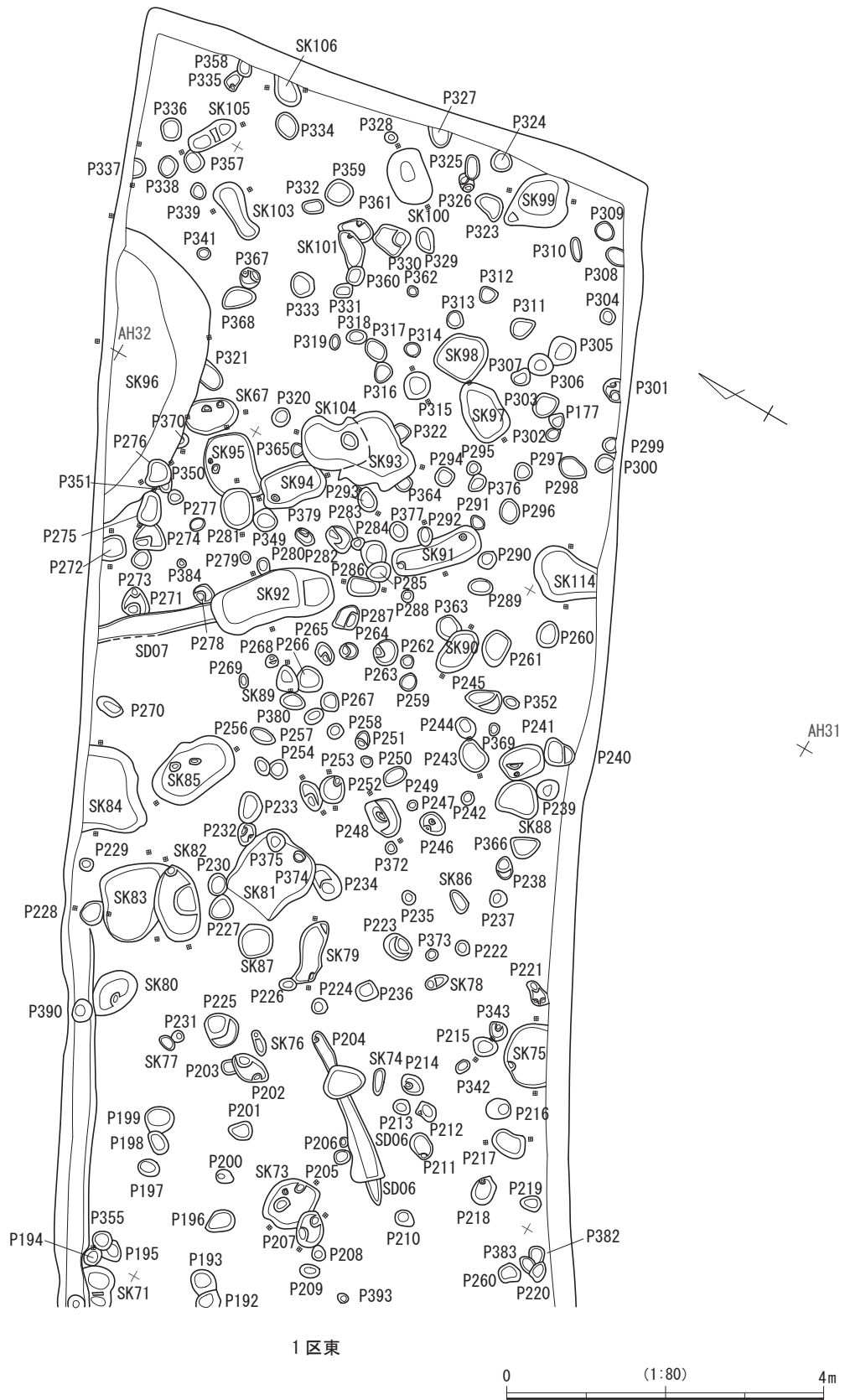
第 79 図 1 区東・15 区全体図



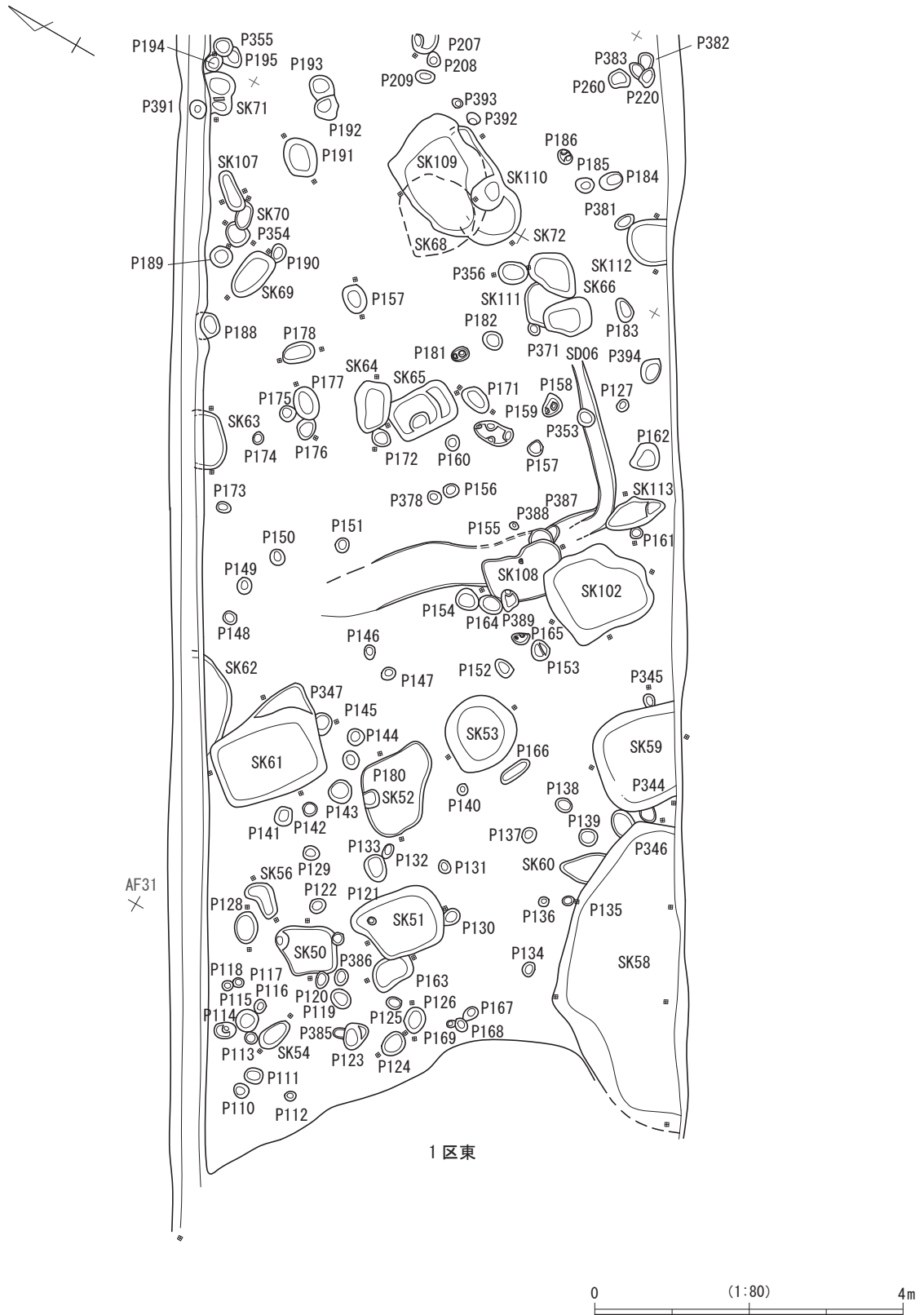
第80図 1区東・1区・1区南全体図



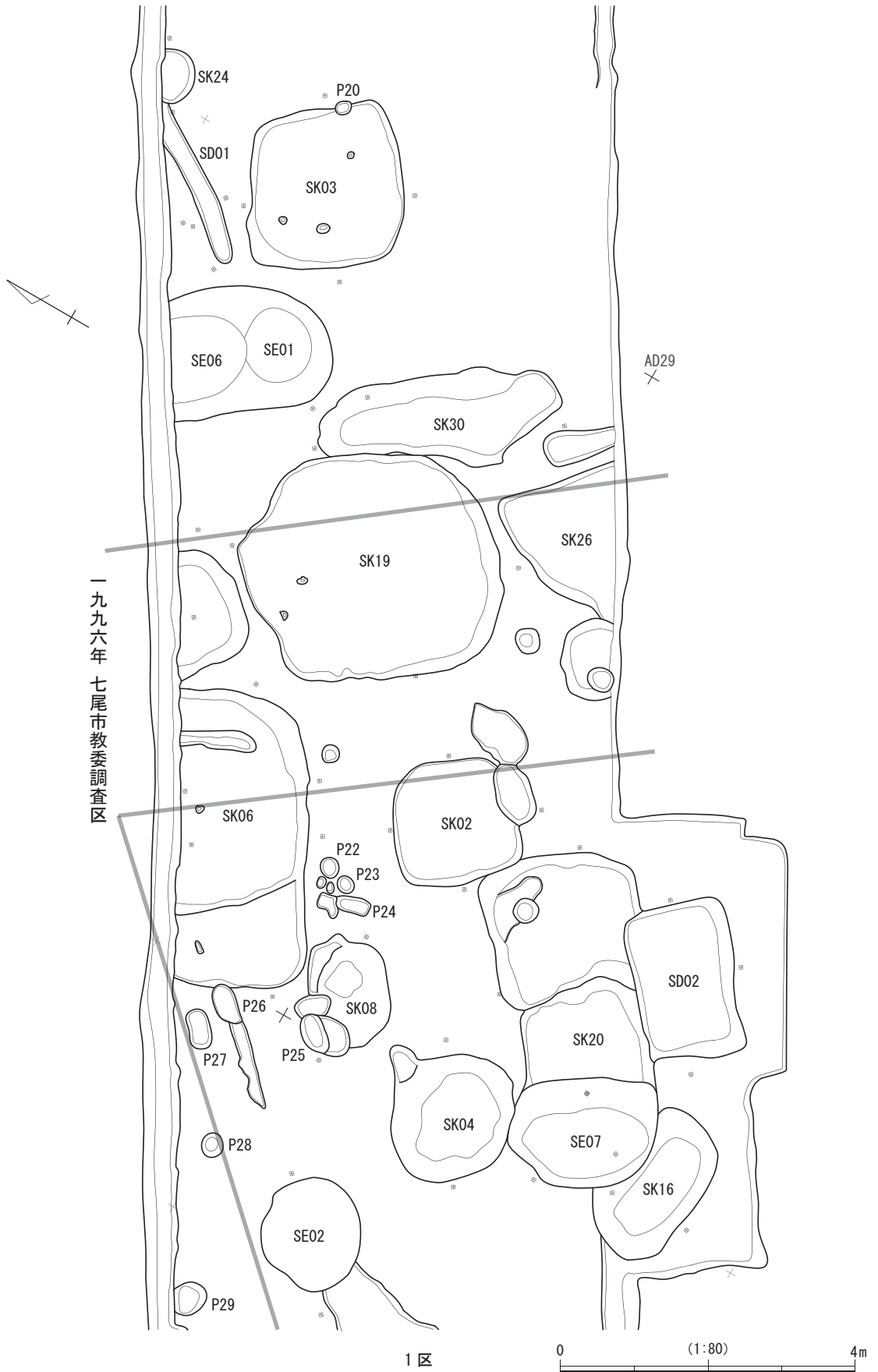
第81図 1区・1区南全体図



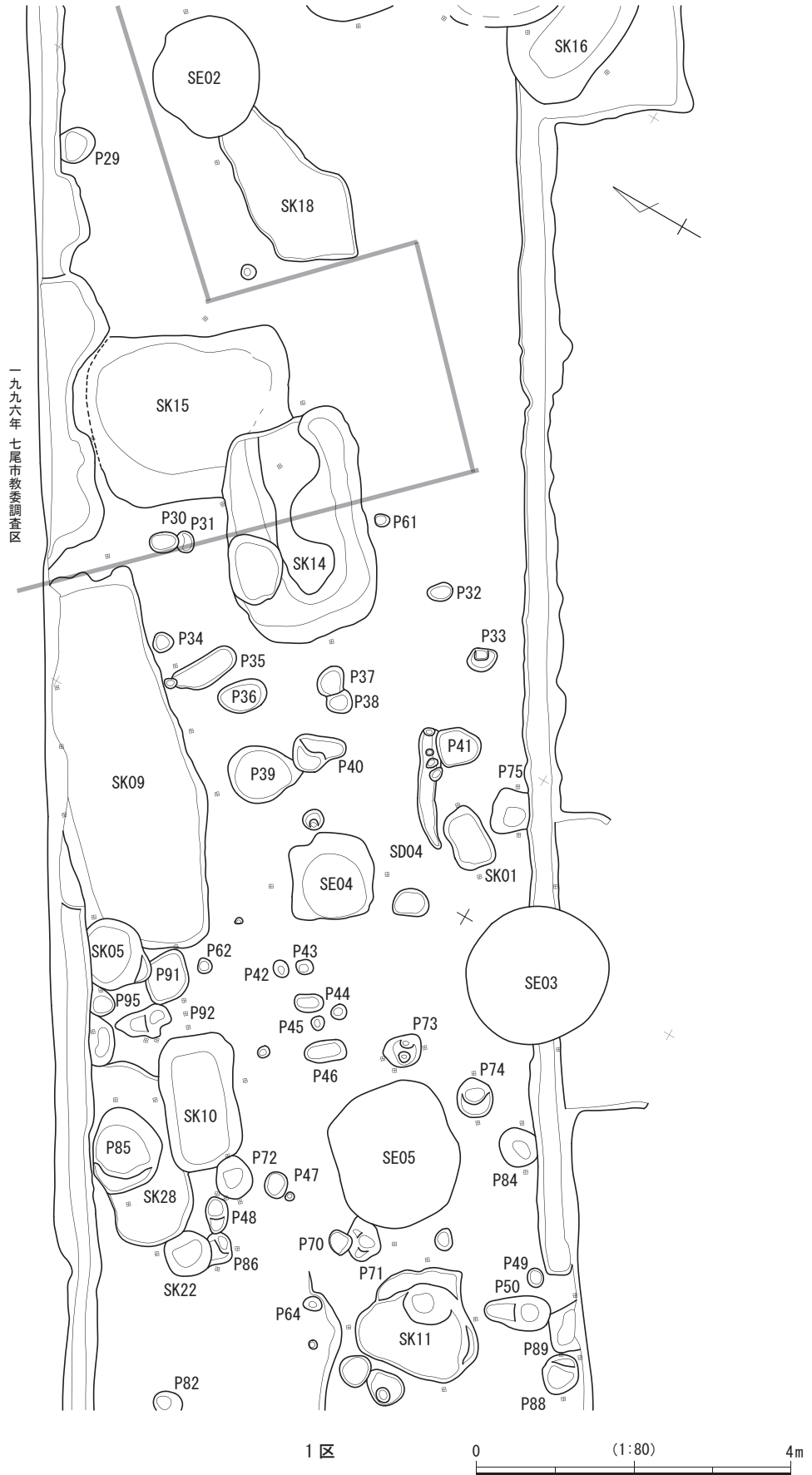
第 82 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 1



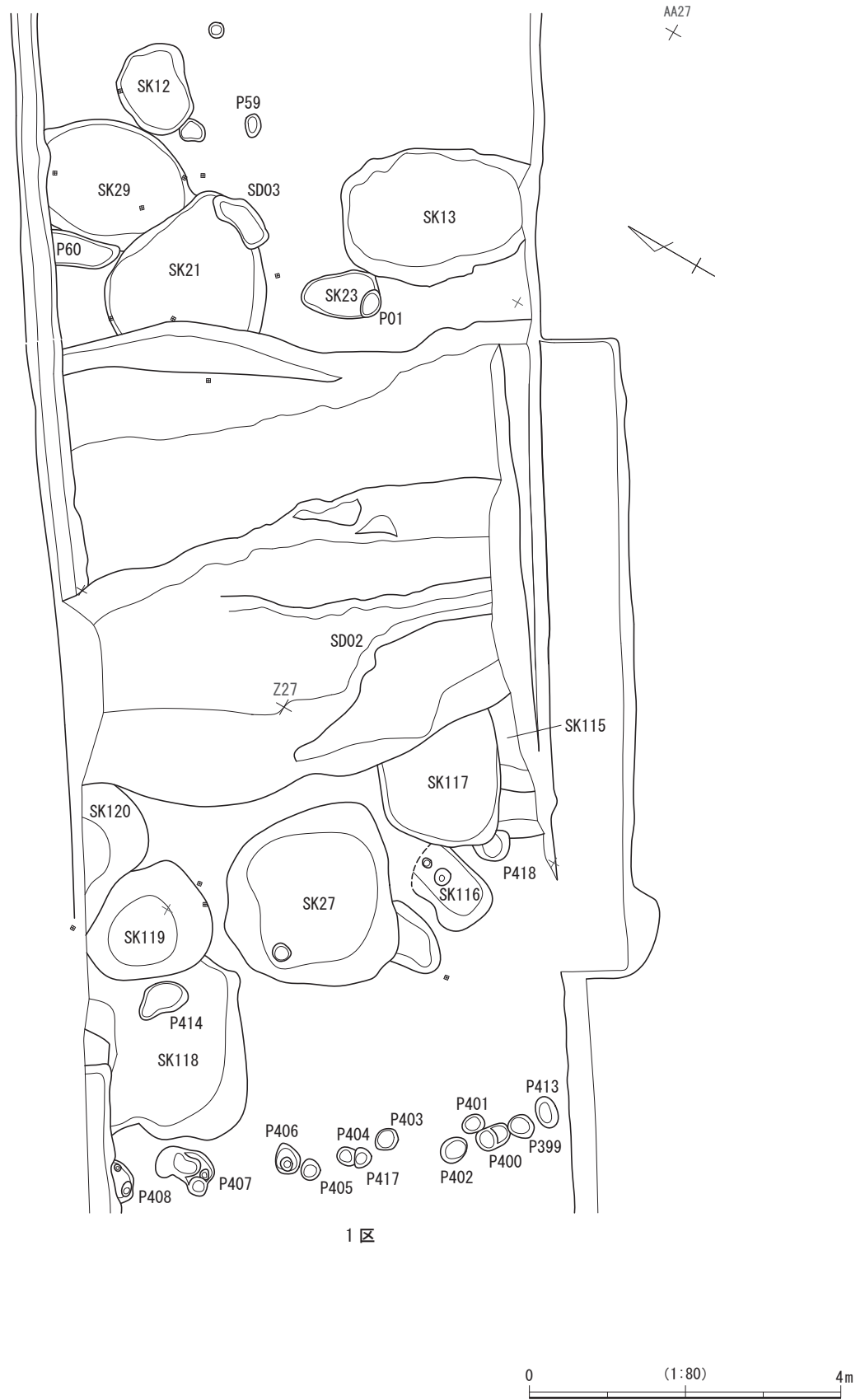
第83図 1区東・1区・1区南遺構図2



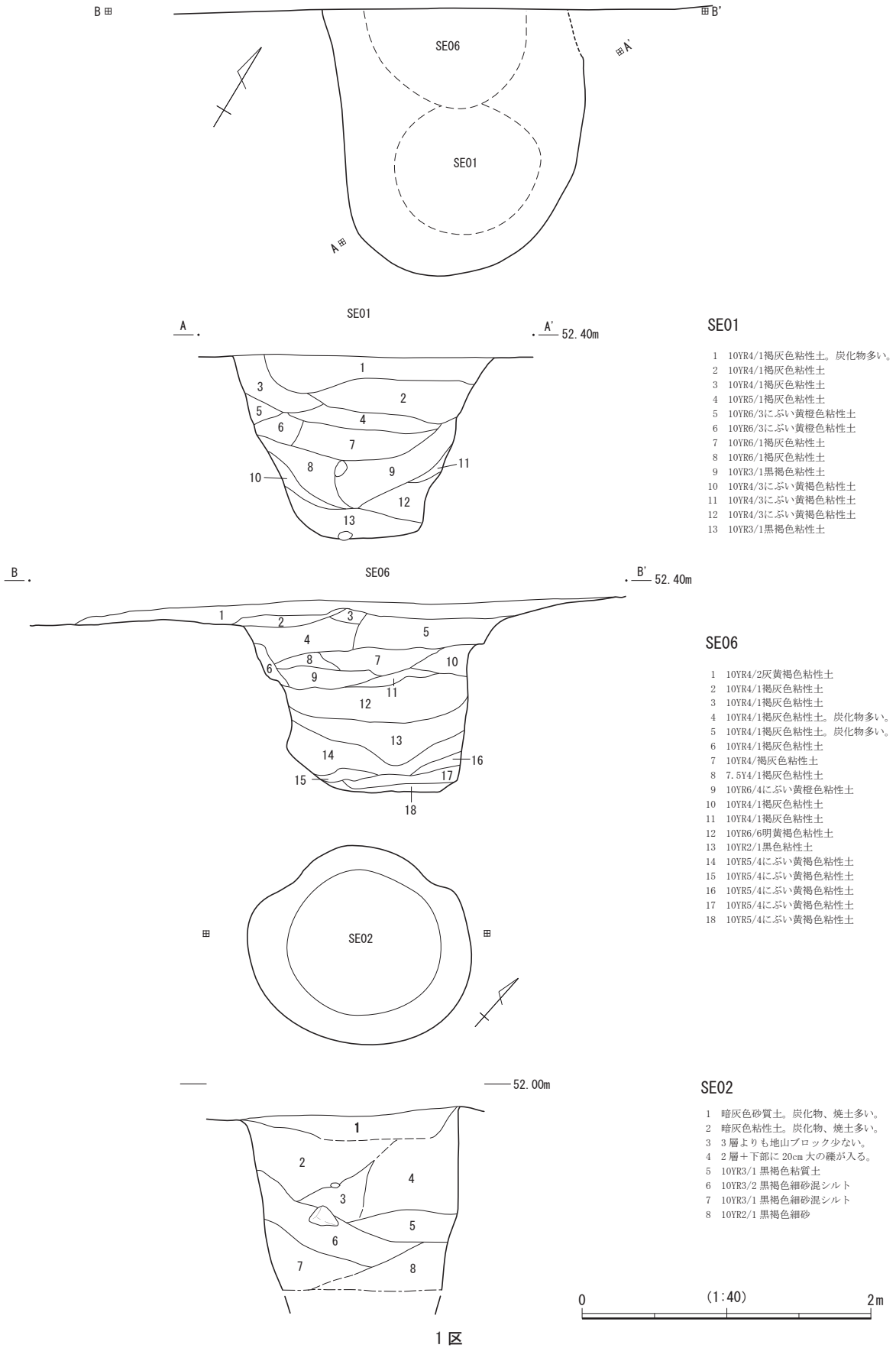
第84図 1区東・1区・1区南遺構図3

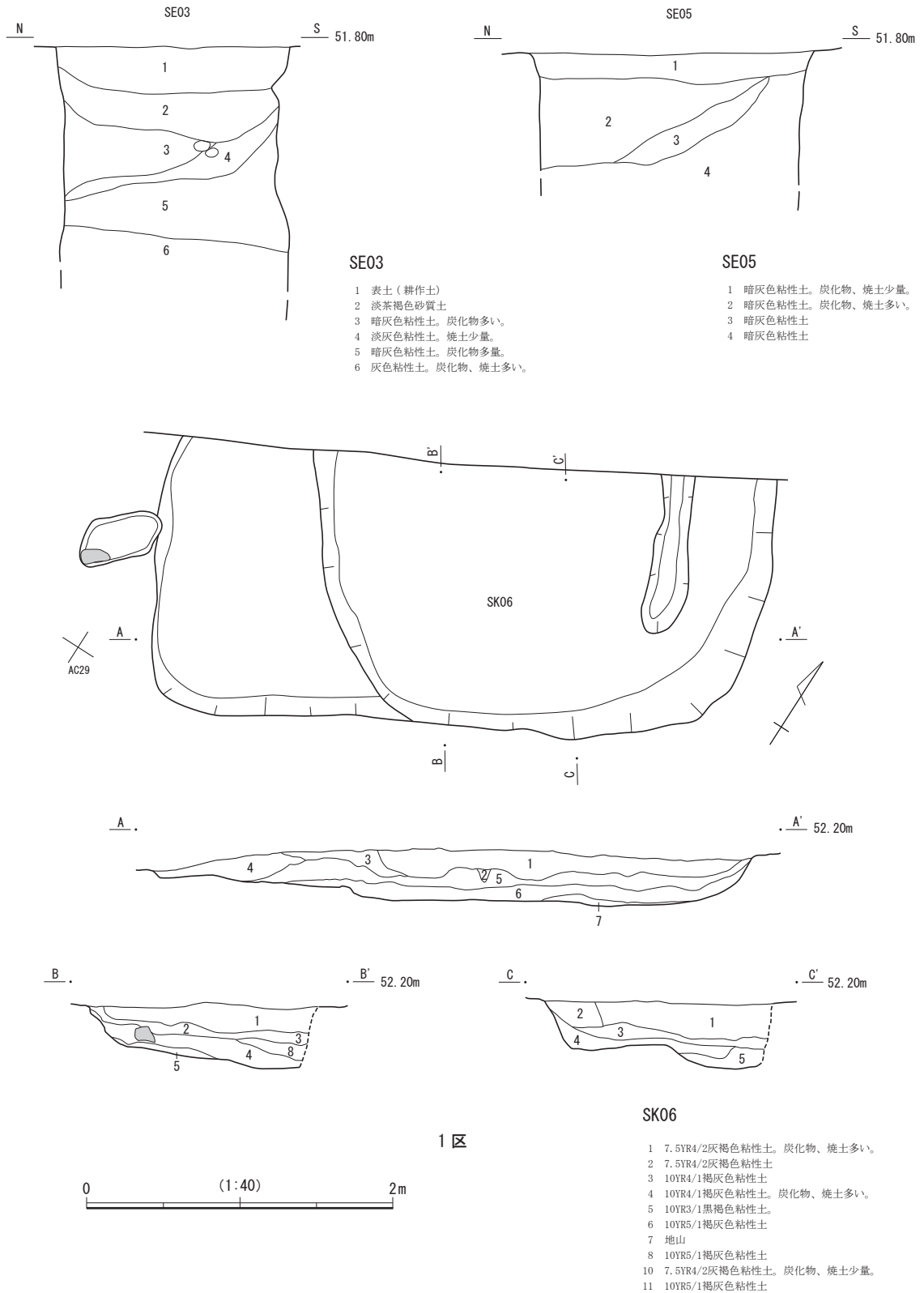


第85図 1区東・1区・1区南遺構図4



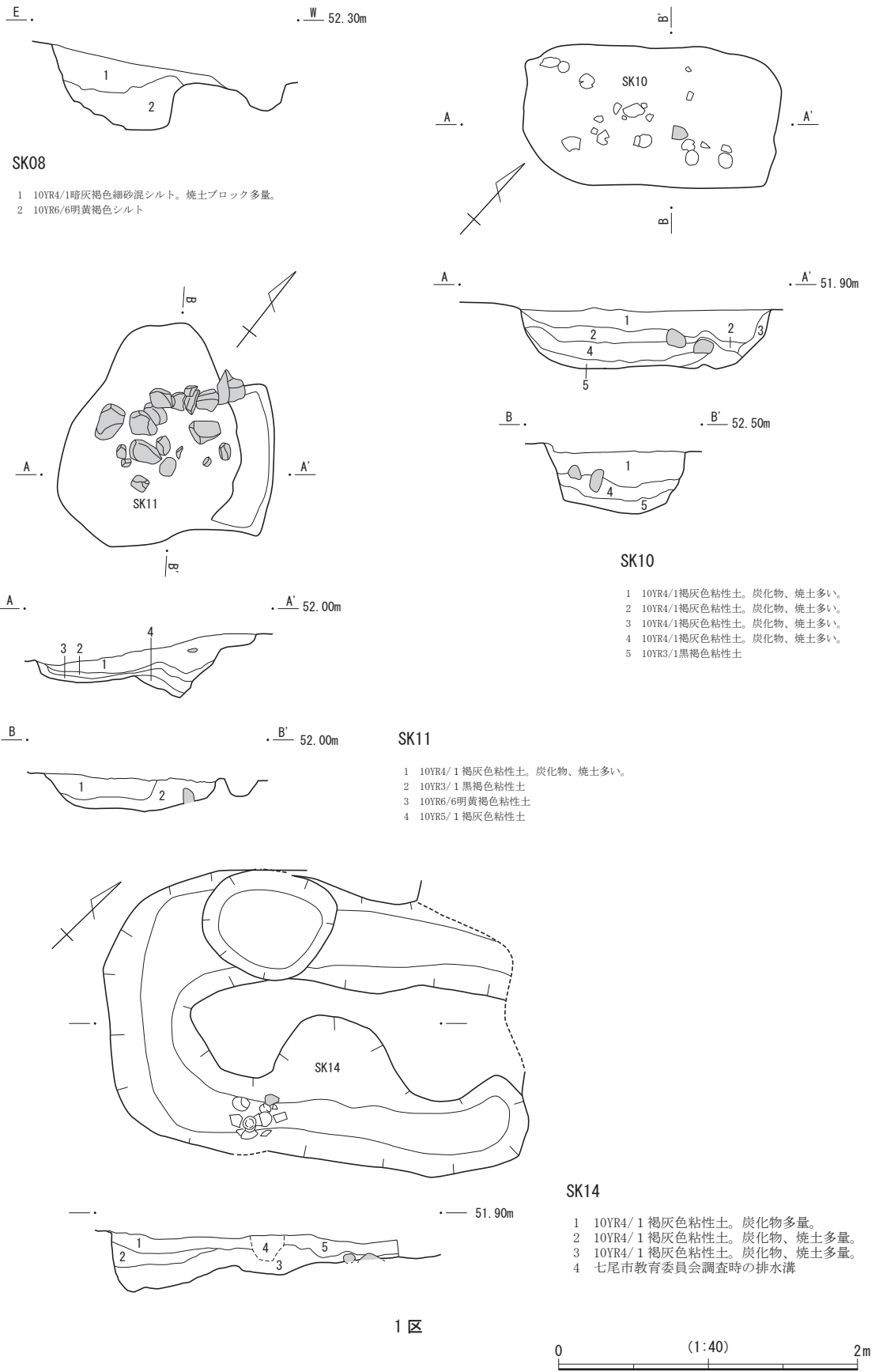
第86図 1区東・1区・1区南遺構図5



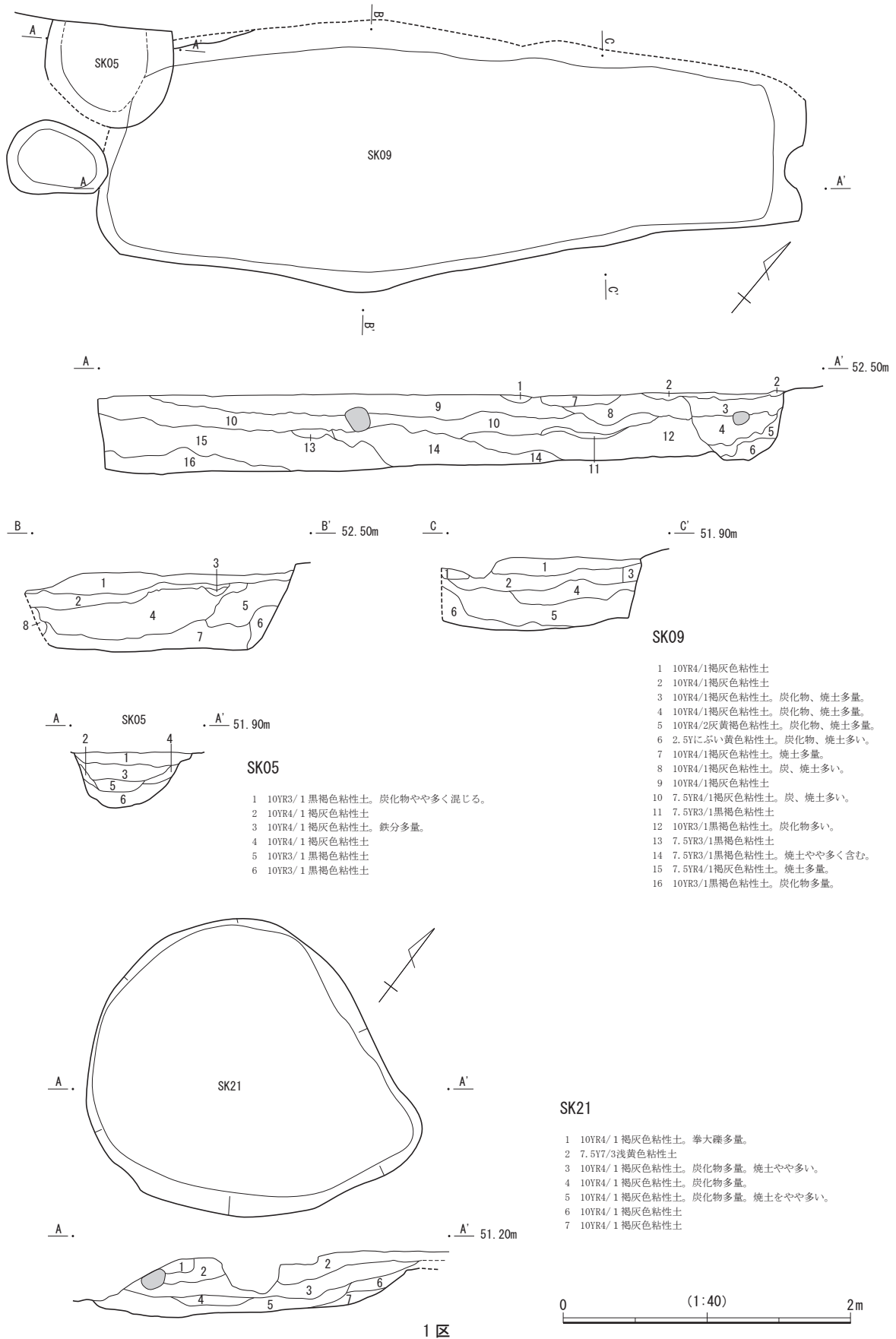


第88図 1区東・1区・1区南遺構図7

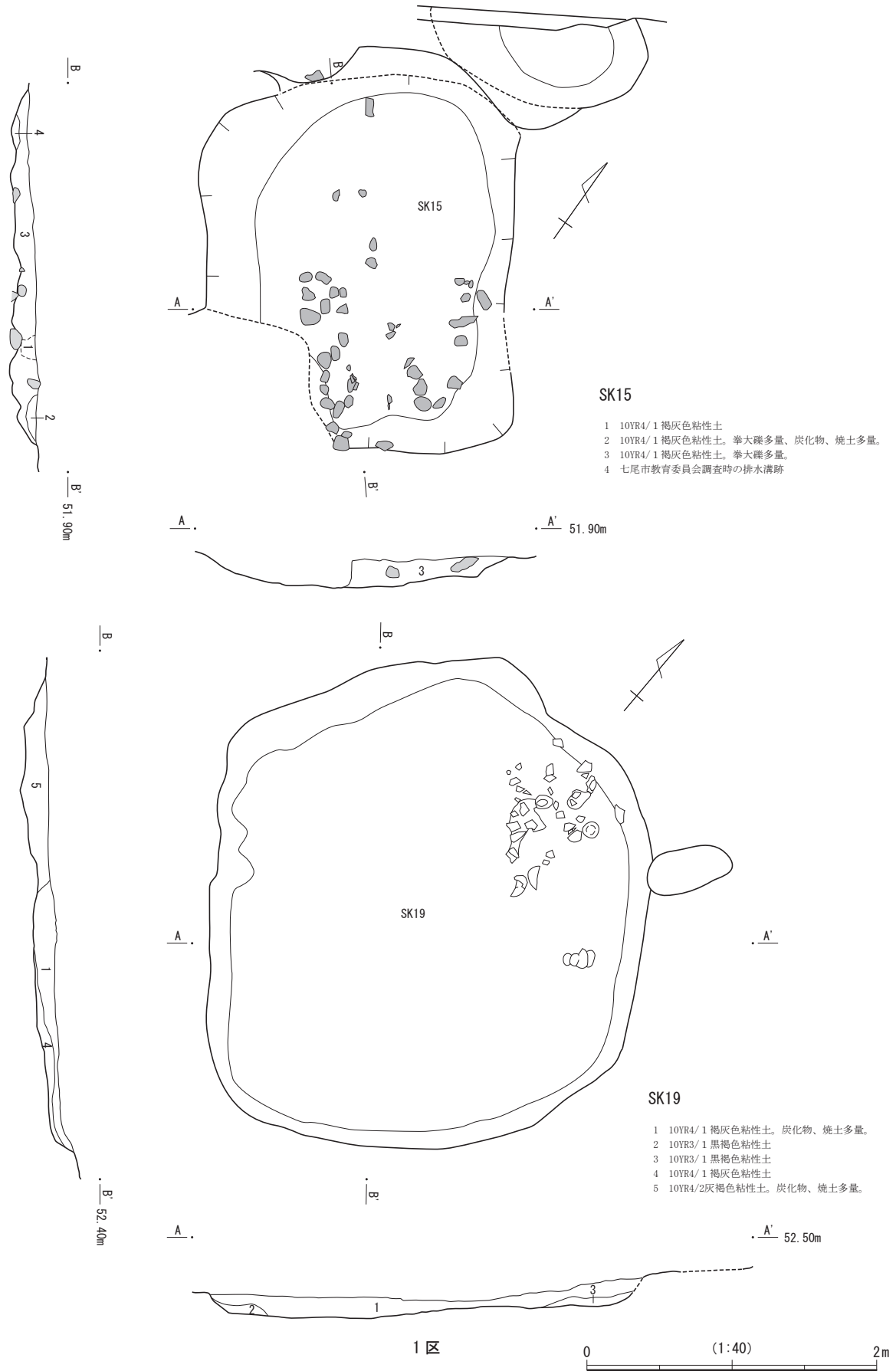
第3章 調査の成果



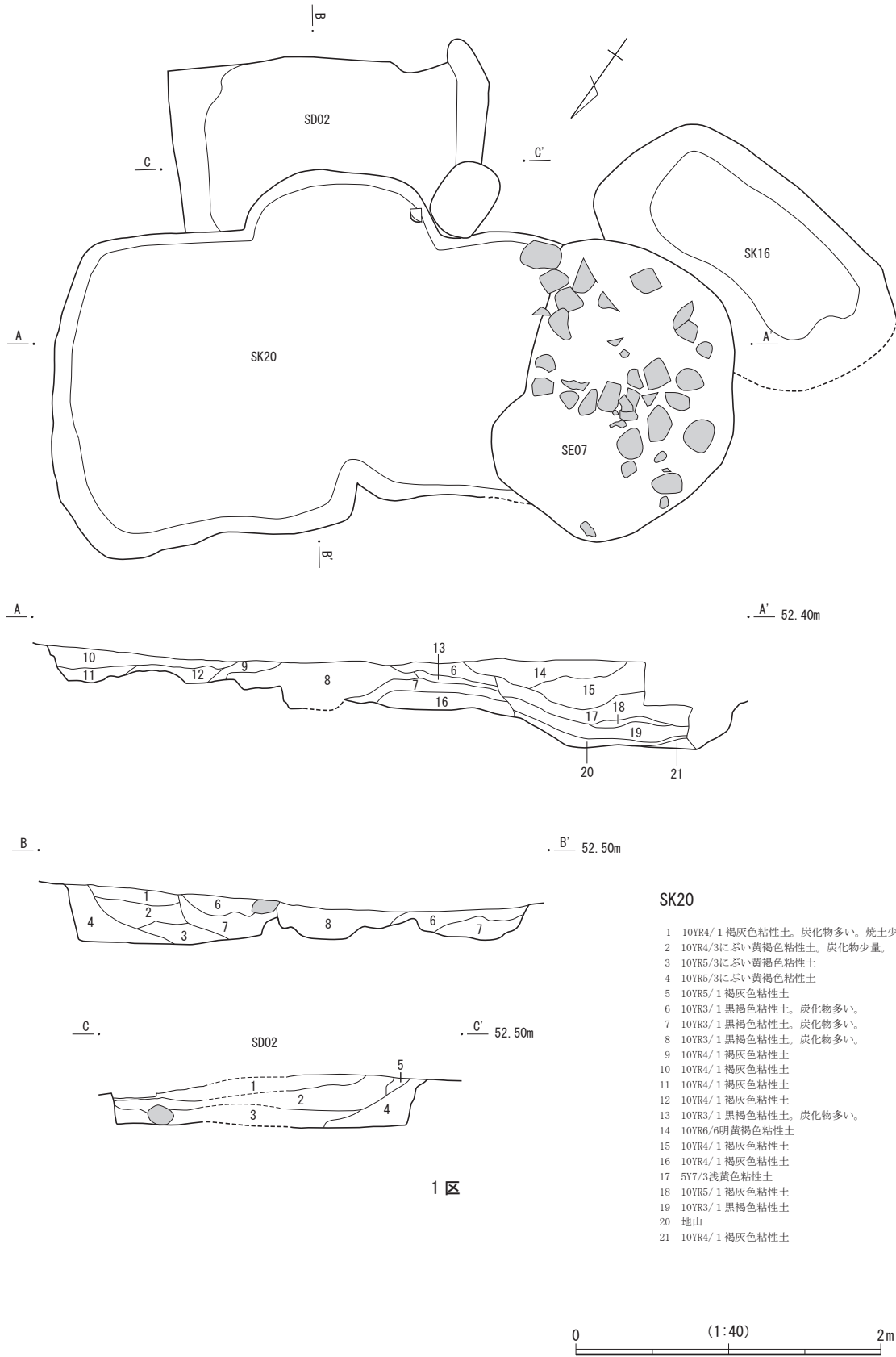
第 89 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 8



第90図 1区東・1区・1区南遺構図9

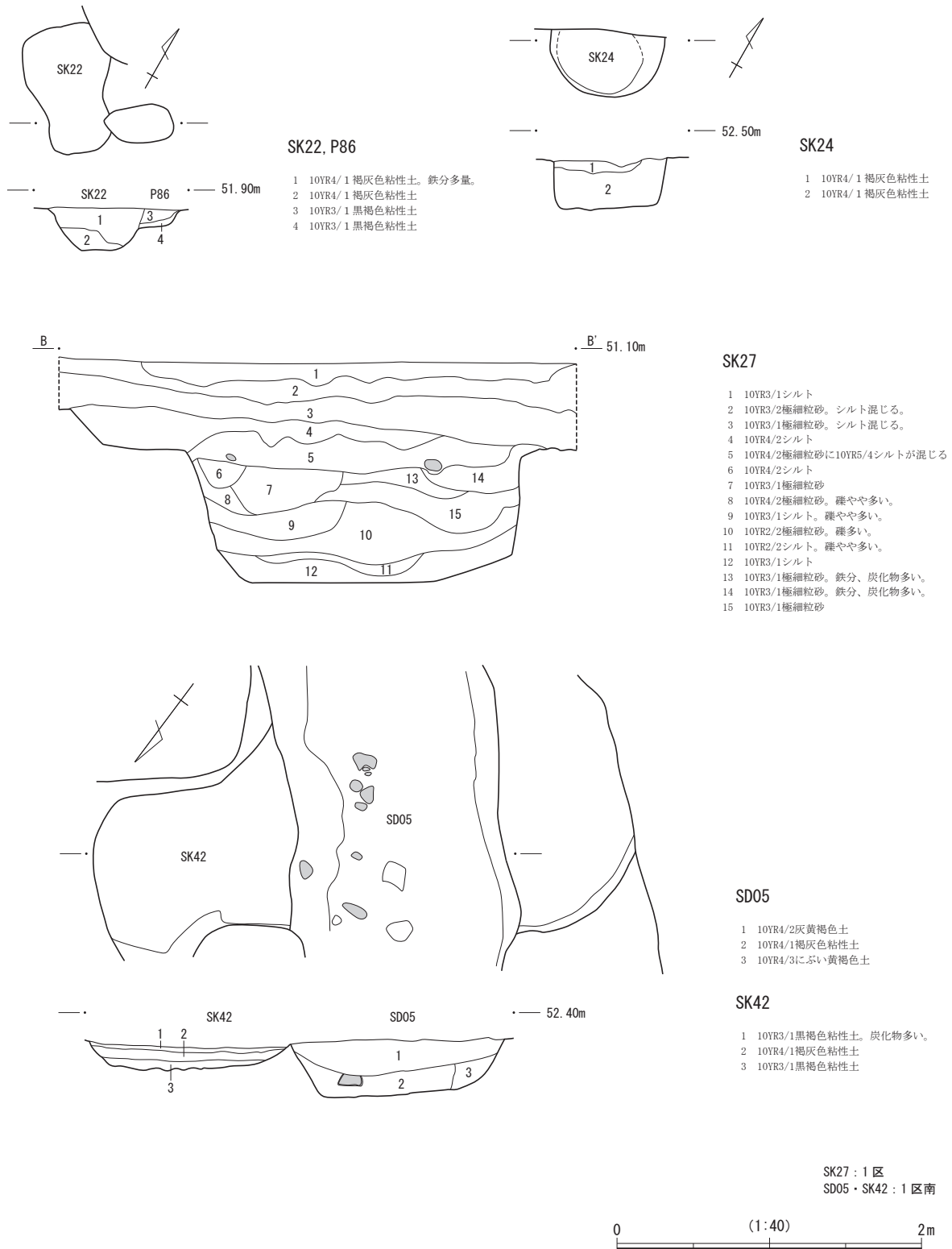


第91図 1区東・1区・1区南遺構図10

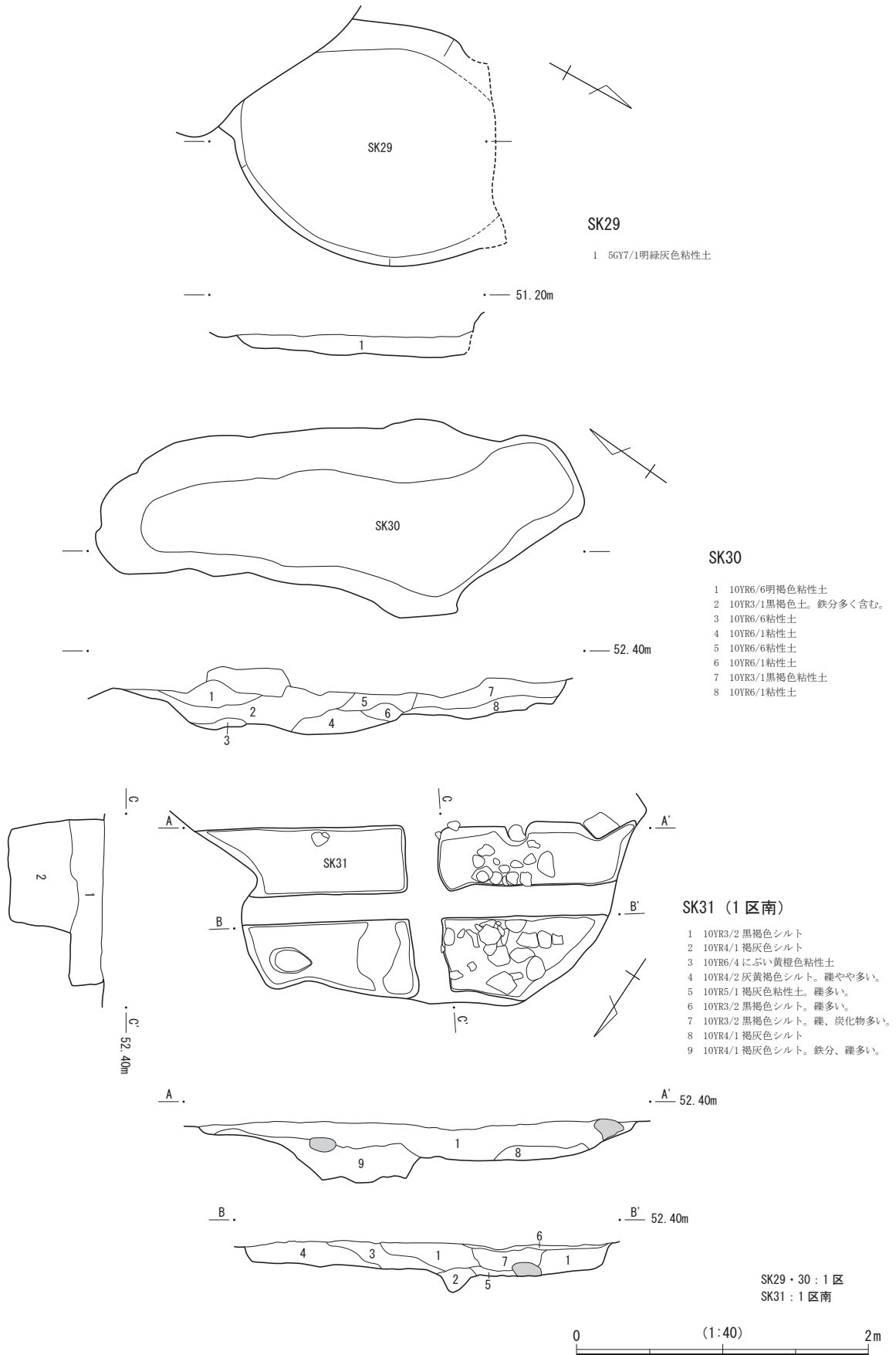


第92図 1区東・1区・1区南遺構図11

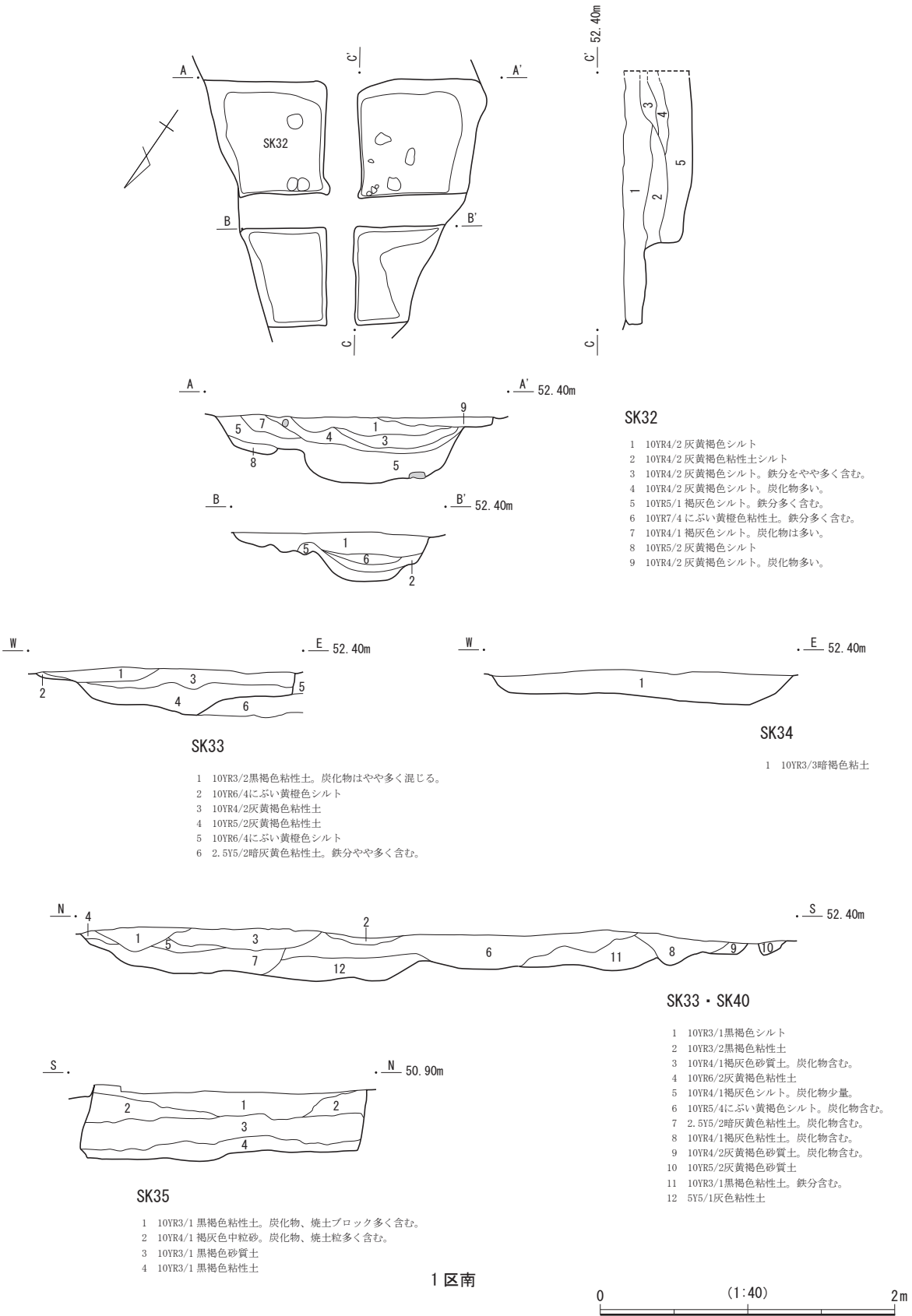
第3章 調査の成果



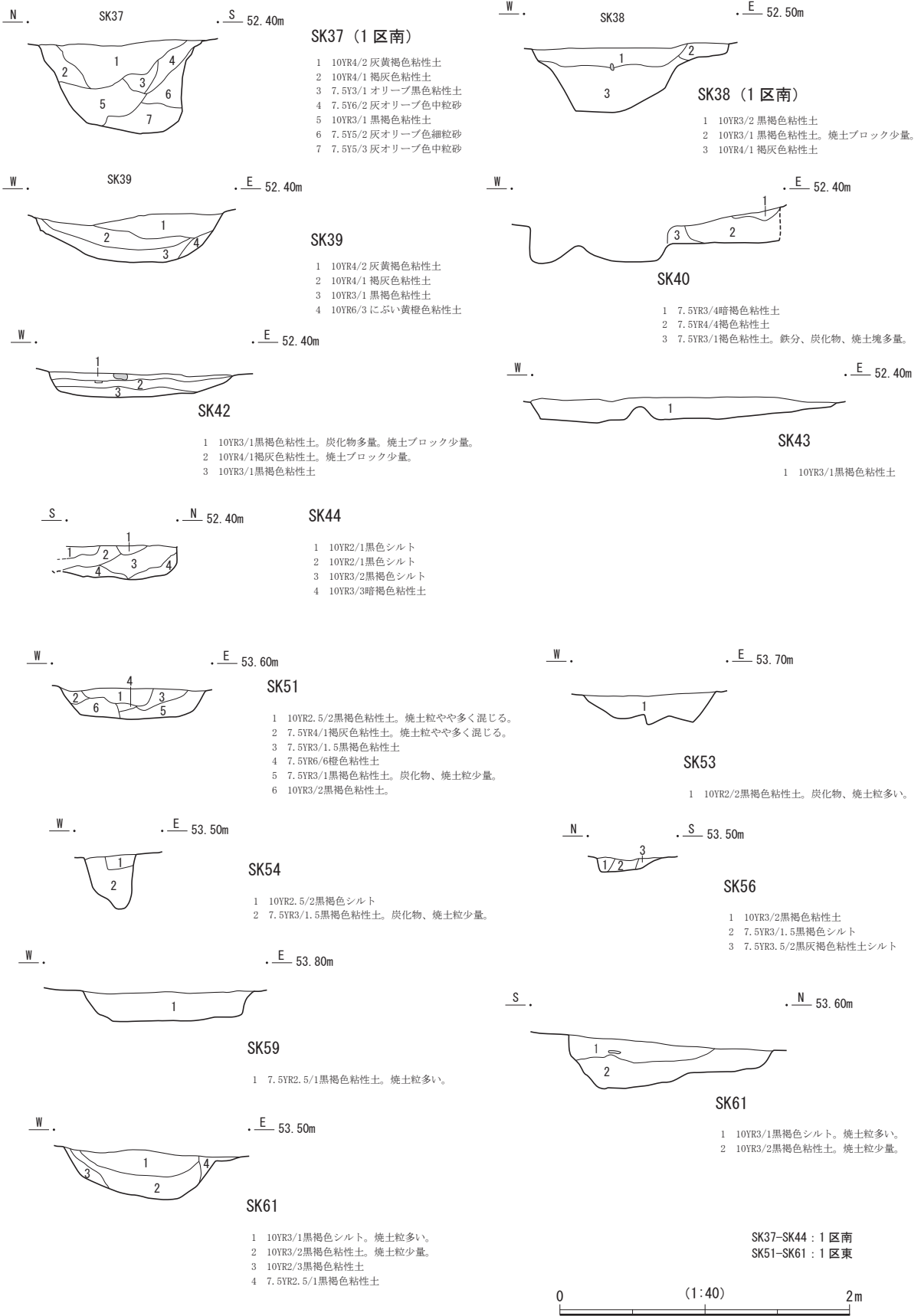
第93図 1区東・1区・1区南遺構図12



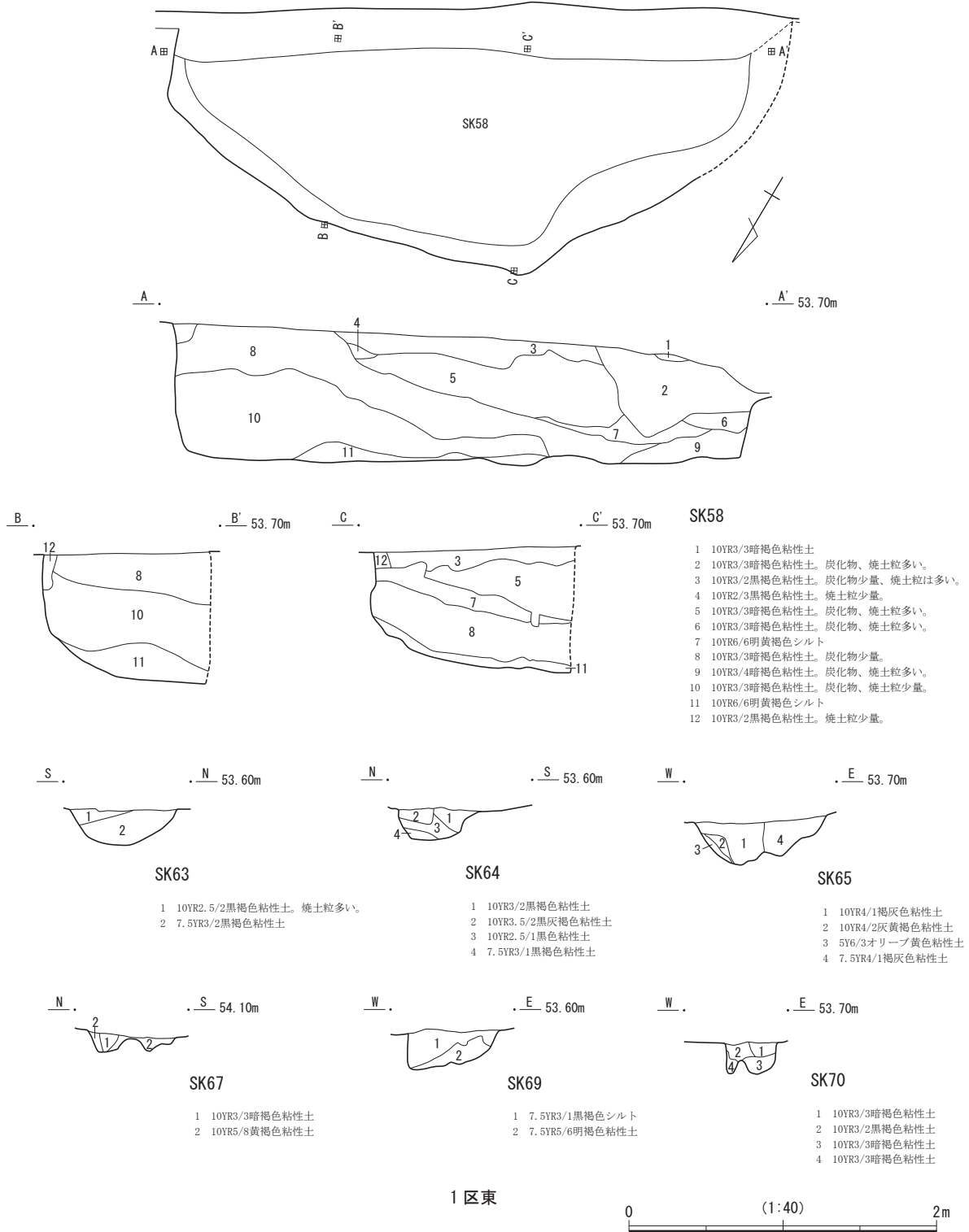
第94図 1区東・1区・1区南遺構図13



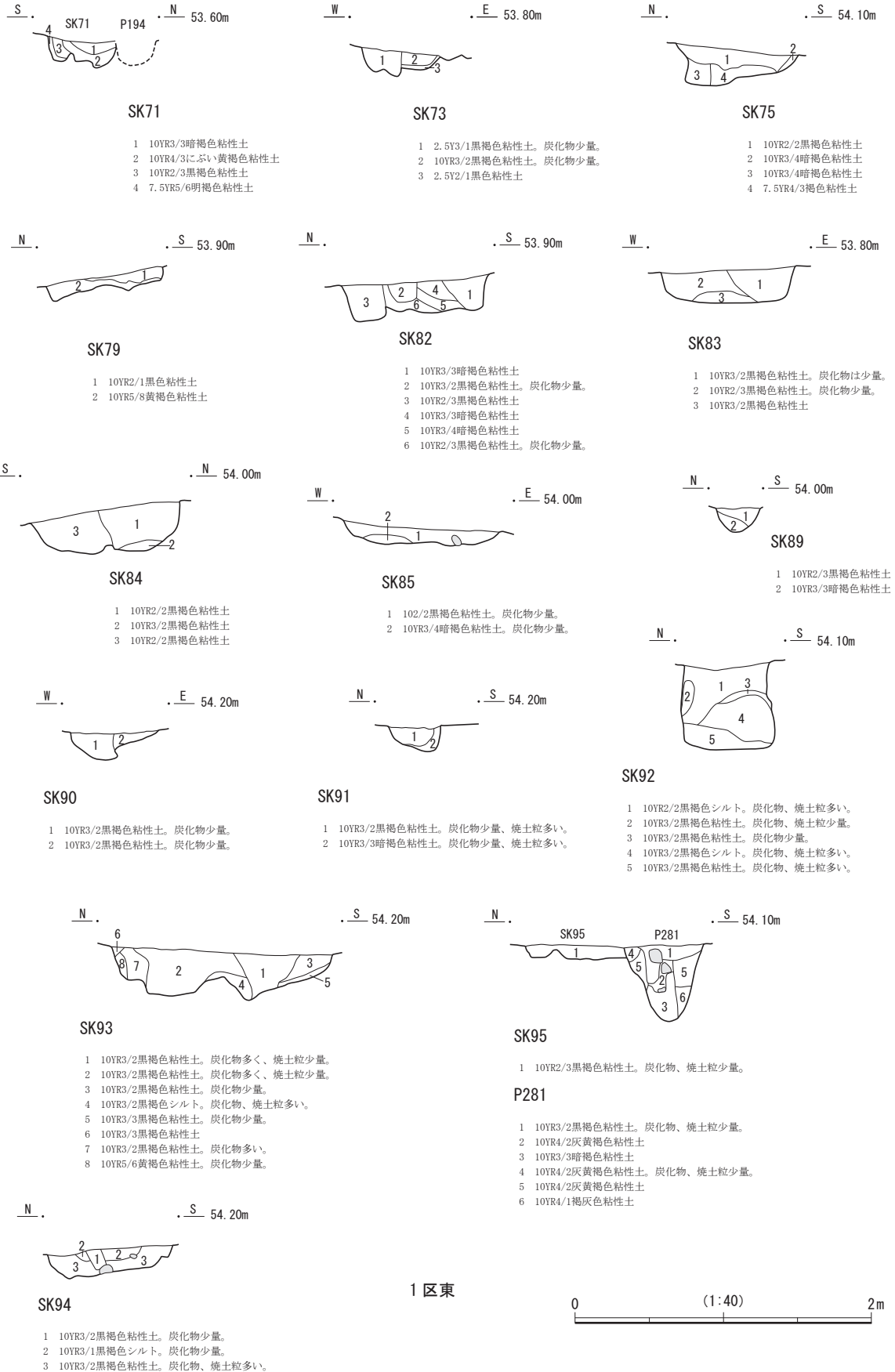
第95図 1区東・1区・1区南遺構図14



第96図 1区東・1区・1区南遺構図15

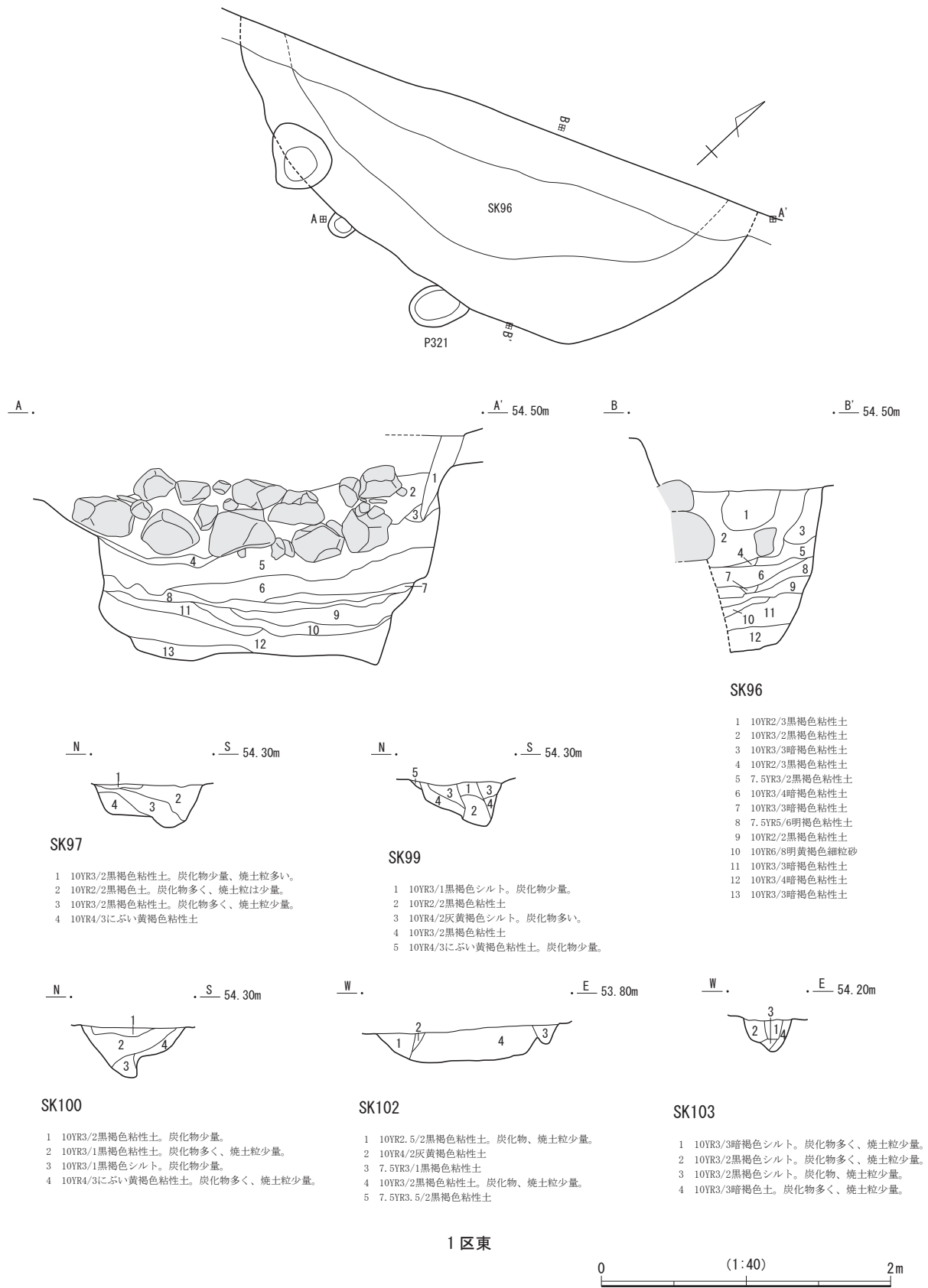


第97図 1区東・1区・1区南遺構図16

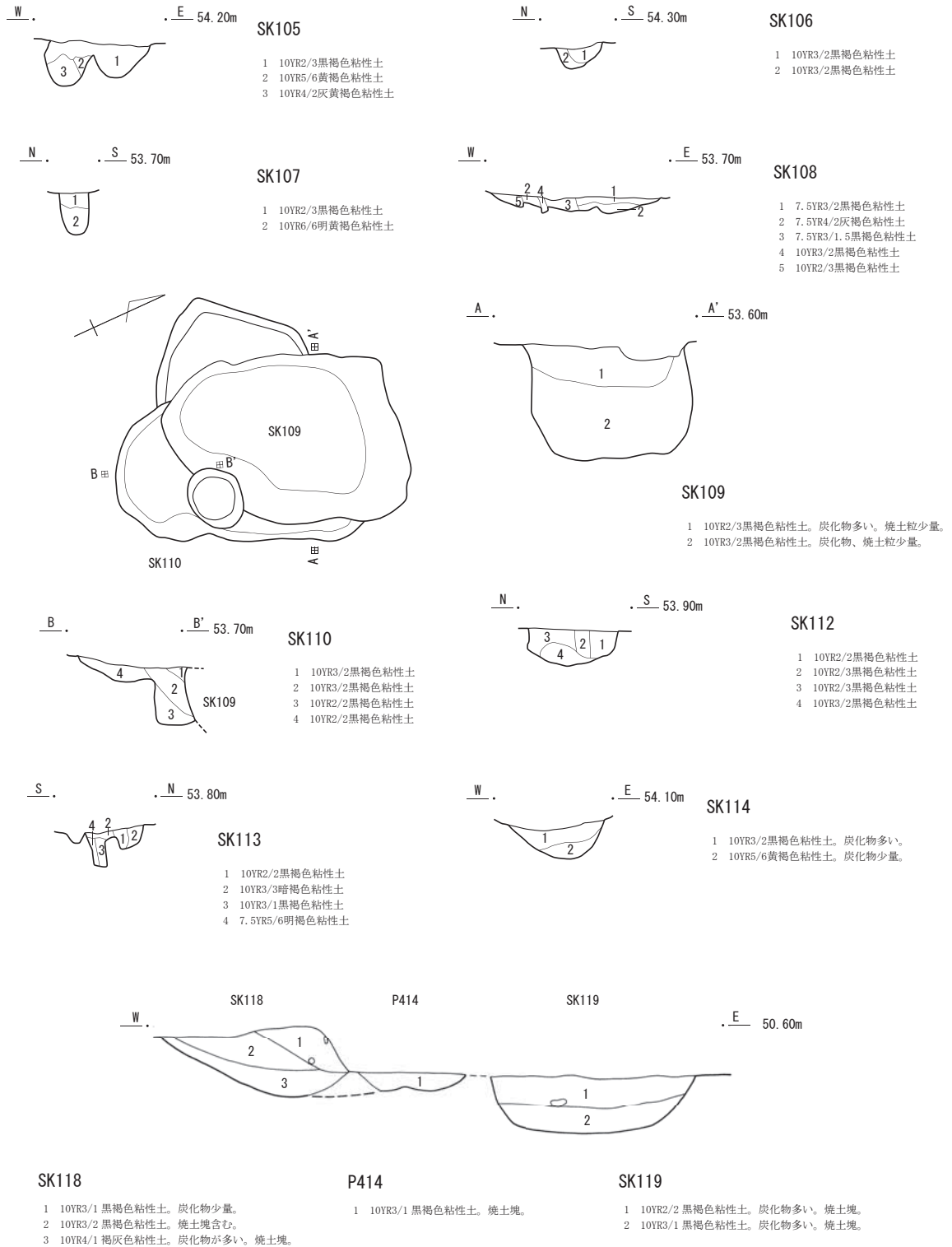


第98図 1区東・1区・1区南遺構図17

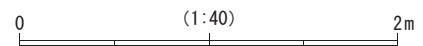
第3章 調査の成果



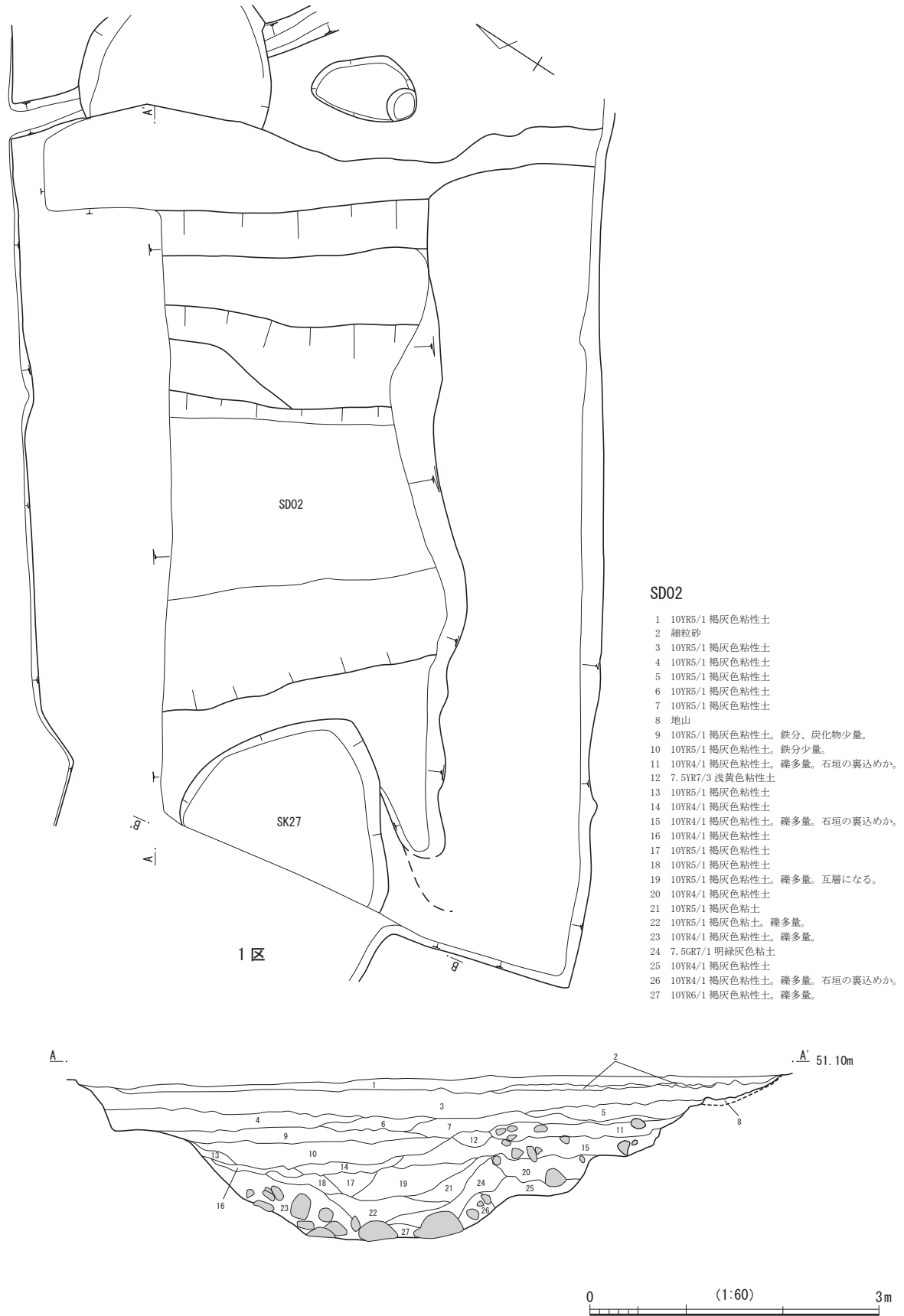
第99図 1区東・1区・1区南遺構図18



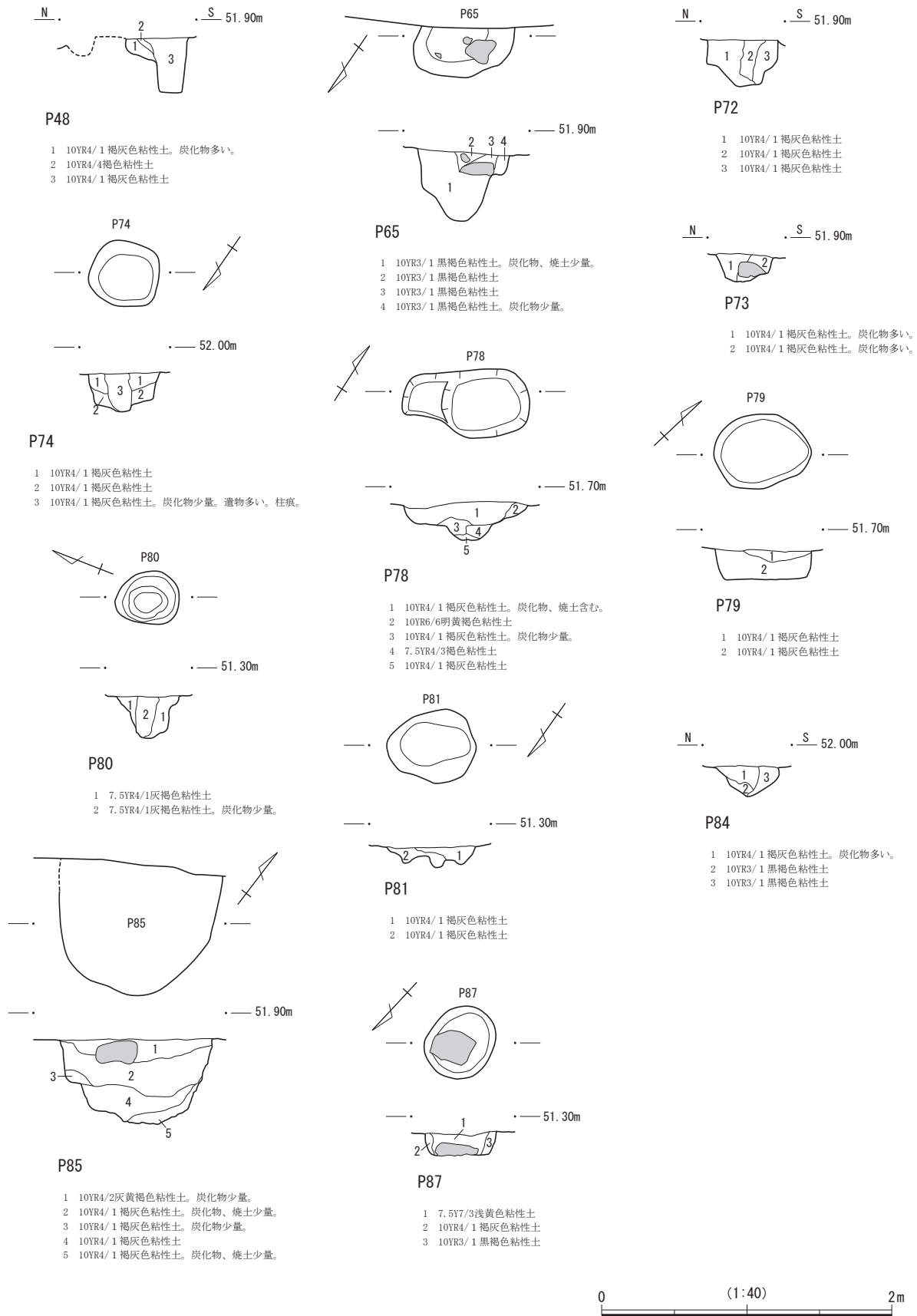
SK105-SK114 : 1 区東
 SK118・119・P414 : 1 区



第 100 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 19

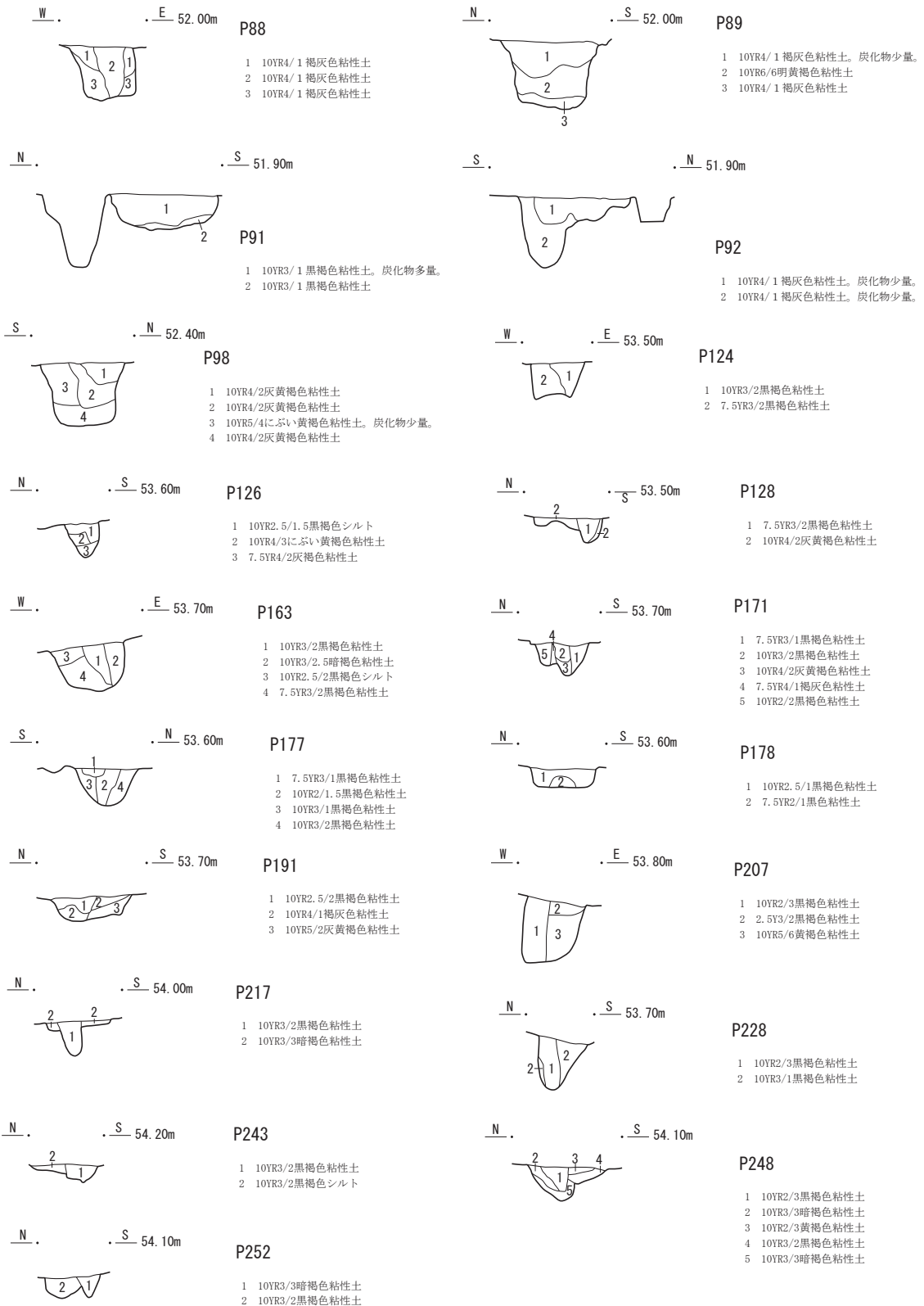


第 101 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 20

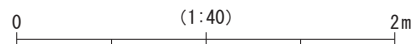


第 102 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 21

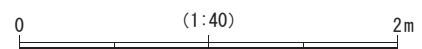
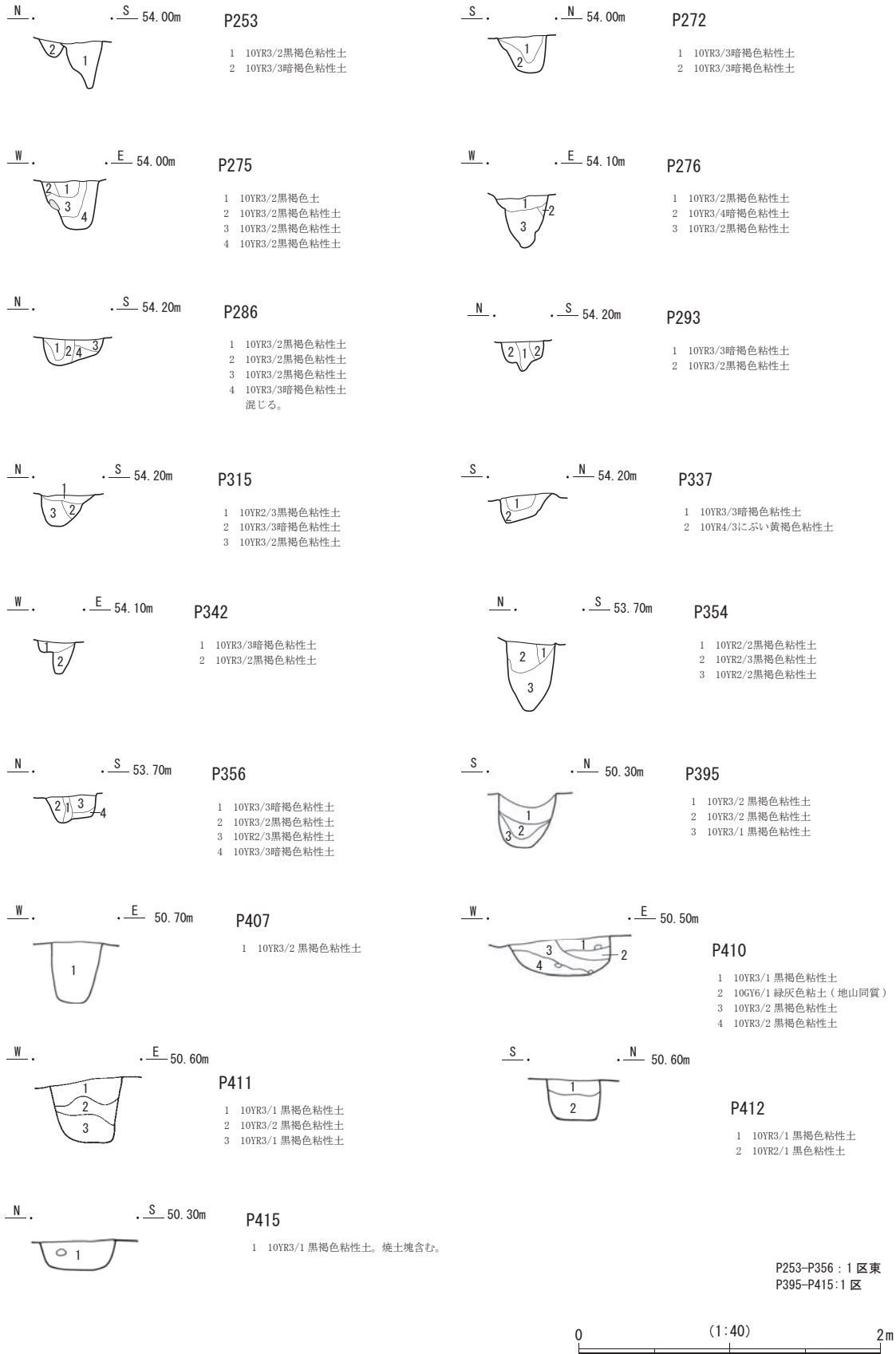
第3章 調査の成果



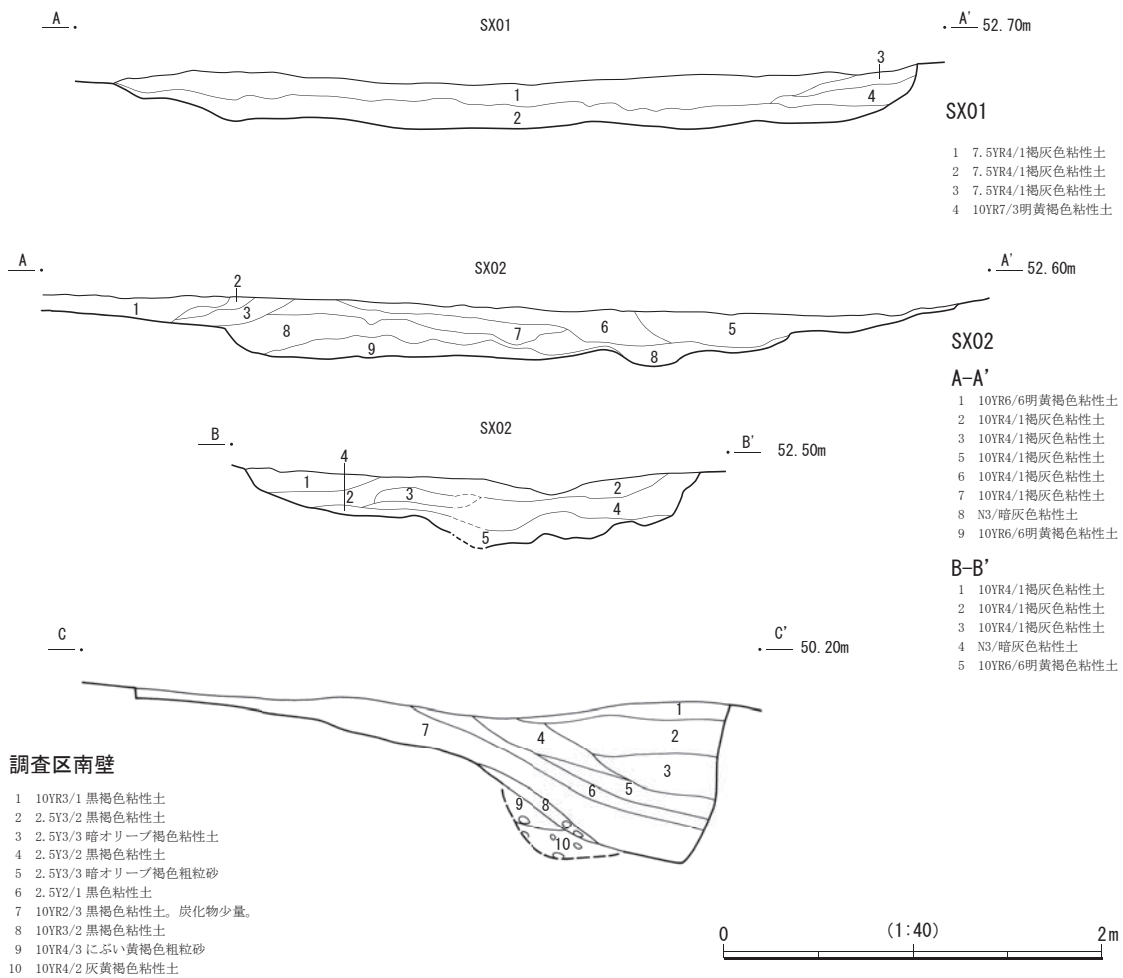
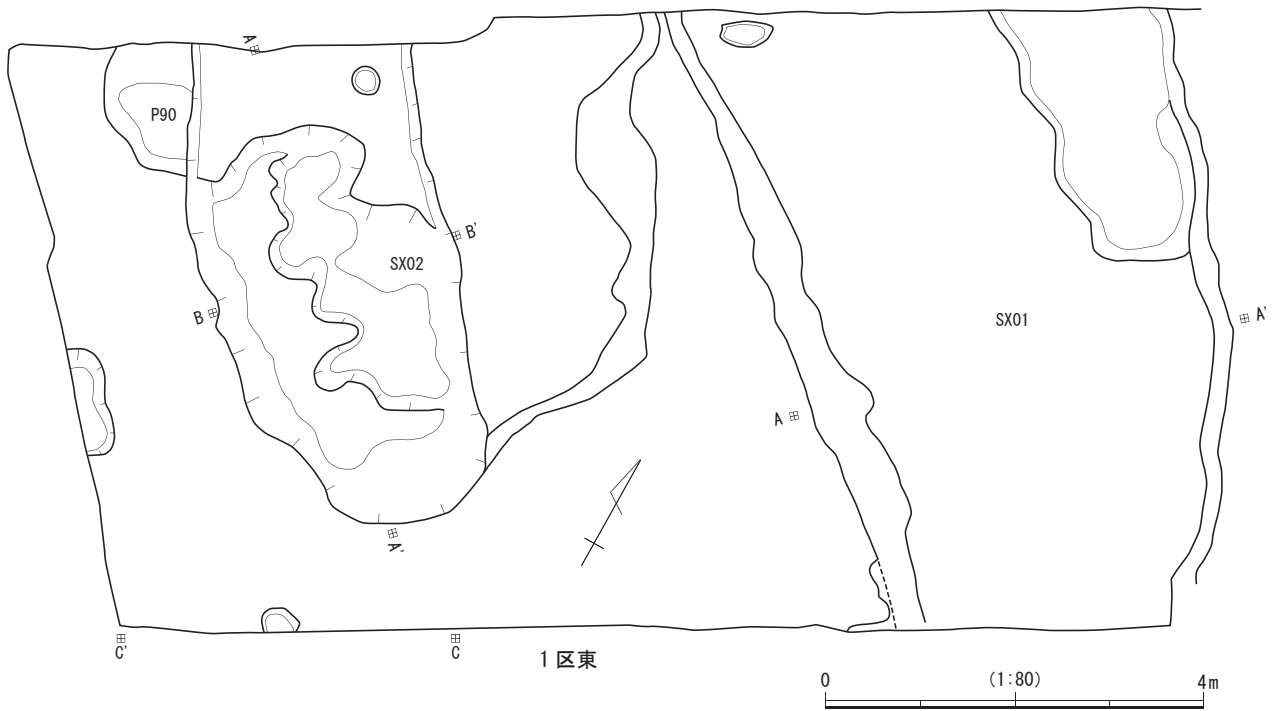
P88-P92 : 1 区
 P98 : 1 区南
 P124-P252 : 1 区東



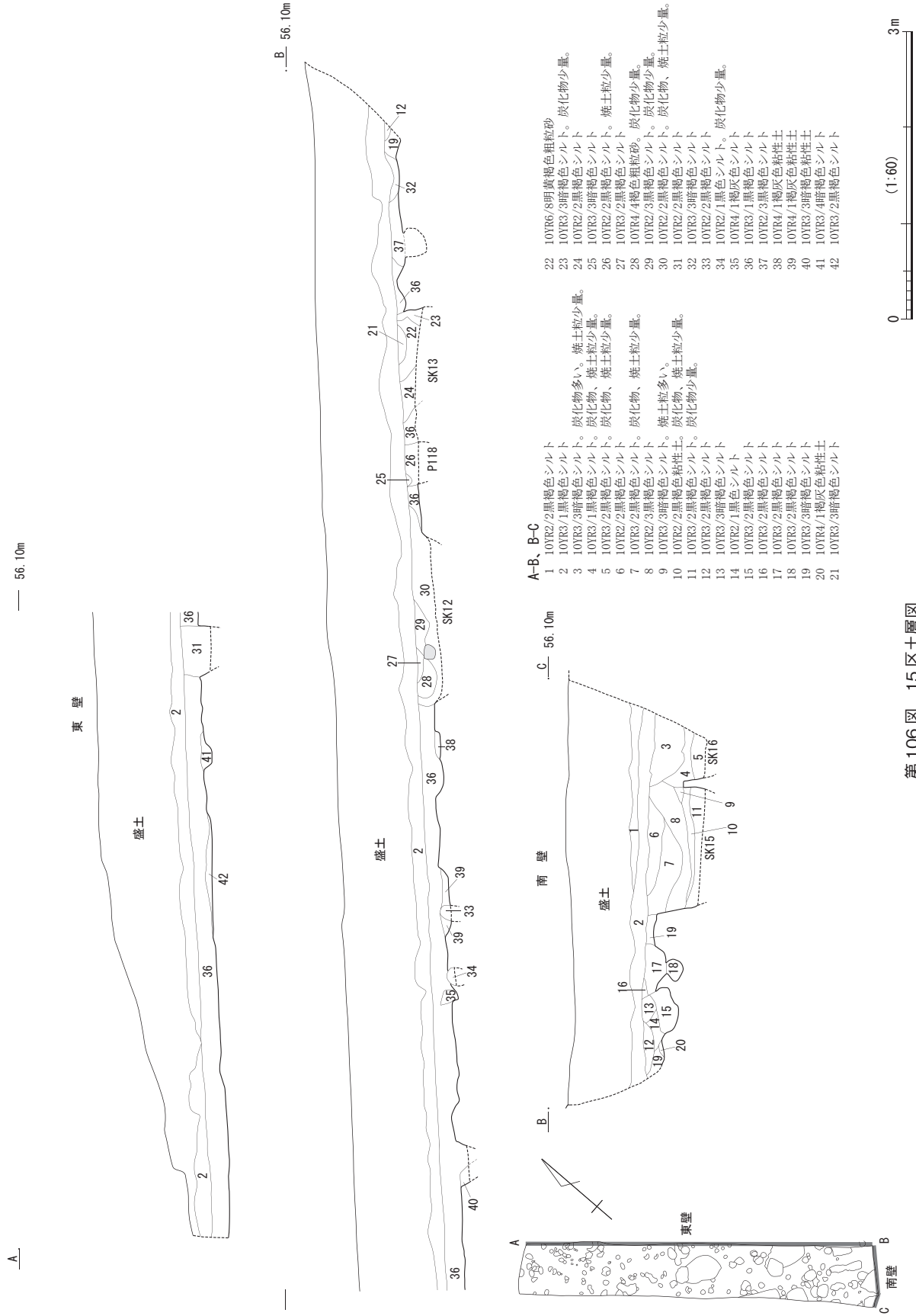
第 103 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 22



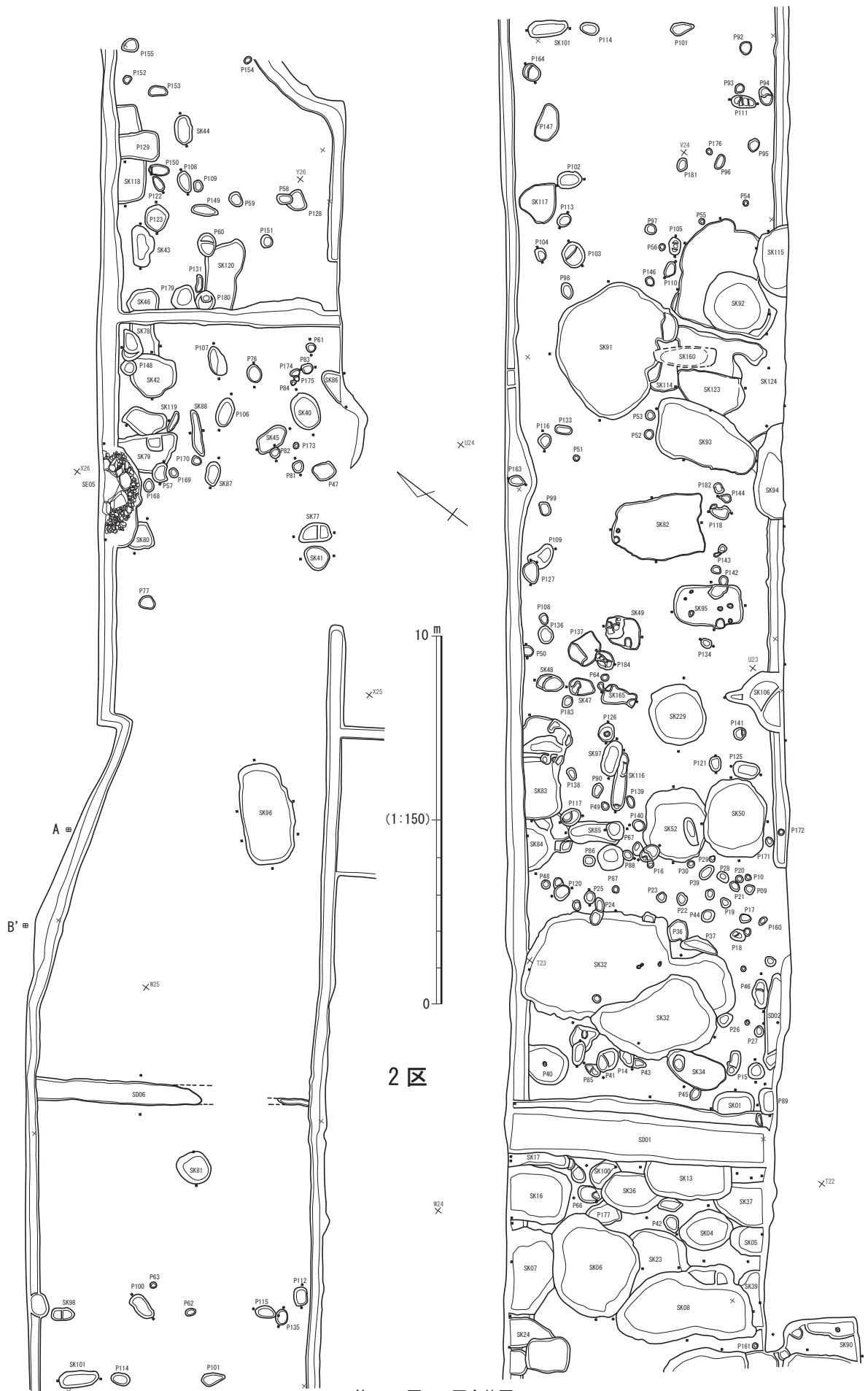
第 104 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 23



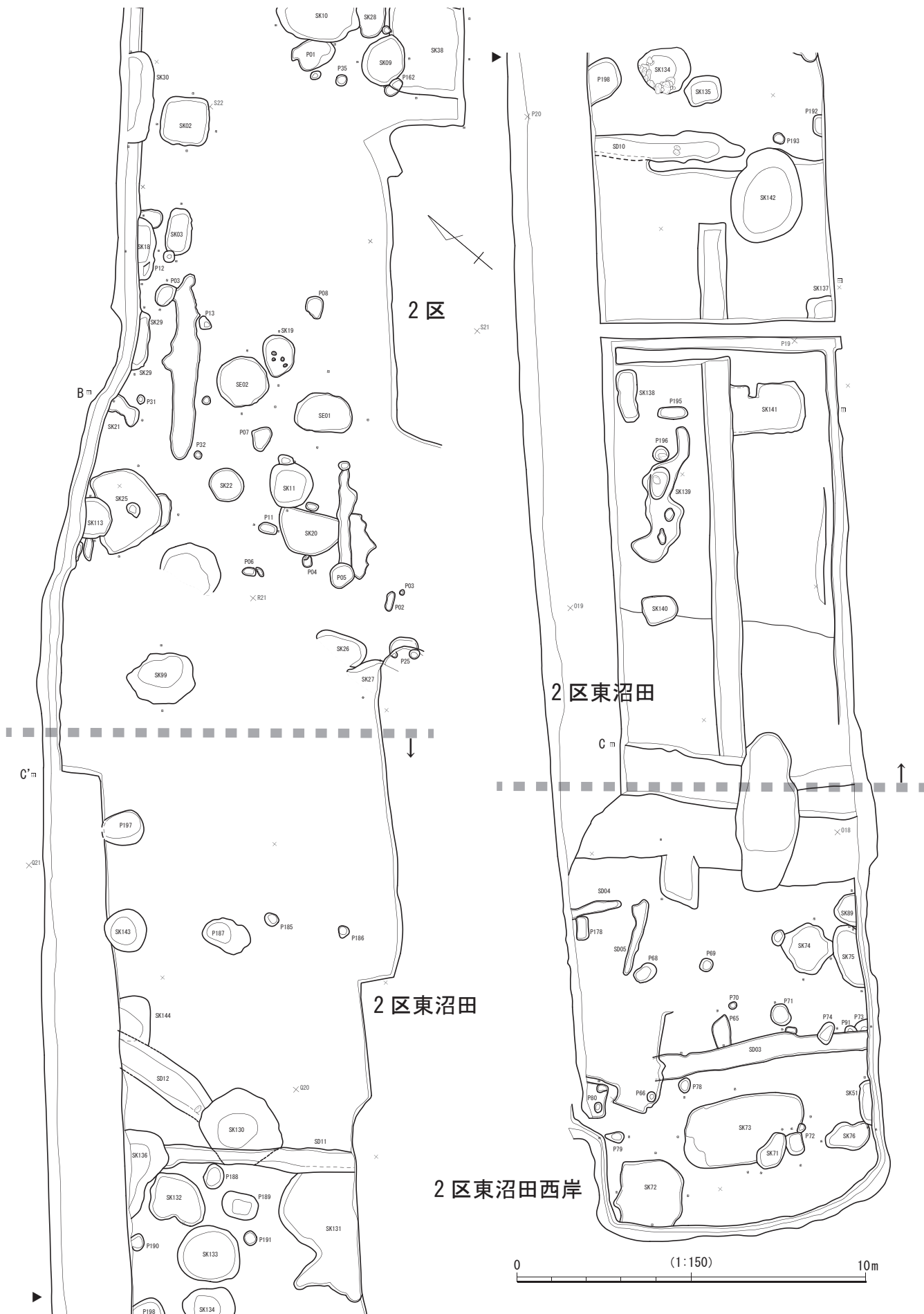
第 105 図 1 区東・1 区・1 区南遺構図 24



第106図 15区土層図



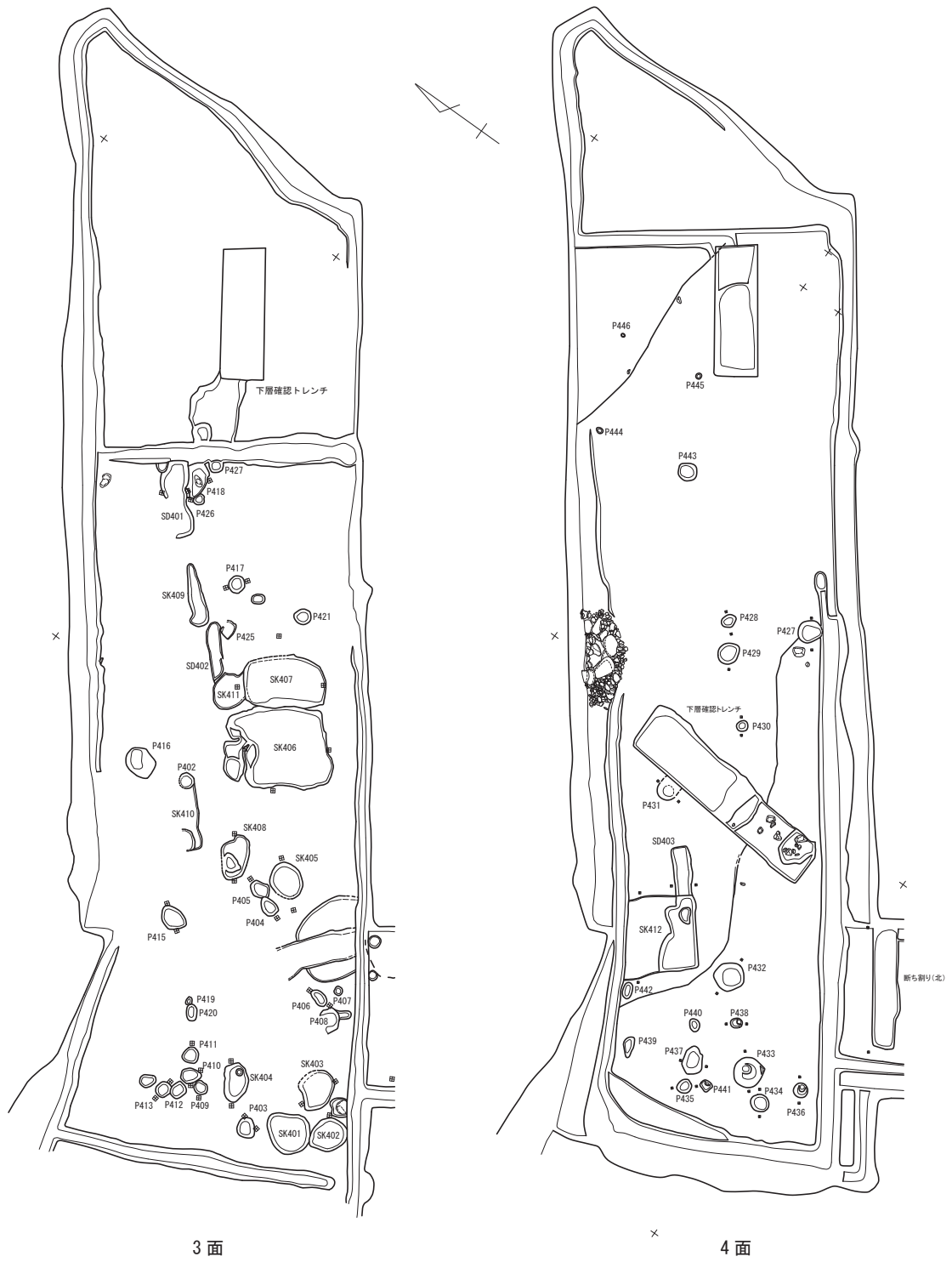
第107図 2区全体図



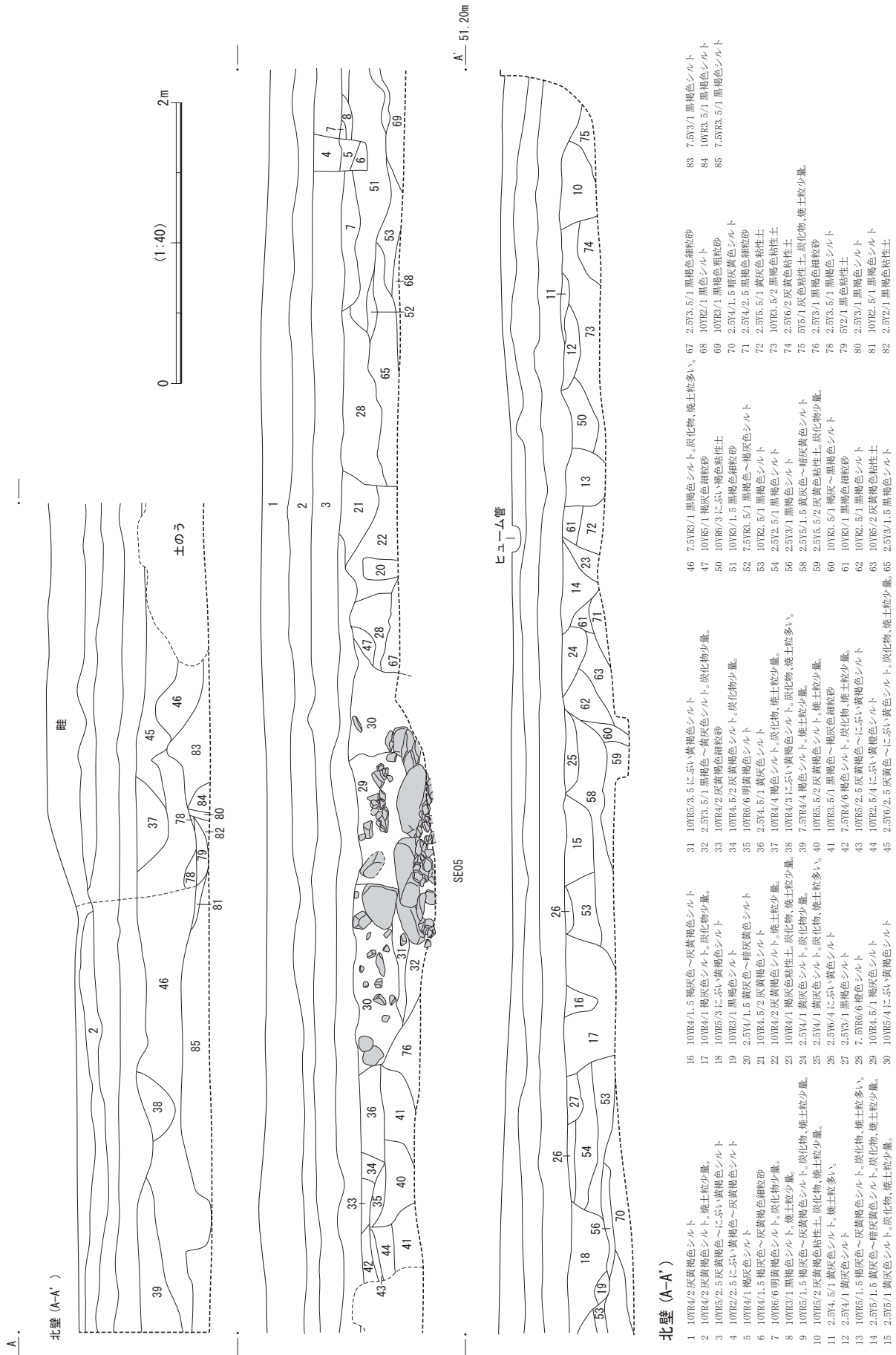
第 108 図 2 区・2 区東沼田・東沼田西岸全体図
- 145 -



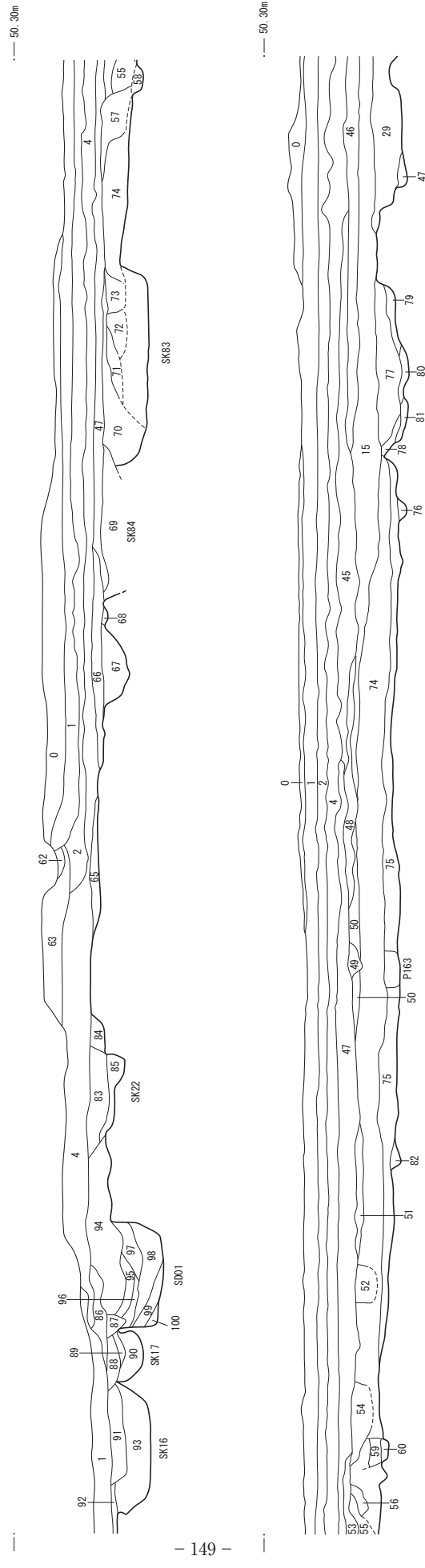
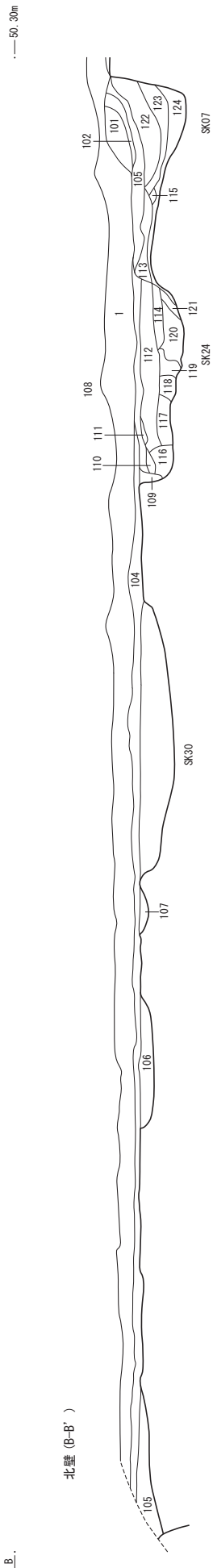
第109図 2区2面全体図



第110図 2区3面・4面全体図



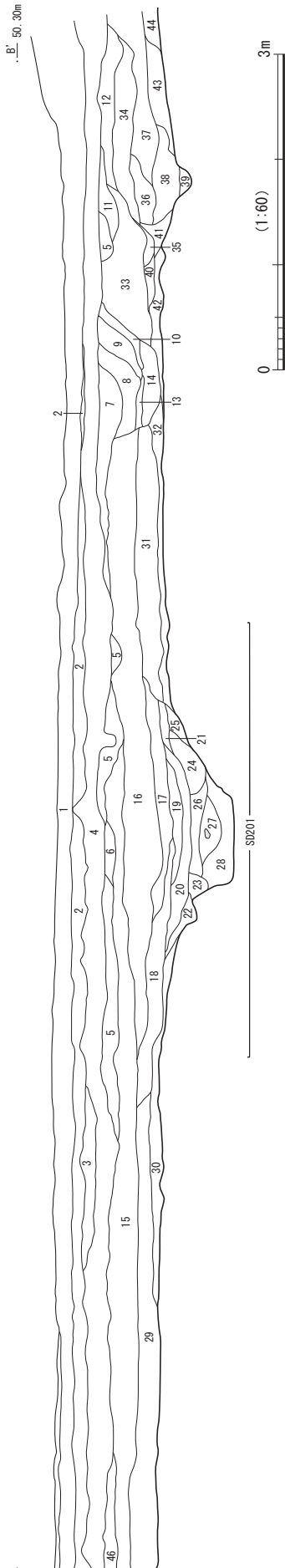
第 111 図 2 区土層図 1



第113図へ続く



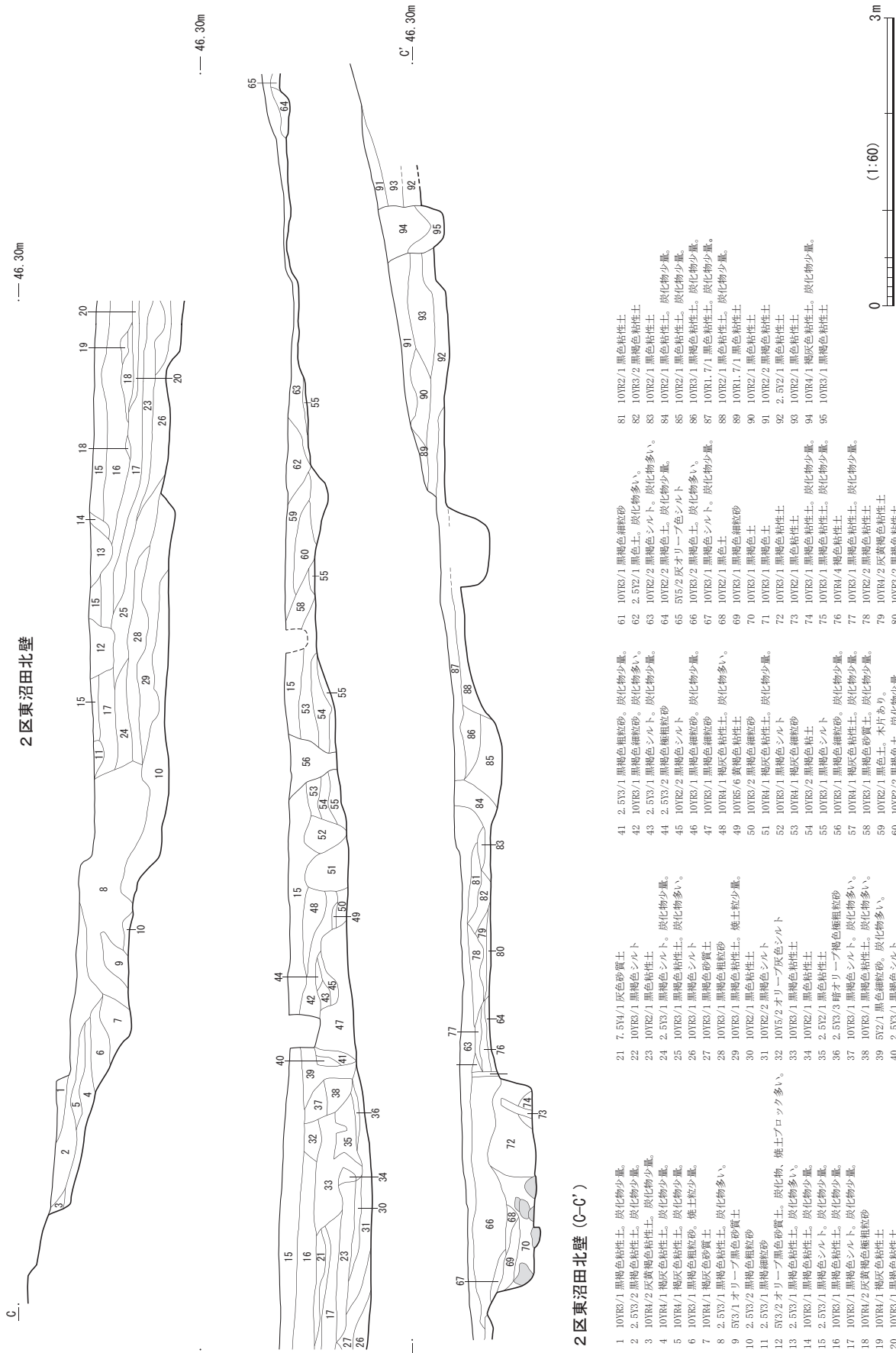
第112図 2区土層図2



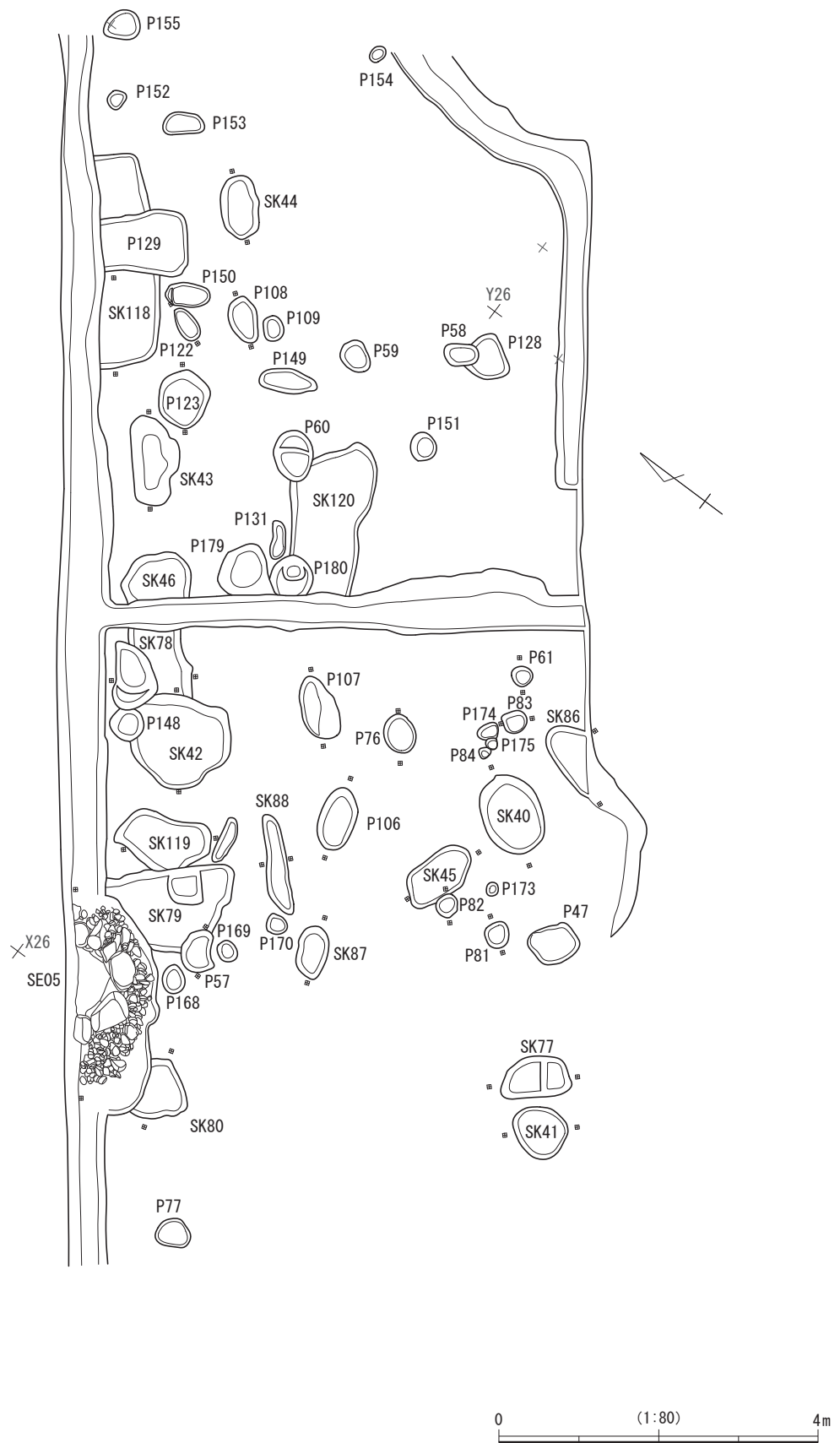
北壁 (B-B')

- | | | | | | | | |
|----|---------------------------|----|-----------------|-----|-----------------------|-----|--------------------------|
| 0 | 10YR4/2 灰黄褐色土。炭化物少量。 | 41 | 10YR4/2 灰黄褐色粘土 | 81 | 10YR3/1 黒褐色粘土 | 101 | 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 1 | 10YR3/3 暗褐色粘性土 | 42 | 10YR4/1 褐灰色粘土 | 82 | 10YR2/2 黒褐色粘性土 | 102 | 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 2 | 10YR6/3 におい、黄褐色粘土 | 43 | 10YR3/1 褐灰色粘土 | 83 | 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 103 | 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色粘土 | 44 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 84 | 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 104 | 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物多い。 |
| 4 | 2.5Y3/1 黒褐色砂質土 | 45 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 85 | 10YR5/4 におい、黄褐色粘土 | 105 | 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。 | 46 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 86 | 10YR5/4 におい、黄褐色粘土 | 106 | 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 6 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 47 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 87 | 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 107 | 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 7 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 48 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 88 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 108 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 |
| 8 | 10YR6/4 におい、黄褐色粘性土 | 49 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 89 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 109 | 10YR4/2 灰黄褐色粘土 |
| 9 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。 | 50 | 10YR2/1 黒色粘土 | 90 | 10YR4/2 灰黄褐色粘土 | 110 | 10YR4/2 灰黄褐色粘土 |
| 10 | 10YR6/4 におい、黄褐色粘性土。炭化物多い。 | 51 | 10YR2/1 黒色粘土 | 91 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 111 | 7.5YR5/4 におい、褐色粘土。炭化物少量。 |
| 11 | 10YR4/1 褐灰色粘土。炭化物少量。 | 52 | 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 92 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 112 | 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 12 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 53 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 93 | 10YR3/1 黒褐色粘性土 | 113 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 13 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 54 | 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 94 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 114 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 14 | 2.5Y3/1 黒褐色粘土 | 55 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 95 | 10YR3/3 暗褐色粘性土 | 115 | 10YR6/4 におい、黄褐色粘土 |
| 15 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 56 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 96 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 116 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 |
| 16 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 57 | 10YR2/2 黒褐色粘性土 | 97 | 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 117 | 10YR6/3 におい、黄褐色粘土。炭化物少量。 |
| 17 | 10YR2/1 黒色粘土 | 58 | 10YR2/2 黒褐色粘性土 | 98 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 118 | 10YR5/2 灰黄褐色粘性土 |
| 18 | 2.5Y2/1 黒色粘土 | 59 | 10YR2/2 黒褐色粘性土 | 99 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 119 | 10YR6/4 におい、黄褐色粘土。炭化物少量。 |
| 19 | 10YR3/1 黒褐色砂質土 | 60 | 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 100 | 10YR6/4 におい、黄褐色粘土 | 120 | 10YR7/6 明黄褐色粘土。炭化物少量。 |
| 20 | 2.5Y2/1 黒色粘土 | | | | | 121 | 2.5Y6/4 におい、黄色粘土 |
| | | | | | | 122 | 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| | | | | | | 123 | 2.5Y7/4 浅黄褐色粘土。炭化物少量。 |
| | | | | | | 124 | 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物多い。 |

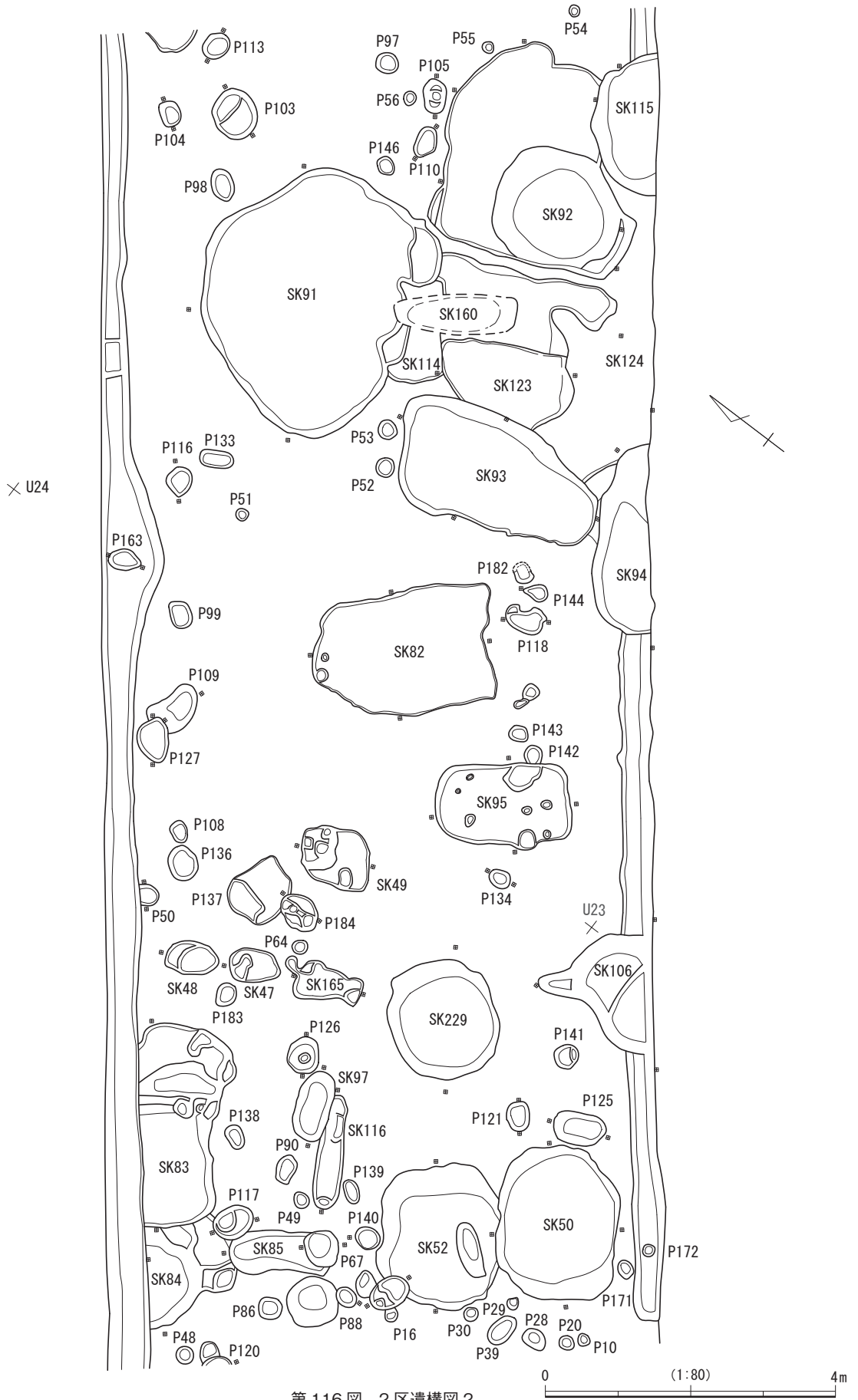
第 113 図 2 区土層図 3



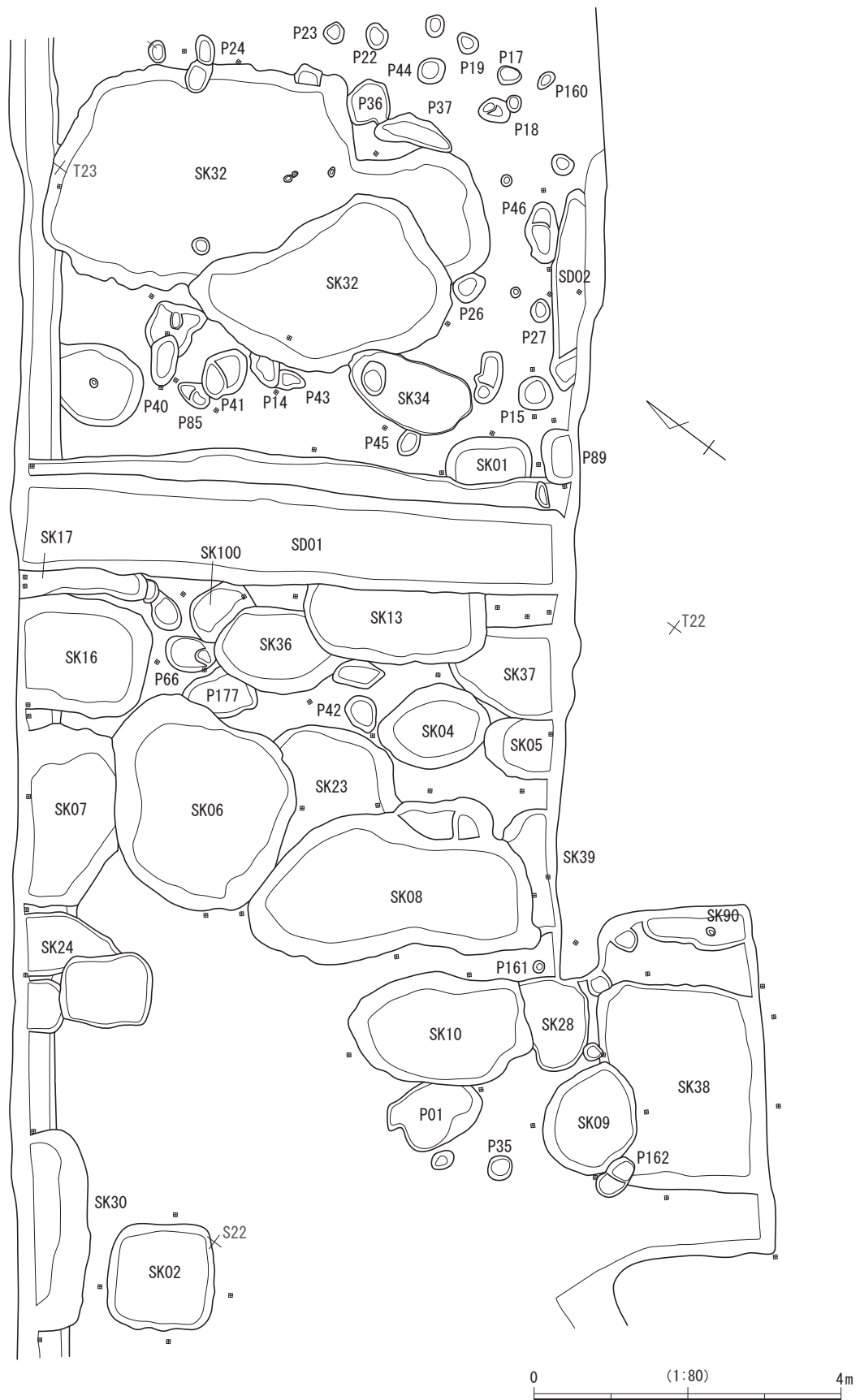
第 114 図 2 区東沼田土層図



第 115 図 2 区遺構図 1



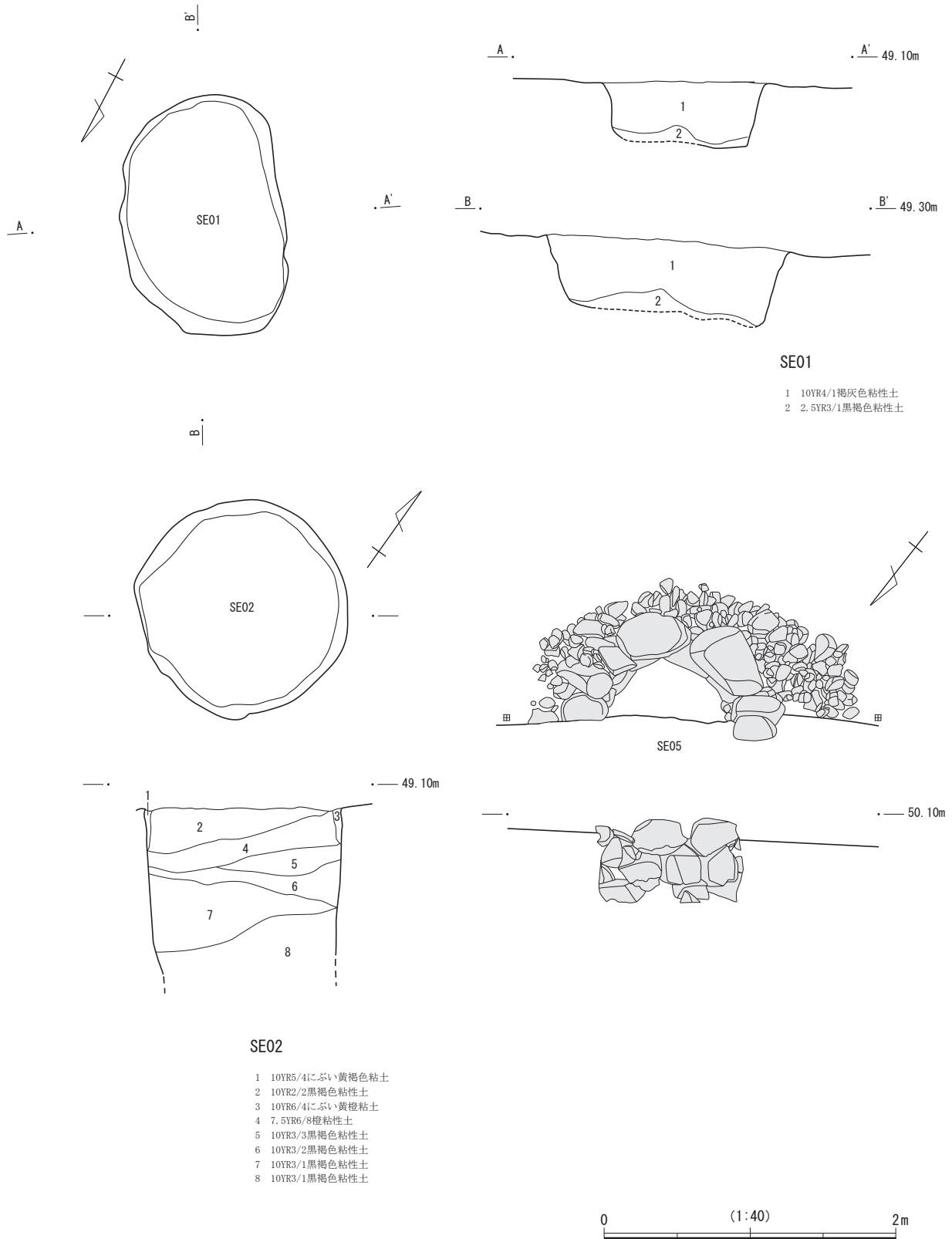
第116図 2区遺構図2



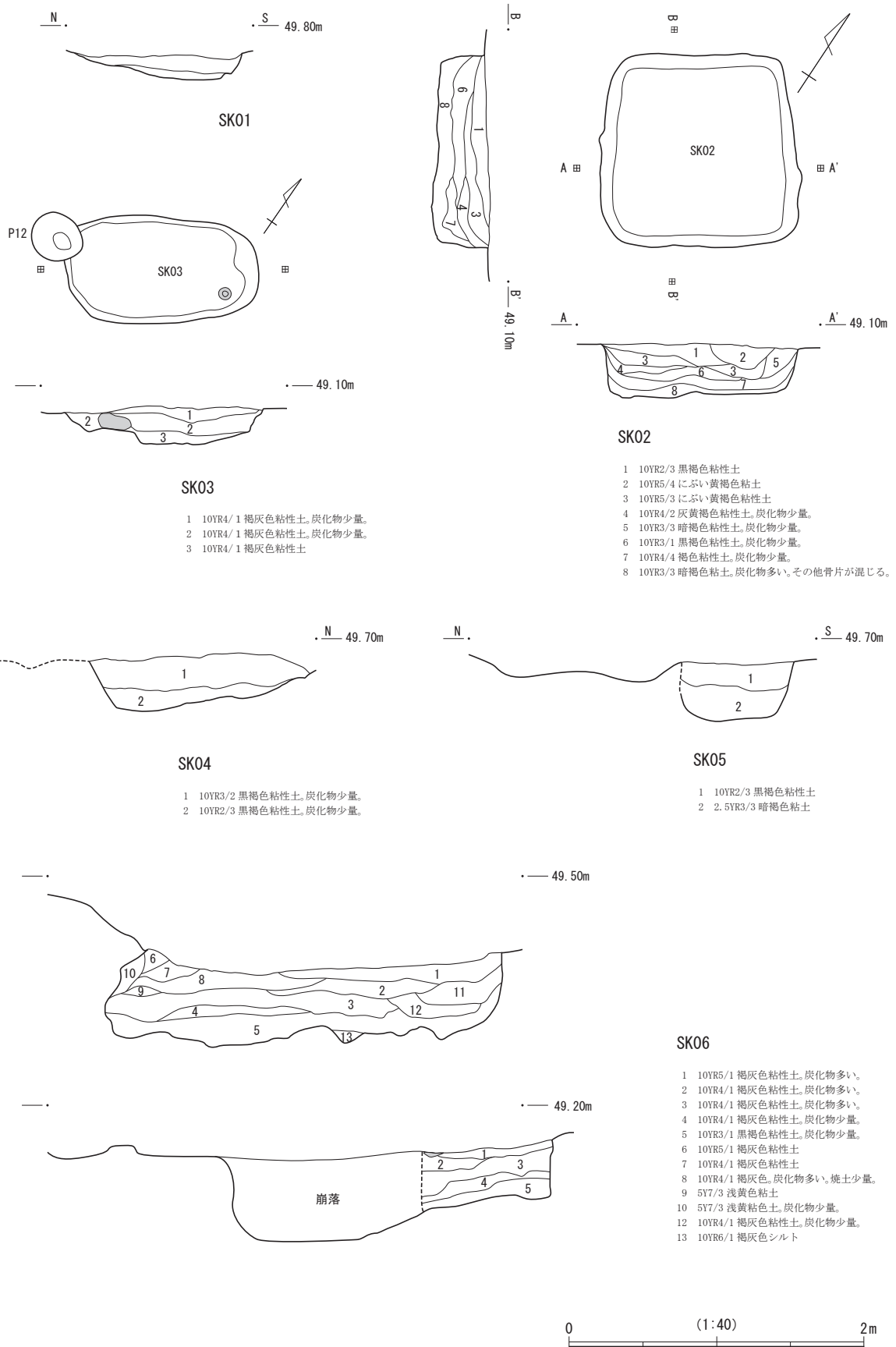
第117図 2区遺構図3



第118図 2区遺構図4



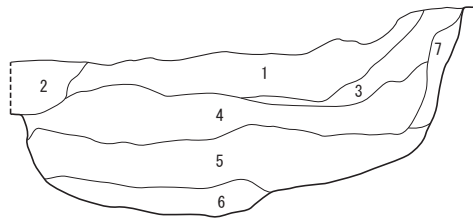
第119図 2区遺構図5



第 120 図 2 区遺構図 6

第3章 調査の成果

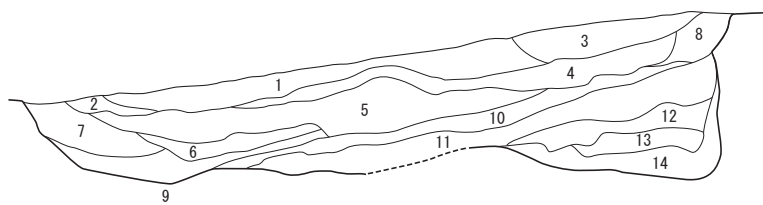
S. N. 49.50m



SK07

- 1 10YR6/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物、焼土多い。
- 3 5Y7/4 浅黄色粘性土
- 4 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物、焼土多い。
- 5 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 6 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 7 10YR5/1 褐灰色粘性土

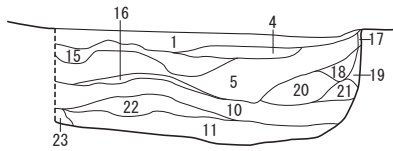
N. SK08 S. 49.70m



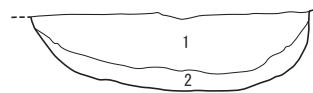
SK08

- 1 7.5YR5/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 2 7.5YR5/1 褐灰色粘性土
- 3 7.5YR5/1 褐灰色粘性土
- 4 10YR4/1 褐灰色粘性土
- 5 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 6 7.5YR4/2 灰褐色粘性土。炭化物少量。
- 7 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物、焼土多い。
- 8 10YR6/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 9 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 10 2.5Y7/3 浅黄色粘性土。炭化物少量。
- 11 10YR4/1 褐灰色粘性土
- 12 10YR6/6 明黄色褐粘性土。炭化物多い。
- 13 10YR3/1 黒褐色。炭化物、焼土少量。
- 14 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 15 10YR7/3 にぶい黄橙色粘性土。炭化物少量。
- 16 10YR4/1 褐灰色粘性土
- 17 2.5Y7/3 浅黄色粘性土
- 18 2.5Y7/3 浅黄色粘性土
- 19 2.5Y7/3 浅黄色粘性土
- 20 2.5Y7/3 浅黄色粘性土
- 21 10YR4/1 褐灰色粘性土
- 22 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 23 2.5Y7/3 浅黄色粘性土。炭化物少量。

E. SK08 W. 49.50m

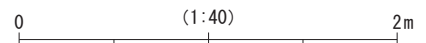


N. SK09 S. 49.80m

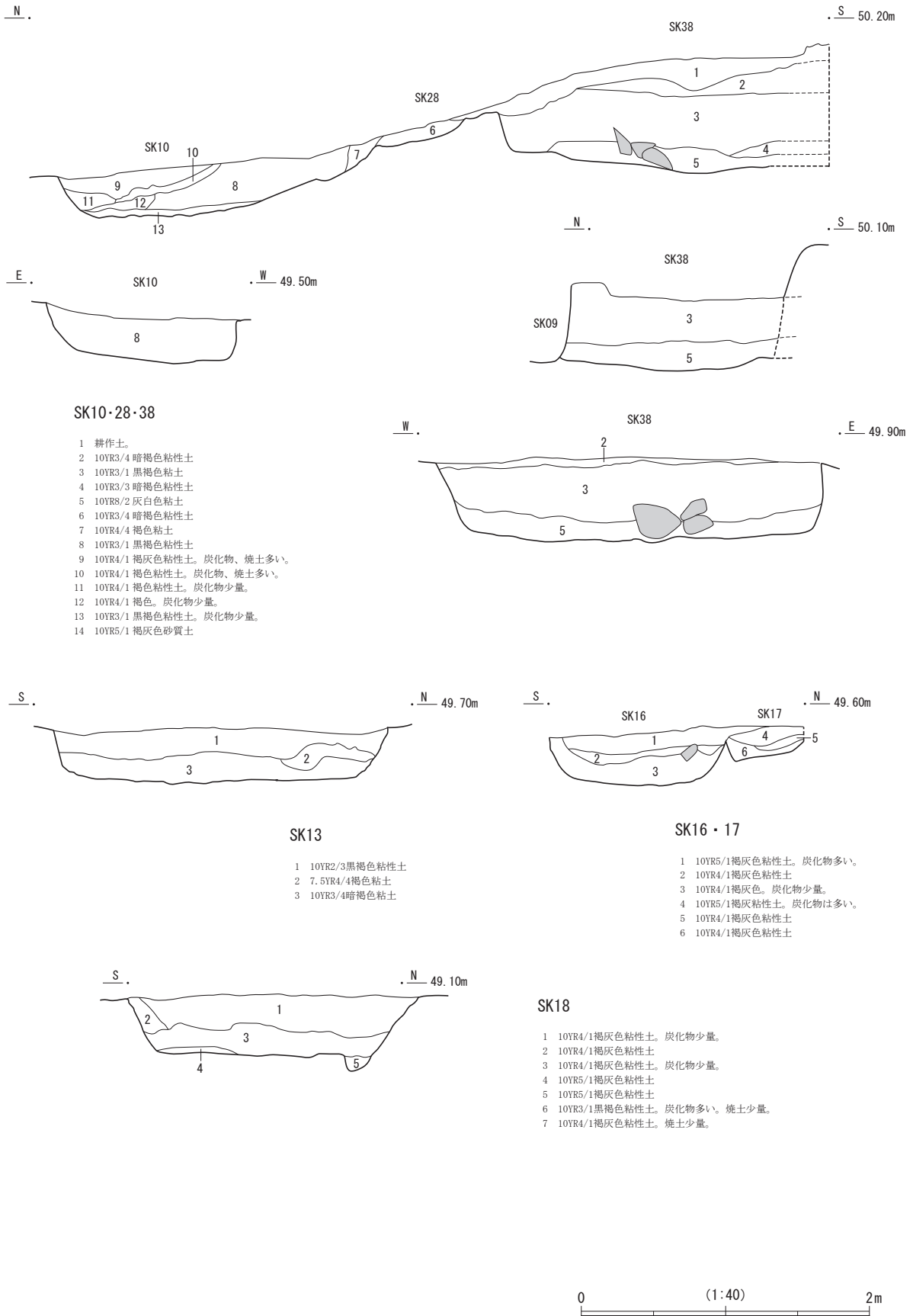


SK09

- 1 10YR2/3 黒褐色粘土
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性土

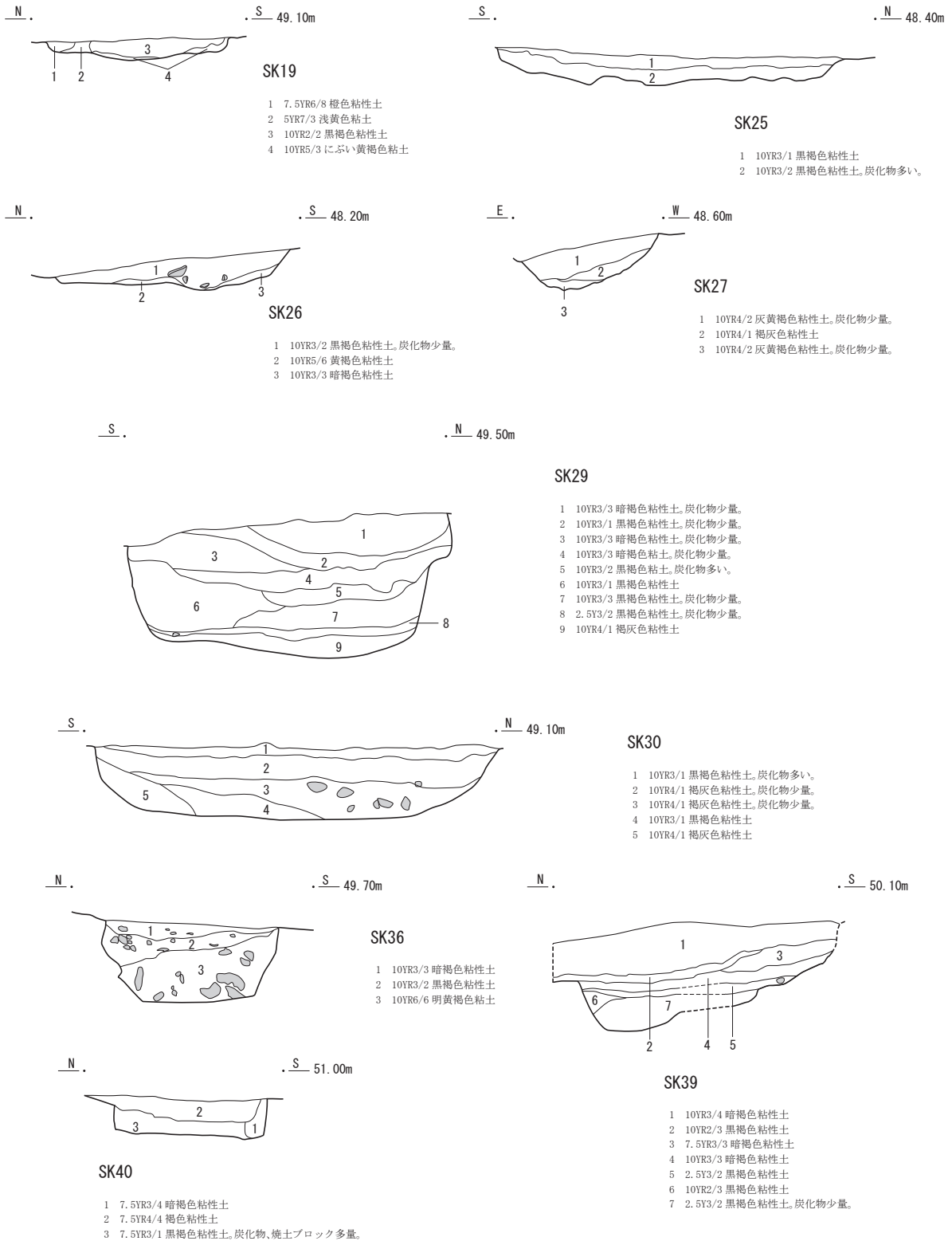


第121図 2区遺構図7

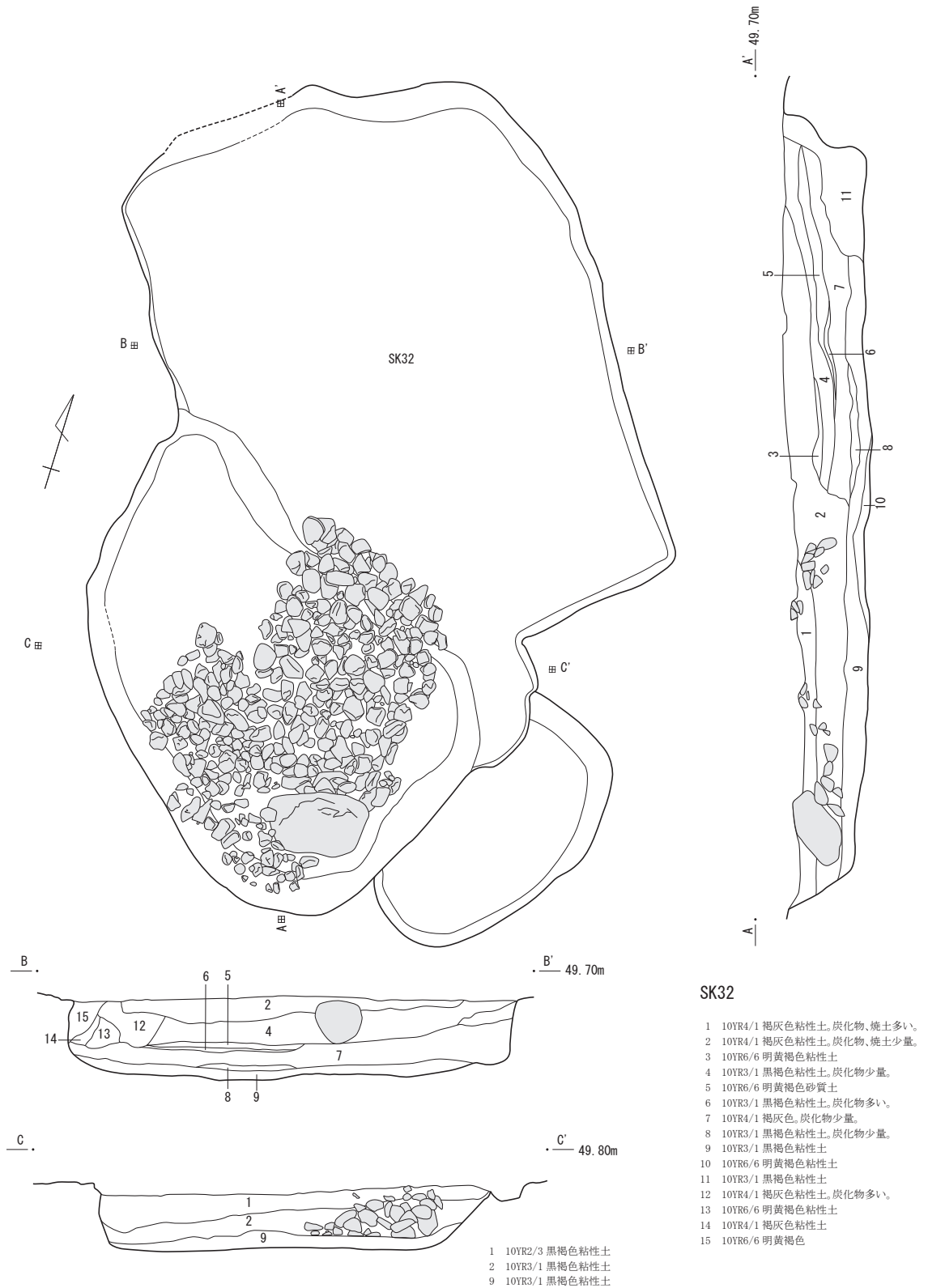


第 122 図 2 区遺構図 8

第3章 調査の成果

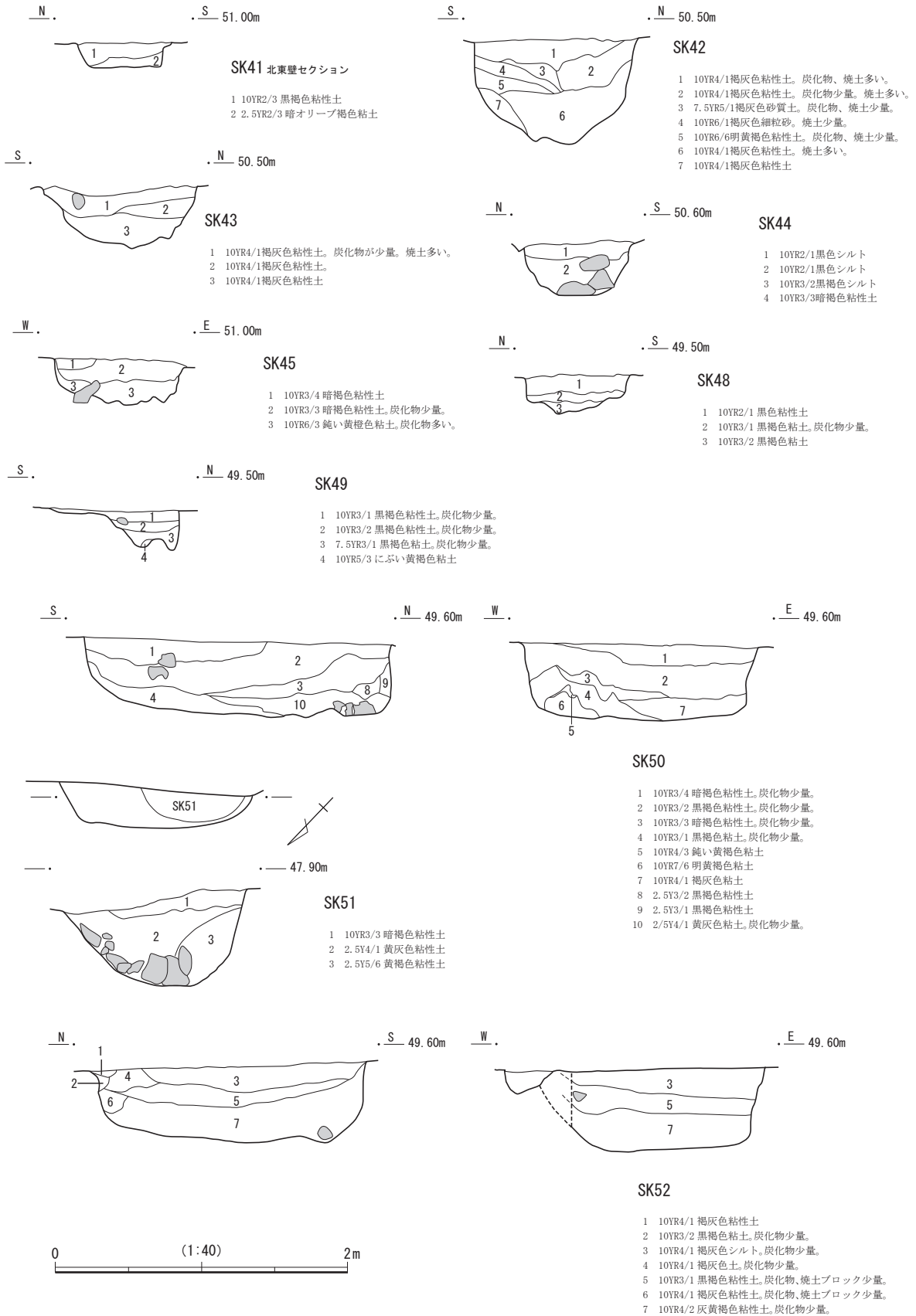


第 123 図 2 区遺構図 9

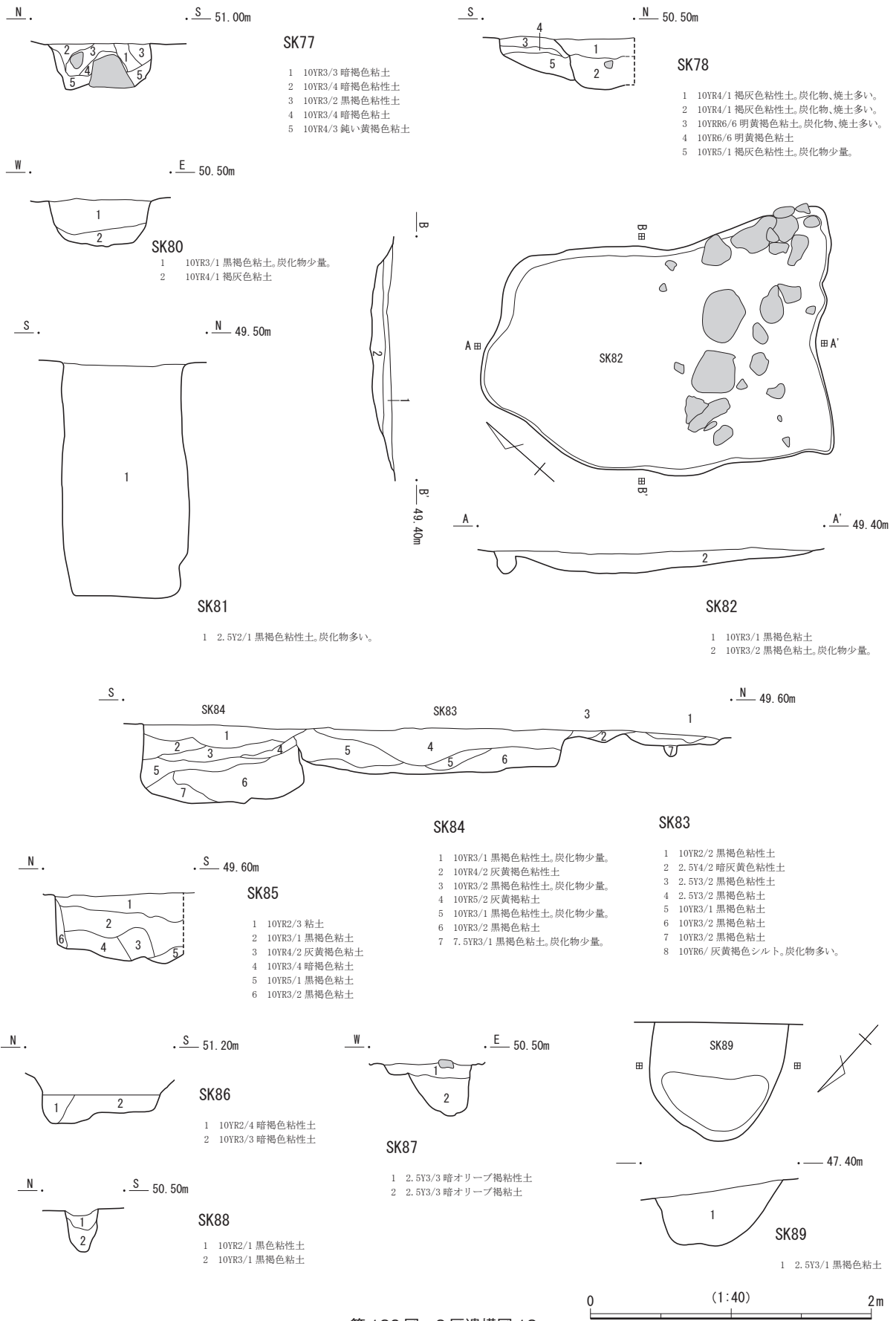


第124図 2区遺構図10

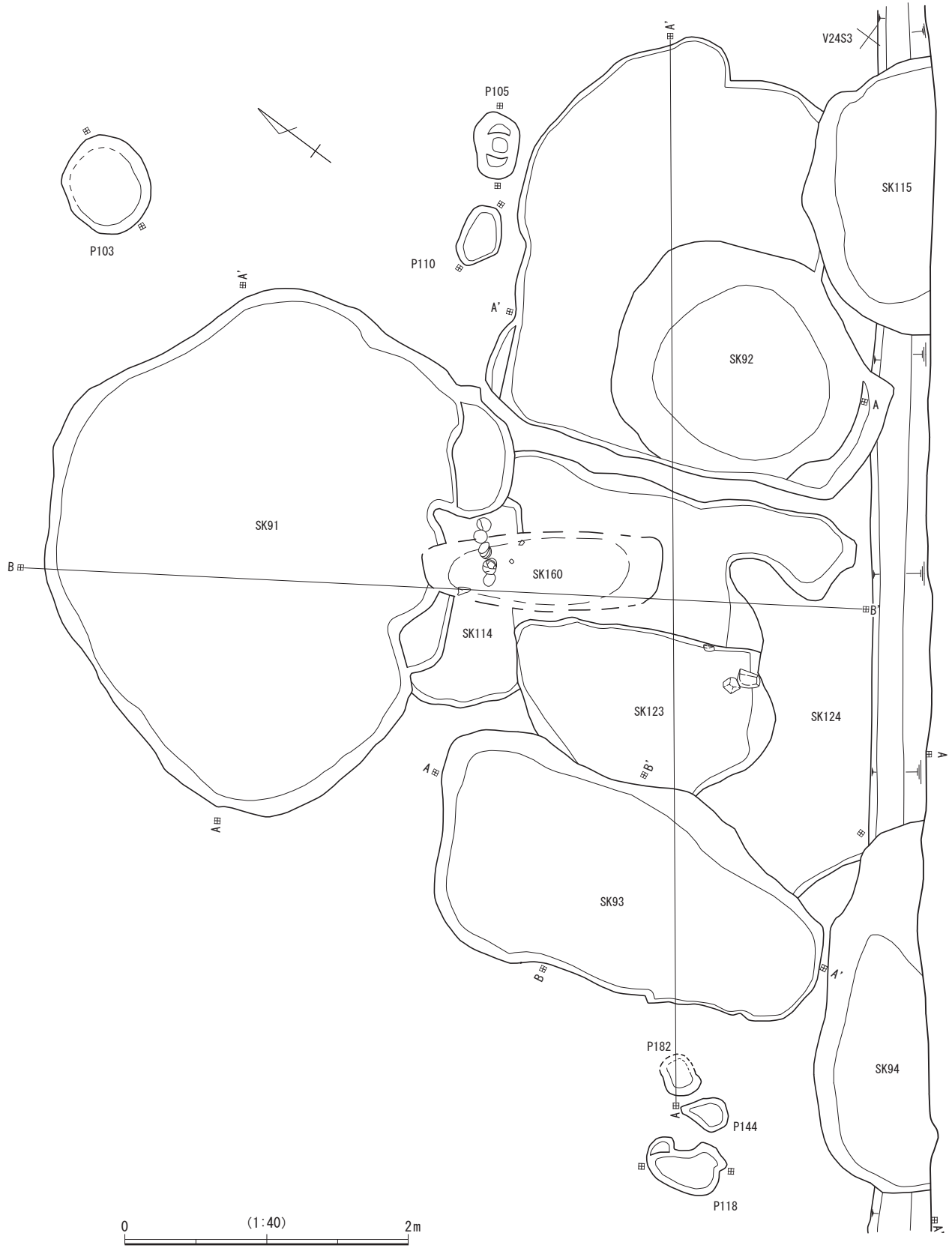
第3章 調査の成果



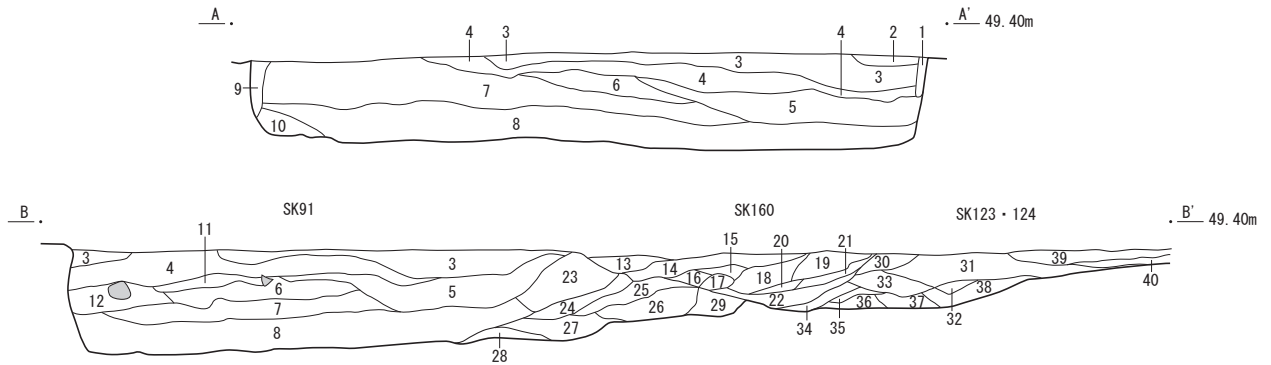
第125図 2区遺構図11



第126図 2区遺構図12

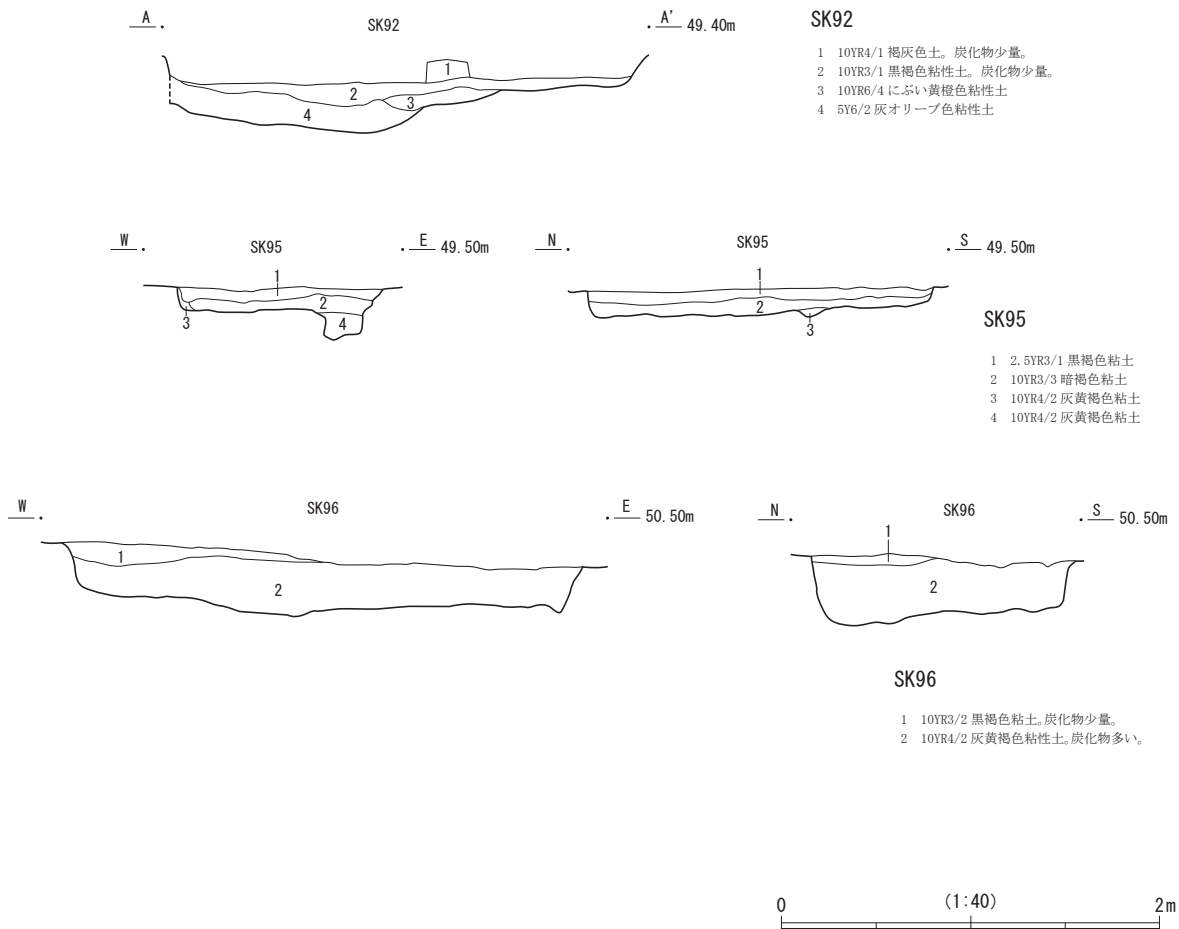


第 127 図 2 区遺構図 13

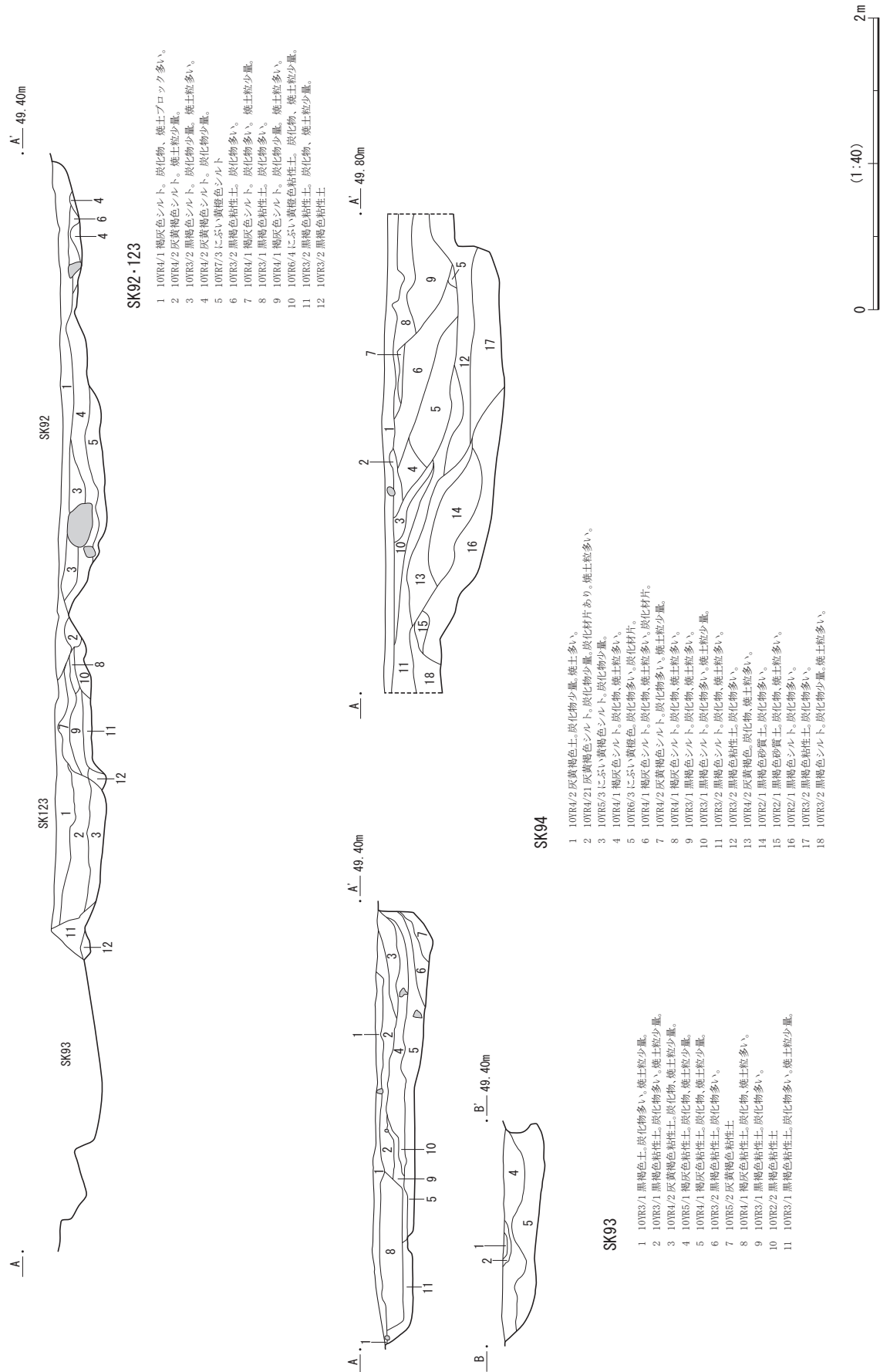


SK91・160・123・124

- | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|
| 1 10YR4/1 褐灰色シルト。焼土粒少量。 | 15 10YR3/2 黒褐色シルト | 29 10YR6/4 にぶい黄褐色粘性土。焼土ブロック少量。 |
| 2 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | 16 10YR3/3 暗褐色シルト | 30 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。 |
| 3 10YR4/1 褐灰色土。炭化物少量。焼土粒多い。 | 17 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土粒少量。 | 31 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。 |
| 4 10YR7/6 10YR 明黄褐色土。炭化物少量。 | 18 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。 | 32 10YR3/1 黒褐色粘性土。焼土粒少量。 |
| 5 10YR2/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | 19 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | 33 10YR4/1 褐灰色シルト |
| 6 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト | 20 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。 | 34 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 |
| 7 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土ブロック少量。 | 21 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 35 10YR4/1 褐灰色粘性土 |
| 8 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 22 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。 | 36 10YR6/3 にぶい黄褐色粘性土 |
| 9 10YR3/2 黒褐色粘土 | 23 10YR2/1 黒色粘性土 | 37 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物少量。 |
| 10 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | 24 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 38 10YR5/4 にぶい黄褐色粘性土 |
| 11 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 25 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 39 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 |
| 12 10YR4/2 灰黄褐色粘性土 | 26 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 40 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土粒少量。 |
| 13 10YR2/1 黒色シルト | 27 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | |
| 14 10YR2/2 黒褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。 | 28 10YR3/1 黒褐色粘性土 | |



第128図 2区遺構図14



SK92・123

- 1 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土ブロック多い。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色シルト。焼土粒少量。
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物少量。
- 5 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト
- 6 10YR2/2 黒褐色粘土。炭化物多い。
- 7 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。
- 8 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物多い。
- 9 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。
- 10 10YR6/4 にぶい黄褐色粘土。炭化物、焼土粒少量。
- 11 10YR2/2 黒褐色粘土。炭化物、焼土粒少量。
- 12 10YR2/2 黒褐色粘土

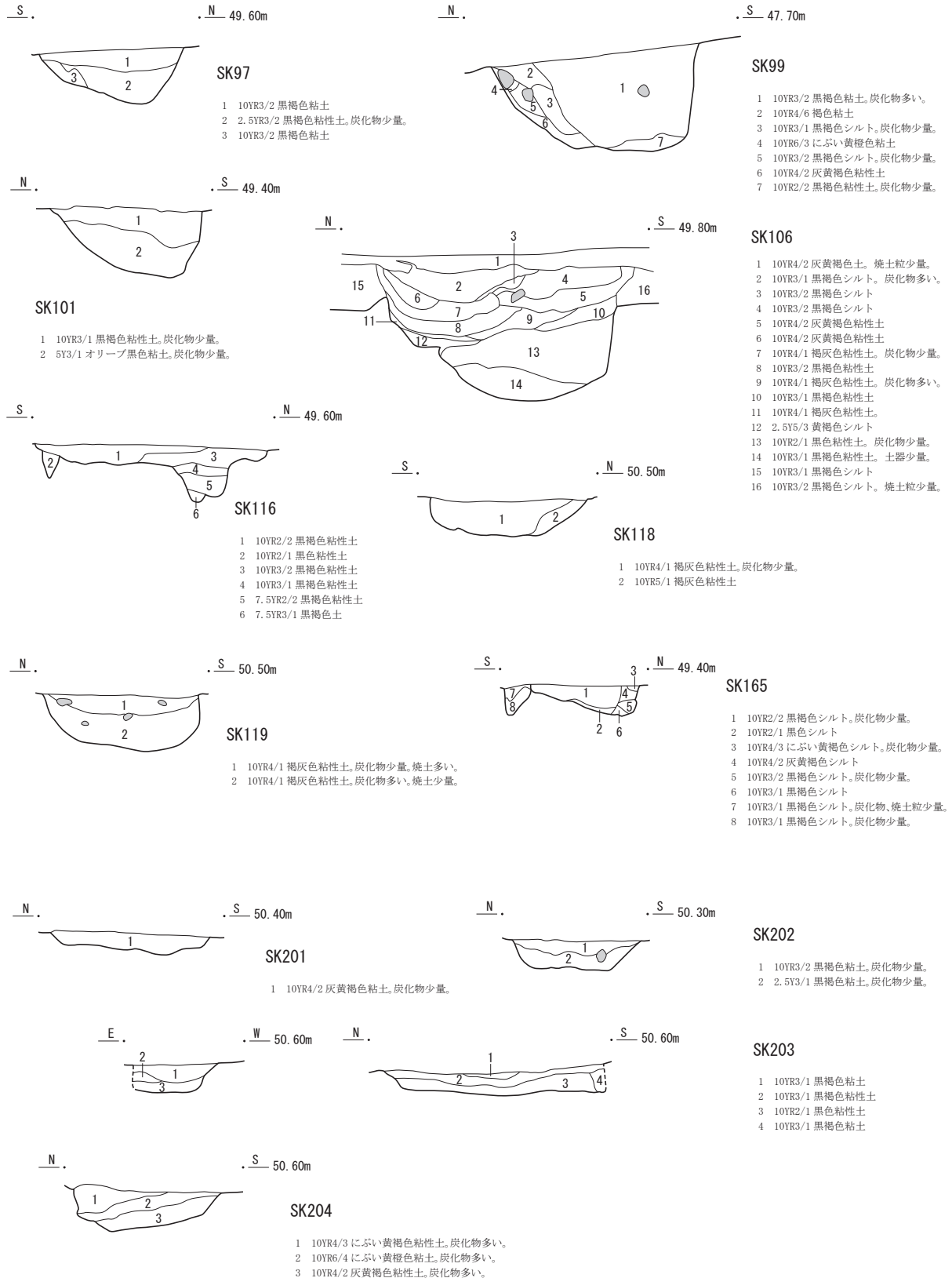
SK94

- 1 10YR4/2 灰黄褐色土。炭化物少量。焼土多い。
- 2 10YR4/21 灰黄褐色シルト。炭化物少量。炭化材片あり。焼土粒多い。
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト。炭化物少量。
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 5 10YR6/3 にぶい黄褐色土。炭化材片。
- 6 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土粒多い。炭化材片。
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。
- 8 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 9 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 10 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。
- 11 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物、焼土粒多い。
- 12 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物、焼土粒多い。
- 13 10YR4/2 灰黄褐色土。炭化物、焼土粒多い。
- 14 10YR2/1 黒褐色砂質土。炭化物、焼土粒多い。
- 15 10YR2/1 黒褐色砂質土。炭化物、焼土粒多い。
- 16 10YR2/1 黒褐色シルト。炭化物多い。
- 17 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物多い。
- 18 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。

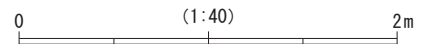
SK93

- 1 10YR3/1 黒褐色土。炭化物多い。焼土粒少量。
- 2 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物多。焼土粒少量。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物、焼土粒少量。
- 4 10YR5/1 褐灰色粘土。炭化物、焼土粒少量。
- 5 10YR4/1 褐灰色粘土。炭化物、焼土粒少量。
- 6 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物多。
- 7 10YR5/2 灰黄褐色粘土
- 8 10YR4/1 褐灰色粘土。炭化物、焼土粒多。
- 9 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物多。
- 10 10YR2/2 黒褐色粘土
- 11 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物多。焼土粒少量。

第 129 図 2 区遺構図 15

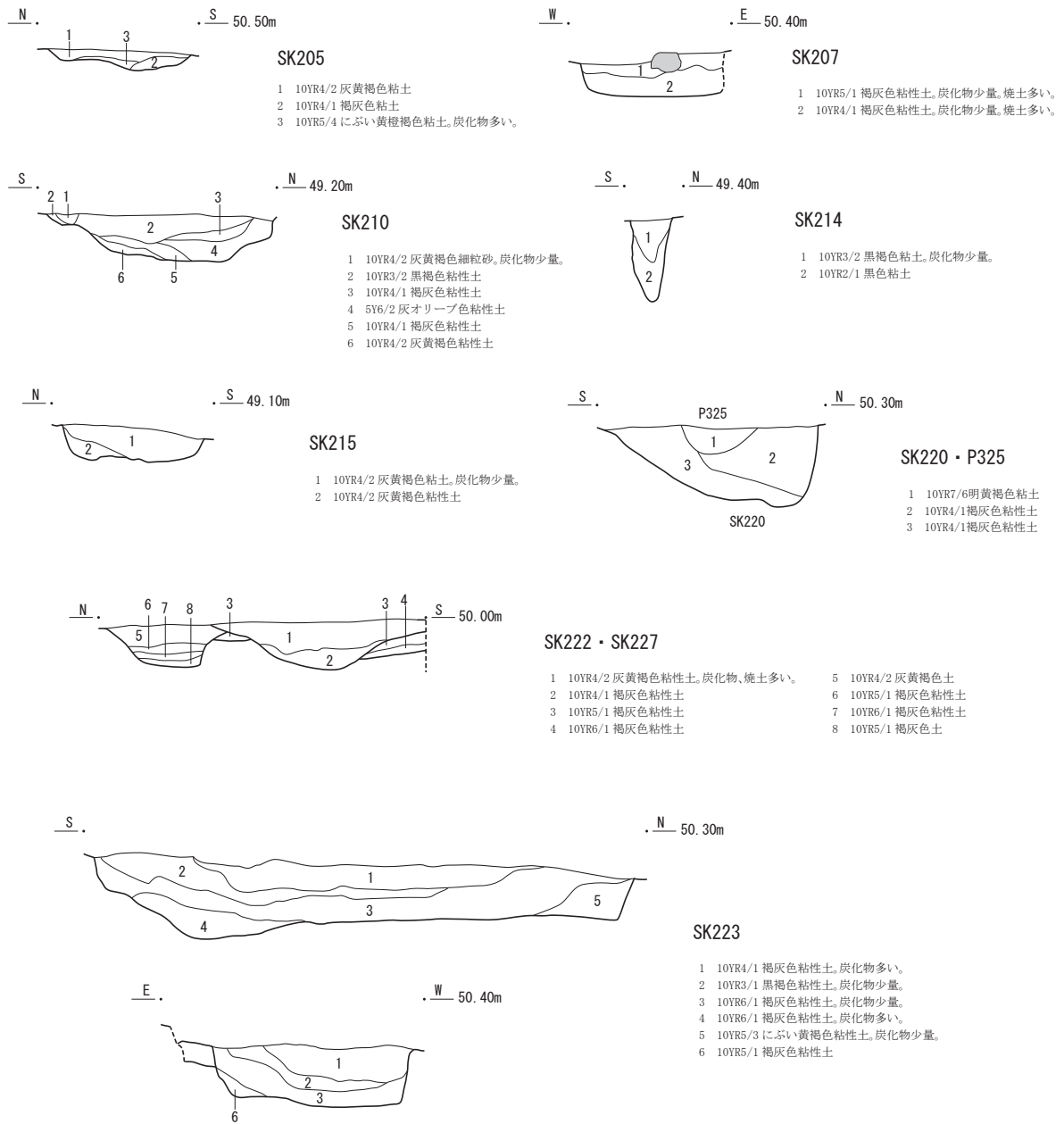


SK201-204 : 2面

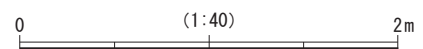


第130図 2区遺構図16

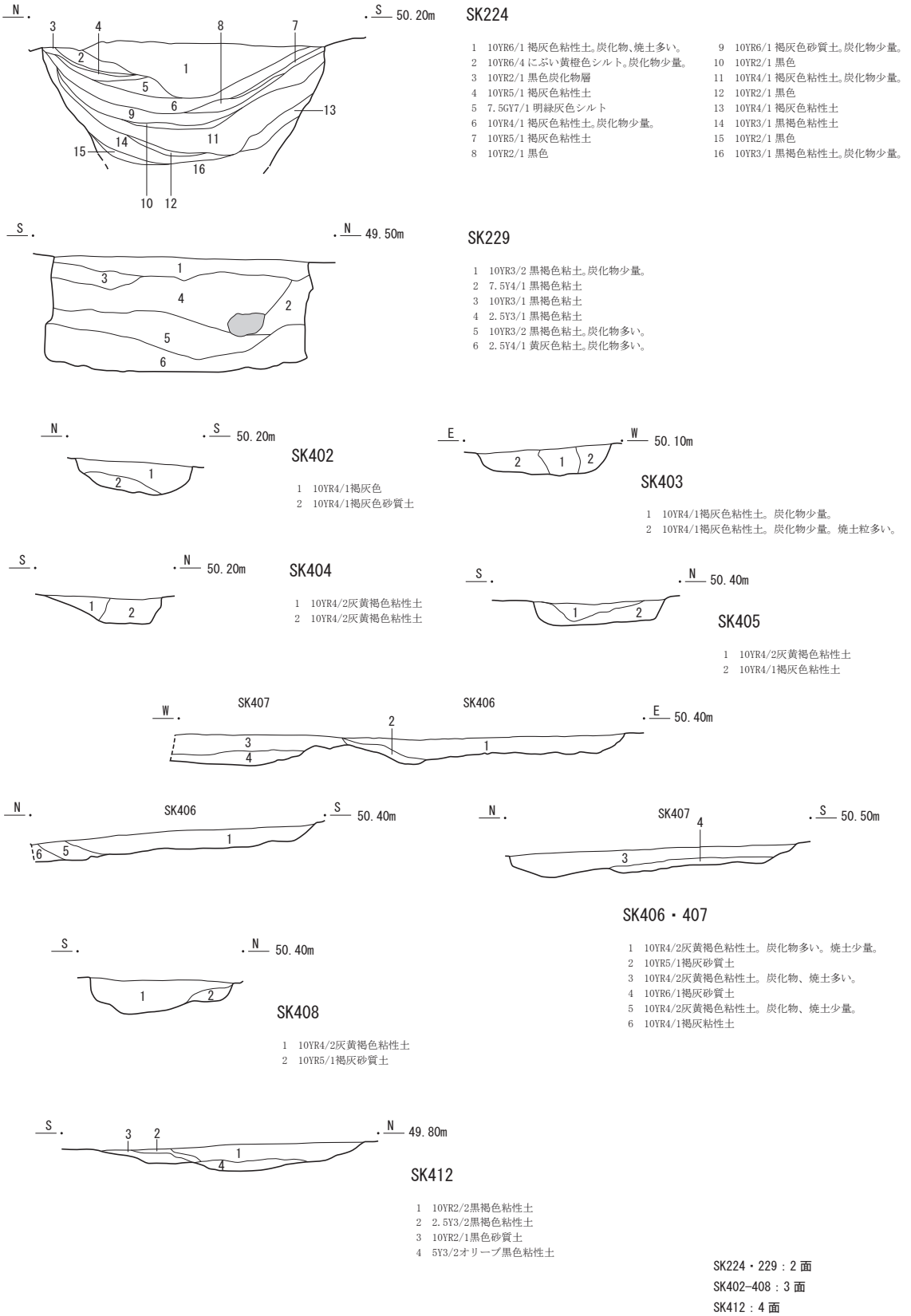
第3章 調査の成果



SK205-223 : 2 面

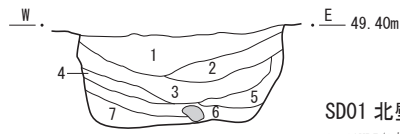


第 131 図 2 区遺構図 17



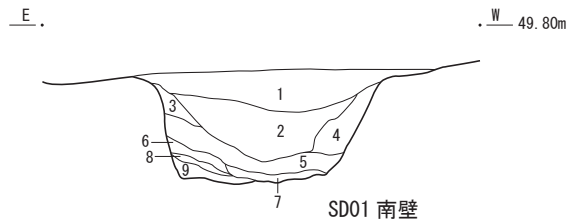
第132図 2区遺構図18

第3章 調査の成果



SD01 北壁

- 1 10YR5/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物多い。
- 3 10YR5/1 褐灰色粘性土
- 4 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物多い。
- 5 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物多い。
- 6 10YR6/3 にぶい黄橙色
- 7 10YR4/1 褐灰色粘性土
- 8 10YR3/1 黒褐色粘性土
- 9 10YR6/3 にぶい黄橙色粘性土



SD01 南壁

- 1 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。焼土多い。
- 3 10YR5/1 褐灰色粘性土。炭化物多い。
- 4 10YR5/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 5 10YR6/6 明黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 6 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 7 2.5Y7/4 浅黄色



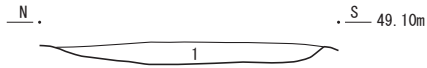
SD02

- 1 10YR2/3 黒褐色粘土
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土



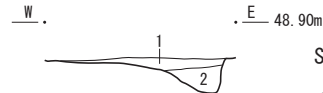
SD06

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
- 2 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。
- 3 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 4 10YR5/1 褐灰色中粒砂



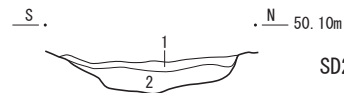
SD202

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土



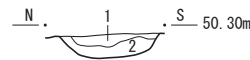
SD202

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘土



SD204

- 1 10YR5/1 褐灰色粘性土。炭化物、焼土多い。
- 2 10YR4/1 褐灰色。炭化物、焼土多い。



SD401

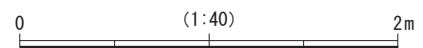
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘性土
- 2 10YR4/1 褐灰色粘性土



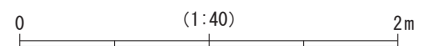
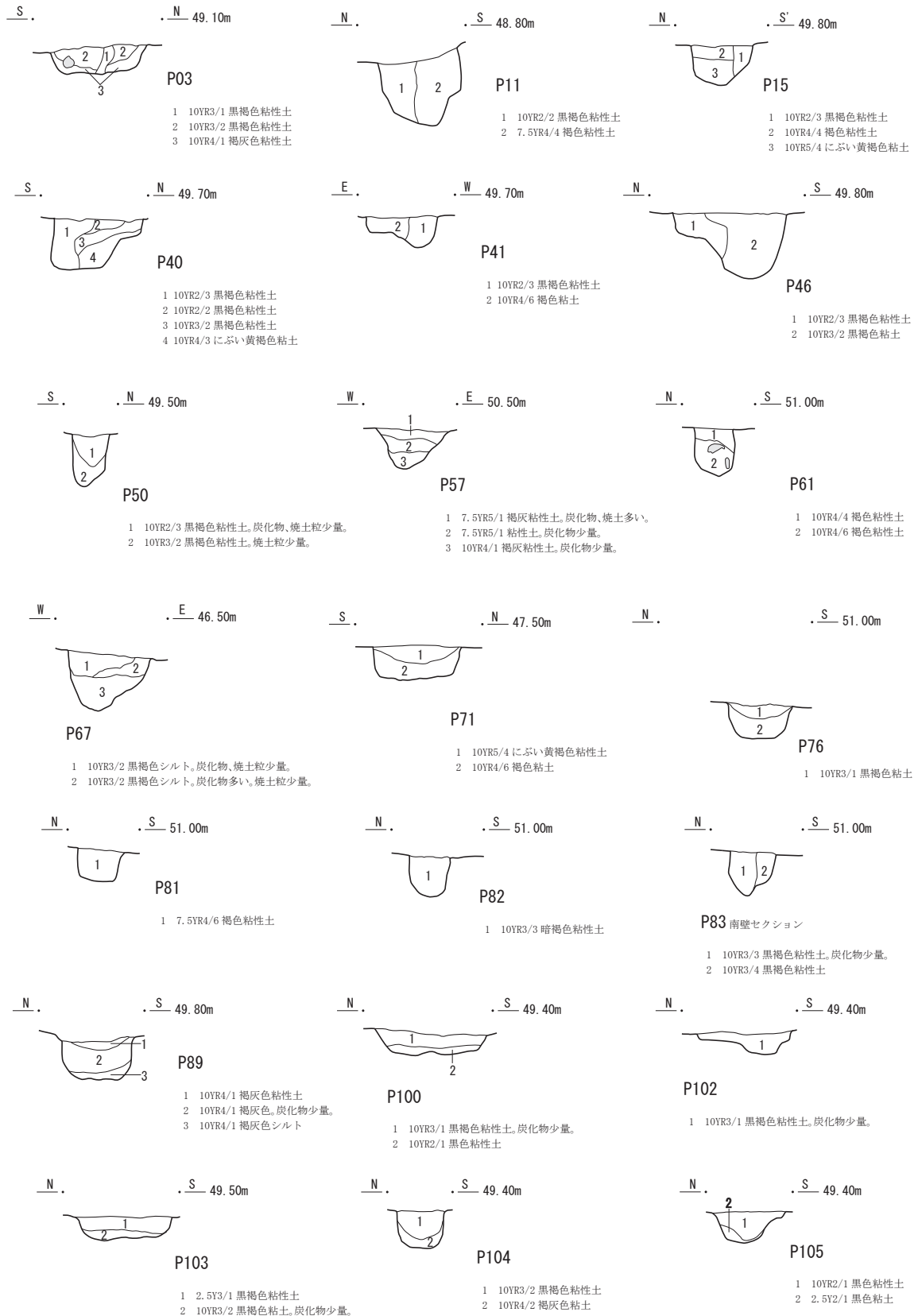
SD403

- 1 10YR2/1 黒色砂質土

SK202・204：2面
SK401・403：3面

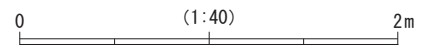
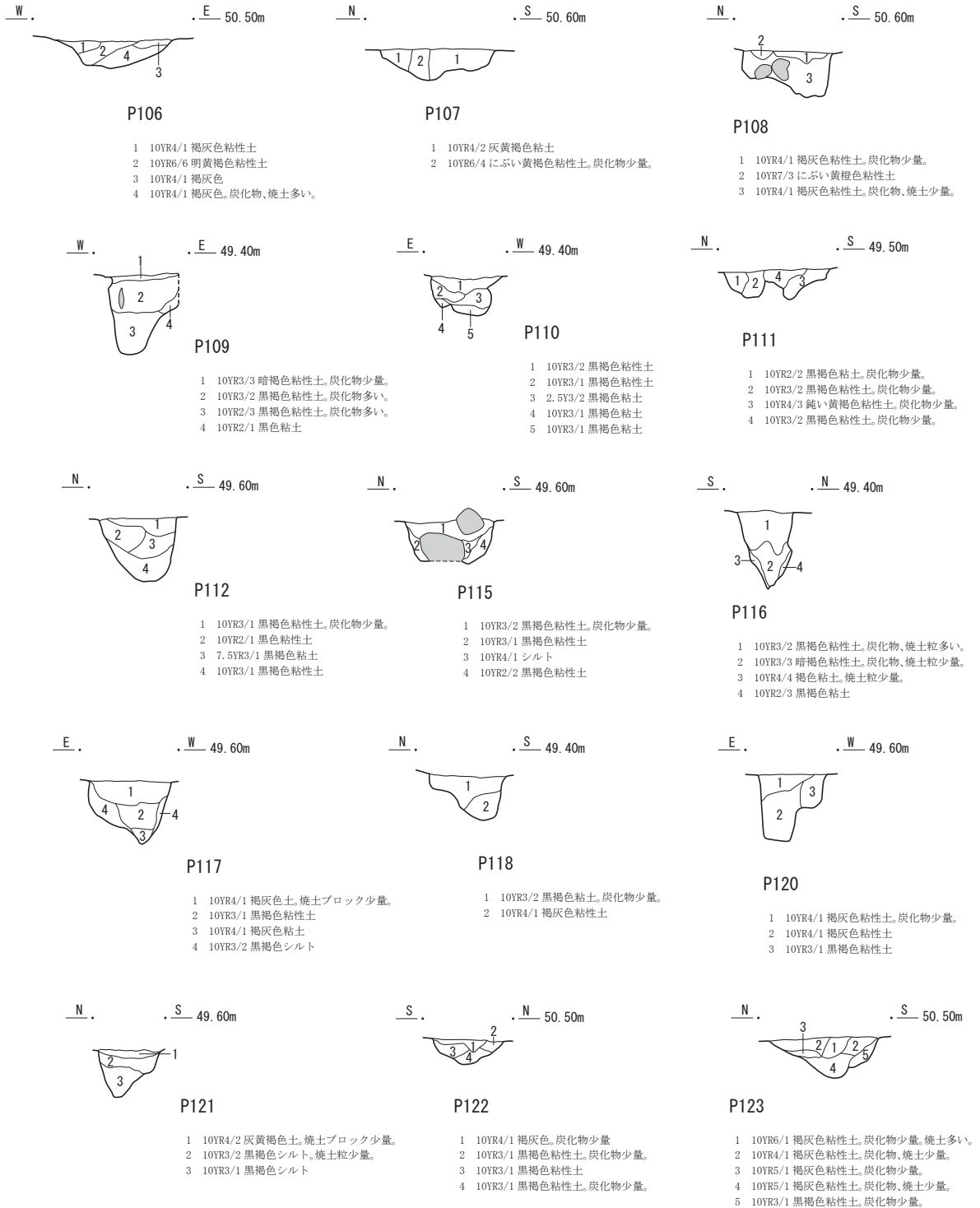


第133図 2区遺構図19

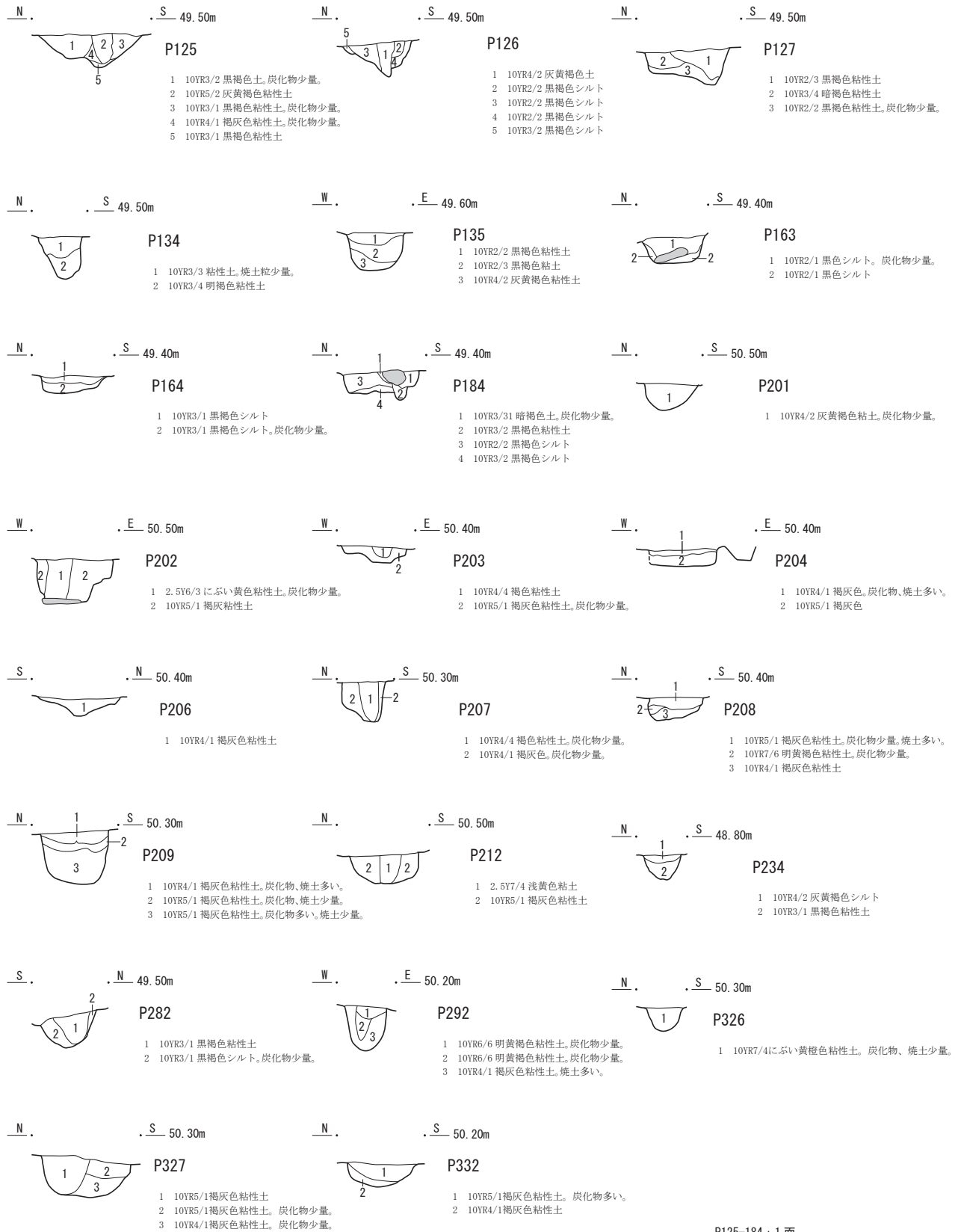


第134図 2区遺構図20

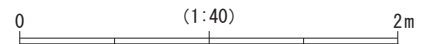
第3章 調査の成果



第 135 図 2 区遺構図 21

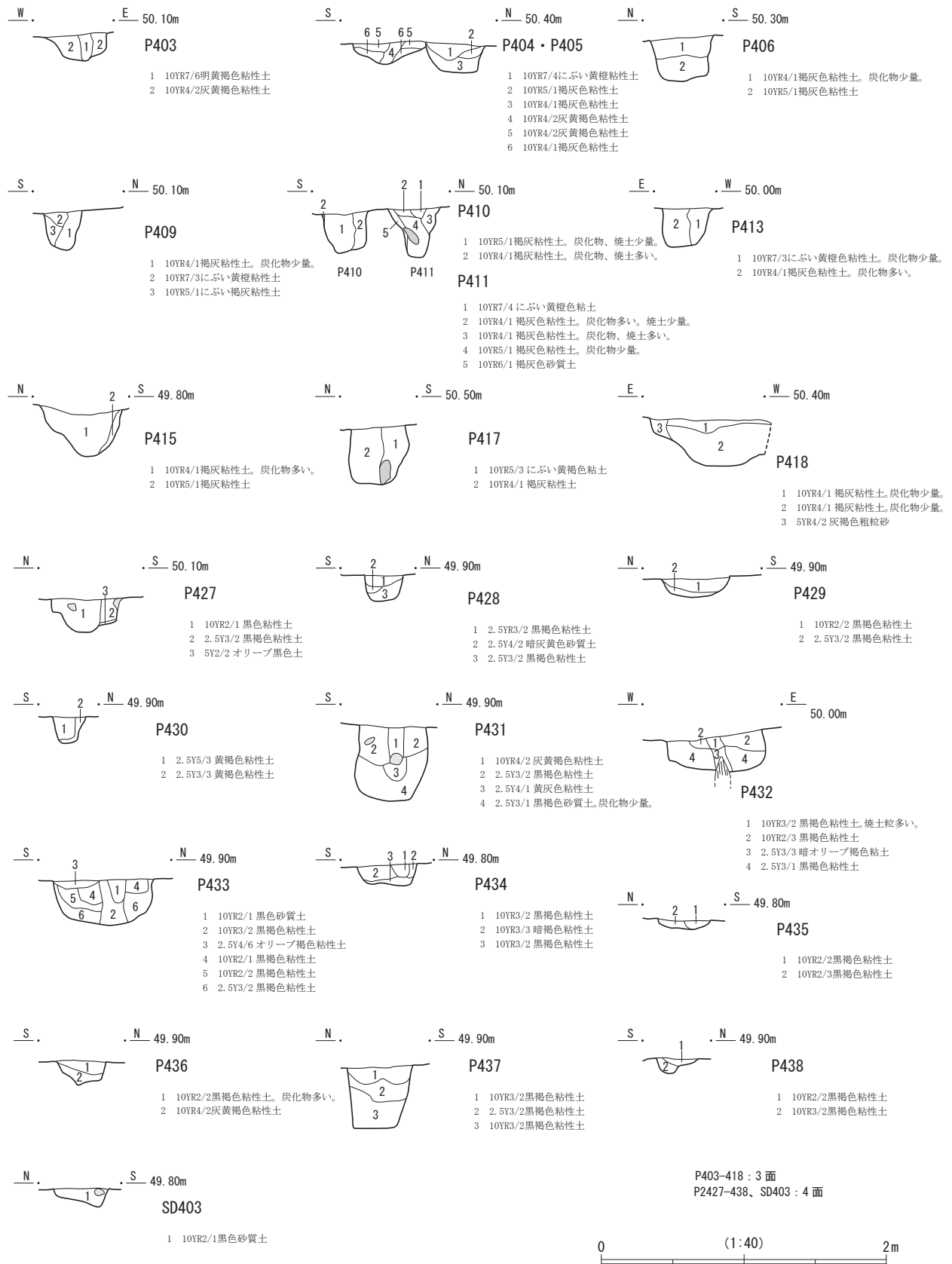


P125-184 : 1 面
P201-332 : 2 面

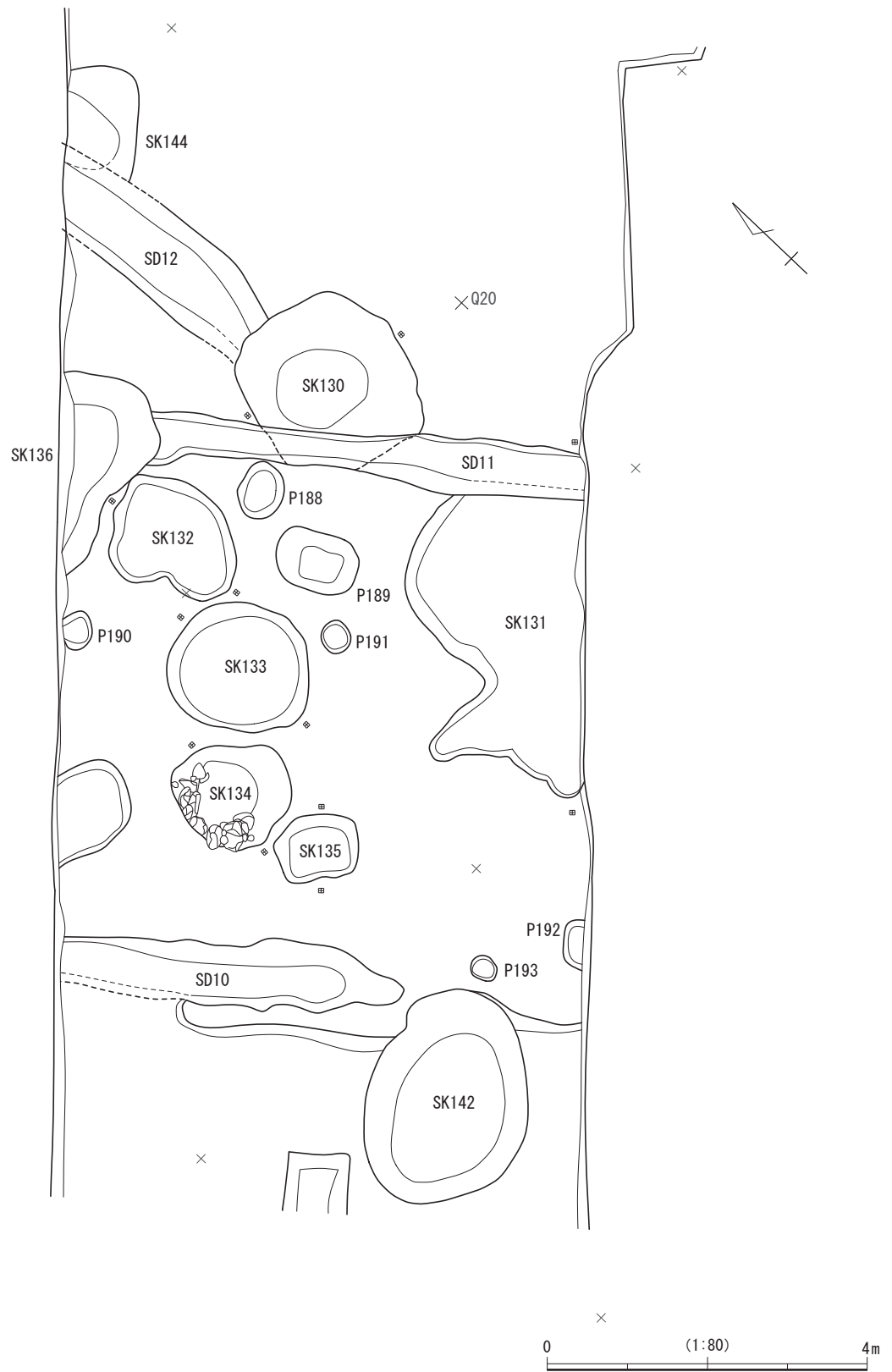


第 136 図 2 区遺構図 22

第3章 調査の成果

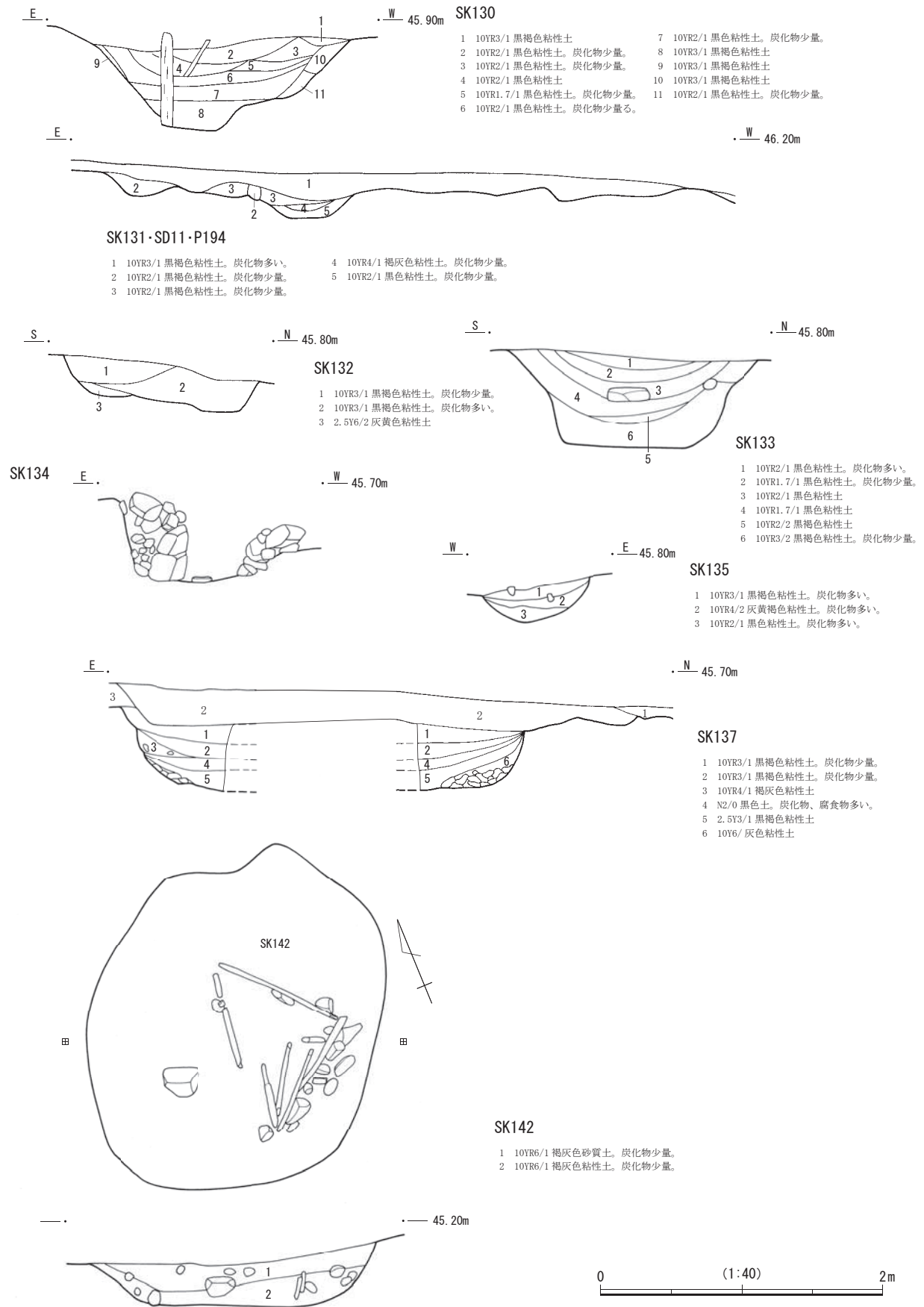


第 137 図 2 区遺構図 23

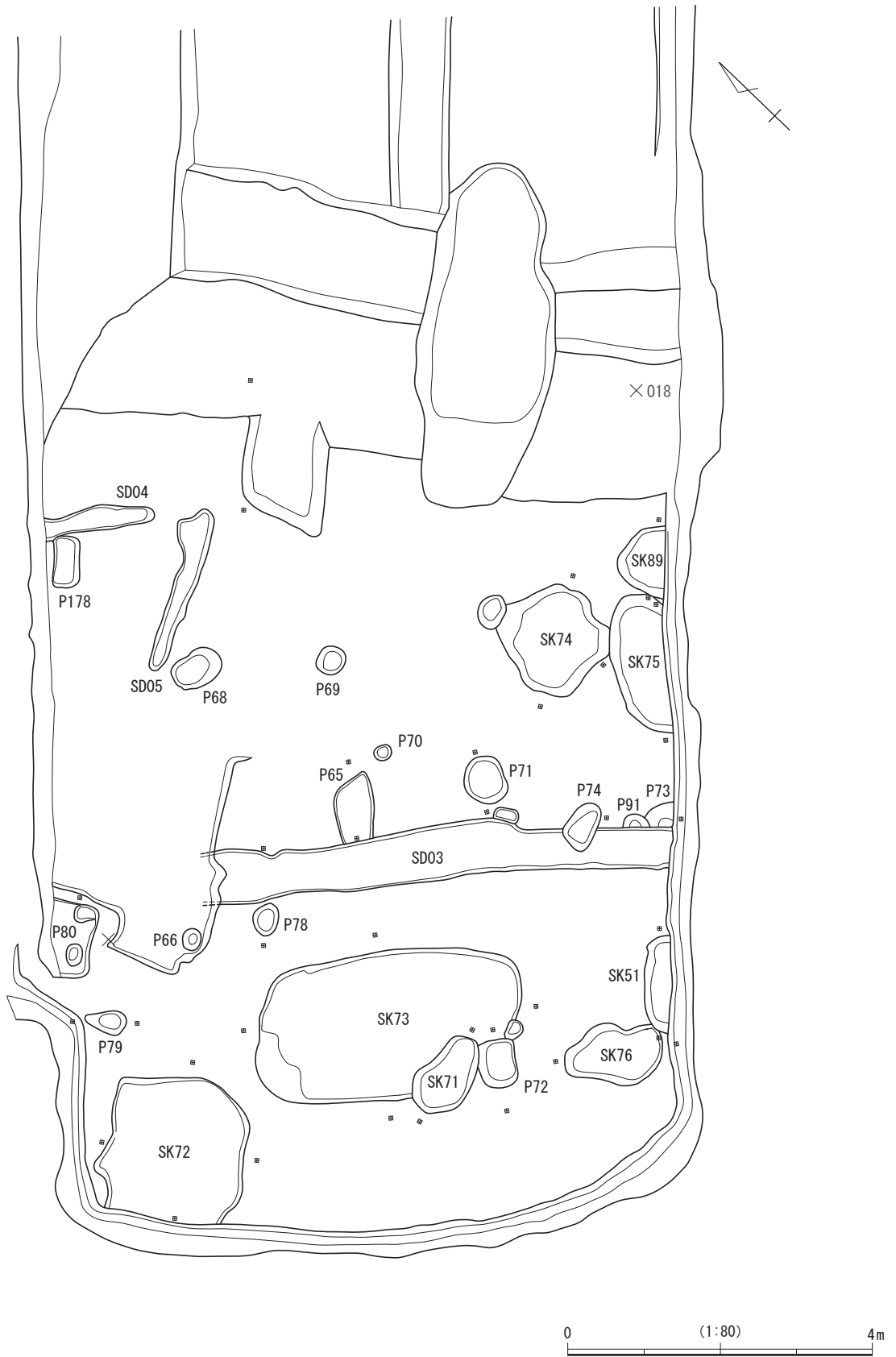


第 138 図 2 区東沼田遺構図 1

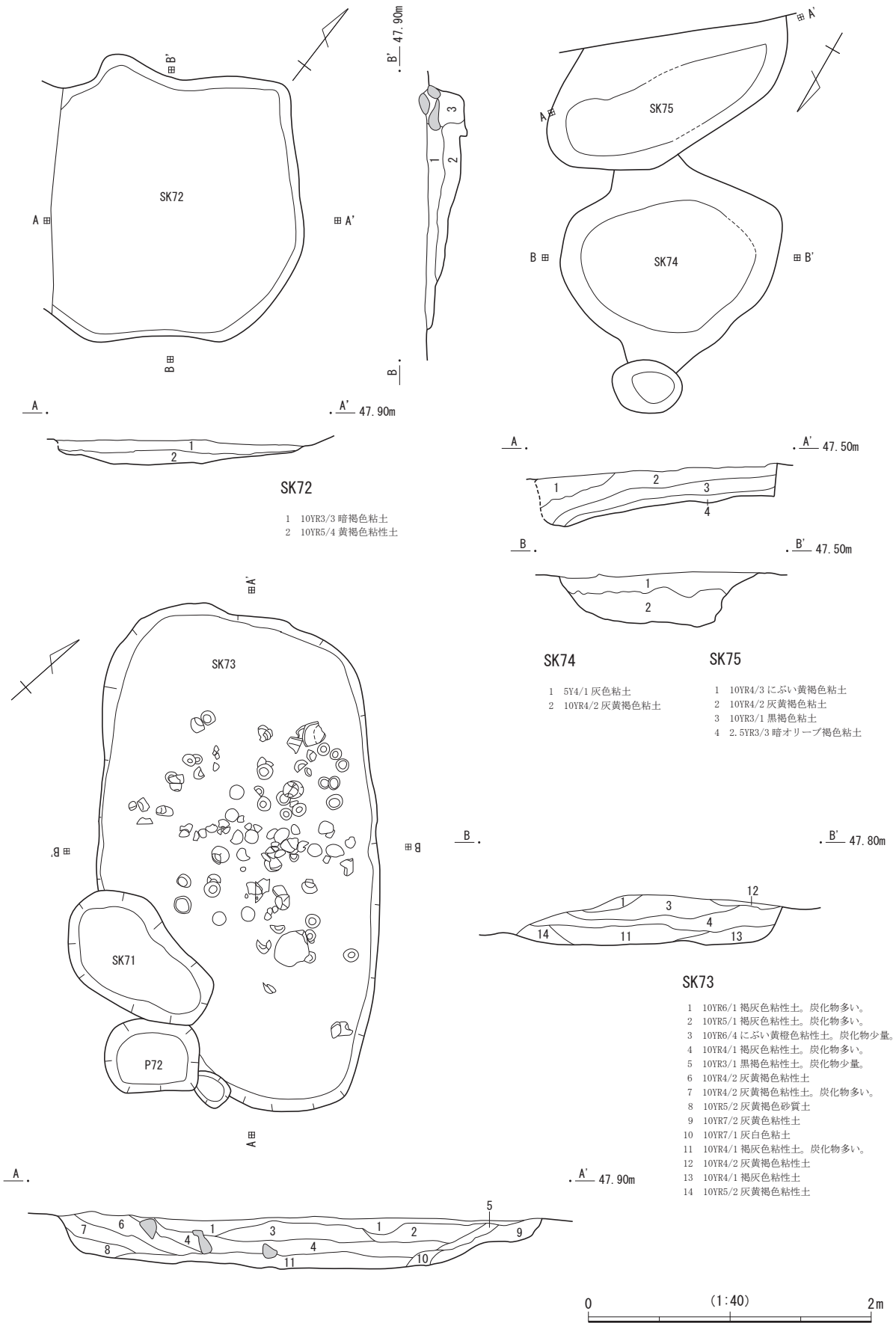
第3章 調査の成果



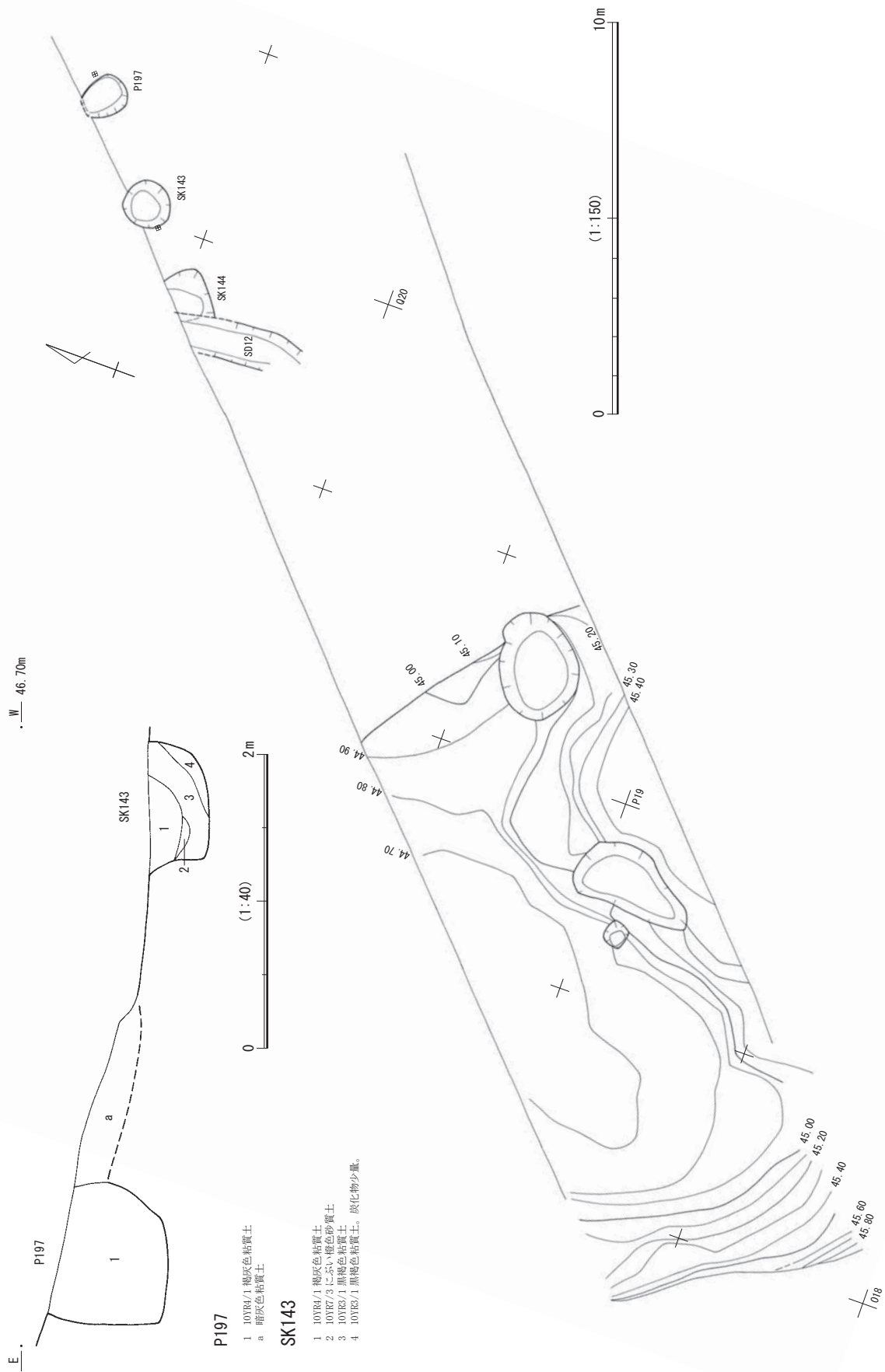
第 139 図 2 区東沼田遺構図 2



第140図 2区東沼田西岸遺構図1



第141図 2区東沼田西岸遺構図2



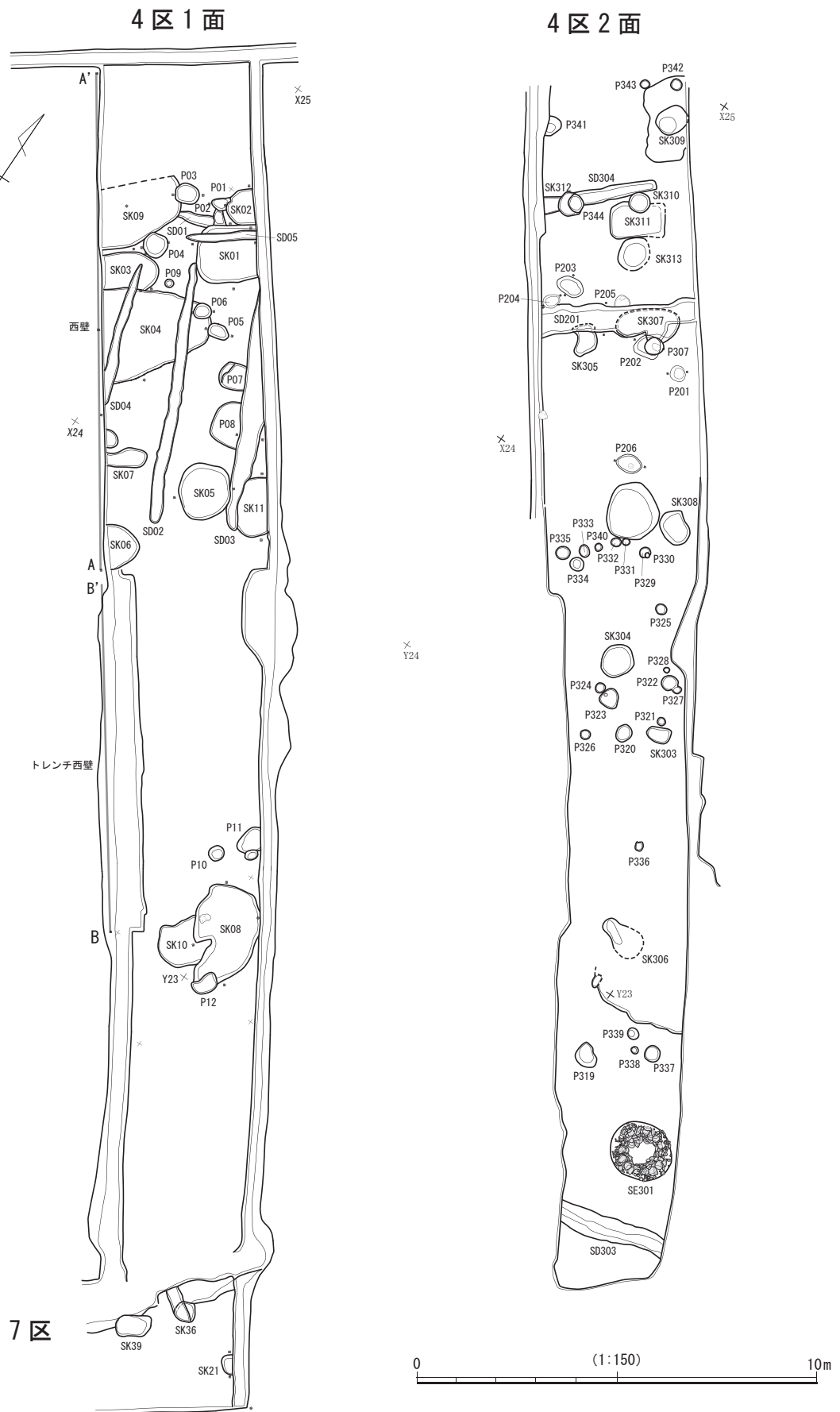
第142図 2区東沼田下層実測図

P197

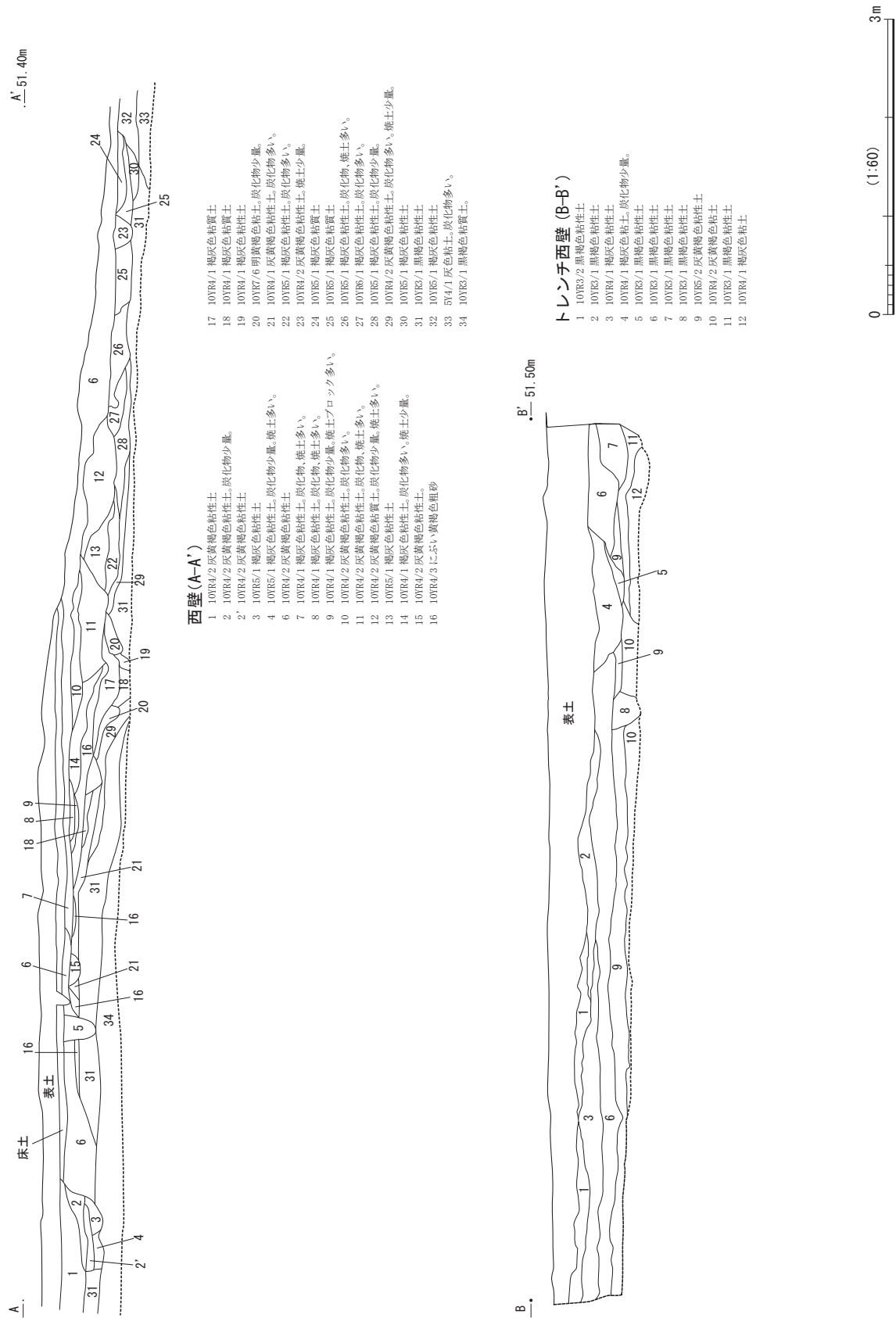
- 1 10YR6/1 褐色粘質土
- a 褐色粘質土

SK143

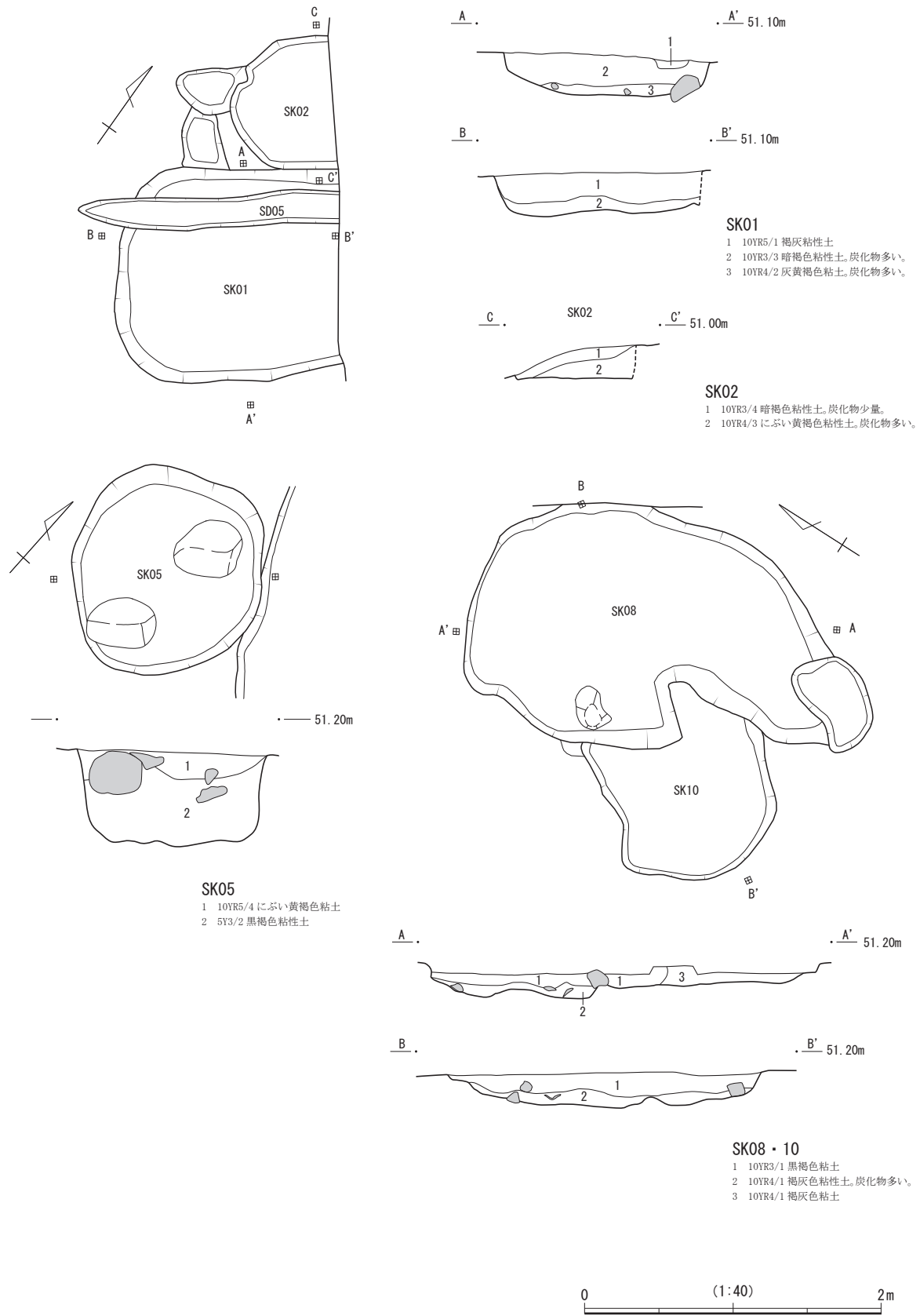
- 1 10YR6/1 褐色粘質土
- 2 10YR7/3 に近い 褐色砂質土
- 3 10YR6/1 褐色粘質土
- 4 10YR6/1 褐色粘質土。炭化物少量。



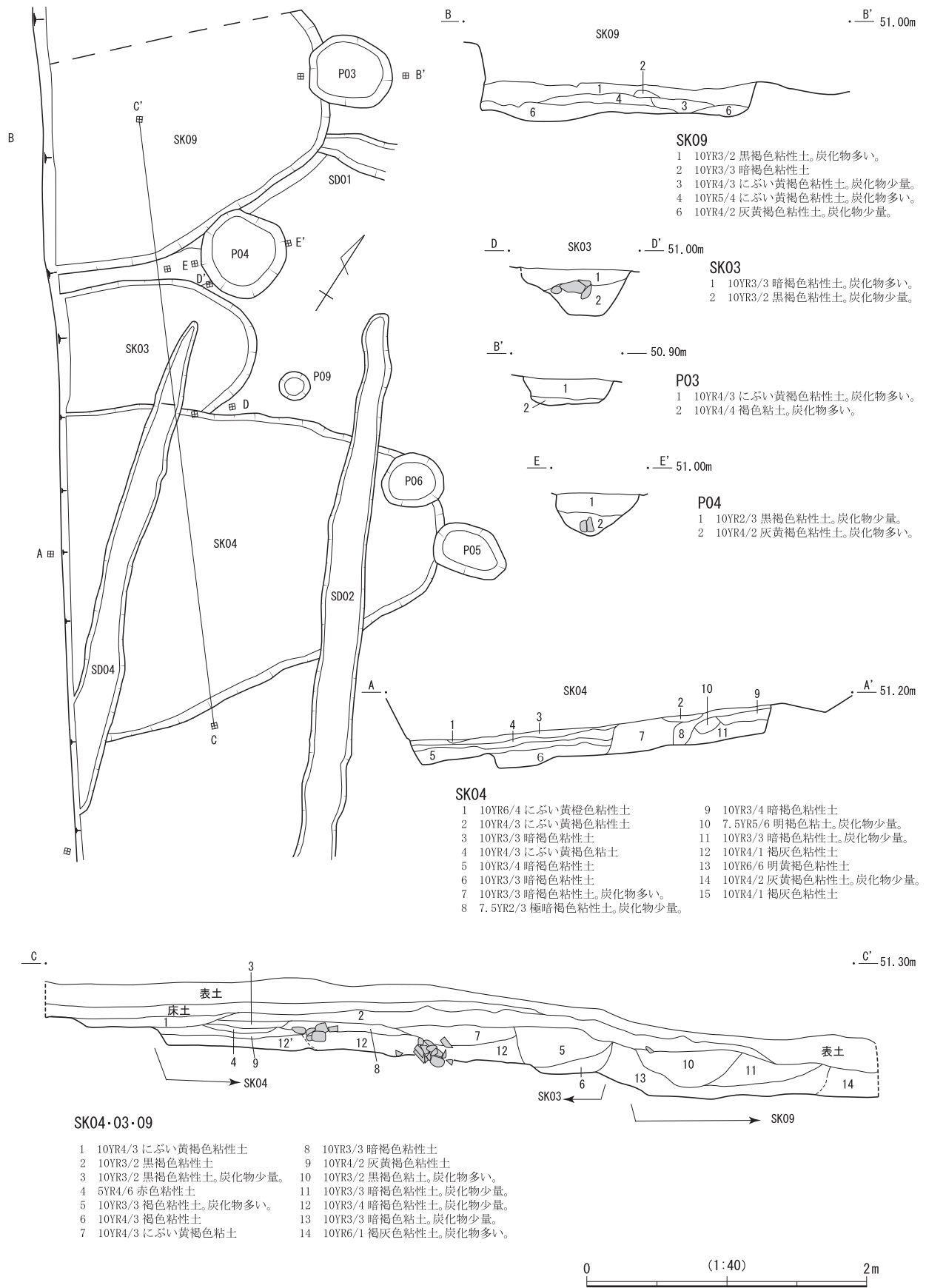
第143図 4区全体図



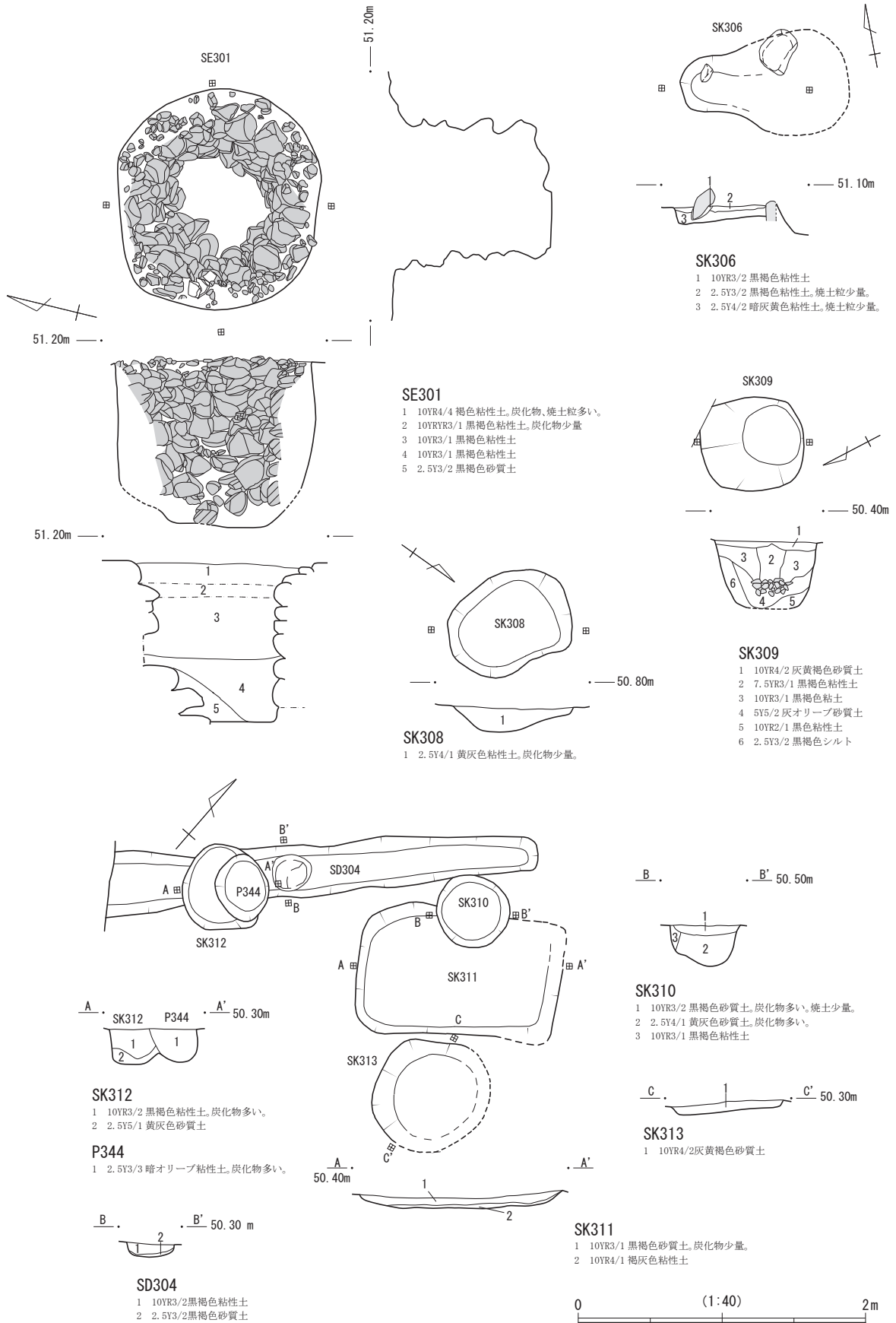
第144図 4区1面土層図



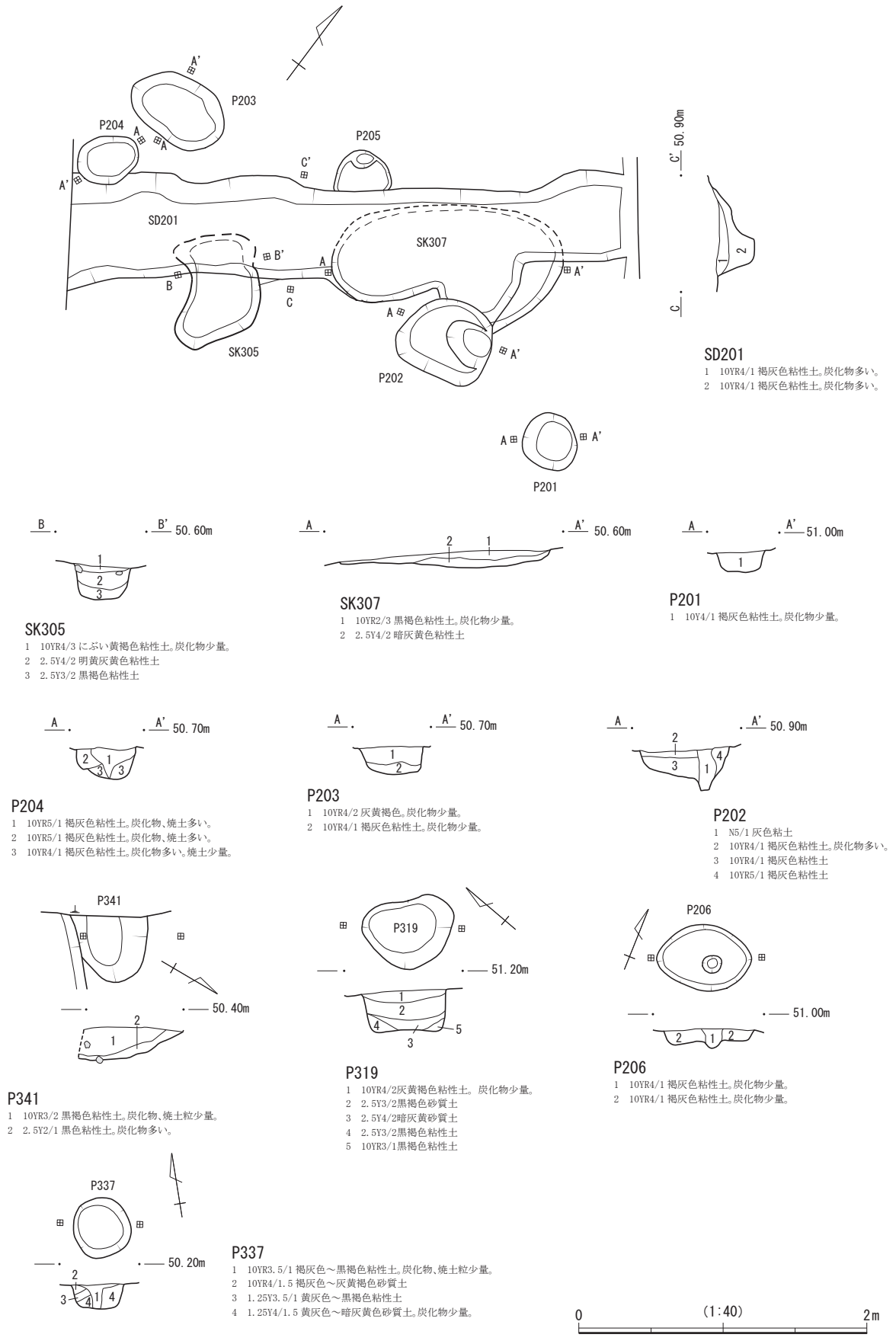
第145図 4区1面遺構図1



第146図 4区1面遺構図2

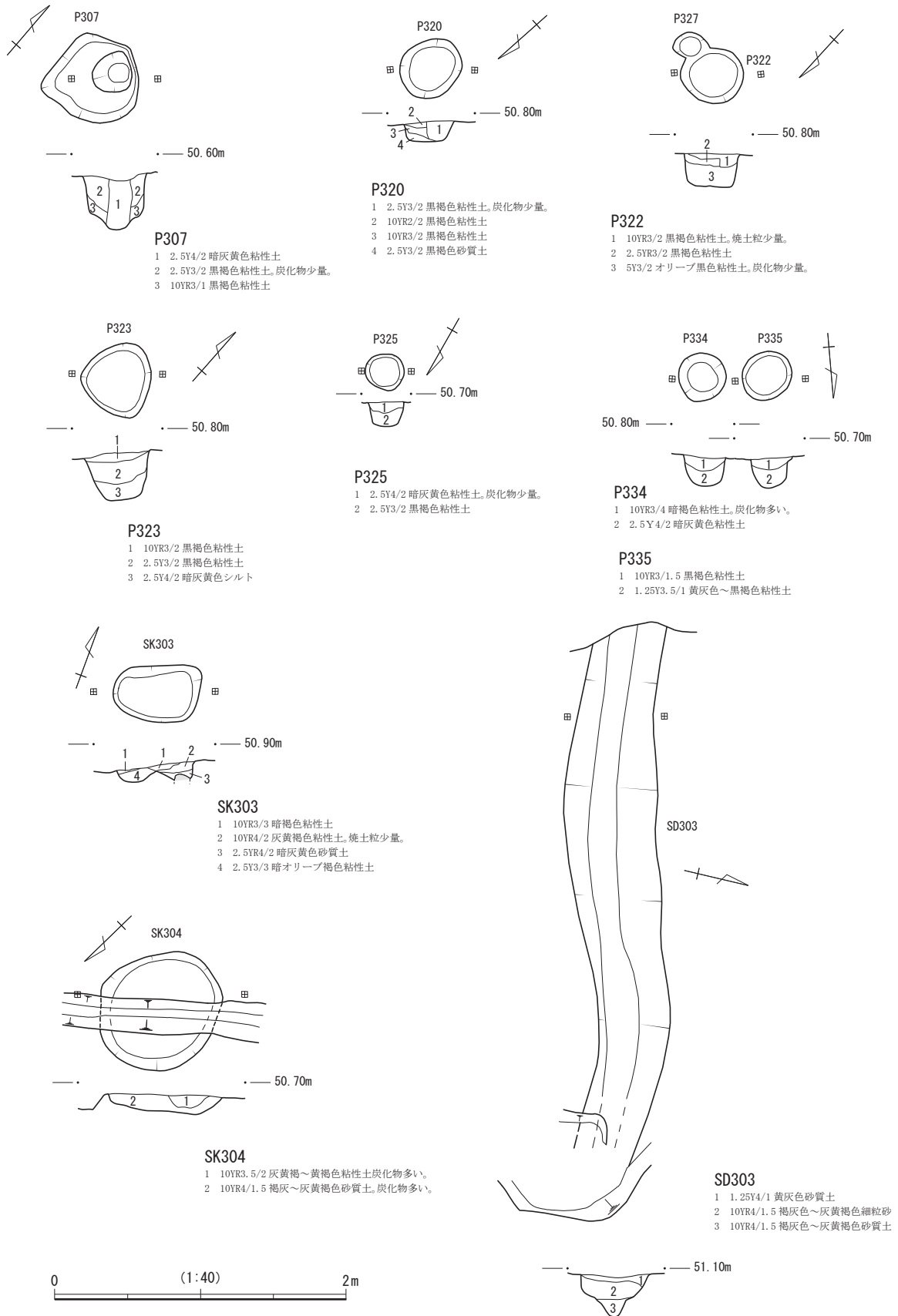


第147図 4区2面遺構図1

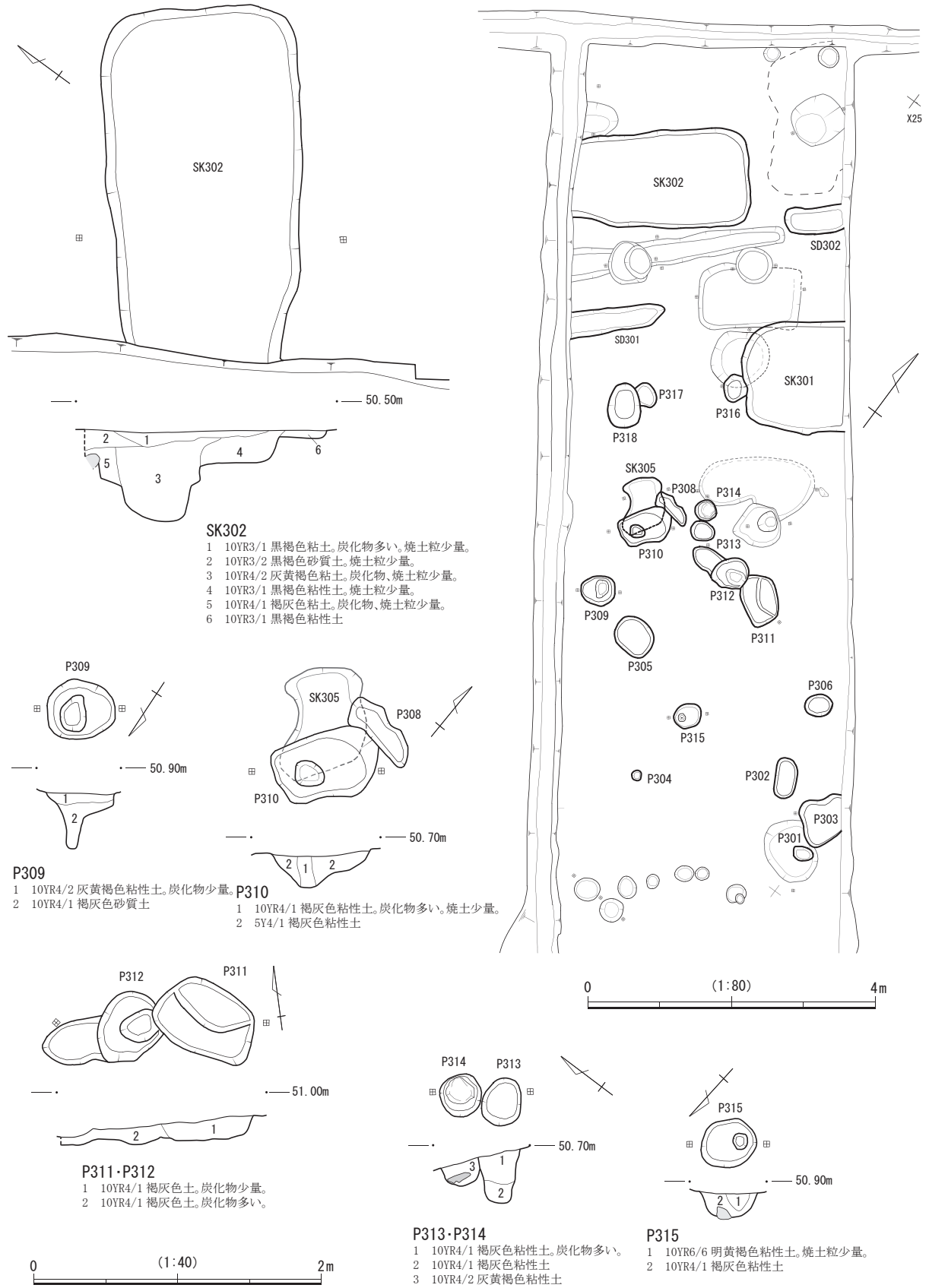


第148図 4区2面遺構図2

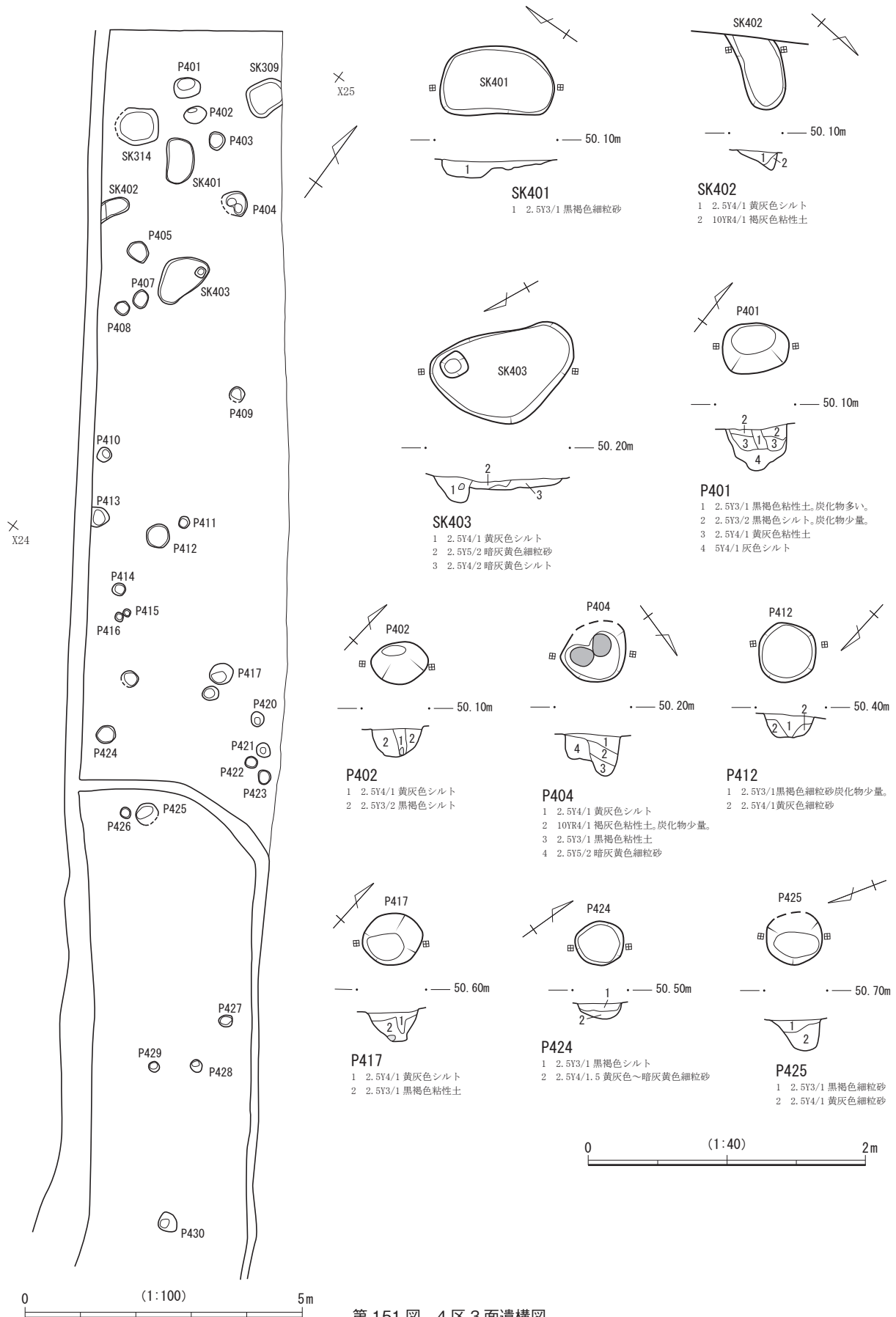
第3章 調査の成果



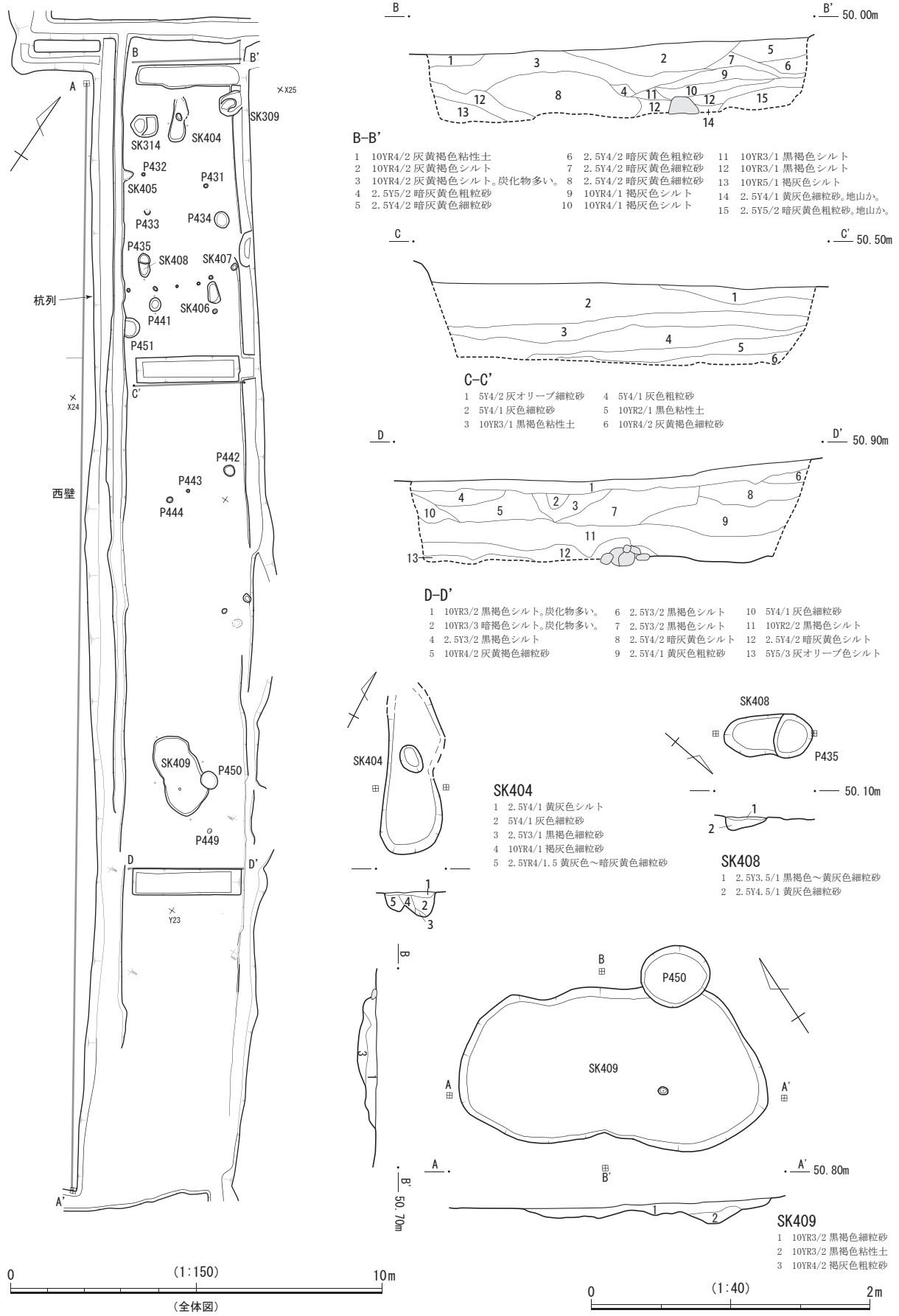
第149図 4区2面遺構図3



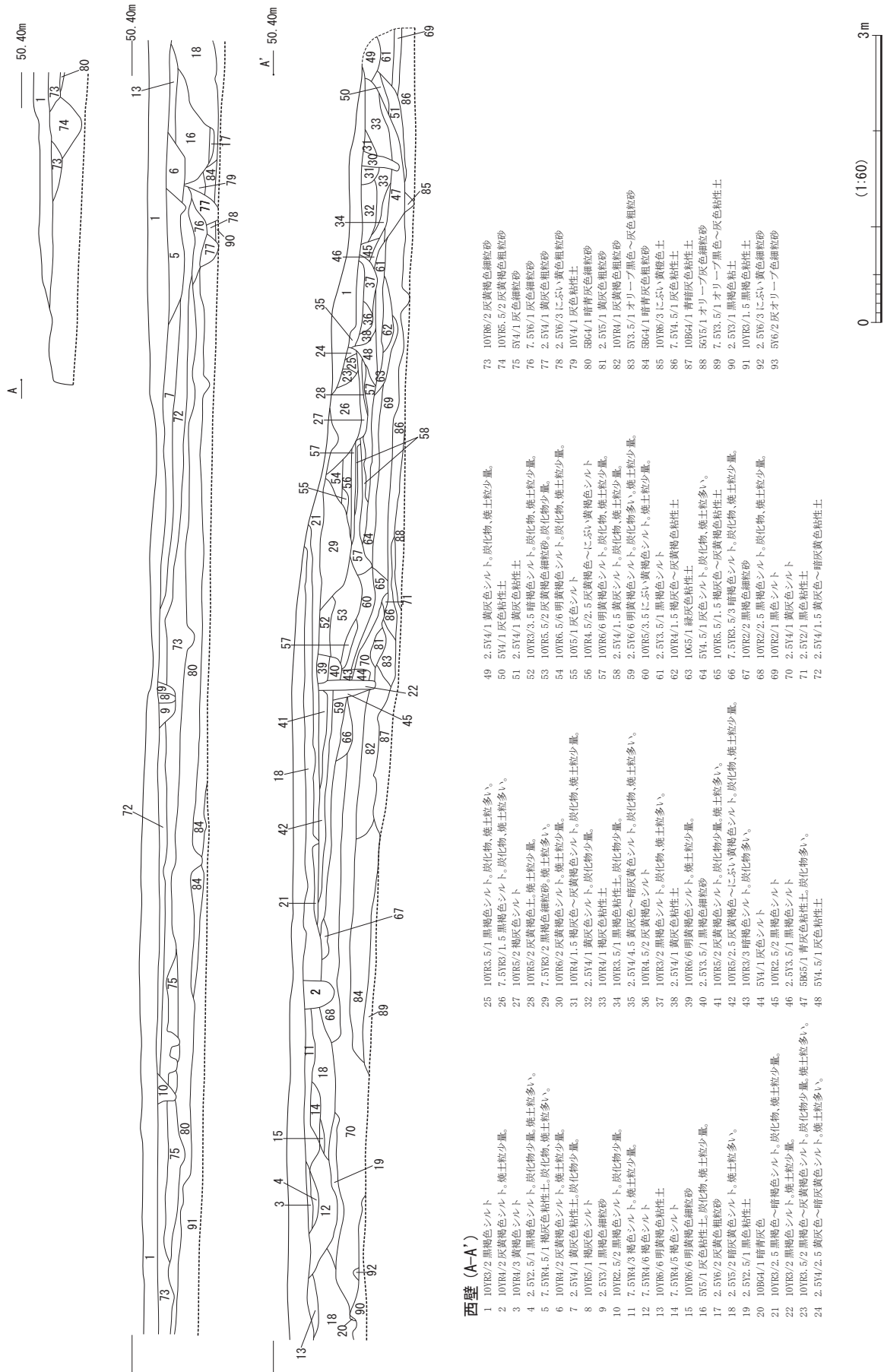
第150図 4区2面下遺構図



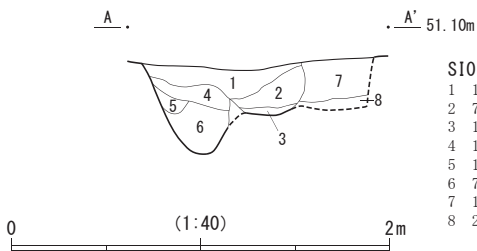
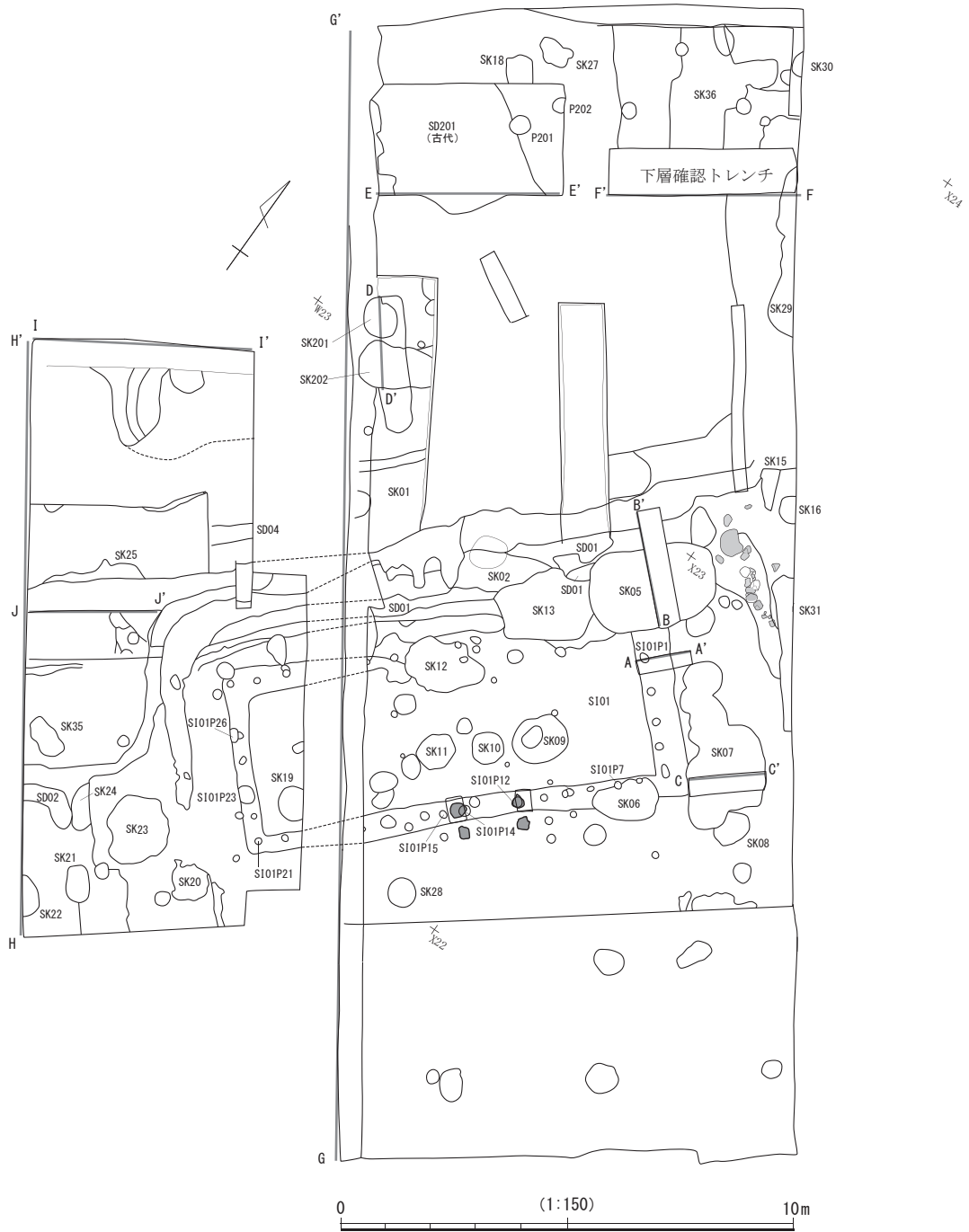
第151図 4区3面遺構図



第152図 4区4面全体図・遺構図



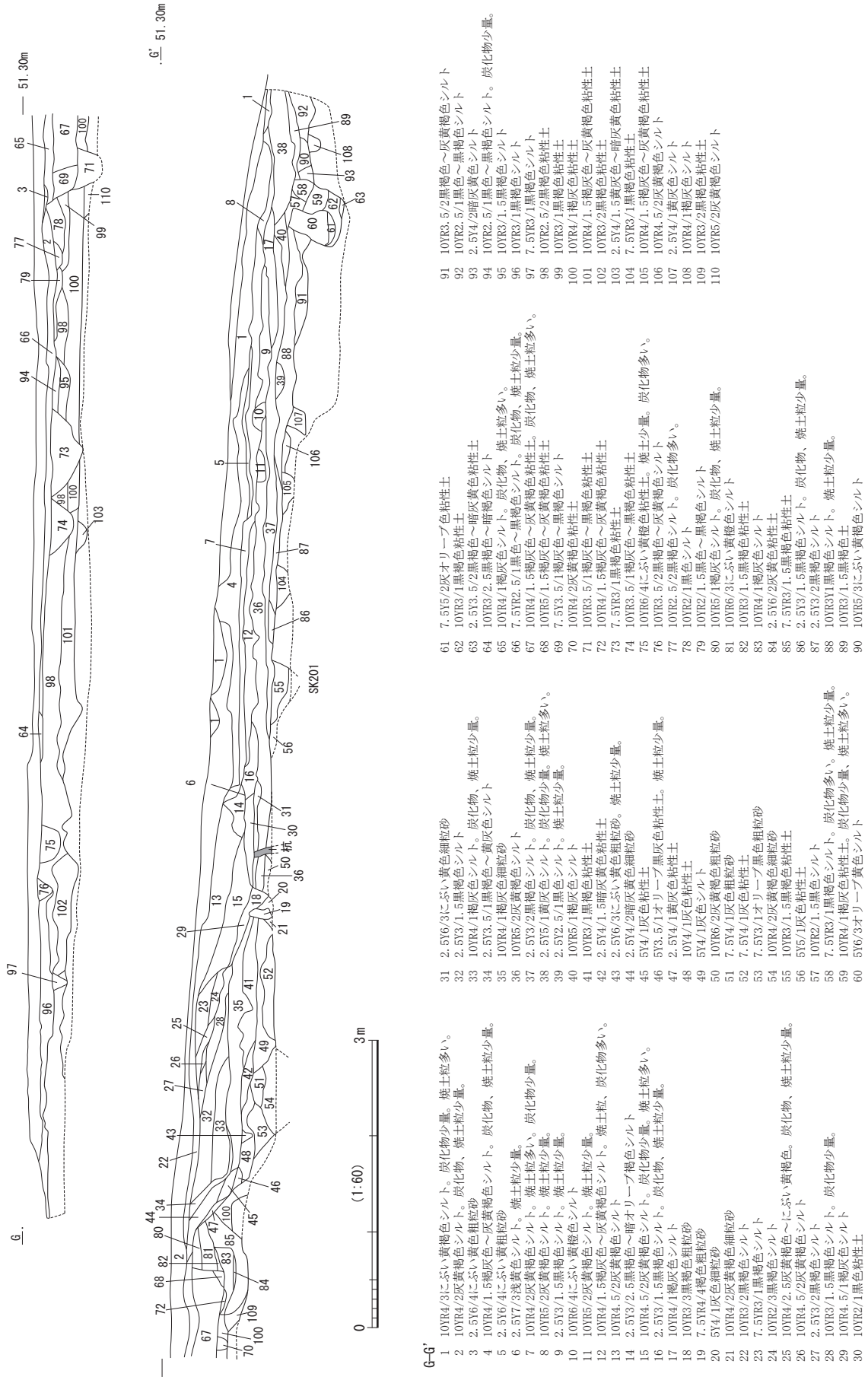
第153図 4区4面土層図



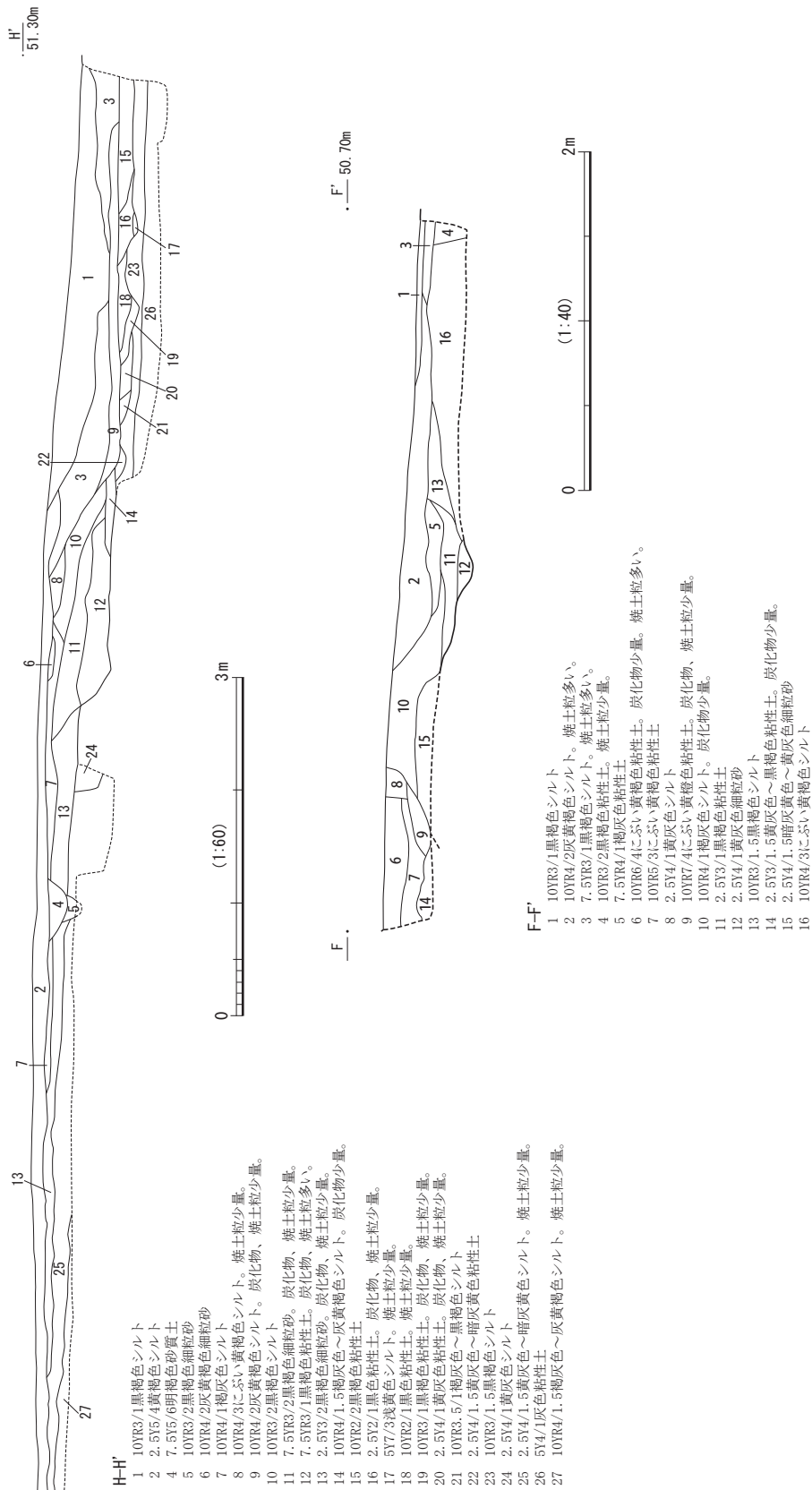
S101東溝

- 1 10YR3/1黒褐色シルト。炭化物少量。
- 2 7.5YR3/1黒褐色シルト
- 3 10YR6/6明黄褐色粘性土
- 4 10YR2.5/1黒色シルト
- 5 10YR6/6明黄褐色土
- 6 7.5YR2.5/1黒色粘性土。炭化物少量。
- 7 10YR2/1.5黒色シルト
- 8 2.5Y4/1黄灰色シルト。炭化物少量。

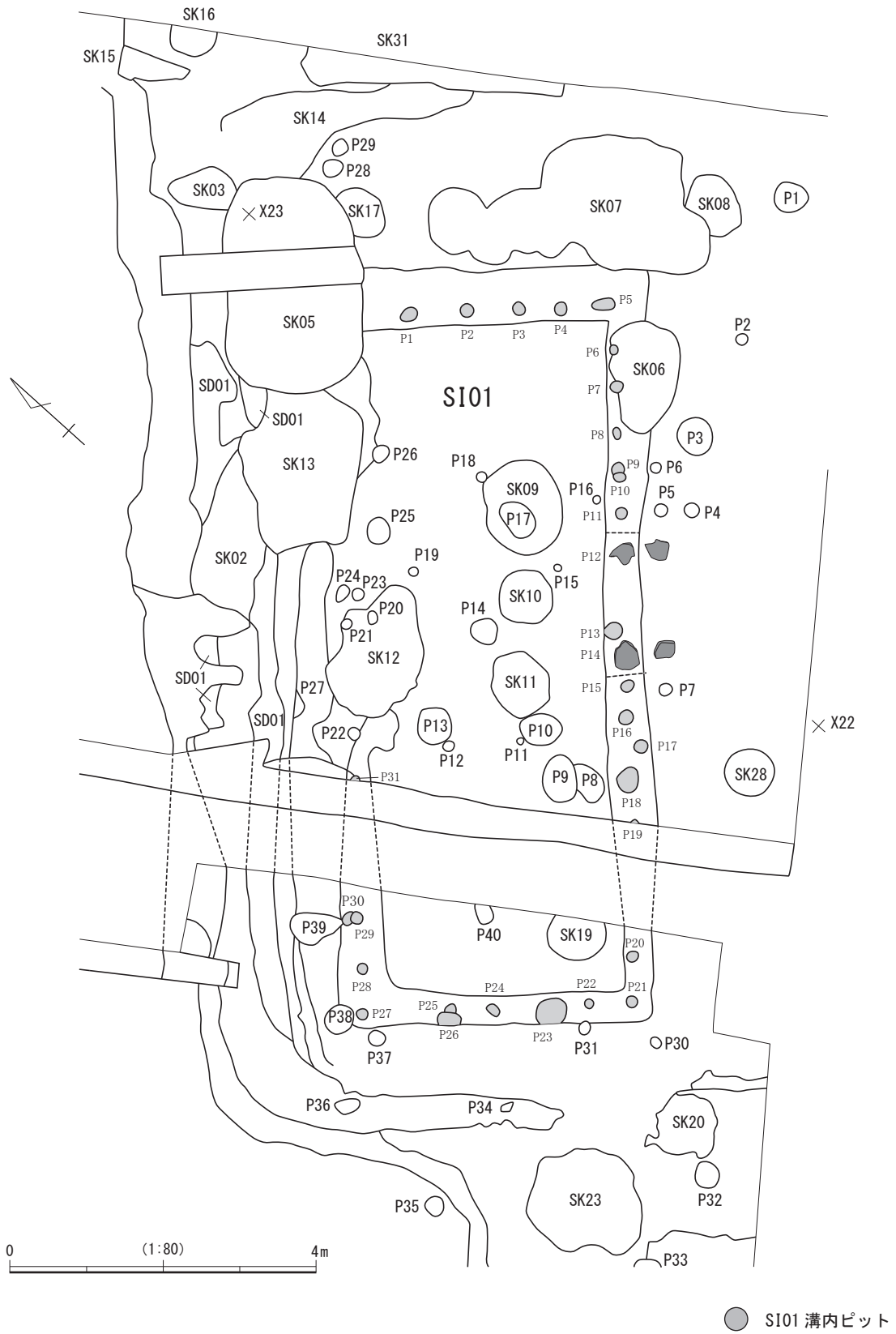
第154図 8区全体図



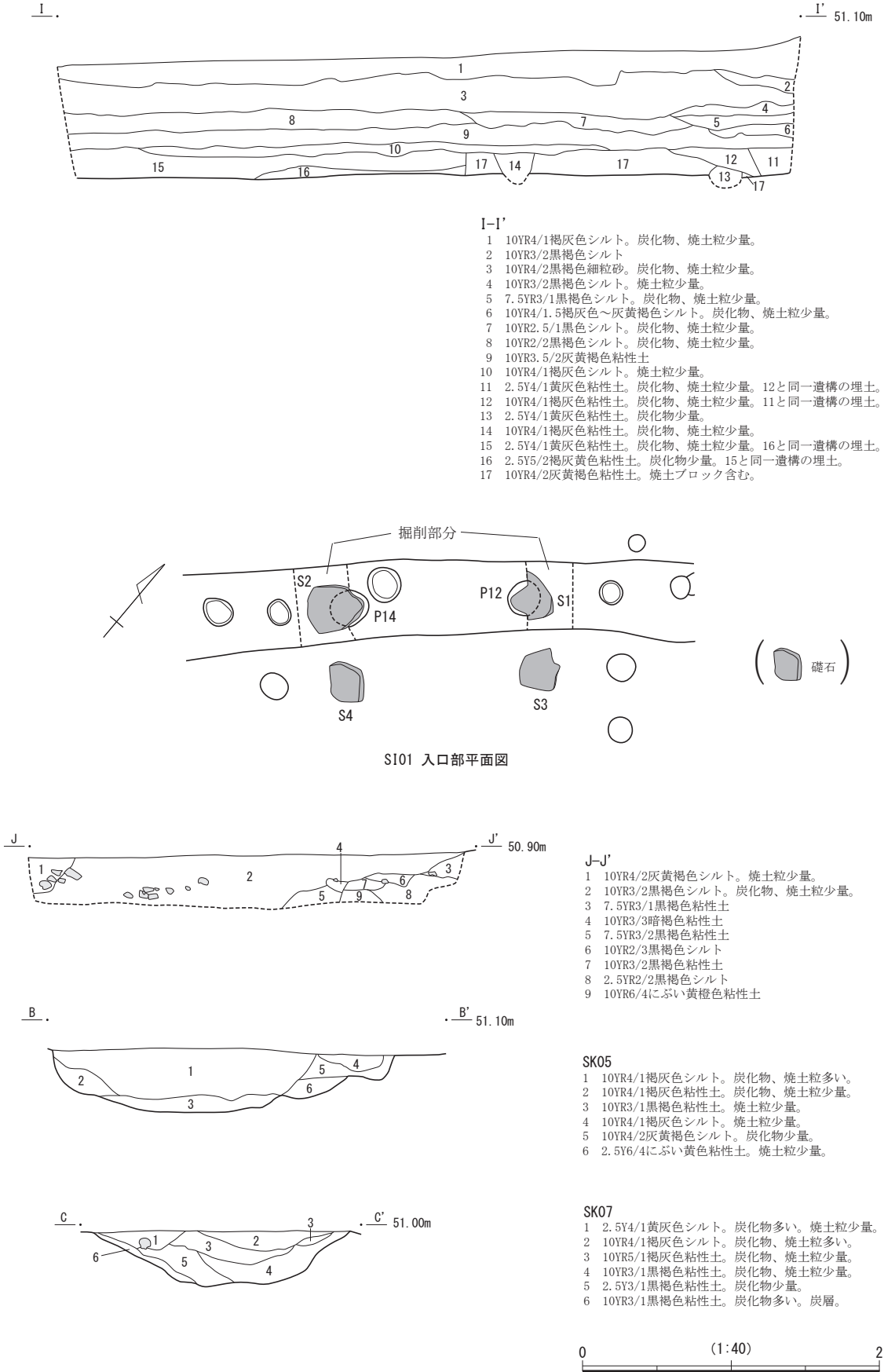
第 155 図 8 区土層図 1



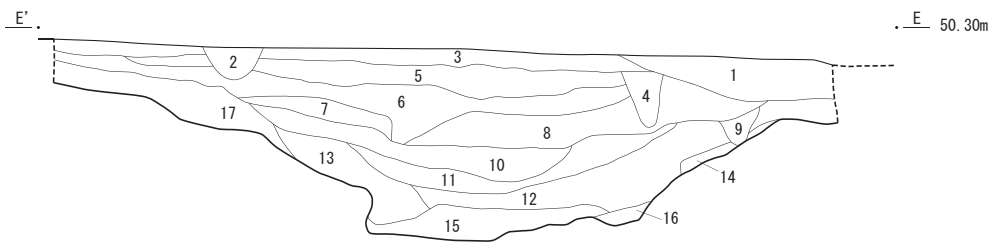
第156図 8区土層図2



第157図 8区遺構図1

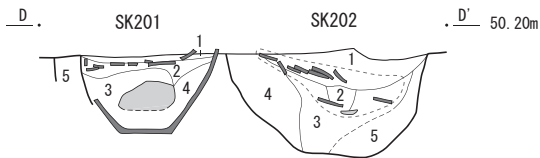
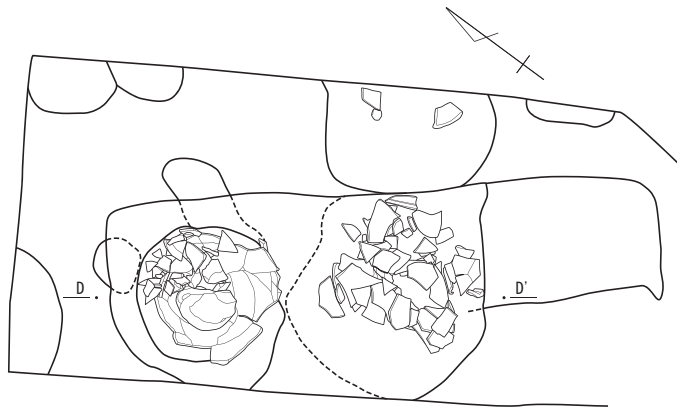


第 158 図 8 区遺構図 2



SD201 (下層) E-E'

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 1 10YR3/2黒褐色粘性土 | 9 10YR3/3暗褐色粘性土 |
| 2 10YR2/2黒褐色粘性土 | 10 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘性土 |
| 3 10YR3/2黒褐色粘性土。焼土粒多い。 | 11 10YR3/3暗褐色粘性土 |
| 4 10YR3/3暗褐色粘性土 | 12 10YR3/1黒褐色粘性土 |
| 5 10YR2/1黒色粘性土 | 13 10YR3/3暗褐色粘性土 |
| 6 10YR2/1黒色粘性土 | 14 10YR4/4褐色粘性土 |
| 7 10YR2/2黒褐色粘性土 | 15 10YR3/1黒褐色粘性土 |
| 8 10YR7/1黒色粘性土 | 16 10YR4/2灰黄褐色粘性土 |
| | 17 10YR3/3暗褐色粘性土 |



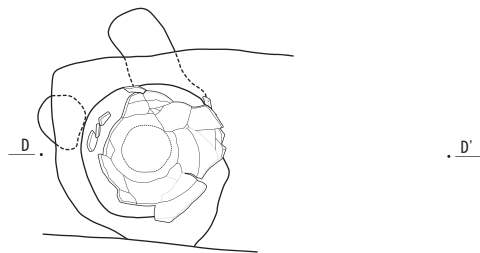
SK201・202 (D-D')

SK201

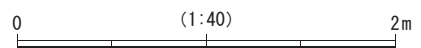
- 1 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
- 2 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
- 3 10YR4/1褐灰色粘性土。焼土粒多い。炭化物少量。
- 4 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 5 10YR3/3暗褐色粘性土。焼土粒少量。炭化物多い。

SK202

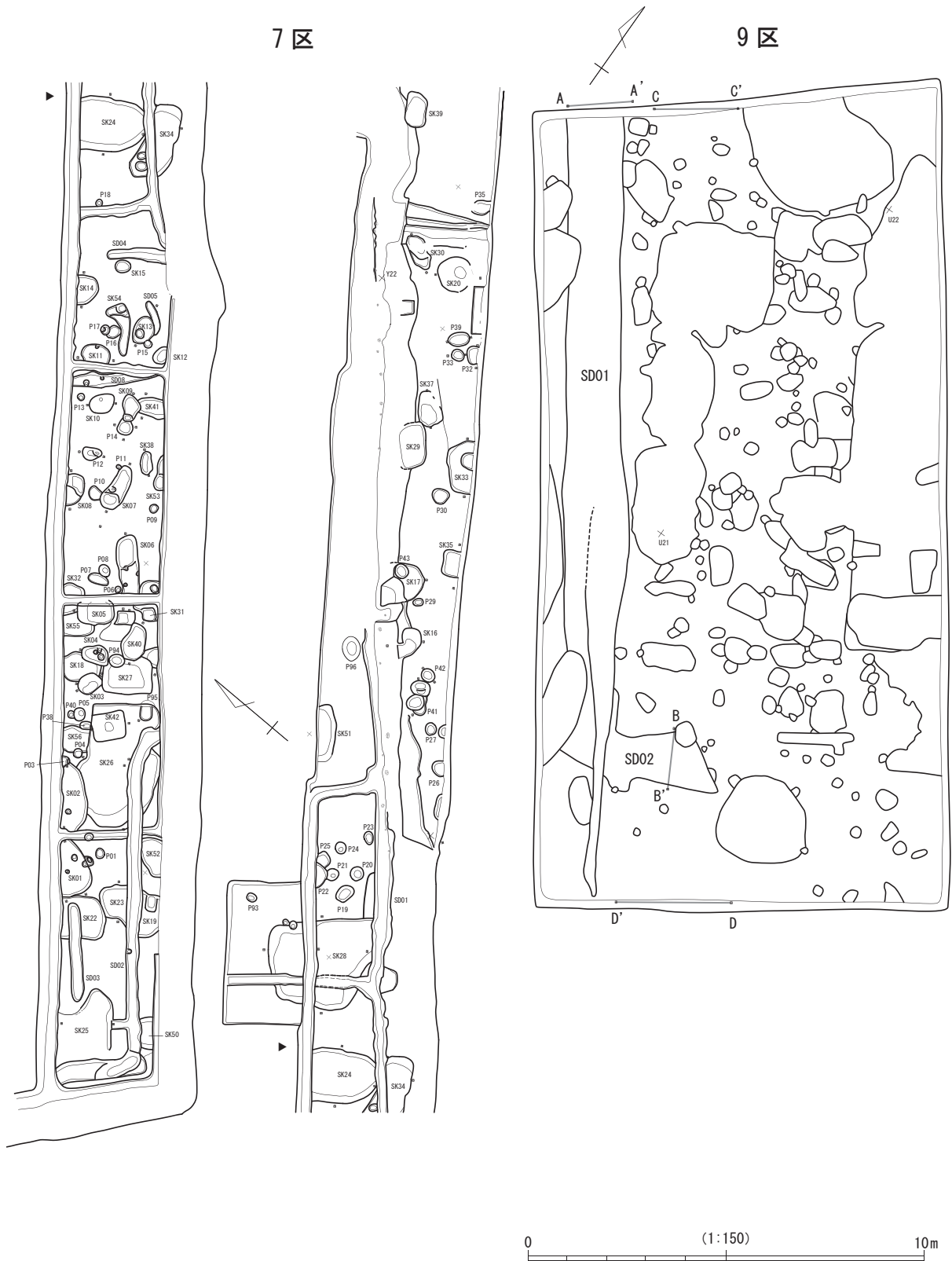
- 1 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。
- 2 10YR4/6褐色粗粒砂。焼土粒少量。
- 3 10YR3/3暗褐色粘性土。焼土粒多い。
- 4 10YR5/6黄褐色粘性土。焼土粒多い。炭化物少量。
- 5 10YR5/4にぶい黄褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。



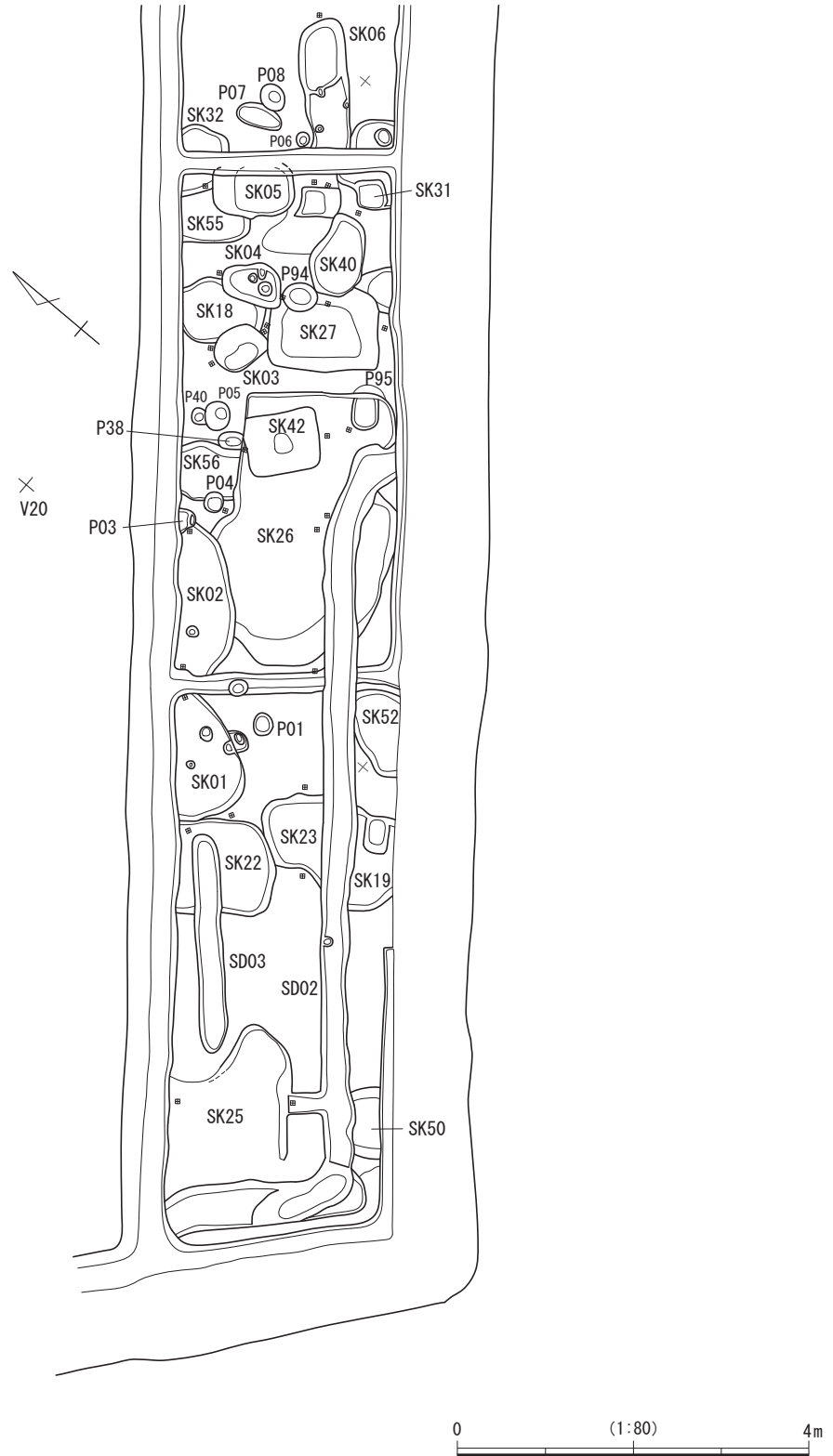
SK201 梅壺底部



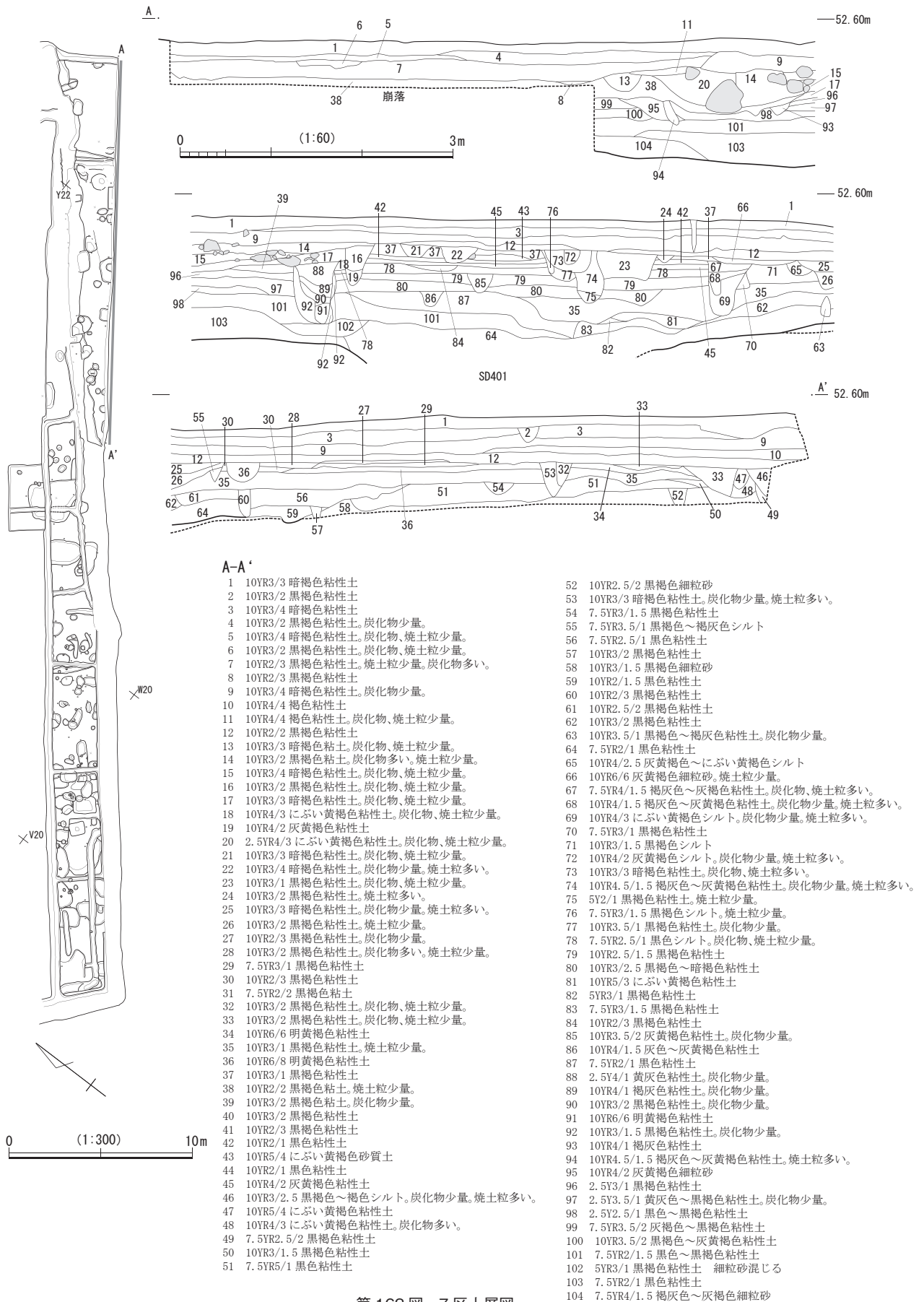
第159図 8区遺構図3



第160図 7区・9区全体図

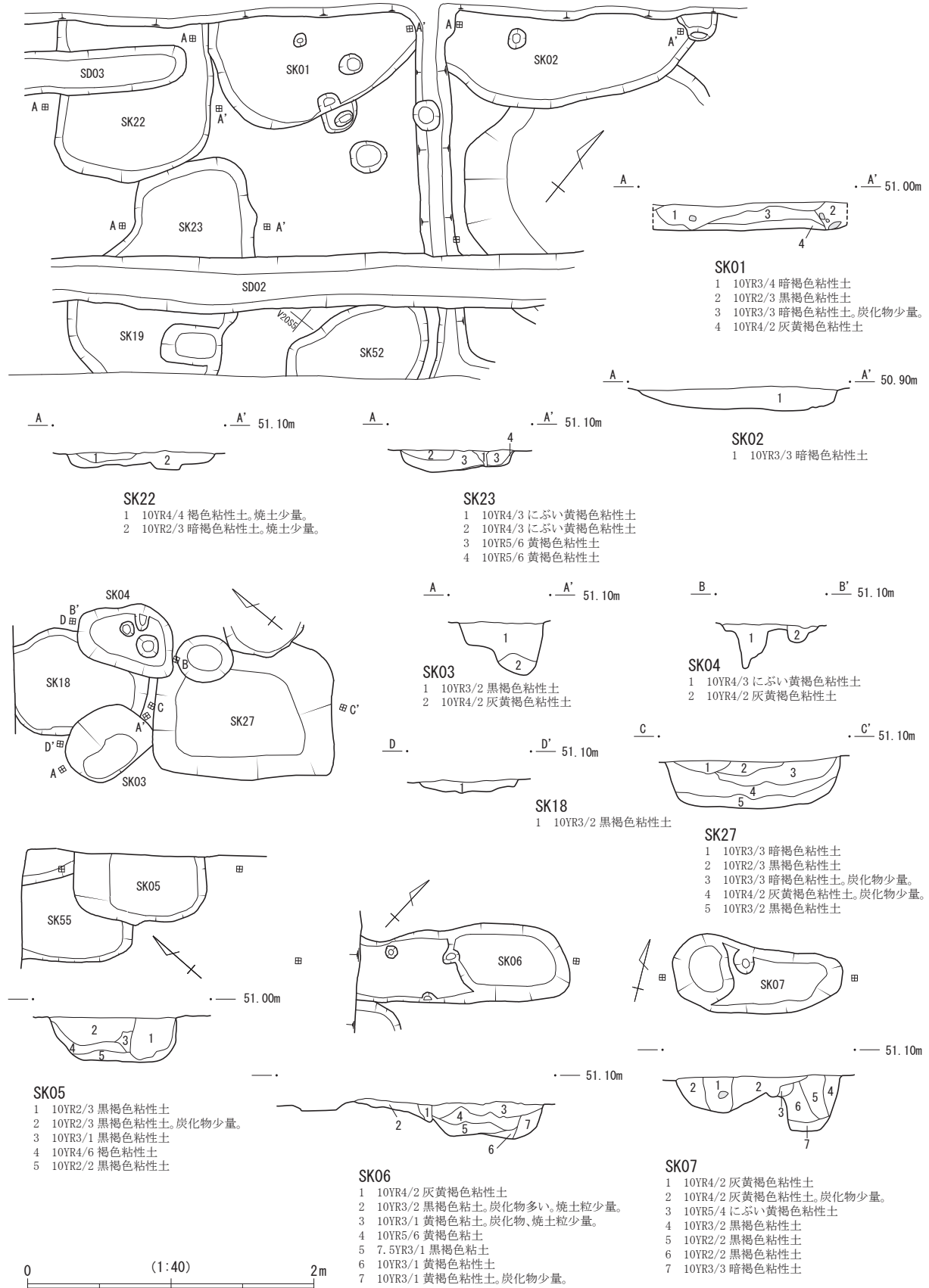


第 161 図 7 区遺構図 1

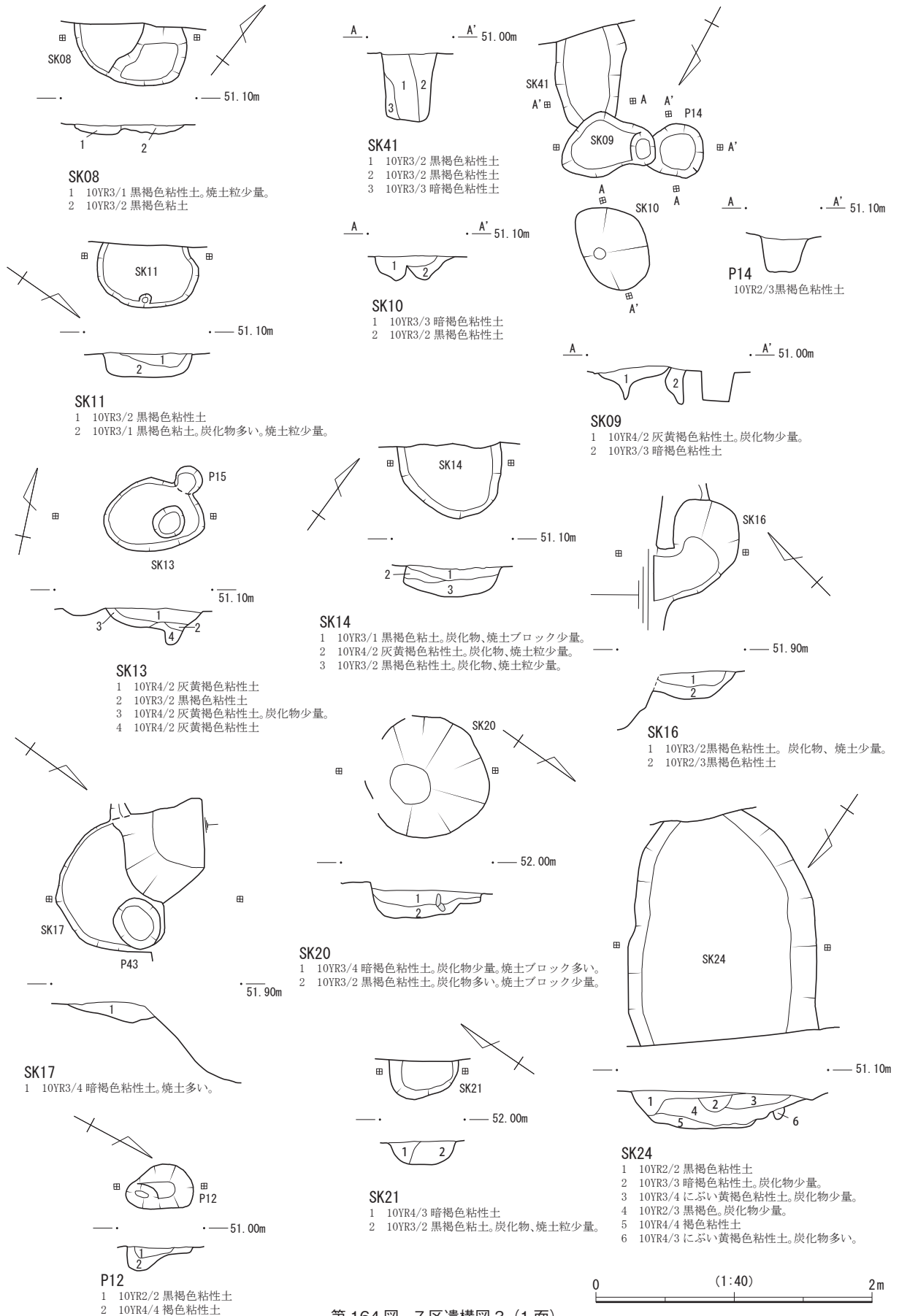


第162図 7区土層図

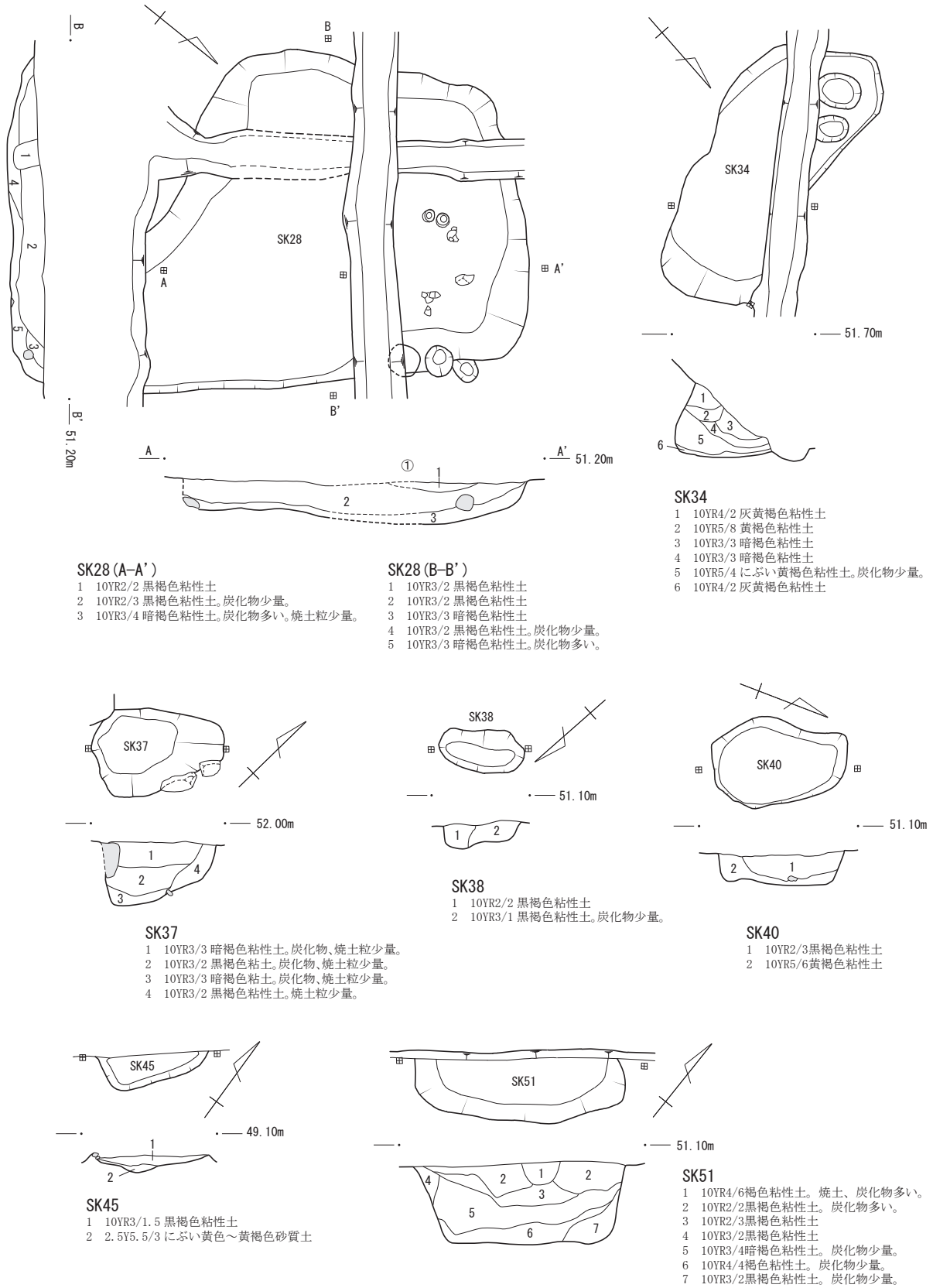
第3章 調査の成果



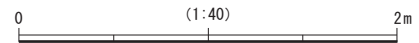
第163図 7区遺構図2 (1面)

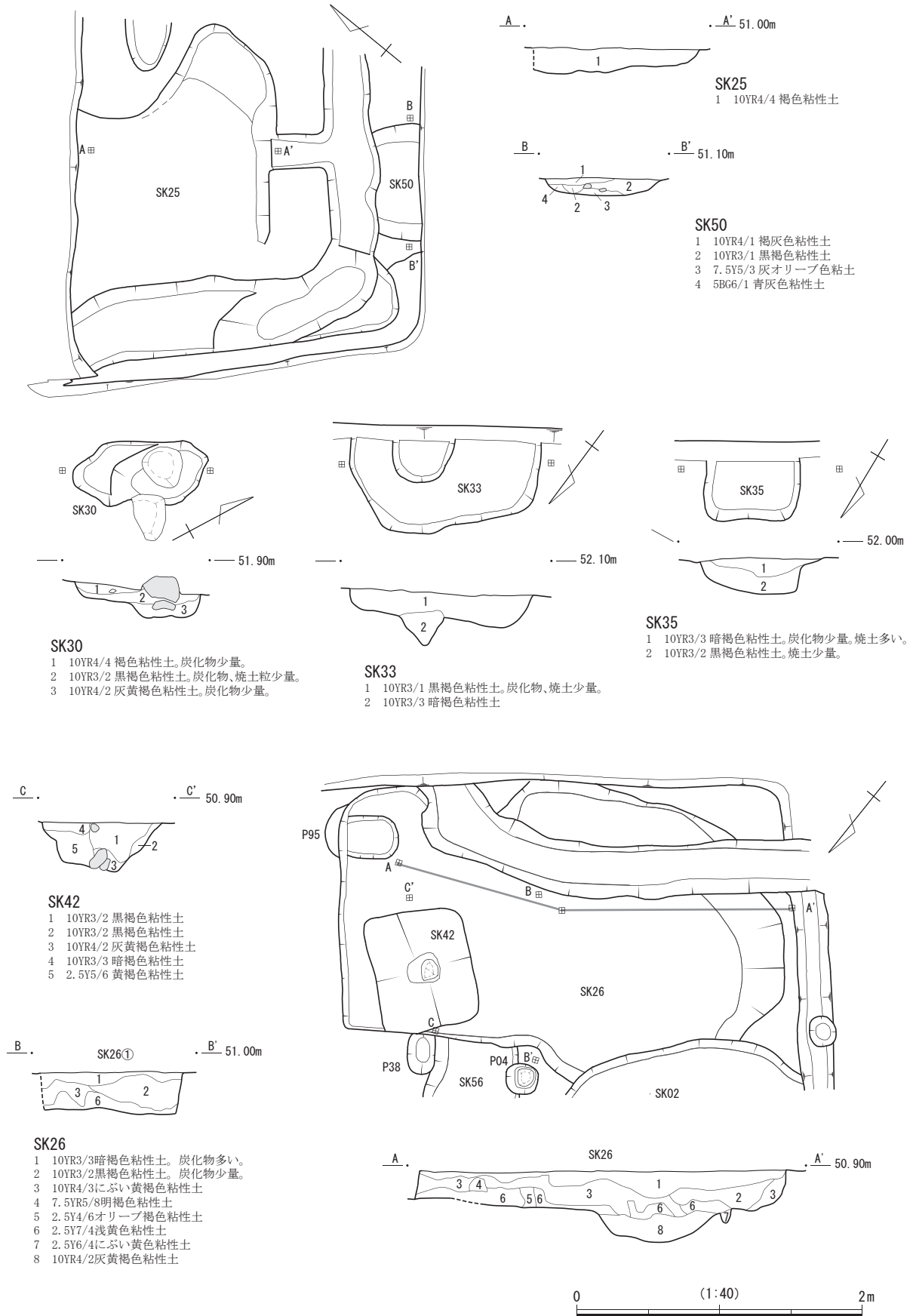


第164図 7区遺構図3 (1面)

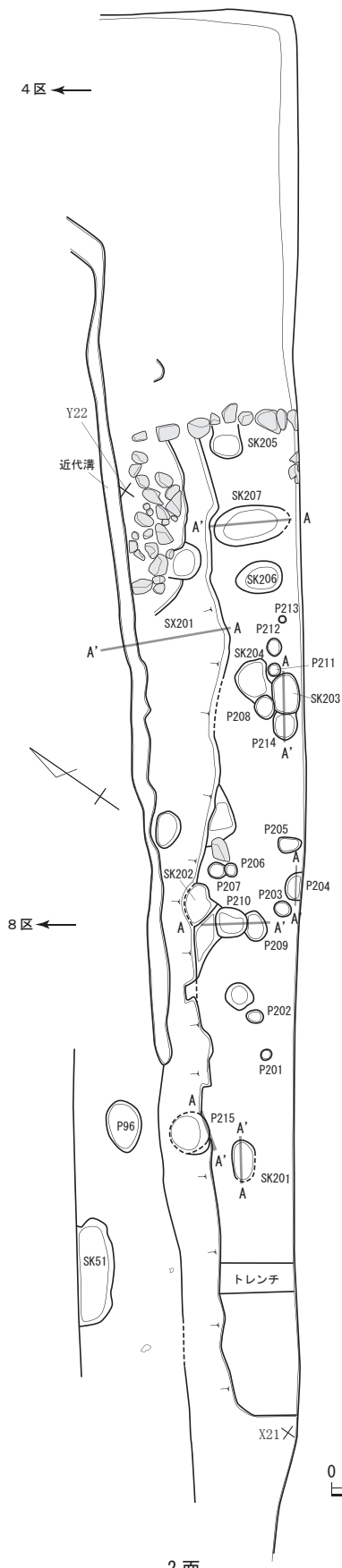


第165図 7区遺構図4 (1面)

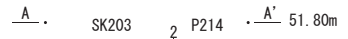




第166図 7区遺構図5(1面)



- SK201**
 1 10YR2/3 黒褐色粘性土
 2 10YR3/3 暗褐色粘性土

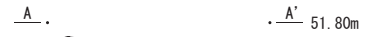


- SK203**
 1 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
 2 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。
 3 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。



- P204**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
 2 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
 3 10YR3/3 暗褐色粘性土

- P214**
 1 10YR2/3 黒褐色粘性土。焼土粒少量。
 2 10YR3/3 暗褐色粘性土



- SK207**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
 2 10YR3/2 黒褐色粘性土
 3 10YR3/4 暗褐色粘性土
 4 10YR3/3 暗褐色粘性土
 5 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
 6 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土



- SX201**
 1 10YR3/3 暗褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。
 2 7.5YR3/1 黒褐色シルト
 3 10YR3/2 黒褐色砂質土
 4 10YR3/3 暗褐色砂質土。炭化物少量。

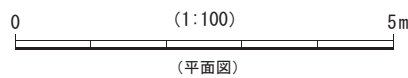
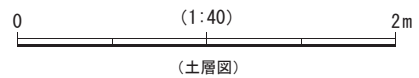


- P209**
 1 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。

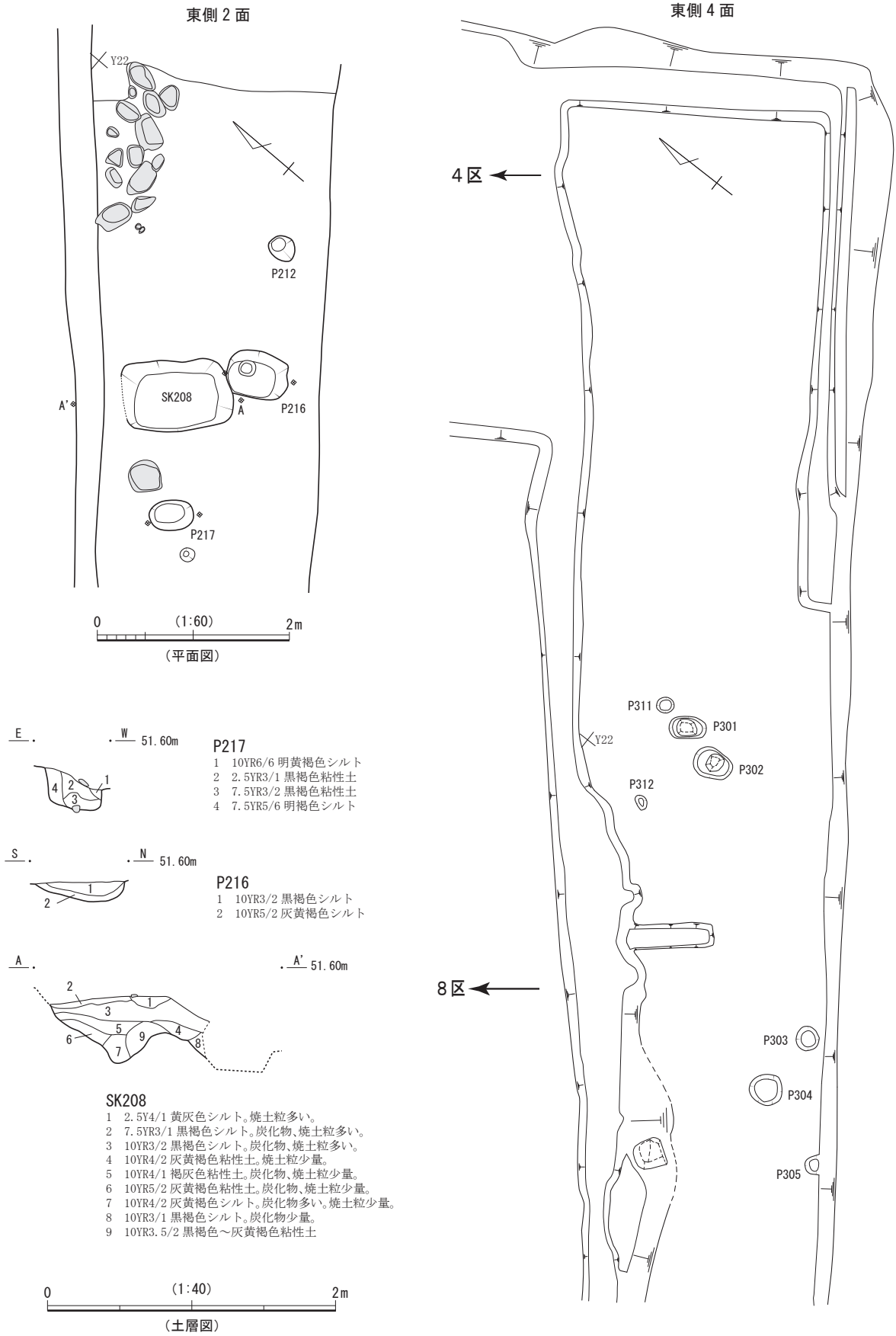
- P210**
 1 10YR3/2 黒褐色粘性土。焼土粒少量。炭化物多い。
 2 10YR3/3 暗褐色粘性土
 3 10YR3/4 暗褐色粘性土。焼土粒少量。



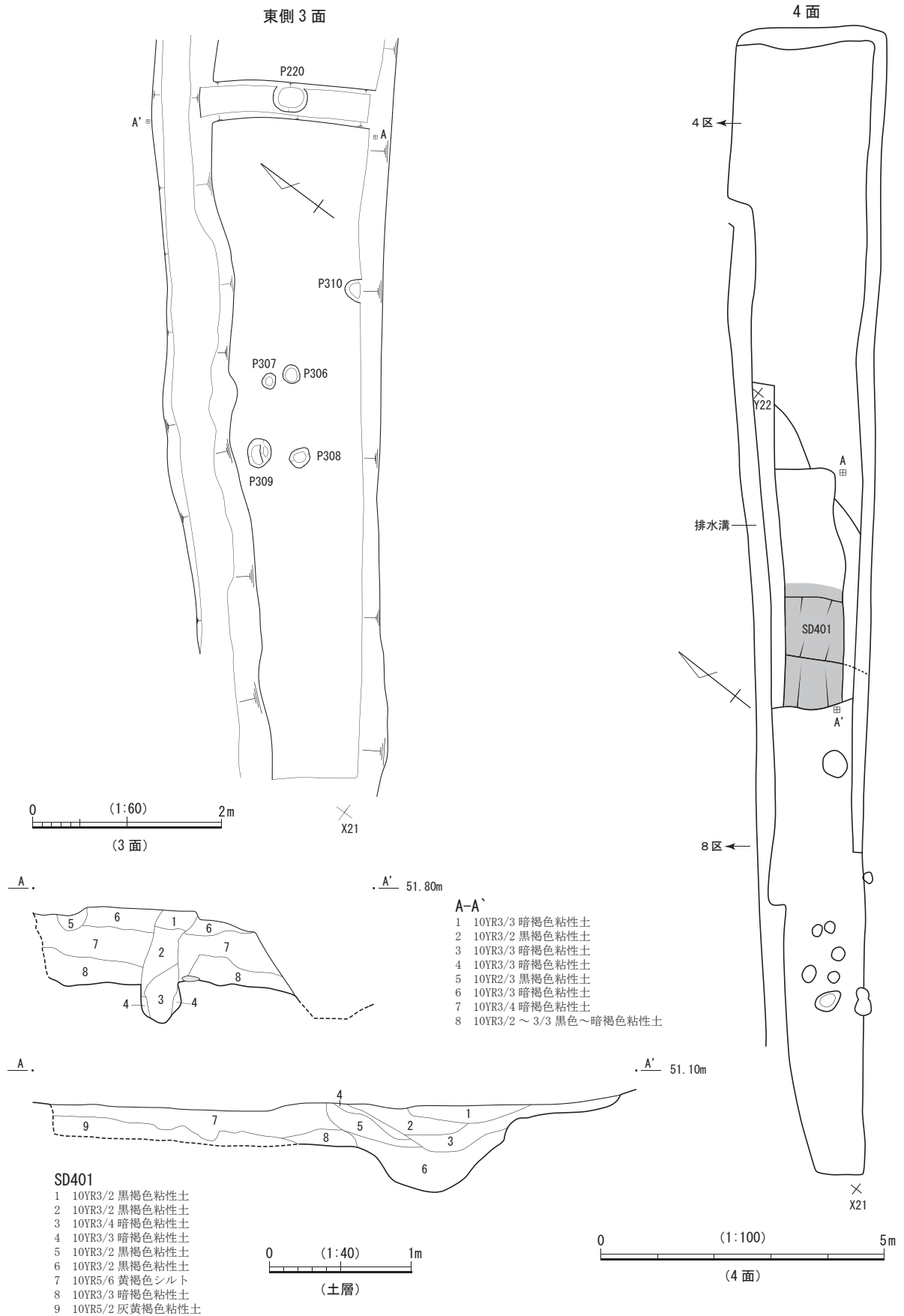
- P215**
 1 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
 2 10YR3/1 黒褐色粘性土
 3 10YR3/3 暗褐色砂質土
 4 10YR4/4 褐色砂質土



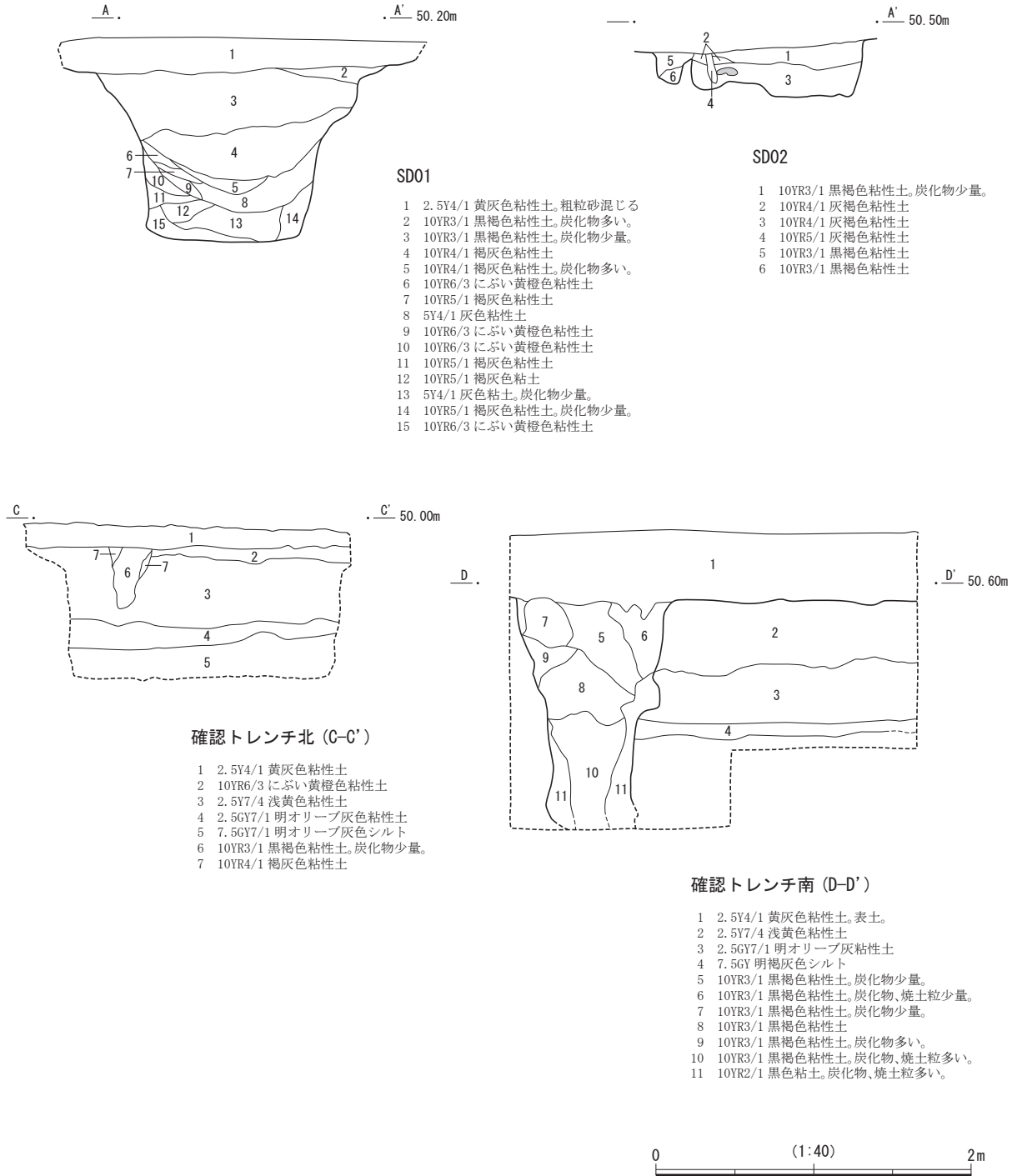
第167図 7区遺構図6(2面)



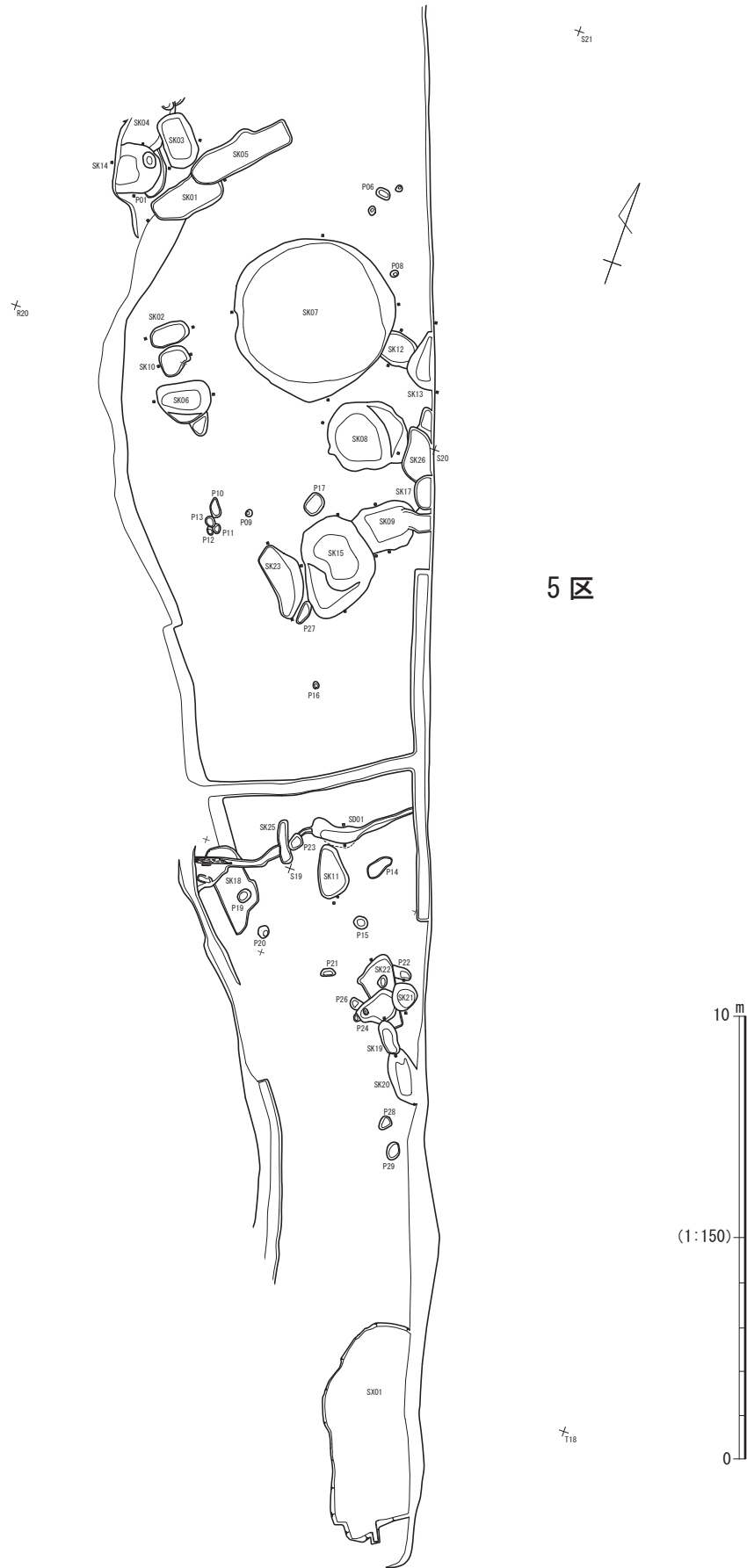
第168図 7区遺構図7(2・3面)



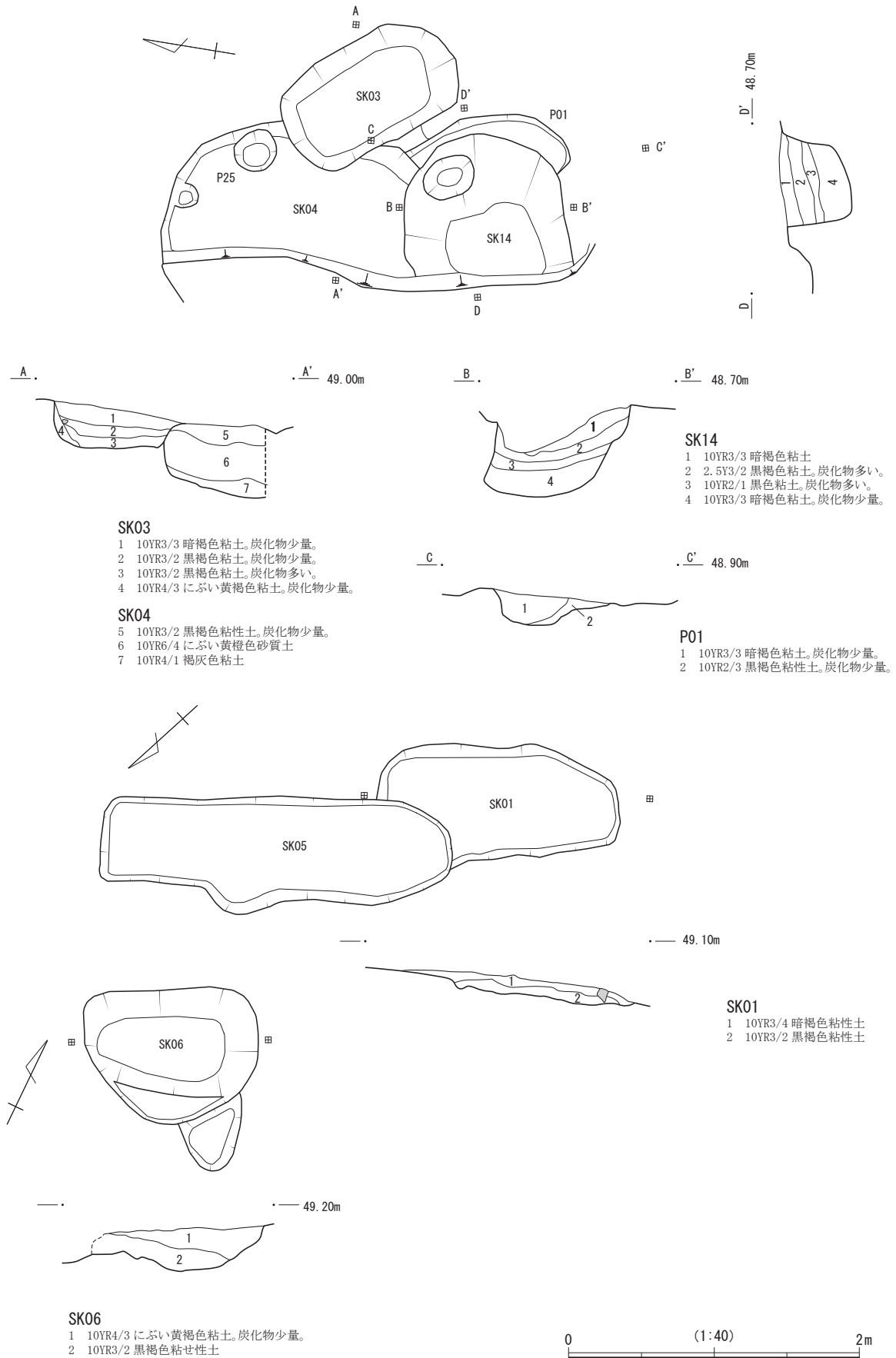
第169図 7区遺構図8 (3・4面)



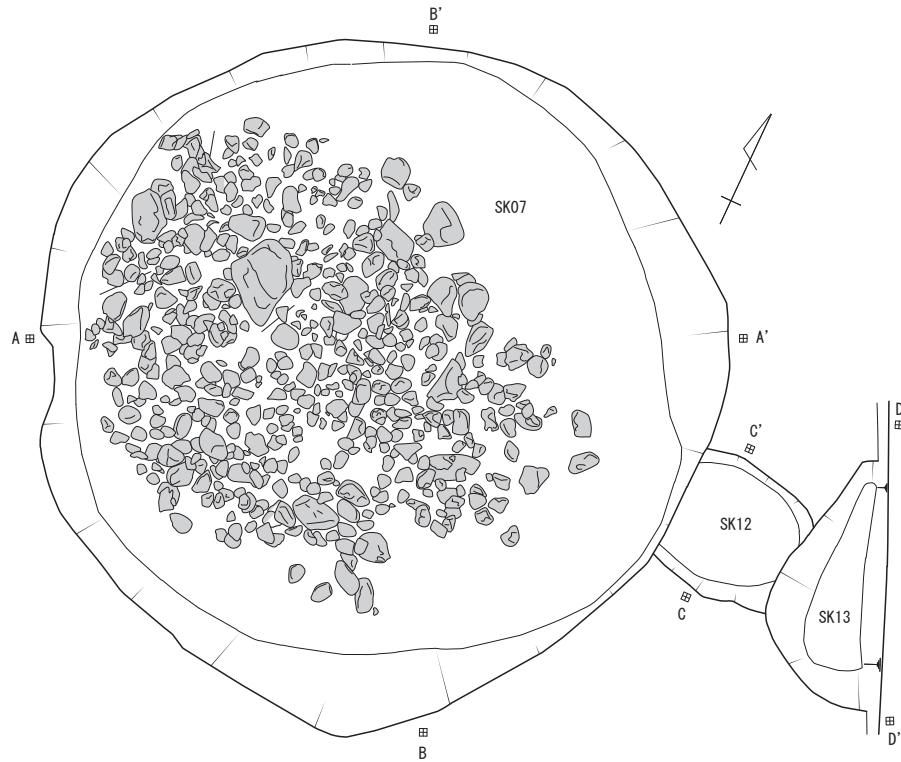
第 170 図 9 区遺構図



第 171 図 5区全体図



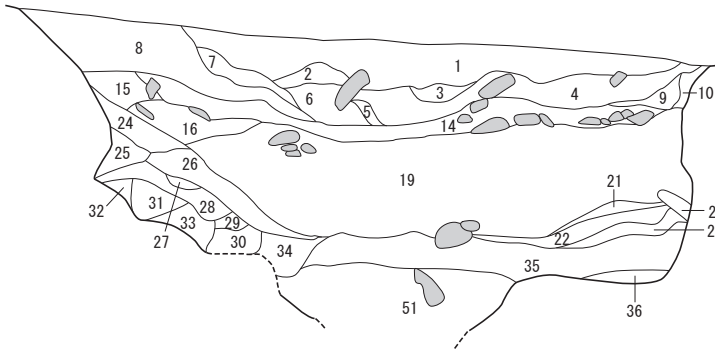
第172図 5区遺構図1



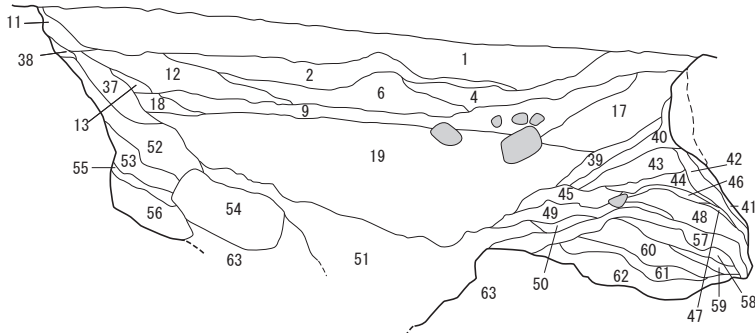
SK07

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘土
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土
- 7 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物多い。
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 10 10YR4/2 灰黄褐色粘土
- 11 10YR4/2 灰黄褐色粘性土
- 12 10YR4/4 褐色粘性土。炭化物少量。
- 13 10YR6/6 明黄褐色粘土
- 14 10YR3/1 黒褐色粘土
- 15 10YR4/3 鈍い黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 16 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物多い。
- 17 10YR3/2 黒褐色粘土
- 18 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土
- 19 10YR4/1 褐色粘土
- 20 7.5GY7/1 明緑灰色シルト
- 21 10YR4/1 褐色粘土
- 22 10YR4/1 褐色粘土。炭化物少量。
- 23 10YR4/1 褐色粘土。炭化物少量。
- 24 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 25 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土
- 26 10YR3/2 黒褐色粘土
- 27 5Y7/3 浅黄色粘土
- 28 10YR4/1 褐色粘性土。炭化物多い。
- 29 10YR6/1 褐色粘性土。炭化物少量。
- 30 10YR4/1 褐色粘性土。炭化物少量。
- 31 10YR5/1 褐色粘性土。炭化物少量
- 32 5Y7/3 浅黄色粘土
- 33 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土
- 34 10YR4/1 褐色粘土
- 35 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物少量。
- 36 5GY7/1 明オリーブ灰色シルト
- 37 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土。炭化物少量。
- 38 10YR5/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 39 10YR3/1 黒褐色粘土。炭化物少量。
- 40 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 41 10YR4/1 褐色粘土。炭化物少量。
- 42 10YR5/1 褐色粘土
- 43 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土
- 44 10YR6/6 明黄褐色粘土
- 45 10YR4/1 褐色粘土。炭化物多い。
- 46 10YR4/1 褐色粘土
- 47 10YR4/1 褐色粘性土。炭化物多い。
- 48 10YR6/1 褐色粘性土
- 49 10YR5/1 褐色粘性土。炭化物少量。
- 50 10YR5/1 褐色粘性土
- 51 10YR3/1 黒褐色粘性土
- 52 10YR4/2 灰黄褐色粘土
- 53 10YR2/1 黒色粘土。炭化物少量。
- 54 7.5GY7/1 明黄緑灰色
- 55 2.5Y7/4 浅黄色粘土
- 56 10YR2/1 黒色粘性土。炭化物少量。
- 57 7.5GY7/1 明緑灰色粘性土
- 58 10YR6/1 褐色粘性土
- 59 7.5GY7/1 明緑灰色シルト
- 60 10YR6/1 褐色粘性土
- 61 10YR4/1 褐色粘性土
- 62 2.5Y6/3 にぶい黄色粘性土
- 63 5B7/1 明青灰色粘土

A . . . A' 49.60m



B . . . B' 49.50m



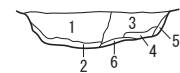
D . . . D' 49.90m



SK13

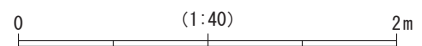
- 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。
- 2 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。
- 3 10YR2/1 黒色粘土。炭化物少量。
- 4 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。

C . . . C' 49.60m

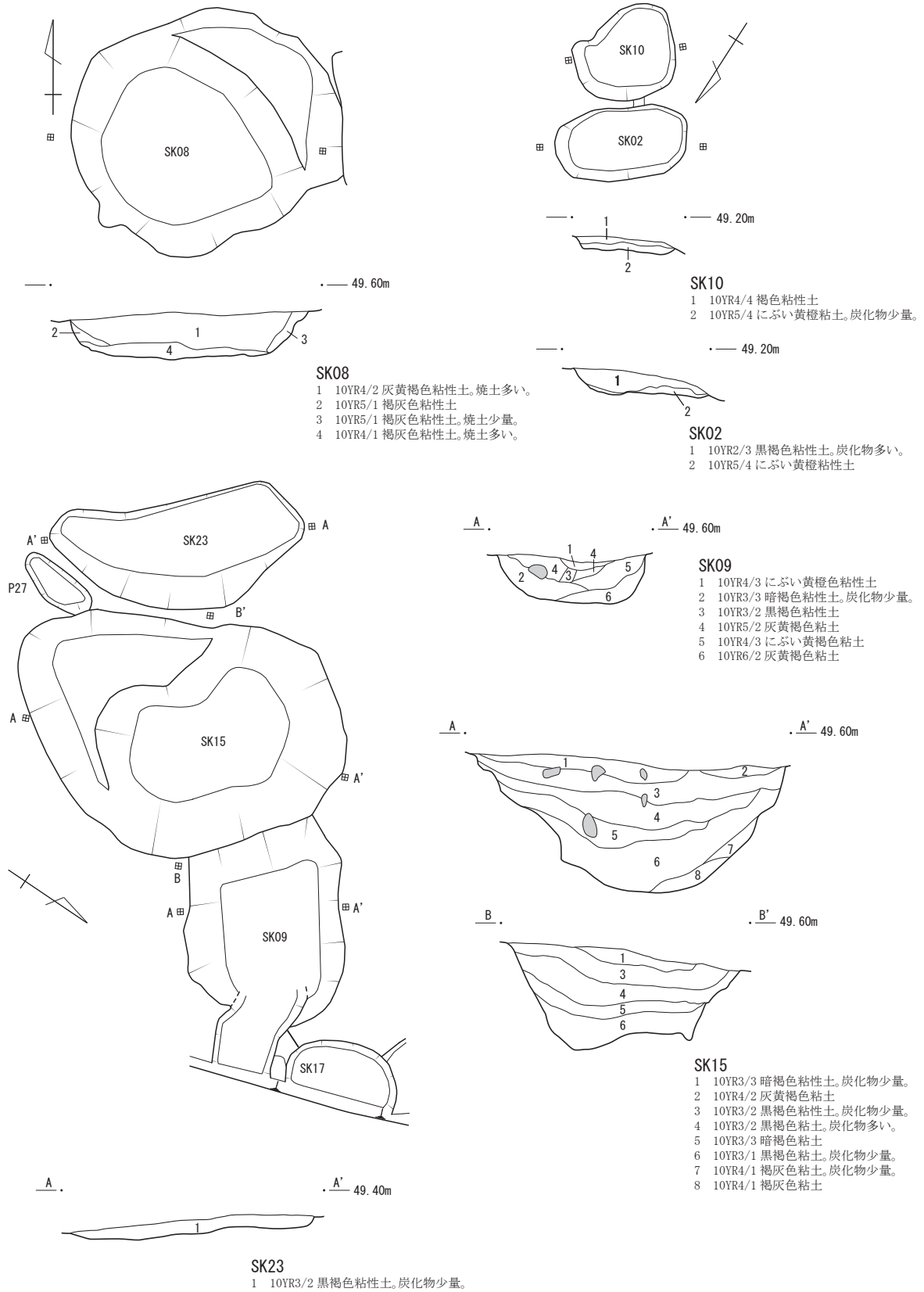


SK12

- 1 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物多い。
- 2 10YR6/3 にぶい黄褐色粘土
- 3 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
- 5 10YR4/3 にぶい黄色粘土
- 6 10YR6/2 灰黄色粘土

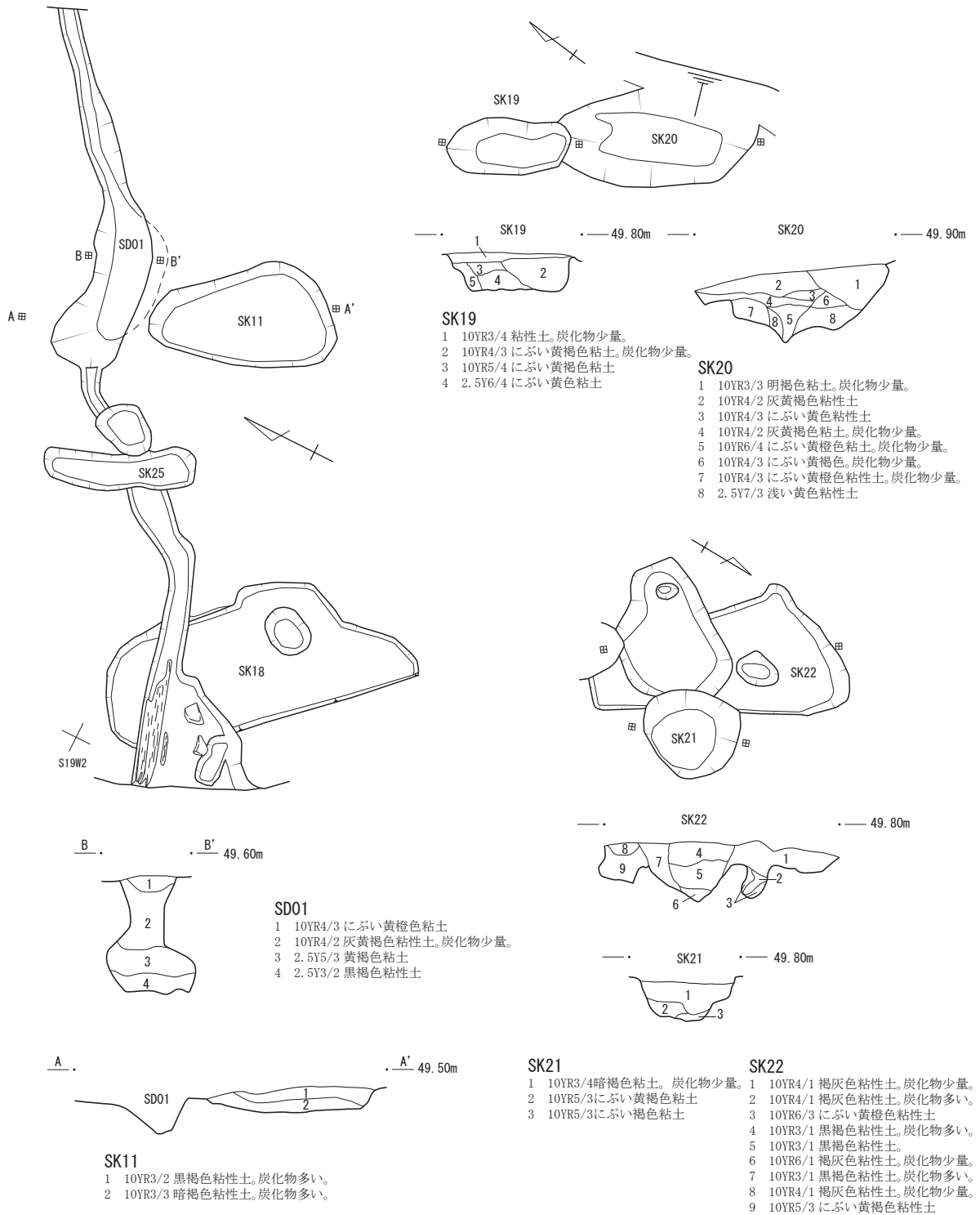


第 173 図 5 区遺構図 2

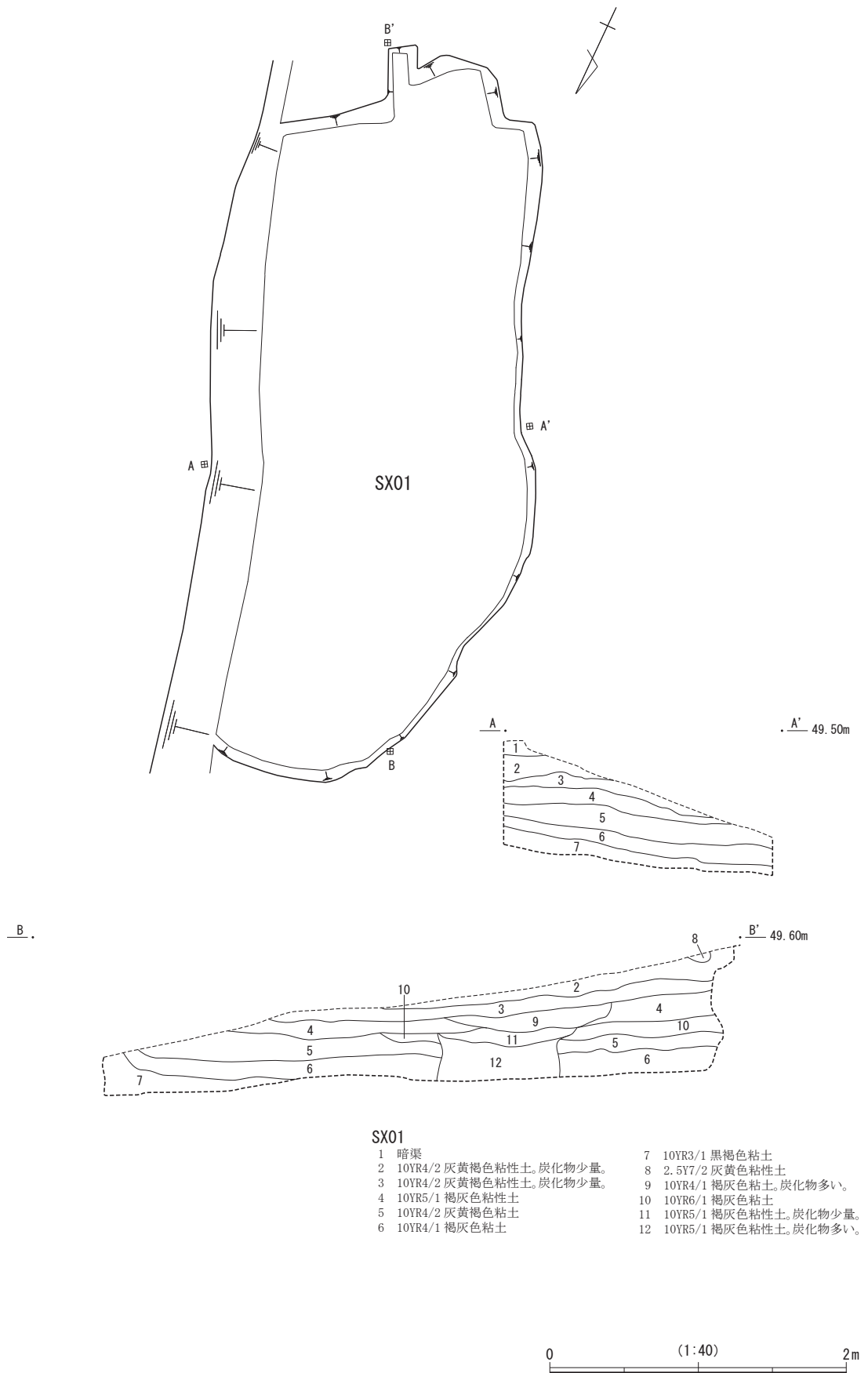


第 174 図 5 区遺構図 3

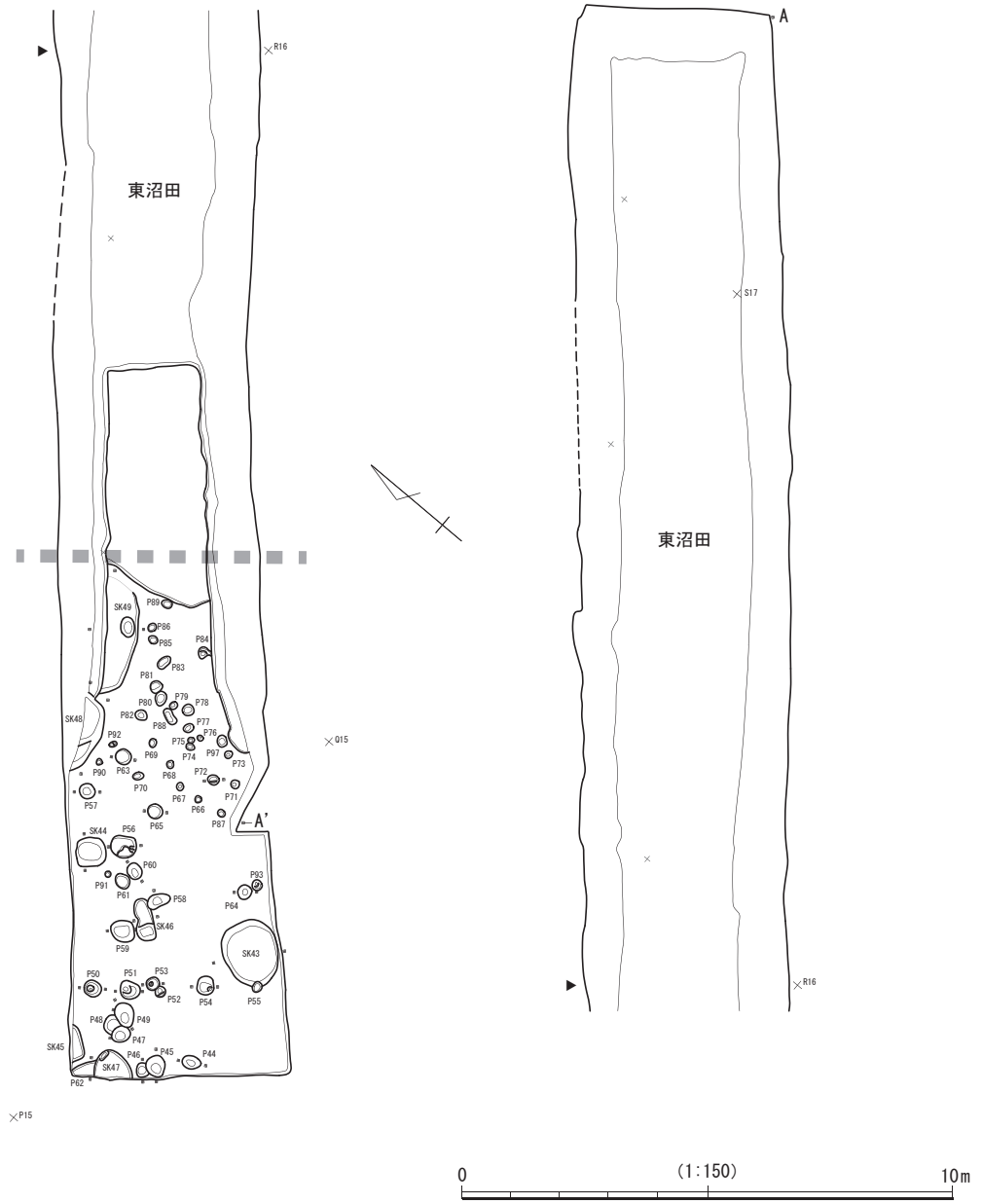
第3章 調査の成果



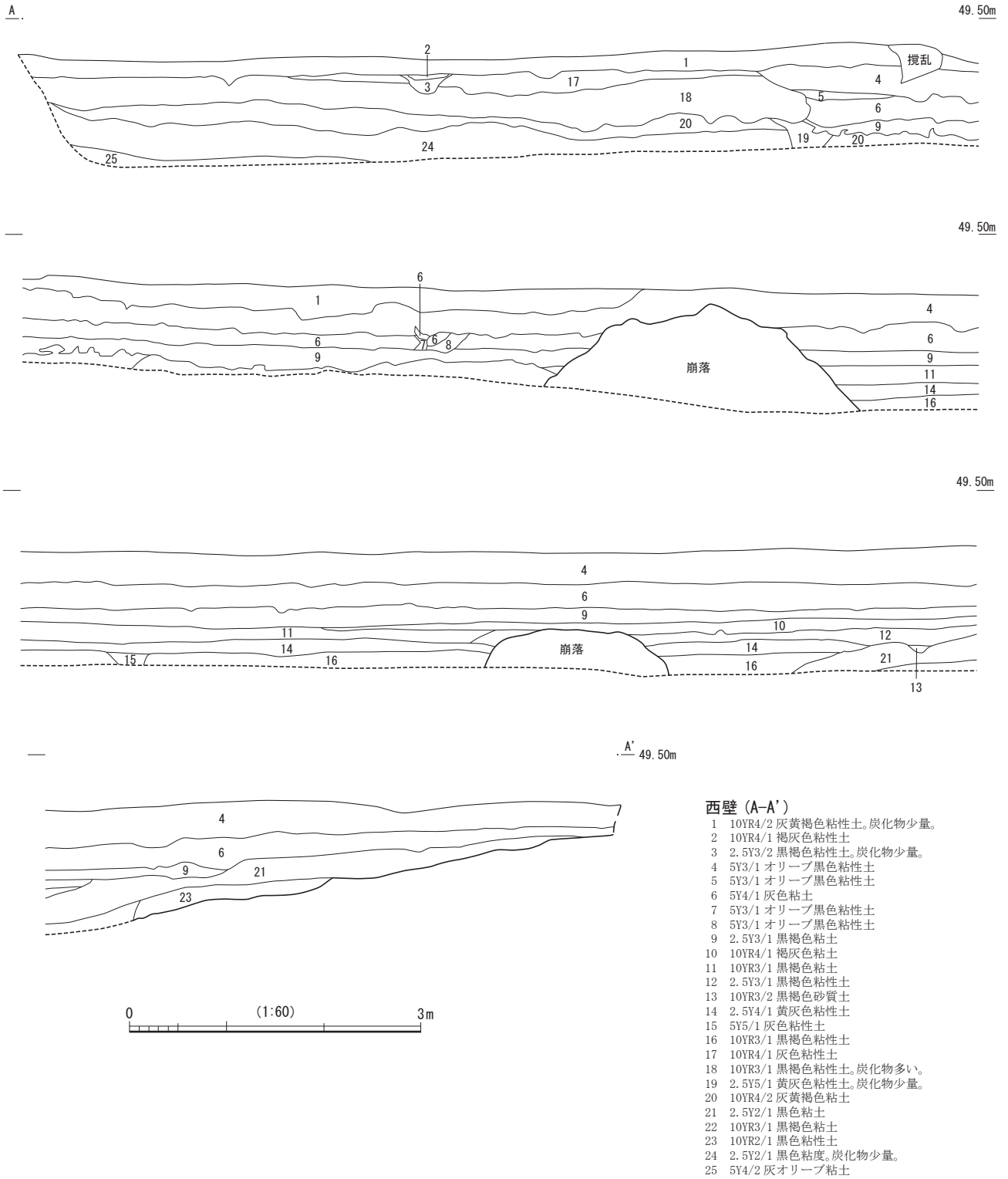
第175図 5区遺構図4



第176図 5区遺構図5

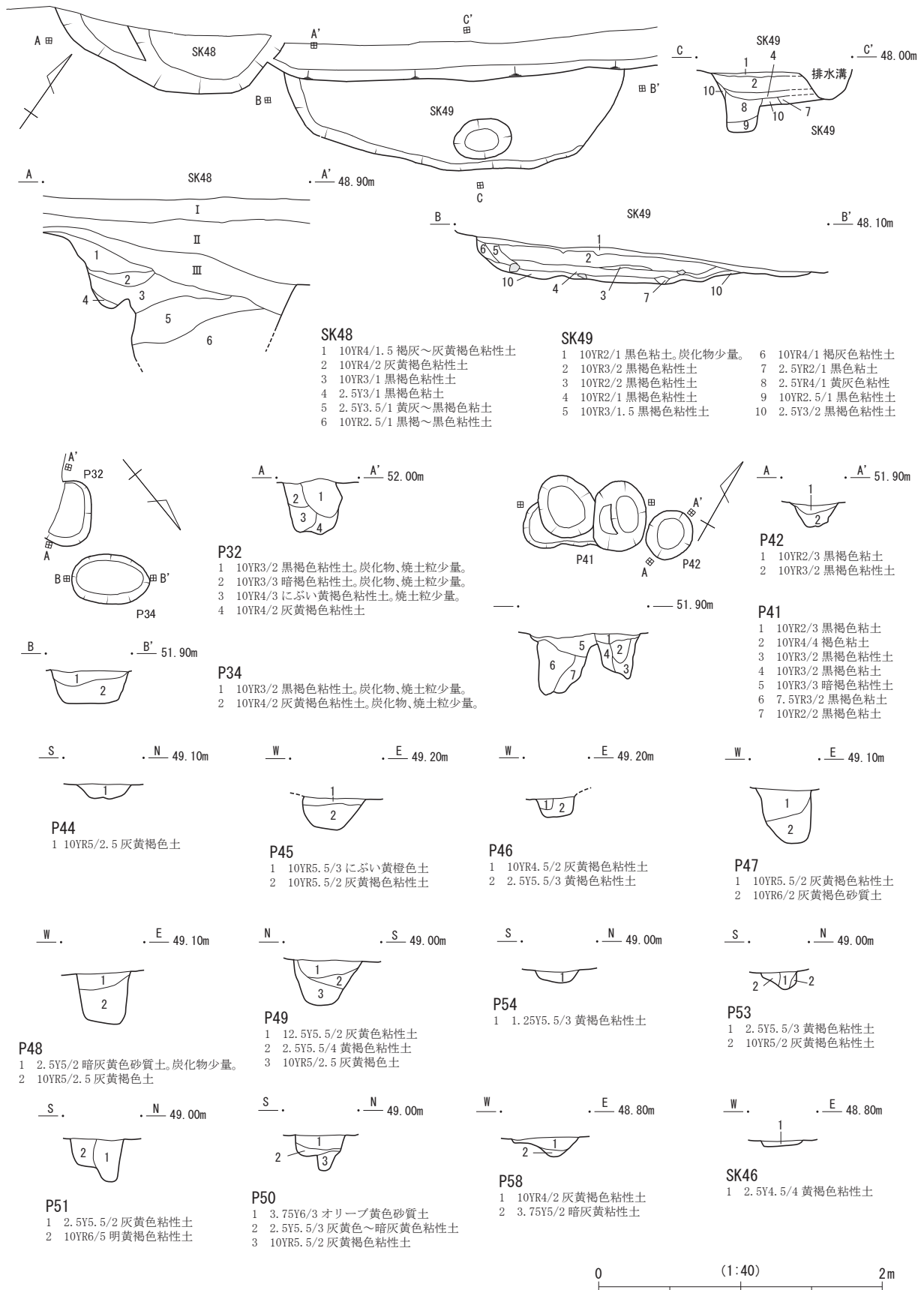


第177図 7区東沼田全体図

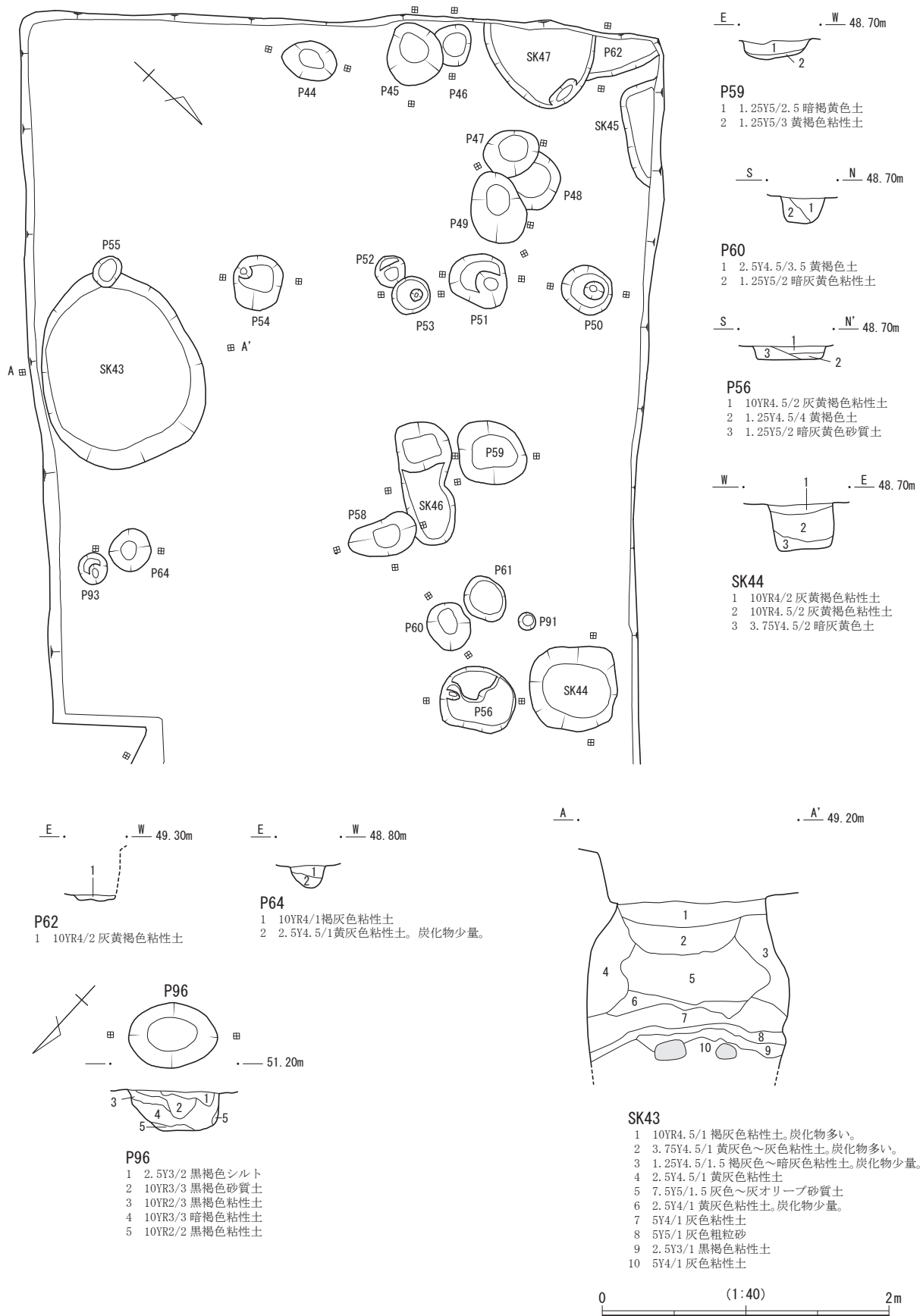


第178図 7区東沼田土層図

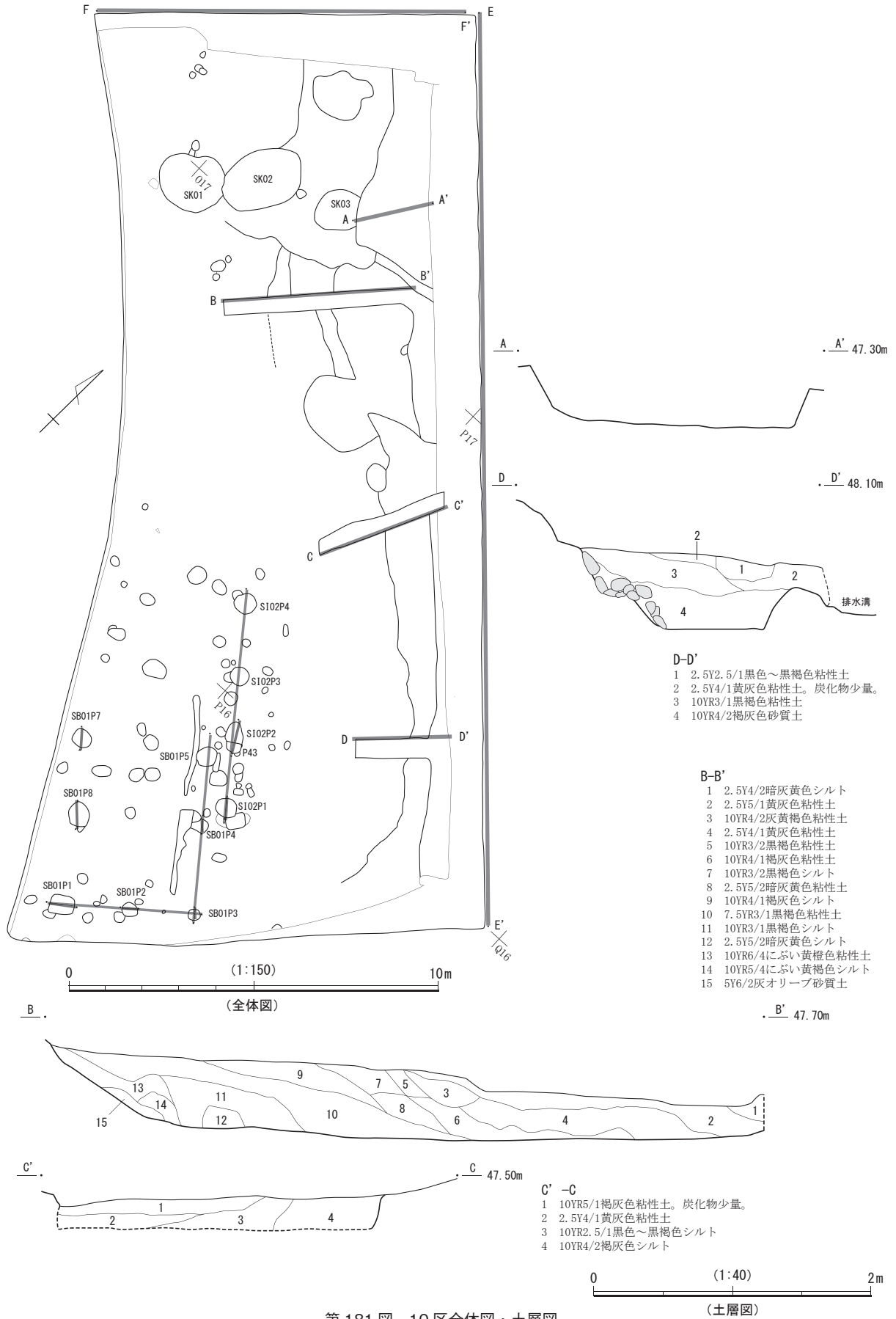
第3章 調査の成果



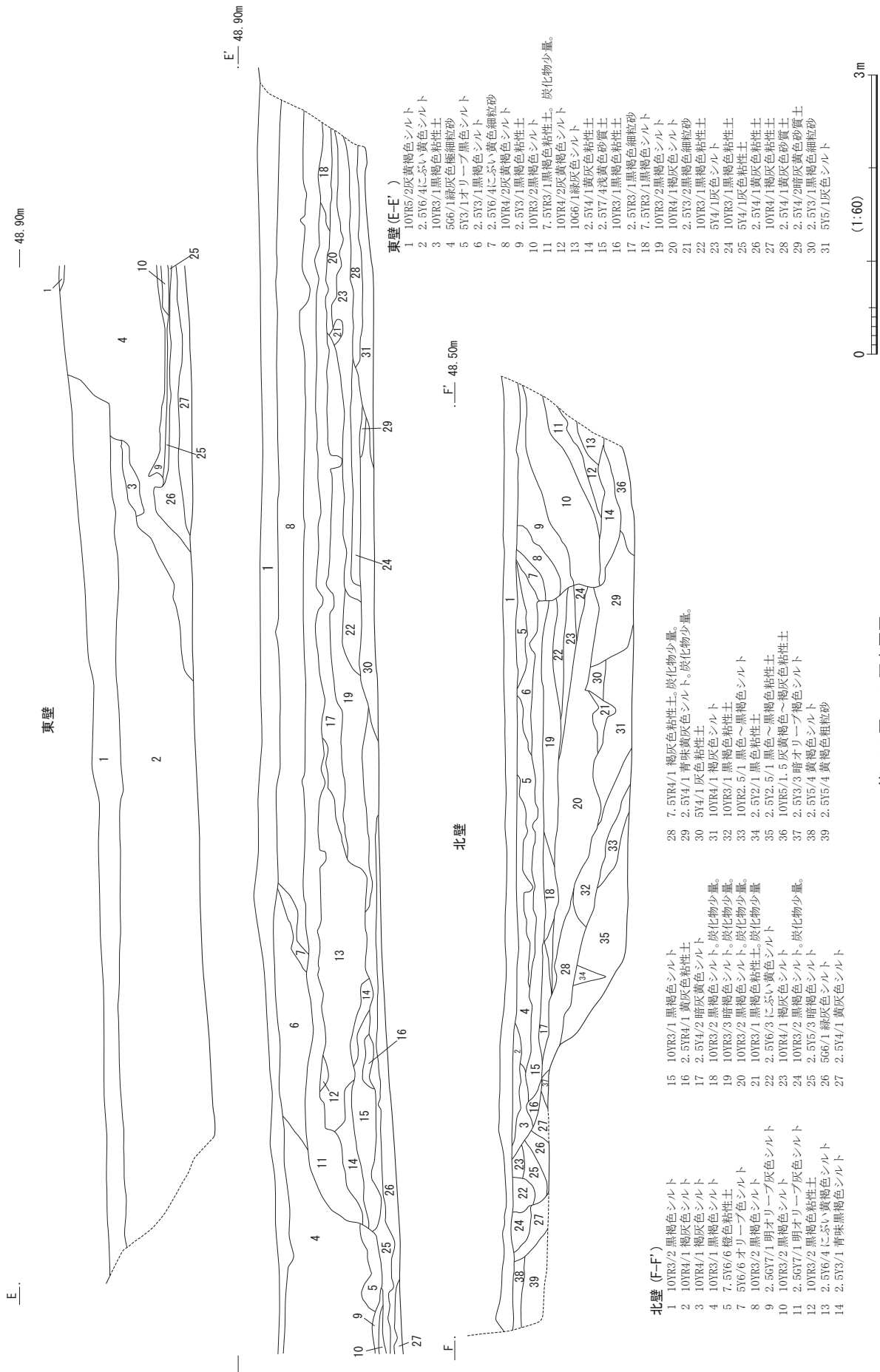
第 179 図 7 区東沼田遺構図 1 (西岸 1 面)



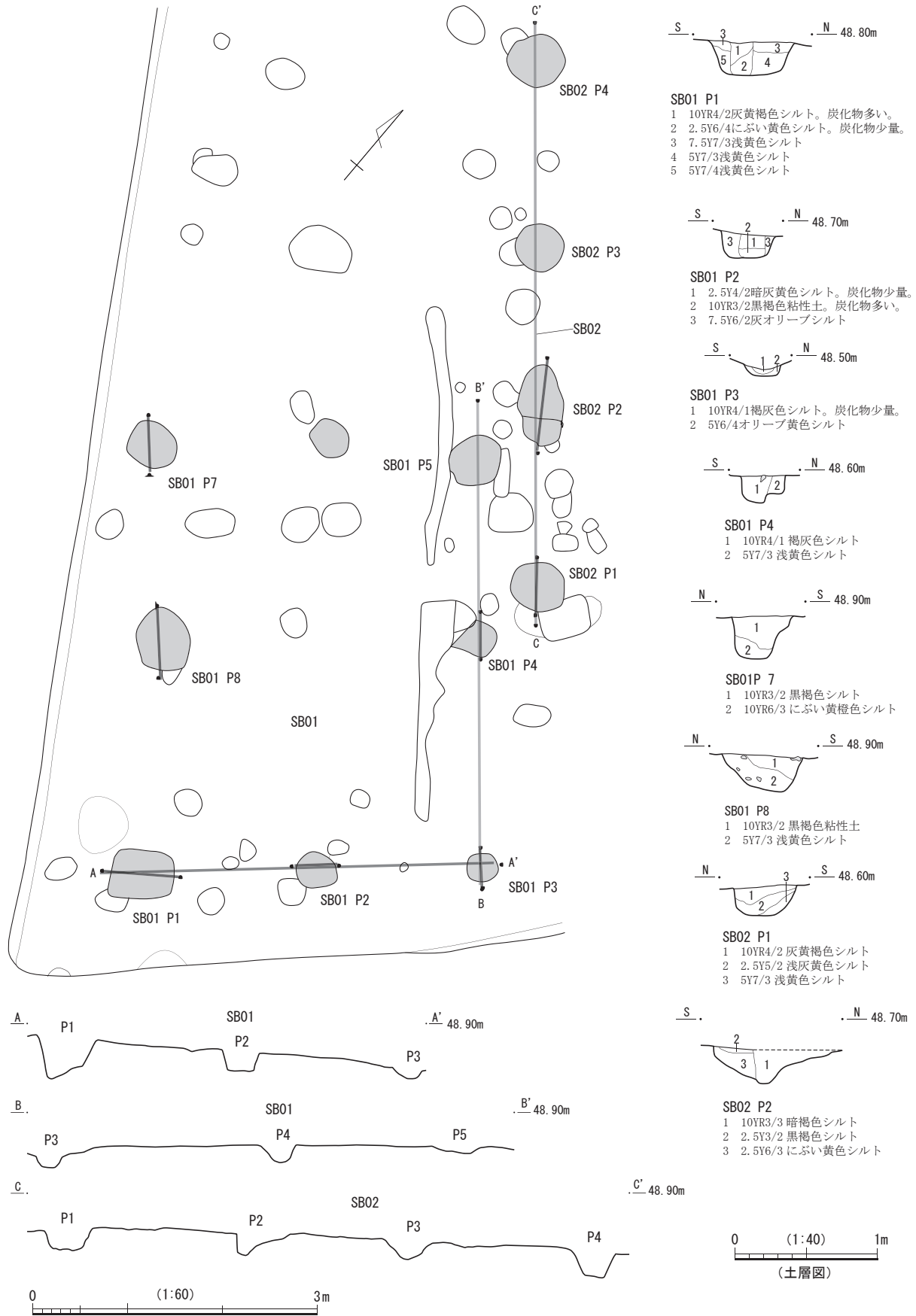
第 180 図 7 区東沼田遺構図 2 (西岸 1 面)



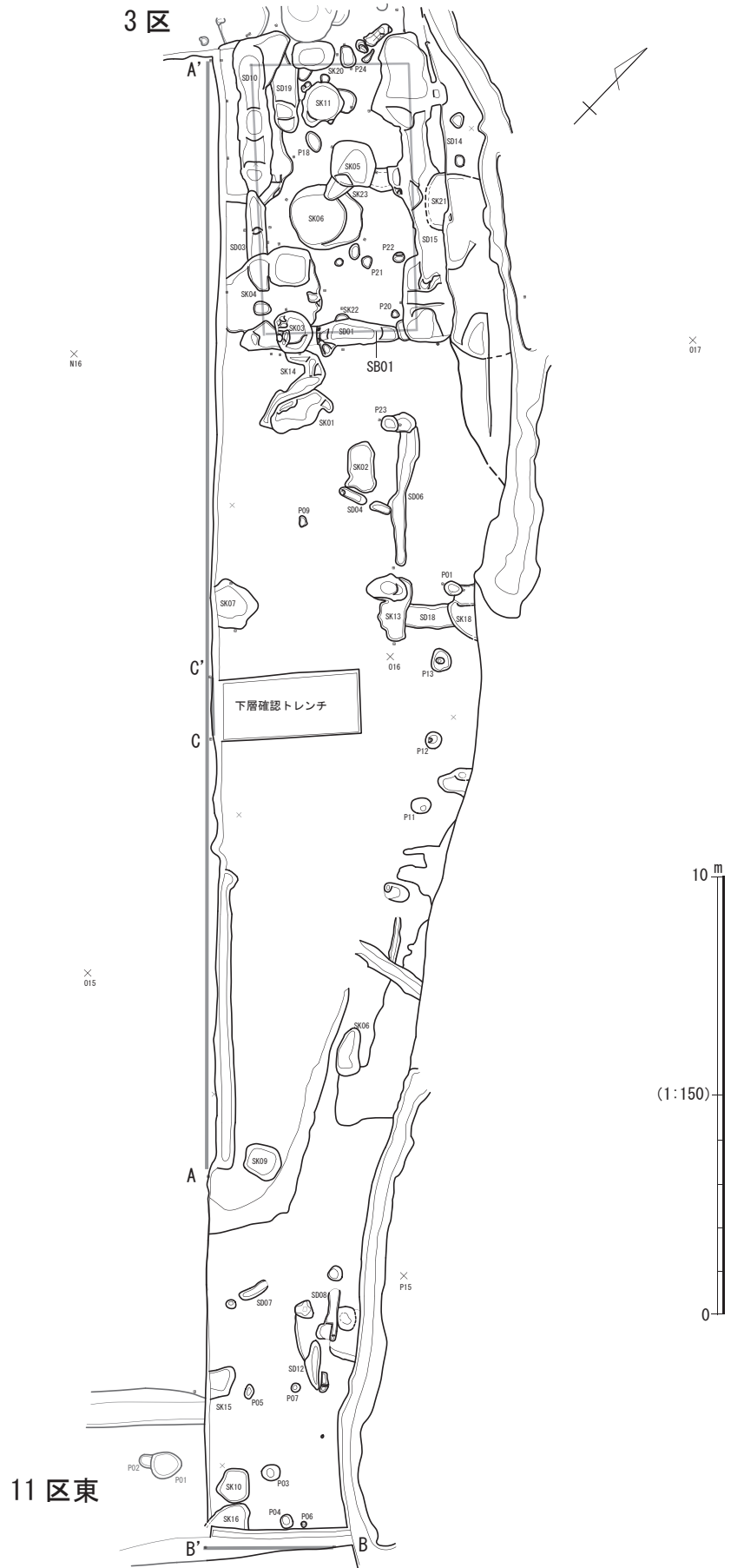
第181図 10区全体図・土層図



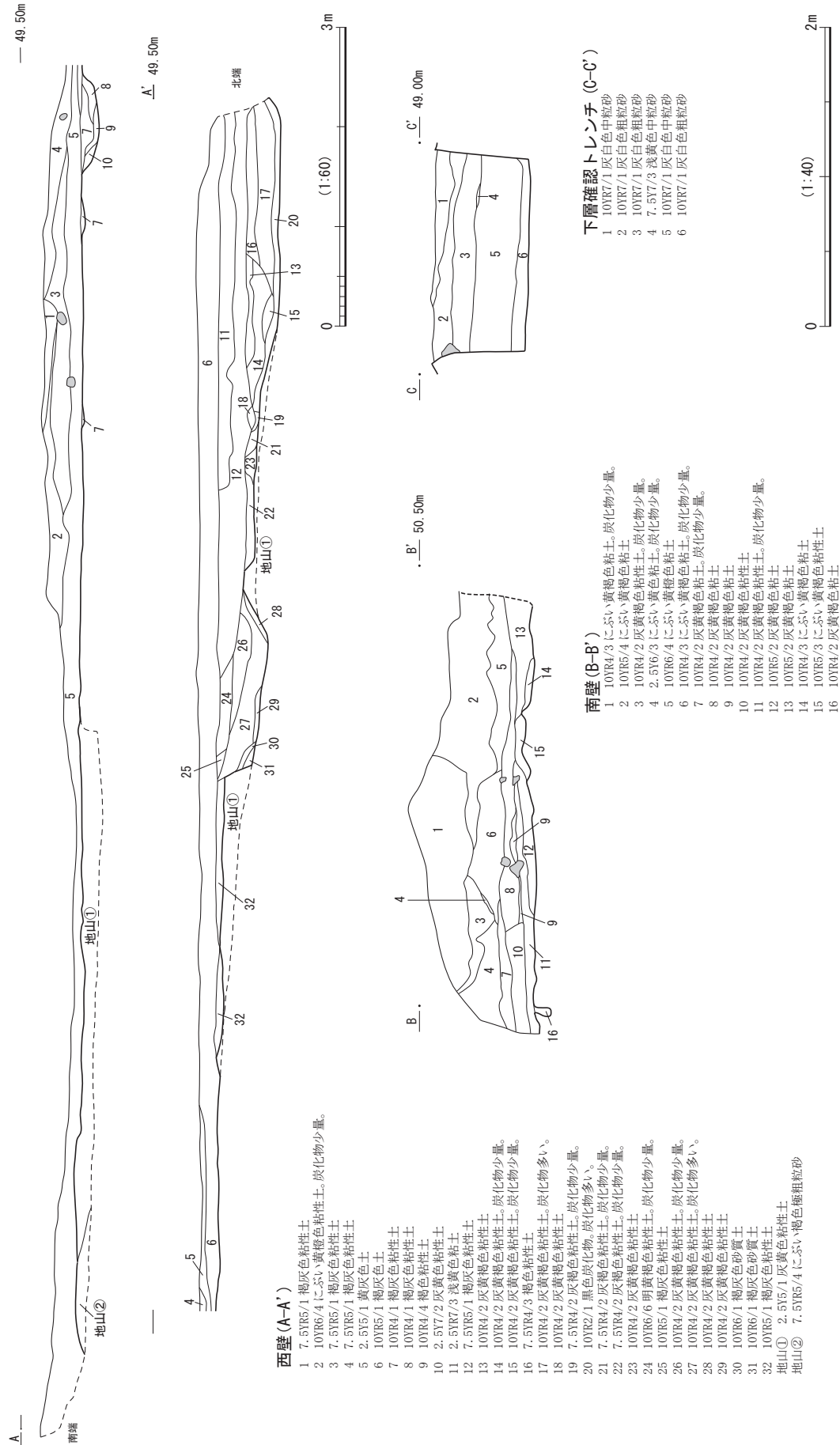
第182図 10区土層図



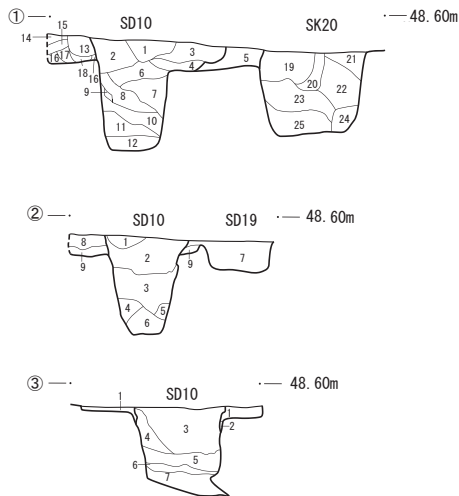
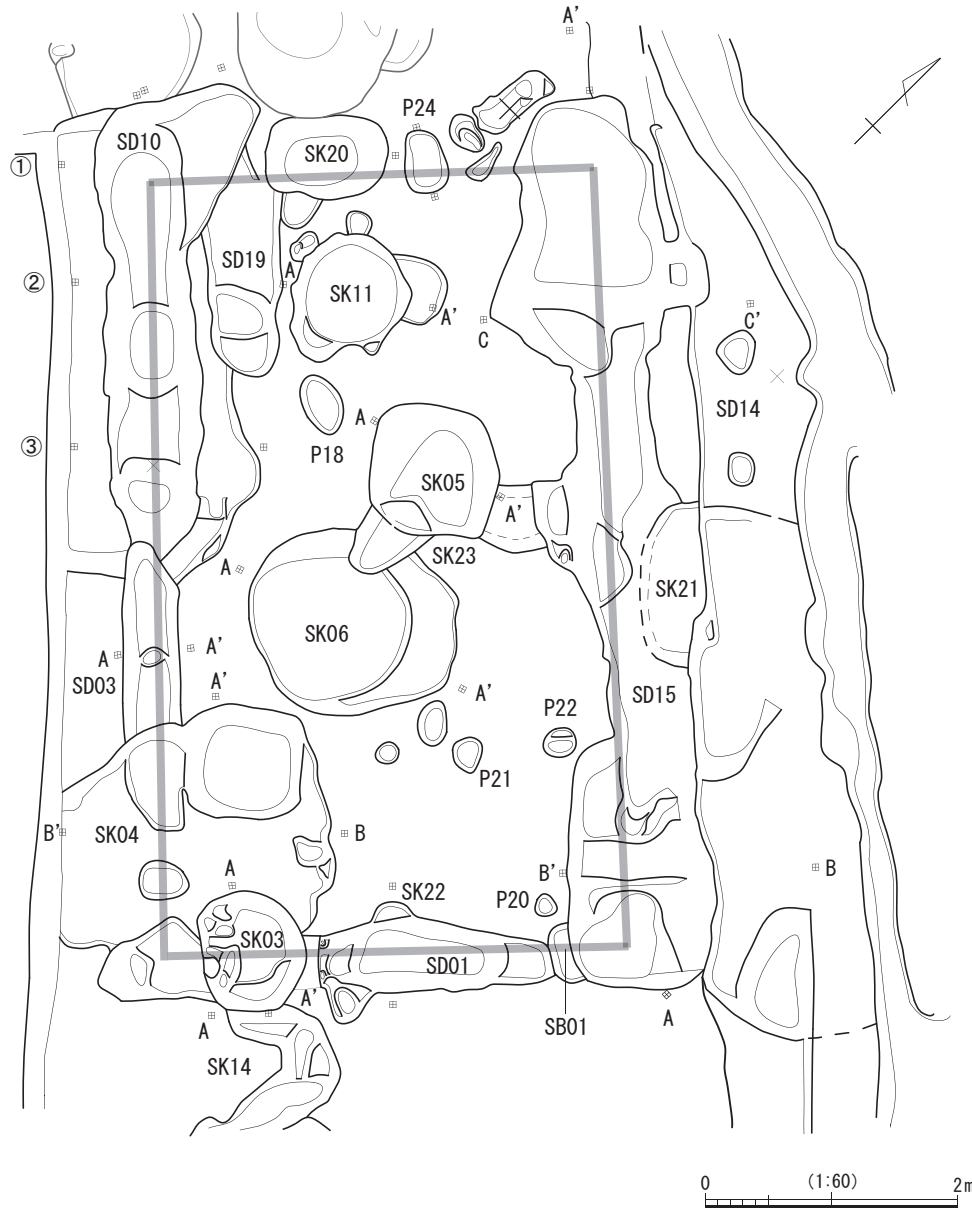
第 183 図 10 区遺構図



第184図 6区全体図



第185図 6区土層図



SD10・SD19 ①

- 1 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
- 2 10YR5/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 5 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。
- 6 10YR3/3 暗褐色粘土。炭化物少量。
- 7 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土
- 9 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土
- 10 12.5Y4/1 黄灰色粘性土。炭化物少量。
- 11 5Y4/1 灰色粘性土。炭化物多い。
- 12 5Y5/2 灰オリブ色粘性土。炭化物少量。
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土炭化物少量。
- 14 10YR3/4 暗褐色粘土。炭化物少量。
- 15 10YR6/8 明黄褐色粘土
- 16 10YR2/1 黒色シルト。炭化物多い。
- 17 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物少量。
- 18 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性土
- 19 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
- 20 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物少量。
- 21 10YR3/3 暗褐色粘土。炭化物少量。
- 22 10YR5/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 23 2.5Y5/2 暗灰黄色粘性土
- 24 2.5Y5/1 灰色粘性土
- 25 10YR6/2 灰褐色粘性土

SD10・SD19 ②

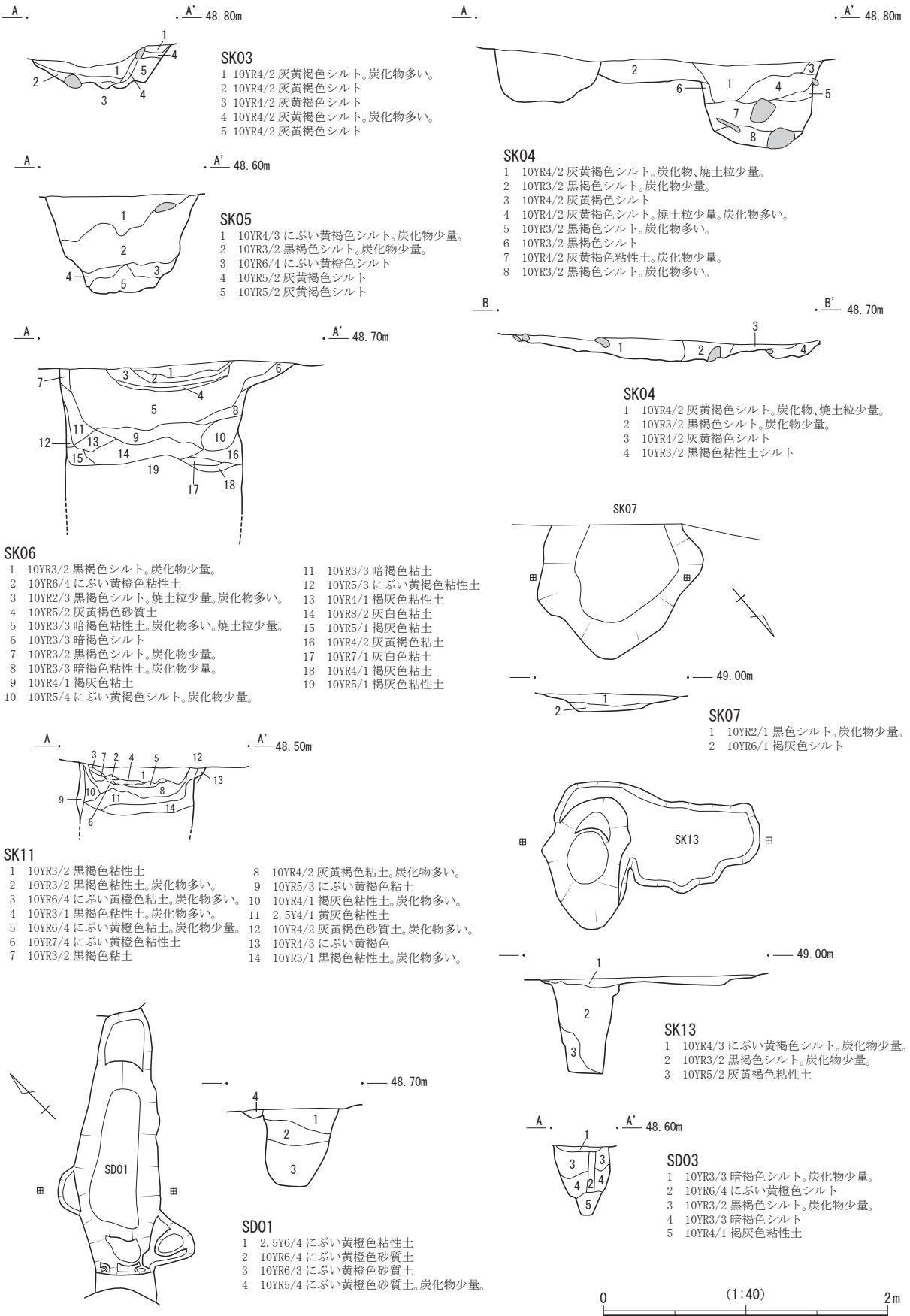
- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 2 10YR5/6 黄褐色粘土。炭化物少量。
- 3 10YR2/3 黒褐色粘土。炭化物多い。
- 4 10YR6/2 灰黄褐色シルト
- 5 10YR7/3 にぶい黄褐色砂質土
- 6 10YR 灰白色細粒砂。炭化物少量。
- 7 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物少量。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘性土
- 9 10YR2/1 黒色シルト。炭化物少量。

SD10・SD19 ③

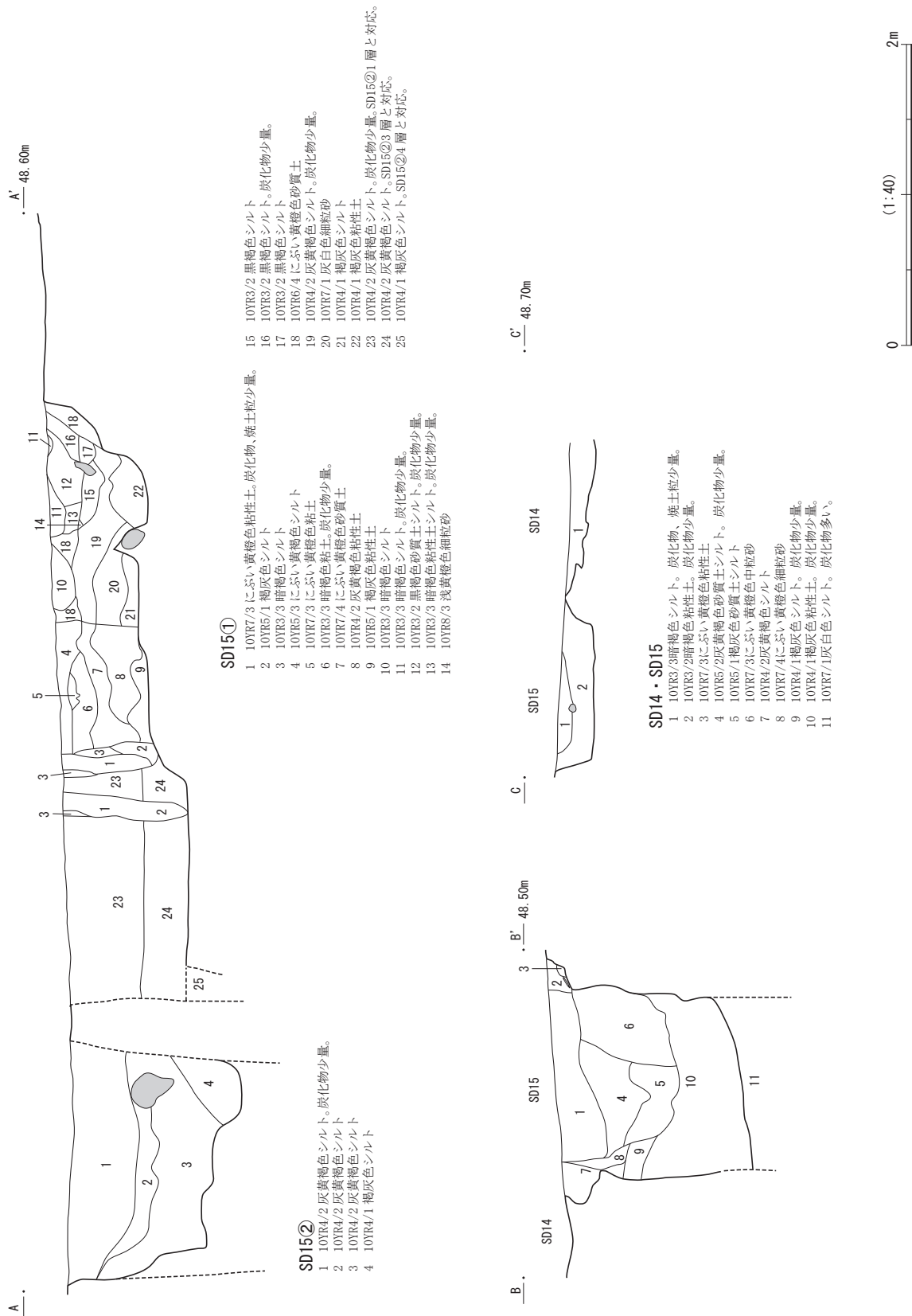
- 1 10YR3/3 黒褐色粘性土。炭化物多い。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 3 10YR6/2 灰黄褐色粘性土。炭化物多い。
- 4 2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
- 5 10YR4/1 褐灰色シルト。炭化物多い。
- 6 10YR7/2 にぶい黄色砂質土
- 7 10YR5/1 褐灰色シルト。炭化物少量。

第 186 図 6 区遺構図 1

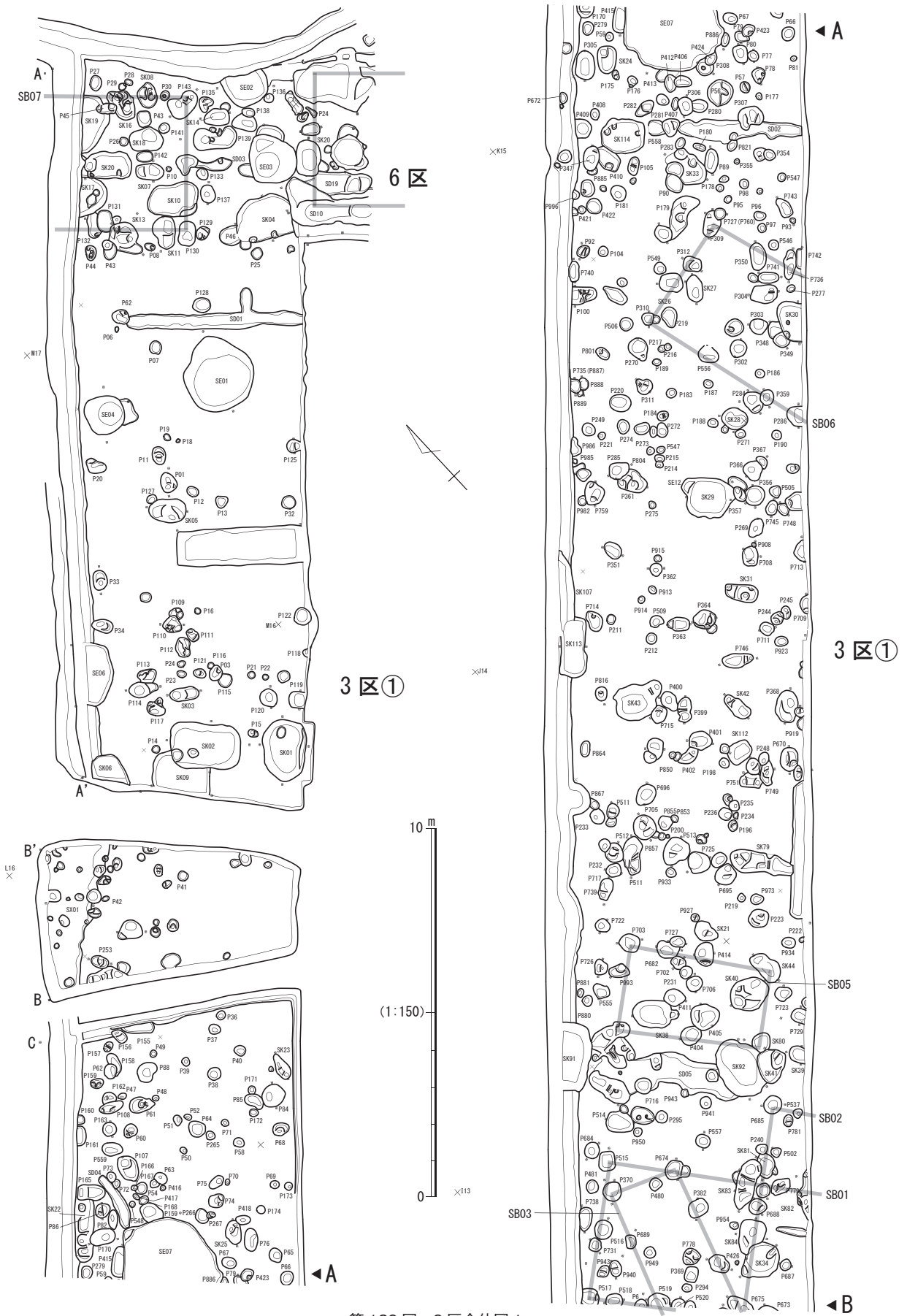
第3章 調査の成果

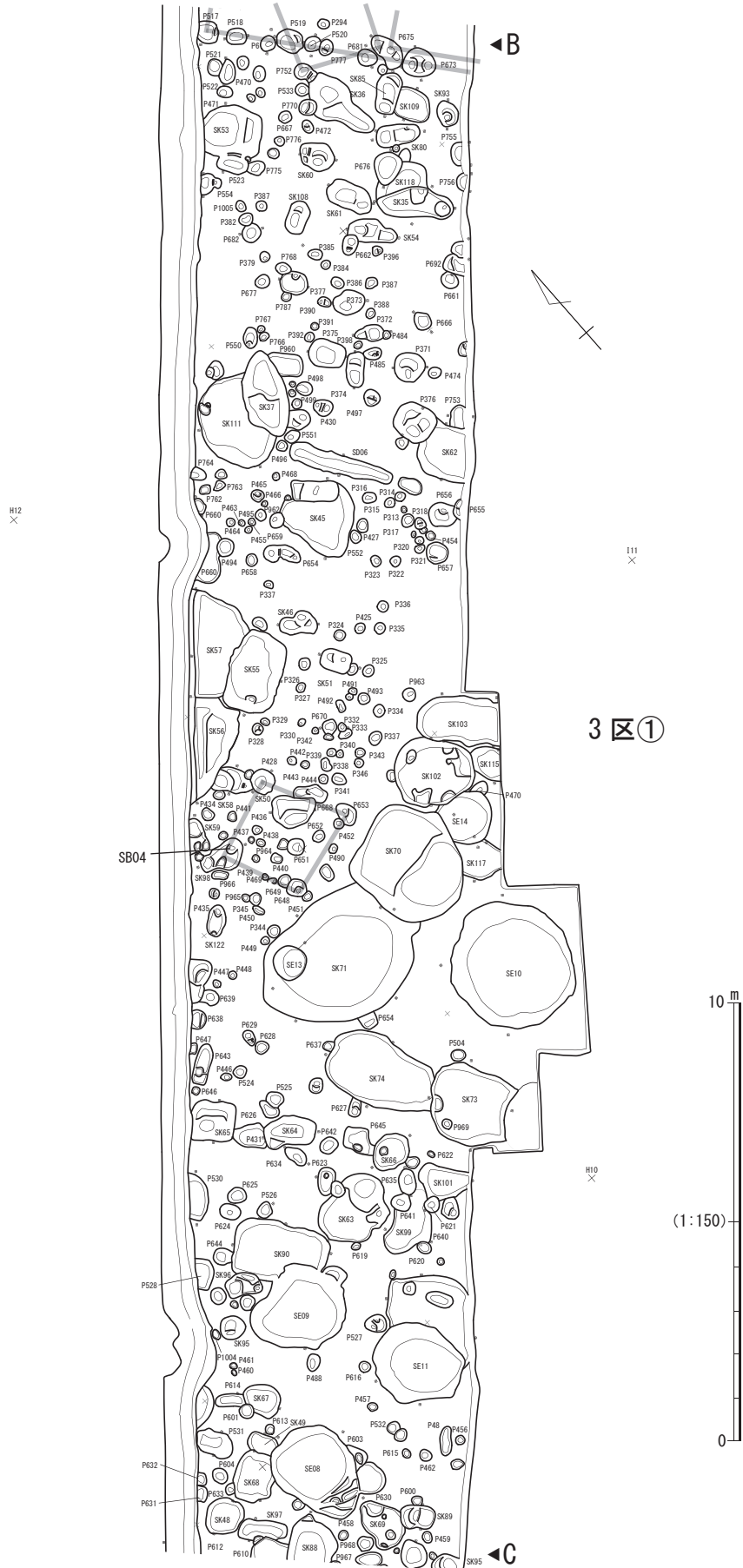


第 187 図 6 区遺構図 2

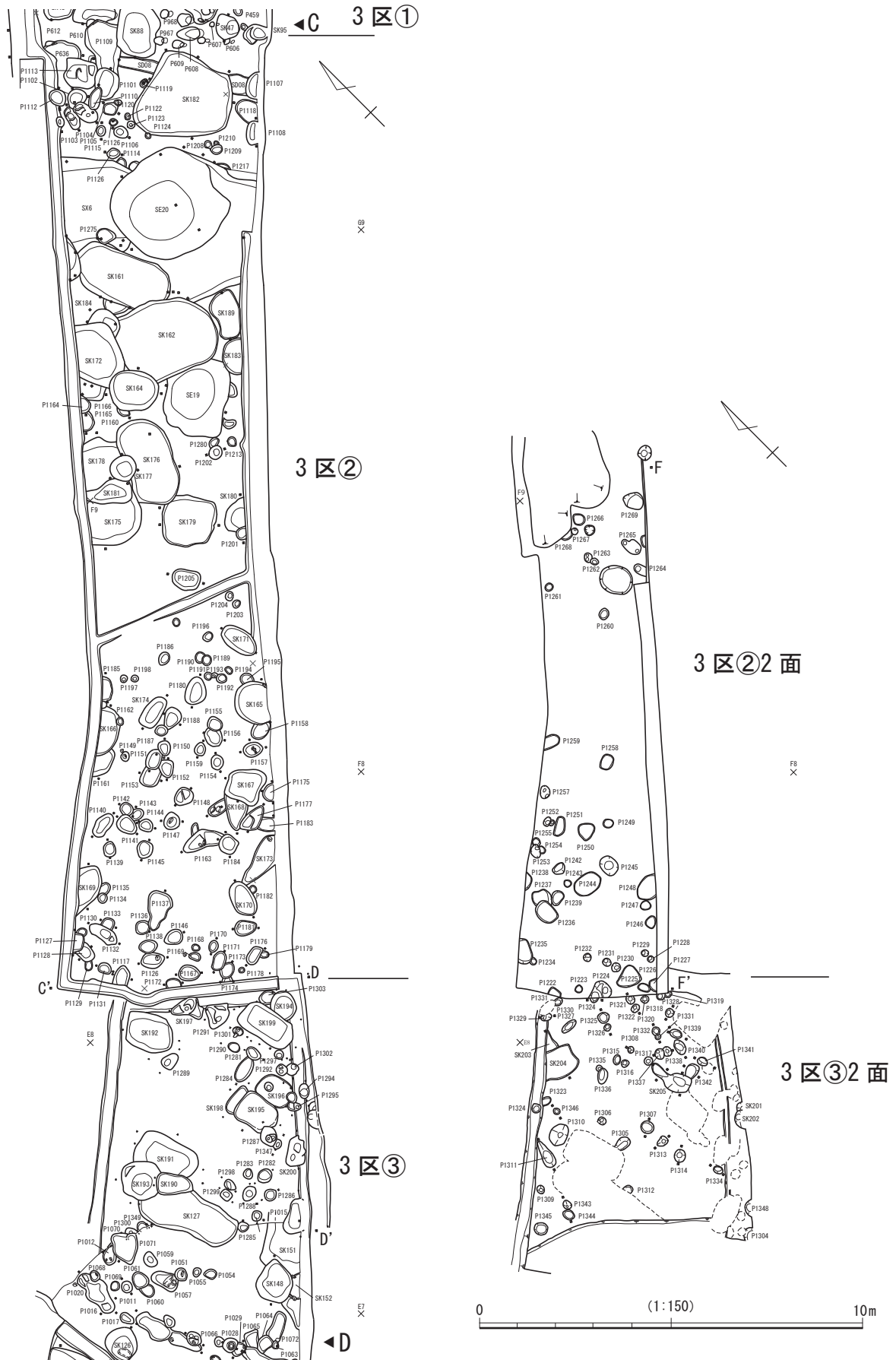


第188図 6区遺構図3

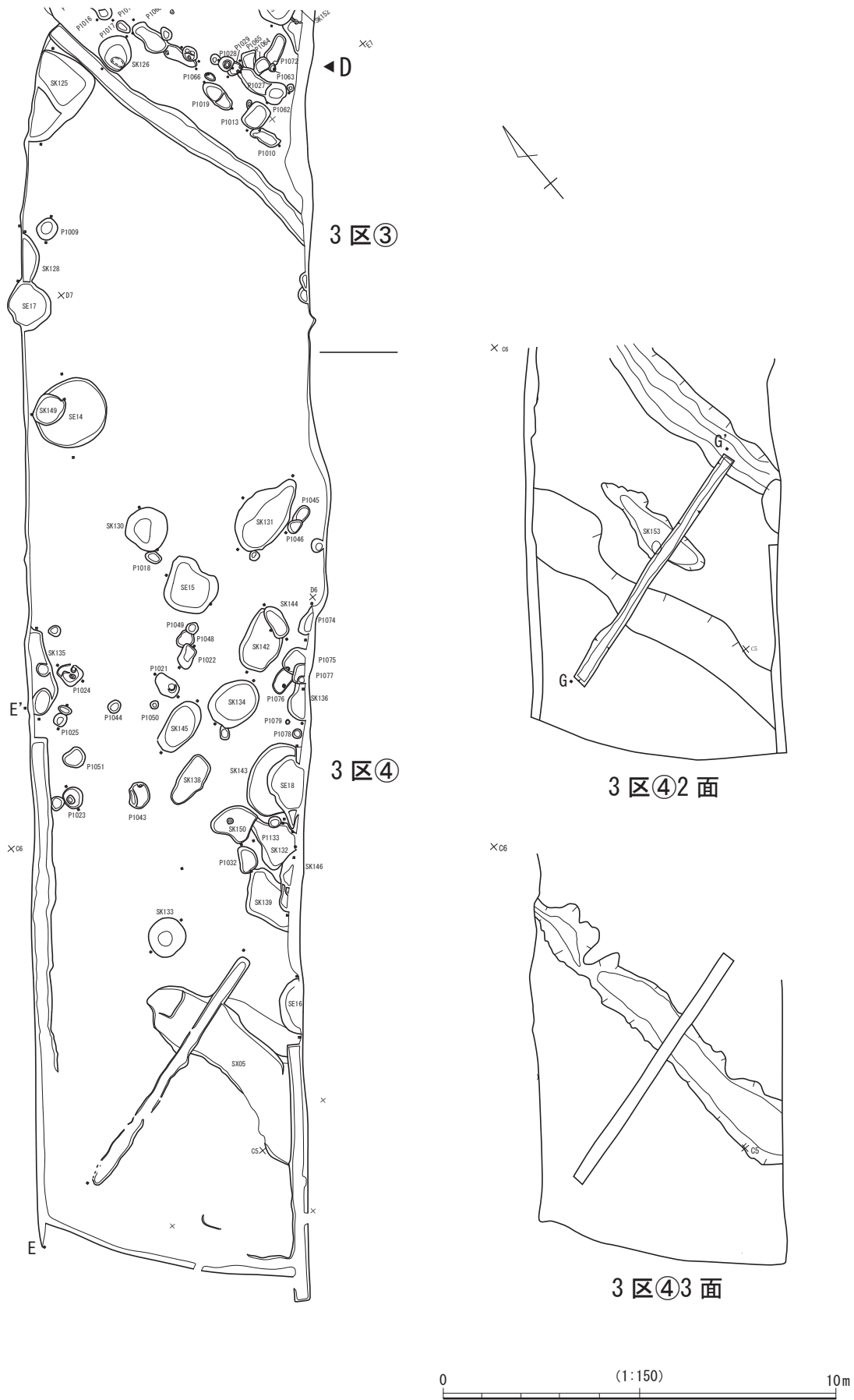




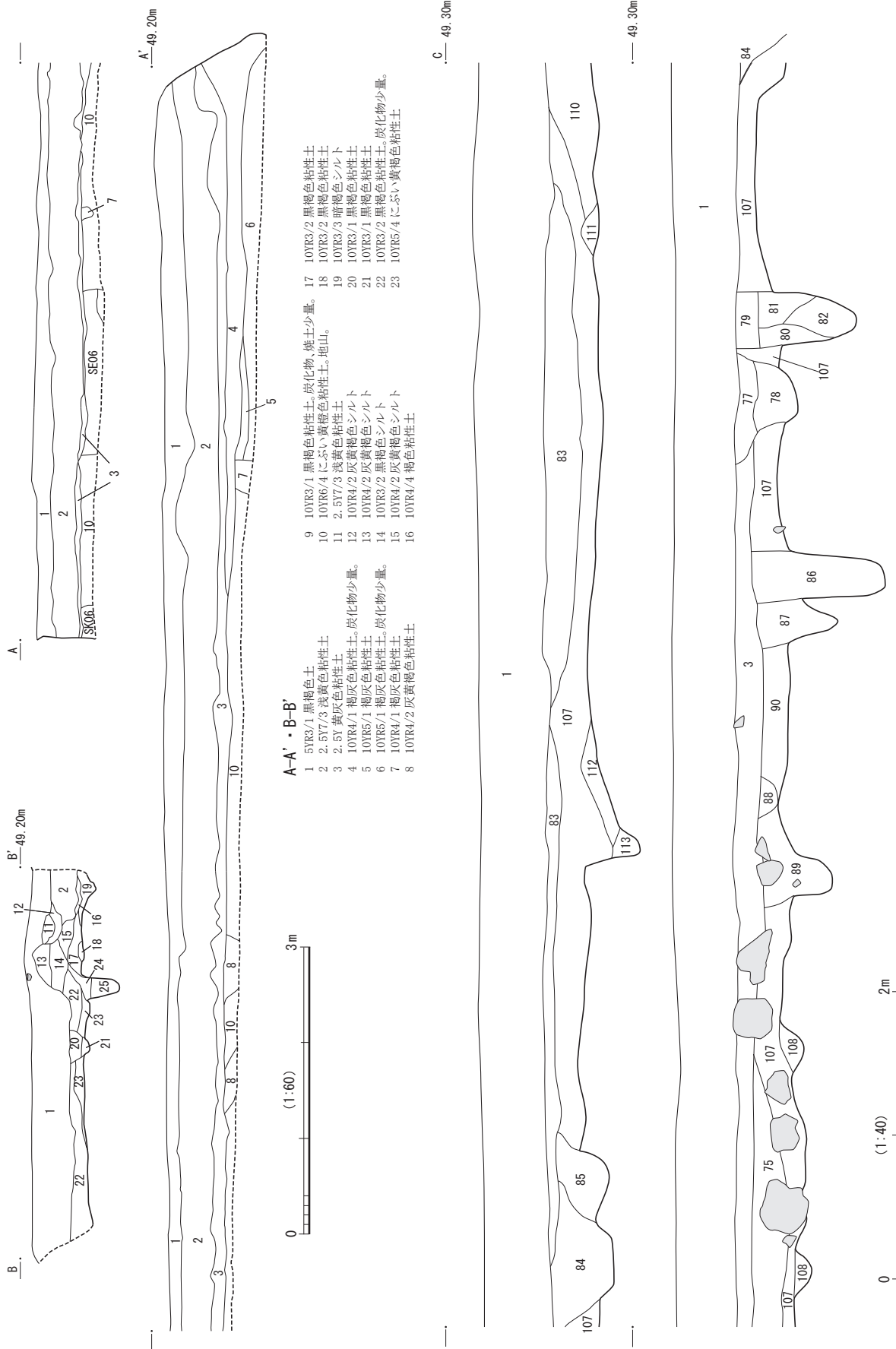
第190図 3区全体図2



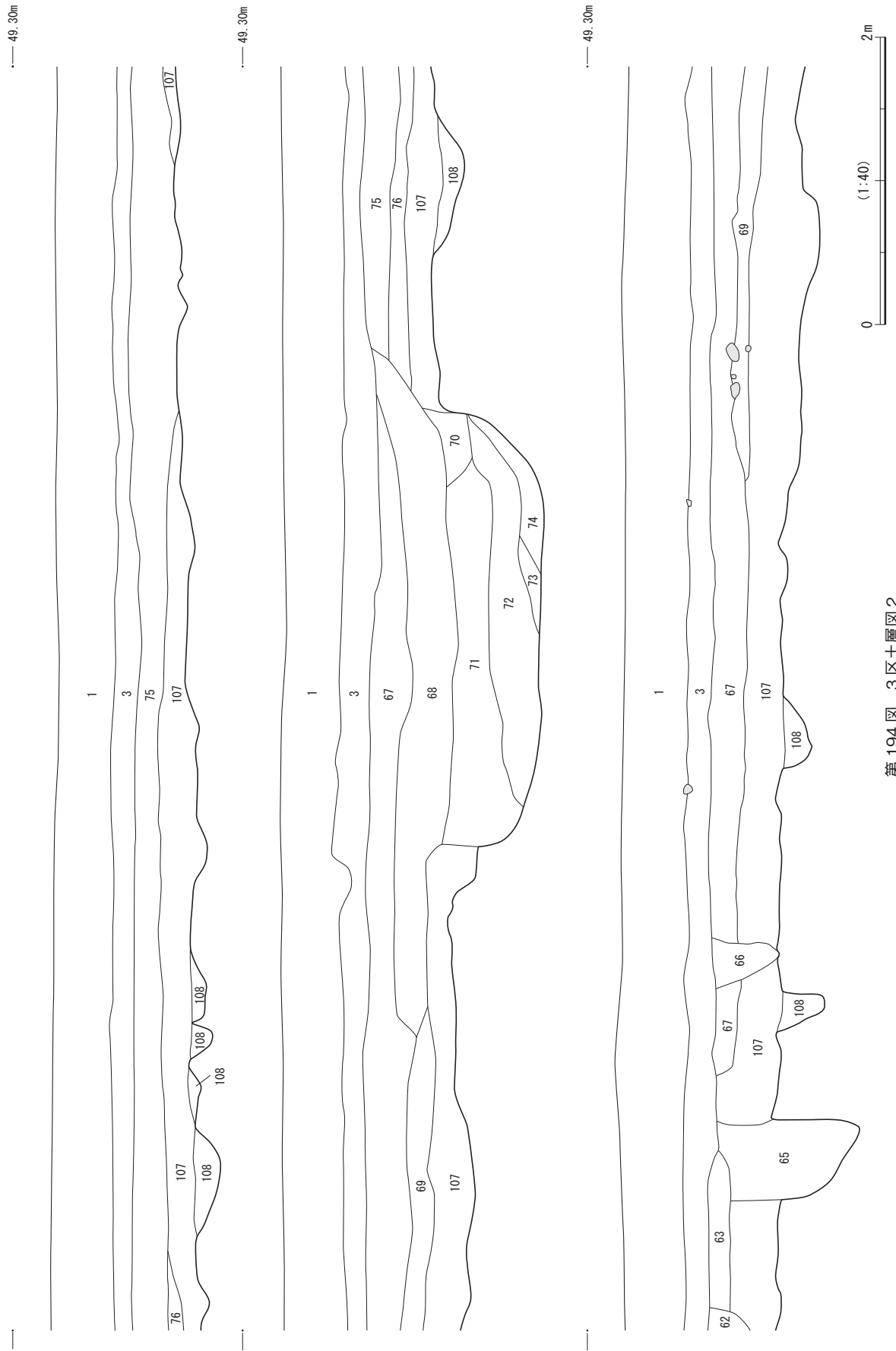
第191図 3区全体図3



第192図 3区全体図4

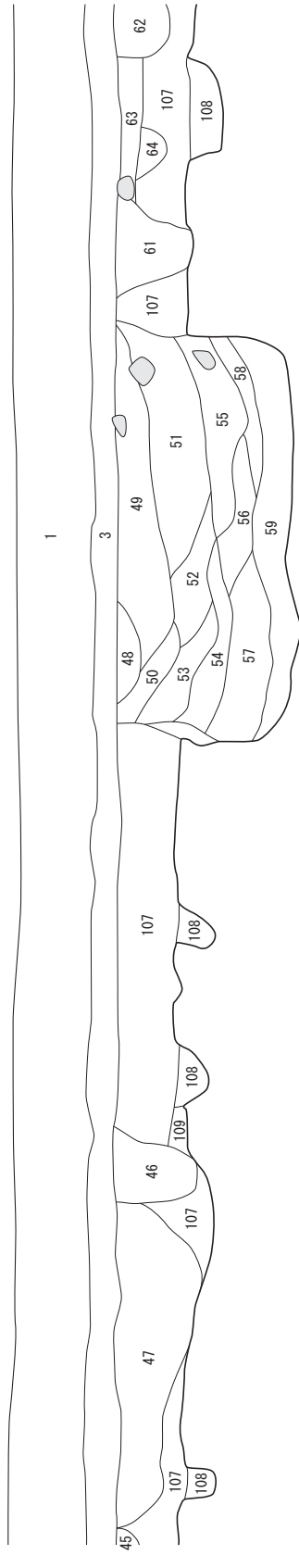


第193図 3区土層図1

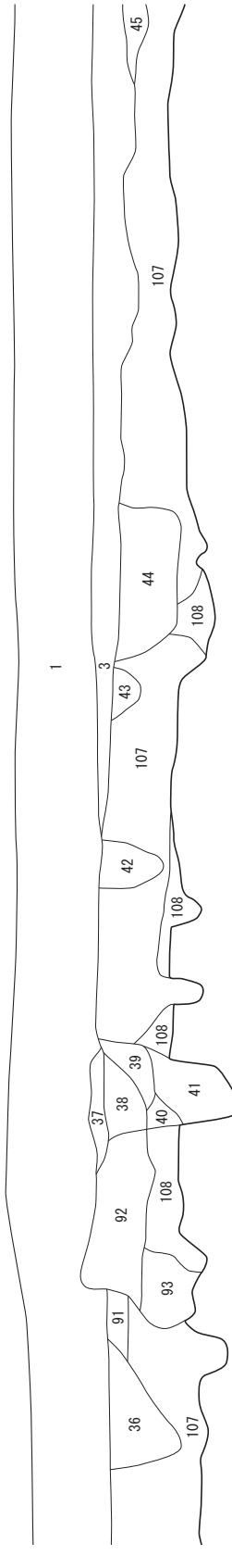


第194図 3区土層図2

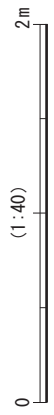
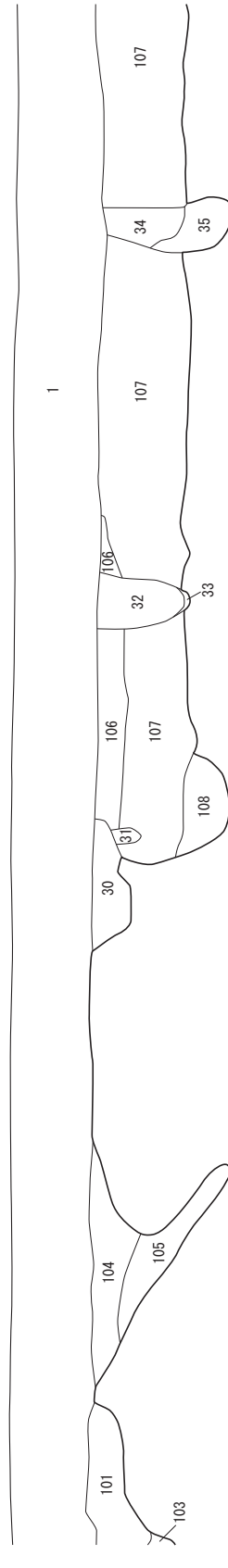
— 49.30m



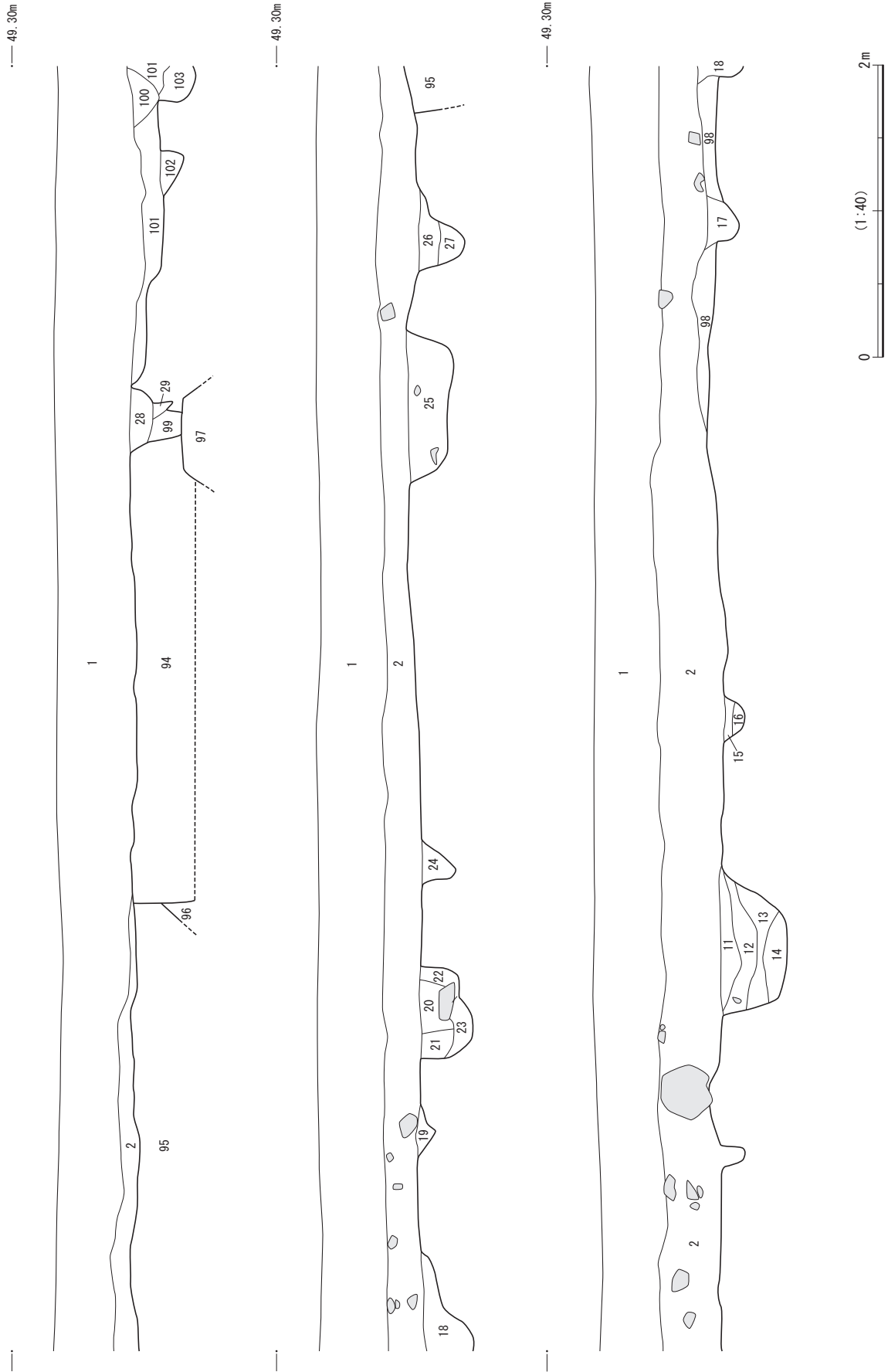
— 49.30m



— 49.30m



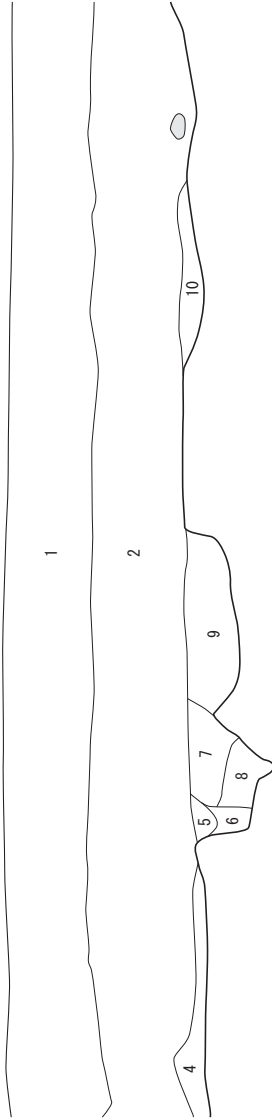
第195図 3区土層図3



第196図 3区土層図4

— 49.30m

c.

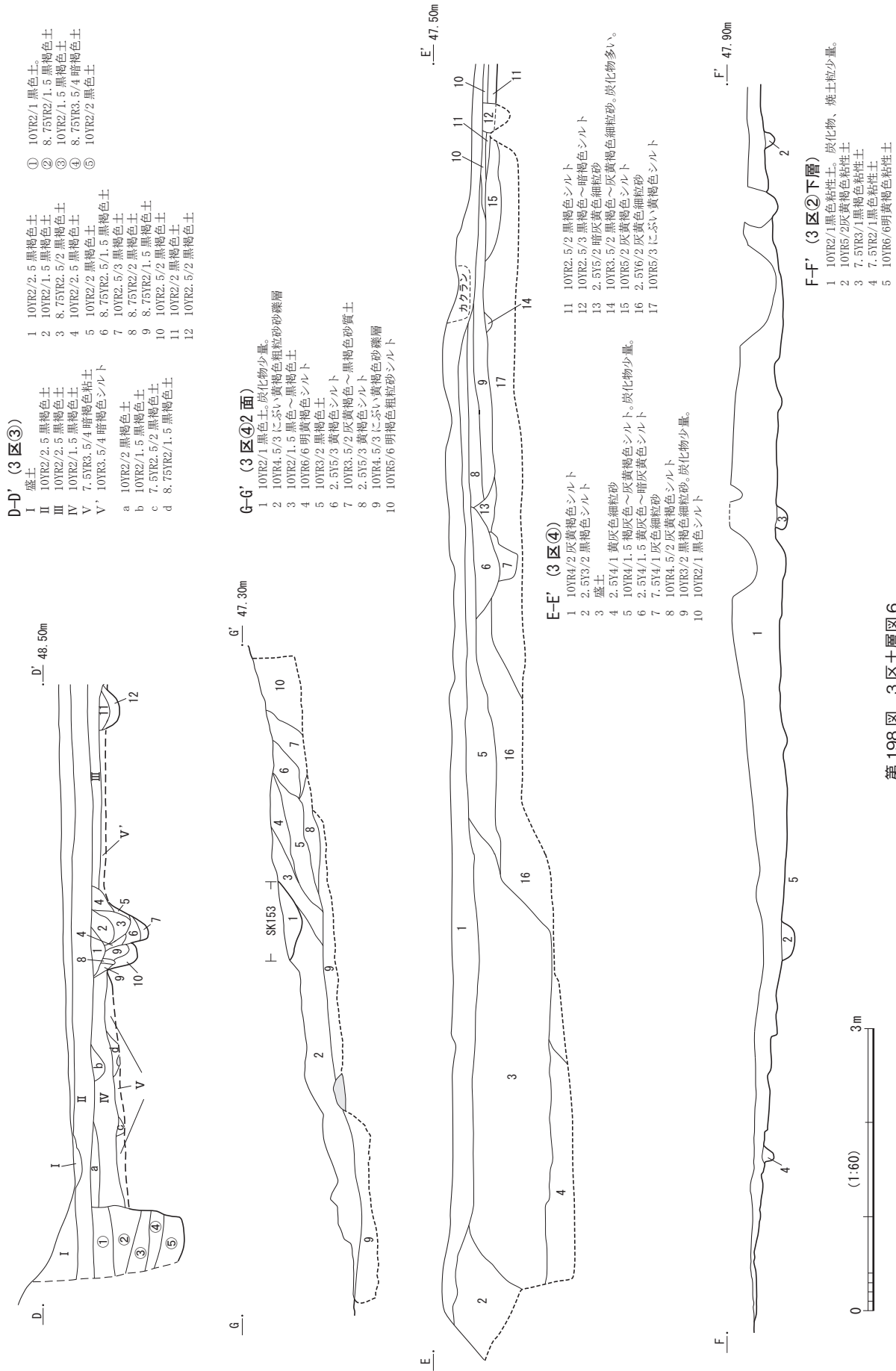


C'-C

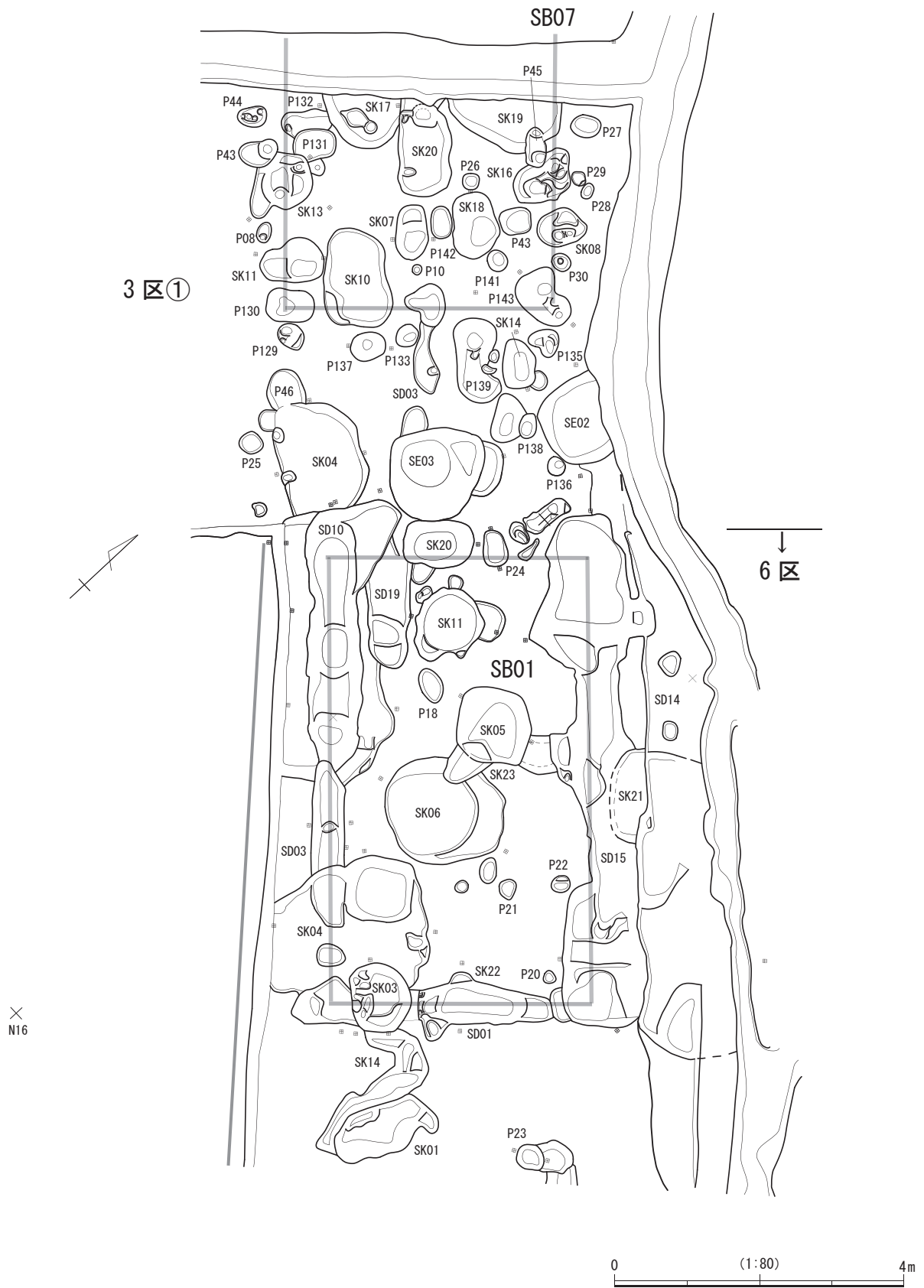
- | | | | | | | | |
|----|-----------------------|----|-----------------------|----|----------------------|-----|-----------------------|
| 1 | 10VR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 29 | 10VR2/3 黒褐色土。炭化物少量。 | 57 | 10VR2/2 黒褐色粘土。炭化物少量。 | 85 | 10VR2/2 黒褐色粘性土 |
| 2 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 30 | 10VR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 58 | 10VR3/2 黒褐色粘土。炭化物少量。 | 86 | 10VR3/3 暗褐色粘土 |
| 3 | 10VR2/2 黒褐色砂質土 | 31 | 10VR2/3 黒褐色土 | 59 | 10VR3/3 黒褐色土 | 87 | 10VR2/3 黒褐色土 |
| 4 | 2.5Y3/2 黒褐色粘性土 | 32 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 60 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 88 | 10VR3/2 黒褐色粘土 |
| 5 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 33 | 10VR2/3 黒褐色粘性土 | 61 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 89 | 10VR2/2 黒褐色粘土 |
| 6 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 34 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 62 | 10VR3/3 暗褐色土 | 90 | 10VR2/2 黒褐色粘土 |
| 7 | 10VR3/2 暗褐色粘土 | 35 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 63 | 10VR4/3 にぶい黄褐色土 | 91 | 10VR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 8 | 10VR3/3 暗褐色粘土 | 36 | 10VR3/3 暗褐色粘土 | 64 | 10VR2/3 黒褐色粘性土 | 92 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 9 | 10VR3/3 暗褐色粘土 | 37 | 10VR3/3 暗褐色粘性土 | 65 | 10VR3/4 暗褐色砂質土 | 93 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 10 | 7.5YR6/6 橙色粘土 | 38 | 10VR2/3 暗褐色土。炭化物少量。 | 66 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 94 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 11 | 7.5YR6/4 にぶい橙色粘土 | 39 | 10VR2/3 黒褐色土。炭化物多い。 | 67 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 95 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 12 | 10VR3/3 暗褐色粘性土 | 40 | 10VR2/2 黒褐色粘性土 | 68 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 96 | 10VR3/3 暗褐色粘土 |
| 13 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 41 | 10VR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 69 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 97 | 10VR3/2 黒褐色粘土 |
| 14 | 10VR3/3 暗褐色粘土 | 42 | 10VR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 70 | 10VR2/1 黒色粘土 | 98 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 15 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 43 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 71 | 10VR2/2 黒褐色粘性土 | 99 | 10VR3/3 暗褐色粘土 |
| 16 | 10VR5/4 にぶい褐色粘土 | 44 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 72 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 100 | 10VR2/3 黒褐色粘土 |
| 17 | 10VR3/3 暗褐色粘土 | 45 | 10VR3/3 暗褐色土。炭化物少量。 | 73 | 10VR2/3 黒褐色粘性土 | 101 | 10VR2/3 黒褐色土。炭化物少量。 |
| 18 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 46 | 10VR3/3 暗褐色砂質土 | 74 | 10VR3/2 黒褐色土 | 102 | 10VR3/2 黒褐色粘土 |
| 19 | 10VR4/3 にぶい黄褐色粘性土 | 47 | 10VR 暗褐色砂質土 | 75 | 10VR4/4 褐色粘性土 | 103 | 10VR3/2 黒褐色粘土 |
| 20 | 10VR4/2 灰褐色粘土。炭化物少量。 | 48 | 10VR3/3 暗褐色土 | 76 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 104 | 10VR3/2 黒褐色粘土 |
| 21 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 49 | 10VR2/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。 | 77 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 105 | 10VR3/3 暗褐色粘土 |
| 22 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 50 | 10VR3/3 暗褐色土。炭化物少量。 | 78 | 10VR2/3 黒褐色土 | 106 | 10VR2/3 黒褐色土 |
| 23 | 10VR3/2 黒褐色粘土 | 51 | 10VR3/3 暗褐色粘性土 | 79 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 107 | 10VR3/4 暗褐色土 |
| 24 | 10VR3/2 黒褐色土 | 52 | 10VR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 80 | 10VR2/3 黒褐色粘土 | 108 | 10VR4/4 褐色粘土 |
| 25 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 53 | 10VR3/3 暗褐色粘性土 | 81 | 10VR2/2 黒褐色粘土 | 109 | 10VR3/4 暗褐色粘土 |
| 26 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | 54 | 10VR3/3 暗褐色土。炭化物少量。 | 82 | 10VR2/3 黒褐色粘土 | 110 | 10VR3/4 暗褐色土。炭化物少量。 |
| 27 | 10VR2/2 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 55 | 10VR2/3 暗褐色土。炭化物多い。 | 83 | 10VR3/4 暗褐色粘性土 | | |
| 28 | 10VR3/3 暗褐色土。炭化物多い。 | 56 | 10VR3/2 黒褐色粘性土 | 84 | 10VR3/3 暗褐色土 | | |



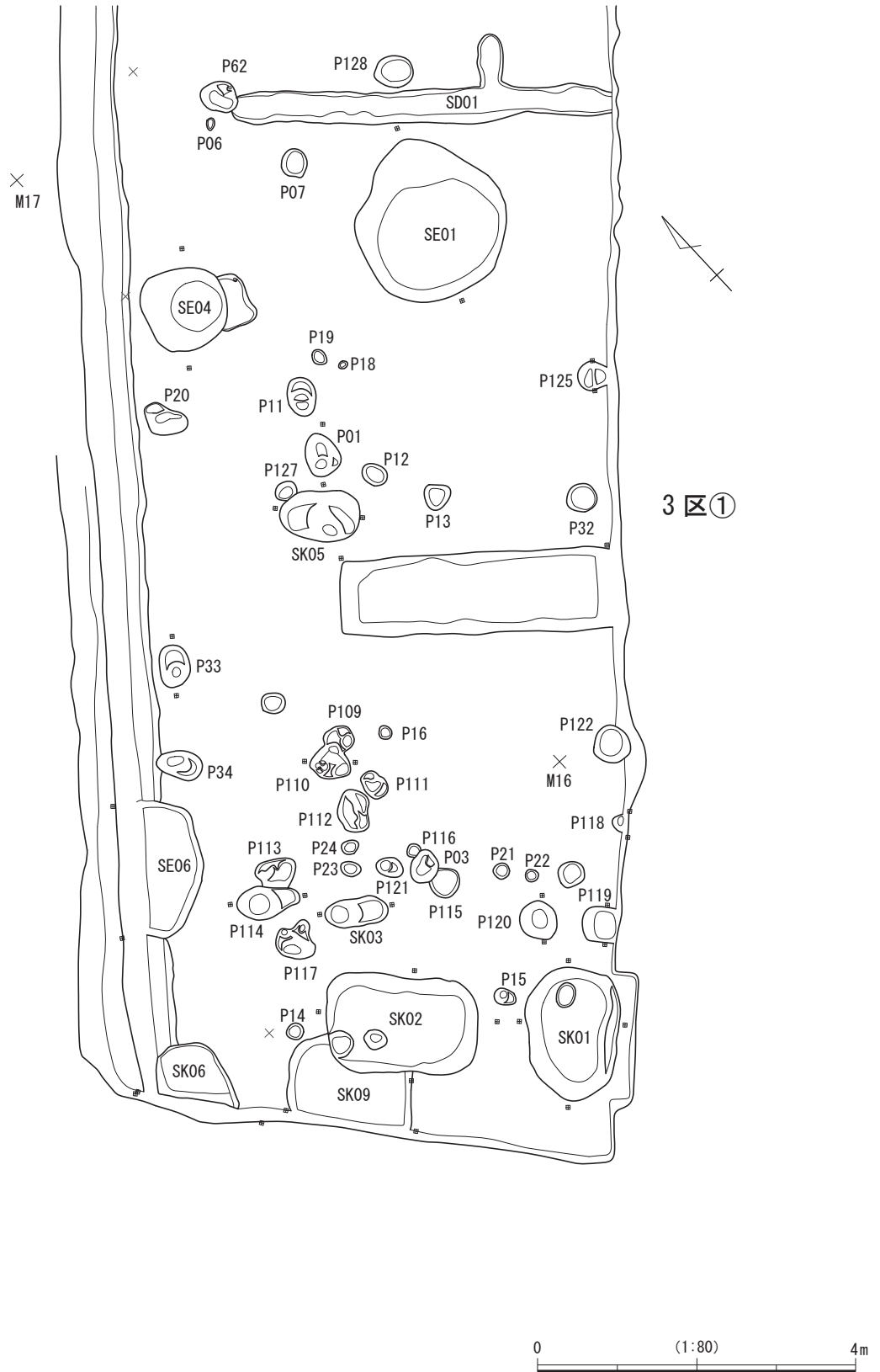
第 197 図 3 区土層図 5



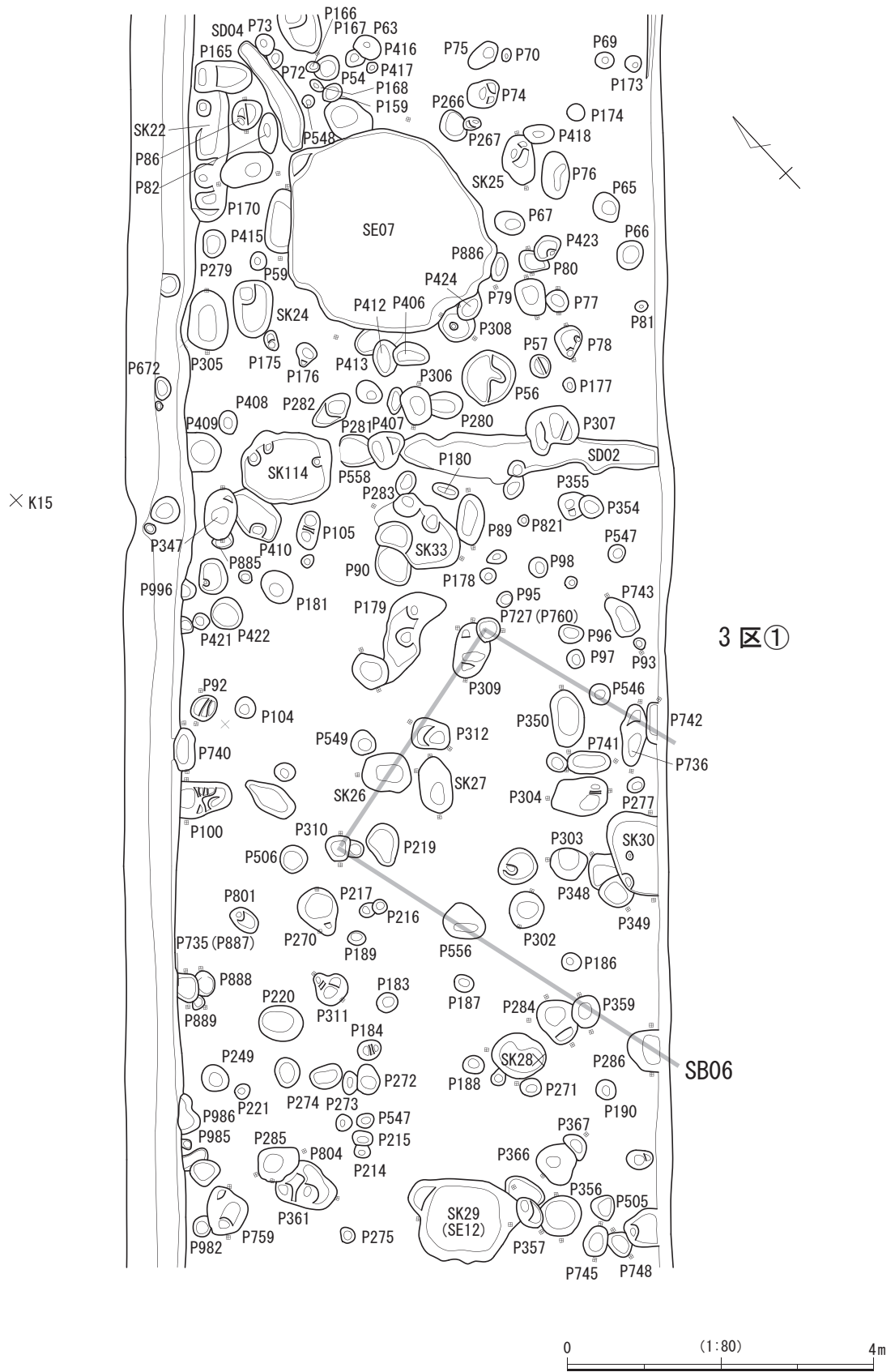
第198図 3区土層図6



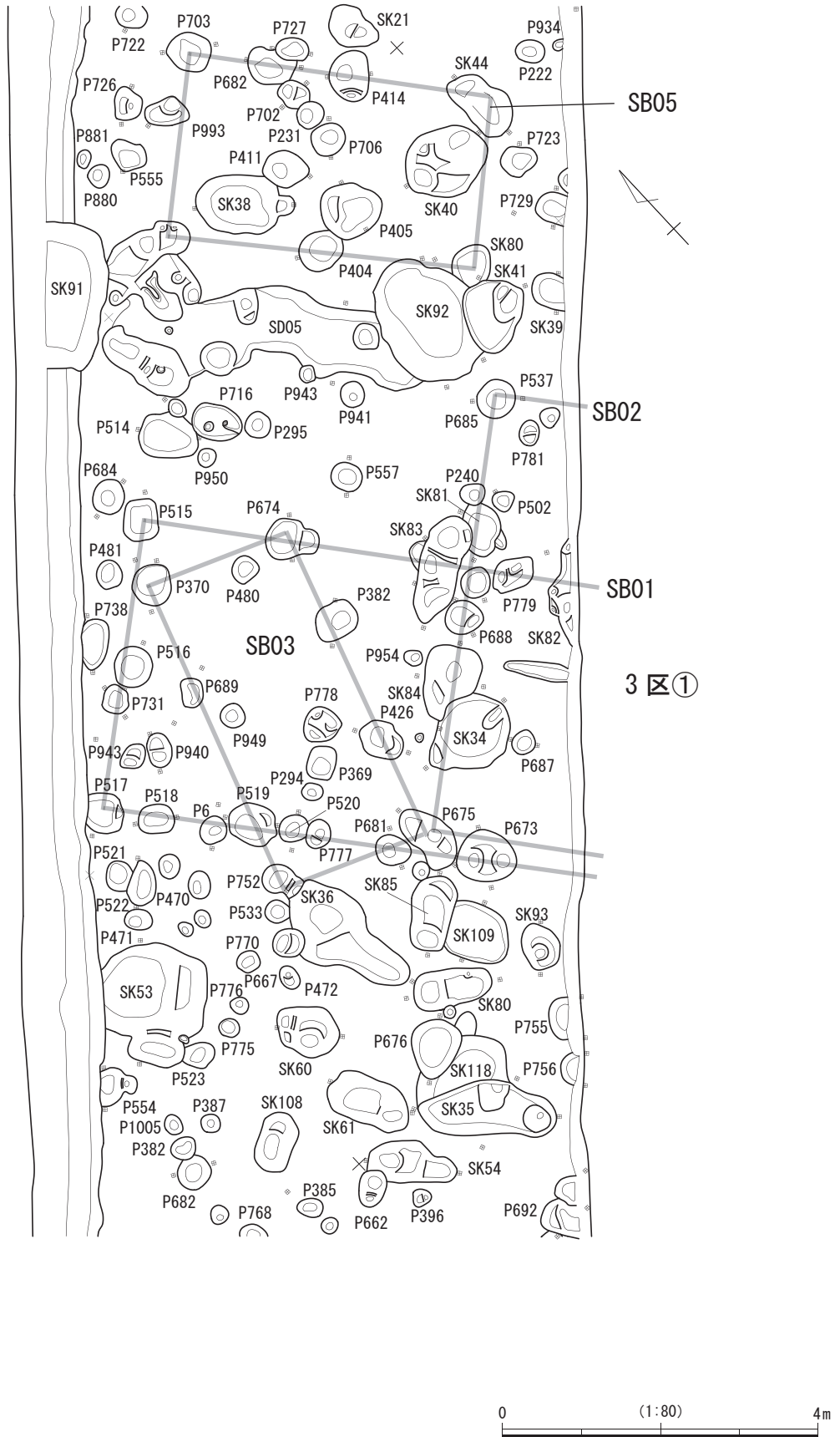
第199図 3区遺構図1



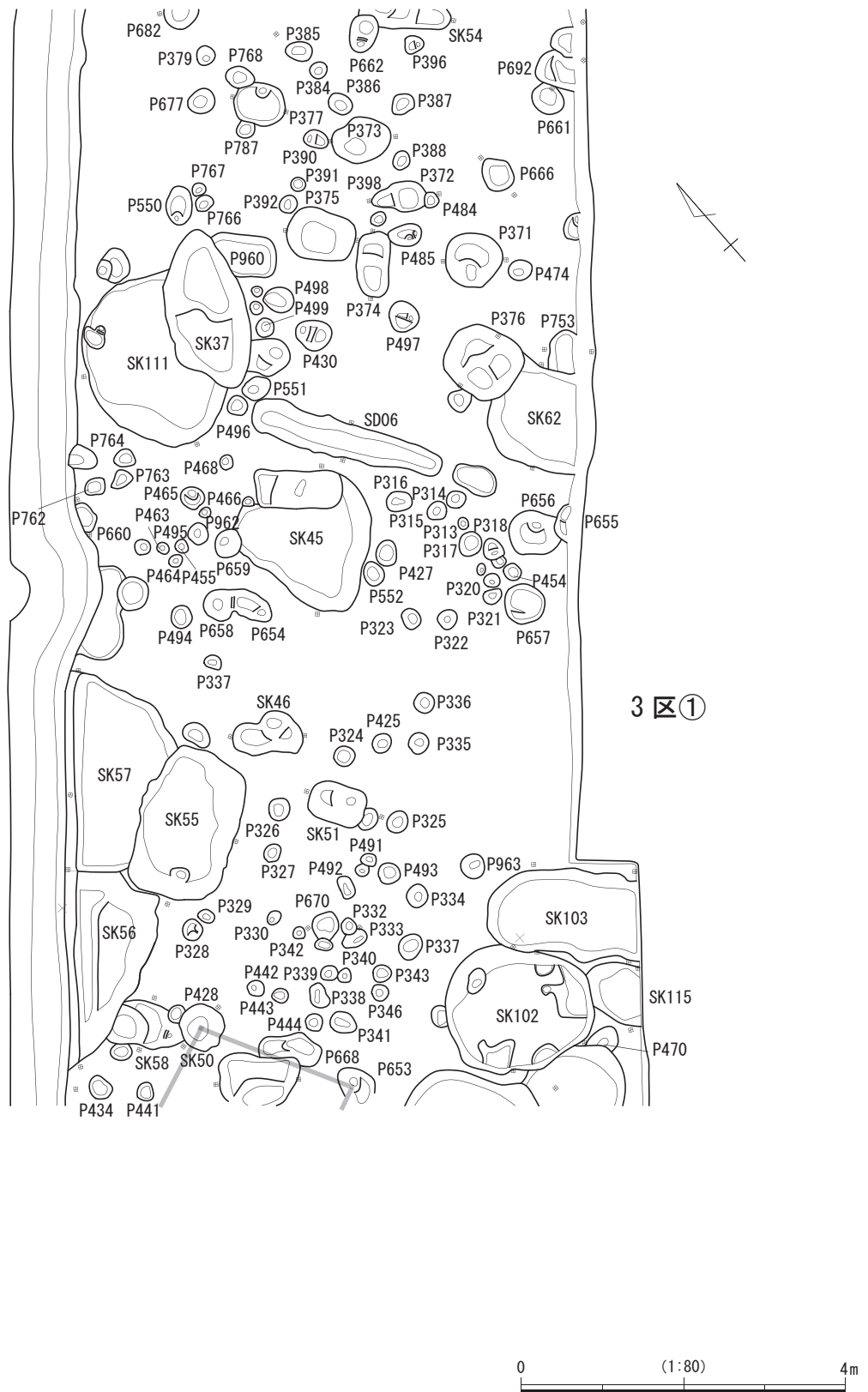
第200図 3区遺構図2



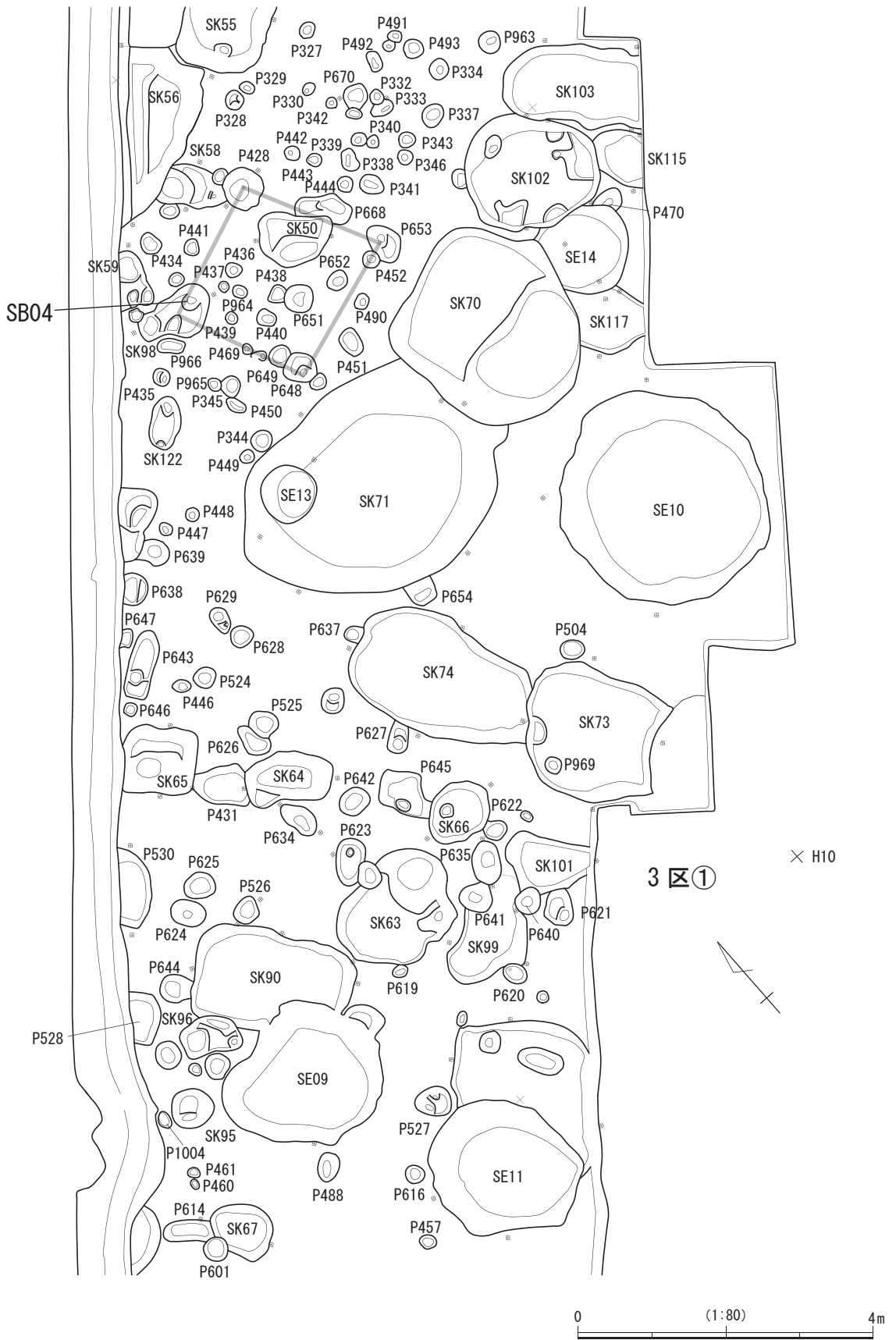
第 201 図 3 区遺構図 3



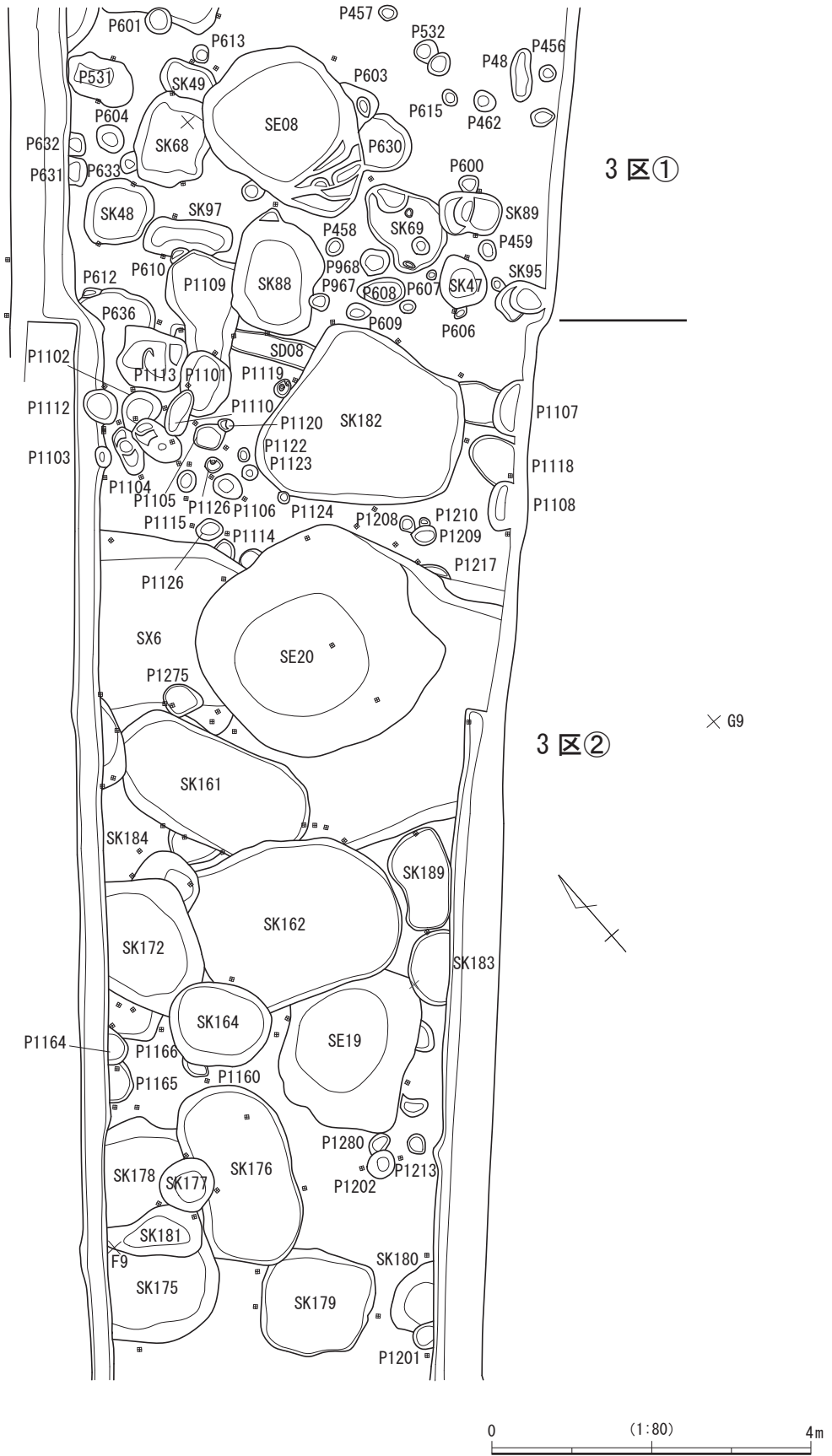
第202図 3区遺構図4



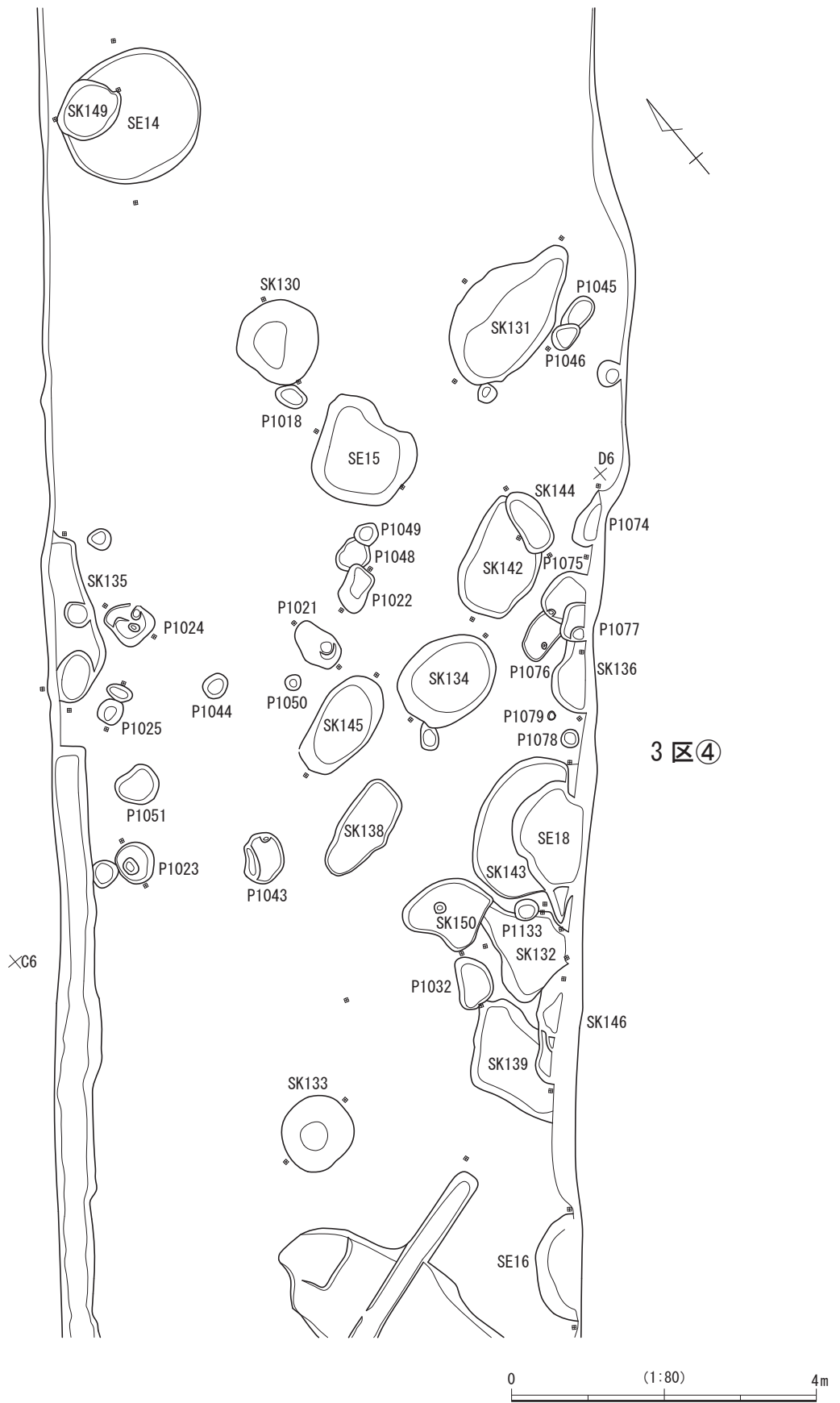
第 203 図 3 区遺構図 5



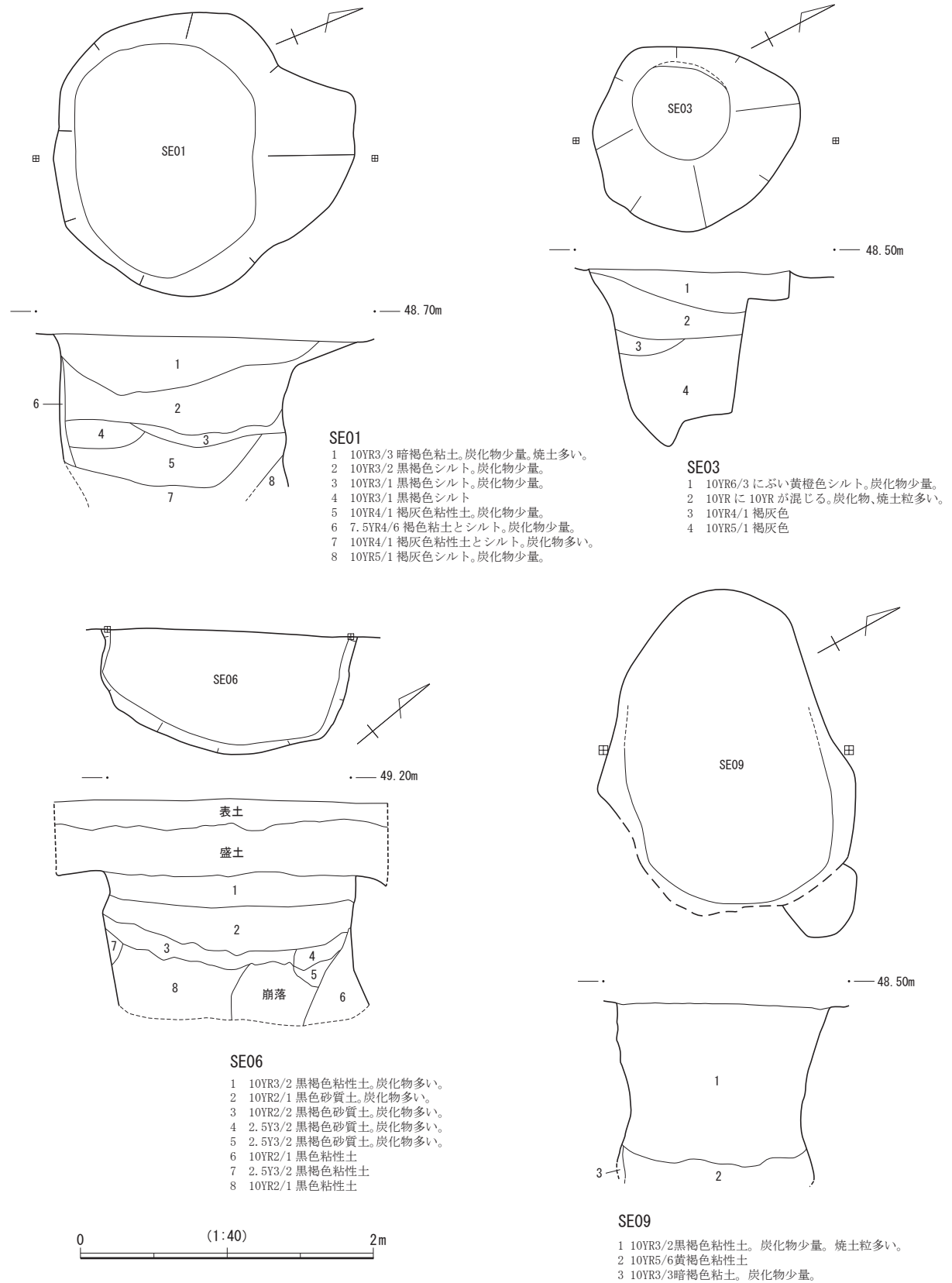
第 204 図 3 区遺構図 6



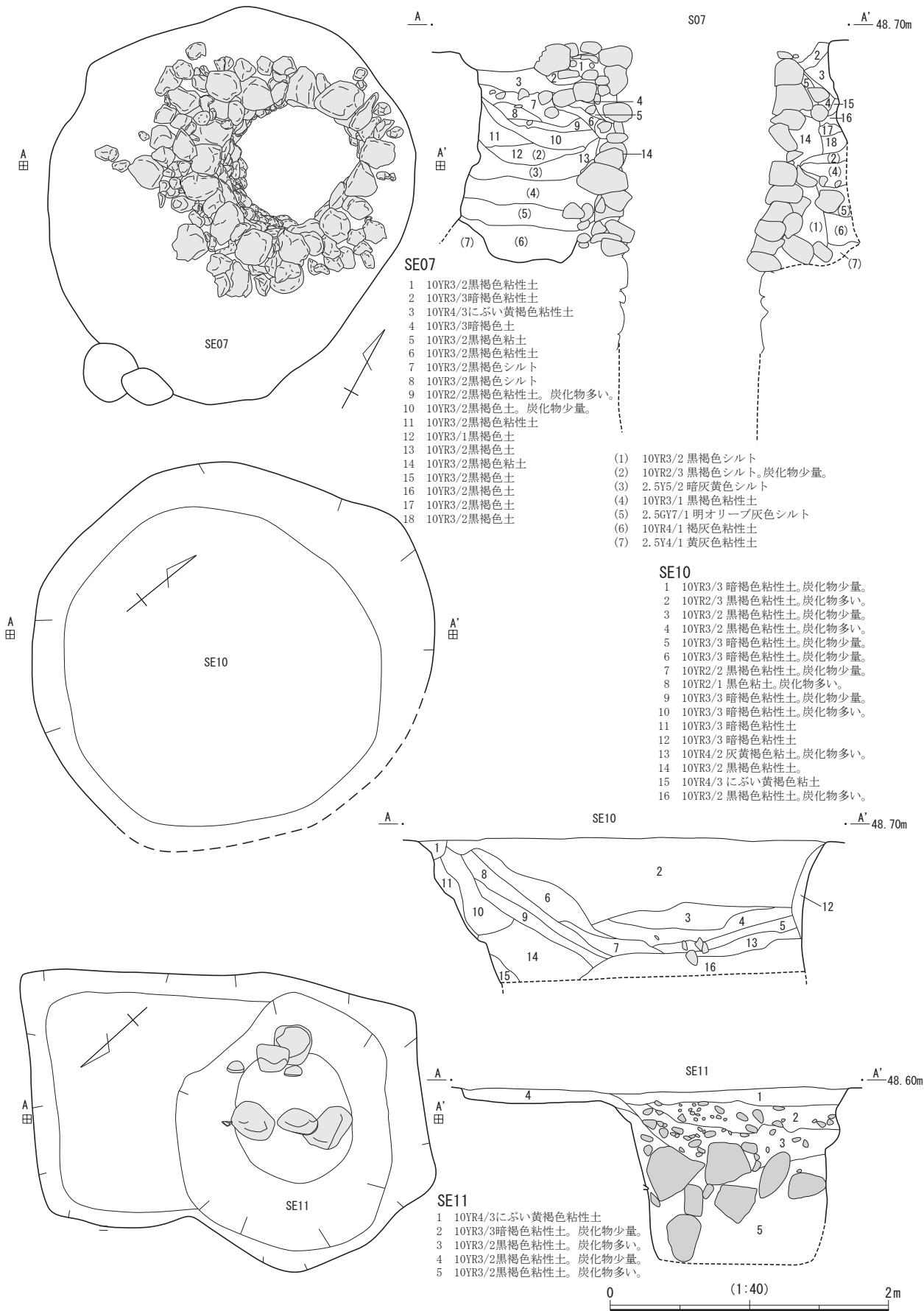
第 205 図 3 区遺構図 7



第206図 3区遺構図8

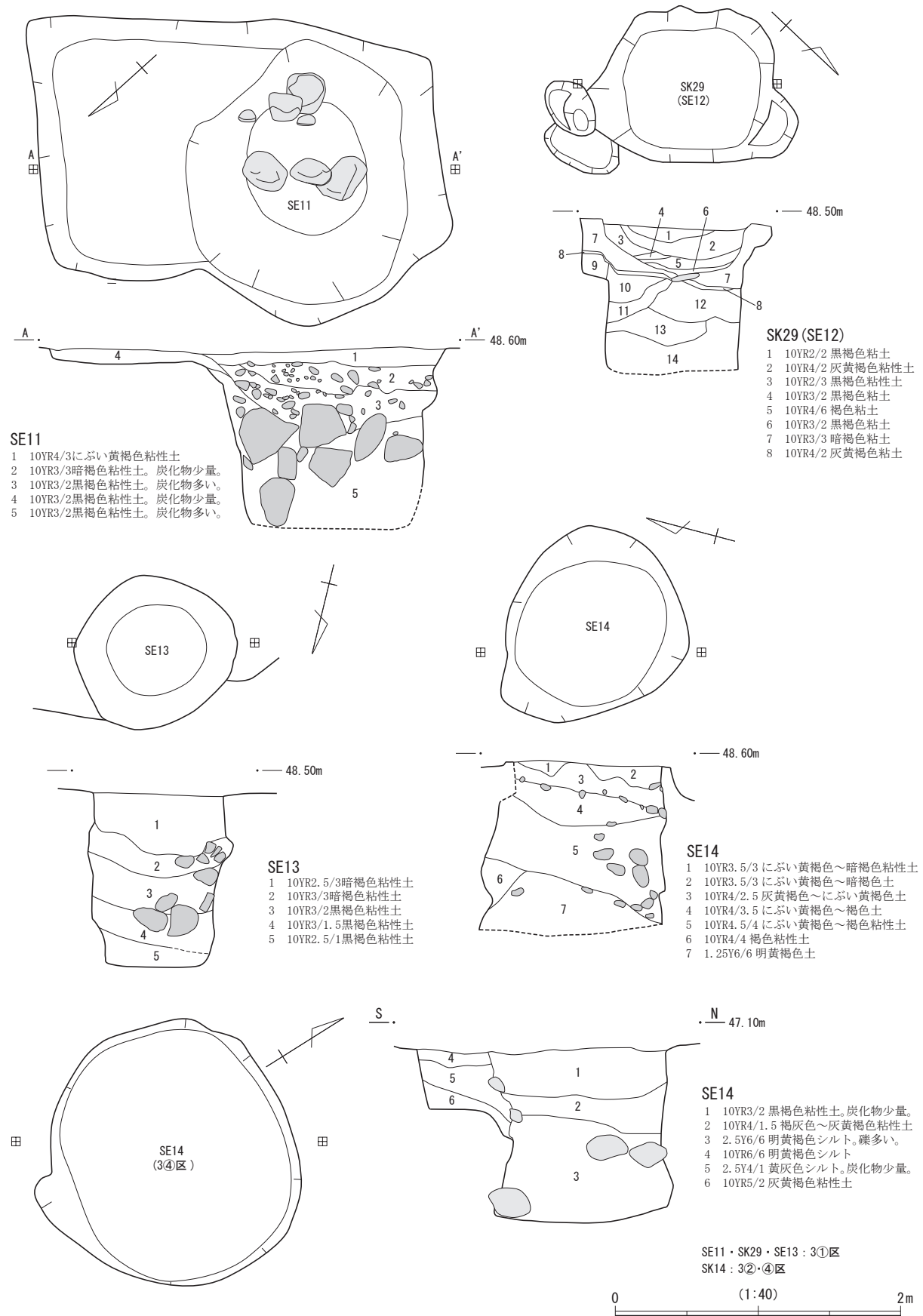


第207図 3区遺構図9 (3区①)

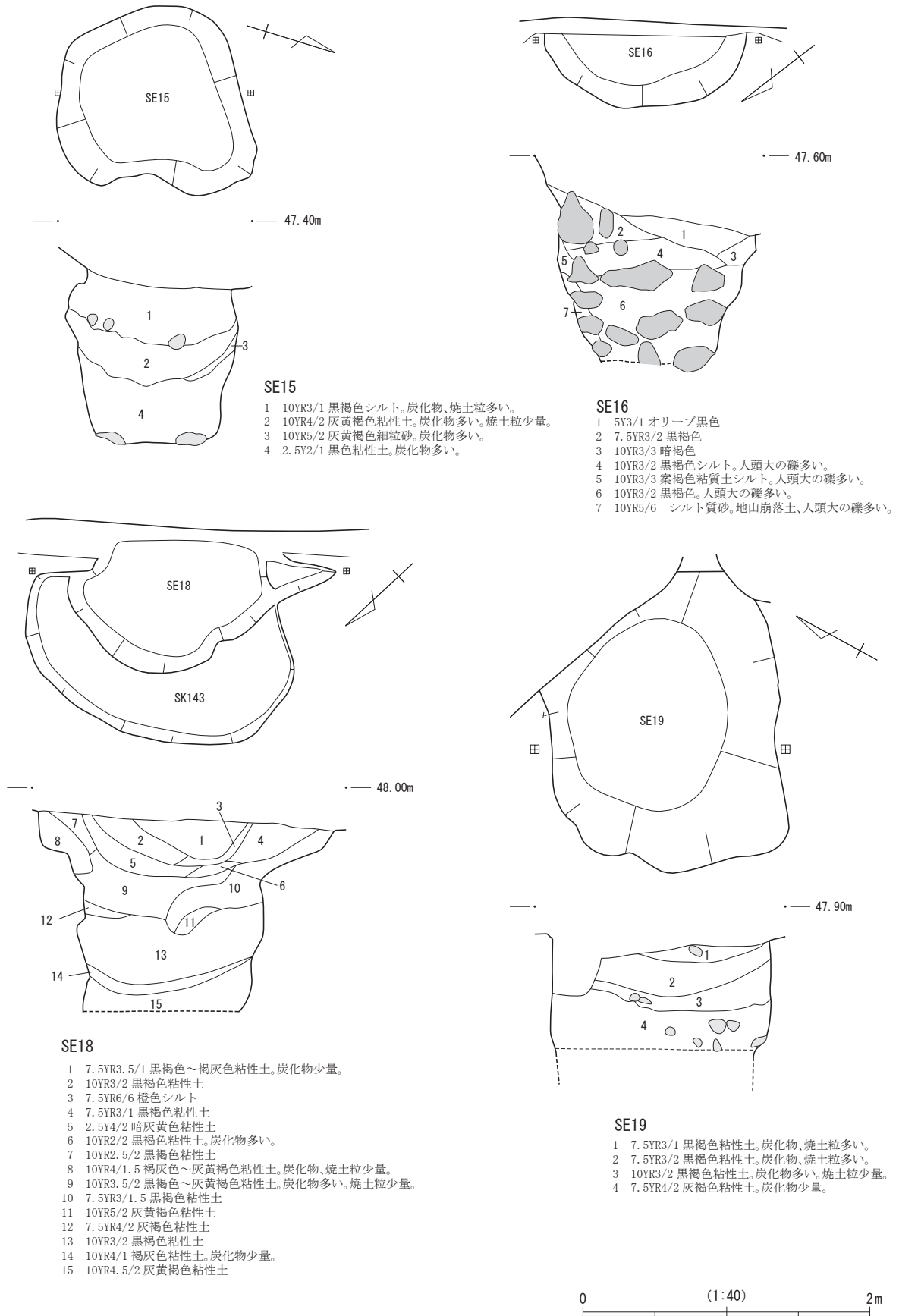


第208図 3区遺構図10 (3区①)

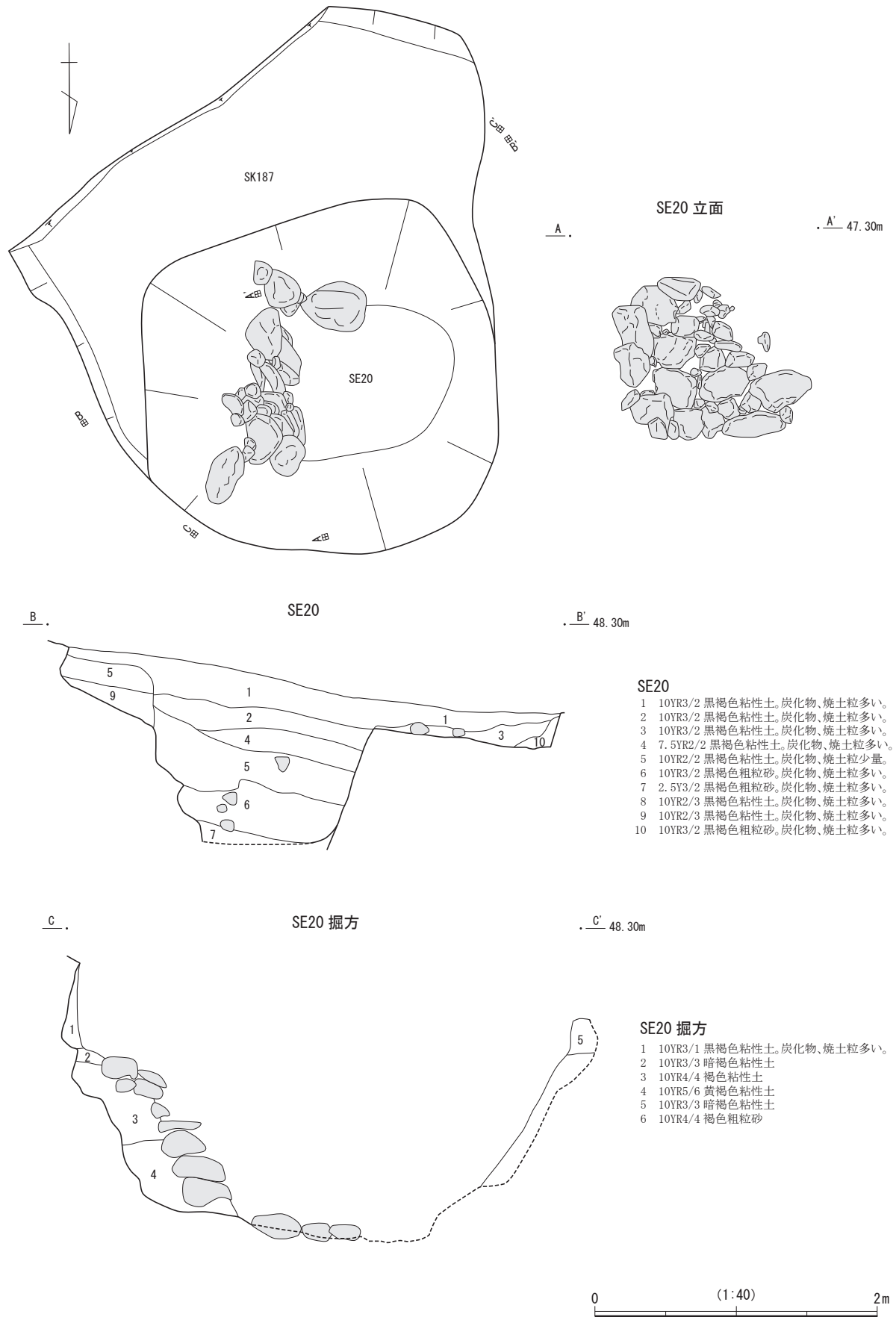
第3章 調査の成果



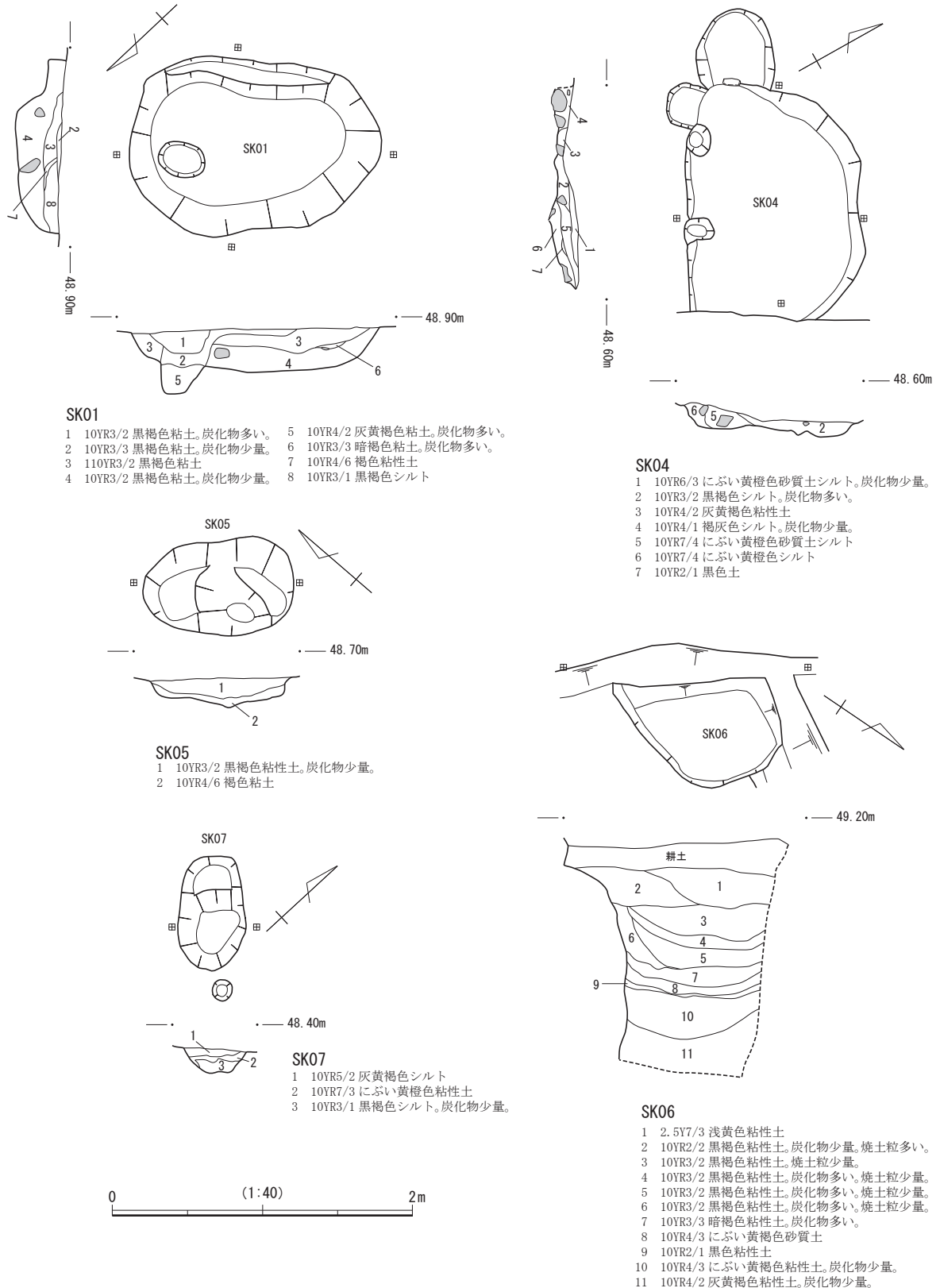
第209図 3区遺構図11



第210図 3区遺構図12 (3区①)

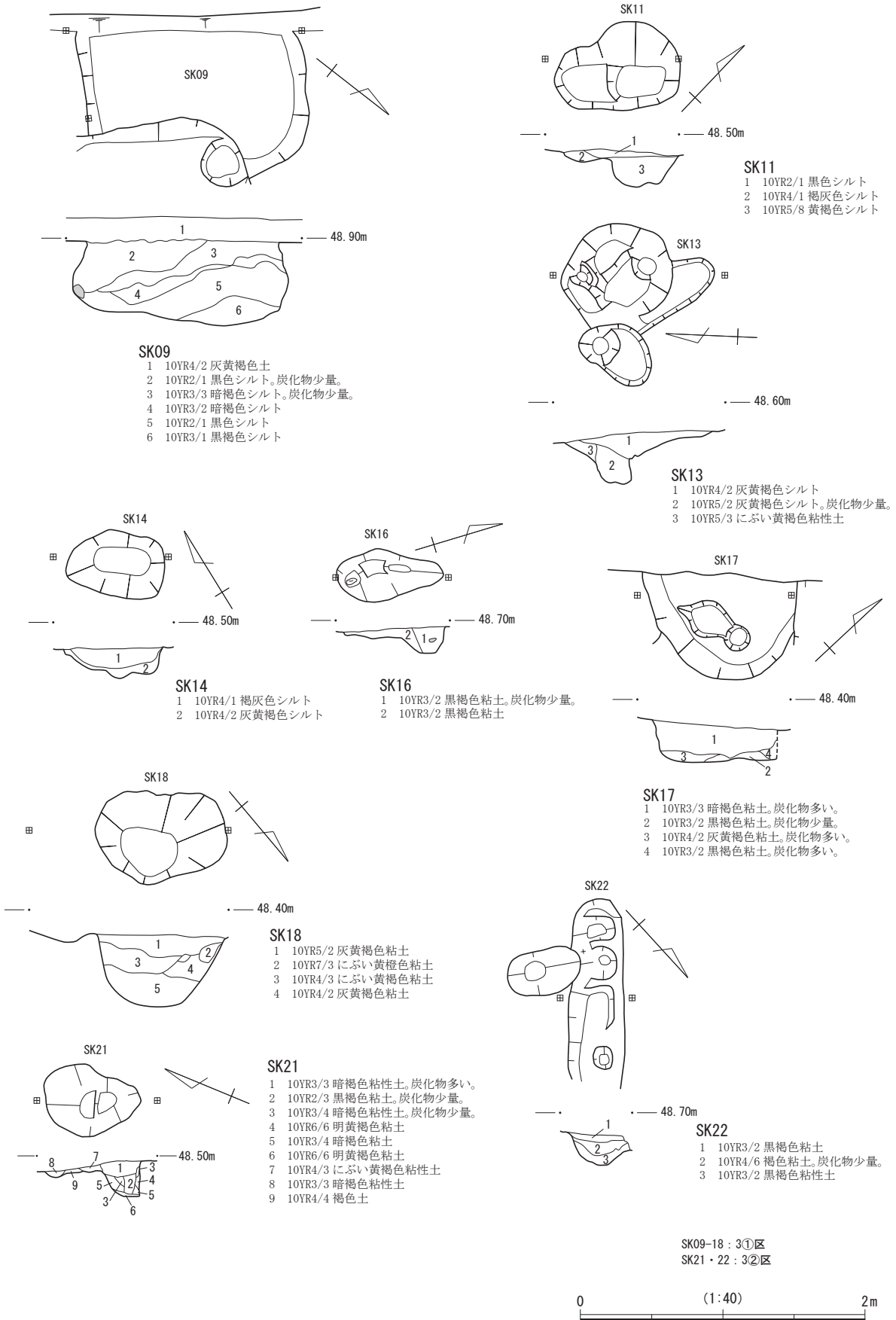


第211図 3区遺構図13 (3区②)

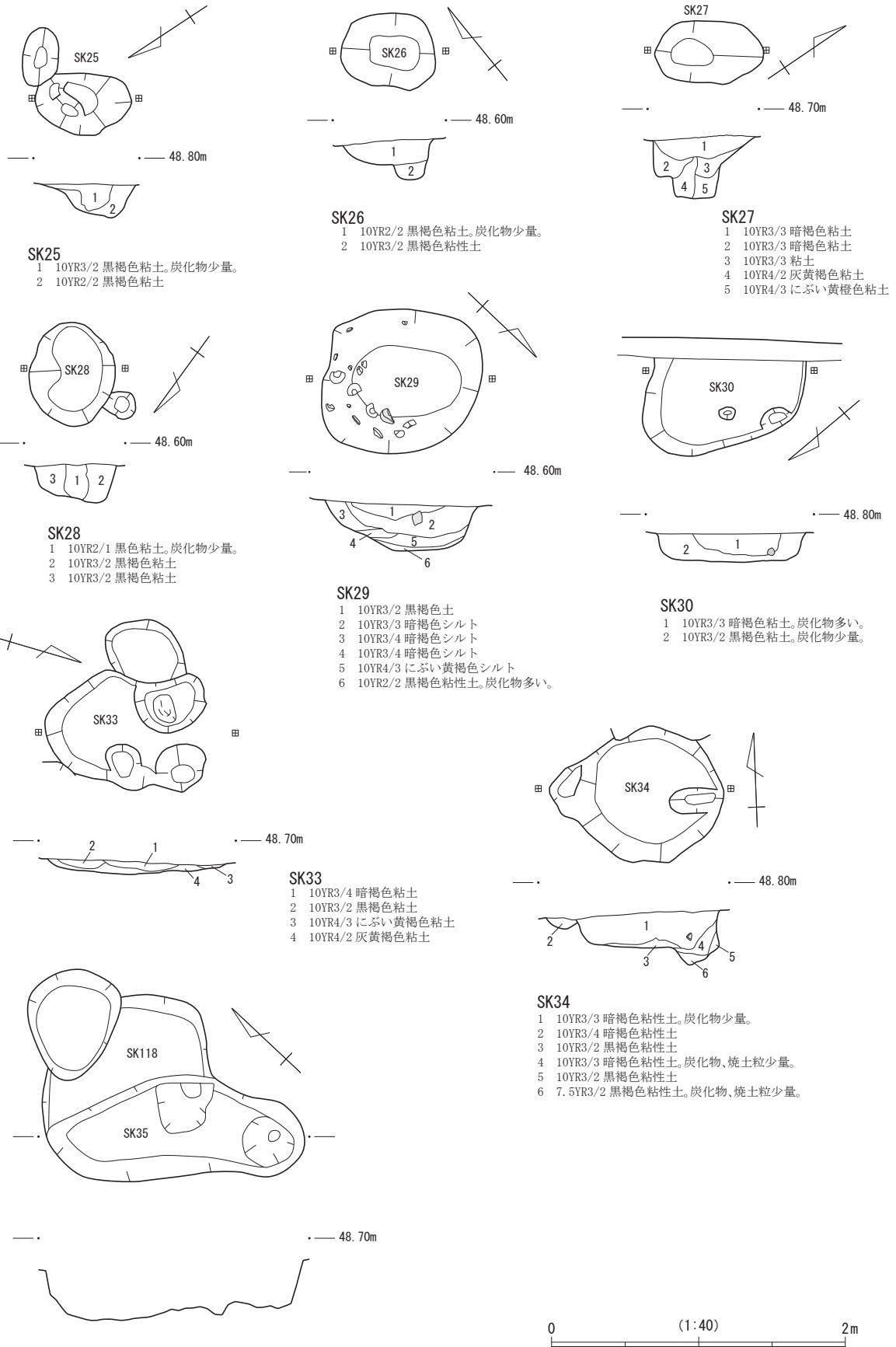


第212図 3区遺構図14 (3区①)

第3章 調査の成果

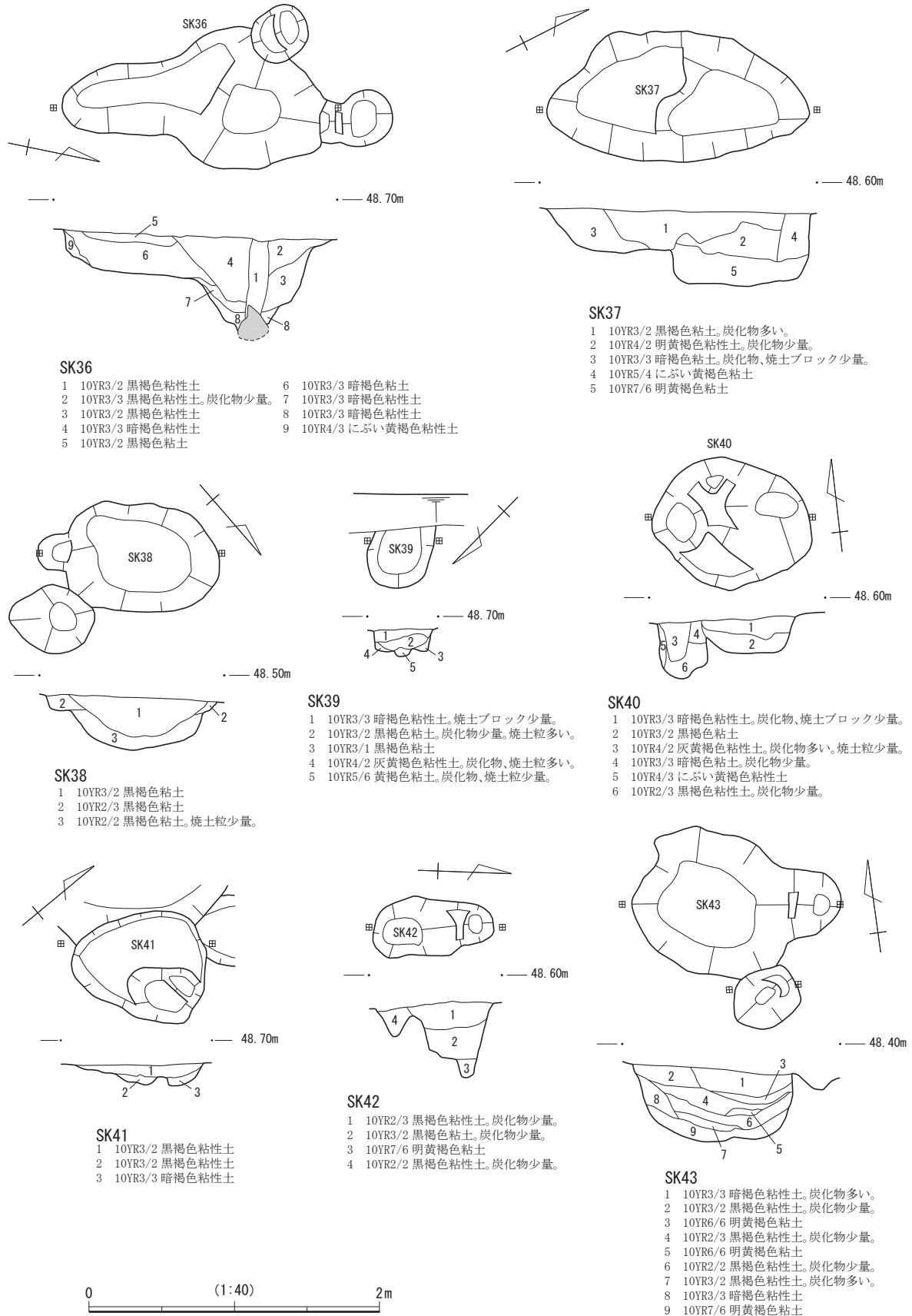


第213図 3区遺構図15

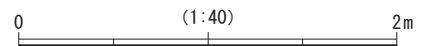
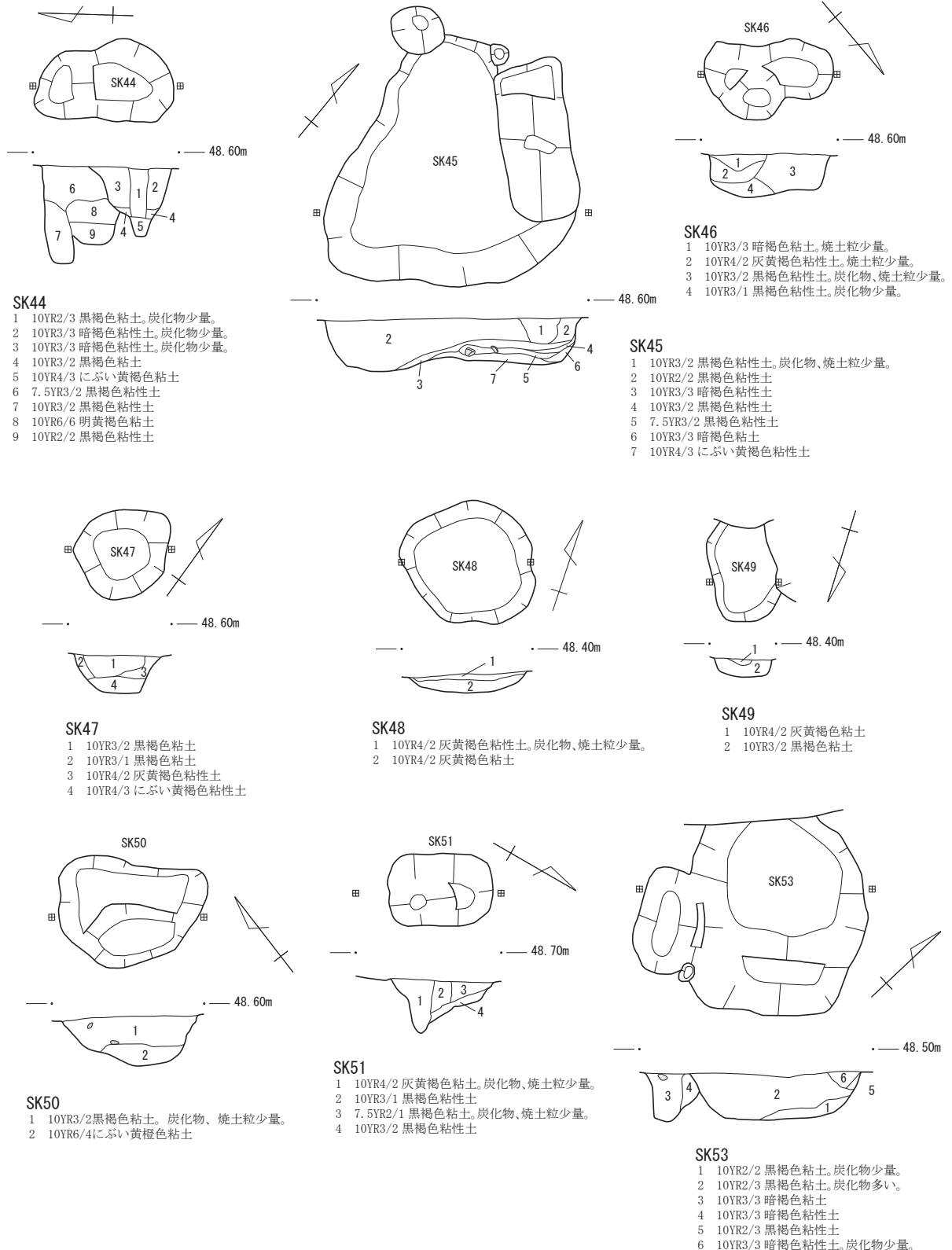


第214図 3区遺構図16 (3区②)

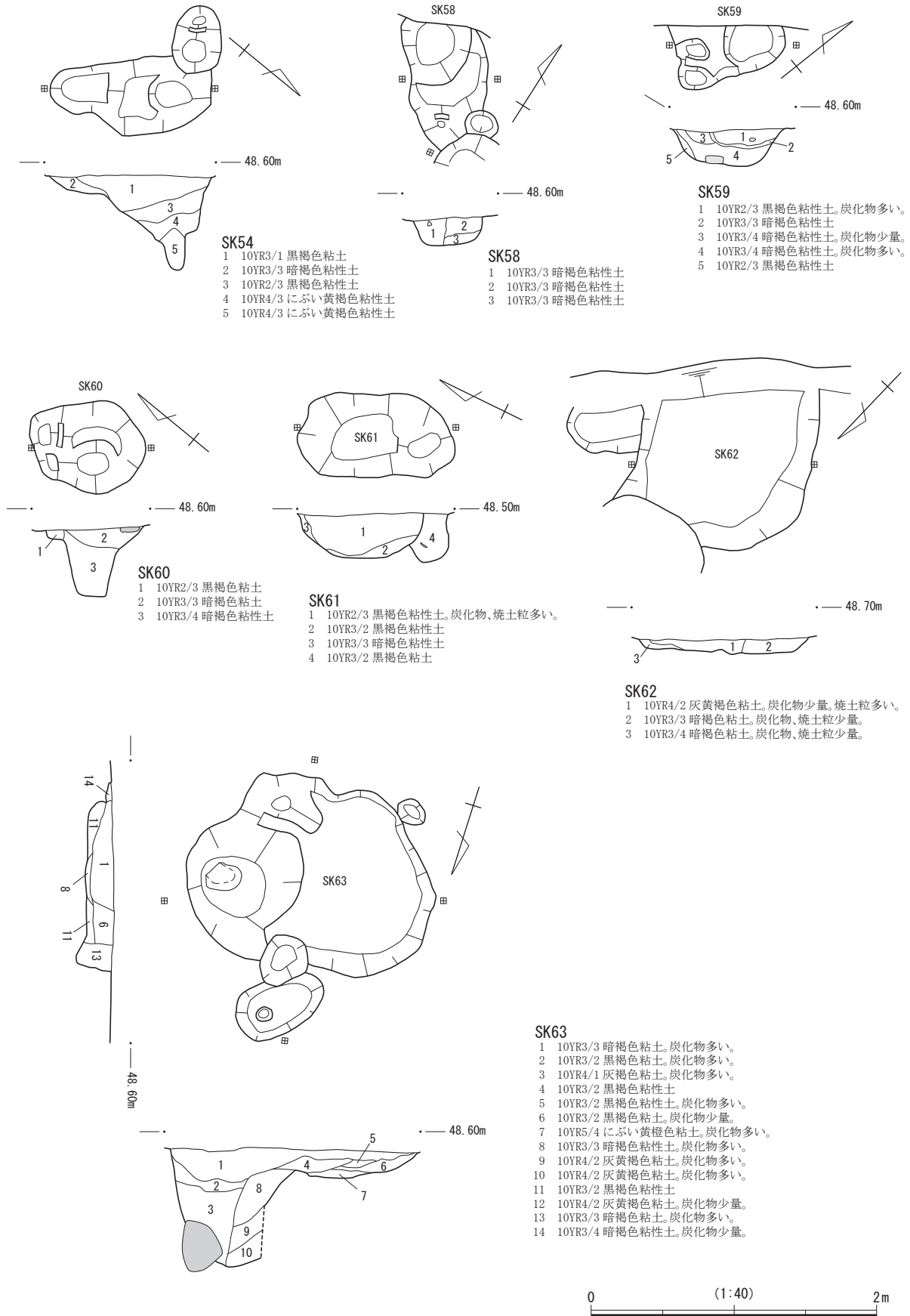
第3章 調査の成果



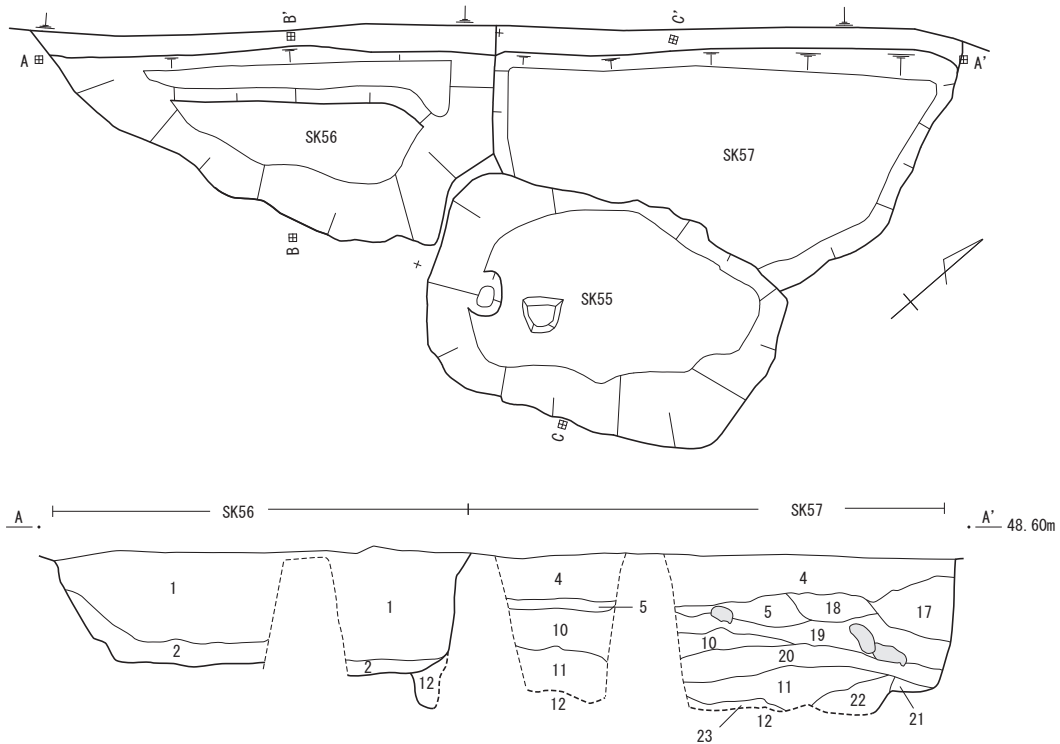
第215図 3区遺構図17 (3区②)



第216図 3区遺構図18 (3区②)



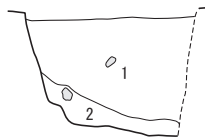
第 217 図 3 区遺構図 19 (3 区②)



SK56・57

- | | | |
|----------------------------|--------------------------|------------------------------|
| 1 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。 | 9 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 17 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 2 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い。 | 10 10YR3/4 暗褐色粘土 | 18 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 3 10YR2/3 黒褐色粘性土 | 11 10YR3/3 暗褐色粘土。炭化物多い。 | 19 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物多い。 | 12 10YR3/3 暗褐色粘土。炭化物少量。 | 20 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 5 10YR3/3 暗褐色粘土。炭化物多い。 | 13 10YR3/2 黒褐色粘性土 | 21 10YR4/4 褐色粘土 |
| 6 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 14 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 22 10YR3/3 暗褐色粘土 |
| 7 10YR3/2 黒褐色粘性土混じる | 15 10YR3/4 暗褐色粘性土 | 23 10YR3/4 暗褐色粘性土 |
| 8 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 16 10YR3/2 黒褐色粘性土 | |

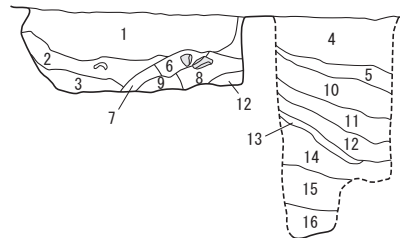
B . B' 48.60m



SK56

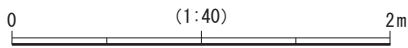
- 1 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。
2 10YR3/2 黒褐色粘土。炭化物多い。

C . C' 48.70m



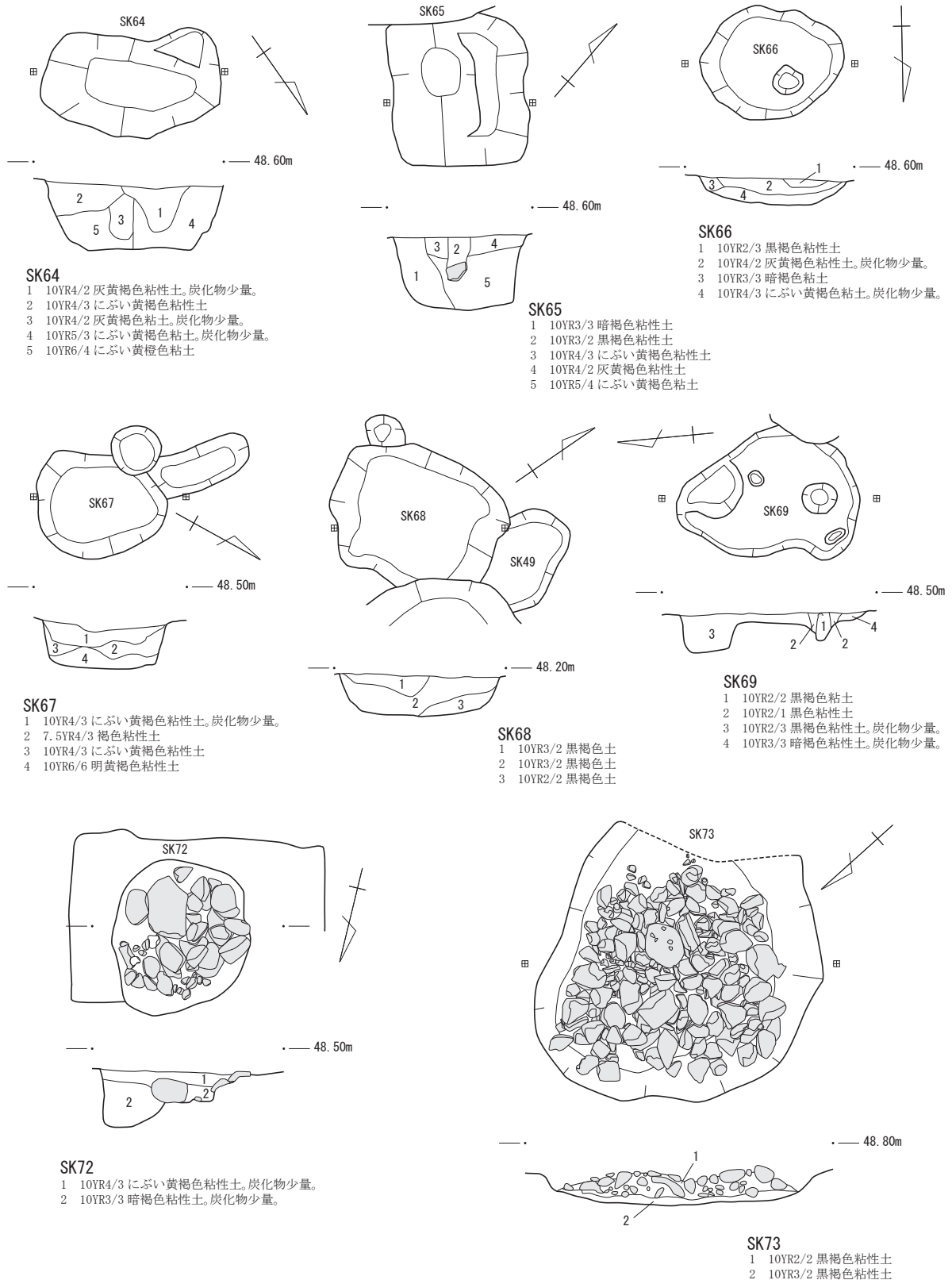
SK55・57

- | |
|----------------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 2 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 3 10YR2/3 黒褐色粘性土 |
| 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 5 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 6 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 7 10YR3/2 黒褐色粘性土 |
| 8 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 9 10YR2/3 黒褐色粘性土 |
| 10 10YR3/4 暗褐色粘性土 |
| 11 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 12 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 13 10YR3/2 黒褐色粘性土 |
| 14 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 15 10YR3/4 暗褐色粘性土 |
| 16 10YR3/2 黒褐色粘性土 |

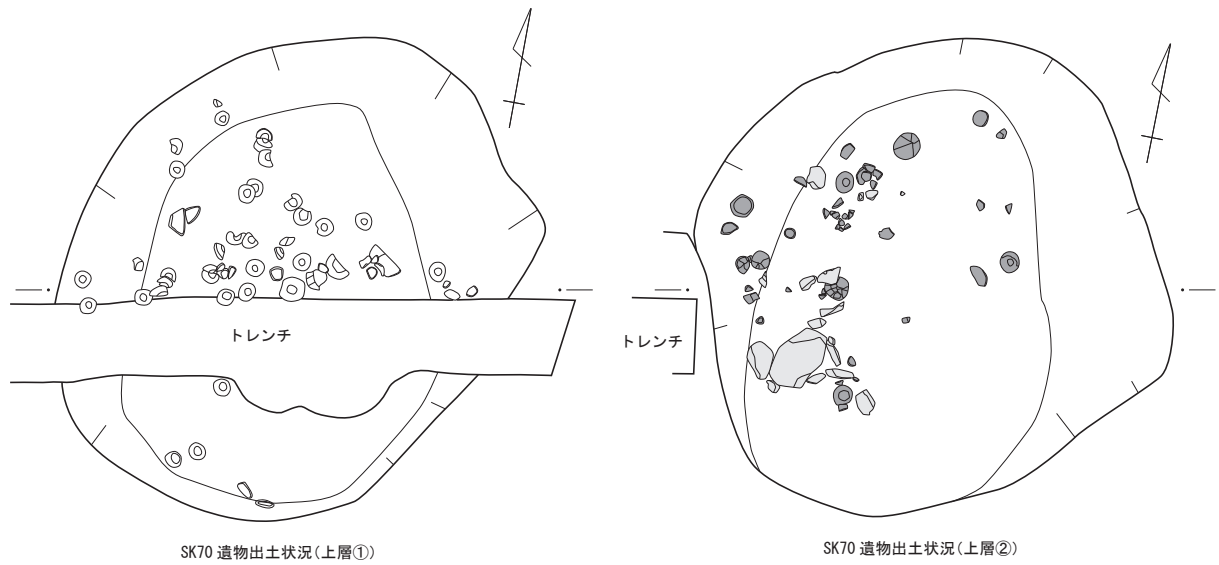


第218図 3区遺構図20(3区②)

第3章 調査の成果

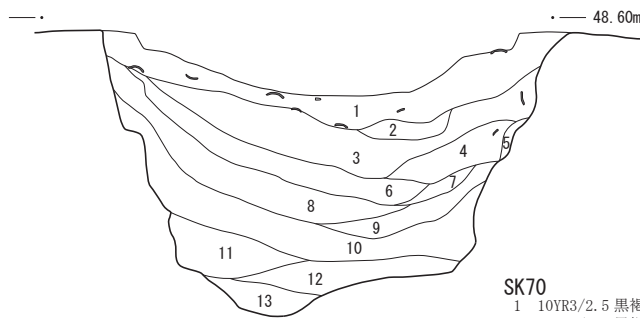
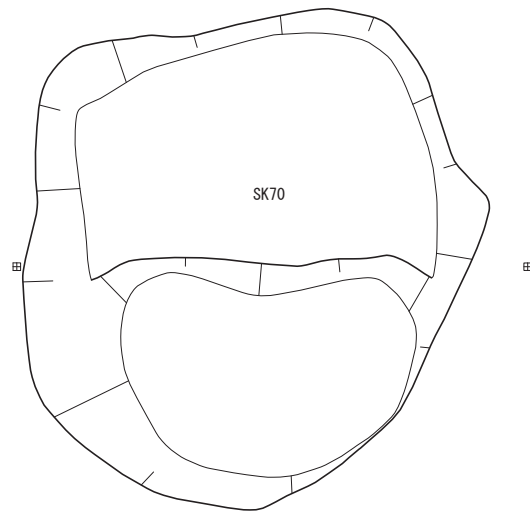


第219図 3区遺構図21 (3区①)



SK70 遺物出土状況(上層①)

SK70 遺物出土状況(上層②)

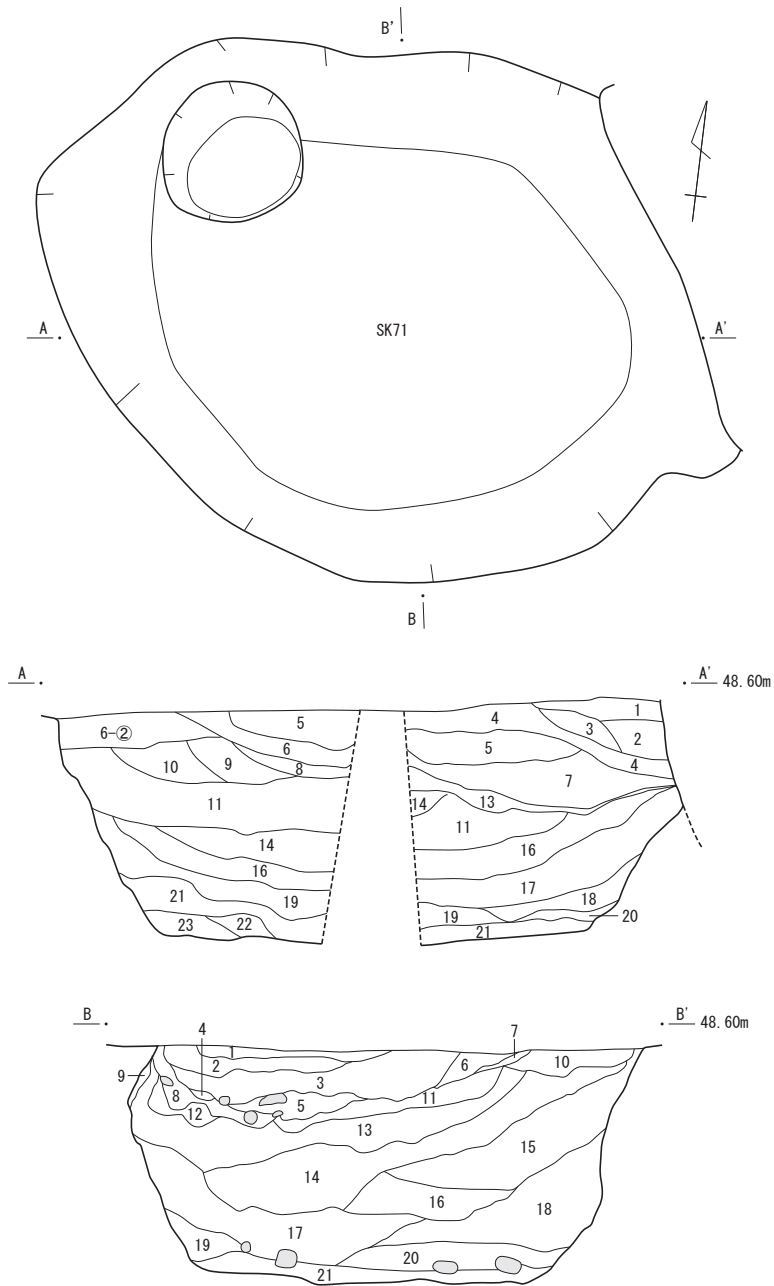


0 (1:40) 2m

SK70

- 1 10YR3/2.5 黒褐色～暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 2 10YR3/2.5 黒褐色～暗褐色粘性土
- 3 10YR3.5/2 灰黄褐色～黒褐色粘性土
- 4 10YR3/2.5 黒褐色～暗褐色粘性土
- 5 10YR3/3.5 暗褐色粘性土
- 6 10YR3/3 暗褐色粘性土
- 7 10YR3/2.5 黒褐色～暗褐色粘性土
- 8 10YR4.5/6 黄褐色～褐色粘性土
- 9 10YR3/3.5 暗褐色粘性土
- 10 10YR3/2 黒褐色粘性土
- 11 10YR2.5/3 黒褐色～暗褐色粘性土
- 12 10YR3/3 暗褐色粘性土
- 13 10YR4.5/4 にぶい黄褐色～褐色砂質土

第220図 3区遺構図22 (3区②)

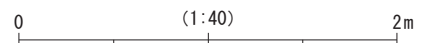


SK71 (A-A')

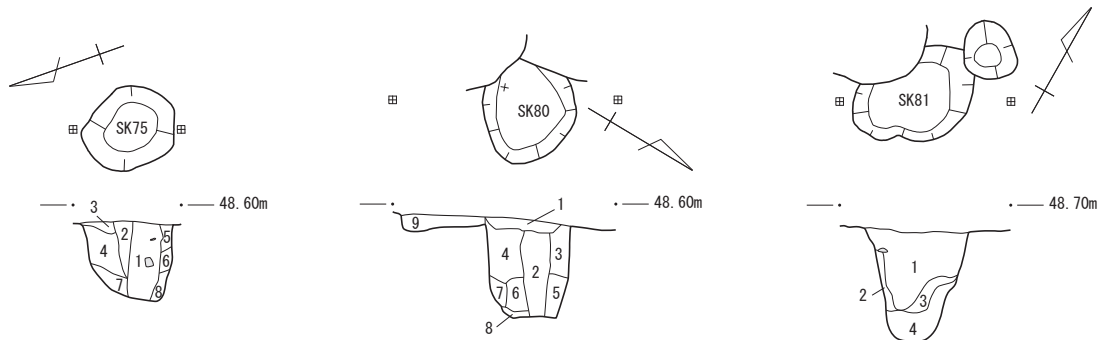
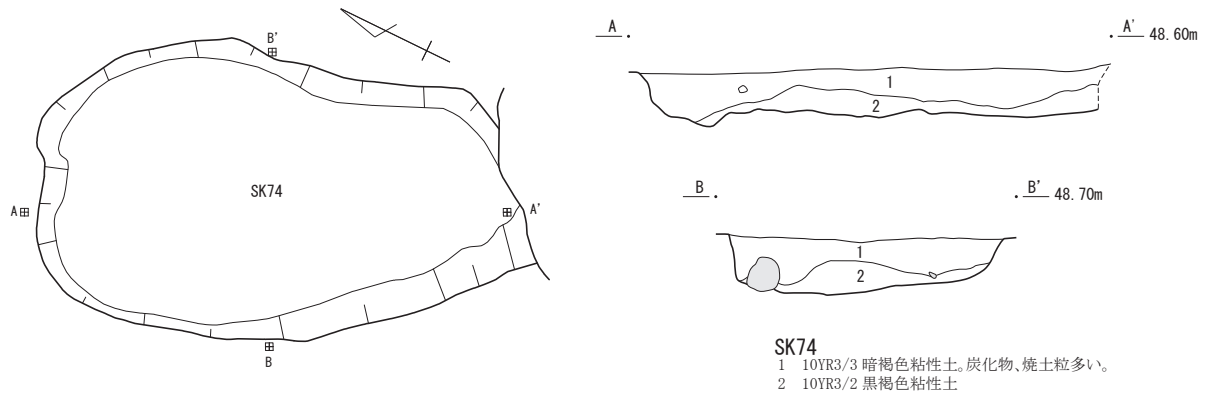
- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト。焼土粒少量。
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト。炭化物少量。
- 4 7.5YR3/2 黒褐色シルト
- 5 10YR4/1 褐灰色粘性土。大礫含む。
- 6 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。
- 7 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト
- 8 10YR3/4 黒褐色シルト
- 9 7.5YR6/6 橙色シルト
- 10 10YR3/3 暗褐色シルト。炭化物多い。
- 11 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。
- 13 10YR5/6 明黄褐色粘土。炭化物少量。
- 14 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物少量。
- 16 7.5YR3/2 黒褐色粘土。炭化物少量。
- 17 10YR4/2 灰黄褐色粘土。炭化物少量。
- 18 10YR2/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 19 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 20 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土
- 21 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 22 10YR2/2 黒褐色粘性土
- 23 10YR5/8 黄褐色粘土
- 6-② 10YR3/2 黒褐色砂質土

SK71 (B-B')

- (1 ~ 11 は A-A' と共通)
- 12 2.5Y7/4 浅黄色シルト
- 13 10YR4/2 灰黄褐色シルト
- 14 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。
- 15 10YR3/3 暗褐色シルト。炭化物多い。土器含む。
- 16 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物少量。
- 17 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物少量。
- 18 10YR3/2 黒褐色細粒砂。炭化物、焼土粒少量。
- 19 10YR2/2 黒褐色粘性土
- 20 10YR3/2 黒褐色シルト
- 21 2.5Y7/6 明黄褐色シルト



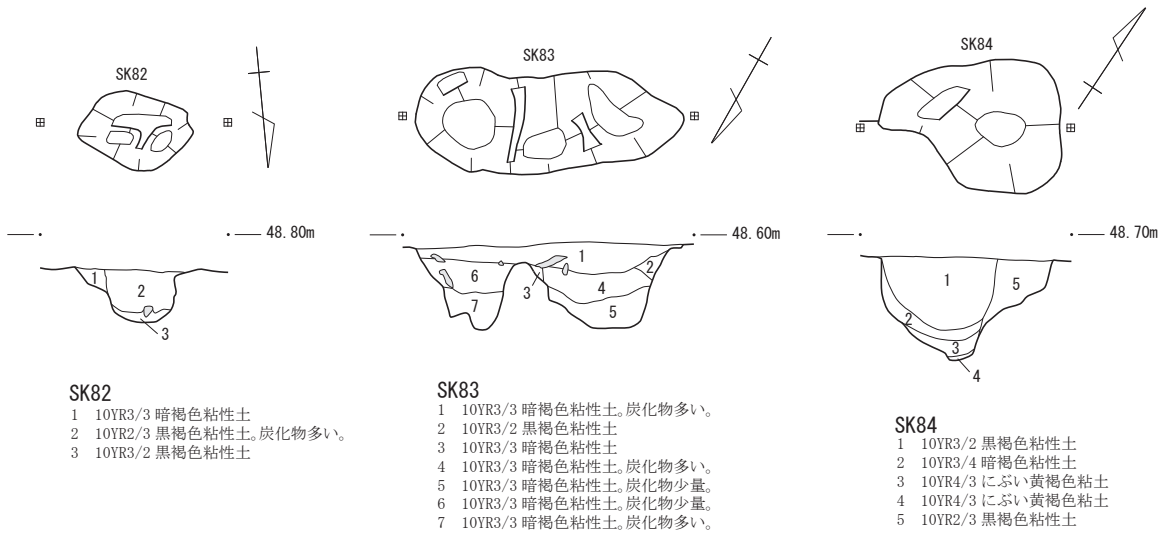
第221 図 3区遺構図23 (3区②)



- SK75**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
 2 10YR3/2 黒褐色粘性土
 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性土
 4 10YR4/4 暗褐色粘性土
 5 10YR3/2 黒褐色粘性土
 6 10YR3/3 暗褐色粘性土
 7 10YR6/6 明黄褐色粘土
 8 10YR3/3 暗褐色粘性土

- SK80**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物少量。
 3 10YR6/6 明黄褐色粘土
 4 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。
 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
 7 10YR6/6 明黄褐色粘土
 8 10YR4/2 灰黄褐色粘性土
 9 10YR2/3 黒褐色粘性土

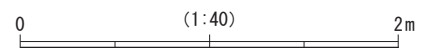
- SK81**
 1 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。
 2 10YR3/3 暗褐色粘性土
 3 10YR2/2 黒褐色粘性土
 4 10YR2/3 黒褐色粘性土



- SK82**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土
 2 10YR2/3 黒褐色粘性土。炭化物多い。
 3 10YR3/2 黒褐色粘性土

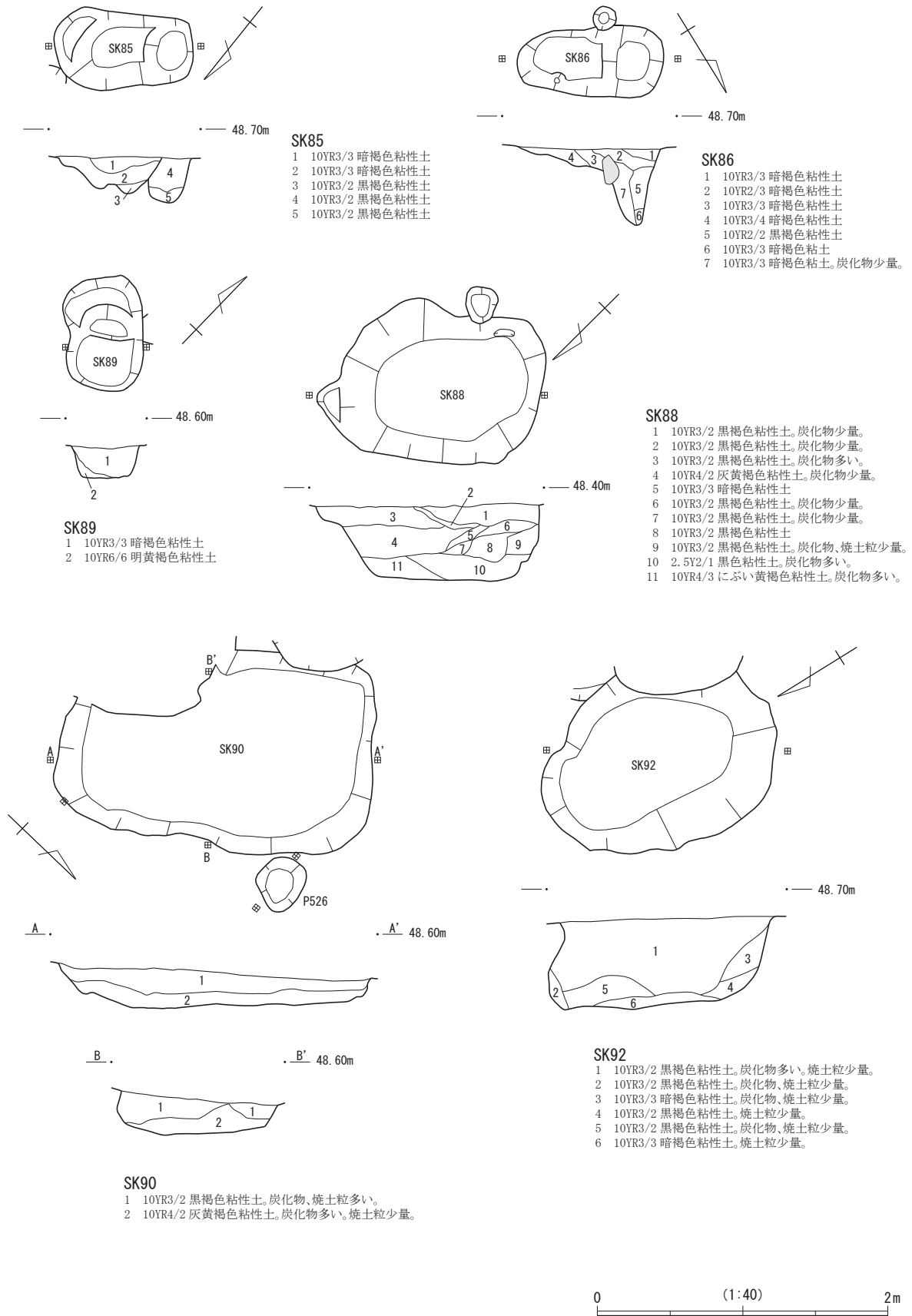
- SK83**
 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。
 2 10YR3/2 黒褐色粘性土
 3 10YR3/3 暗褐色粘性土
 4 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。
 5 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
 6 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
 7 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物多い。

- SK84**
 1 10YR3/2 黒褐色粘性土
 2 10YR3/4 暗褐色粘性土
 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘土
 5 10YR2/3 黒褐色粘性土

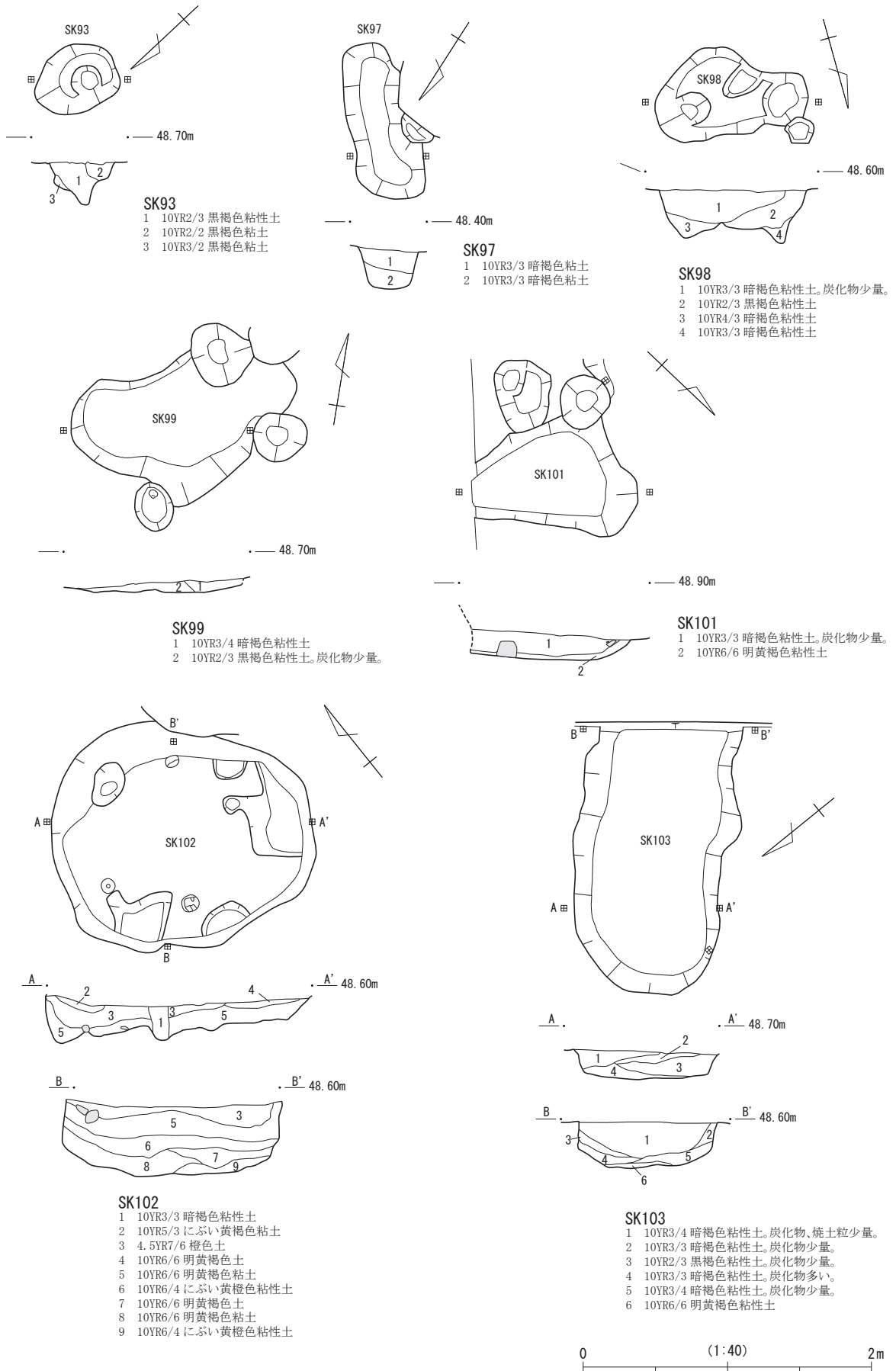


第222図 3区遺構図24 (3区②)

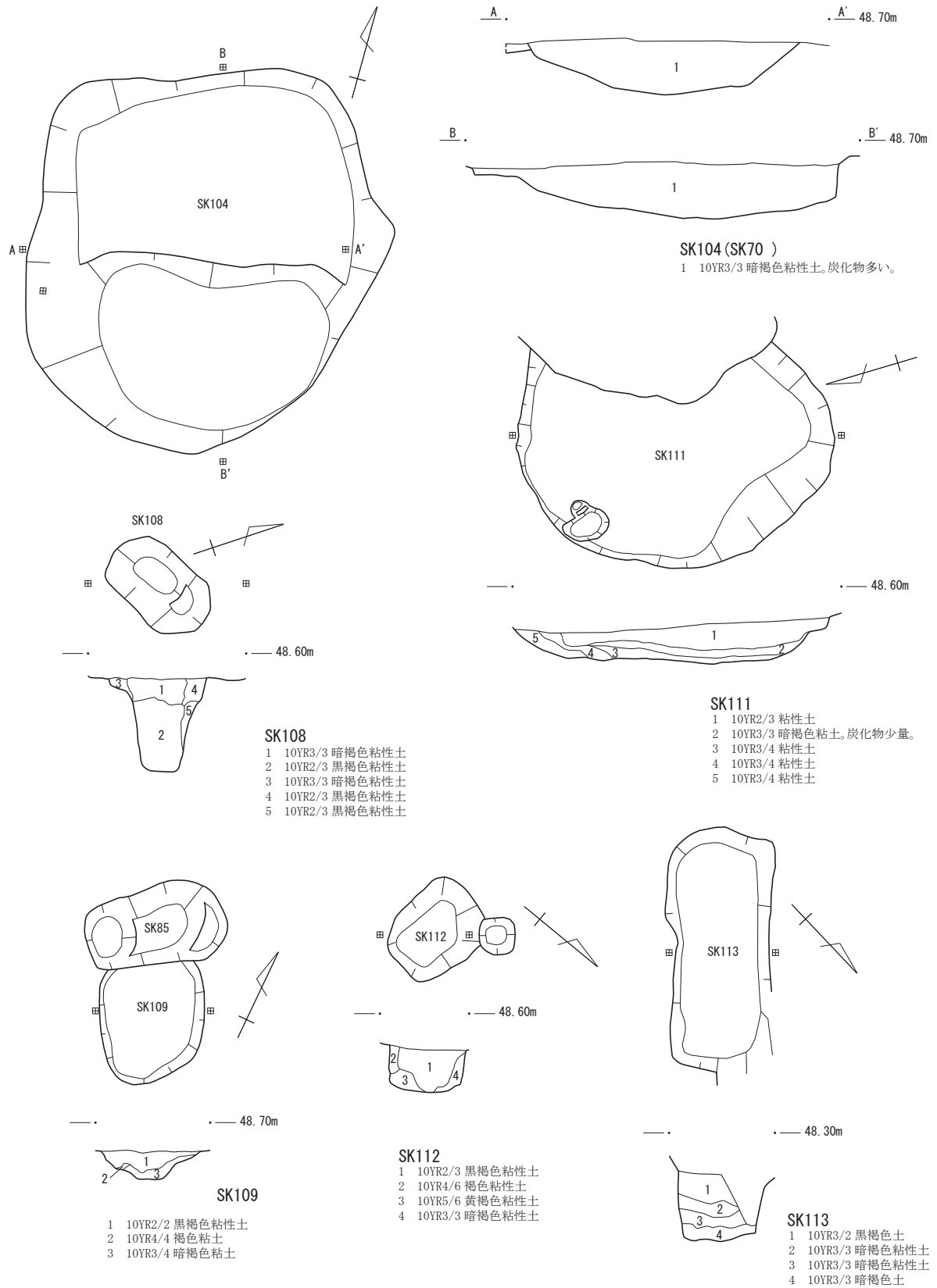
第3章 調査の成果



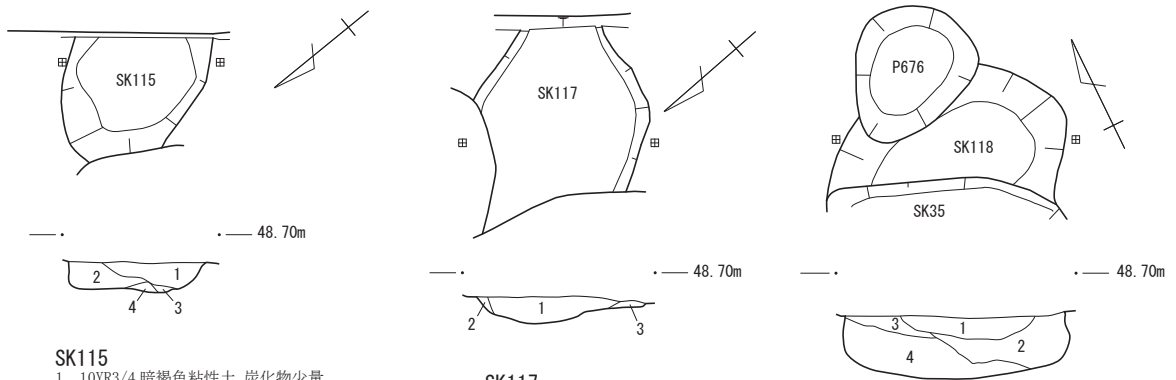
第223図 3区遺構図25 (3区②)



第224図 3区遺構図26 (3区②)



第225図 3区遺構図27 (3区②)



SK115

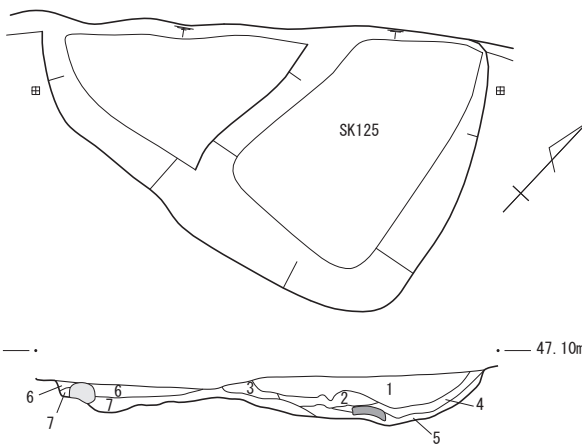
- 1 10YR3/4 暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性土
- 3 10YR4/4 褐色粘性土
- 4 10YR6/6 明黄褐色粘性土

SK117

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 2 10YR3/4 暗褐色粘性土
- 3 10YR3/3 暗褐色粘性土

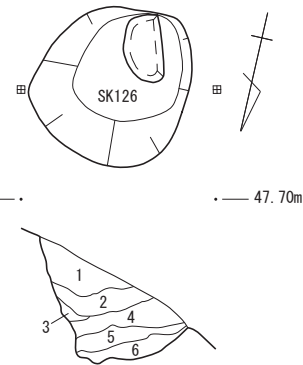
SK118

- 1 10YR3/2 黒褐色粘性土
- 2 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 3 10YR2/3 黒褐色粘性土
- 4 10YR2/2 黒色粘性土



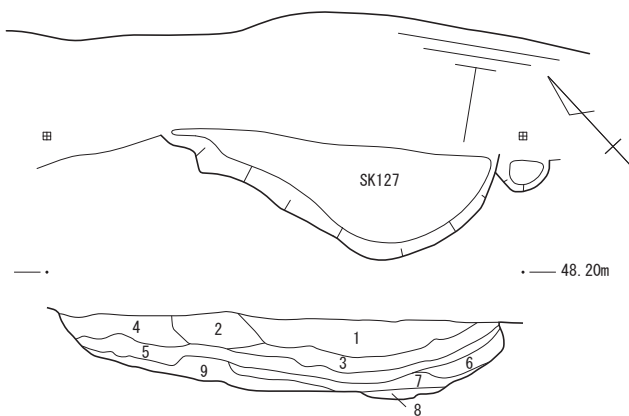
SK125

- 1 10YR3/1 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 2 10YR2/1 黒色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物少量。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 5 10YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。
- 6 2.5Y4/1 黄灰色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 7 2.5Y3/1 黄褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。



SK126

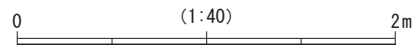
- 1 10YR2/3 黒褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。
- 2 10YR6/6 明黄褐色シルト。焼土粒少量。
- 3 7.5YR5/6 明褐色シルト。焼土粒少量。
- 4 10YR2/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
- 5 10YR6/6 明褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 6 10YR2.5/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。



SK127

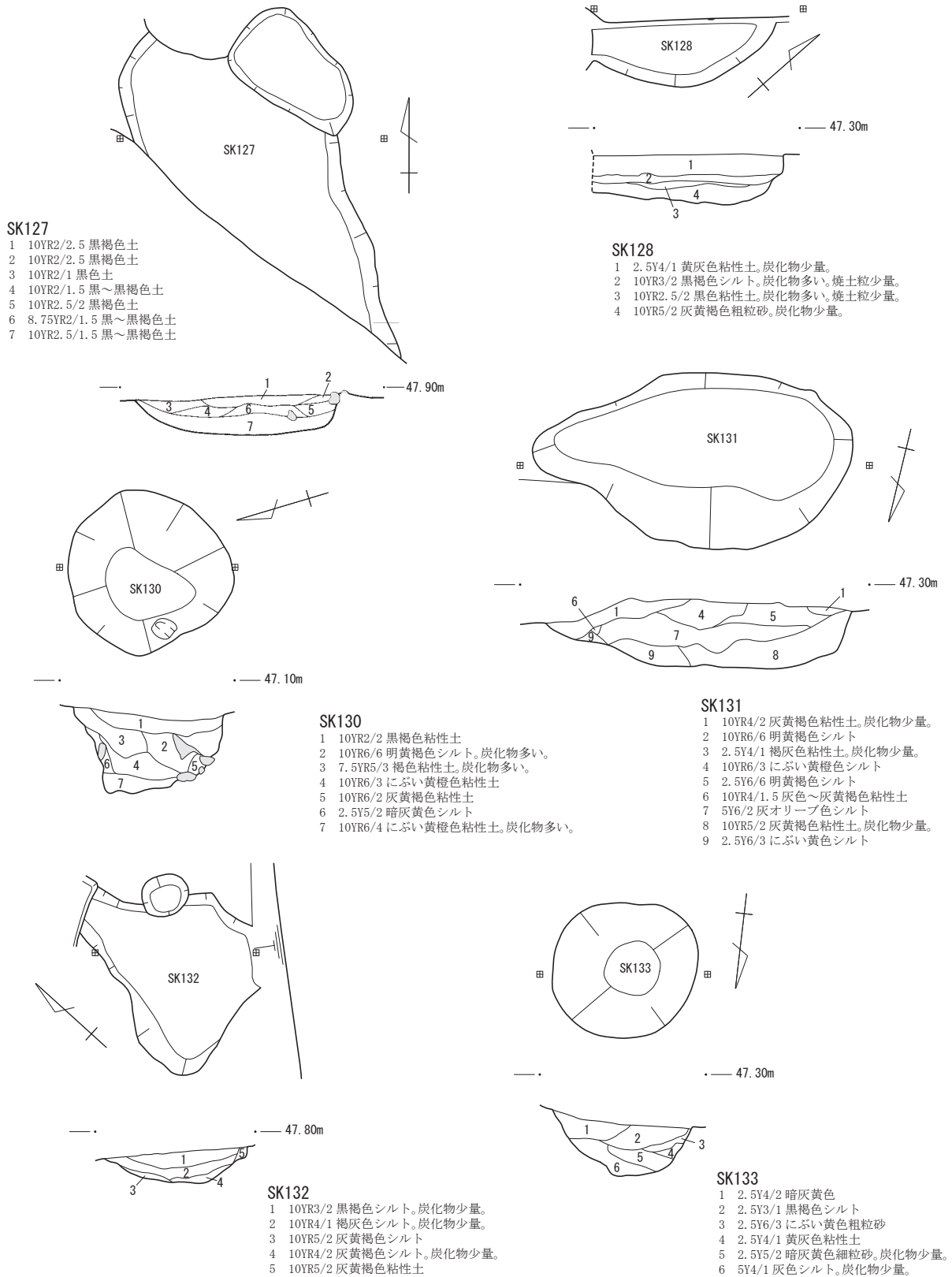
- 1 10YR3/4 粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。
- 2 10YR3/4 粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 3 10YR3/4 粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。
- 4 10YR3/4 粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 5 N1.5/0 黒灰土。炭化物、焼土粒多い。
- 6 10YR3/4 粗粒砂
- 7 10YR3/4 土褐色土。炭化物、焼土粒少量。
- 8 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 9 10YR2/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。

SK115-118 : ②区
SK125-127 : ④区

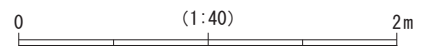


第226図 3区遺構図28

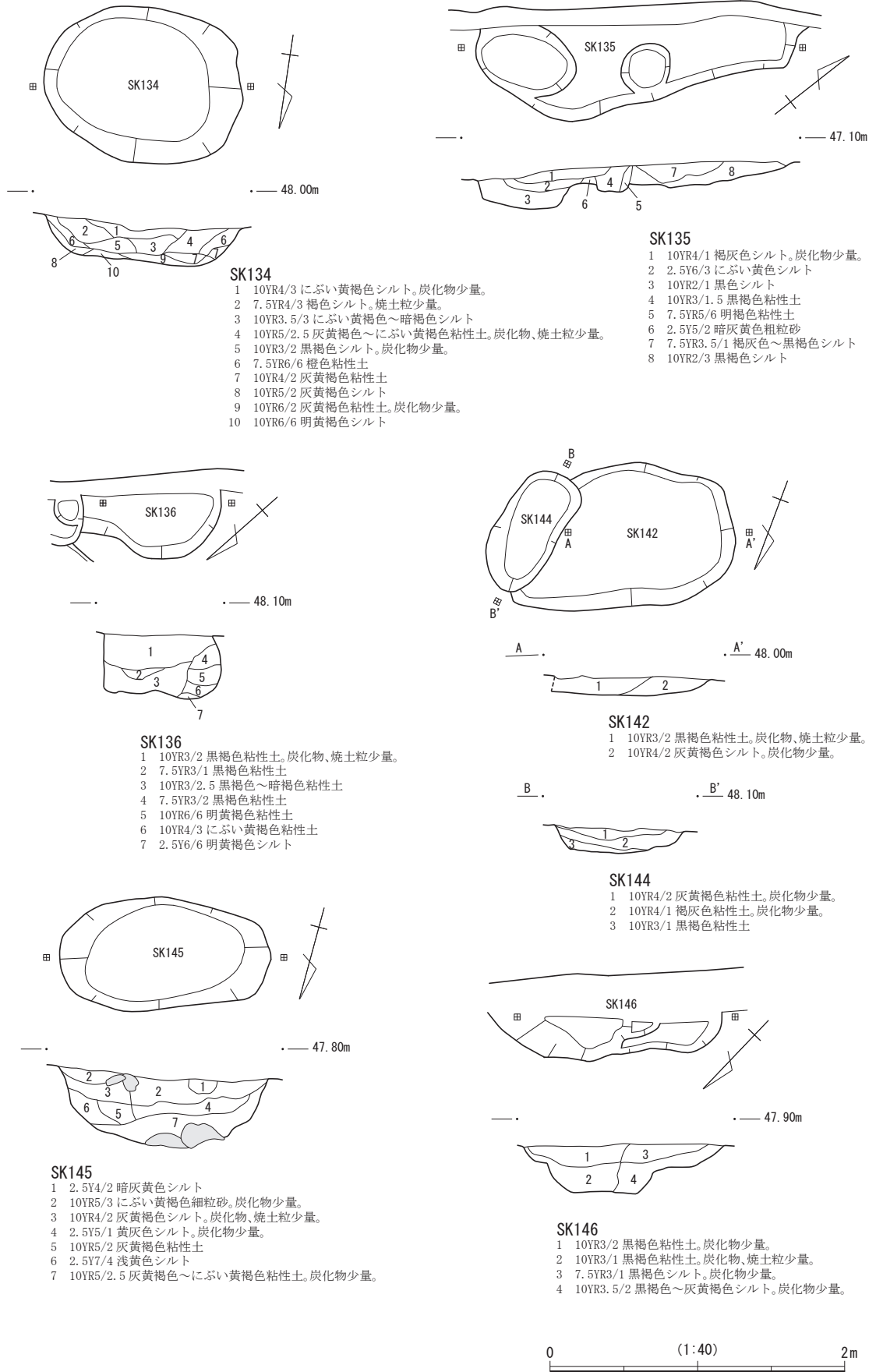
第3章 調査の成果



SK127 : 3③区
 SK128-133 : 3④区

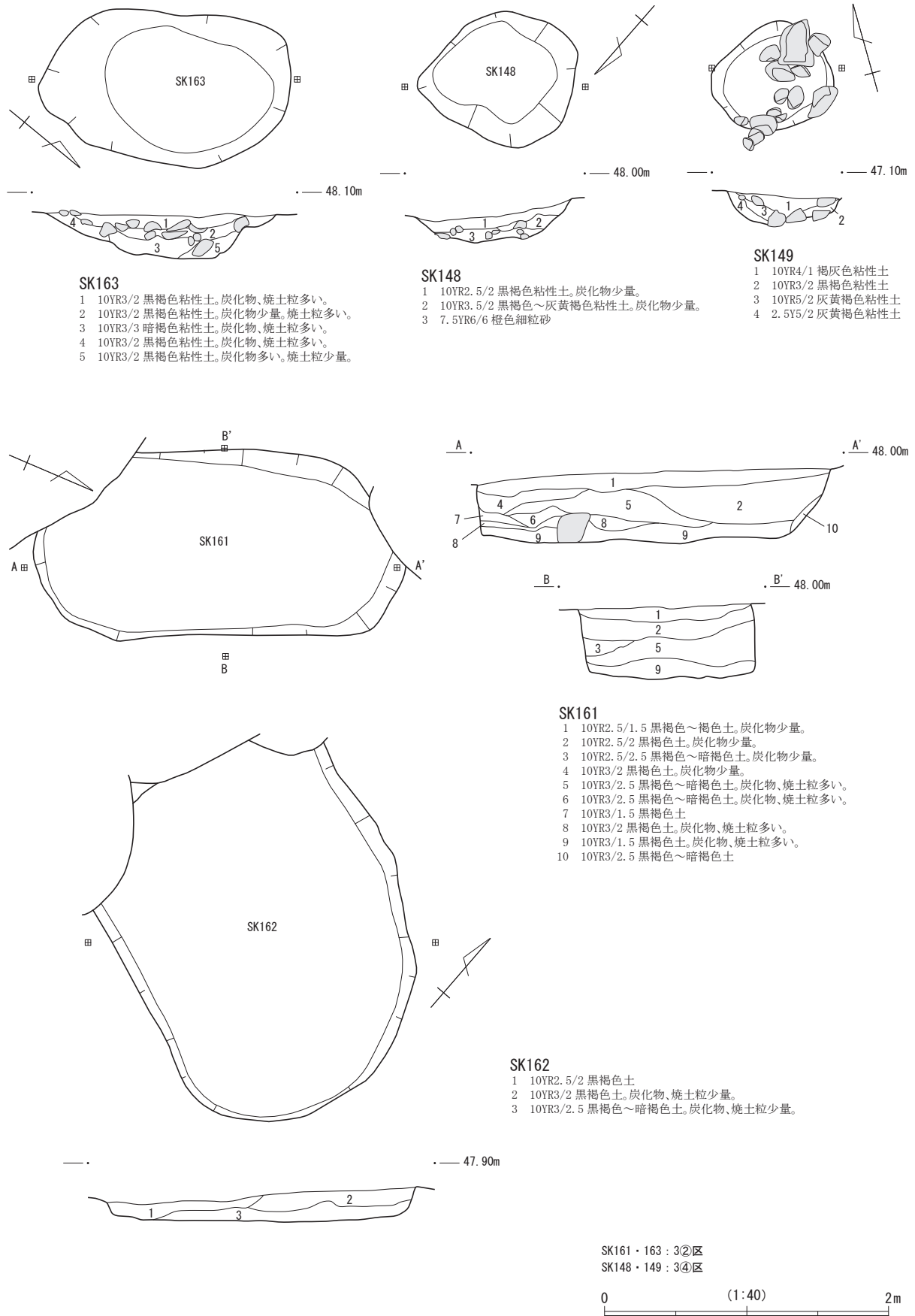


第227図 3区遺構図29

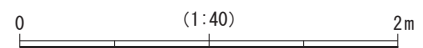
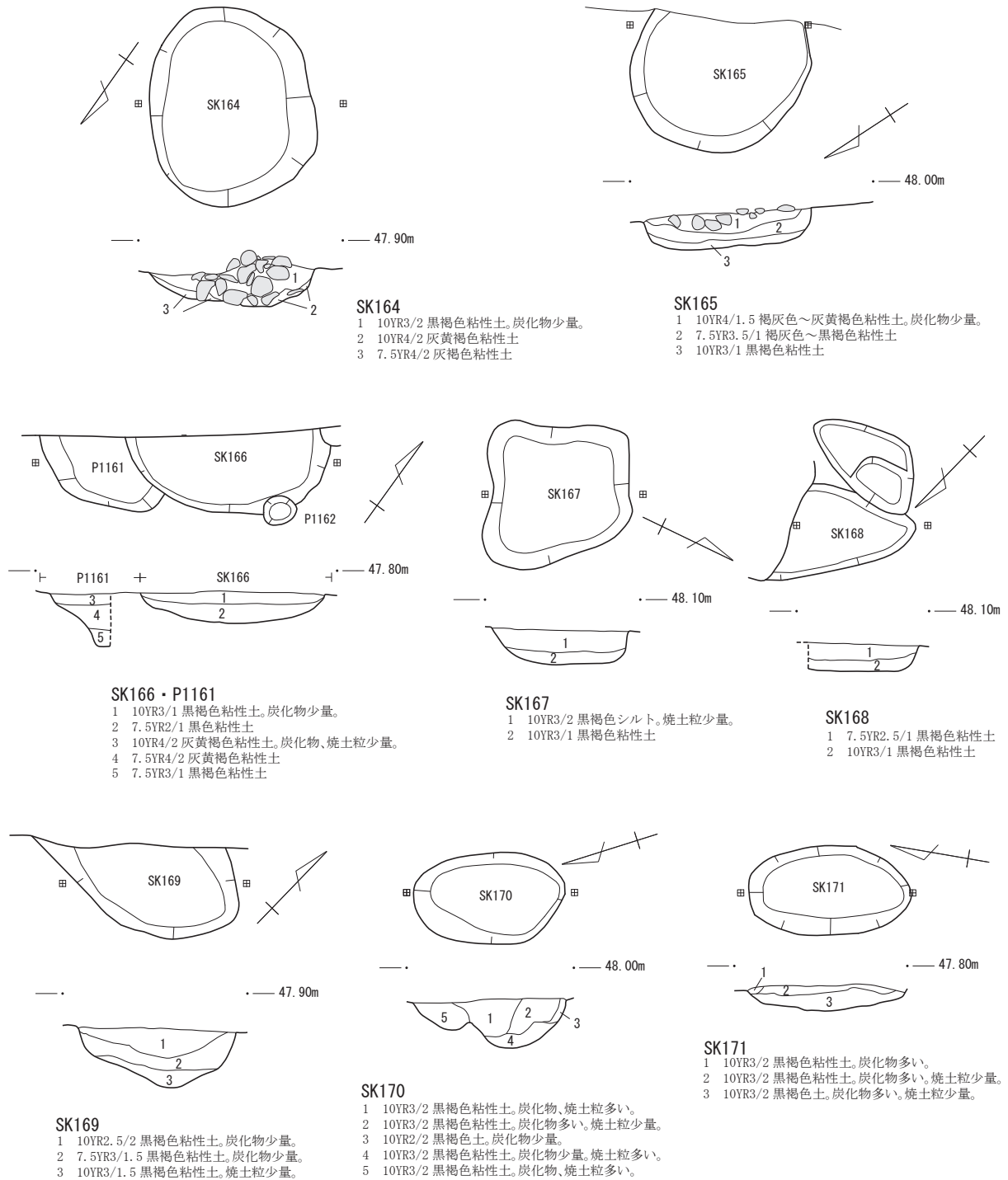


第228図 3区遺構図30 (3区④)

第3章 調査の成果

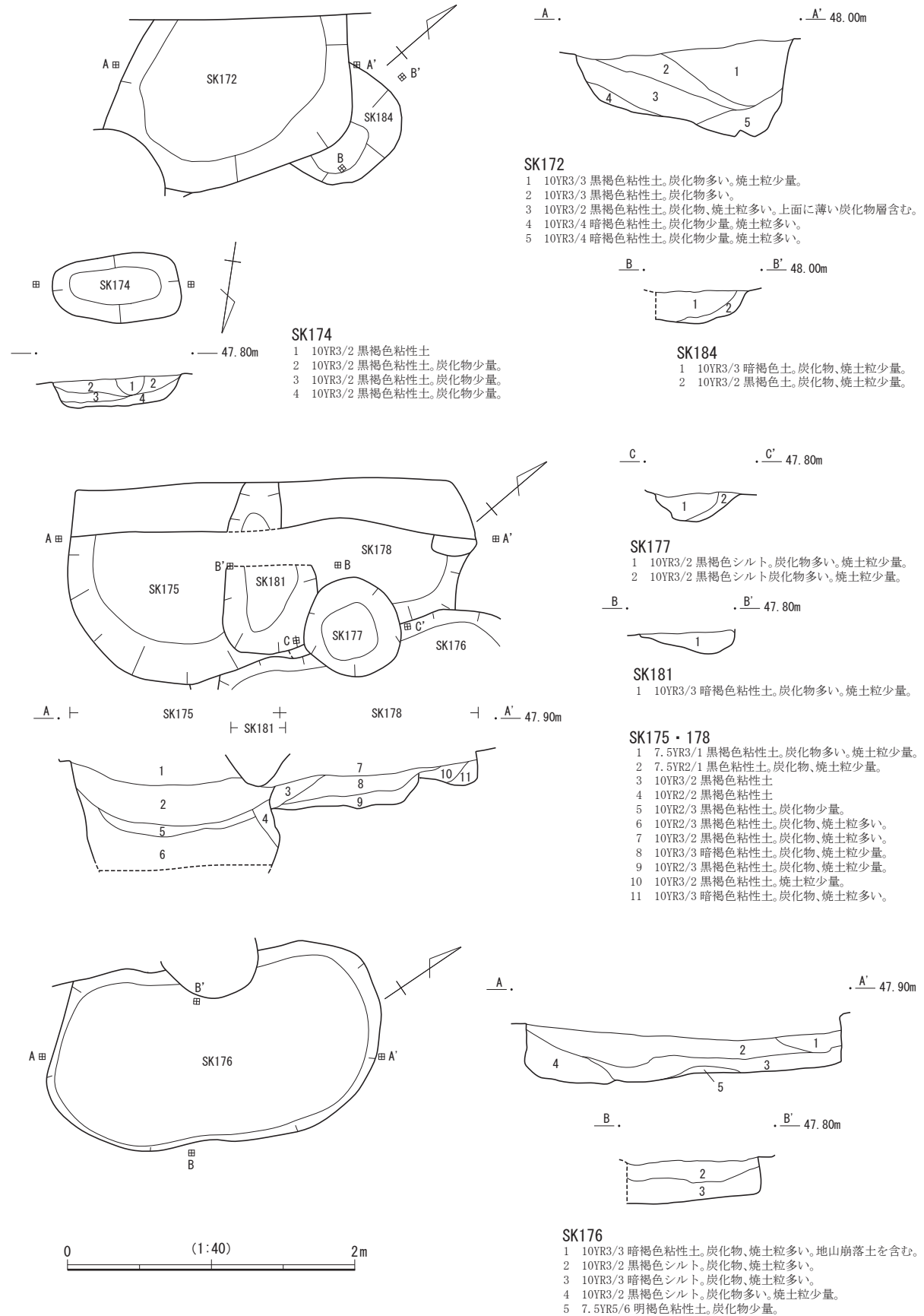


第229図 3区遺構図31

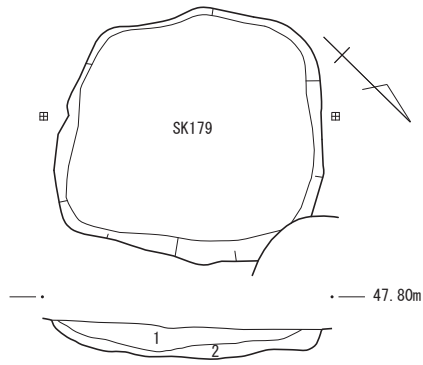


第230図 3区遺構図32 (3区②)

第3章 調査の成果

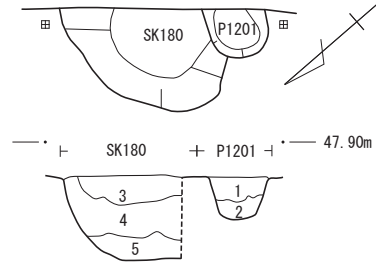


第231図 3区遺構図33 (3区②)



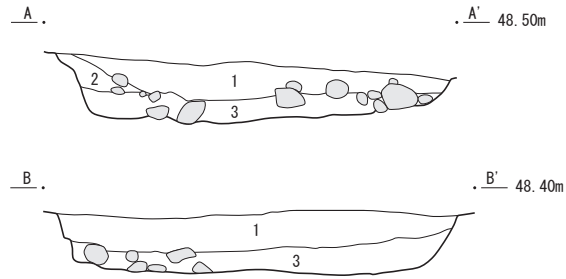
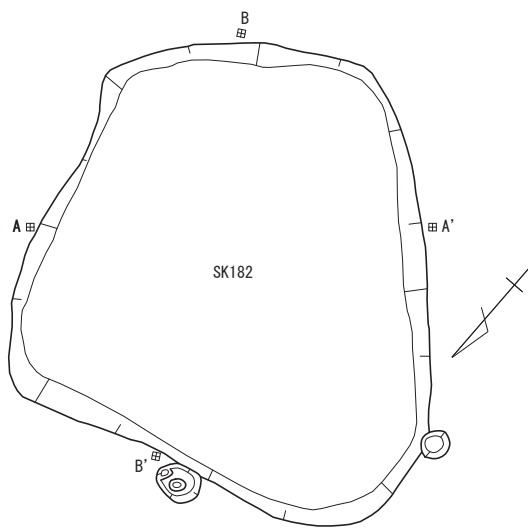
SK179

- 1 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
- 2 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。



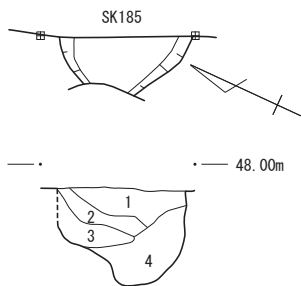
SK180, P1201

- 1 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物少量。
- 2 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。
- 3 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色土。炭化物多い、焼土粒少量。
- 5 10YR3/3 暗褐色シルト。炭化物少量。



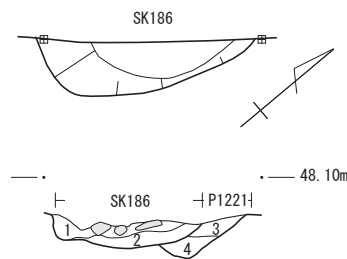
SK182

- 1 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト。炭化物少量、焼土粒多い。
- 3 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物多い、焼土粒少量。



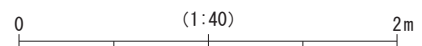
SK185

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 3 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 4 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。

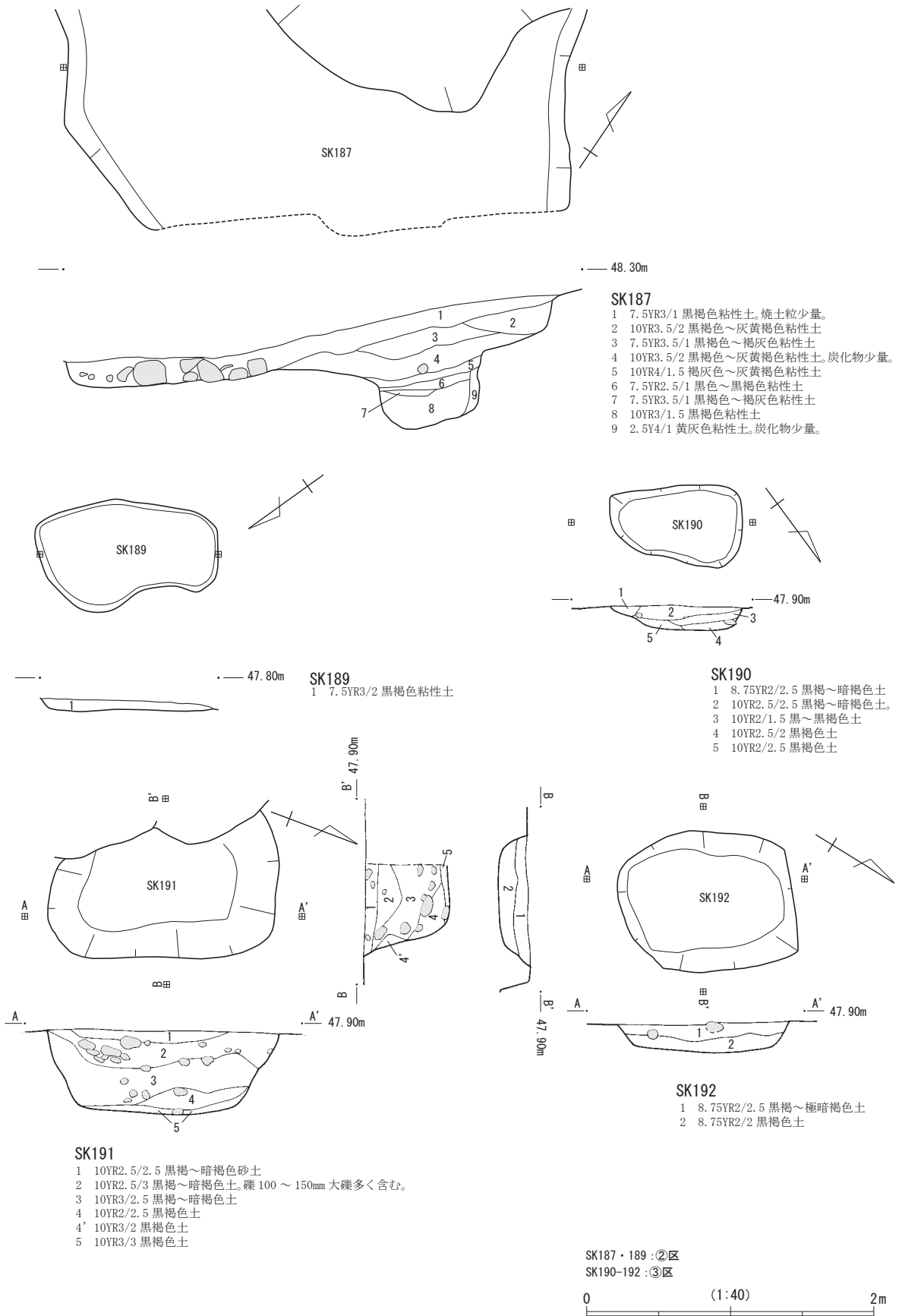


SK186・P1221

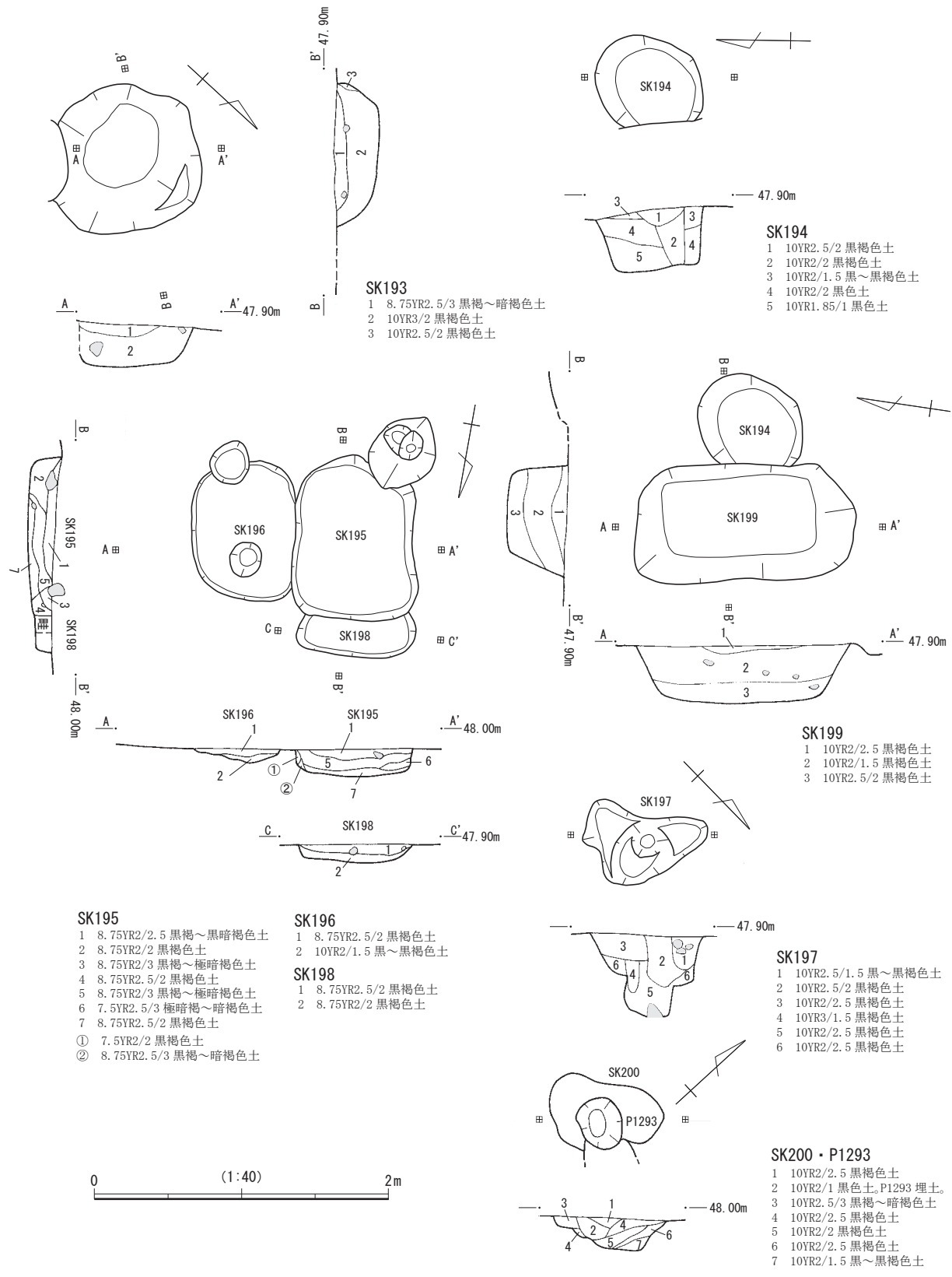
- 1 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性土。炭化物少量。
- 3 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。
- 4 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。



第232図 3区遺構図34 (3区②)

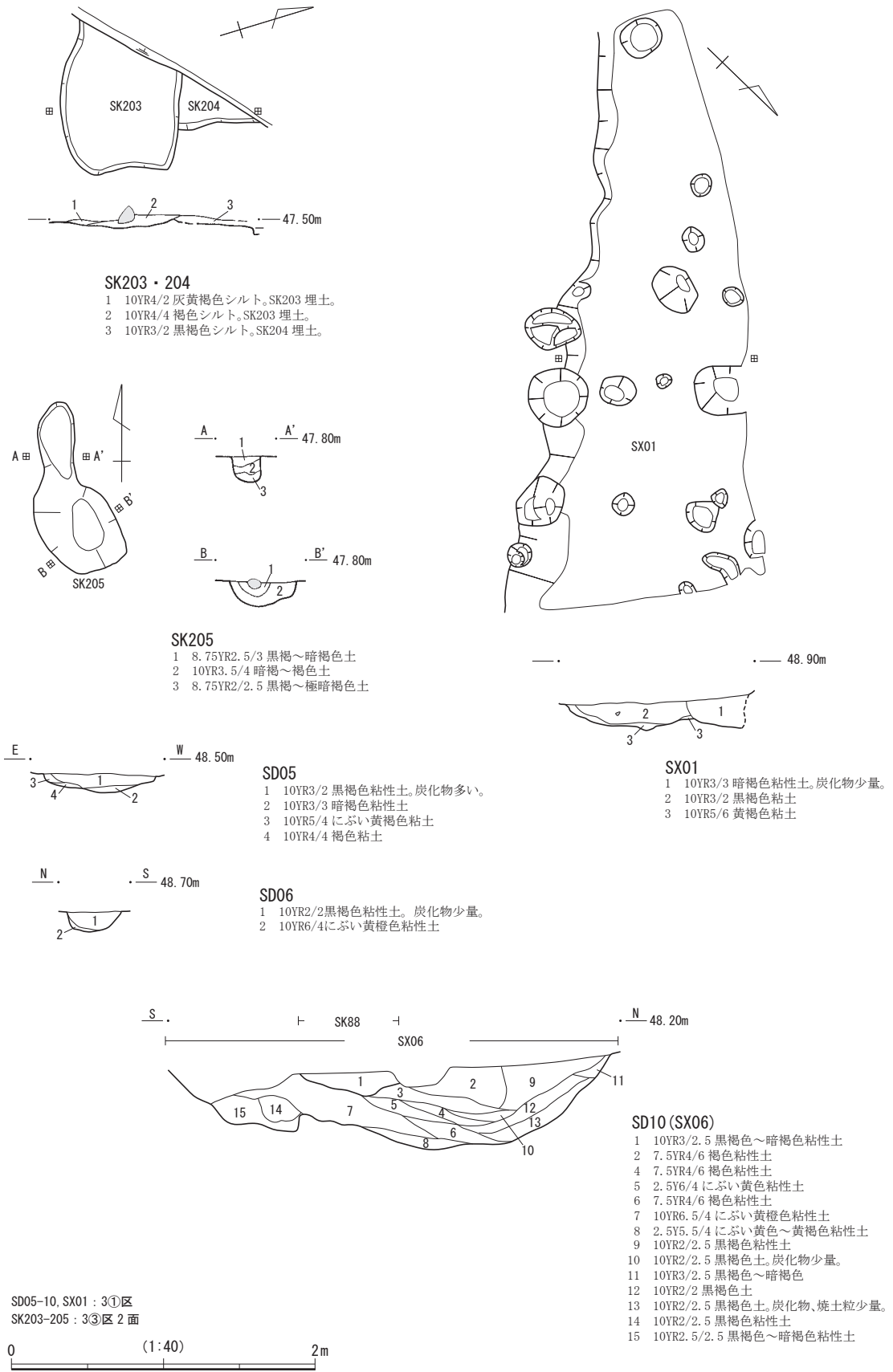


第233図 3区遺構図35

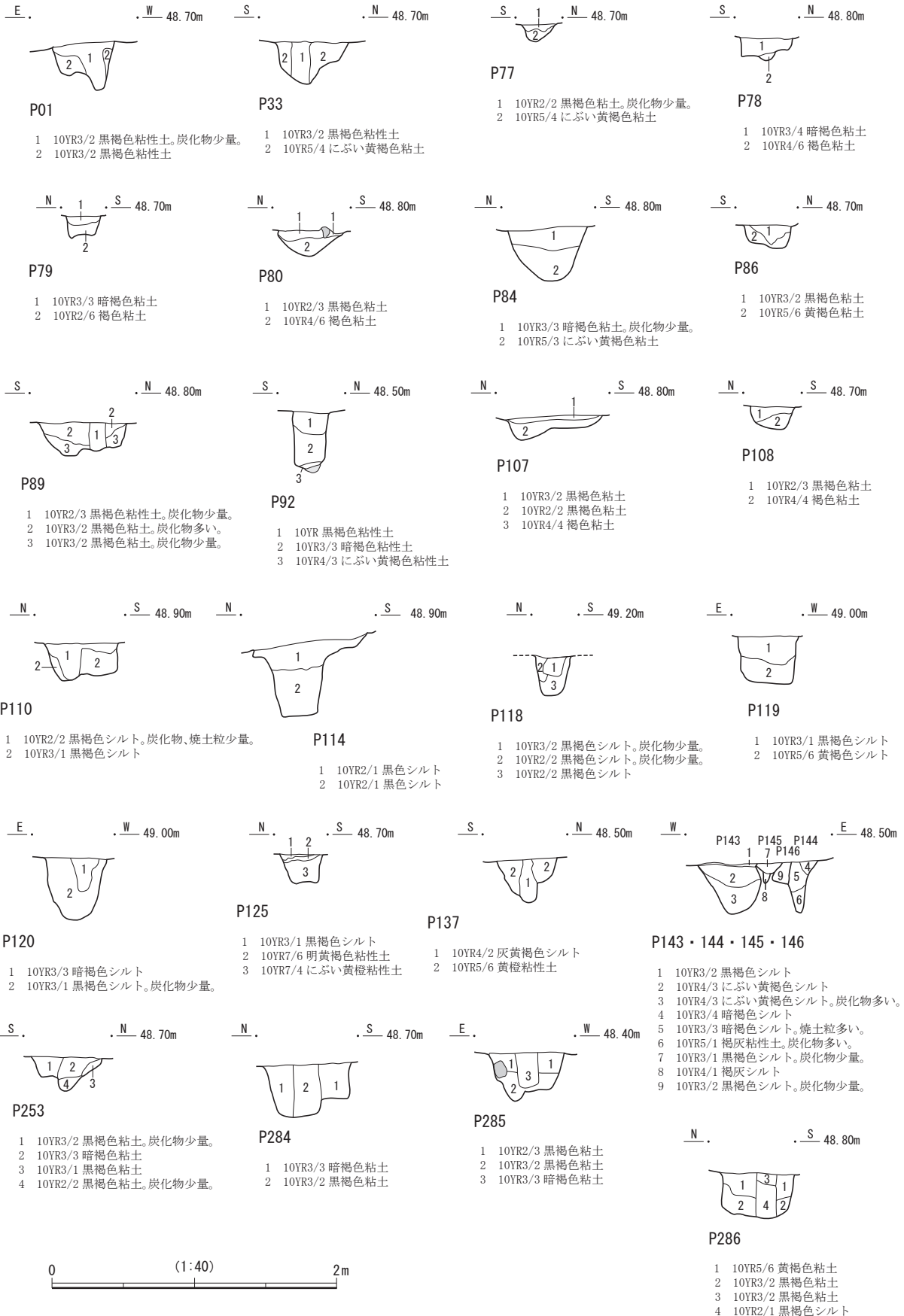


第234図 3区遺構図36(3区③)

第3章 調査の成果

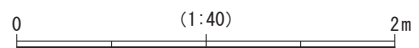
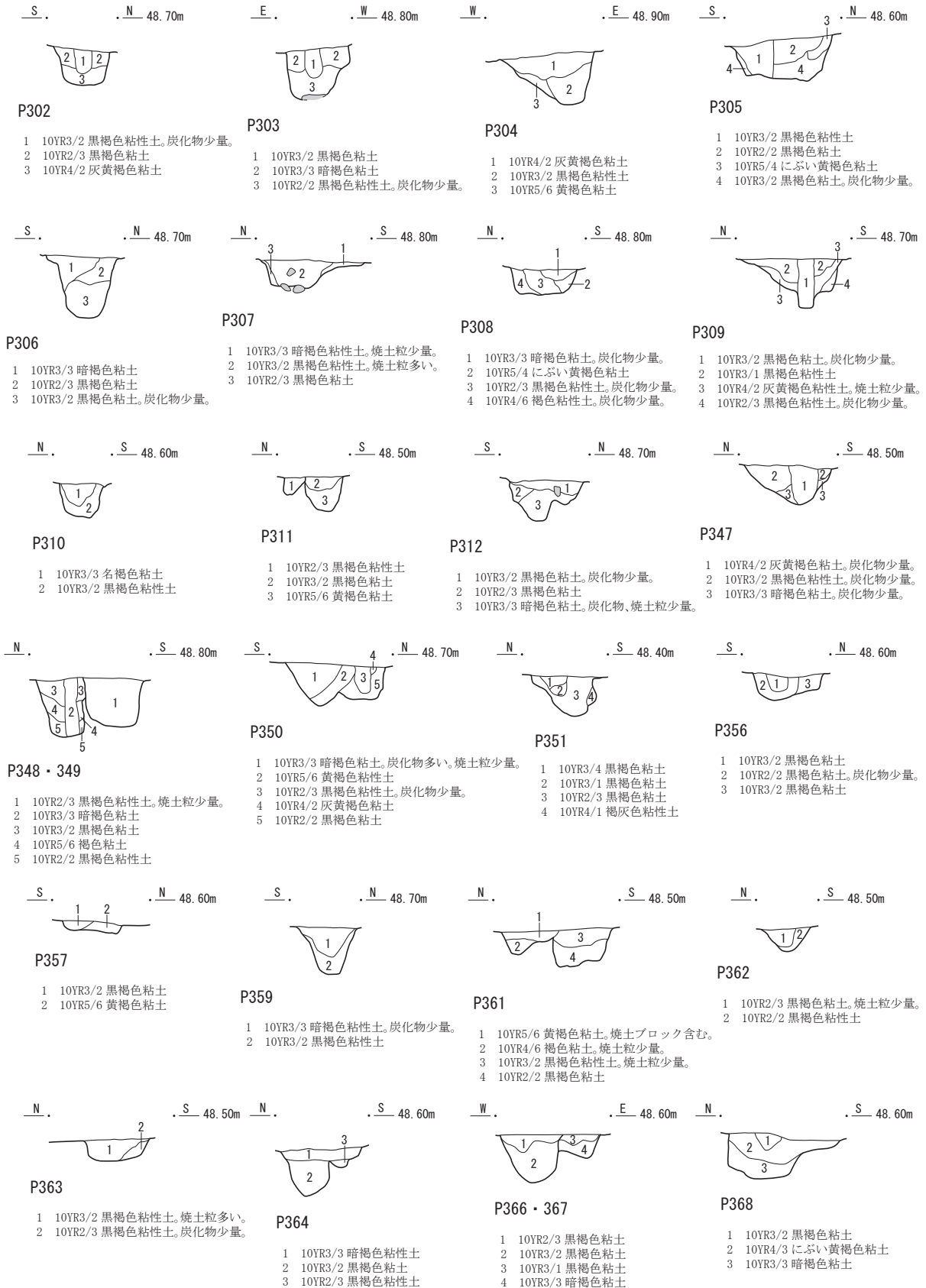


第 235 図 3 区遺構図 37

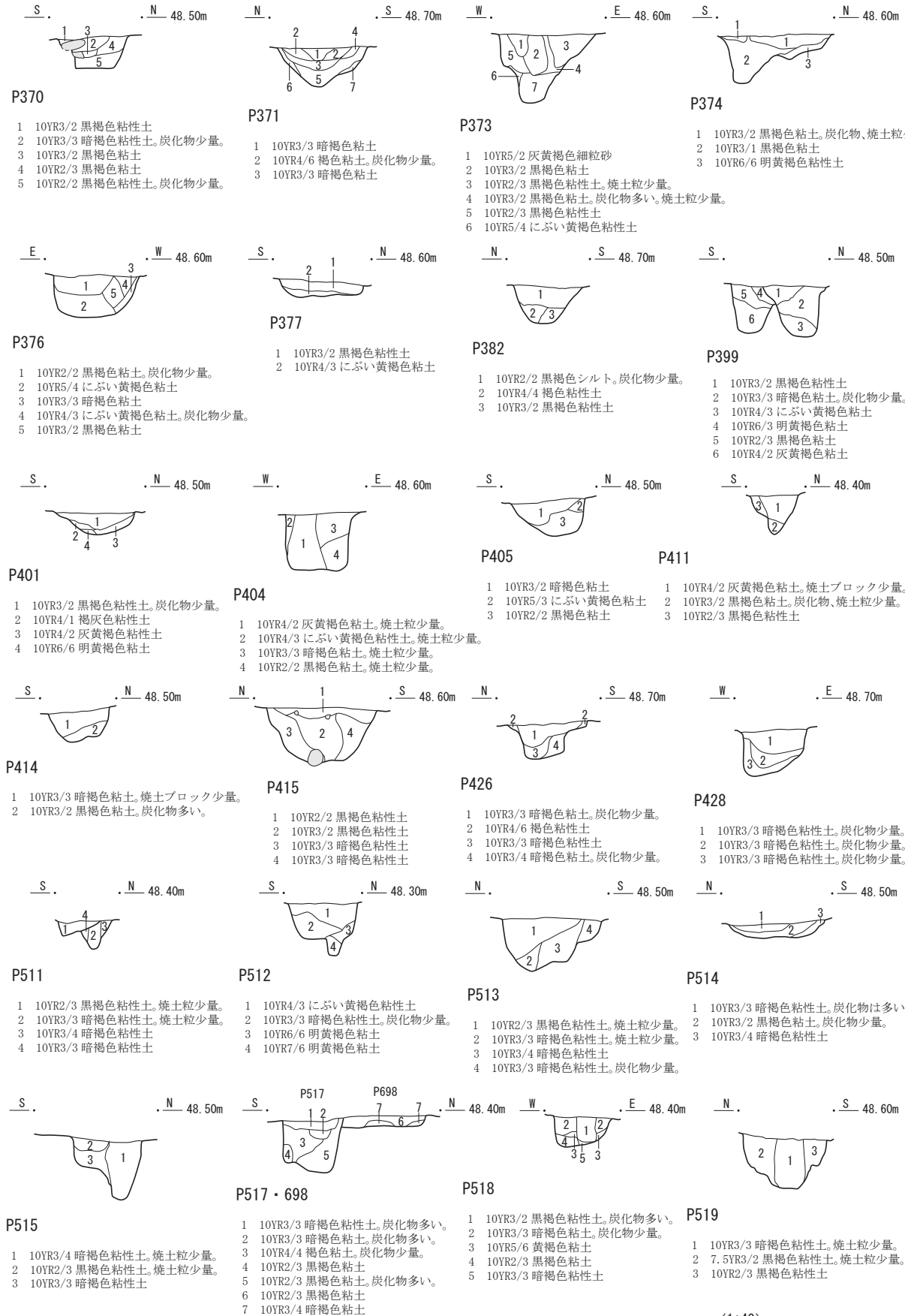


第236図 3区遺構図38

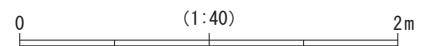
第3章 調査の成果



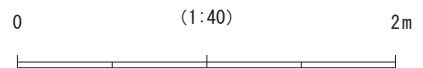
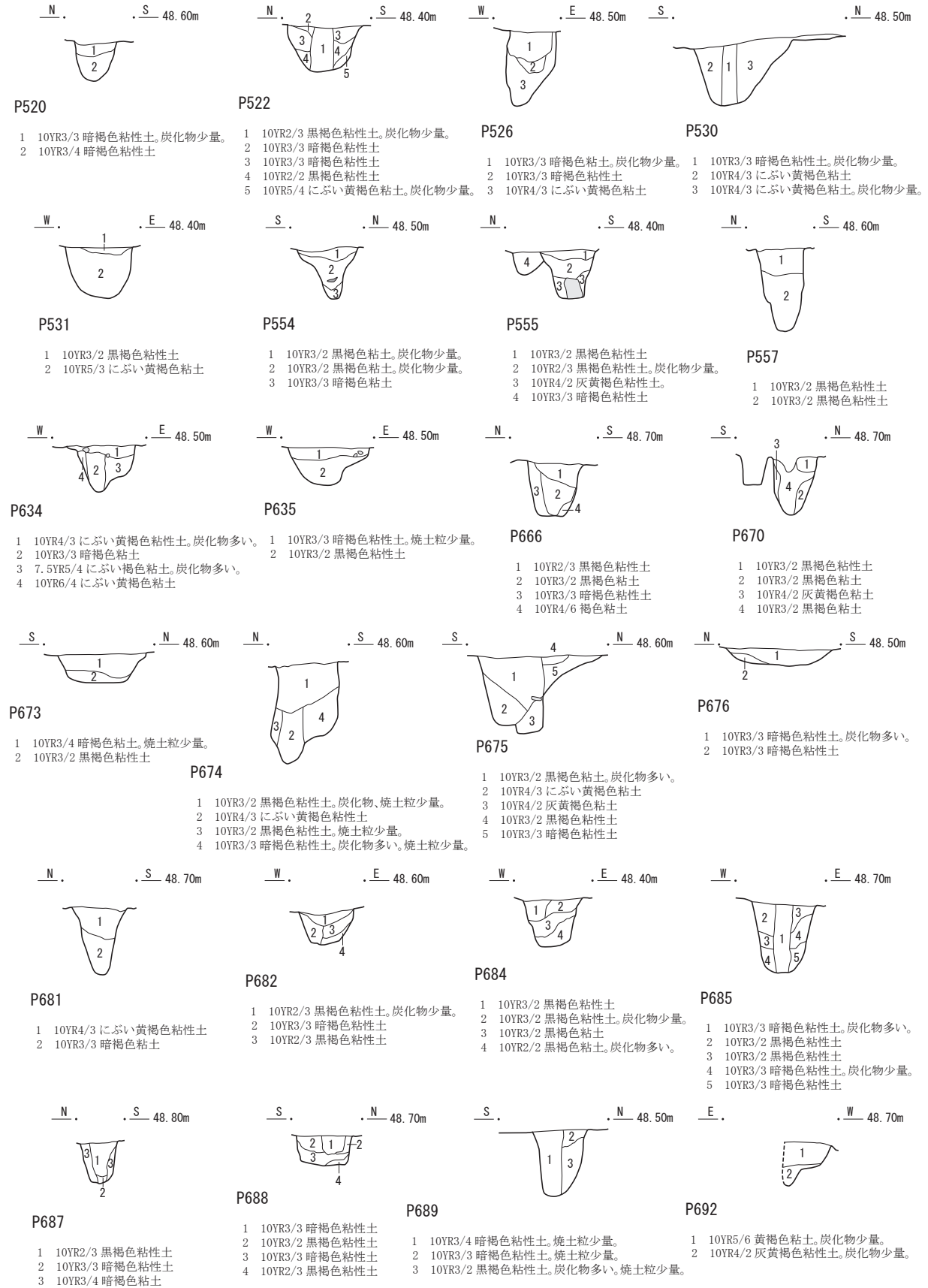
第237図 3区遺構図39



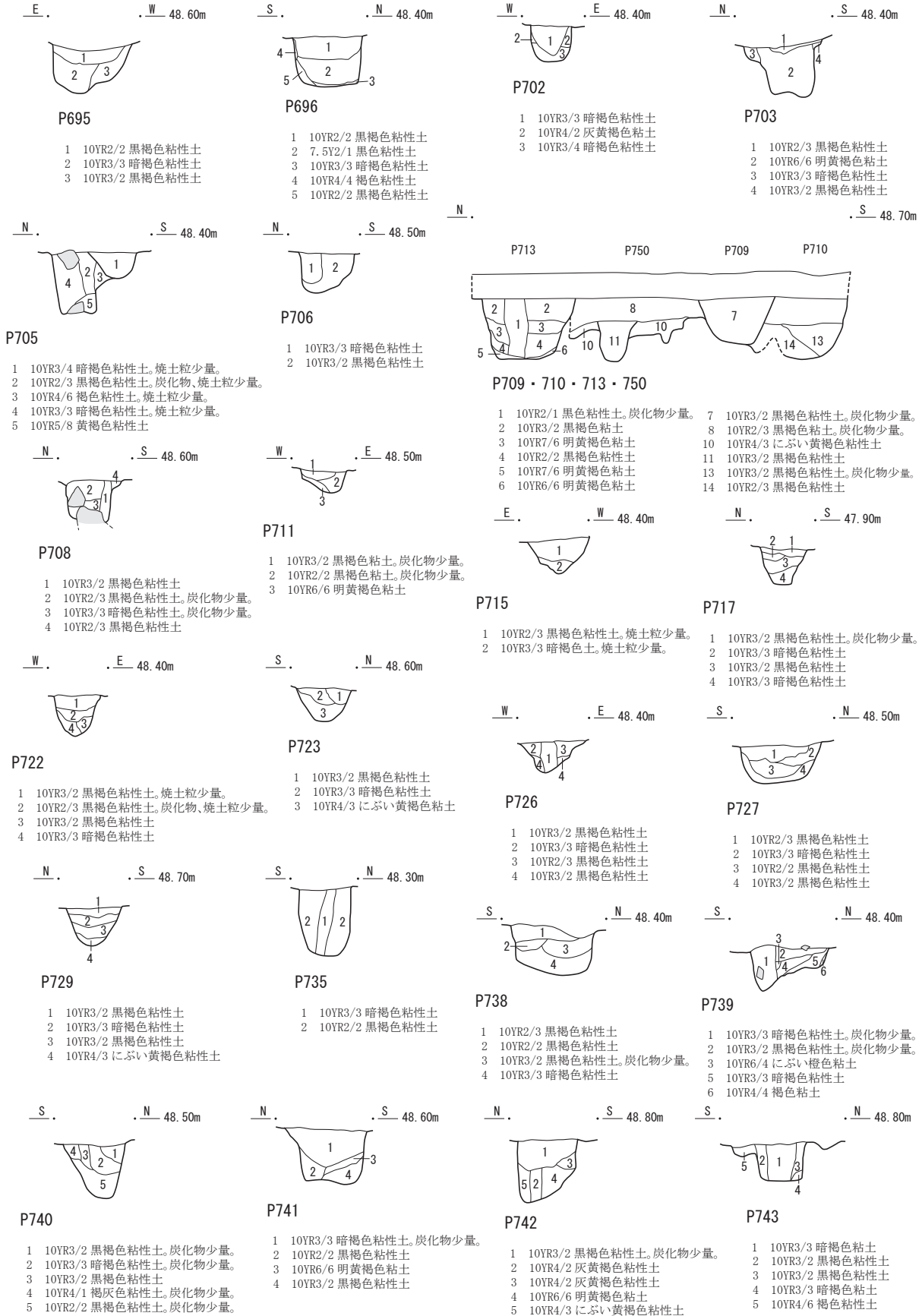
第238図 3区遺構図40



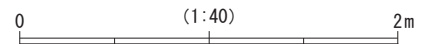
第3章 調査の成果



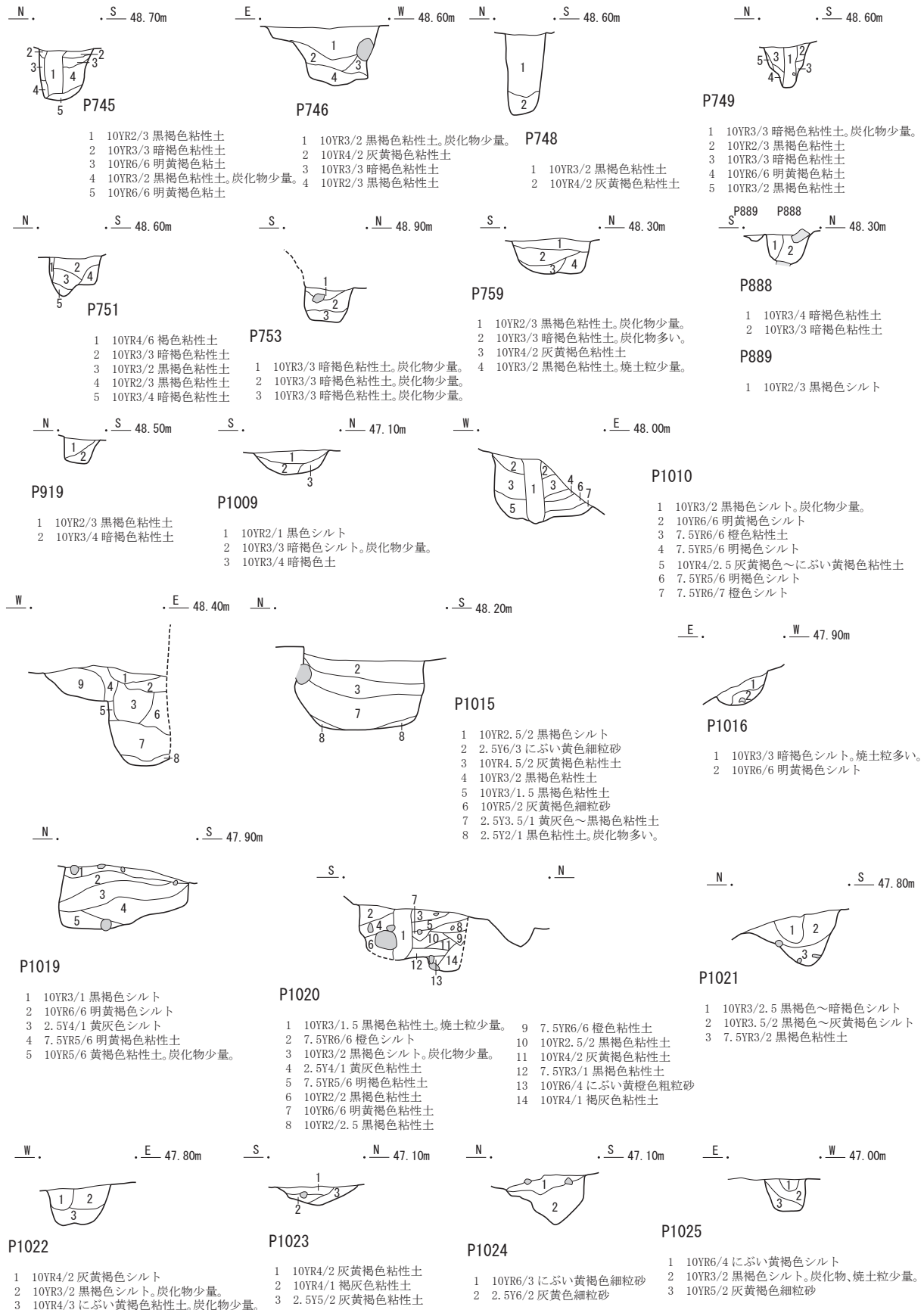
第239図 3区遺構図41



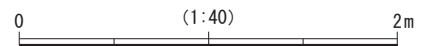
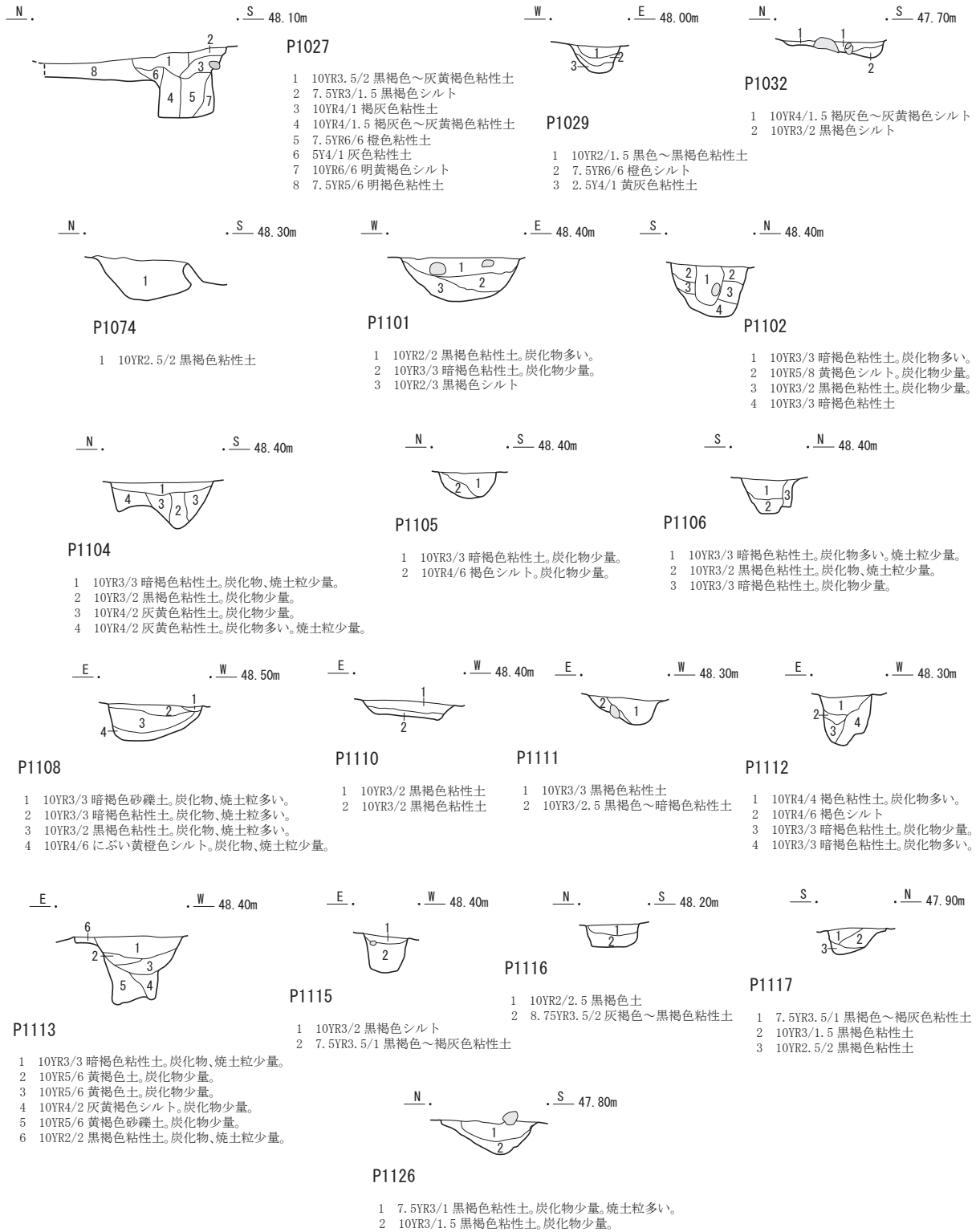
第240図 3区遺構図42



第3章 調査の成果

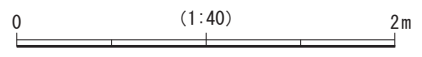
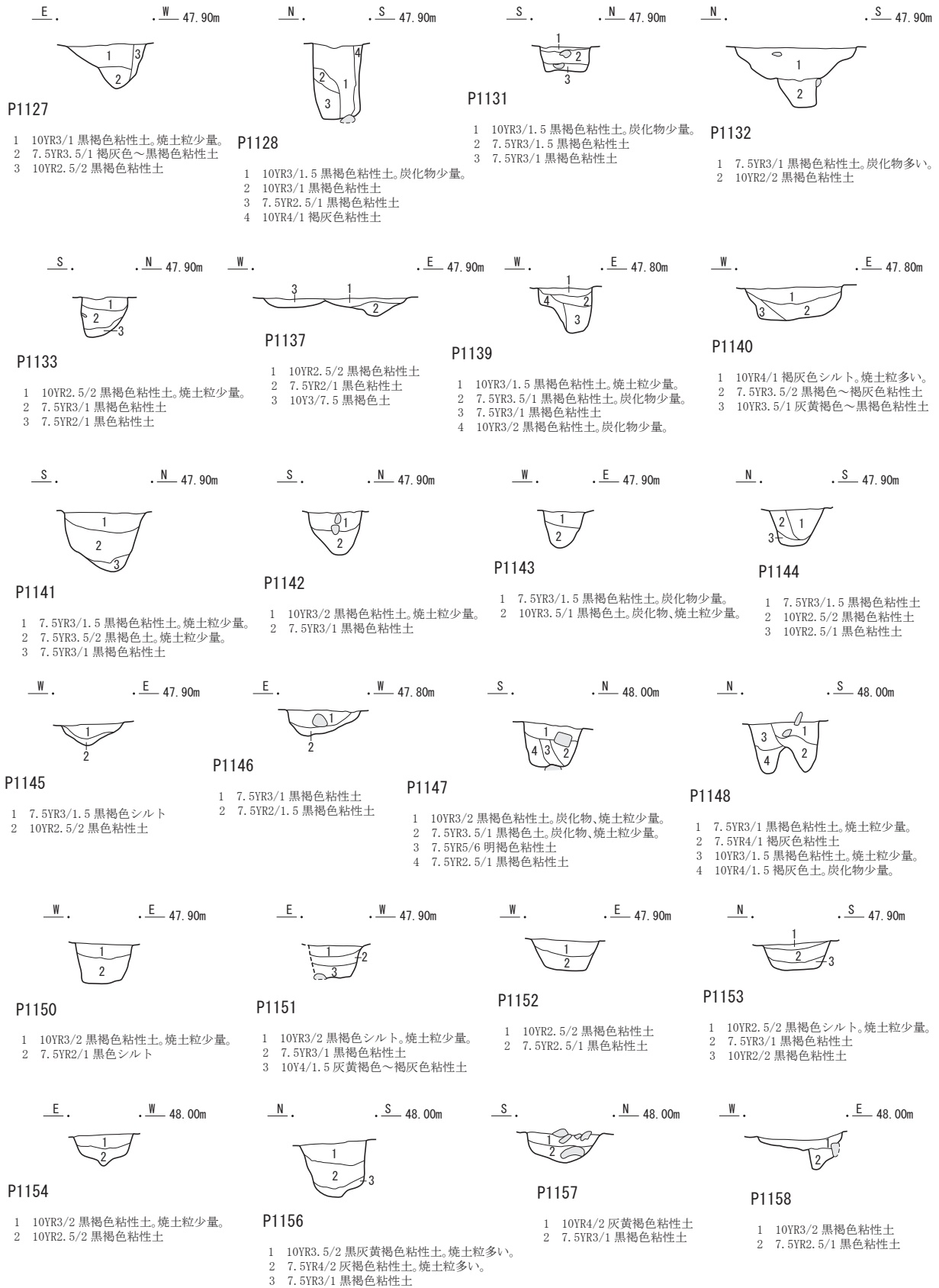


第241図 3区遺構図43

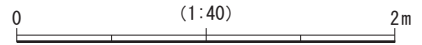
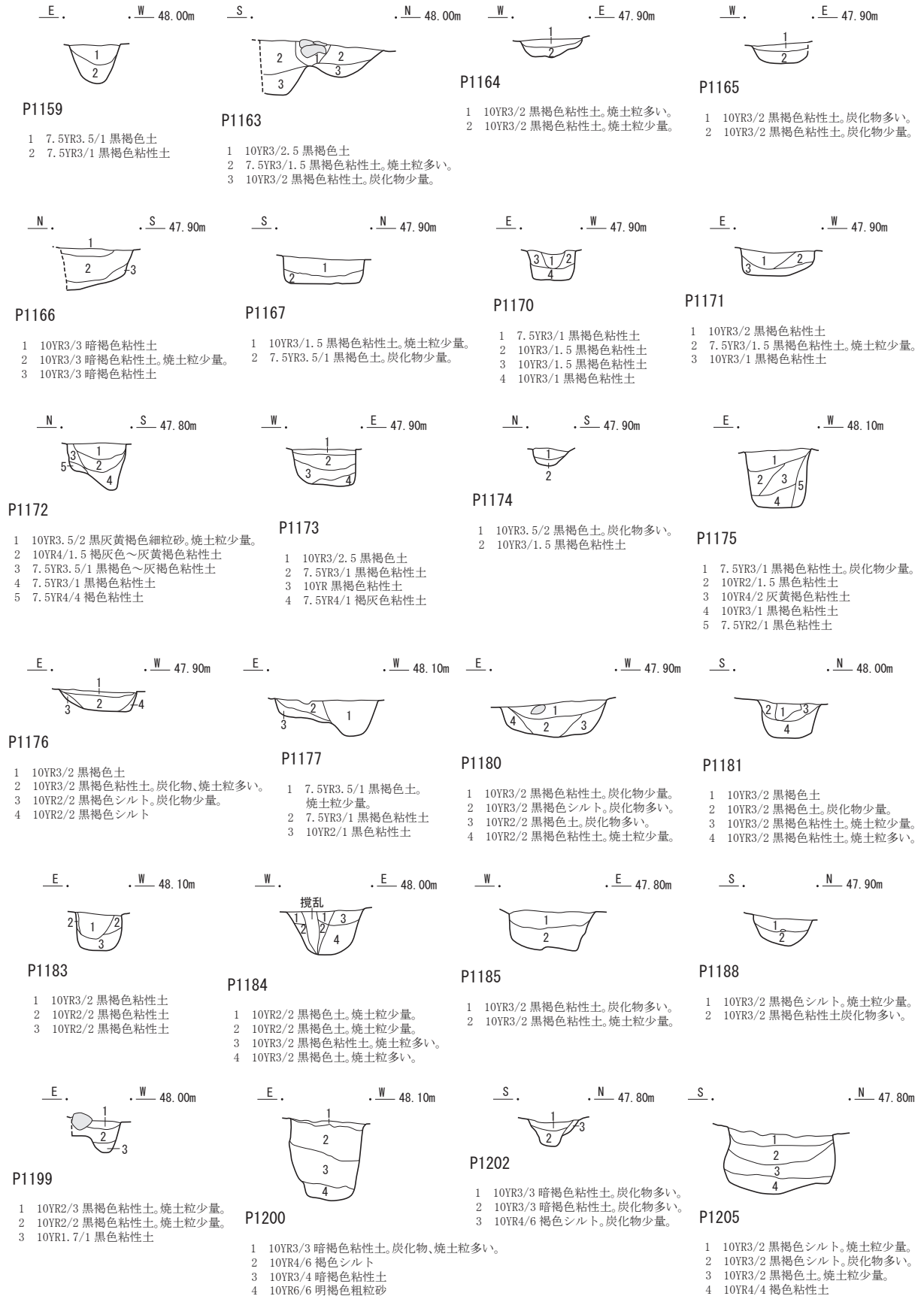


第242図 3区遺構図44

第3章 調査の成果

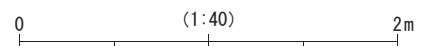
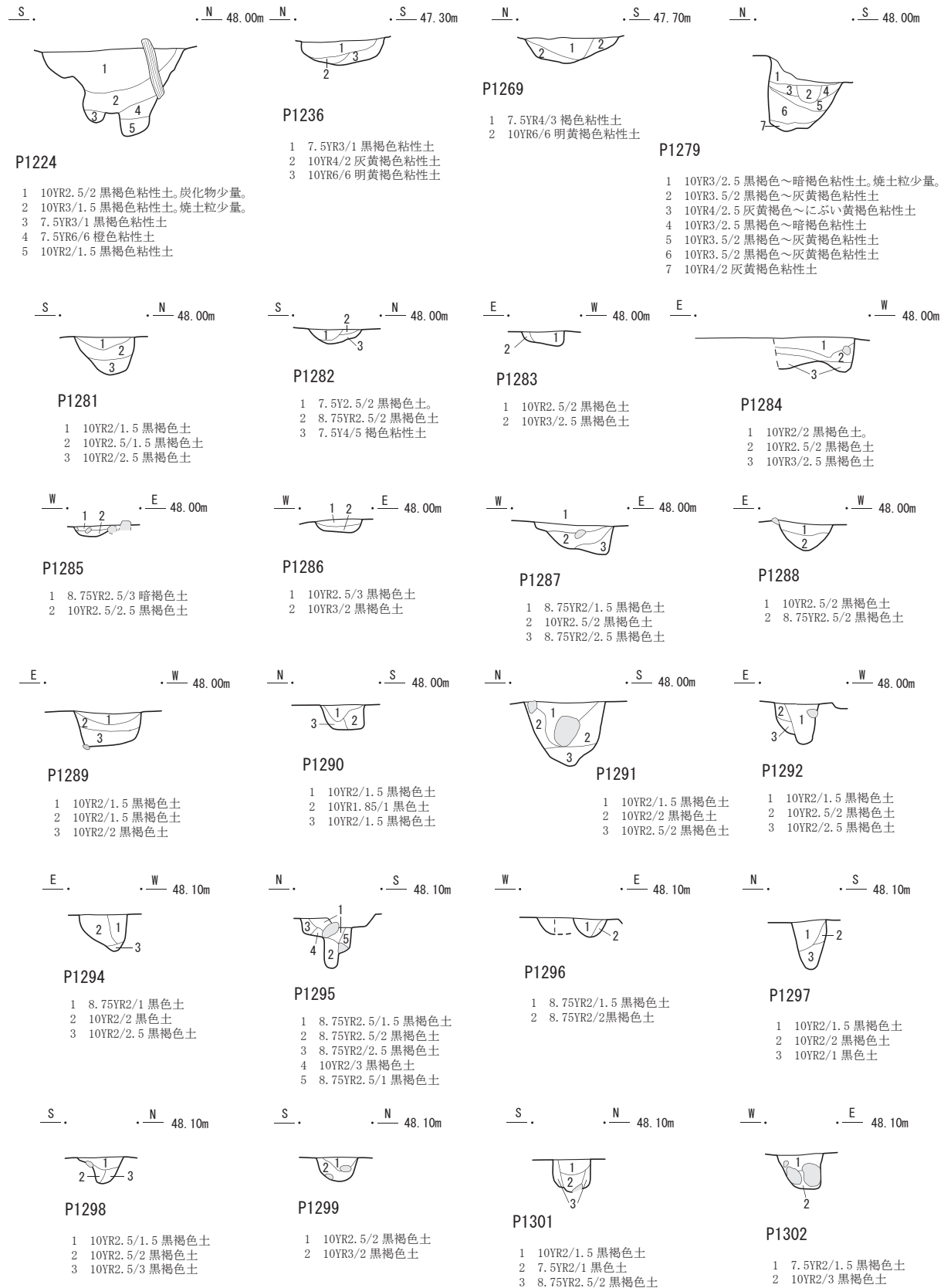


第243図 3区遺構図45

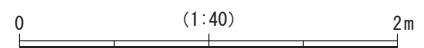
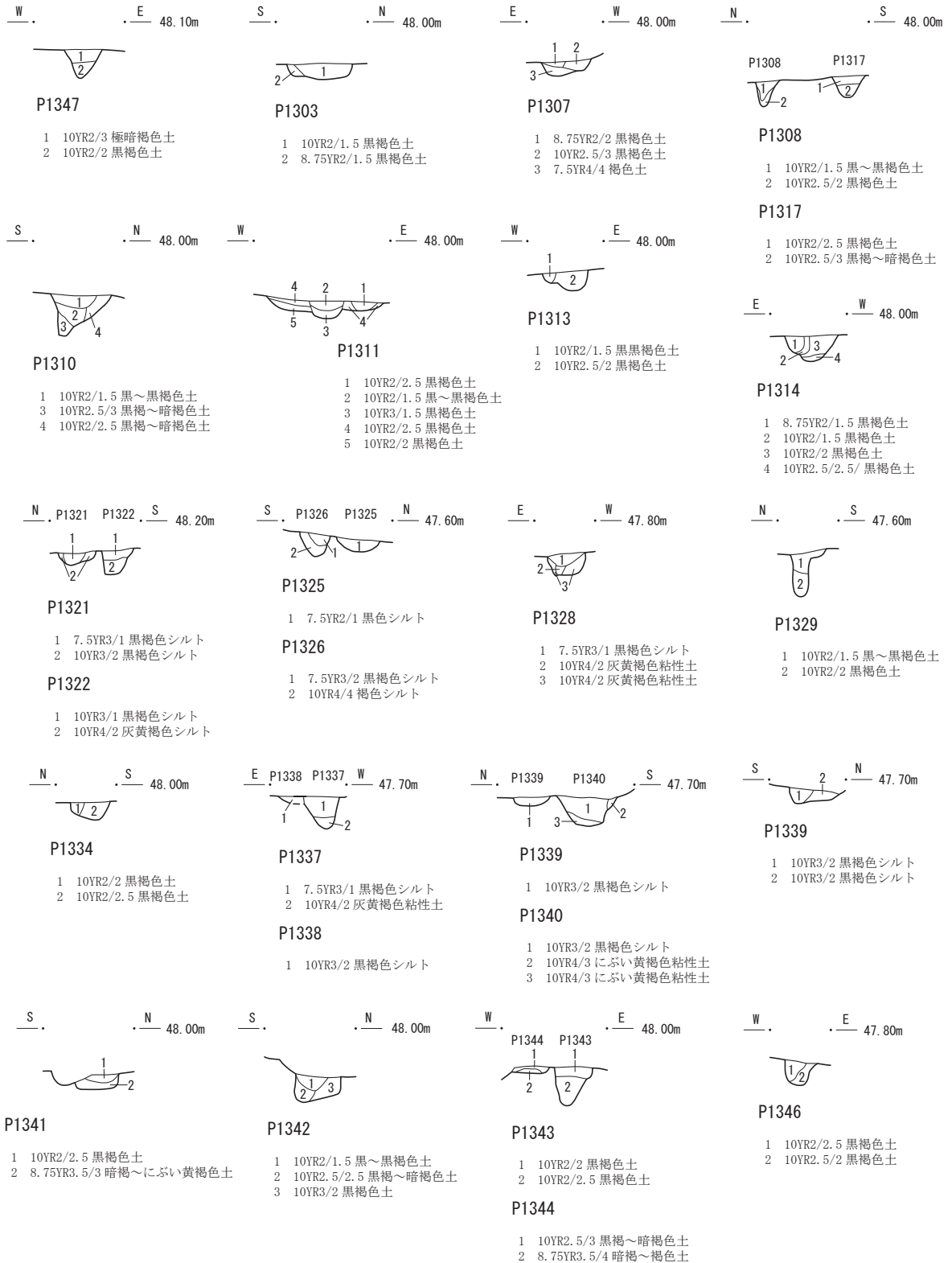


第244図 3区遺構図46

第3章 調査の成果

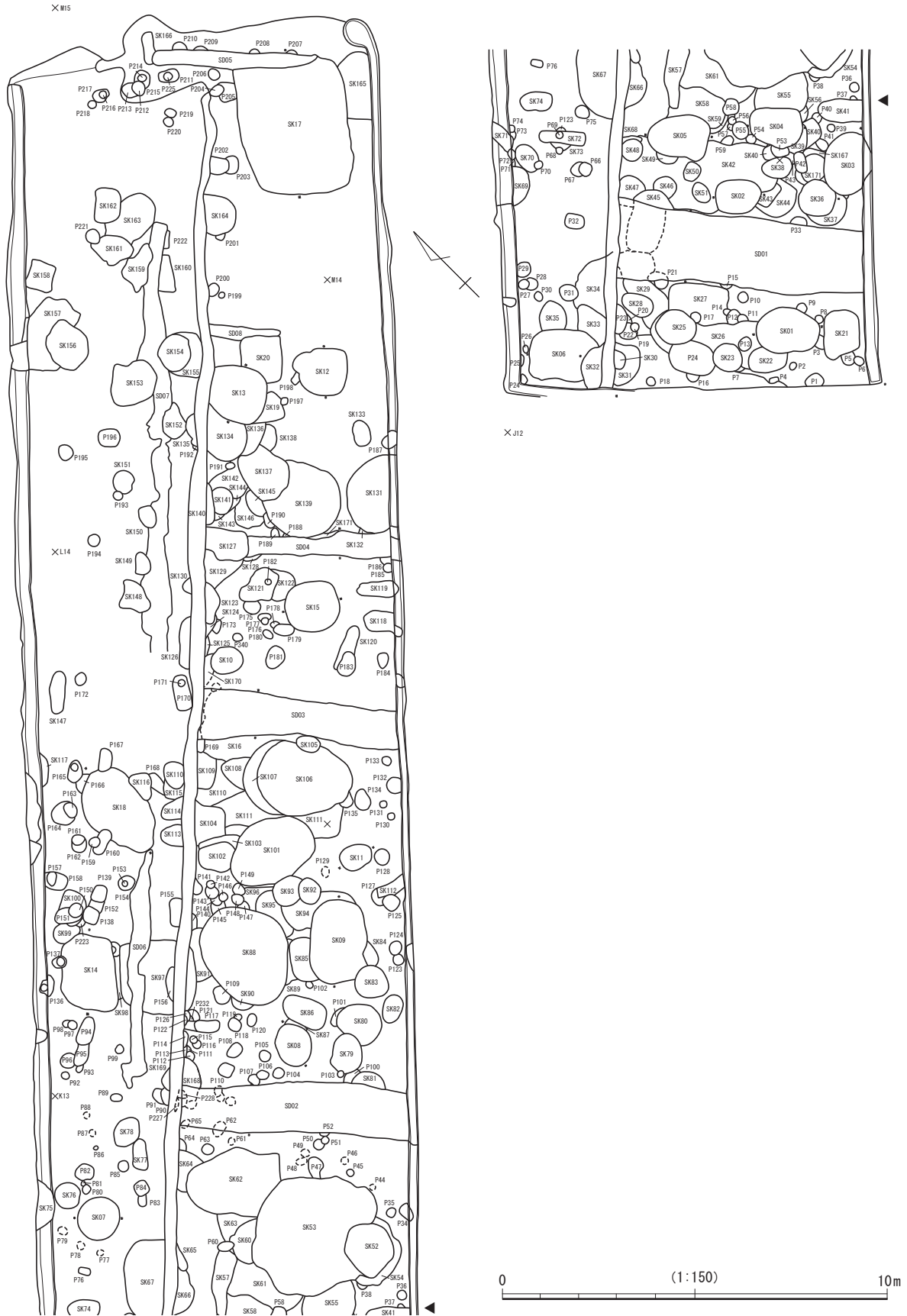


第 245 図 3 区遺構図 47

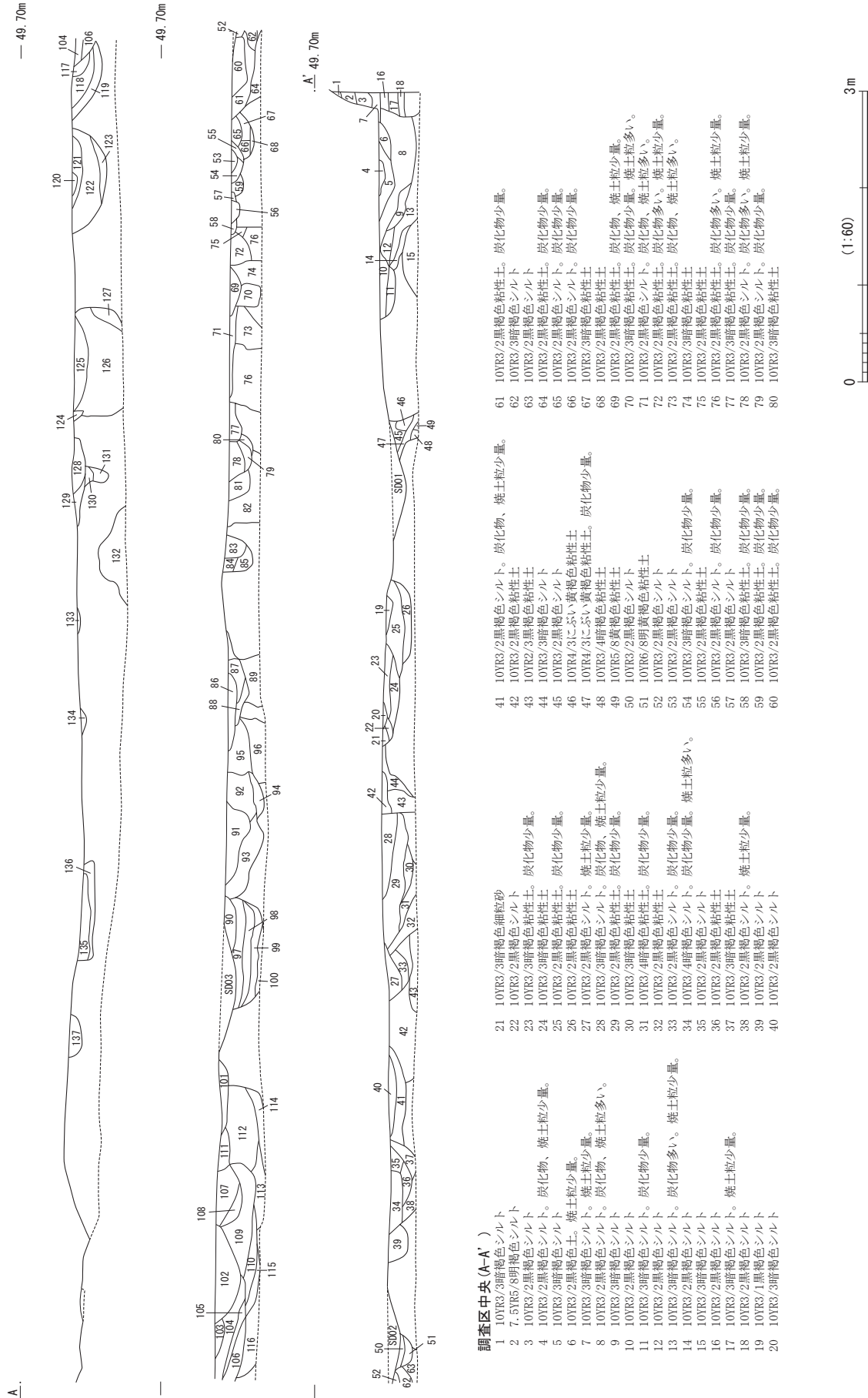


第246図 3区遺構図48

第3章 調査の成果



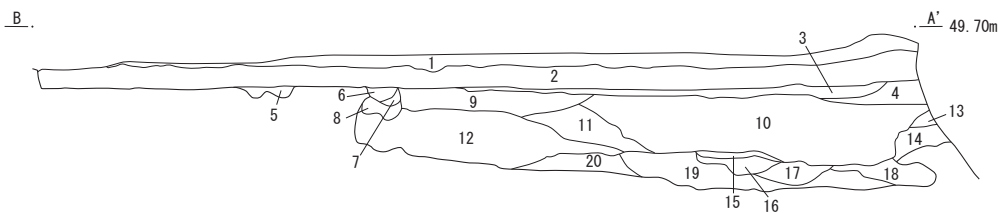
第 247 図 12 区全体図



第248図 12区土層図1

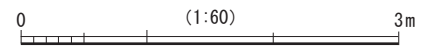
調査区中央（前頁からの続き）

- | | |
|--------------------------------|---------------------------------|
| 81 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。 | 121 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 82 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物少量。 | 122 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 83 10YR3/2黒褐色シルト | 123 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。 |
| 84 10YR3/2黒褐色粘性土 | 124 10YR6/6明黄褐色粘性土 |
| 85 10YR3/2黒褐色粘性土 | 125 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 |
| 86 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 | 126 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 |
| 87 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 | 127 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 |
| 88 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物少量。 | 128 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 |
| 89 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | 129 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。 |
| 90 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 | 130 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒多い。 |
| 91 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | 131 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 |
| 92 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。 | 132 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 93 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | 133 10YR3/3暗褐色土。焼土粒少量。 |
| 94 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 134 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。 |
| 95 10YR2/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。 | 135 10YR6/6明黄褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 |
| 96 10YR3/2黒褐色粘性土 | 136 10YR3/1黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 97 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。 | 137 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。 |
| 98 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物多い。焼土粒少量。 | |
| 99 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 100 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。 | |
| 101 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 102 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 103 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 104 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 105 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 106 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 107 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 108 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 109 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 110 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 111 10YR3/3暗褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 112 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 113 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 | |
| 114 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物少量。 | |
| 115 10YR3/3暗褐色粘性土。炭化物多い。焼土粒少量。 | |
| 116 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。 | |
| 117 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。焼土粒多い。 | |
| 118 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 119 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 | |
| 120 10YR3/2黒褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。 | |

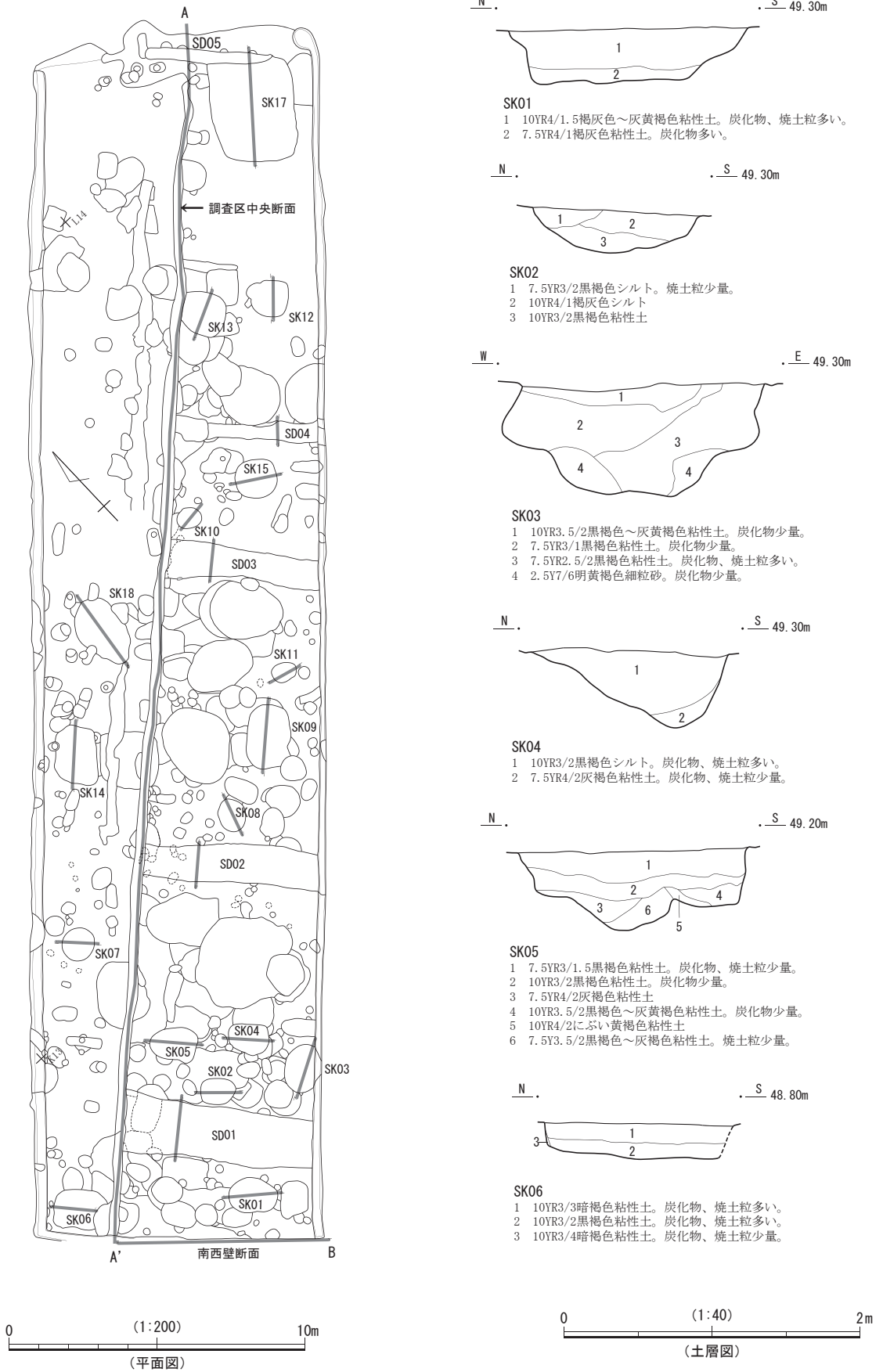


南西壁 (B-A')

- | | |
|------------------------------------|------------------------------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト。炭化物、焼土粒少量。3区排土。 | 11 7.5YR2.5/1 黒色～黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 |
| 2 10YR4/1.5 褐灰色～灰黄褐色シルト。旧耕土。 | 12 7.5YR2.5/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒多い。 |
| 3 10YR3/2 黒褐色シルト | 13 10YR3/2 黒褐色粘性土。焼土粒少量。 |
| 4 10YR3/1.5 黒褐色シルト。炭化物少量。焼土粒多い。 | 14 7.5YR3/1.5 黒褐色粘性土。炭化物少量。 |
| 5 7.5YR3/1 黒褐色シルト。焼土粒少量。 | 15 10YR3/1 黒褐色粘性土。炭化物多い。 |
| 6 7.5YR3/2 黒褐色シルト | 16 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 |
| 7 10YR4/2.5 灰黄褐色～にぶい黄褐色シルト | 17 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂。炭化物、焼土粒少量。 |
| 8 7.5YR6/6 橙色粘性土 | 18 7.5YR4/1 褐灰色粘性土。炭化物少量。 |
| 9 10YR3.5/2 黒褐色～灰黄褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | 19 10YR2.5/2 黒褐色粘性土。炭化物、焼土粒少量。 |
| 10 10YR3/2.5 黒褐色～暗褐色シルト。炭化物、焼土粒多い。 | 20 2.5Y4/2 暗灰黄色細粒砂 |

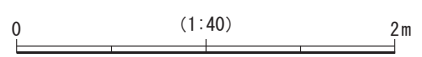
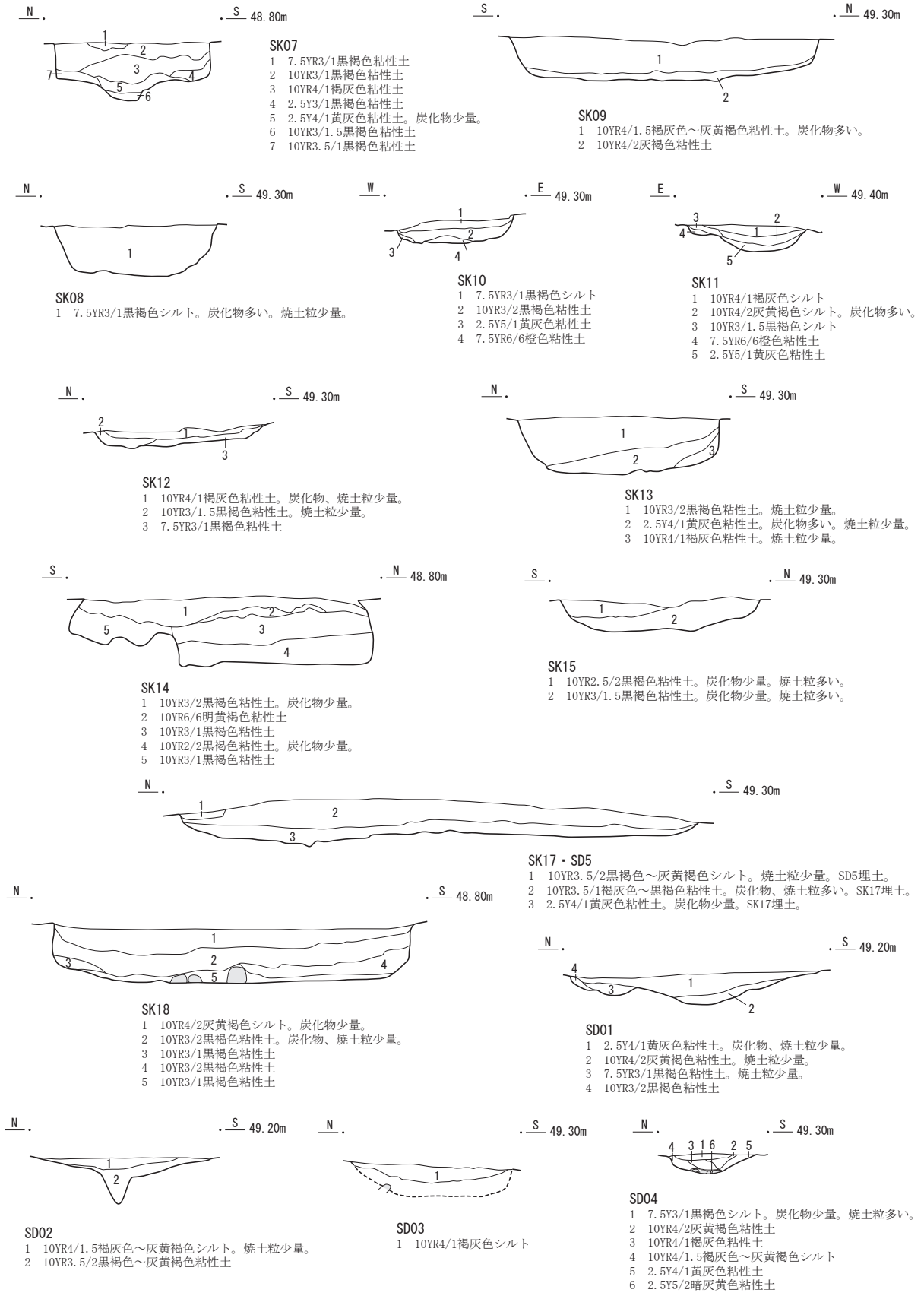


第249図 12区土層図2

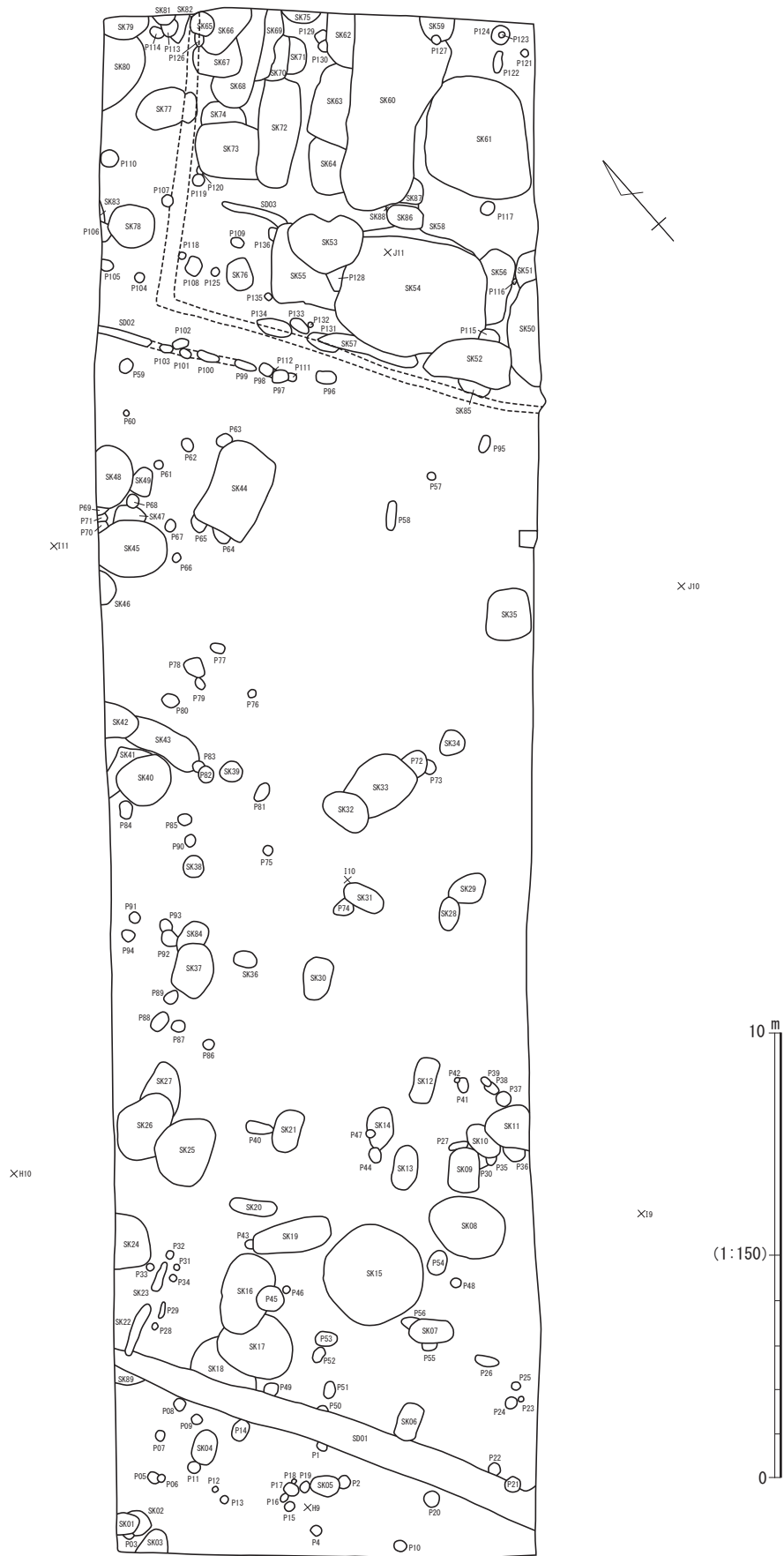


第250図 12区遺構図1

第3章 調査の成果



第251図 12区遺構図2



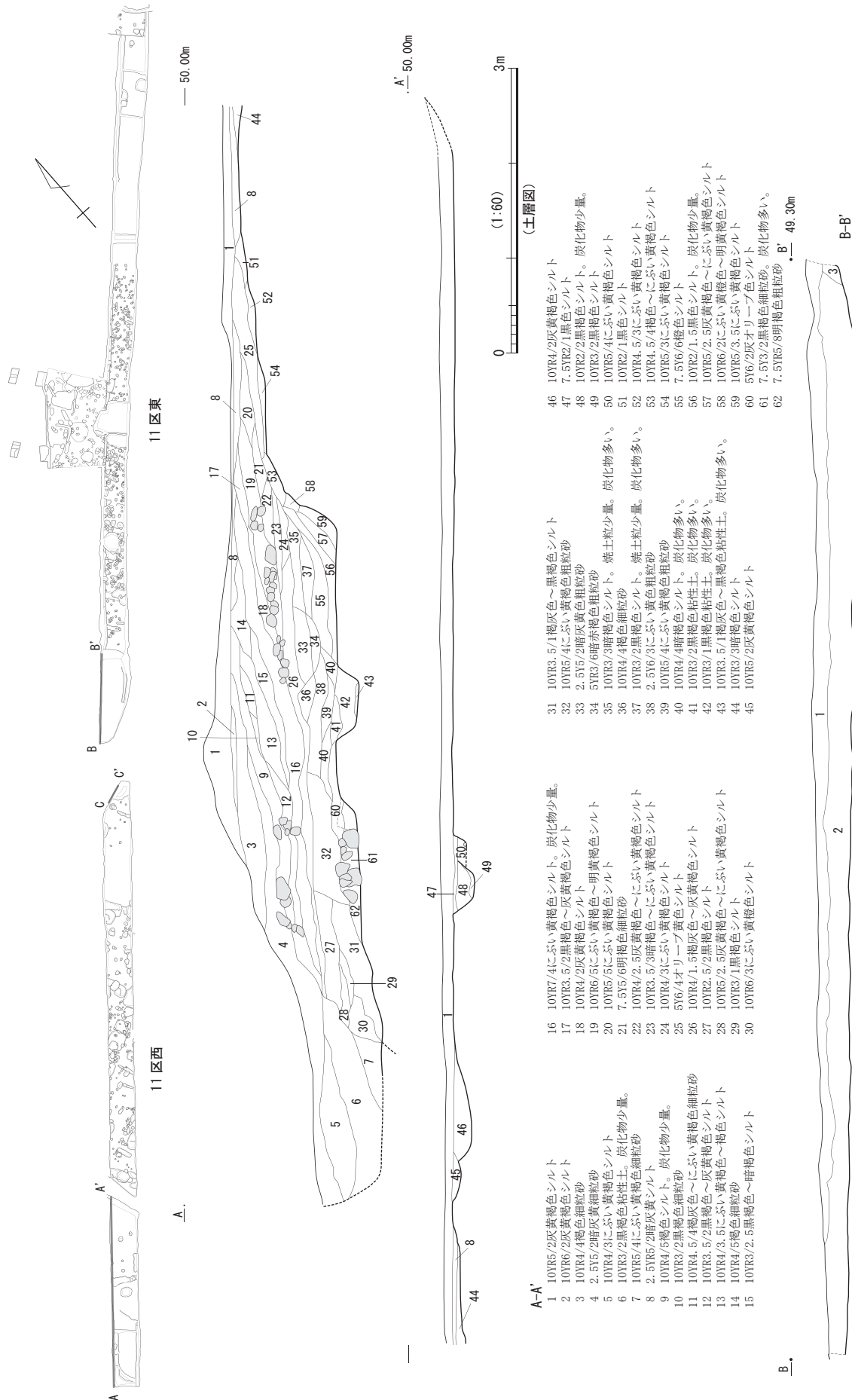
第 252 図 13 区全体図



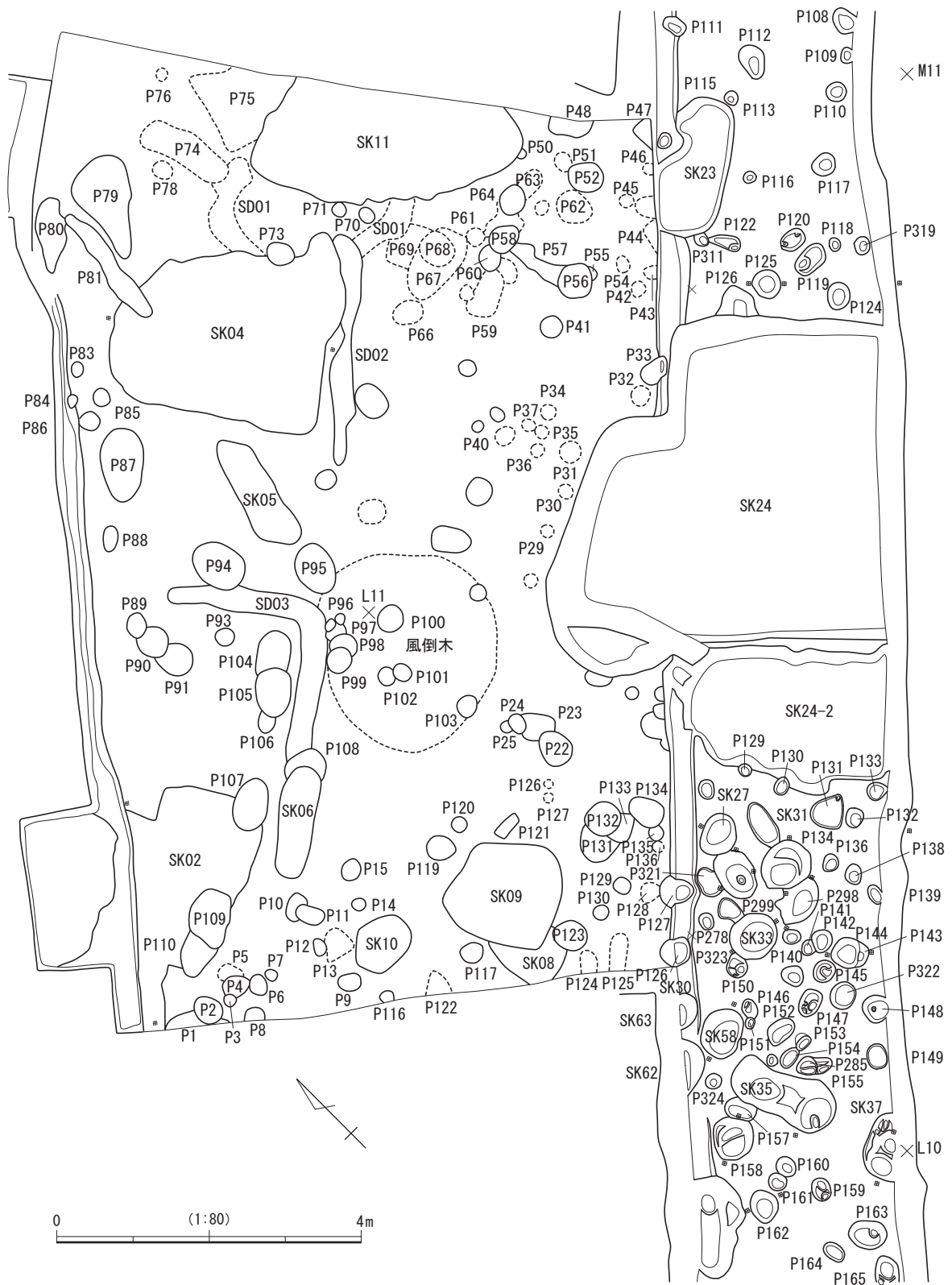
第254図 11区東全体図2



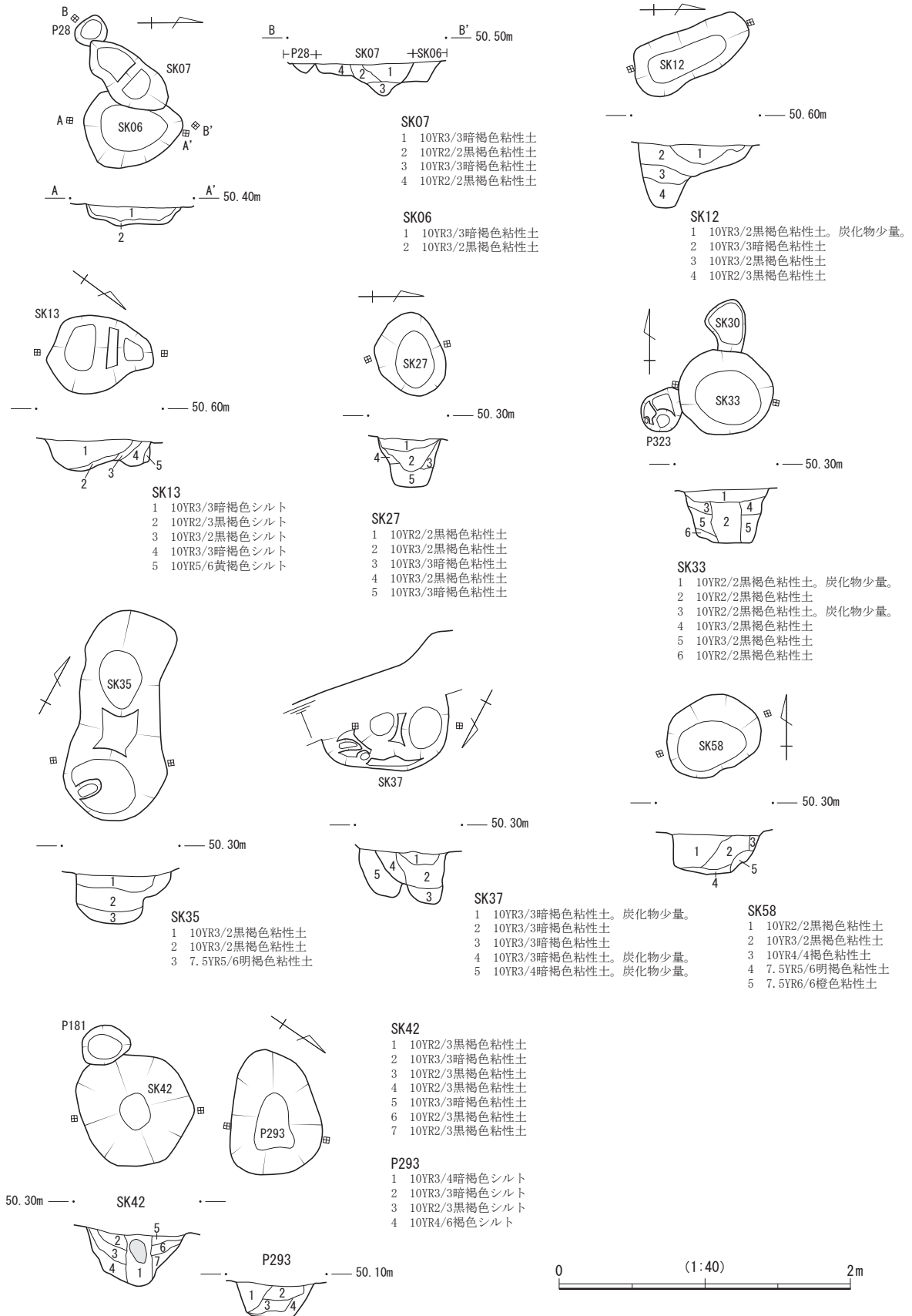
第 255 図 11 区西全体図



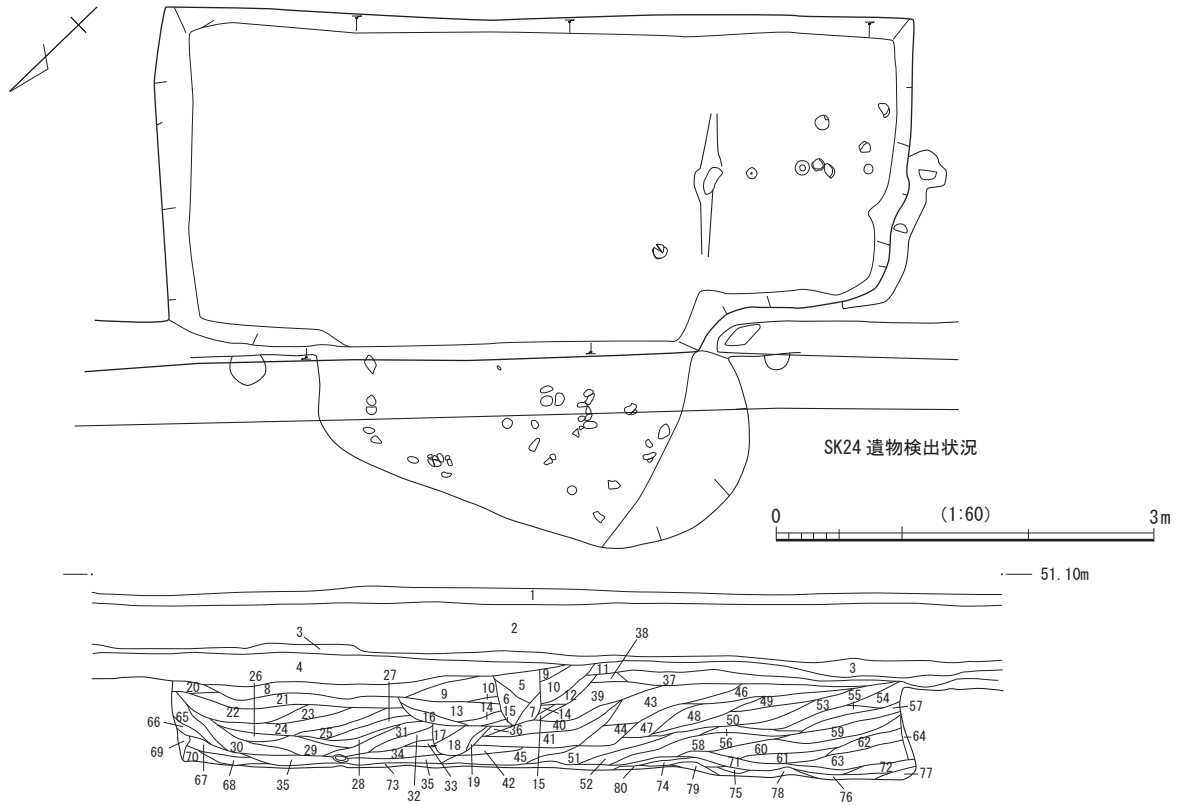
第256図 11区土層図



第 257 図 11 区遺構図 1 (11 区東)

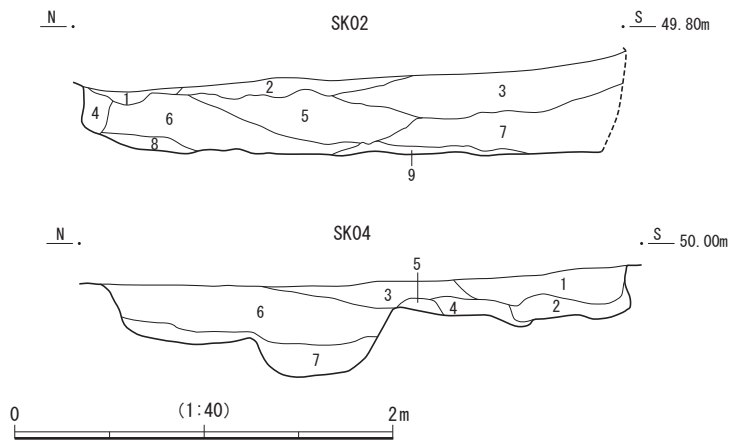


第 258 図 11 区遺構図 2 (11 区東)



SK24

- | | | | |
|------------------------|---------------------------|--------------------|--------------------------------|
| 1 10YR3.5/3にぶい黄褐色～暗褐色土 | 21 8.75YR2.5/2.5黒褐色～極暗褐色土 | 41 10YR2.5/2黒褐色土 | 61 10YR2.5/2黒褐色土。焼土、炭化物多い。 |
| 2 10YR2/2黒褐色土 | 22 8.75YR2.5/2.5黒褐色～極暗褐色土 | 42 8.75YR2.5/2黒褐色土 | 62 10YR2.5/2黒褐色土 |
| 3 10YR3/2.5黒褐色～暗褐色土 | 23 10YR2.5/2.5黒褐色～暗褐色土 | 43 8.75YR3/2黒褐色土 | 63 10YR2.5/2黒褐色土。炭化物多い。 |
| 4 10YR2.5/3暗褐～極暗褐色土 | 24 10YR2.5/2.5黒褐色土。炭化物多い。 | 44 8.75YR2.5/2黒褐色土 | 64 10YR3/2.5暗褐色～黒褐色土 |
| 5 10YR2.5/3暗褐～極暗褐色土 | 25 10YR2.5/2.5黒褐色～暗褐色土 | 45 8.75YR3/2黒褐色土 | 65 10YR3/2黒褐色土 |
| 6 10YR2.5/2.5黒褐色土 | 26 10YR2.5/2.5黒褐色～暗褐色土 | 46 8.75YR3/2黒褐色土 | 66 10YR3/2黒褐色土 |
| 7 10YR2.5/2黒褐色土 | 27 8.75YR2.5/2.5黒褐色～極黒褐色土 | 47 8.75YR3/2黒褐色土 | 67 10YR3/2黒褐色土 |
| 8 10YR2.5/3暗褐色土。炭化物多い。 | 28 8.75YR2.5/2黒褐色土 | 48 8.75YR3/2黒褐色土 | 68 10YR3/2黒褐色土 |
| 9 10YR2.5/3暗褐色～極暗褐色土 | 29 10YR2.5/2.5黒褐色～暗褐色土 | 49 8.75YR3/2黒褐色土 | 69 8.75YR4/5褐色粘性土 |
| 10 10YR2.5/3暗褐色～極暗褐色土 | 30 10YR2.5/2.5黒褐色～暗褐色土 | 50 8.75YR3/2黒褐色土 | 70 10YR3/2黒褐色土 |
| 11 10YR2.5/3暗褐色～極暗褐色土 | 31 10YR2.5/3暗褐色～黒褐色土 | 51 8.75YR3/2黒褐色土 | 71 8.75YR2.5/2.5暗褐～黒褐色粘性土 |
| 12 10YR2.5/3暗褐色～極暗褐色土 | 32 10YR2.5/3暗褐色～黒褐色土 | 52 8.75YR3/2黒褐色土 | 72 10YR5/4にぶい黄褐色土 |
| 13 10YR2.5/2黒褐色土 | 33 10YR2.5/3暗褐色～黒褐色土 | 53 10YR3/3黒褐色土 | 73 8.75YR3.5/2灰褐色～黒褐色粘性土 |
| 14 10YR2.5/2黒褐色土 | 34 10YR2.5/3暗褐色～黒褐色土 | 54 10YR3/3黒褐色土 | 74 8.75YR3.5/2灰褐色～黒褐色粘性土 |
| 15 10YR2.5/2黒褐色土 | 35 10YR2.5/2黒褐色土 | 55 10YR3/3黒褐色土 | 75 8.75YR3.5/2灰褐色～黒褐色粘性土 |
| 16 10YR2.5/2黒褐色土 | 36 10YR3/2黒褐色土 | 56 10YR3/3黒褐色土 | 76 8.75YR3/3暗褐色粘性土 |
| 17 10YR3/2.5黒褐色～暗褐色土 | 37 10YR2.5/2黒褐色土 | 57 10YR3/3黒褐色土 | 77 8.75YR3/3暗褐色粘性土 |
| 18 10YR3/2.5黒褐色～暗褐色土 | 38 8.75YR3/2黒褐色土 | 58 10YR3/3黒褐色土 | 78 8.75YR3.5/2暗褐色粘性土 |
| 19 8.75YR3/3暗褐色土 | 39 10YR2.5/2黒褐色土 | 59 10YR2.5/2黒褐色土 | 79 8.75YR3.5/2暗褐色粘性土。焼土、炭化物多い。 |
| 20 10YR2.5/2黒褐色土 | 40 10YR2.5/2黒褐色土 | 60 10YR2.5/2黒褐色土 | 80 8.75YR3.5/2暗褐色粘性土 |



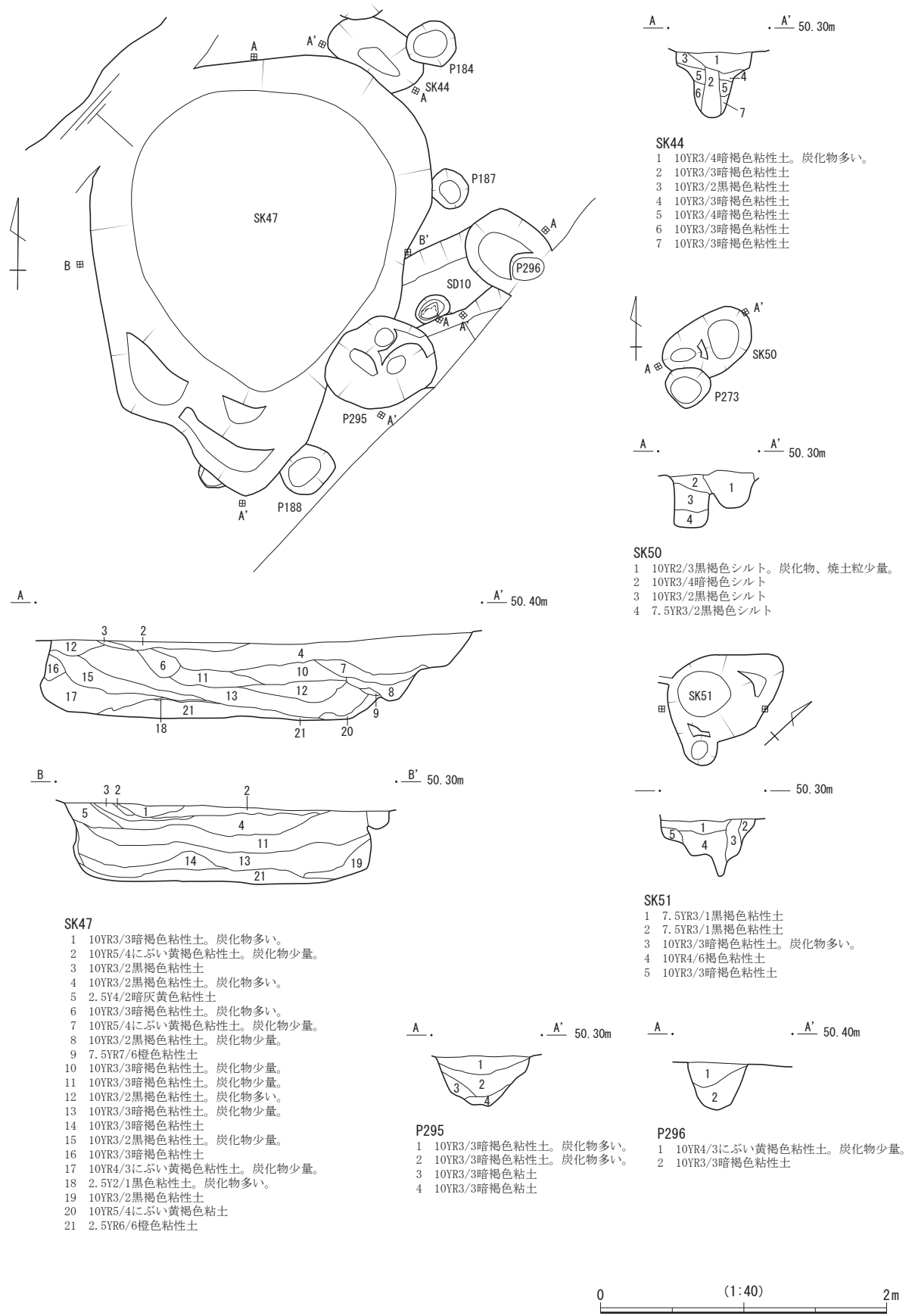
11区東 拡展区 SK02

- 1 7.5YR2.5/1黒～黒褐色粘性土
- 2 7.5YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 3 10YR2/2黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 4 10YR2/3黒褐色粘性土
- 5 7.5YR3/1黒褐色粘性土
- 6 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 7 10YR3/2黒褐色粘性土。炭化物少量。
- 8 7.5YR6/6橙褐色粘性土
- 9 10YR3.5/1黒褐色粘性土

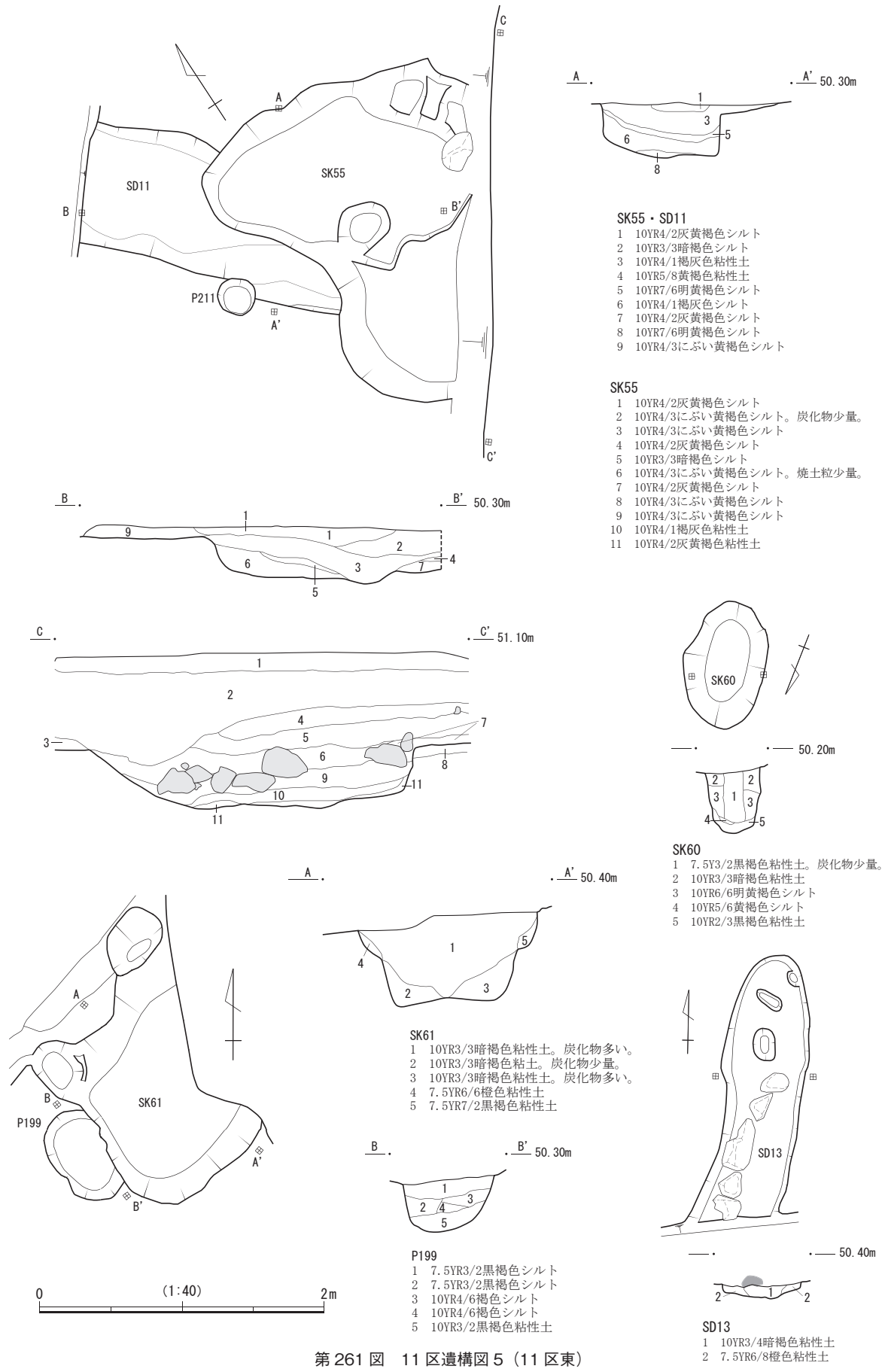
11区東 拡展区 SK04

- 1 10YR3/2黒褐色粘性土
- 2 7.5YR3/1.5黒褐色粘性土
- 3 10YR4/2.5灰黄褐色～にぶい黄褐色粘性土
- 4 10YR5/2.5灰黄褐色～にぶい黄褐色粘性土
- 5 10YR3.5/3暗褐色～にぶい黄褐色粘性土
- 6 7.5YR3/2.5黒褐色～暗褐色粘性土
- 7 10YR2/1.5黒褐色粘性土。炭化物少量。

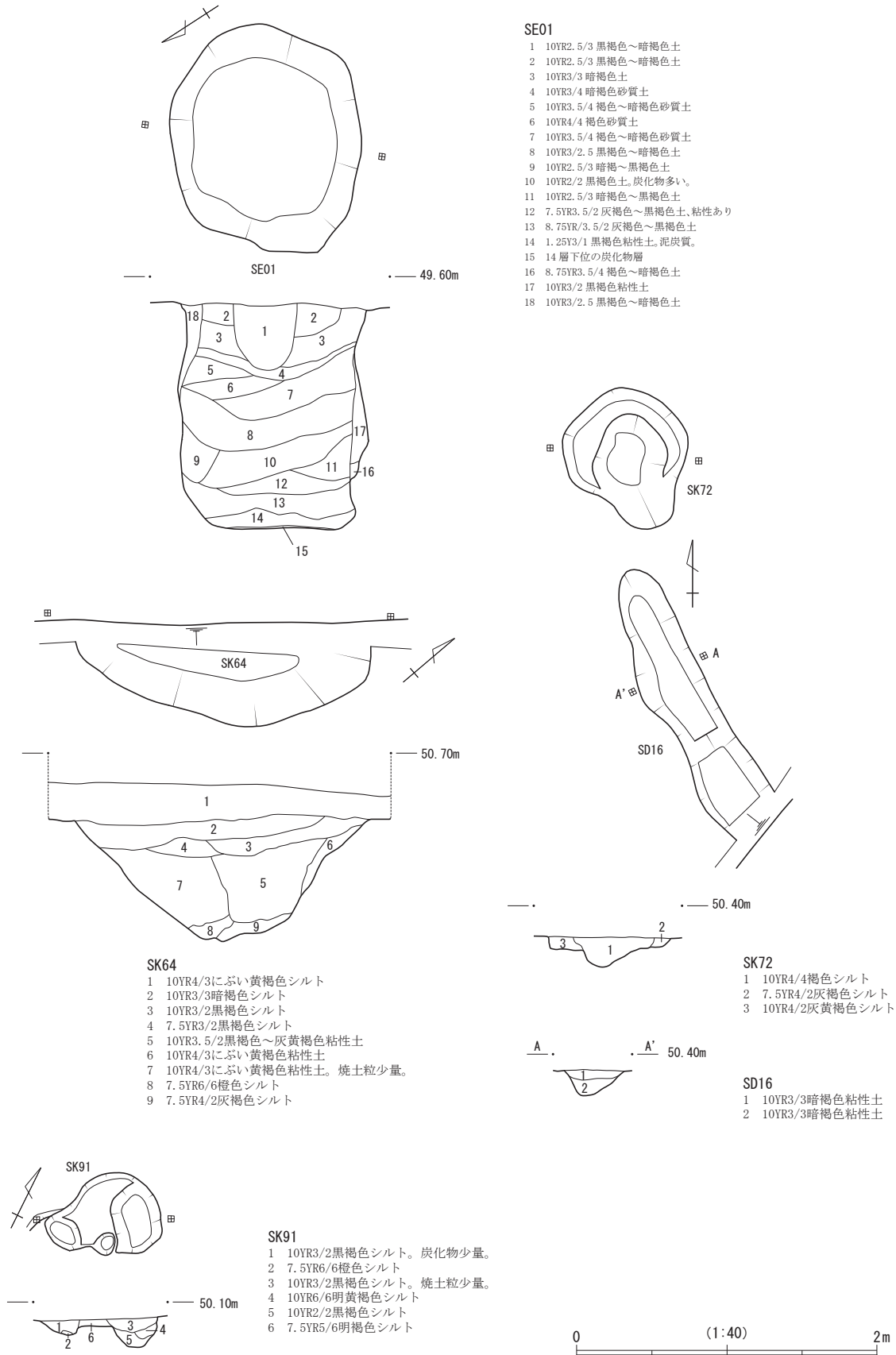
第259図 11区遺構図3 (11区東)



第260図 11区遺構図4(11区東)

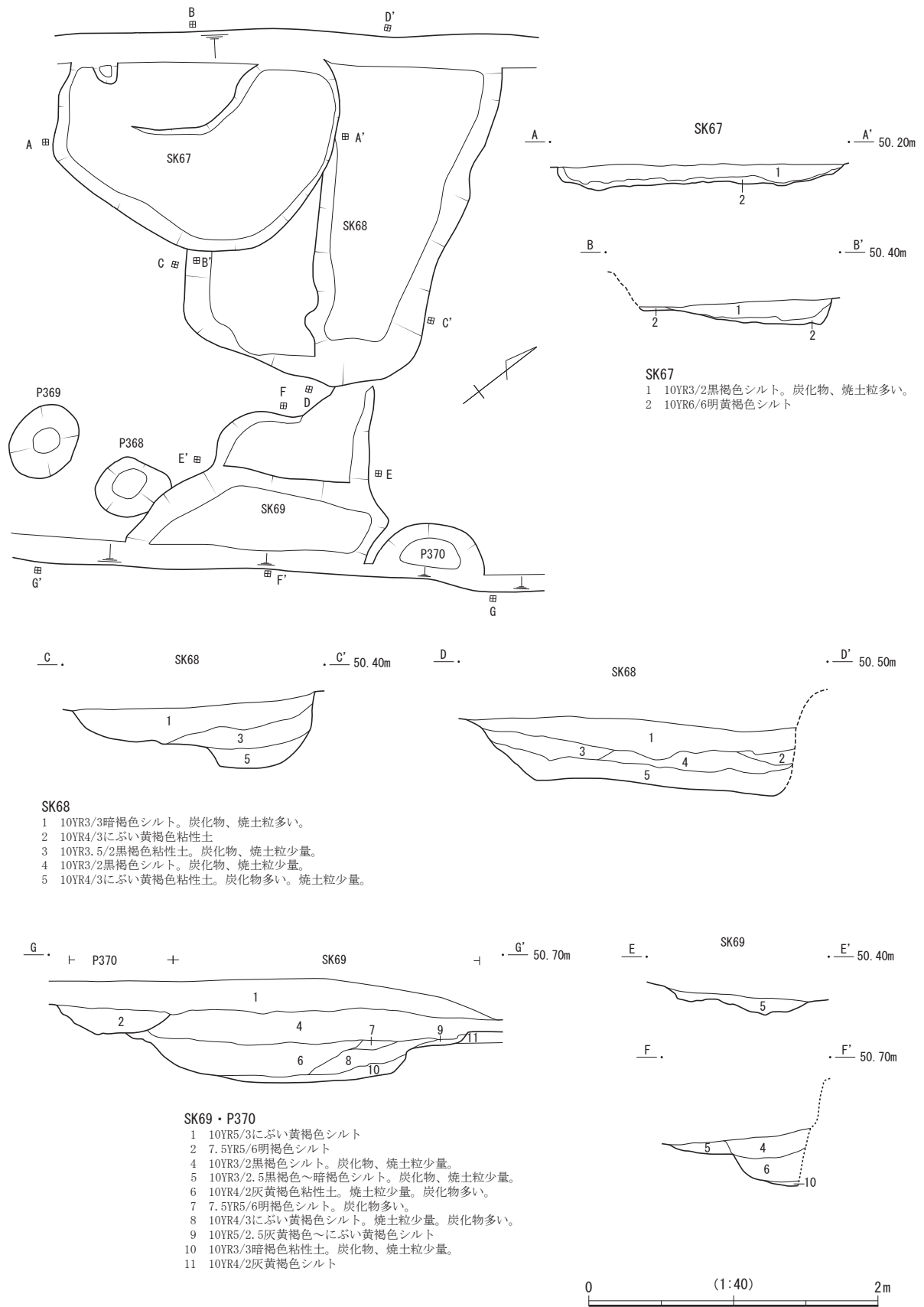


第261図 11区遺構図5(11区東)

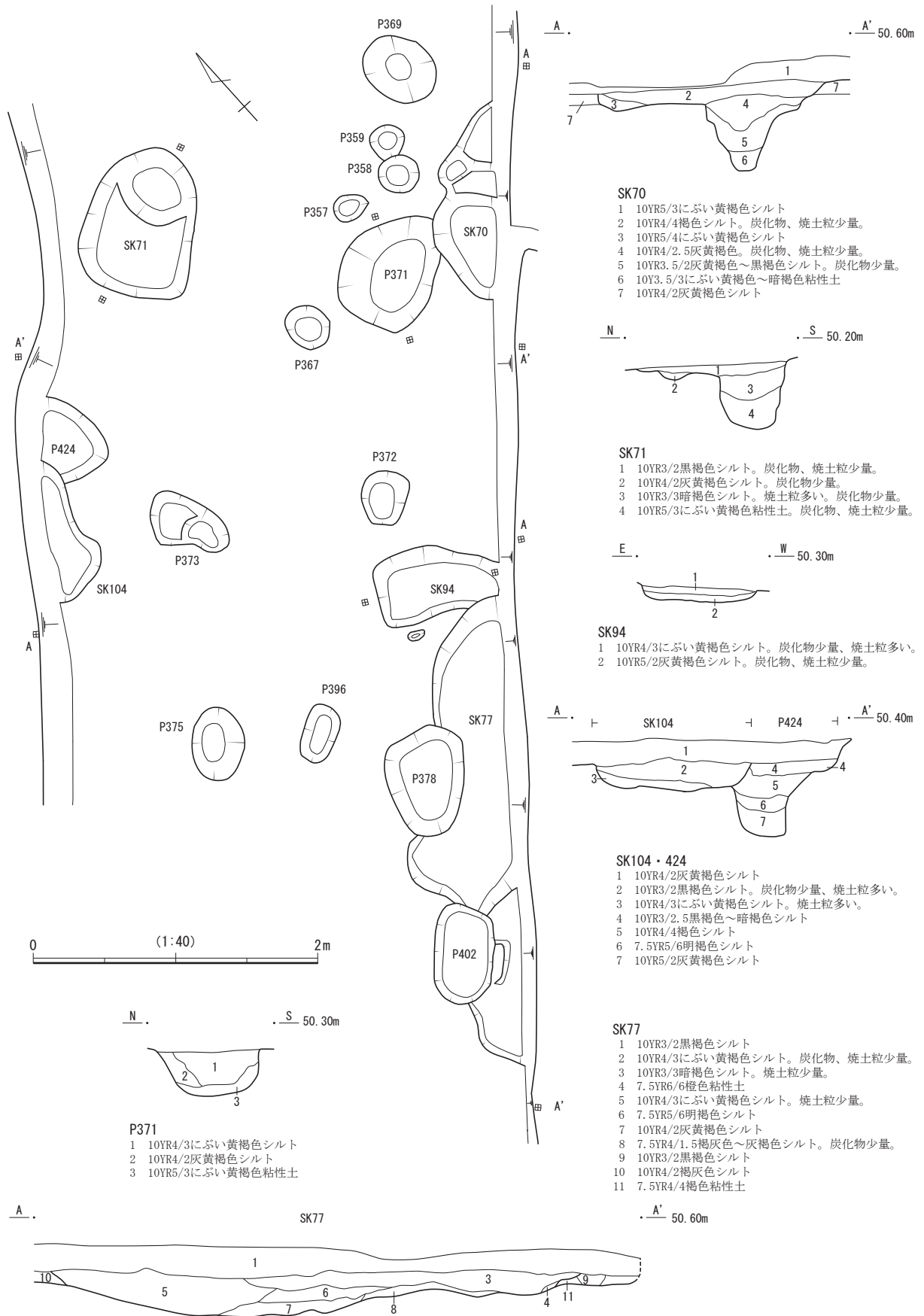


第 262 図 11 区遺構図 6 (11 区西)

第3章 調査の成果

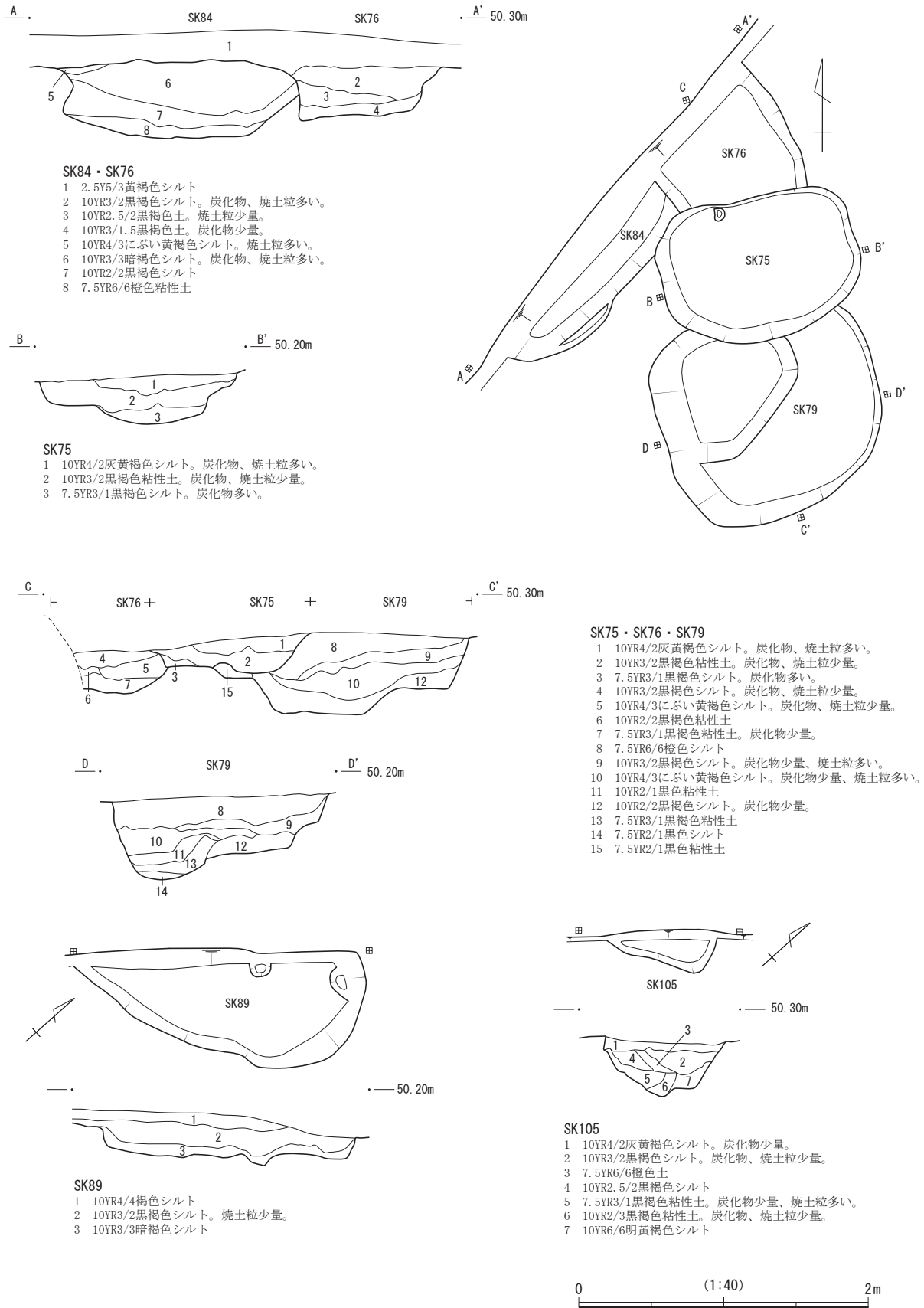


第 263 図 11 区遺構図 7 (11 区西)

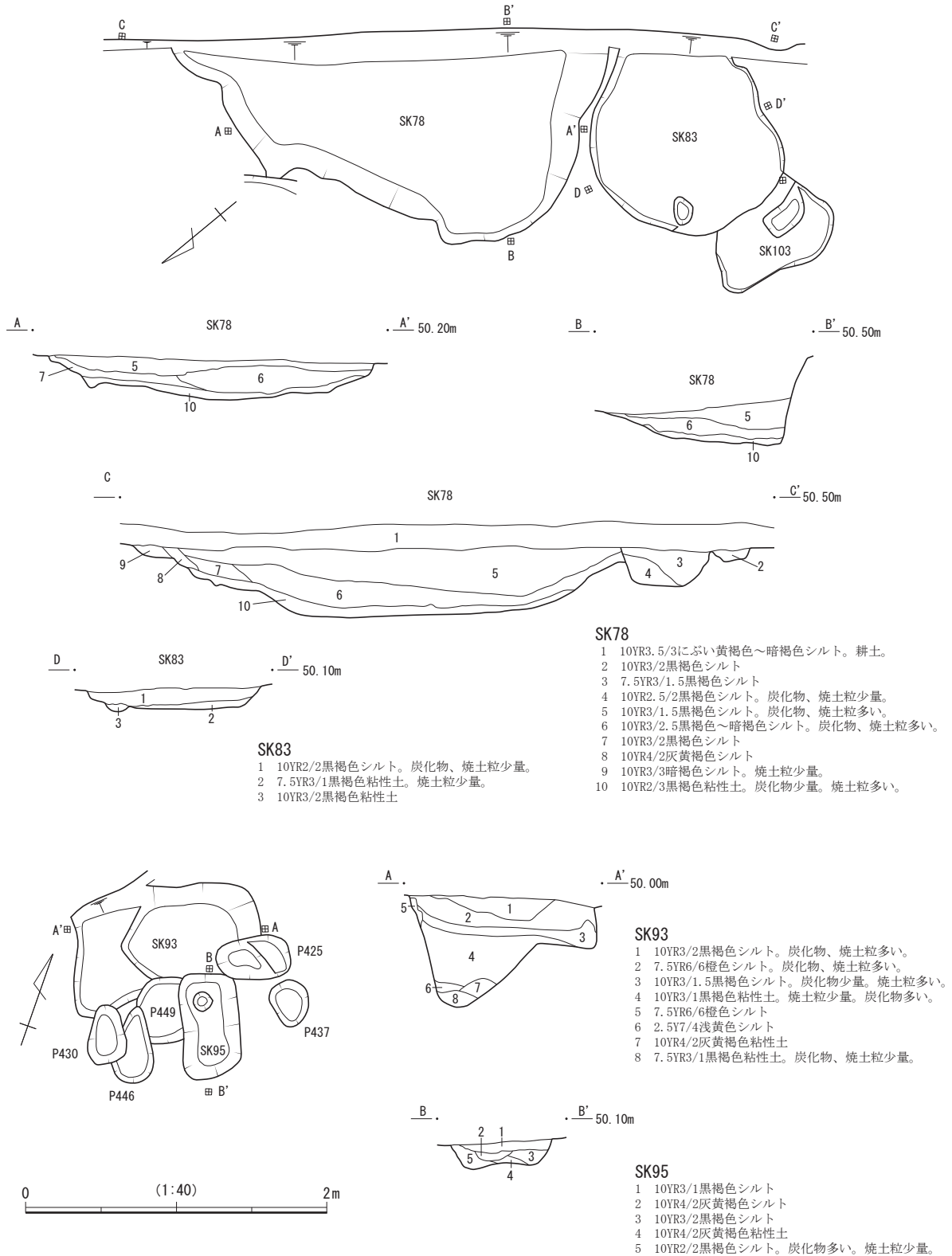


第264図 11区遺構図8(11区西)

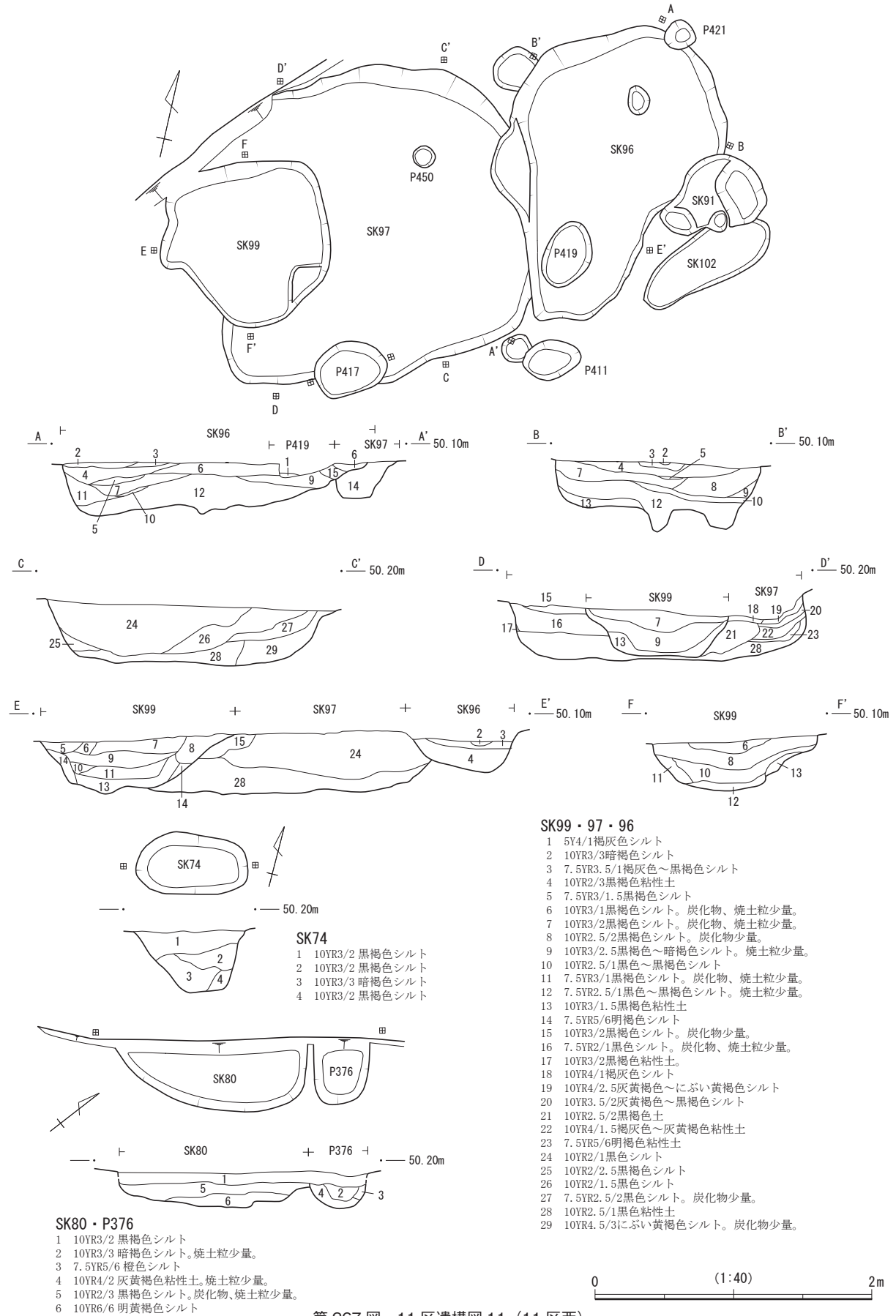
第3章 調査の成果



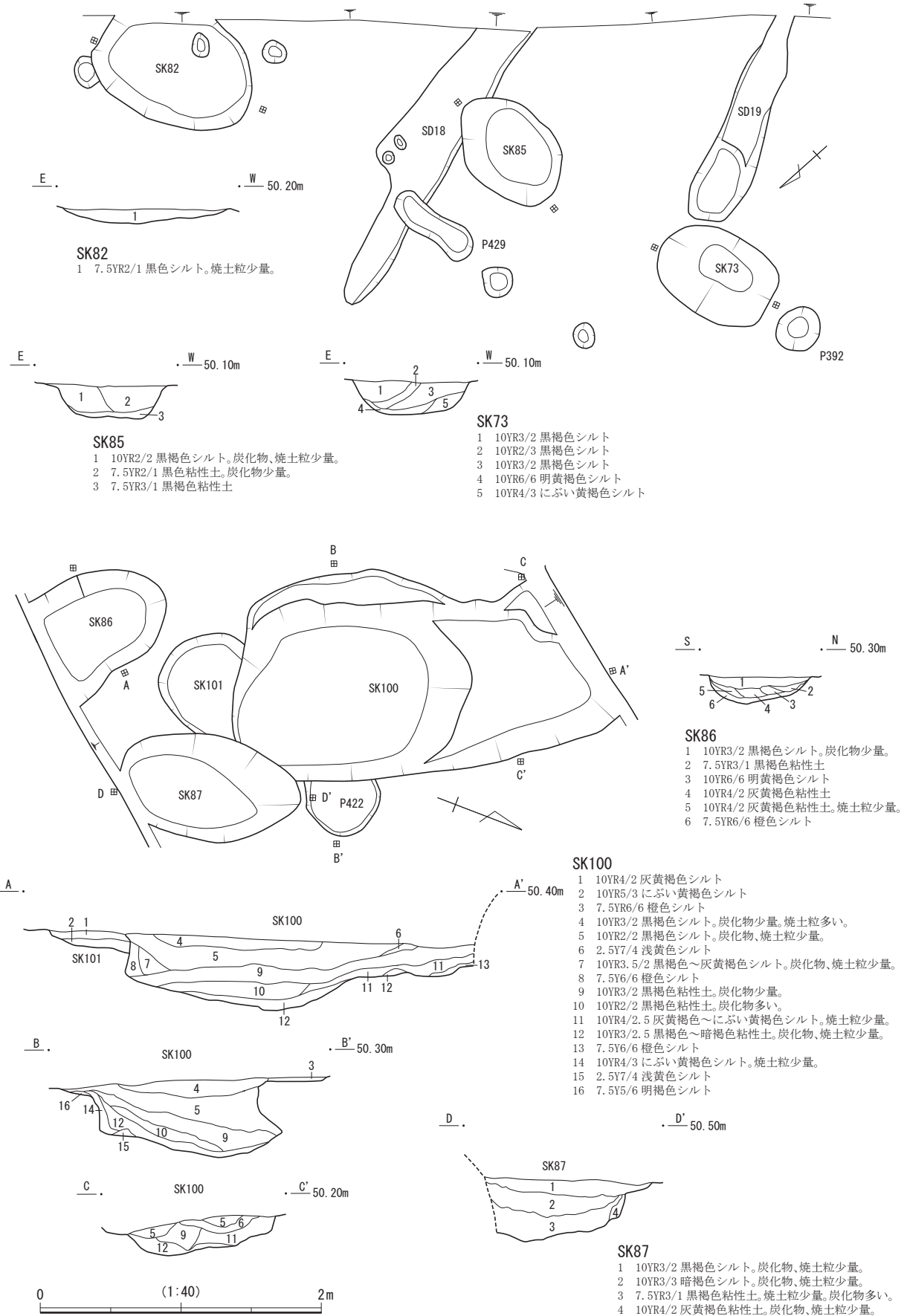
第 265 図 11 区遺構図 9 (11 区西)



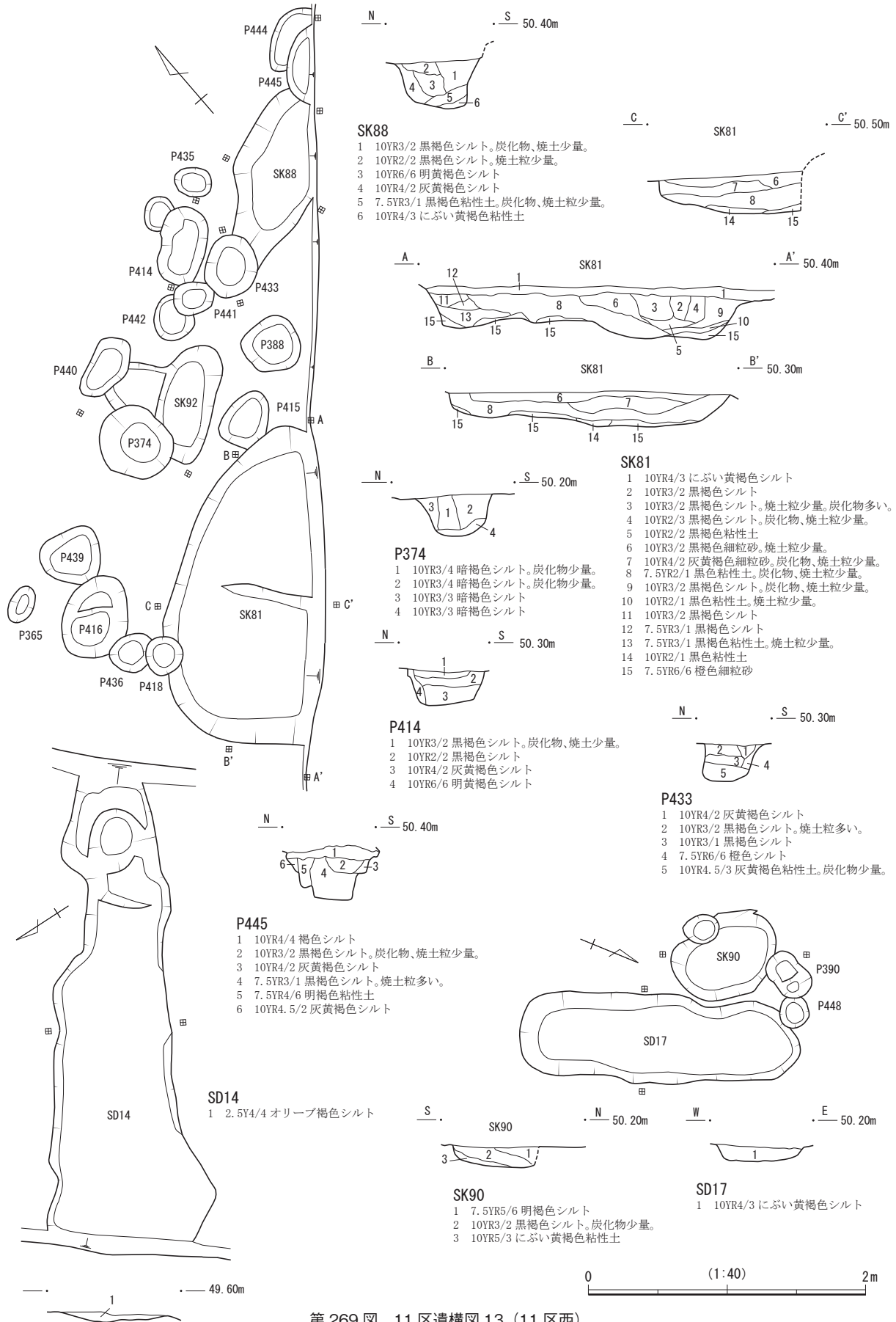
第266図 11区遺構図10(11区西)



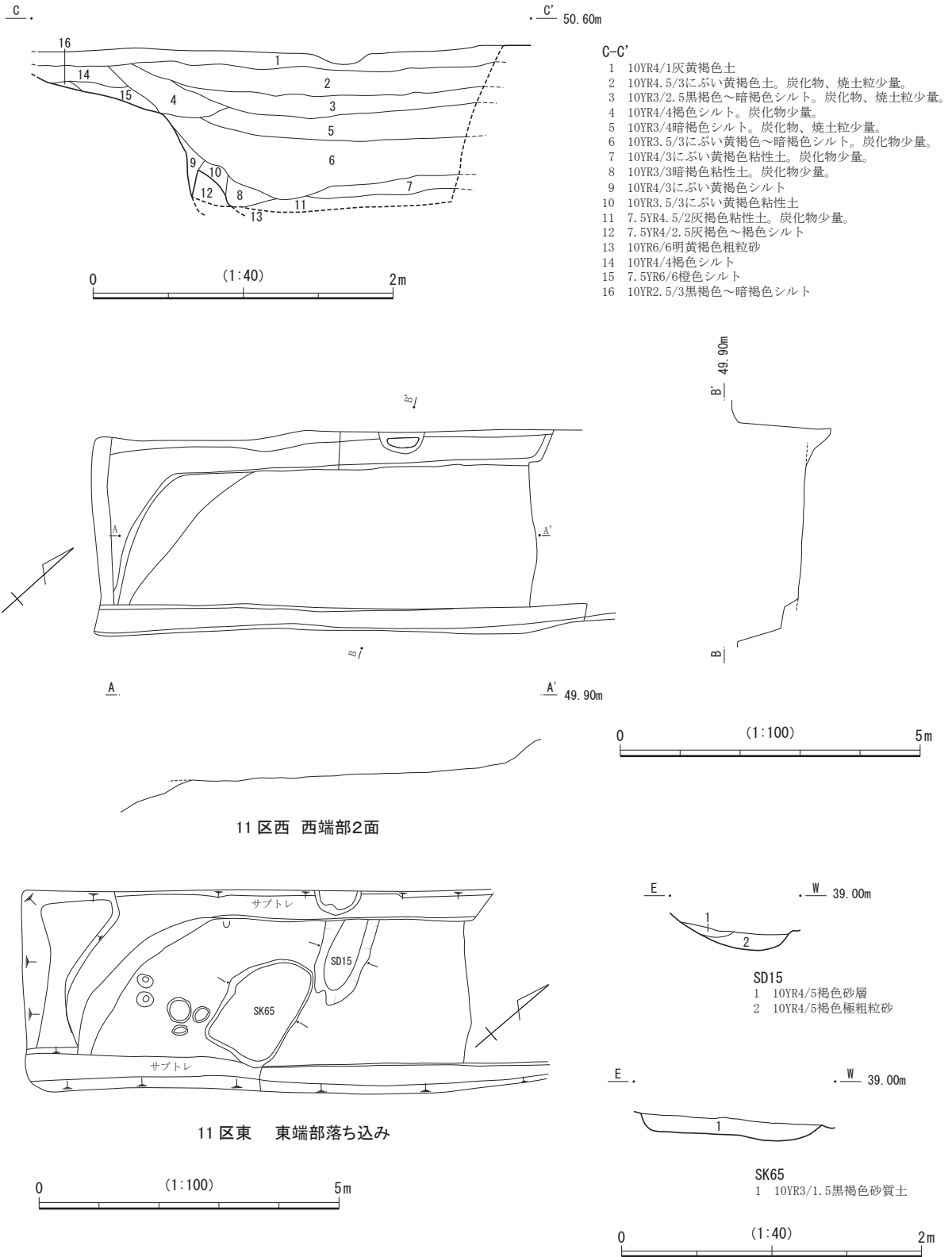
第267図 11区遺構図11 (11区西)



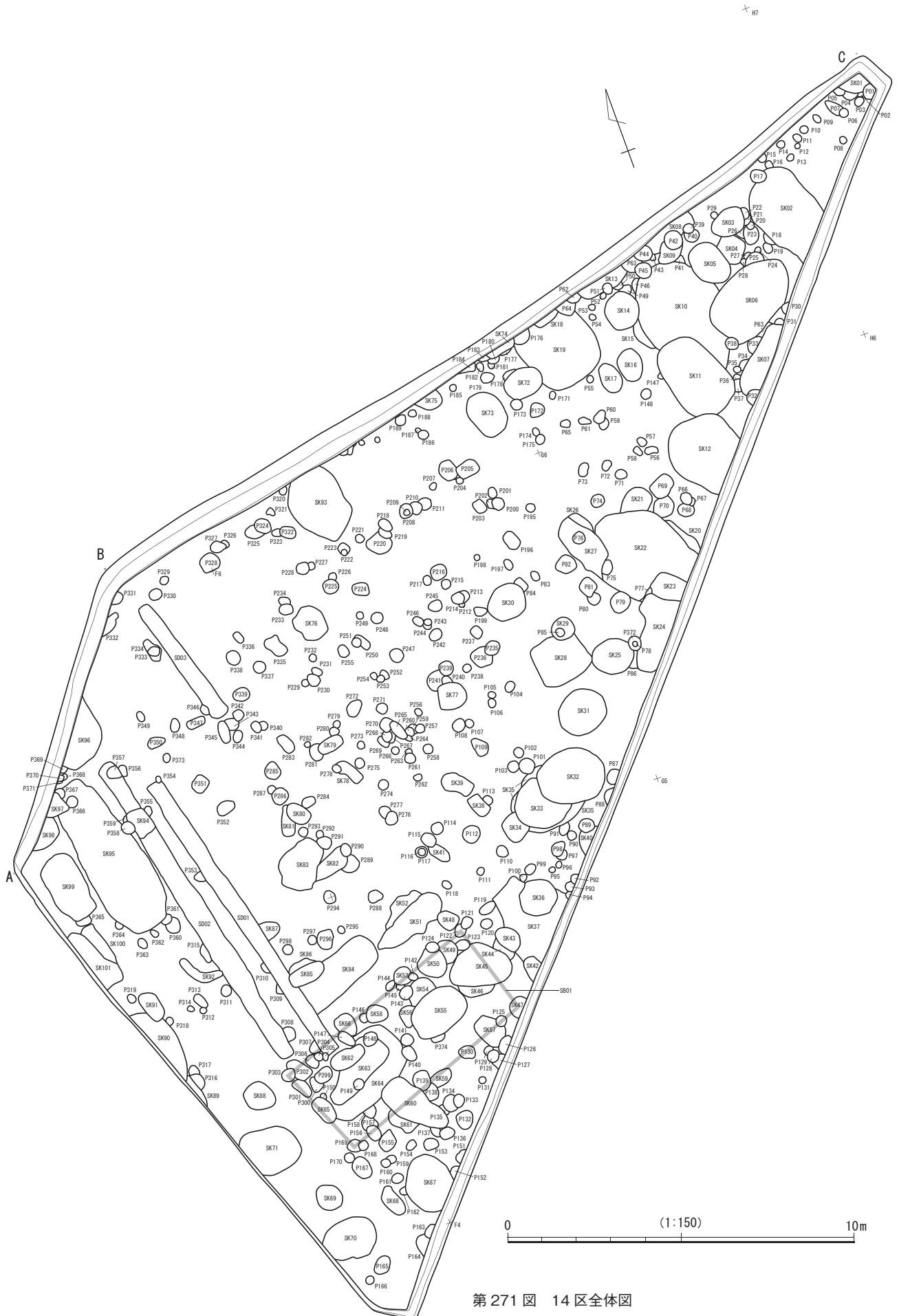
第268図 11区遺構図12(11区西)



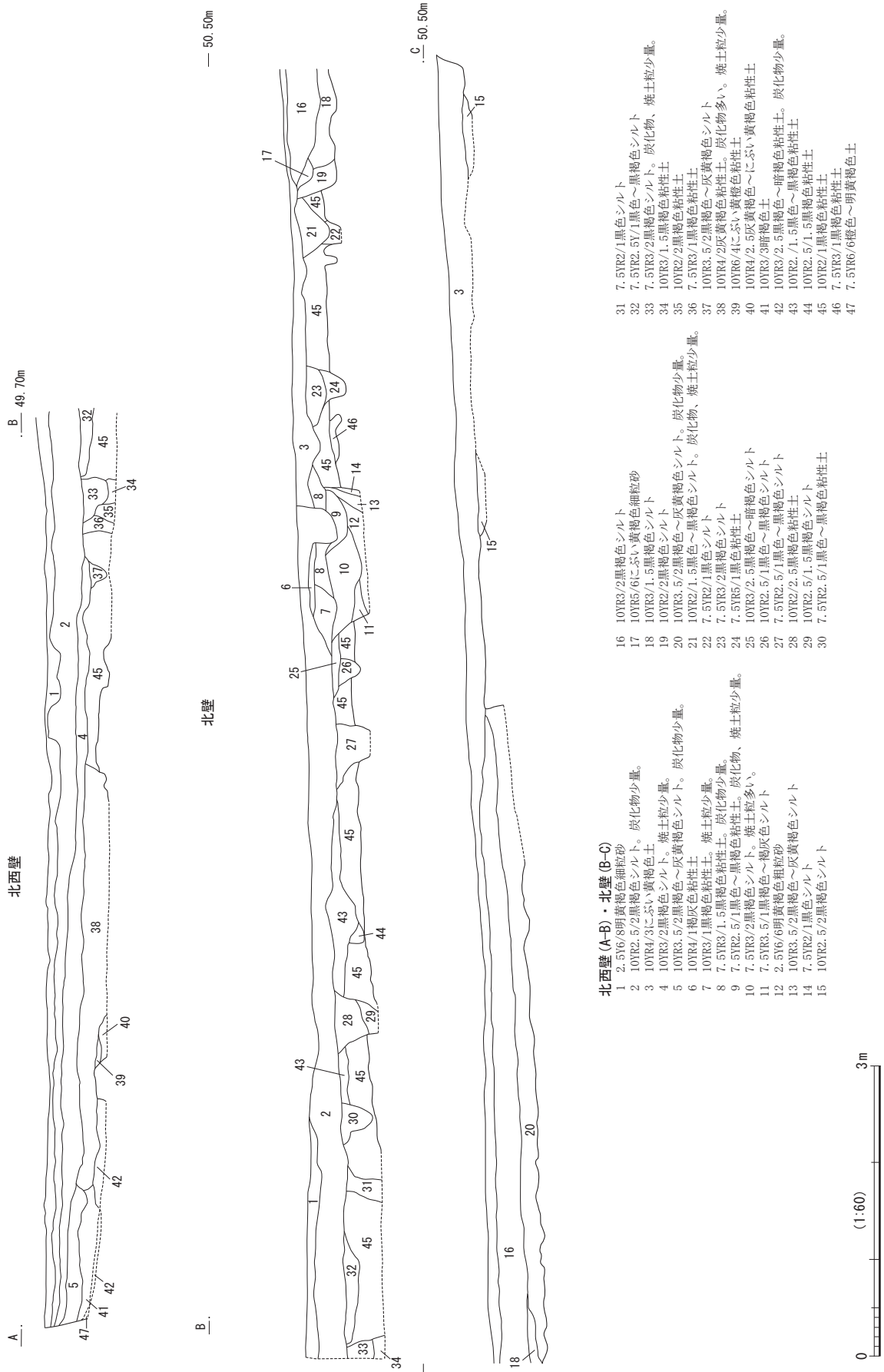
第269図 11区遺構図13 (11区西)



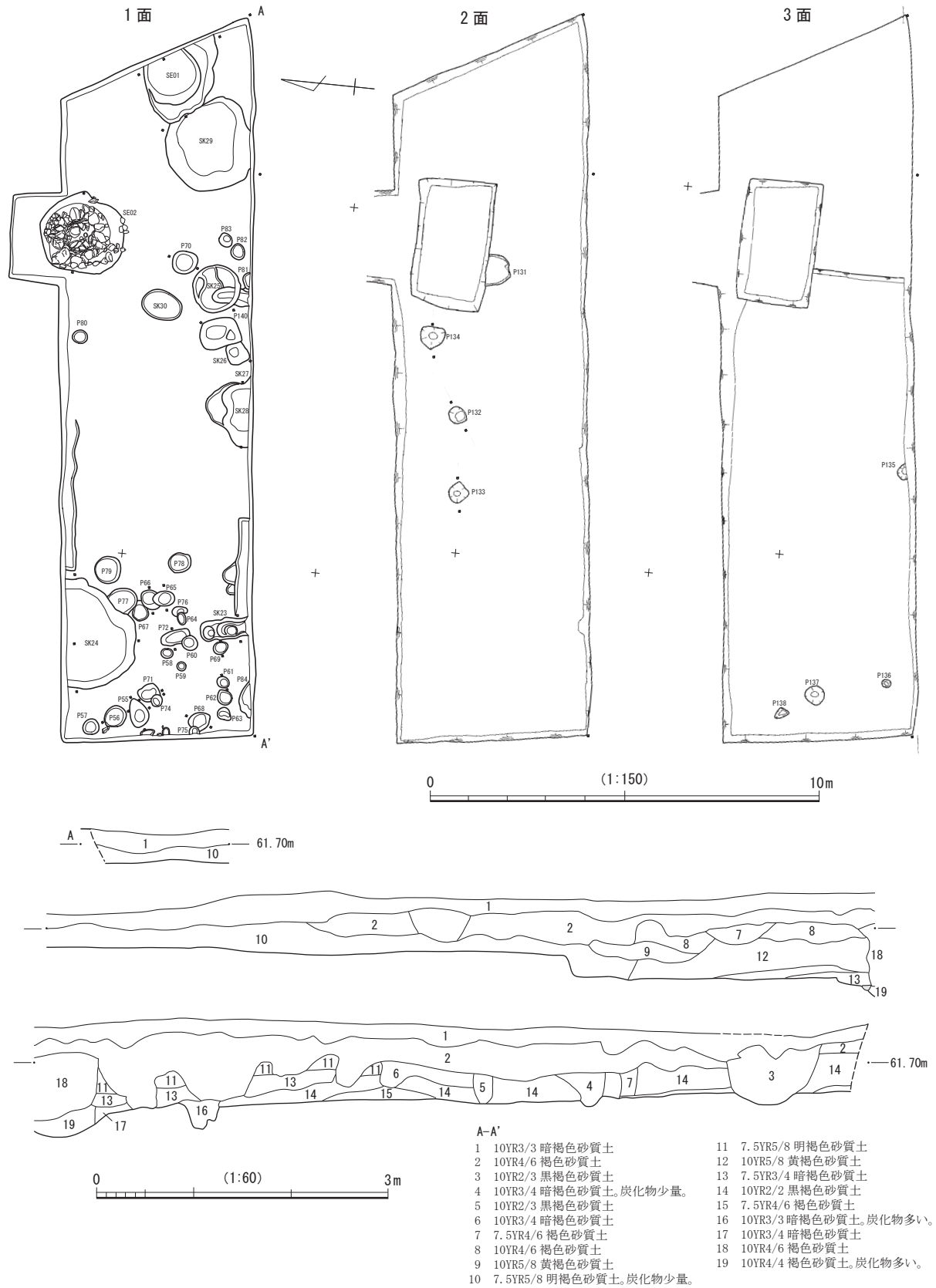
第270図 11区遺構図14



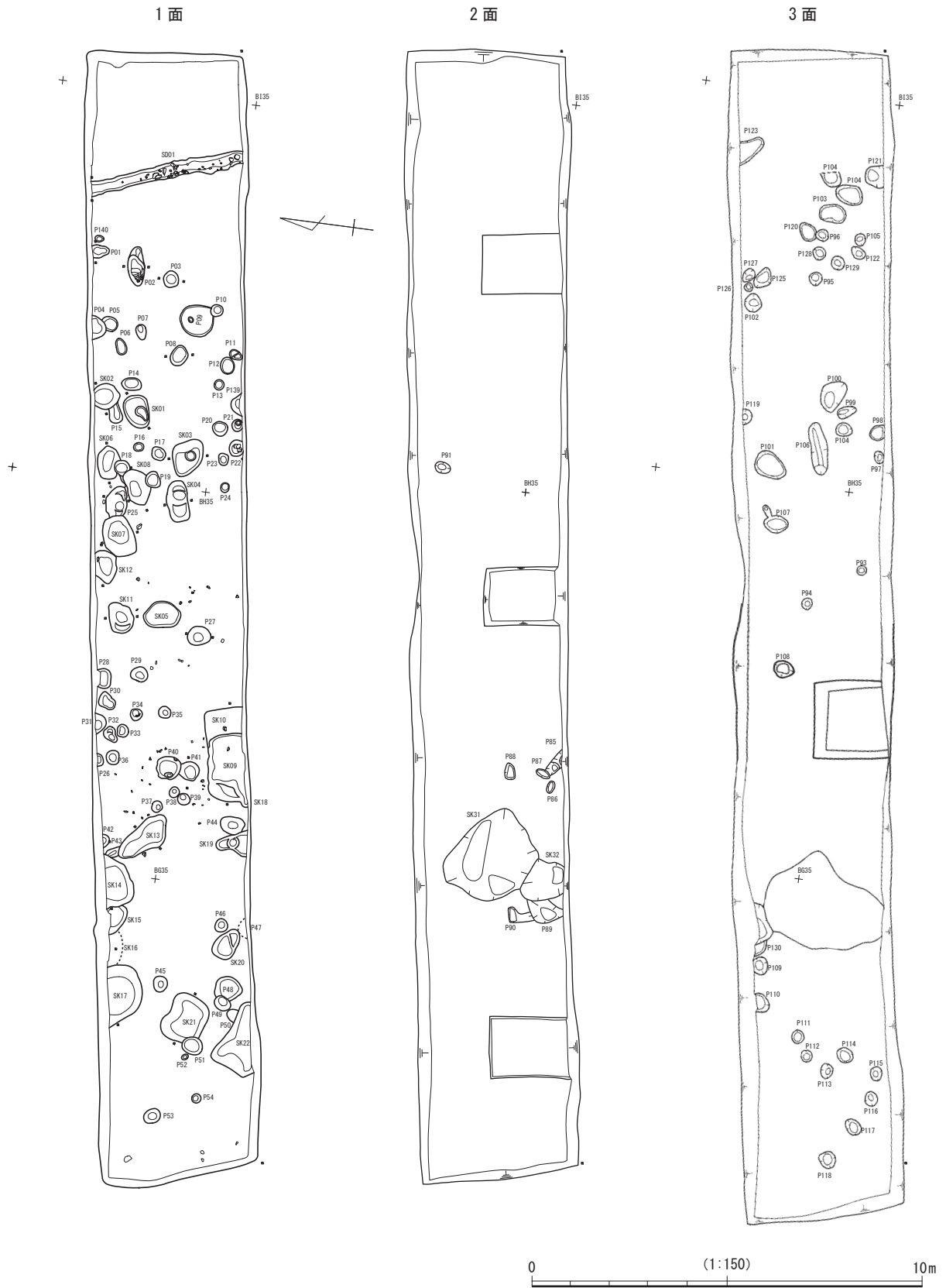
第 271 図 14 区全体図



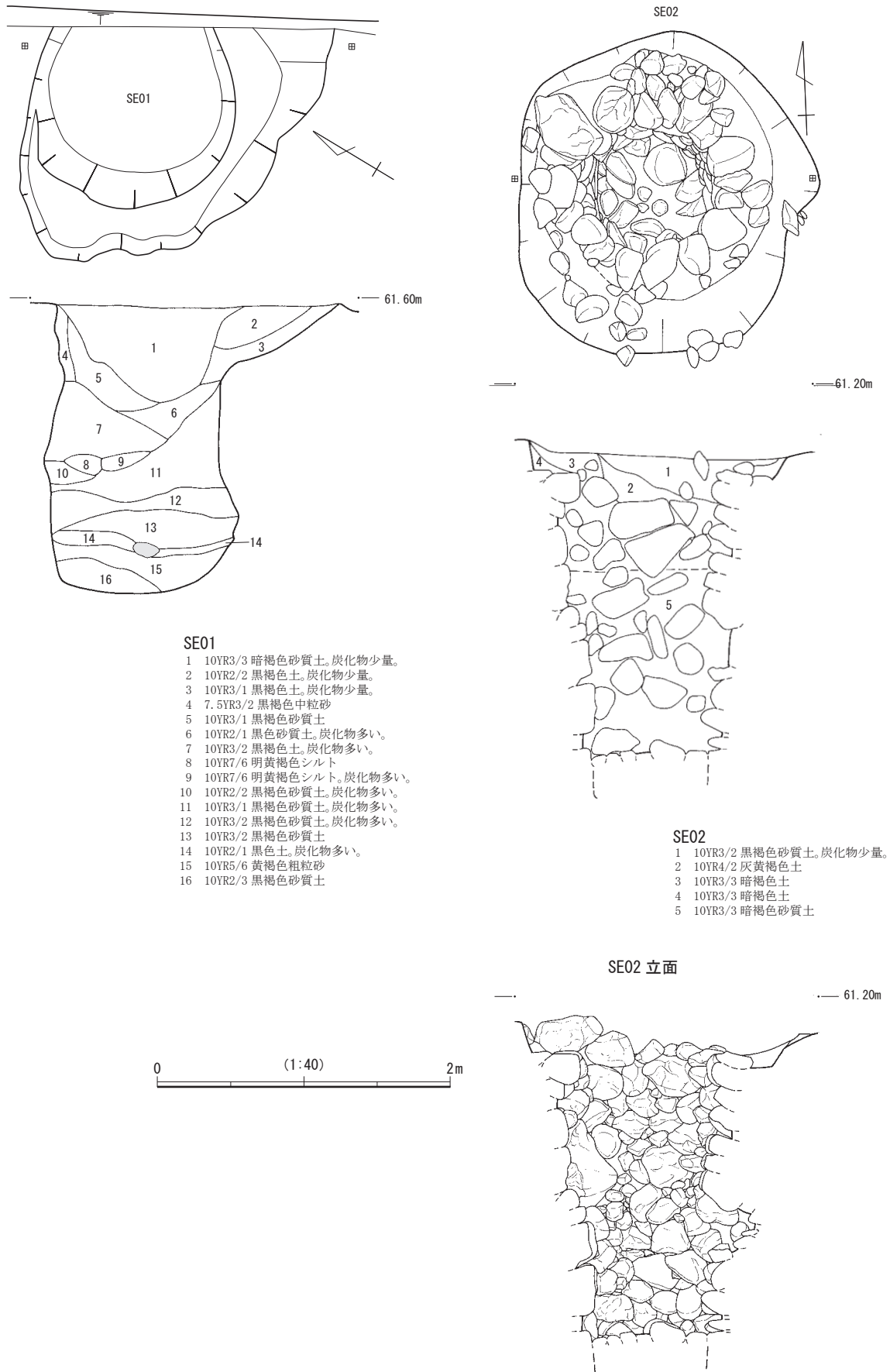
第272図 14区土層図



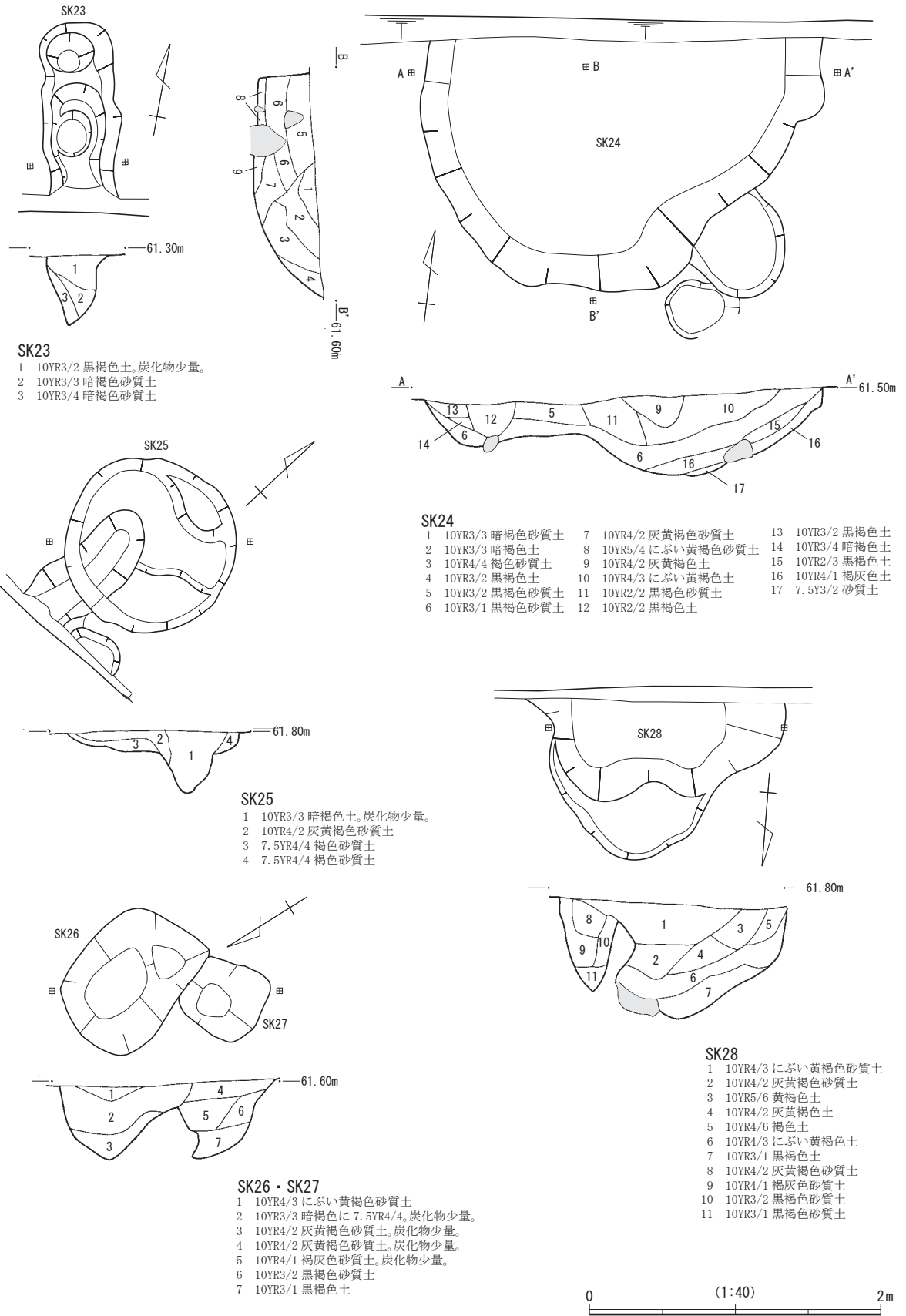
第 273 図 18 区南①全体図・土層図



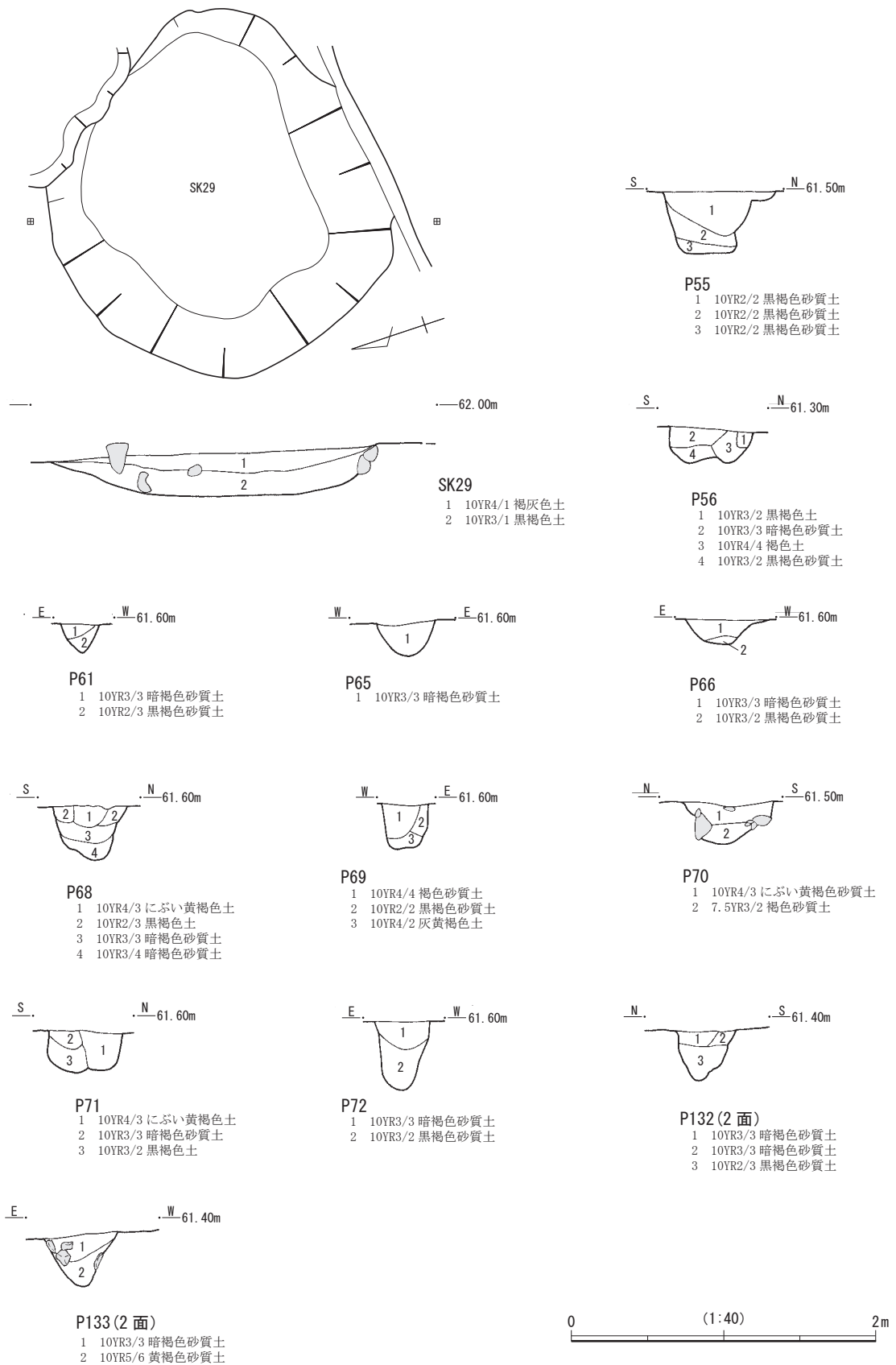
第274図 18区南②全体図



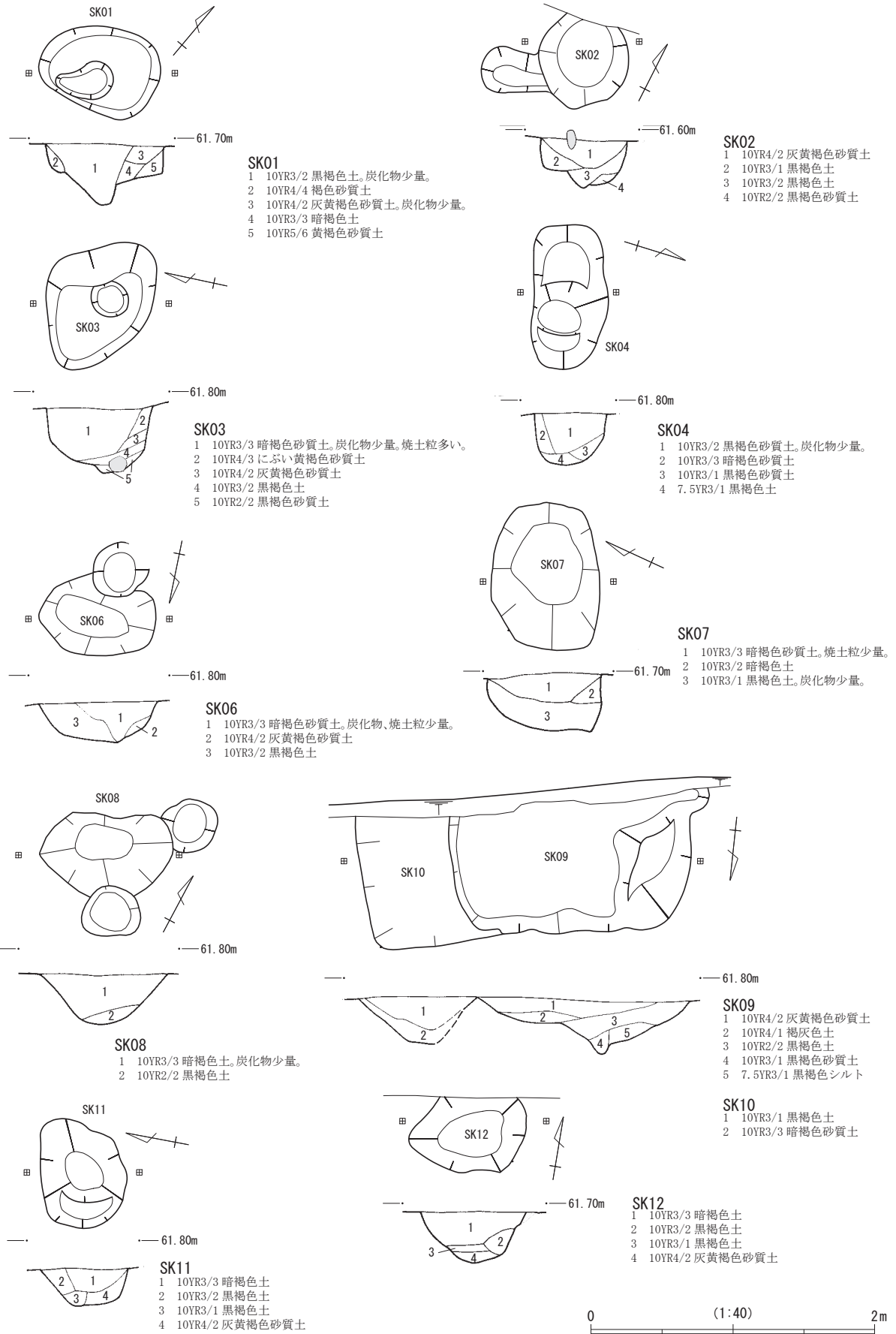
第 275 図 18 区南①遺構図 1



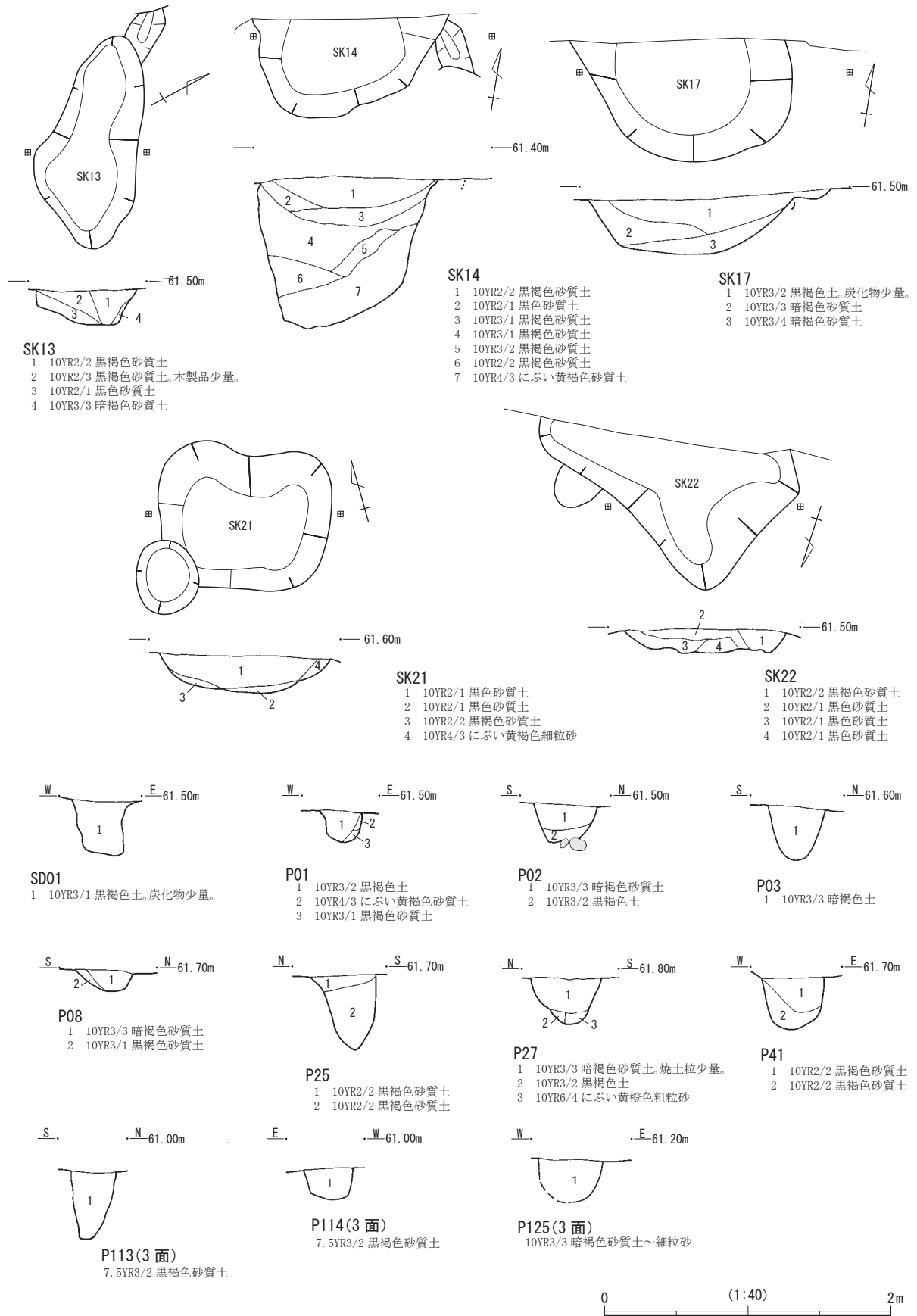
第 276 図 18 区南①遺構図 2



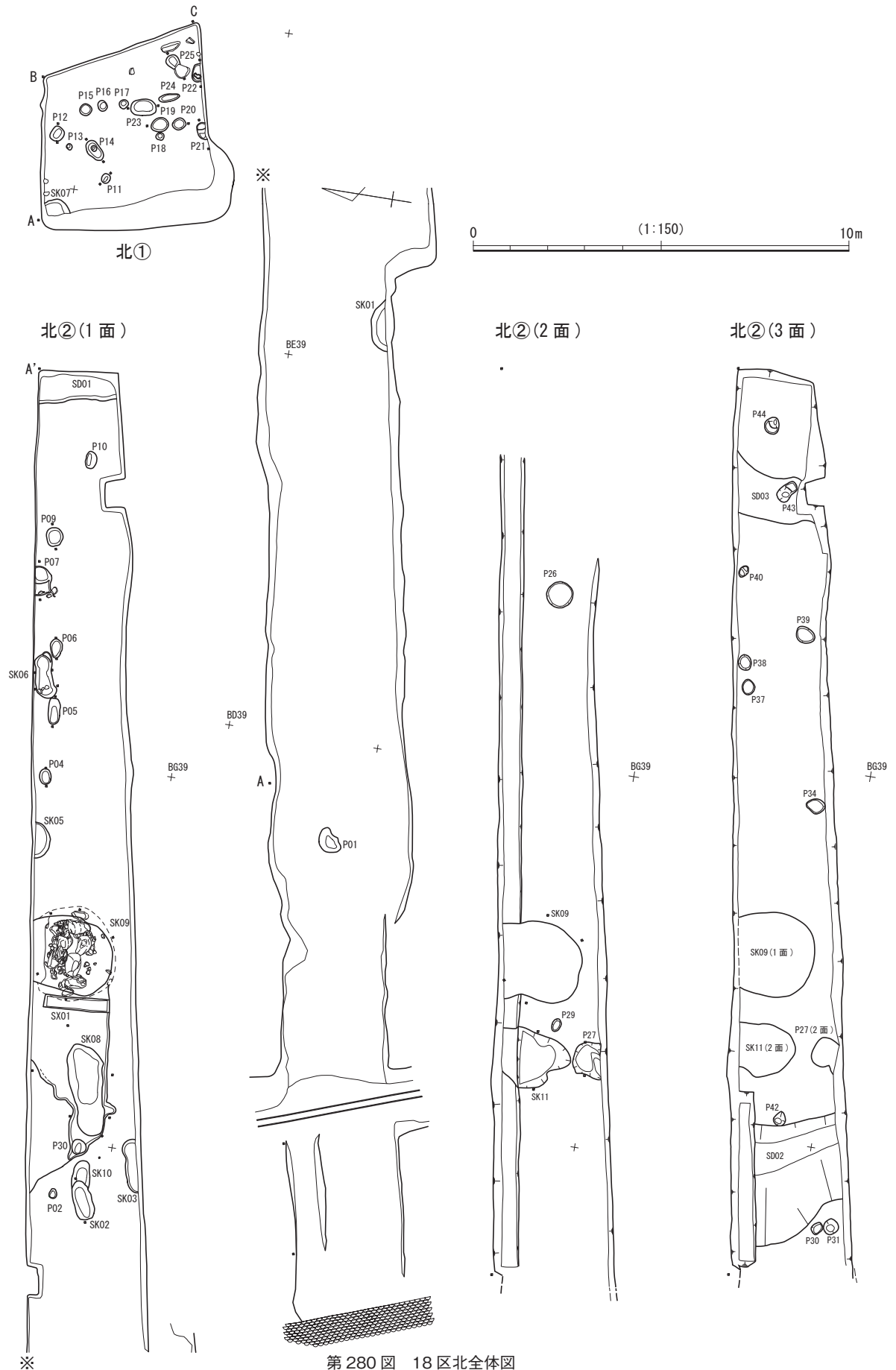
第 277 図 18 区南①遺構図 3



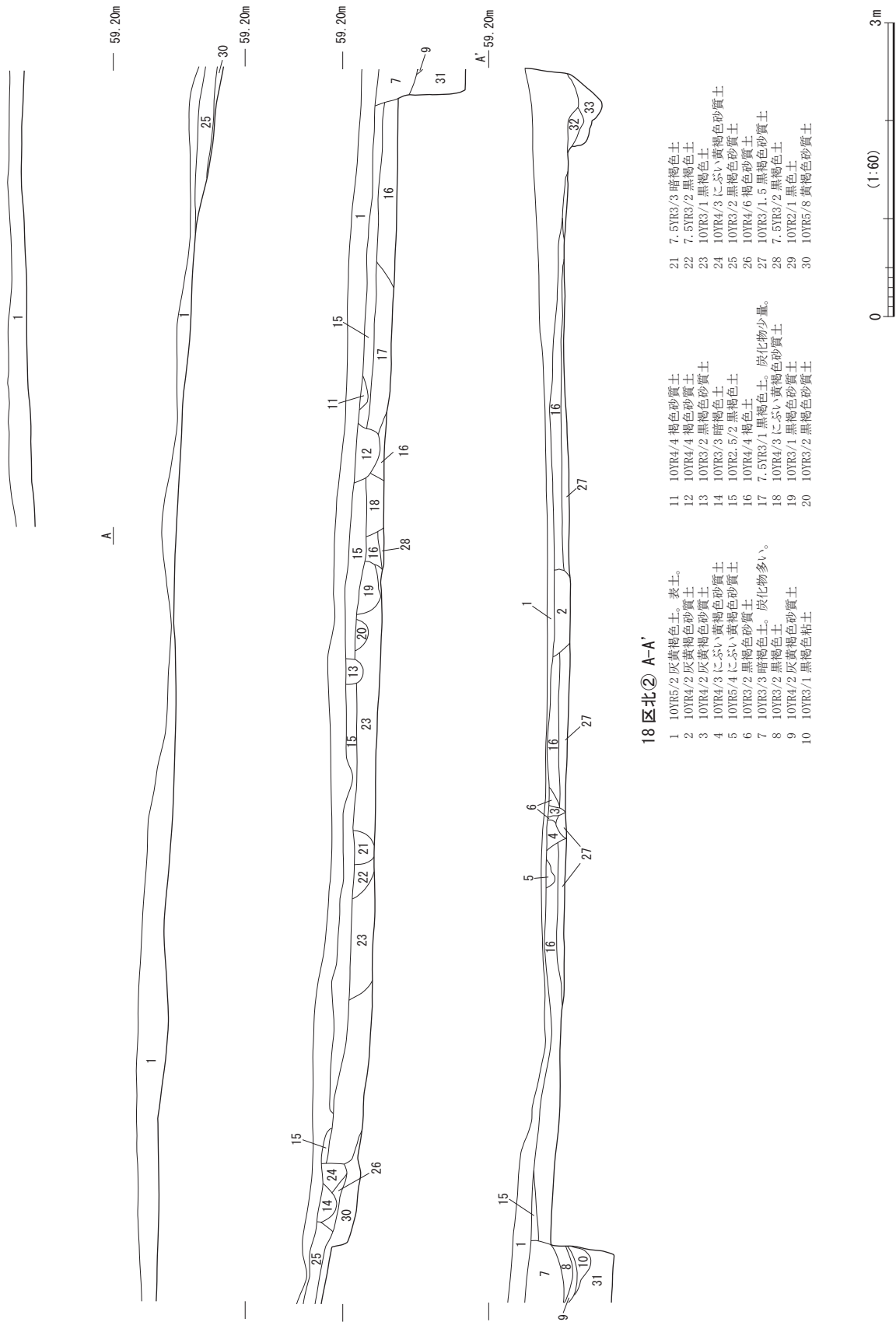
第278図 18区南②遺構図1



第 279 図 18 区南②遺構図 2



第 280 図 18 区北全体図

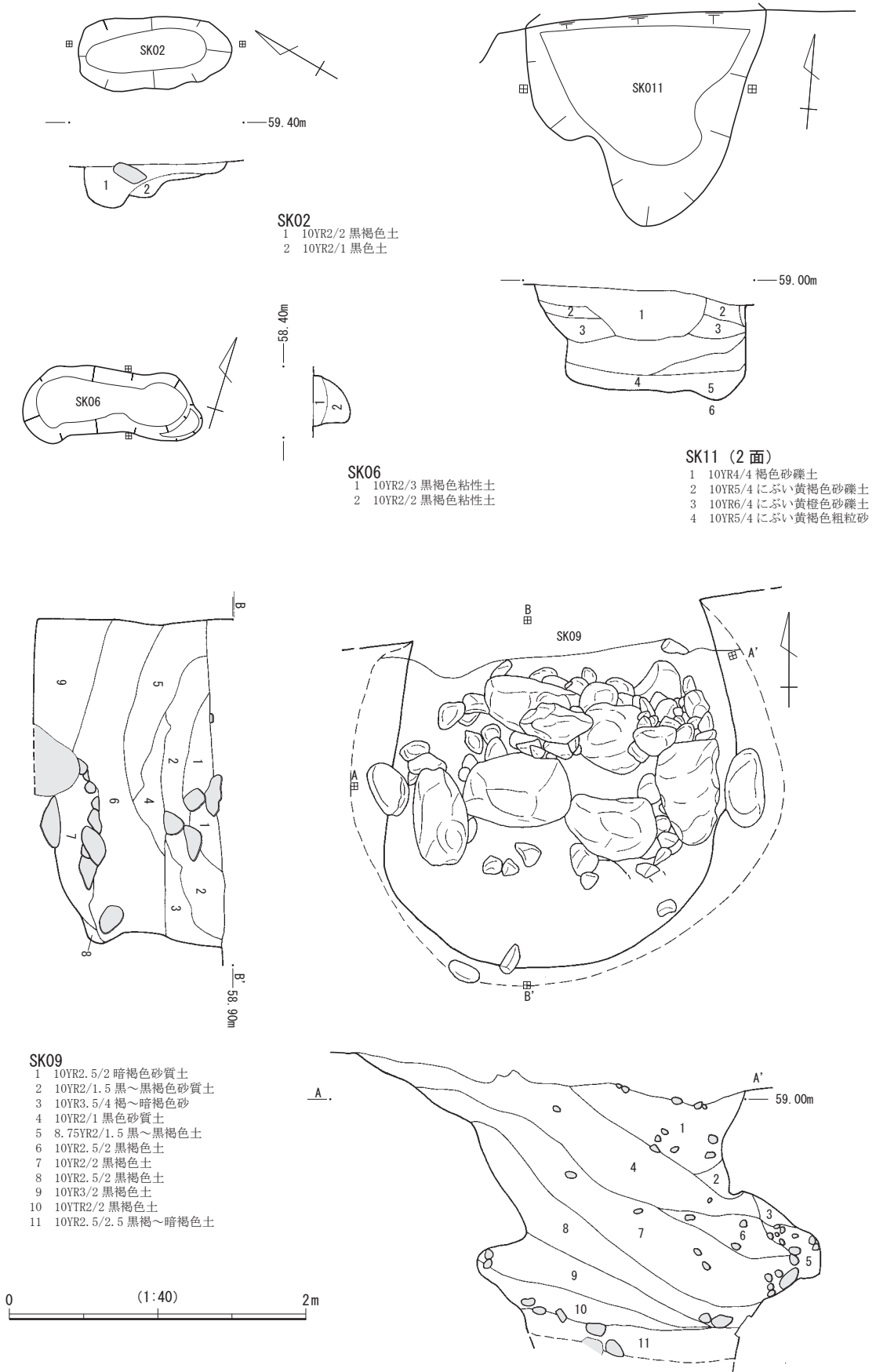


18区北② A-A'

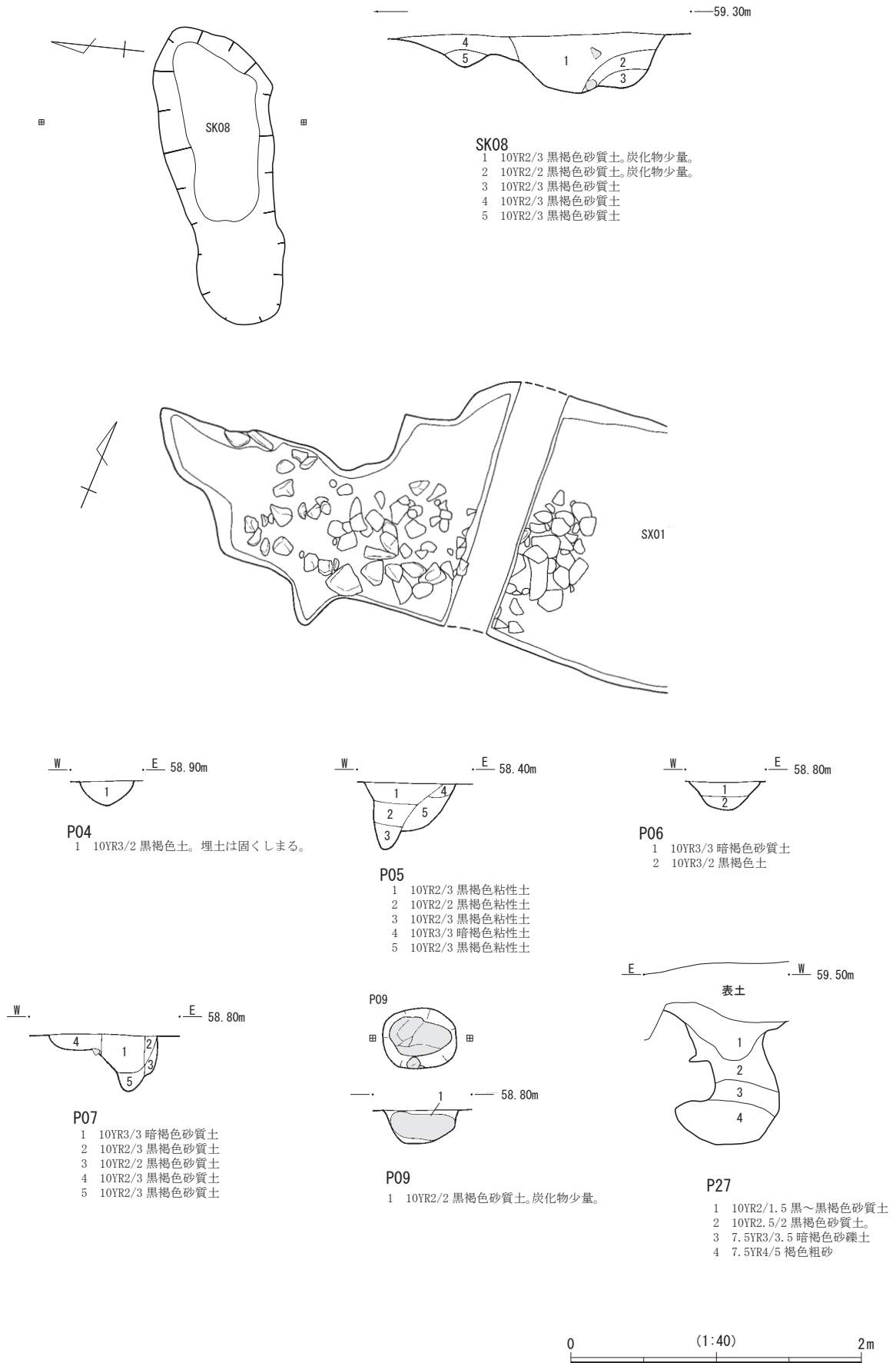
- | | | | | | |
|----|---------------------|----|----------------------|----|-------------------|
| 1 | 10YR5/2 灰黄褐色土。表土。 | 11 | 10YR4/4 褐色砂質土 | 21 | 7.5YR3/3 暗褐色土 |
| 2 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 | 12 | 10YR4/4 褐色砂質土 | 22 | 7.5YR3/2 黒褐色土 |
| 3 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 | 13 | 10YR3/2 暗褐色土 | 23 | 10YR3/1 黒褐色土 |
| 4 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 | 14 | 10YR3/3 暗褐色土 | 24 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 |
| 5 | 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 | 15 | 10YR2.5/2 黒褐色土 | 25 | 10YR3/2 黒褐色砂質土 |
| 6 | 10YR3/2 黒褐色砂質土 | 16 | 10YR4/4 褐色土 | 26 | 10YR4/6 褐色砂質土 |
| 7 | 10YR3/3 暗褐色土。炭化物多い。 | 17 | 7.5YR3/1 黒褐色土。炭化物少量。 | 27 | 10YR3/1.5 黒褐色砂質土 |
| 8 | 10YR3/2 暗褐色土 | 18 | 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 | 28 | 7.5YR3/2 黒褐色土 |
| 9 | 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 | 19 | 10YR3/1 黒褐色土 | 29 | 10YR2/1 黒色土 |
| 10 | 10YR3/1 黒褐色粘土 | 20 | 10YR3/2 黒褐色砂質土 | 30 | 10YR5/8 黄褐色砂質土 |

0 3m (1:60)

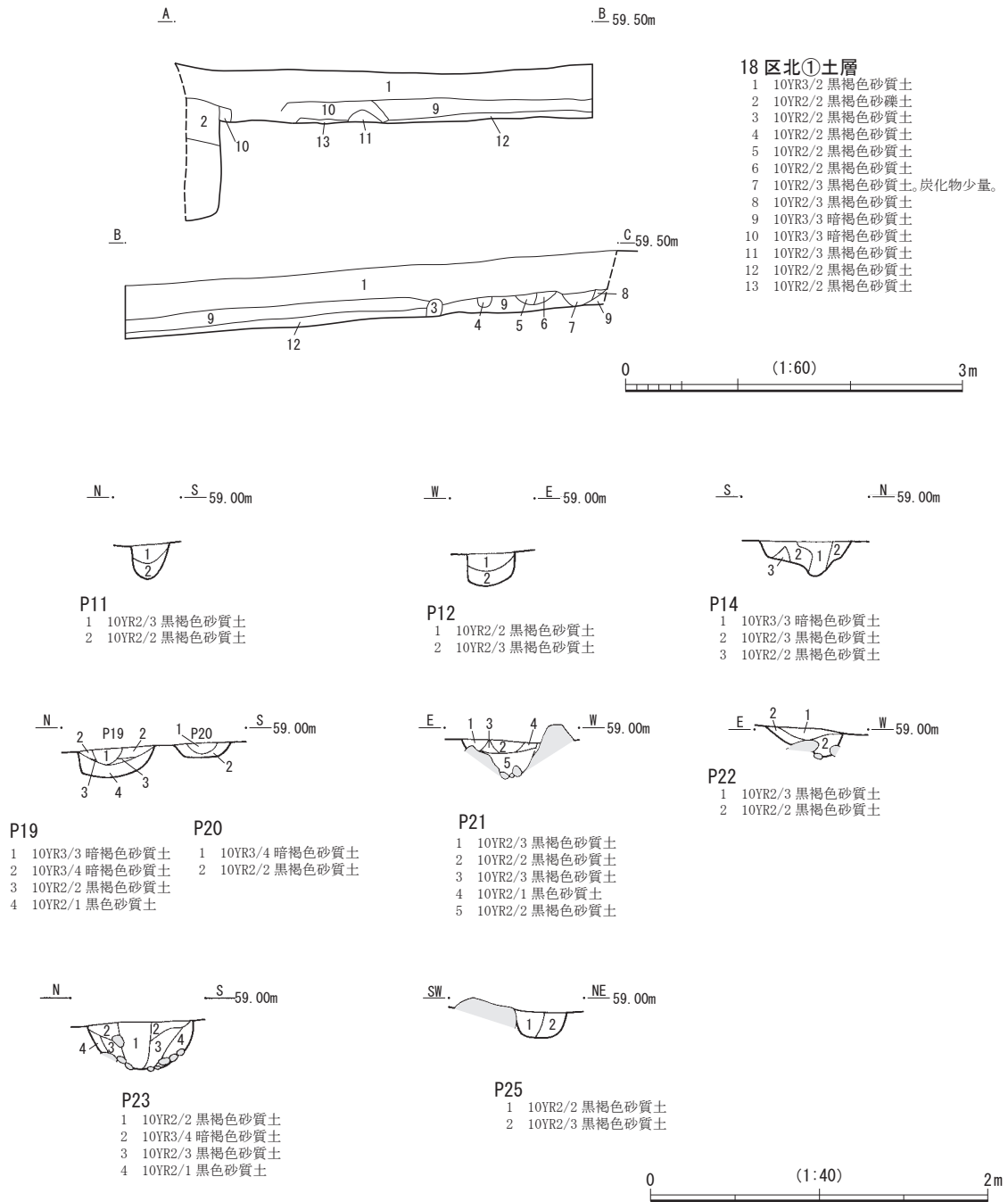
第281図 18区北土層図(北②)



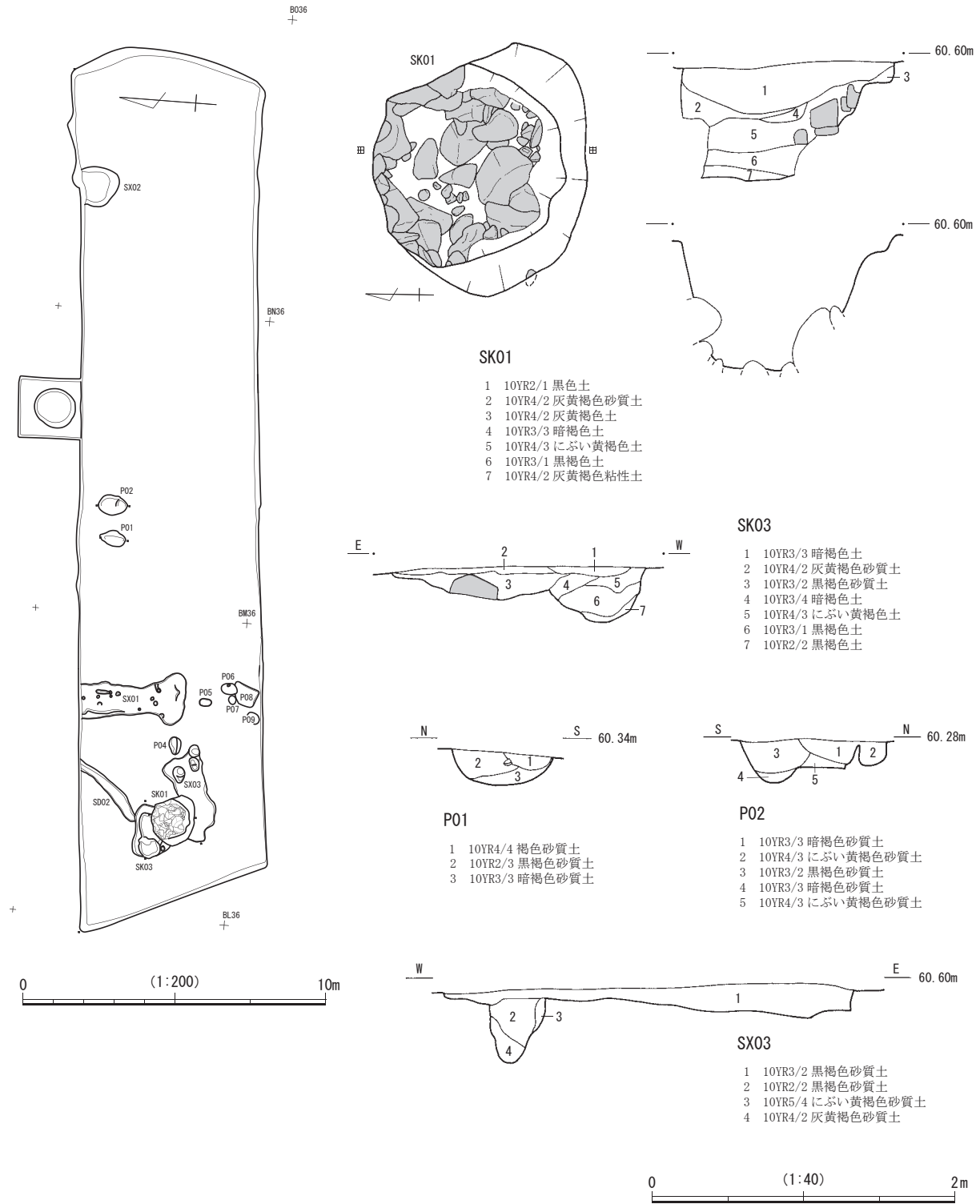
第282図 18区北遺構図1(北②)



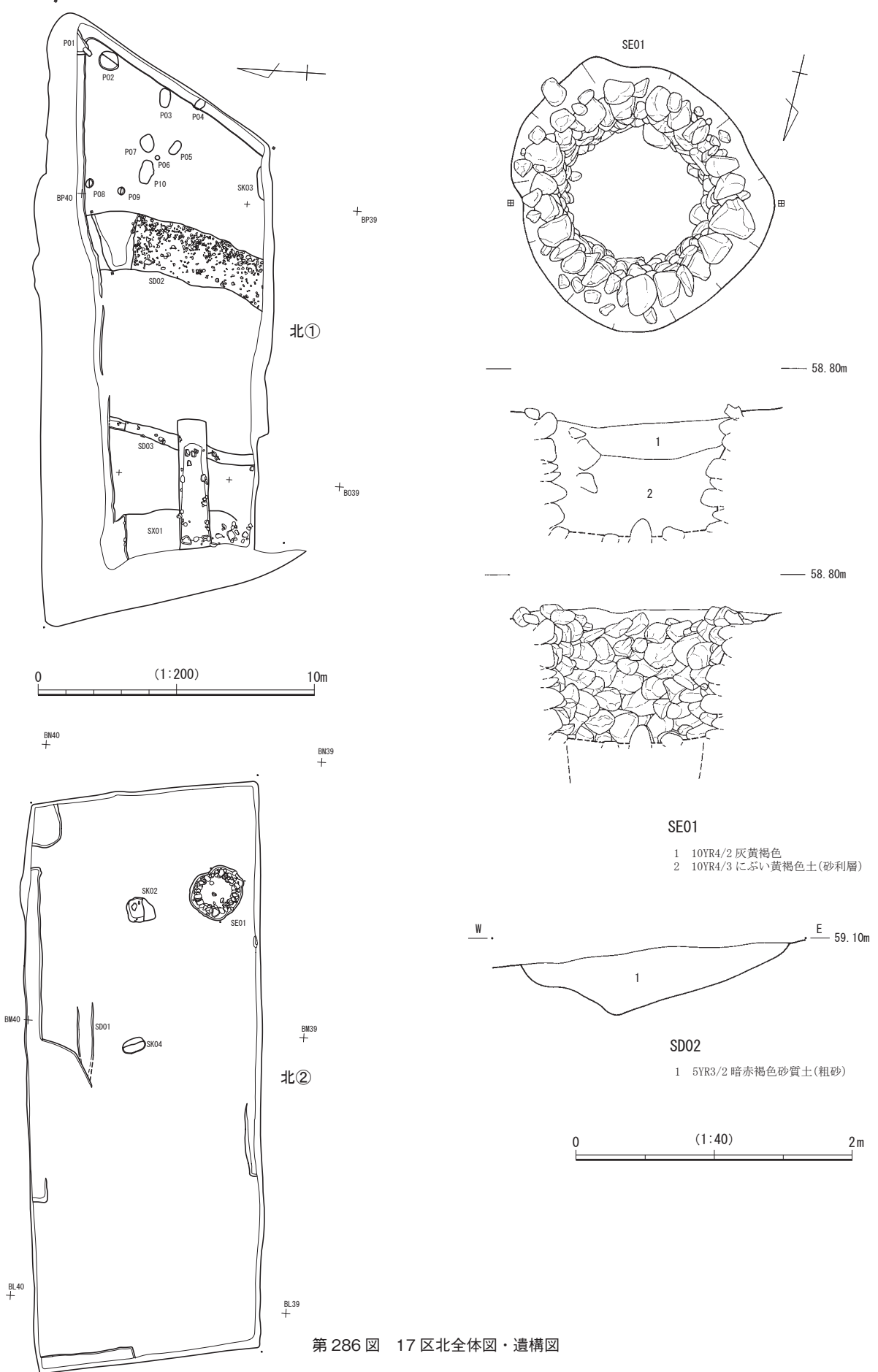
第283図 18区北遺構図2(北②)

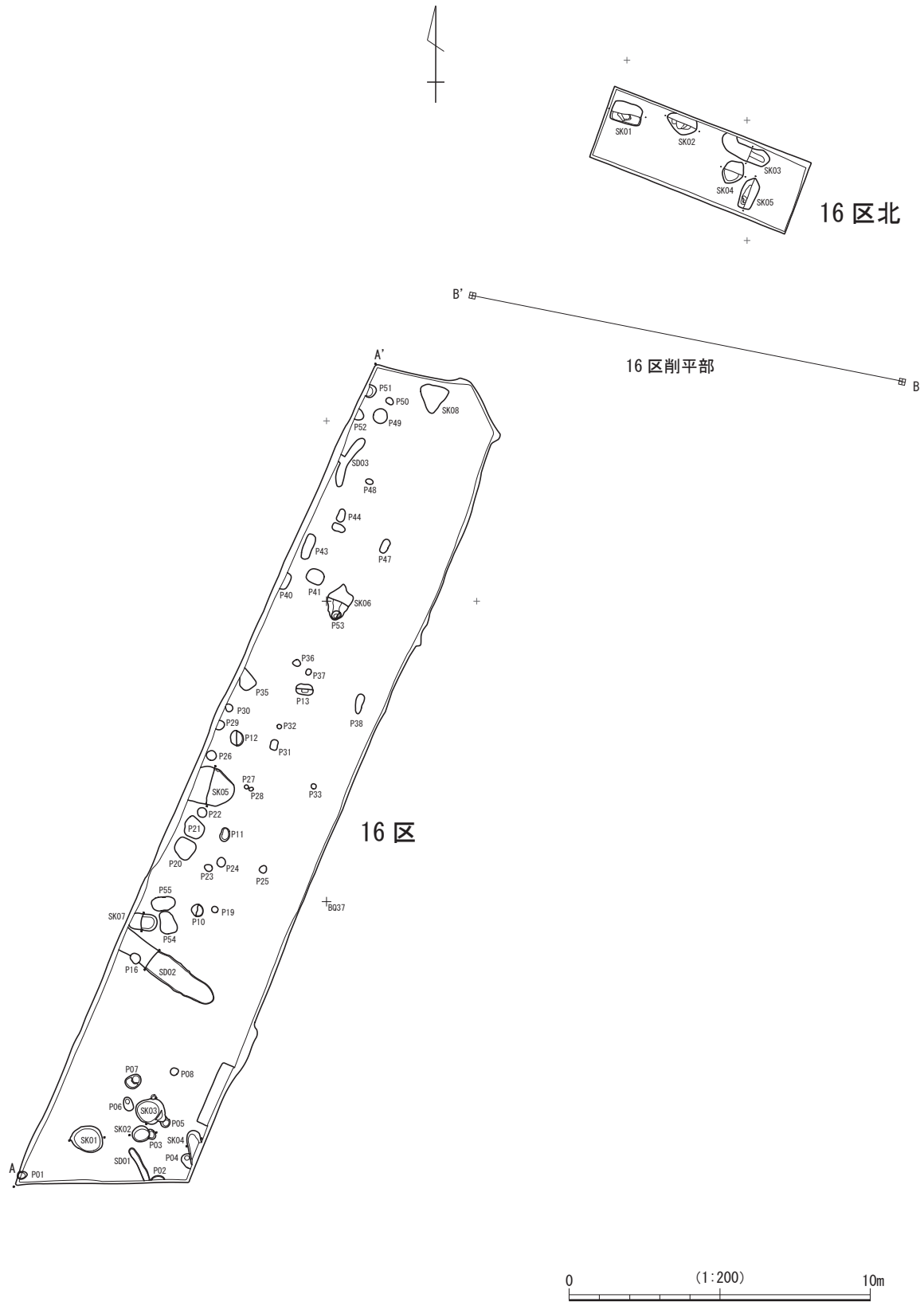


第284図 18区北遺構図3(北①)

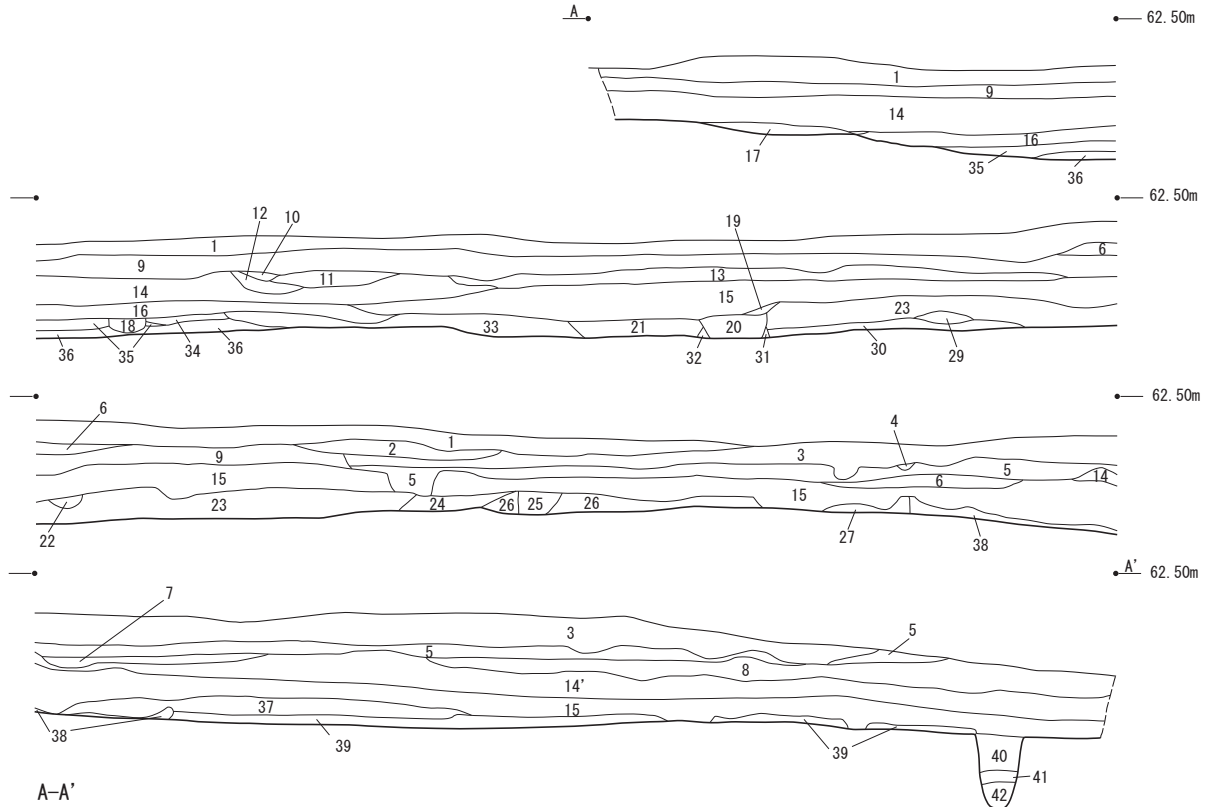


第285図 17区南全体図・遺構図



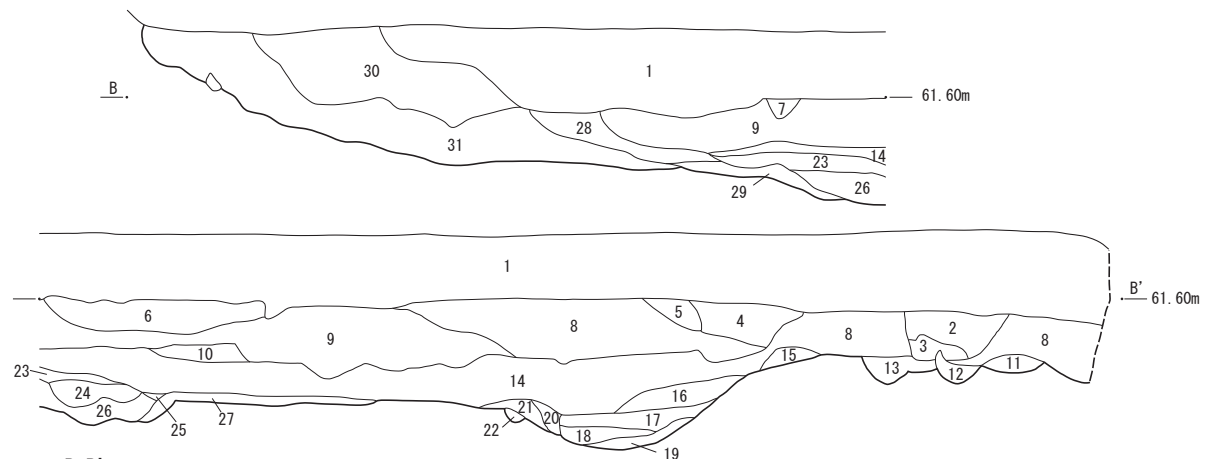
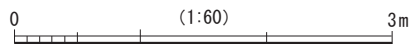


第 287 図 16 区全体図



A-A'

- | | | |
|-----------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 1 表土 | 17 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂。炭化物多い | 34 10YR4/2 灰褐色砂質土 |
| 2 10YR2/2 黒褐色粘性土 | 18 16 と同じ。炭化物多い。遺構埋土。 | 35 10YR5/6 黄褐色シルト |
| 3 10YR3/2 暗褐色土。炭化物多い。 | 19 10YR3/3 暗褐色砂質土 | 36 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 |
| 4 10YR4/1 褐灰色粘性土 | 20 10YR3/3 暗褐色砂質土。炭化物少量。 | 37 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土。炭化物少量。 |
| 5 10YR6/6 明黄褐色シルト。中世以降の盛土。 | 21 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 | 38 10YR3/2 黒褐色砂質土 |
| 6 10YR3/2 黒褐色土 | 22 10YR3/3 暗褐色砂質土。炭化物少量。 | 39 10YR4/6 褐色土 |
| 7 10YR3/2 黒褐色土 | 23 10YR3/1 黒褐色砂質土 | 40 10YR3/2 黒褐色土 |
| 8 10YR3/2 黒褐色土 | 24 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト | 41 10YR4/2 灰黄褐色土 |
| 9 2.5Y4/1 黄灰色砂混じりシルト。炭化物少量。 | 25 10YR3/2 黒褐色砂質土。遺構埋土。 | 42 10YR3/1 黒褐色砂質土 |
| 10 10YR7/6 明黄褐色細粒砂 | 26 10YR4/4 褐色砂質土。炭化物少量。 | |
| 11 10YR5/3 にぶい黄褐色細粒砂 | 27 10YR4/4 褐色砂質土 | |
| 12 10YR3/3 暗褐色砂質土。炭化物多い。 | 28 10YR3/1 黒褐色土 | |
| 13 10YR3/2 黒褐色粘性土。炭化物少量。 | 29 10YR3/1 黒褐色砂質土 | |
| 14 10YR3/3 暗褐色砂質土。炭化物少量。 | 30 10YR3/3 褐色砂質土 | |
| 14' 10YR3/3 暗褐色土 | 31 10YR3/3 暗褐色砂質土 | |
| 15 10YR3/3 暗褐色砂質土 | 32 10YR3/3 暗褐色砂質土 | |
| 16 10YR4/4 褐色砂質土。炭化物多い。 | 33 10YR3/3 暗褐色砂質土 | |

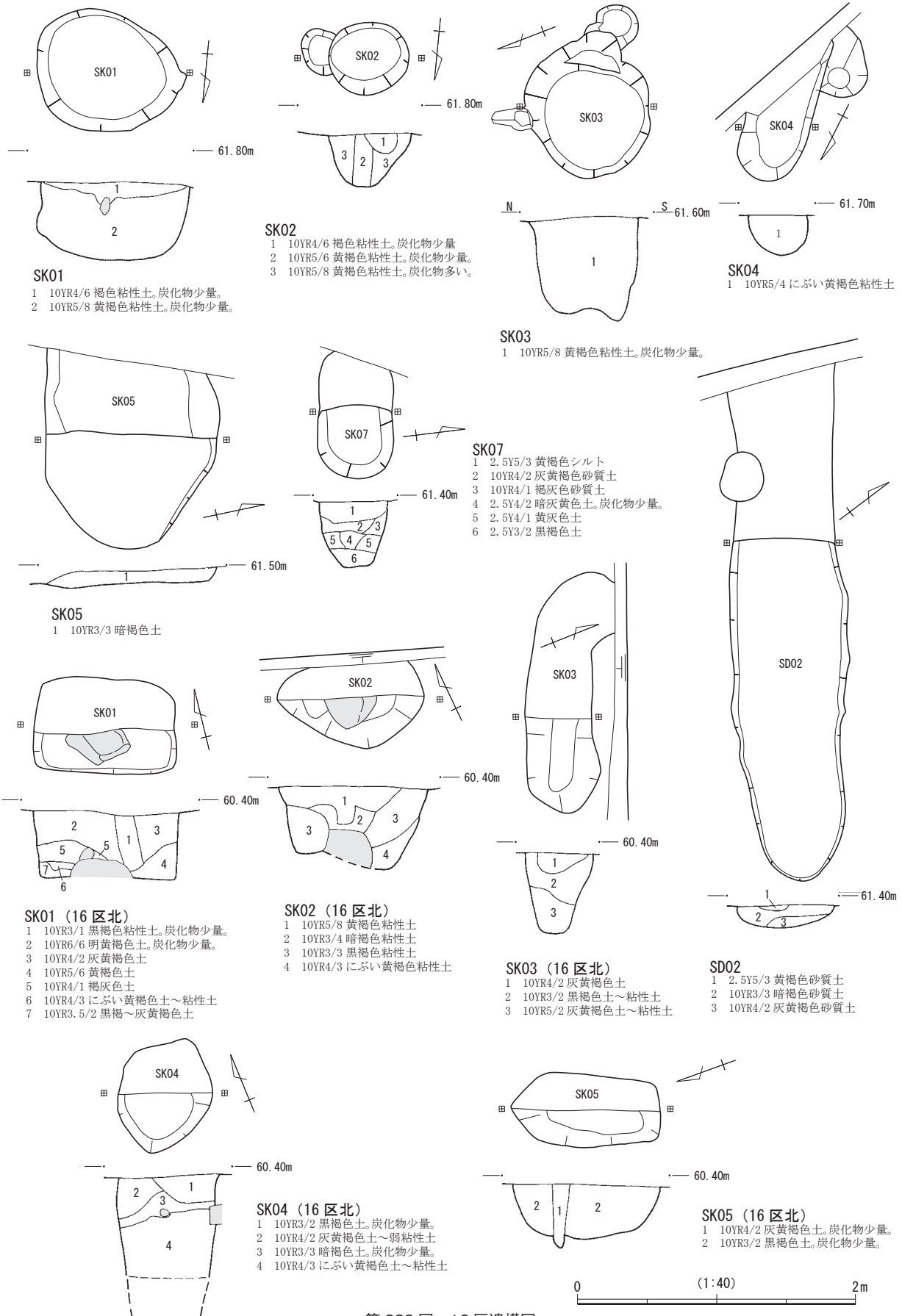


B-B'

- | | | | |
|----------------|------------------------|---------------------------|------------------------|
| 1 整地土 | 9 10YR3/3 暗褐色土 | 17 10YR4/6 明黄褐色粘性土 | 25 10YR4/1 褐灰色土 |
| 2 10YR4/3 黄褐色土 | 10 10YR3/4 暗褐色土 | 18 10YR3/1 黒褐色土～粘性土 | 26 10YR2/1 黒色土 |
| 3 10YR3/3 黒褐色土 | 11 10YR4/6 褐色土 | 19 7.5YR6/6 橙色土～粘性土 | 27 10YR3/2 黒褐色土 |
| 4 10YR4/6 褐色土 | 12 10YR5/6 黄褐色土～粘性土 | 20 10YR4/2 灰黄褐色土～粘性土 | 28 10YR5/4 にぶい黄褐色土～粘性土 |
| 5 10YR3/4 暗褐色土 | 13 10YR4/6 褐色土～粘性土 | 21 10YR4/1.5 褐灰～灰黄褐色土～粘性土 | 29 10YR4/2 灰黄褐色土 |
| 6 10YR3/4 暗褐色土 | 14 10YR3/3 暗褐色土 | 22 10YR5/2 灰黄褐色土～粘性土 | 30 10YR5/4 にぶい黄褐色土～粘性土 |
| 7 10YR4/6 褐色土 | 15 10YR4/6 褐色土～粘性土 | 23 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | 31 10YR5/4 にぶい黄褐色土～粘性土 |
| 8 10YR4/6 褐色土 | 16 10YR4/3 にぶい黄褐色土～粘性土 | 24 10YR3/1 黒褐色土 | |

第 288 図 16 区土層図

第3章 調査の成果



第 289 図 16 区遺構図

第4章 総括

第1節 大手道と沿道の屋敷

七尾城跡の大手道は五か所で確認されている。第293図の①・②・③・⑤が七尾市教育委員会による確認調査、④が本書収録の能越道関連発掘調査である。七尾市教育委員会による成果については先学によって検討、評価がなされているが、ここでは今次の調査を含めてその内容を確認しておきたい。

①シッケ調査区(善端・和田ほか1992)

石組の両側溝をもつ大手道が確認されている。主軸はN45°Wで、側溝芯々距離4.5m、路面幅3.1mである。南端にはこれに直交する礫敷道があり、路面幅90cmを測る。

大手道に直交して三つの屋敷がある。石組溝で屋敷が区画されており、屋敷1・2は、間口8m、奥行約20mで、面積は160㎡となる。屋敷3は、間口5.3m、奥行20mで、面積106㎡である。屋敷2・3では2間×2間の掘立柱建物を各1基確認した。また、いずれの屋敷にも井戸が1基ある。

屋敷2の井戸周囲で粘土が出ている。屋敷3の池状遺構SX09から多量の漆器、漆液容器、銅鏡鋳型、るつぼ、ふいご羽口、炉壁などが出ており、漆器、銅鏡の製作に関わる職人の存在が想定されている。また、屋敷2の粘土は土師器製作用とみられ、土器製作の職人の存在も想定されている。

②市道矢田郷80号線拡幅調査区(善端2009)

シッケ調査区のすぐ北で、これに続く大手道の西側溝を検出した。石組側溝である。北半ではこれに直交して面する屋敷を2か所確認した。屋敷2の間口は約6mである。西側溝を南半でも確認しており、この部分は16世紀後半以降に整備された可能性が高いとしている。出土遺物は、屋敷1でるつぼ、鉄滓、屋敷2で、るつぼ、ふいご羽口、鉄滓がある。また、南半で土師器焼成窯とみられる焼成土坑が検出されており、これを裏付ける土師器未成品の塊が出ている(善端2017)。調査区全域がシッケ調査区から続く工房域とみられている。

この調査区の北の大手道であるが、地籍図の道が屈曲していることからこの箇所でも屈曲すると想定されている。

③門の高調査区(善端2002)

大手道は、北側では西側溝(SD06)、東側溝(SD04)間は3.5mであるが、南端ではSD03とSD02によって4mの路面幅をつくっている。その変換点は南端から約15m、SD01の西肩が取り付くあたりにあり、これより北を城下とみなしている。東側には堀が並走している。最大幅6m、深さ2.8mで、大手道西のトレンチで検出した切岸SX01につながると想定されている。

大手道に沿った屋敷区画は確認できないが、両側に井戸があることから、造成されていたとみてよからう。西側の井戸から磁器、瀬戸美濃天目、珠洲焼、土師器皿などが出ている。

④能越道調査区(本書)

事実関係は第3章の通りである。ここでは、大手道に面した屋敷の復元を試みたい。直線道として構築されているが、調査区南端部で軸を西に振っている。北半の主軸はN33°W、南端ではN25°Wである。石組の両側溝である。大手道両側で屋敷を確認しており、西側の屋敷1で規模を知ることが

できる。平成19年度の調査（本書）で北を画する石垣を検出し、同22年度、橋脚の位置決定後の本発掘調査で南を画する石垣を確認した（石川県埋蔵文化財センター 2010『七尾市 七尾城跡現地説明会資料』）。両石垣によって明らかになった間口は13.4m、奥行は34m（以上）、面積455㎡（以上）である。また、屋敷内で7m×3mの大型土坑を検出した。この屋敷の南は、井戸があることから、屋敷2も想定した。屋敷1の向かいには南を画する石垣が出ていることから、屋敷3が想定できる。間口は屋敷1と同規模となろう。屋敷3の南に地下室とみられる大型土坑を確認したことから、これを取り込んだ屋敷4も復元できる。なお、屋敷1・3の北にもこれらと接して屋敷が存在するとみてよく、緩斜面を石垣で画した屋敷が大手道に面して連なる景観を想定できる。畠山氏家臣の屋敷であろう。

大手道をはさんで屋敷が形成されるが、石垣の位置をみると間口をずらして造成されていることがわかる。これは、向い合う屋敷の出入口が正面とまらない工夫とみられ、一乗谷朝倉氏遺跡や平泉寺跡でも同様の配置をみることができる（吉岡2017）。

⑤能越道南調査区（善端2002）

七尾市教育委員会の呼称は「FS-ホT1、T6～T10、へT1・2」であるが、ここでは便宜的に能越道南調査区と呼んでおく。能越道調査区南端から、水平距離で約60m南に位置する。現農道の西でSD15、東でSD10を確認しており、これらが大手道の両側溝とみられる。SD10は石組溝で、幅約1m、深さ0.9mを測る。側溝芯々距離は5.1m、路面幅は4.3mである。大手道の東に面して二つの屋敷が確認できる。屋敷1は規模が確認できるもので、間口7.8m、奥行15.0m、面積117㎡である。屋敷2も東端を区切る石組が出ており、間口4m、奥行14.5m、面積58㎡という規模がわかる。なお、調査区南端（ホT7）で2列の石組を検出していることから、屋敷2の南に屋敷3、その南に屋敷4の復元を試みた。また、屋敷1の北側にある石組溝SD13は区画溝とみることが可能で、時期の異なる屋敷の存在も想定できる。

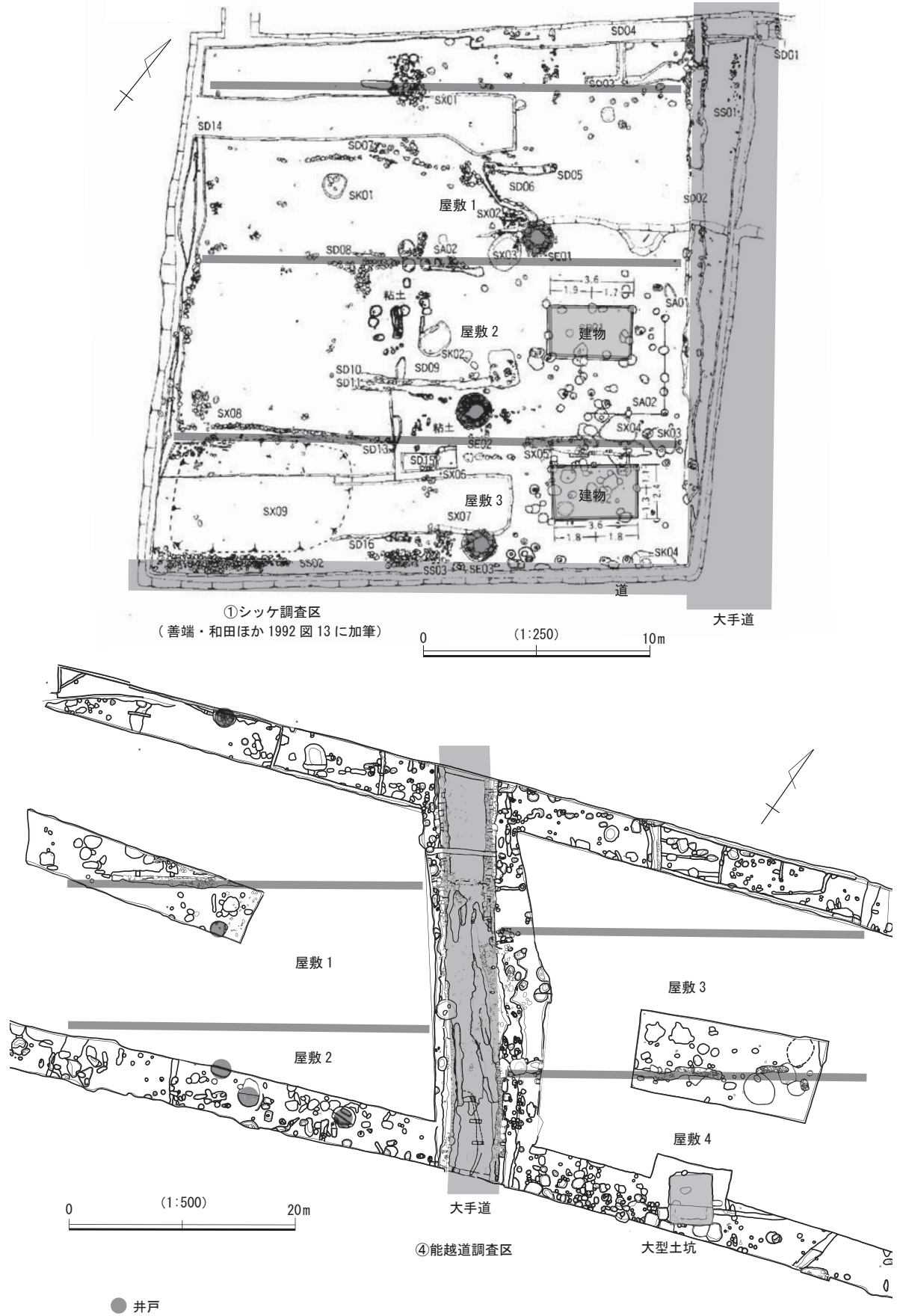
出土遺物は、国産陶器、中国産磁器、石製品、金属製品など約2,900点で、ホT6の石組溝の裏込めから銅製の懸仏が出ている。

なお、本調査区の南、城側の大手道の状況については、令和元年、七尾市教育委員会が確認調査を行い、幅約3mの道路状遺構を確認していることから、直線的な走行が続いていることが明らかになった（七尾市教育委員会 2019『令和元年度七尾城大手道（旧道）発掘調査の概要』）。

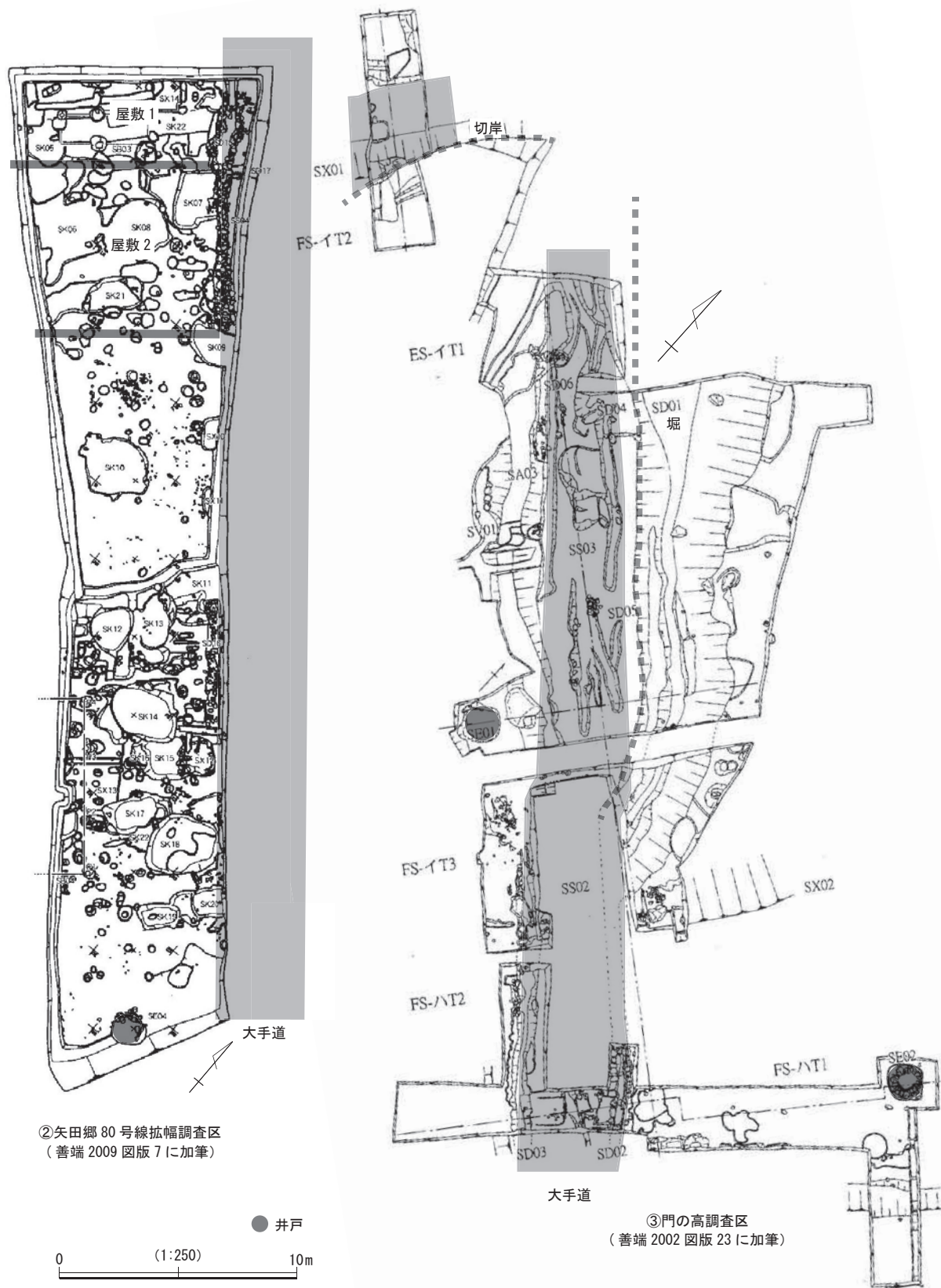
第2節 総 構

総構は、七尾市教育委員会の1990年代後半の精力的な踏査によって存在が確認され、地図にその位置が示された（善端2006）。城全域を囲むものではなく、北西を意識した構えで、庄津川右岸で西を画し、蹴落川左岸で東を画している（第294図）。大手道の尾根では、裾部に接して北に方向を変えると想定されており、今次の調査で尾根裾において南北方向に走る堀と切岸を検出した。堀は幅6.7mで、切岸は高さ2mである。堀と切岸の距離は約20mあり、北へ向かう堀は切岸に近接すると予測される。この空間と古城南区西端で検出した階段状遺構の存在から、大手道のほかに城下と城内を結ぶ道が存在することが明らかになった。

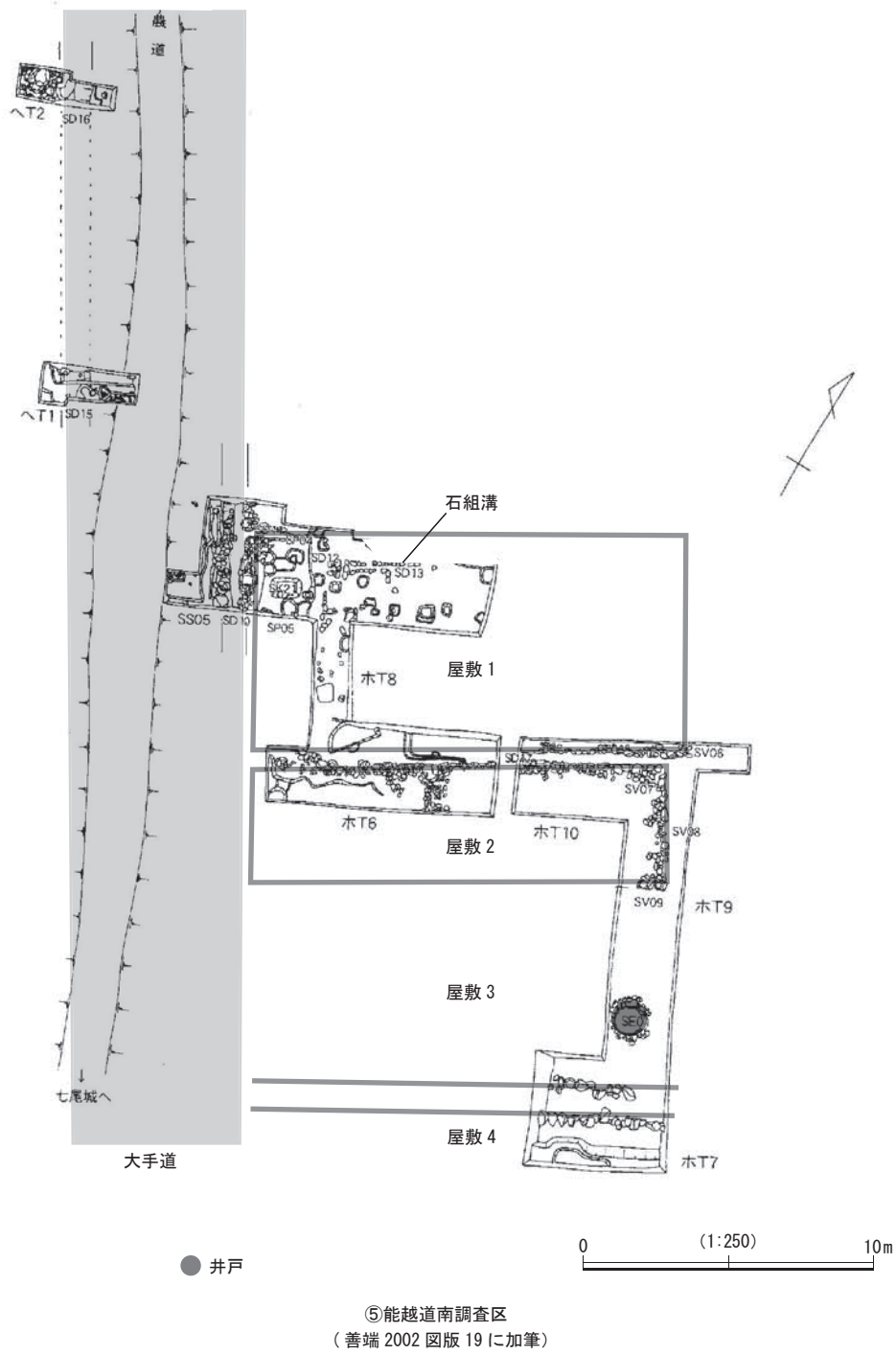
総構の構築は16世紀後半とみられているが（善端2006・2017）、天正10年前後とする所説（前川2003）もあることから、今次の調査で堀等から出た遺物によりあらためて検討する必要があるだろう。



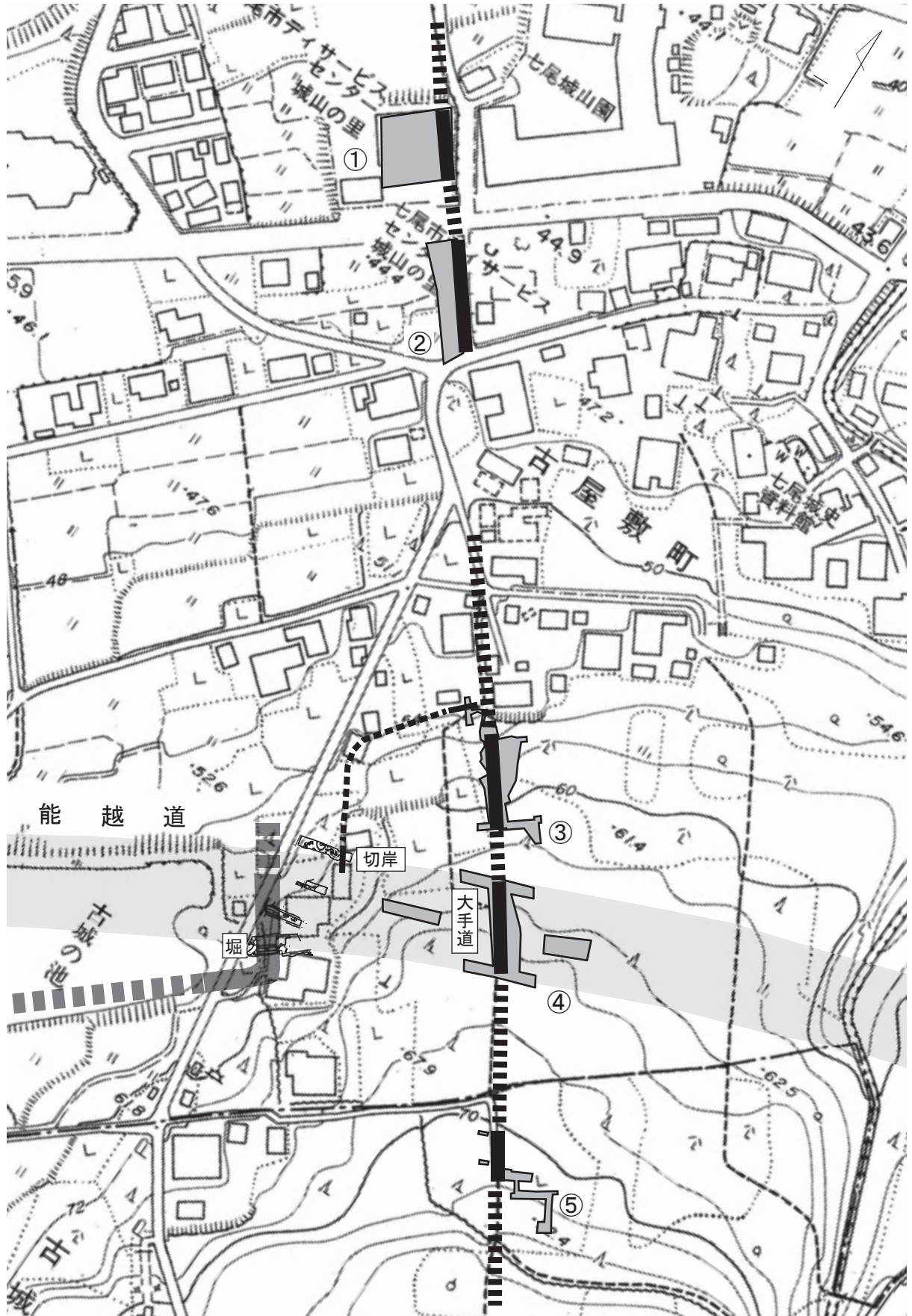
第 290 図 七尾城跡大手道と屋敷 (1)



第291図 七尾城跡大手道と屋敷(2)

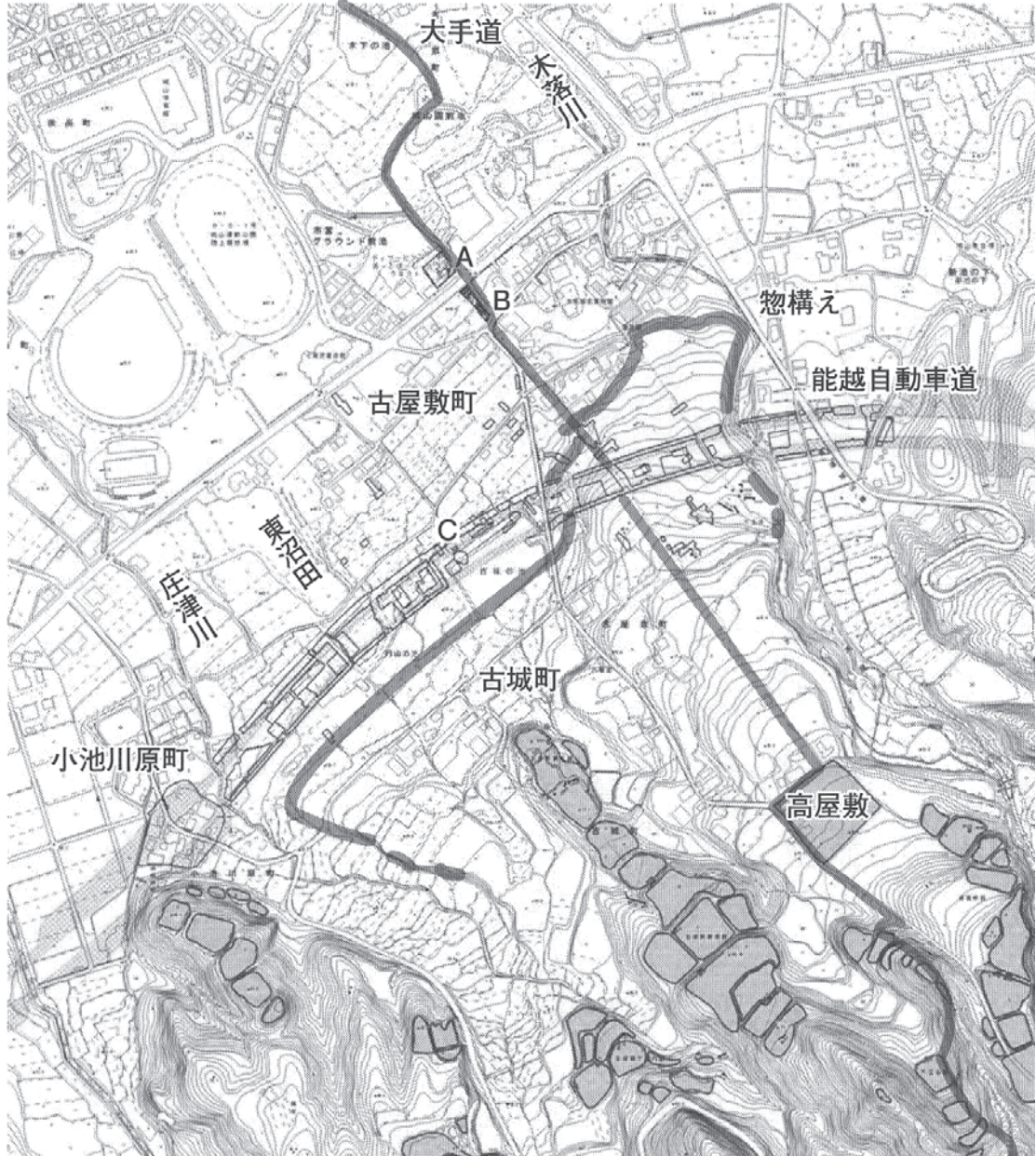


第 292 図 七尾城跡大手道と屋敷 (3)



第293図 七尾城跡大手道と総構

0 (1:2000) 100m



第 294 図 七尾城跡総構の位置 (善端 2017 より)

引用・参考文献

- 小野正敏 1997 『戦国城下町の考古学』講談社
- 小島道裕 2005 『戦国・織豊期の都市と地域』青史出版
- 小島道裕 2018 『城と城下 近江戦国史』吉川弘文館
- 千田嘉博 2013 『信長の城』岩波書店
- 善端 直・和田学^{ほか} 1992 『七尾城下町 七尾城跡シッケ地区遺跡発掘調査報告書』七尾市教育委員会
- 善端 直 1998 「七尾城下町の発掘調査報告」『シンポジウム 七尾城と城下町』石川考古学研究会・加能地域史研究会
- 善端 直 2002 『七尾市内遺跡発掘調査報告書 II』七尾市教育委員会
- 善端 直 2006 「能登畠山氏の城下町」『守護所と戦国城下町』高志書院
- 善端 直 2009 『石川県・能登半島 七尾城跡発掘調査報告書』七尾市教育委員会
- 善端 直 2017 「能登七尾城跡の調査の現状と今後の課題」『地域社会の文化と史料』同成社
- 仁木 宏 2006 「室町・戦国時代の社会構造と守護所・城下町」『守護所と戦国城下町』高志書院
- 前川 要 2003 「能登七尾城下町の空間構造とその変遷」『富山大学考古学研究室論集 辰気楼』六一書房
- 山村亜希 2006 「近世能登七尾の湊町と城下町の景観」『能登七尾城 加賀金沢城〔中世の城・まち・むら〕』新人物往来社
- 吉岡泰英 2017 「一乗谷と平泉寺の建物・都市計画」『白山平泉寺』吉川弘文館